

科目名	経済学基礎		開講年度	2025
担当者	前田 一樹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する			
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。		ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4 時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4 時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4 時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	5 時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	5 時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	5 時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4 時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4 時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間

科目名	経済学基礎		開講年度	2025
担当者	前田 一樹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する			
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。		ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4 時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4 時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4 時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	5 時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	5 時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	5 時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4 時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4 時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間

科目名	経済学基礎	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する		
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4 時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4 時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4 時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	4 時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	4 時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4 時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4 時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では、経済学の基本的な考え方を扱ったミクロ経済学を学んでいきます。ミクロ経済学Ⅰでは、消費者や生産者の経済活動を対象とし、どのような資源配分が実現するかを分析します。講義では、グラフや簡単な数式を用いて、市場の動きについて理解できることを目指します。本講義で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ「実学としての経済学」のひとつであると言えます。また、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。 2. グラフや簡単な数式を用いた経済学的な説明を理解できる。 3. 関連する練習問題を解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で実施する問題演習や中間試験に対して、授業内で時間を設けてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年 ③ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎、小川光・家森信善、中央経済社、2016年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567 ③9784502179518
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義で理解できないことがあれば質問をしてください。 また、新聞の経済欄を見て、現実経済の動向に関心を持ってください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスおよび学修計画の確認をしてください。 【復習】授業資料・内容の復習をしてください。	4 時間
第2回	対面	需要の理論（需要曲線）	【予習】「需要の理論（需要曲線）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「需要の理論（需要曲線）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	3 時間
第3回	対面	消費者行動の理論（消費者余剰）	【予習】「消費者行動の理論（消費者余剰）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「消費者行動の理論（消費者余剰）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	供給の理論（供給曲線）	【予習】「供給の理論（供給曲線）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「供給の理論（供給曲線）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	生産費用と供給曲線	【予習】「生産費用と供給曲線」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産費用と供給曲線」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	生産者行動の理論（生産者余剰）	【予習】「生産者行動の理論（生産者余剰）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産者行動の理論（生産者余剰）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第7回	対面	弾力性（需要の価格弾力性）	【予習】「弾力性（需要の価格弾力性）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「弾力性（需要の価格弾力性）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	中間試験とこれまでの復習	【予習】中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】中間試験の振り返りをしてください。	6 時間
第9回	対面	中間試験の解説と復習	【予習】参考書の該当箇所の再確認をしてください 【復習】中間テスト問題の解きなおしをしてください。	4 時間
第10回	対面	市場の理論	【予習】「市場の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「市場の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	完全競争均衡と余剰分析	【予習】「完全競争均衡と余剰分析」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「完全競争均衡と余剰分析論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	需要と供給による経済問題の分析	【予習】「需要と供給による経済問題の分析」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「需要と供給による経済問題の分析」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第13回	対面	余剰分析の応用例	【予習】「余剰分析の応用例」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「余剰分析の応用例」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間

2025/05/01

第14回	対面	授業内容の総復習	【復習】授業資料・内容の復習をしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って、講義内容を復習をしてください。	6時間

科目名	ミクロ経済学 I	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤として重要な、近代経済学の基礎理論です。必修科目である本科目で学修する理論は、ゲーム理論や行動経済学などのミクロ経済理論を学ぶ基盤であるとともに、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、全てのコースに関連して幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、商品を購入して使用する消費者の行動と、商品を生産して販売する企業の行動、そして両者が商品をやり取りする市場のメカニズムを中心に解説します。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか、社会全体として状況が改善されるのか、などを理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 よって本科目では、以上のような人生において役立つ思考法を獲得し、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは避けられません。しかし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、ミクロ経済学に必要な数学入門	・シラバスおよび学修計画の確認 ・参考書①（pp. 1－18）等の確認	4時間
第2回	対面	需要曲線・供給曲線の概要	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 19－28）等の確認 ・参考書①（pp. 29－43）等の確認 ・参考書①p. 43 演習問題の確認	4時間
第3回	対面	需要曲線と弾力性	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 44－53）等の確認	4時間
第4回	対面	需要曲線のシフト要因と消費者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 54－81）等の確認	4時間
第5回	対面	供給曲線と費用	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 83－89）等の確認	4時間
第6回	対面	利潤最大化と生産者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 90－100）等の確認 ・参考書①（pp. 100－110）等の確認	4時間
第7回	対面	均衡への調整過程、中間試験に向けた復習	・授業資料・内容の復習	4時間
第8回	対面	中間試験	・中間テスト問題の振り返り・解きなおし	4時間
第9回	対面	中間試験の解説・振り返り	・授業資料・内容の復習 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第10回	対面	完全競争均衡と余剰分析	・授業資料・内容の復習 ・テキスト（pp. 122－128）または参考書でこれに準じる箇所を確認 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第11回	対面	課税と補助金の効果	・授業資料・内容の復習	4時間
第12回	対面	外部性を考慮した余剰分析	・授業資料・内容の復習	4時間
第13回	対面	ミクロ経済学の展開	・授業資料・内容の復習	4時間
第14回	対面	振り返りと総復習	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。 ・授業内容全体を振り返り、経済学の学びの中で本科目の内容がどのような位置付けであるか再確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	試験対策のポイント	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。	4時間

科目名	ミクロ経済学 I	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤として重要な、近代経済学の基礎理論です。必修科目である本科目で学修する理論は、ゲーム理論や行動経済学などのミクロ経済理論を学ぶ基盤であるとともに、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、全てのコースに関連して幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、商品を購入して使用する消費者の行動と、商品を生産して販売する企業の行動、そして両者が商品をやり取りする市場のメカニズムを中心に解説します。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか、社会全体として状況が改善されるのか、などを理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 よって本科目では、以上のような人生において役立つ思考法を獲得し、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは避けられません。しかし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、ミクロ経済学に必要な数学入門	・シラバスおよび学修計画の確認 ・参考書①（pp. 1-18）等の確認	4時間
第2回	対面	需要曲線・供給曲線の概要	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 19-28）等の確認 ・参考書①（pp. 29-43）等の確認 ・参考書①p. 43 演習問題の確認	4時間
第3回	対面	需要曲線と弾力性	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 44-53）等の確認	4時間
第4回	対面	需要曲線のシフト要因と消費者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 54-81）等の確認	4時間
第5回	対面	供給曲線と費用	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 83-89）等の確認	4時間
第6回	対面	利潤最大化と生産者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 90-100）等の確認 ・参考書①（pp. 100-110）等の確認	4時間
第7回	対面	均衡への調整過程, 中間試験に向けた復習	・授業資料・内容の復習	4時間
第8回	対面	中間試験	・中間テスト問題の振り返り・解きなおし	4時間
第9回	対面	中間試験の解説・振り返り	・授業資料・内容の復習 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第10回	対面	完全競争均衡と余剰分析	・授業資料・内容の復習 ・テキスト（pp. 122-128）または参考書でこれに準じる箇所の確認 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第11回	対面	課税と補助金の効果	・授業資料・内容の復習	4時間
第12回	対面	外部性を考慮した余剰分析	・授業資料・内容の復習	4時間
第13回	対面	ミクロ経済学の展開	・授業資料・内容の復習	4時間
第14回	対面	振り返りと総復習	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。 ・授業内容全体を振り返り、経済学の学びの中で本科目の内容がどのような位置付けであるか再確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	試験対策のポイント	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。	4時間

科目名	ミクロ経済学Ⅰ		開講年度	2025
担当者	田中 征史		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	初めてミクロ経済学を学ぶ学生を対象に、ミクロ経済学の基礎を授業する。			
授業の目的及び概要	本科目では、はじめて経済学を学ぶ学生がミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を習得し、受講生が現実社会で起きている問題を経済学的視点から考えられるようになることを目的としています。ミクロ経済学はあらゆる経済学分野の基礎となっていると言っても過言ではなく、経済学を専攻する学生にとってミクロ経済理論を理解することは必須となります。本講義では、経済学の前提知識のない学生を対象としているため、複雑な数式計算は極力避け、より直感的な解説を中心に講義を行っていきます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、需要と供給、政府による政策介入の効果、市場の効率性、国際貿易、外部性と公共政策の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使った分析ができるようになる 3. 連立方程式を解き、経済の均衡を分析できるようになる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	この科目ではテキストは使用しません。		ISBN	この科目ではテキストは使用しません。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この講義を受講するにあたって受講生が数学の基礎知識を既に習得していることが受講条件ではありませんが、講義では数式を使った分析を行うことも多々あります。数学を苦手としている人は、講義中の解説や小テストを解くことによって、この授業で登場する数式を扱えるようになってください。期末試験を受ける段階で、関数のグラフの図示や連立方程式の解の導出ができなければ単位を取得することが難しくなります。授業中の私語は固く禁じます。ただし、授業中の質問は歓迎しますので、質問がある場合は遠慮なく聞いてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、この科目のイントロダクションとして、経済学の十大原理について紹介する。テキスト第1章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	経済学の基本的な考え方を紹介する。特に、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、ストックとフローの違い、生産可能性フロンティアを中心に解説していく。また、グラフの描き方等に関する数学も説明する。テキスト第2章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	国際間での財の貿易に関する経済学の基本的な考え方を紹介する。特に、絶対優位と比較優位の違いについて中心的に講義する。テキスト第3章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	比較優位の応用例について紹介する。テキスト第3章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	市場の概念と競争の概念について。価格と需要量との関係について解説を行う。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	価格と供給との関係について解説を行う。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	需要と供給から市場均衡を分析する。市場均衡の導出に関する演習問題を解く。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関して解説する。テキスト第5章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関して解説する。弾力性の計算に関する演習を行う。テキスト第5章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	価格規制は市場取引にどのような影響を及ぼすか。テキスト第6章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第11回	オンデ	課税は市場取引にどのような影響を及ぼ	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授	4時間

	マンド	すか。テキスト第 6 章が該当範囲となる。	業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	
第 1 2 回	オンデマンド	消費者余剰と生産者余剰に関する解説を中心に行う。テキスト第 7 章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4 時間
第 1 3 回	オンデマンド	消費者余剰と生産者余剰から市場の効率性を考える。また、市場の効率性と市場の失敗についても解説を行い、同トピックに関する演習を行う。テキスト第 7 章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	税が変化した場合の死荷重と税収について解説する。テキスト第 8 章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	これまでのまとめとして、扱ったトピックを総復習する。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 総復習の授業内容を復習し、期末試験に向けた学習を行うこと。	4 時間

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡分析から一般均衡分析へ		
授業の目的及び概要	本講義では、ミクロ経済学の基礎である消費者（家計）行動の理論と生産者（企業）行動の理論を中心に学んでいきます。ミクロ経済学Ⅱでは、効用関数、無差別曲線、限界代替率、予算制約、所得効果、代替効果、費用最小化、利潤最大化などについて学修していきます。この授業を受講することにより、ミクロ経済学の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の到達目標を以下のように設定します。 1. 一般均衡分析の概要を理解することができる。 2. 与えられたグラフの経済学的な意味を読み取ることができる。 3. 練習問題の計算等を通じて、数学というツールを用いて経済に関する諸問題を考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で実施する練習問題・中間試験について、授業内で復習時間を設けフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	「ミクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅱ」はその両方を履修してはじめて内容が完結しますので、「ミクロ経済学Ⅰ」の修得後には直ちに「ミクロ経済学Ⅱ」を履修してください。また、「ミクロ経済学Ⅱ」は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得してから履修してください。数学が苦手な学生も興味を持てるように丁寧に解説します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	3 時間
第2回	対面	消費者行動の基礎①：無差別曲線と効用	【予習】「無差別曲線と効用」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「無差別曲線と効用」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	消費者行動の基礎②：予算制約	【予習】「予算制約」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「予算制約」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	消費者行動の基礎③：効用最大化	【予習】「効用最大化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「効用最大化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	消費者行動の展開①：所得の変化と需要	【予習】「所得の変化と需要」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「所得の変化と需要」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	消費者行動の展開②：価格の変化と需要	【予習】「価格の変化と需要」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「価格の変化と需要」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第7回	対面	消費者行動の展開③：代替効果と所得効果	【予習】「代替効果と所得効果」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「代替効果と所得効果」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	前半のまとめと・中間試験	【予習】中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】中間試験の振り返りをしてください。	4 時間
第9回	対面	中間試験の解説・消費者行動の応用（労働供給）	【予習】「労働供給」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】中間テスト問題の解きなおし、授業で配布した「労働供給」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第10回	対面	生産者行動①：生産関数	【予習】「生産関数」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産関数」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	生産者行動②：費用最小化	【予習】「費用最小化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「費用最小化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	生産者行動③：利潤最大化	【予習】「利潤最大化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「利潤最大化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第13回	対面	一般均衡理論①：エッジワース・ボックス	【予習】「エッジワース・ボックス」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「エッジワース・ボックス」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	一般均衡理論②：生産可能性フロンティア	【予習】「生産可能性フロンティア」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産可能性フロンティア」	4 時間

			に関する資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて，これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って，講義内容を復習をしてください。	5 時間

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡分析から一般均衡分析へ		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤を形成する、近代経済学の基礎となる理論です。本科目で学修する理論は、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、「ミクロ経済学Ⅰ」で解説された部分均衡理論から更に進んで、複数の産業や市場を同時に考えることができる一般均衡理論を扱います。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 本科目では、以上のように人生において役立つ思考法を獲得することができるとともに、「ミクロ経済学Ⅲ」、「上級ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」や各コースの専門に深く関連する応用科目でも活用できる、ミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 一般均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	実施される課題・テスト等の結果について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学（第3版）、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。復習事項の指示における参考書は本書を指します。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	本科目は「ミクロ経済学Ⅰ」と比べて使用する数学の難易度が上昇します。しかし、ミクロ経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは避けられません。ただし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ミクロ経済学Ⅰで用いた数学の復習	・シラバスおよび学修計画の確認（2時間程度） ・ミクロ経済学Ⅰの復習（2時間程度）	4時間
第2回	対面	消費者理論1 （効用関数と無差別曲線）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 149－165）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第3回	対面	消費者理論2 （予算制約と効用最大化）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 165－173）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第4回	対面	効用最大化に係る計算問題	授業資料に基づく計算問題の復習	4時間
第5回	対面	消費者理論3 （効用最大化の復習と所得効果）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 175－183）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第6回	対面	消費者理論4 （価格効果とスルツキー分解）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 183－194）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第7回	対面	消費者理論に関する問題演習	授業で示された練習問題等の復習	4時間
第8回	対面	消費者理論の応用例	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 194－204）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第9回	対面	生産者理論1 （生産関数と費用）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 205－221）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第10回	対面	生産者理論2 （費用最小化と利潤最大化）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 221－237）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第11回	対面	一般均衡理論1 （交換経済）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 239－249）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第12回	対面	一般均衡理論2 （生産経済）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 249－256）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第13回	対面	一般均衡分析3 （一般均衡理論再考）	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・一般均衡理論の復習（2時間程度）	4時間
第14回	対面	ミクロ経済学の展開	・授業資料・内容の復習	4時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	・試験に向けた総復習	4時間

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ミクロ経済学Ⅰの受講者を対象に、ミクロ経済学の基礎を授業する		
授業の目的及び概要	本科目では、はじめて経済学を学ぶ学生がミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を習得し、受講生が現実社会で起きている問題を経済学的視点から考えられるようになることを目的としています。ミクロ経済学はあらゆる経済学分野の基礎となっていると言っても過言ではなく、経済学を専攻する学生にとってミクロ経済理論を理解することは必須となります。本講義では、経済学の前提知識のない学生を対象としているため、複雑な数式計算は極力避け、より直感的な解説を中心に講義を行っていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、企業の費用関数、独占と寡占、労働の需要と供給、消費の最適化、情報の非対称性の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使った分析ができるようになる 3. 連立方程式を解き、経済の均衡を分析できるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	この科目では特定のテキストは指定しない。	ISBN	この科目では特定のテキストは指定しない。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この講義を受講するにあたって受講生が数学の基礎知識を既に習得していることが受講条件ではありませんが、講義では数式を使った分析を行うことも多々あります。数学を苦手としている人は、講義中の解説やレポート課題を解くことによって、この授業で登場する数式を扱えるようになってください。期末試験を受ける段階で、関数のグラフの図示や連立方程式の解の導出ができなければ単位を取得することが難しくなります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、この科目のイントロダクションとして、ミクロ経済学Ⅰの内容の簡単なまとめと、本講義で扱うトピックの紹介を行う。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	機会費用や限界・平均費用の概念について紹介する。テキスト第13章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	短期経済と長期経済における費用の捉え方の違いについても解説する。テキスト第13章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	競争市場の概念について。また、企業の利潤最大化行動がどのように分析することができるかを解説する。テキスト第14章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	企業の利潤最大化をグラフを使って分析する。テキスト第14章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	企業の利潤最大化行動によって供給曲線がどのように導かれるかを解説する。テキスト第14章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	企業は自社で雇う労働者の数をどのように決定する？労働需要に関する解説を行う。テキスト第18章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	労働者は自身の労働時間をどのように決定する？労働供給に関する解説を行う。テキスト第18章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	予算制約線と無差別曲線について。テキスト第21章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	消費者にとって最適な消費量とはどのように決定される？消費者による効用最大化に関して解説を行う。テキスト第21章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	所得や価格の変化が消費者の選択に及ぼす影響について分析する。テキスト第21章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	外部性と市場の非効率性について解説を行う。テキスト第10章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	外部性に対する公共政策について解説を行う。テキスト第10章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	公共財のフリーライダー問題とは。共有資源における共有地の悲劇とは。テキスト第11章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでのまとめとして、扱ったトピックを総復習する。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2025
担当者	前田 一樹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	財市場のマクロ経済均衡理論（45 度線分析）とマクロ経済に関する基本的な諸指標を学ぶ			
授業の目的及び概要	マクロ経済学は国全体の経済に関して、家計・企業・政府・外国といった経済主体の動きに注目した分析を行う近代経済学の代表的理論体系です。マクロ経済学を学ぶことで、個別の企業や消費者の意思決定を詳細に分析するミクロ経済学とは異なり、本科目では経済主体の選択を「大雑把」に考えることで、経済全体の流れや政府による経済政策の効果を直観的に理解することができるようになります。すなわち、ニュースや新聞の経済記事を理解し、その内容が自分自身とどのように関連しているのかを考えることに役立ちます。 必修科目である本科目では、このようなマクロ経済学の出発点として、最も基本的なマクロ経済を分析するための数理モデルである「45 度線モデル」を最終的な到達点として関連する理論を学ぶとともに、マクロ経済を観察するために最低限理解すべきである各種経済指標についても学びます。 さらに本科目は、後続する「マクロ経済学Ⅱ・Ⅲ」や「上級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目で、より本格的なマクロ経済学を学ぶための基盤を形成することにも寄与します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本科目では以下の 3 点を到達目標とします。 ① マクロ経済における財市場の均衡を数理モデルによって説明できる。 ② 国民経済計算などにおける主要な経済指標を説明できる。 ③ マクロ経済学の入門的な計算問題に正しく解答できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教科書は指定しません。授業内で必要に応じて資料を配付します。		ISBN	なし
参考書	基本講義マクロ経済学 第 2 版, 中村勝克, 新世社, 2022 年		ISBN	①978-4-88384-356-5
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講に	毎授業の積み重ねが重要です。しっかり復習し、授業に臨んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス，基礎的な計算の復習	学修計画の確認をしましょう。 マクロ経済学Ⅰに必要な数学について復習しましょう。	4時間
第2回	対面	GDP とは何か・三面等価の原則	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 9-46 の内容を確認しましょう。	4時間
第3回	対面	GDP に関連した諸概念など	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 47-68 の内容を確認しましょう。	4時間
第4回	対面	産業連関表	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第5回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（連立方程式と1次関数のグラフ）	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第6回	対面	財市場（民間部門のみ）の均衡と乗数効果	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 69-94 の内容を確認しましょう。	4時間
第7回	対面	インフレギャップ・デフレギャップ	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	中間試験	中間試験問題の振り返り・解きなおしをしましょう。	4時間
第9回	対面	中間試験の解説 マクロ経済学に必要な数学入門（無限等比級数）	中間試験問題の振り返り・解きなおしをしましょう。	4時間
第10回	対面	政府支出を含む 45 度線分析と財政政策の効果	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第11回	対面	租税を含む 45 度線分析と均衡予算乗数	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第12回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（これまでの計算練習と偏微分）	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第13回	対面	外国貿易を含む 45 度線分析	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第14回	対面	総復習	総復習をしましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	総復習	試験対策をしましょう。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	財市場のマクロ経済均衡理論（45 度線分析）とマクロ経済に関する基本的な諸指標を学ぶ		
授業の目的及び概要	マクロ経済学は国全体の経済に関して、家計・企業・政府・外国といった経済主体の動きに注目した分析を行う近代経済学の代表的理論体系です。マクロ経済学を学ぶことで、個別の企業や消費者の意思決定を詳細に分析するミクロ経済学とは異なり、本科目では経済主体の選択を「大雑把」に考えることで、経済全体の流れや政府による経済政策の効果を直観的に理解することができるようになります。すなわち、ニュースや新聞の経済記事を理解し、その内容が自分自身とどのように関連しているのかを考えることに役立ちます。 必修科目である本科目では、このようなマクロ経済学の出発点として、最も基本的なマクロ経済を分析するための数理モデルである「45 度線モデル」を最終的な到達点として関連する理論を学ぶとともに、マクロ経済を観察するために最低限理解すべきである各種経済指標についても学びます。 さらに本科目は、後続する「マクロ経済学Ⅱ・Ⅲ」や「上級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目で、より本格的なマクロ経済学を学ぶための基盤を形成することにも寄与します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の 3 点を到達目標とします。 ① マクロ経済における財市場の均衡を数理モデルによって説明できる。 ② 国民経済計算などにおける主要な経済指標を説明できる。 ③ マクロ経済学の入門的な計算問題に正しく解答できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。授業内で必要に応じて資料を配付します。	ISBN	なし
参考書	基本講義マクロ経済学 第 2 版, 中村勝克, 新世社, 2022 年	ISBN	①978-4-88384-356-5
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	毎授業の積み重ねが重要です。しっかり復習し、授業に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス，基礎的な計算の復習	学修計画の確認をしましょう。 マクロ経済学Ⅰに必要な数学について復習しましょう。	4時間
第2回	対面	GDP とは何か・三面等価の原則	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 9-46 の内容を確認しましょう。	4時間
第3回	対面	GDP に関連した諸概念など	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 47-68 の内容を確認しましょう。	4時間
第4回	対面	産業連関表	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第5回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（連立方程式と1次関数のグラフ）	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第6回	対面	財市場（民間部門のみ）の均衡と乗数効果	授業資料・内容の復習をしましょう。 参考書 pp. 69-94 の内容を確認しましょう。	4時間
第7回	対面	インフレギャップ・デフレギャップ	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	中間試験	中間試験問題の振り返り・解きなおしをしましょう。	4時間
第9回	対面	中間試験の解説 マクロ経済学に必要な数学入門（無限等比級数）	中間試験問題の振り返り・解きなおしをしましょう。	4時間
第10回	対面	政府支出を含む 45 度線分析と財政政策の効果	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第11回	対面	租税を含む 45 度線分析と均衡予算乗数	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第12回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（これまでの計算練習と偏微分）	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第13回	対面	外国貿易を含む 45 度線分析	授業資料・内容の復習をしましょう。	4時間
第14回	対面	総復習	総復習をしましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	総復習	試験対策をしましょう。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2025
担当者	二替 大輔		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	マクロ経済学で登場する基本的な指標および所得水準の決定理論を学ぶ。			
授業の目的及び概要	本講義では、学部で必要とされるマクロ経済学の理論を学んでいきます。前半はマクロ経済を計測するための基礎概念を扱います。後半では、マクロ経済の短期分析を扱います。講義では、練習問題を解くことにより、基本的なマクロ経済理論の知識の習得を目指します。本講義で得ることができる知識は、社会に出てからも役立つ「実学としての経済学」のひとつであると言えます。また、今後の応用科目でも活用できるマクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本講義では、以下の3点を到達目標とします。 1. マクロ経済学における財市場の均衡を中心とする基礎的理論を身につける。 2. マクロ経済学という体系的な視点をもって具体的な経済事象の相互の関係を理解し、自ら説明できるようになる。 3. 関連分野の問題が解けるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業内で実施する問題演習・中間試験について、授業内で時間を設けフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。		ISBN	なし
参考書	①やさしいマクロ経済学，塩路悦郎，日本経済新聞社出版，2019 年 ②ベーシックプラス マクロ経済学の基礎（第2版），家森信善，中央経済社，2021 年 ③マクロ経済学・入門（第6版），福田慎一・照山博司，有斐閣，2023 年		ISBN	①9784532114053 ②9784502371318 ③9784641222243
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	マクロ経済学Ⅰでは、マクロ経済の動きを理解するための基礎的な知識を得ることができますが、合格すれば、「マクロ経済学Ⅱ」も履修して勉強することが望ましいです。マクロ経済学Ⅱでは利子率、株価、債券の価格、企業の設備投資、為替レート、財政政策と金融政策について			

勉強します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】：シラバスを確認する 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	2 時間
第2回	対面	GDP の定義	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第3回	対面	GDP の計測①：付加価値	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第4回	対面	GDP の計測②：分配面・支出面	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第5回	対面	名目 GDP と実質 GDP	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第6回	対面	物価指数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第7回	対面	中間試験とこれまでの復習	【予習】：中間試験に向けての復習をすること 【復習】：中間試験の振り返りをすること	5 時間
第8回	対面	中間試験の解説と復習	【予習】：講義資料の該当箇所の再確認をすること 【復習】：中間試験の解き直しをすること	5 時間
第9回	対面	労働統計（失業率・有効求人倍率）	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第10回	対面	総需要①：消費と貯蓄・消費関数，企業の投資・投資関数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第11回	対面	総需要②：政府支出と政府の役割・純輸出・総需要関数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第12回	対面	財市場分析①：45 度線分析	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第13回	対面	財市場分析②：乗数効果	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第14回	対面	授業内容の総復習	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	【予習】 配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】 授業で配布した資料を使って，講義内容を復習をしてください。	5 時間

科目名	マクロ経済学 I	開講年度	2025
担当者	田中 征史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学を初めて学ぶ学生を対象に、マクロ経済学の基礎を授業する		
授業の目的及び概要	本科目では、初級のマクロ経済学を講義します。GDP の成長や物価の変動、景気の変動、貿易収支、財政赤字といった用語は普段テレビや新聞などのメディアで耳にする言葉でしょう。こういった「経済指標」は、ある国、もしくは、ある地域全体の経済活動を包括的に分析するために用いられるものです。マクロ経済学とは、このように個々人の経済活動を集計的に捉え、国や地域全体の経済の変動について分析する学問です。この講義では、マクロ経済学の基礎を学ぶことで、受講生が現実世界のマクロ経済現象に対して論理的に理解できるようになることを目標としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、GDP、物価指数、経済成長、資金市場の分析、中央銀行の役割と金融政策の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使い、経済の均衡を分析ができるようになる 3. 経済政策に伴う市場の変化を考察できるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません	ISBN	指定のテキストはありません
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）		
この科目の受講にあたって	その他の内容		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、マクロ経済学の役割や、ミクロ経済学との違いについて解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	マクロ経済モデルで分析する経済主体に関して。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	生産面で測った GDP とは？GDP と付加価値に関して解説を行い、その後、GDP の計算に関して演習問題を解く。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	所得で測った GDP と支出で測った GDP について解説を行う。また、実質 GDP と名目 GDP の定義を解説し、これらの計算に関する演習を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	物価の定義について。GDP デフレータの定義と計算演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	消費者物価指数や企業物価指数の定義と計算演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	世界の国の経済発展の違いは何によって説明されるか？経済成長と物的資本の関係について。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	ソロー経済成長モデルの解説と演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	金融市場における貯蓄と投資の関係について。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	利子率の決定について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	貨幣の定義と役割について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	中央銀行の役割について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	貨幣とインフレーションに関して。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第14回	オンデマンド	フィッシャー効果とデフレの罫。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義内容のまとめを講義する。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	財市場における需給の均衡に加え、貨幣の需要や供給から導かれる金融市場の均衡を組み合わせた理論枠組みとなる IS-LM モデルに習熟する。		
授業の目的及び概要	最近「日本銀行の金融政策の変更は経済にどのような影響を与えるのだろうか？」といった話題が経済ニュースでよく取り上げられています。本講義では、マクロ経済学Ⅰで学んだ財市場の均衡を中心とする理論の枠組みから、貨幣の需要や供給からなる金融市場における均衡まで織り込んだ IS-LM モデルまで分析の枠組みをを拡げ、金融市場も含めた経済全体の動きをより体系的に理解し、上記のような話題も含め実際の経済の動きを理論に即して説明できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では、以下の3点を到達目標とします。 1. マクロ経済学Ⅰで学んだ財市場の均衡に加え金融市場での均衡も考慮したマクロ経済モデル（IS-LM モデル）の基礎的理論を身につける。 2. マクロ経済学で学んだ視点をもって具体的な経済事象の相互の関係や財政金融政策の効果などについても理解し、自ら説明できるようになる。 3. 公務員試験など各種就職資格試験における関連分野の問題（より応用的な問題も含め）が解けるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講義後、ラーニングポータルで確認のための小テスト（選択式）を掲載しますので、期限までに解答してもらい、期限終了後、直ちに自動採点によって理解度をチェックできるようにします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として30年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①マクロ経済学・入門（第5版）、福田慎一・照山博司，有斐閣，2016年 ②入門マクロ経済学【第4版】，井堀利宏，新世社，2020年 かなり平易に書かれているマクロ経済学の基礎的なテキストです。 ③入門マクロ経済学【第6版】，中谷巖，日本評論社，2021年。 伝統的なマクロ経済学のテキストとして広く読まれています。 どの参考書も後半部分が本講義の対象内容に該当します。	ISBN	①9784641220669 ②9784883843084 ③9784535557956
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本講義はマクロ経済学Ⅰで講義した基礎的なマクロ経済学の知識を前提として講義を行いますので、受講生は必修科目であるマクロ経済学Ⅰの単位を取得できていることが必要となります。なお、授業が始まるまでに、参考書などでGDPの概念や財市場均衡（45度線分析）の枠組みまで抑えた予習を行って下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方や確認課題（ラーニングポータルで実施する小テスト）、中間、期末試験等に関して説明します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。毎講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第2回	対面	マクロ経済学Ⅰで学修したGDP統計（国民経済計算）の概要と乗数分析（45度線分析）のおさらいをします。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第3回	対面	マクロ経済学Ⅰで学修した財市場の均衡の変化をもたらす要因について復習を行います。特に、消費関数の裏側にある貯蓄関数や、今後学修する金融市場との繋がりが深い投資関数について解説します。これにより貯蓄と投資のバランスという観点から財市場の均衡を見る目を養います。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第4回	対面	そもそもの金融市場の仕組み、債券と金利（利回り）の関係、株価（資産として地価についても）形成などについて解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第5回	対面	貨幣需要の理論として貨幣保有動機（取引動機と投機的動機）からケインズの流動性選好の理論を学修し、その比較として古典派の貨幣理論であるフィッシャーの交換方程式、マーシャルのkなどについて解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第6回	対面	前回の貨幣の需要面の理論の復習から信用創造を通じた貨幣供給の仕組みと中央銀行による金融政策の効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第7回	対面	貨幣の需要と供給から導き出される貨幣市場の均衡と均衡点の変化をもたらす要因について解説します。さらに、中間テストに備えた模擬問題も提示します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。併せて中間テストに向けた復習をしっかり行なってください。	4時間
第8回	対面	中間テストを実施し、授業内に解説を行います。	中間テストに備え、これまでの授業内容や演習問題の復習を十分しておくこと。テスト後は間違えた箇所について正答が得られるまでよく復習してください。	4時間
第9回	対面	財市場の均衡を表すIS曲線と貨幣市場の均衡を表すLM曲線の導出方法について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間

			ください。	
第10回	対面	IS 曲線、LM 曲線のシフトをもたらす要因、IS 曲線、LM 曲線の形状の違いをもたらす要因について様々なケースについて検討します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第11回	対面	IS-LM 分析を用いた財政政策の効果についてそれに付随する副作用効果としてクラウディングアウト効果や「流動性のわな」など特殊な状況下における金融政策の効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第12回	対面	IS-LM 分析を用いた財政金融政策の政策効果、完全雇用達成に向けた政策の有効性の比較と同時実施（ポリシーミックス）による効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第13回	対面	前回に引き続き IS-LM 曲線が特殊な形状をしているより複雑なケースでの財政金融政策の効果について解説します。また、定期試験に備えた問題を解く練習も行います。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第14回	対面	閉鎖体系（輸出入を含まない）での IS-LM 分析の総まとめとして、定期試験を想定した模擬問題演習をおこないます。	期末定期試験対策として今回講義内で行った演習問題を再度解き直すなど復習をしっかりと行ってください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの総復習として、前回取り上げた IS=LM モデルに関する演習問題を材料に解答とそのポイントを解説します。オンデマンド形式で行いますので、繰り返し視聴することにより学修内容に対する理解を定着させ、期末定期試験に臨むようにしてください。	期末テストに備え、授業後にこれまでの確認課題や前回取り組んだ模擬問題も含め、授業内容の復習を十分しておいて下さい。	5 時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	GDP・利子率・為替レートの決定メカニズムと財政政策と金融政策の効果		
授業の目的及び概要	マクロ経済学Ⅰの続きとして、マクロ経済学Ⅱの主な目的は、GDP、雇用、賃金、利子率、為替レートなどはどのようなメカニズムによって決定されるか、変動させる要因が何か、そして経済政策が実体経済にどのような影響を与えるかを勉強することです。特に貨幣市場、債券市場、外国為替市場、財政政策と金融政策の効果を勉強します。マクロ経済学を理解することによって、経済学の各分野である労働・金融・貿易などをより広範に理解できるようになります。マクロ経済学Ⅱでは、経済の変動を起こす要因の理論を勉強することと共に、データから日本経済の現状と将来の見通しについて勉強します。この科目の最終的な目標は、学生が卒業した後、より充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になることです。マクロ経済学Ⅱで勉強するGDP、利子率、為替レート、貿易のつながりのメカニズムは、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の内容を理解するための基本知識です。「実学としての経済学」の取り組みが主に各演習で行い、同トピックスの理解を深め、応用問題の解き方も勉強します。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な到達目標は以下の能力を身に付けるようにすることです。 1. マクロ経済学の理論を理解する力 2. 日本経済の現状と将来の見通しについて分析できる力 3. 経済を変動させるメカニズムを説明する力 4. マクロ経済の諸問題を理解し、解決策を考える力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された練習問題のなか、正解率の低い問題がある場合、後に同タイプの問題を解説して、フィードバックします。分からない点があれば、自由に質問してください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書・データベースの情報を利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップします。	ISBN	なし
参考書	① 中谷巖『入門マクロ経済学（第6版）』日本評論社、2021年 ② マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門篇 第4版、東洋経済新報社（2017） ③ マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用篇 第4版、東洋経済新報社（2018） データベース 内閣府： https://www.cao.go.jp/ 日本銀行： https://www.boj.or.jp/ 政府統計の総合窓： https://www.e-stat.go.jp/ 経済産業省： https://www.meti.go.jp/	ISBN	① 4535557950 ② 4492315047 ③ 4492315101

	財務省： https://www.mof.go.jp/ 日本貿易振興機構（Jetro）： https://www.jetro.go.jp/ 外務省： https://www.mofa.go.jp/mofaj/ International Monetary Fund (World Economic Outlook Databases): https://www.imf.org/ インターネットサイト 日経新聞： https://www.nikkei.com/ Bloomberg: https://www.bloomberg.com/asia CNN: https://www.cnn.co.jp/		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マクロ経済学 II で勉強するトピックスは、特に大学院進学、公務員、銀行員などといった進路を望んでいる学生にとって不可欠な知識であり、貿易会社、商社、一般企業といった他の進路を望んでいる学生にも役に立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「授業1 授業の案内」を読んでください。 復習：「練習1 マクロ経済学の主なトピックス」を解いて、オンラインで、回答してください。	1 時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「授業2 日本経済の現状と将来の見通し」を読んで下さい。 復習：「練習2 日本経済の現状と将来の見通し」を解いて、オンラインで、回答してください。	4 時間
第3回	対面	投資家が債券・株・不動産・貨幣を保有する理由について勉強する。	予習：「授業3 資産市場・資金調達・貨幣」を読んで下さい。 復習：「練習3 資金調達と貨幣」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4 時間
第4回	対面	資産の価値を計算する方法について勉強する。	予習：「授業4 割引現在価値と資産の価値」を読んで下さい。 復習：「練習4 割引現在価値」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4 時間
第5回	対面	債券の価格の決定メカニズムについて勉強する。	予習：「授業5 債券の価格」を読んで下さい。 復習：「練習5 債券の価格」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4 時間
第6回	対面	株価と株式市場について勉強する。	予習：「授業6 株価と株式市場」を読んで下さい。 復習：「練習6 株価と株式市場」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4 時間
第7回	対面	貨幣の供給について勉強する。	予習：「授業7 貨幣の供給・金融政策・貨幣の乗数」を読んで下さい。	4 時間

			復習：「練習 7 貨幣の供給と貨幣の乗数」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	
第 8 回	対面	貨幣需要・貨幣市場・LM 曲線について勉強する。	予習：「授業 8 貨幣の需要関数・貨幣市場・LM 曲線」を読んで下さい。 復習：「練習 8 貨幣市場」を解いて、オンラインで回答してください。	4 時間
第 9 回	対面	企業の投資プロジェクトと投資関数について勉強する。	予習：「授業 9 企業の投資プロジェクトと投資関数」を読んで下さい。 復習：「練習 9 投資プロジェクトと投資関数」と「特別な練習 1」を解いて、オンラインで回答してください。	4 時間
第 10 回	対面	IS-LM 曲線モデルによる利子率と GDP の決定と政策の効果について勉強する。	予習：「授業 10 IS-LM 曲線モデルによる均衡の決定と政策の効果」を読んで下さい。 復習：「練習 10 IS-LM 曲線モデルによる政策分析」を解いて、オンラインで回答してください。	4 時間
第 11 回	対面	IS-LM 曲線モデルによる不況の原因、物価の変動の説明、クラウディングアウトについて勉強する。	予習：「授業 11 不況・クラウディングアウト・インフレーション」を読んで下さい。 復習：「練習 11 不況とクラウディングアウト」を解いて、オンラインで回答してください。	4 時間
第 12 回	対面	線形 IS-LM 曲線を利用して、均衡と経済政策の効果の計算方法について勉強する。	予習：「授業 12 線形 IS-LM モデル」を読んで下さい。 復習：「練習 12 線形 IS-LM モデル」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	4 時間
第 13 回	対面	IS-LM 曲線モデルによる失業の発生、失業を減少させる政策の効果、IS-LM 曲線モデルの特殊なケースについて勉強する。	予習：「授業 13 IS-LM 曲線のその他のトピックス」を読んで下さい。 復習：「練習 13 IS-LM 曲線のその他のトピックス」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を続けてください。	5 時間
第 14 回	対面	変動為替相場制度における為替レートの決定と円安・円高の原因について勉強する。	予習：「授業 14 為替レートと外国為替市場」を読んで下さい。 復習：「練習 14 為替レートと外国為替市場」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	5 時間
第 15 回	オンデマンド	開放経済 IS-LM 曲線モデルにおける経済政策の効果进行分析する。 定期試験に向けて復習を行う。	予習：「授業 15 開放経済 IS-LM 曲線モデル」を読んで下さい。 復習：「練習 15 開放経済 IS-LM 曲線モデル」を解いて、オンラインで回答してください。 「特別な練習 2」と「試験のための練習」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	5 時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学Ⅰを履修した学生を対象に、マクロ経済学の基礎を授業する		
授業の目的及び概要	本科目では、初級のマクロ経済学を講義します。GDP の成長や物価の変動、景気の変動、貿易収支、財政赤字といった用語は普段テレビや新聞などのメディアで耳にする言葉でしょう。こういった「経済指標」は、ある国、もしくは、ある地域全体の経済活動を包括的に分析するために用いられるものです。マクロ経済学とは、このように個々人の経済活動を集計的に捉え、国や地域全体の経済の変動について分析する学問です。この講義では、マクロ経済学の基礎を学ぶことで、受講生が現実世界のマクロ経済現象に対して論理的に理解できるようになることを目標としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下 2 点を主な到達目標とします。 1. この講義では長期のマクロ経済モデルと短期のマクロ経済モデルについて重点的に解説を行うため、この 2 つのモデルの違いを十分に理解すること 2. 授業の後半で扱う失業や財政赤字の持続可能性といった応用的なトピックを分析できるようになること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定するテキストはありません	ISBN	指定するテキストはありません
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、春学期開講のマクロ経済学Ⅰの内容に関して簡単に復習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	GDP と物価水準の測り方、各市場の均衡に関して解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	海外との財の取引や資本の取引について解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	国際取引によって決定される名目為替レートと実質為替レートに関して解説を行い、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	開放経済モデルを紹介する。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	開放経済モデルにおける名目為替レートの決定と政策効果に関して解説を行い、その後、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	総需要と総供給の決定について解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	短期経済モデルの均衡と、短期経済から長期経済にかけての市場調整に関して解説を行い、その後、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	経済変動の分析を行う。総需要の変動や総供給の変動が経済に与える影響を短期、長期ともに分析を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	経済安定化政策に関する分析を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	失業の定義と失業発生メカニズムについて。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	経済学では失業はどのように説明されるか？代表的な失業モデルを簡単に紹介する。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	日本の財政赤字の実態に関して解説を行う。特に、アベノミクスによる金融緩和と財政赤字の関係に関して。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第14回	オンデマンド	簡単な経済モデルを使って財政赤字の持続可能性を分析する。残りの時間で、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめを行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間

科目名	社会経済学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	西 淳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	資本主義という経済システムを古典派経済学やマルクス経済学の視点から考える。		
授業の目的及び概要	資本主義社会はそれ以前の社会とあきらかに異なる経済社会である。利潤追求が経済活動の中心となるし、人々は日々、労働力を売らなければ生活ができない。また資本主義に入ってから人類は初めて経済成長というものを経験するようになった。しかし、他方で資本主義社会にはこれまでの社会と同じ側面があるのである。この「社会経済学Ⅰ」では、資本主義社会が人間の経済システムとして歴史的に不変的な部分をもちつつも、それが市場や分業、それに資本賃労働関係を基礎としてなされているがゆえに、それ以前の経済社会とまったく違うものとして現われているということを学ぶ。 この授業を受講することで、ミクロ経済学やマクロ経済学とはまた違った視点から経済現象について考え、それについての自分の意見をもつことができるようになるはずです。 なお、最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	●商品や貨幣の問題について説明することができる。 ●社会システムの再生産について説明することができる。 ●経済学における価値の問題について説明することができる。 ●経済の営みにとって制約となることについて説明することができる。 ●搾取の問題について説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメント・シートを配布し受講生の理解を確かめ、それを以降の授業にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業の中で配布するプリントを中心に進めます)	ISBN	なし
参考書	①経済学，置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦，大月書店，1988 年 ②はじめてのマルクス経済学入門，松尾匡・橋本貴彦，筑摩書房，2016 年 その他については、授業中に指示します。	ISBN	①9784272110568 ②9784480016362
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	ミクロ経済学やマクロ経済学とは違った、マルクス経済学の資本主義に対する見方とはどのよ		

あたって	うなものかについて関心をもって授業にのぞんでください。経済に対する見方は決して一つではありません。さまざまな見方を理解してこそ、経済という対象を理解することができるようになると思われます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	はじめに：全体の議論の前提について。	復習：当日の配布プリントについて復習すること（2時間程度）。	2時間
第2回	オンデマンド	資本主義の基本的特質について。	予習：生産、分配、消費といったことが何を意味するかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	商品生産と資本主義…商品、そして貨幣。	予習：商品には使用価値と交換価値があることを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	貨幣の問題について。	予習：貨幣のもつ諸機能について調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	価格調整と数量調整。	予習：市場の需要と供給の調整はどのようになされているか考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	価格の決まり方、つづき。	予習：生産物の価格と資産の価格の決まり方の違いについて考えておくこと。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	価値について(1)：効用価値論と労働価値論について。	予習：価値と価格との違いはなにか、調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	価値について(2)：価値をどう規定するか。	予習：労働価値説とはどのような学説なのかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	生産技術と資源との関係について。	予習：「生産関数」、「等量曲線」、「生産可能性集合」などの用語を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	価値について(3)：労働価値論をどう使うか。	予習：労働も一つの生産資源であるが、その資本や土地といった生産資源とどこが違うかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	価値増殖の観点からみた資本(不変資本と可変資本)。	予習：生産要素の付加価値生産性とはどのようなことか、調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	賃労働と資本：労働力商品について。	予習：「労働」と「労働力」はどう違うかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第13回	オンデマンド	剰余労働の搾取について(1)：搾取とはなにか。	予習：「必要」と「剰余」という概念を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること	4時間

			(2時間程度)。	
第14回	オンデマンド	剰余労働の搾取について(2)：絶対的と相対的、その他。	予習：技術革新はわれわれの生活にいかなる影響をもたらすのか考えておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ。これまでの内容を総括します。	予習：これまで配布してきたプリントを読み返しておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること(2時間程度)。	4時間

科目名	社会経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	西 淳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マルクス経済学の視点から資本主義のメカニズムについて考える。		
授業の目的及び概要	資本主義という経済体制のもつ特質を理解することによってそのなかに生きている自分のありようを理解することが目的となります。自分の存在のありようを理解するということはほかの視点からも行うことができるかもしれませんが、資本主義という歴史的にも特殊的な経済体制のなかで生き生活しているということが我々の存在を規定しているということを理解することが重要です。しかし資本主義には経済の再生産という、歴史普遍的な側面もあります。よって、「社会経済学Ⅱ」においては、その両面から資本主義を考察し、そのもつメカニズムについて考えます。この授業を履修することによって、われわれがそのなかで生きている資本主義について客観的な視点から考えるためのヒントが得られることと思います。また、経済についての見方は一つではないという視点が得られ、現実を複眼的にみる見方を身につけることができます。なお、「実学としての経済学」という観点からいえば、この授業を履修すると、社会における格差の問題や日本社会が抱える独自の問題（少子高齢化など）に対して経済学がいかに役に立つのかが理解できるようになります。 なお、最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	●資本の概念について説明することができる。 ●資本主義の成長の原因について説明することができる。 ●価値と価格の違いについて説明することができる。 ●失業についての諸原因について説明することができる。 ●近代経済学とマルクス経済学との違いについて説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメント・シートを配布して受講生の理解度を確認し、それを以降の授業でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません（授業中に配布するプリントで進めます）。	ISBN	なし
参考書	①経済学，置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦，大月書店，1988 年 ②はじめてのマルクス経済学入門，松尾匡・橋本貴彦，筑摩書房，2016 年	ISBN	①9784272110568 ②9784480016362
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	資本主義のなかで生きていかなければならないわれわれにとって、資本主義の理解は欠かすことができません。たんなる市場や分業に還元されつくすことのない資本主義という経済システムについて考えなければならぬと思われまふ。さらには経済についての見方は一つではないという視点を獲得することが重要であると思われまふ。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	はじめに：授業の進め方と、「社会経済学Ⅰ」の復習をします。	復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	2時間
第2回	オンデマンド	資本とは何か。また社会経済学における資本とは他の経済学のそれとどう違うのか。	予習：資本の経済学的意味について考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	資本の回転について。また資本の回転が利潤率にいかなる影響を与えるのか。	予習：資本の回転とはどういうことかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	価格の一時的決定について。生産価格とは区別されるものとしての一時的均衡価格について。	予習：経済学における「短期」と「長期」の違いはなにかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	剰余価値と利潤。また総生産と純生産、必要生産物と剰余生産物、必要労働と剰余労働などの概念について。	予習：「必要」と「剰余」という概念を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	価値と生産価格。価値はなぜ価値からずれるのか。	予習：財の交換比率とはどういうことかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	経済の再生産について：経済の再生産についての諸学説（リカード vs. マルサス論争など）。	予習：「セイ法則」とはどのような法則なのかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	単純再生産について。単純再生産における総生産、純生産等について。	予習：「単純再生産」の意味を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	拡大再生産について。拡大再生産における総生産、純生産等について。	予習：「拡大再生産」の意味を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	労働市場と失業。ケインズ型失業、マルクス型失業、新古典派型失業、等について。	予習：失業の原因にどのようなものがあるかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	利潤率の傾向的低下論。資本の有機構成の高度化論をめぐる諸議論。柴田＝置塩の定理。相対的過剰人口の累積論。	予習：利潤率が低下することが資本主義にとってどのような意味をもつか、考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	国際価値論について。国際的不等価交換論と搾取。	予習：「国際価値論」の意味を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間

第13回	オンデマンド	【補論1】利潤の源泉、賃金の水準はどのように決まるかについての学説史。	予習：利潤はどこから生まれてくるかについて考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第14回	オンデマンド	【補論2】近代経済学とマルクス経済学とはどう違うのか。	予習：「近代経済学」とは具体的に何を指す用語か調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の議論を総括します。	予習：これまで配布してきたプリントを読み返しておくこと（3時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（3時間程度）。	6時間

科目名	経済史 I	開講年度	2025
担当者	脇村 孝平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済史入門－経済とは何かを歴史から学ぶ		
授業の目的及び概要	経済学で使われるキーワードを、様々な歴史的事例を学ぶなかで理解し自分のものにすることが目標となる。具体的には、主に西洋（ヨーロッパ）経済史の諸事例と著名な経済学者が残した言葉を学びつつ、経済学の基本的な概念を理解することが目標となる。 なお、適宜「実学としての経済学」という学修も考慮に入れた講義を行う。本経済学部において「実学としての経済学」の学修とは、具体的にはGDP・為替レート・金利などの経済諸指標の連関を理解しつつ、経済諸指標が互いに連動するマクロ経済学的な連関性を学ぶことを意味する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「市場」、「貨幣」、「資本主義」、「産業革命」、「社会主義」、「企業」、「政府」、「所得分配」、「グローバル経済」などの基本的な経済学の概念を、歴史的事例を使いつつ、他者に説明できることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを数回、実施した後、その解答例を詳しく説明する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	本講義では、経済学の基本的な概念を理解してもらうために、歴史的事例をツール（道具）として使うことを心がけるので、「経済学入門」のような科目だと思って履修してほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	序論－経済史をなぜ学ぶ必要があるのか？	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第2回	対面	「市場」とは何か？	【予習】資料「アダム・スミスの分業論」を予習して	4 時間

			おいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）とを復習しておいてください。	
第3回	対面	「貨幣」の登場－物々交換の困難	【予習】資料「カール・メンガーの貨幣論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第4回	対面	「資本主義」とは何か？	【予習】資料「世界システム論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第5回	対面	「市場社会」の出現－労働・土地・資本の商品化	【予習】資料「労働・土地・貨幣の商品化」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第6回	対面	「産業革命」とは何か？－化石エネルギーの利用	【予習】資料「E・A・リグリの産業革命論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第7回	対面	「所得分配」をかんがえる－「資本主義」再考	【予習】資料「トマ・ピケティの格差論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第8回	対面	「社会主義」－なぜ成功しなかったのか？	【予習】資料「フリードリッヒ・ハイエクの知識論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第9回	対面	「企業」とは何か－経営管理と革新	【予習】資料「ロナルド・コースの企業論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第10回	対面	大企業の出現－「株式会社」制度について	【予習】資料「A. A. バリーとG. C. ミーンズの株式会社論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第11回	対面	大恐慌と「政府の役割」－不確実性と流動性	【予習】資料「J・M・ケインズの貨幣論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第12回	対面	大恐慌と「政府の役割」（その2）－金融政策	【予習】資料「ミルトン・フリードマンの大恐慌論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	グローバル経済（その1）－貿易 復習篇①：市場と貨幣	【予習】資料「比較生産費説」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	グローバル経済（その2）－直接投資 復習篇②：資本主義と企業	【予習】資料「国際収支表」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	復習篇①：市場と貨幣 復習篇②：資本主義と企業 復習篇③：政府－財政政策と金融政策	【復習】資料「復習篇①」、「復習篇②」、「復習篇③」を復習しておいてください。	6 時間

科目名	経済史 I	開講年度	2025
担当者	北西 正人	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済史入門－経済社会の変容を概観する		
授業の目的及び概要	経済社会の変容を学ぶなかで、経済学で使われる基本的な概念を理解するとともに、現代社会の成り立ちを理解することが目的である。たんに経済史上の出来事を羅列することにとどまらず、諸事象に関する著名な経済学者たちの解釈を紹介しながら、経済社会の変容を説明する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	市場や貨幣、資本主義、産業革命、社会主義、企業といった基本的な経済学の概念をふまえて、経済社会の歴史的展開を他者に説明できることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回(出席確認を兼ねた)小テストを実施し、次の授業で解答例を確認する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「歴史」は、たんに年号や出来事を暗記するだけの学問ではありません。これまで人間がどのような経済行為を営んできたかを学ぶことによって、「現在」を生きるわれわれにとって、「未来」を紡ぐ教訓を得ることができるでしょう。そうした問題意識をもって、履修者には積極的に学ぶ姿勢を期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	序論－経済史を学ぶ意義	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	経済発展段階論とその批判①	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テ	4 時間

			ストに回答してください。	
第3回	オンデマンド	経済発展段階論とその批判②	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	市場	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	貨幣	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	資本主義と世界システム	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	産業革命	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	大企業の実現	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第9回	オンデマンド	社会主義	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	帝国主義の時代	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	大恐慌とその影響	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第12回	オンデマンド	戦後国際経済秩序	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第13回	オンデマンド	ヨーロッパの統合	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	アジアの経済発展	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間

科目名	経済史Ⅱ	開講年度	2025
担当者	脇村 孝平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近現代アジアにおける貿易と経済発展		
授業の目的及び概要	・本講義では、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることになる。19 世紀半ばから現代までのアジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになるう。 ・本講義は、「国際経済コース」を選択する意思のある人に特にお勧めしたい。「国際経済コース」では、世界経済の中でも、特にアジア諸国の経済状況について学んでもらうことを重視している。その理由は、日本経済の未来を考えるならば、アジア諸国との貿易や直接投資を通じての経済的な関係がいっそう重要となるからである。本講義は、近現代アジアの経済発展を、主に「貿易」に焦点を合わせて考察することを目的としているが、アジア諸国の経済の現状と未来を考える上で意味のある講義にしたいと考えている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本講義では、貿易史の変遷を概観することによって、同時期のアジア諸地域の経済発展の様相を理解することが目標となる。多くの場合、貿易構造の変化は、背後に控える産業構造の変化、あるいは経済に関わる諸制度の変化、さらには国家による政策の変化などを映し出している。要するに、貿易史を通して、近現代における「アジア経済史」の概要を理解することが、本講義での皆さんの到達目標となる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントシートを利用して、学生の皆さんのコメントを基にして、講義中に回答ないしは説明をする。 ・電子メールを使用して、質問等を受けつける。それらに対して、適宜お答えする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①『グローバル経済の歴史』, 河崎信樹・村上衛・山本千映, 有斐閣, 2020 年	ISBN	①9784641221482
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	・歴史の講義であるが、本講義の最終目的は、現代のアジアにおける経済発展の主たる要因とメカニズムを理解してもらう点にある。あくまでも、「現代」を理解してもらうことが眼目である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	近現代アジアにおける貿易と経済発展－序論	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	2 時間
第2回	対面	近代以前の東アジア貿易－日本を中心に	【予習】資料「中国への銀の流入」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第3回	対面	アジア三角貿易	【予習】資料「貿易における決済」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第4回	対面	不平等条約と居留地貿易	【予習】資料「自由貿易」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第5回	対面	植民地化と貿易－19 世紀のインド	【予習】資料「19 世紀後半のインドの飢饉と疫病」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第6回	対面	熱帯アジアの一次産品輸出と低賃金	【予習】資料「労働の無制限供給の理論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第7回	対面	貿易と工業化－日本	【予習】資料「在来産業論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第8回	対面	アジア間貿易の形成－綿業基軸体制	【予習】資料「アジア間貿易」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第9回	対面	日本の植民地における貿易－朝鮮と台湾	【予習】資料「植民地近代化論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第10回	対面	両大戦間期のアジア間貿易	【予習】資料「1930 年代の世界貿易」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第11回	対面	番外編：「南北問題」再考	【予習】資料「エレファント・カーブ」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第12回	対面	昭和恐慌と 1930 年代の日本経済	【予習】資料「高橋是清」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	ナショナリズムと輸入代替工業化－1950 年代および 1960 年代のアジア経済 復習篇①	【予習】資料「ミントの東南アジア経済論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	新国際分業と環太平洋貿易－1970 年代および 1980 年代のアジア経済 復習篇②	【予習】資料「環太平洋貿易圏」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデ	グローバリズム－1990 年代・2000 年代	【予習】資料「グローバル・サプライチェーン」を予	6 時間

2025/05/01

	マンド	復習篇③	習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習しておいてください。	

科目名	経済数学 I	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	一変数関数の微分法とその経済学への応用		
授業の目的及び概要	本科目では、経済学で必要となる数学について学修します。一変数の方程式の 2 次元平面上での幾何的な解釈を理解し、数式の意味をグラフを通して理解する方法を学びます。 関数の概念を導入し、独立変数の変化に従って従属変数がどのように変化するかという視点から、経済学にあらわれるいろいろな量の間の関係が、グラフを使って明解に表現されることを理解します。 加えて一変数関数の微分法を学び、経済学にあらわれるいろいろな量の最大・最小、また最適化などについての手法を身につけることを目標とします。 経済学基礎・ミクロ経済学 I に必須の数学的な知識を身につけることができるため、「実学としての経済学」を学ぶ重要なステップです。 この経済数学 I と経済数学 II は連続した科目として設定されており、この 2 つを履修することで最終的に経済学で扱われる効用最大化や費用最小化といった数学的な問題を解くことができるようになります。 したがって、将来大学院等で経済学を学び高度の専門性が求められる職業を目指す者など数学的な知識が必要になる学生は、経済数学 I と経済数学 II の両方を履修することが強く望まれます。 この経済数学 I では一変数関数の微分を取り扱い、続く経済数学 II（ここでは多変数関数の微分を扱う）の学修のための準備をします。 高校で習得する数学 I 程度の数式処理能力（方程式が解ける、因数分解ができる、平方完成ができるなど）や、本学での数的処理 I A・I B の単位修得可能なレベルを前提とします。 微分についての前提知識は（この講義で学ぶため）要求しませんが、事前に学習しておくことを推奨します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	一変数関数の微分法を習得してそれを経済学に応用し、一変数関数のグラフのある点のまわりでの振る舞いがわかり、極大・極小（最大・最小）の判定ができ、グラフの概形を描くことができるようになることを目指します。 あわせて、つづく経済数学 II において多変数関数の微分（偏微分）を学修するために必要な知識・技術を習得し、偏微分の学修への準備をします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験の内容について、講義中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める，尾山大輔・安田洋祐，日本評論社，2013 年 テキストの内容を資料としてまとめて使用するため、毎回持ってくる必要はありませんが、必要に応じて指定したページの問題を解かせることがあります。	ISBN	①ISBN：978-4535556591
参考書	①経済学のための数学入門，浦井憲・神谷和也，東京大学出版，2019 年，ISBN：978-4130091350 ②現代経済学の数学基礎 [第 4 版] (上)，A.C. チャン・	ISBN	①ISBN：978-4130091350 ②ISBN：978-4779160042 ③ISBN：978-4779160059

	K. ウェインライト, CAP 出版, 2020 年, ISBN : 978-4779160042 ③現代経済学の数学基礎 [第4版] (下), A. C. チャン・K. ウェインライト, CAP 出版, 2020 年, ISBN : 978-4779160059		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義はテキストに則って進めますので、講義前・講義後にテキストを読むことを強く推奨します。 毎回練習問題を解きますので、数学の地力をつけることができます。 本講義に向いていると思われる学生像 ・高校では数学が苦手になったが、中学までは得意だった学生 ・高校では理系クラスに属していた学生 ・数学が得意もしくは好きな学生 ・大学院への進学を考慮している学生 なお、授業では前述した通り、高校で習得する数学Ⅰ程度の数式処理能力（方程式が解ける、因数分解ができる、平方完成ができるなど）や、本学での数的処理ⅠA・ⅠBの単位修得可能なレベルを前提としますので、自信がない人は事前に復習しておきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと授業の概要	【予習】事前にシラバスによく目を通し、高校数学Ⅰ程度の数式の処理問題（方程式が解ける、因数分解ができる、平方完成ができるなど）を復習してください。（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第2回	対面	1次関数：関数と変数、グラフ	【予習】「関数と変数・グラフ」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。（2時間程度） 【復習】「関数と変数・グラフ」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。（2時間程度）	4時間
第3回	対面	1次関数：連立方程式と市場均衡	【予習】「連立方程式と市場均衡」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。（2時間程度） 【復習】「連立方程式と市場均衡」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。（2時間程度）	4時間
第4回	対面	1次関数：連立方程式と余剰分析	【予習】「連立方程式と余剰分析」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。（2時間程度） 【復習】「連立方程式と余剰分析」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。（2時間程度）	4時間
第5回	対面	2次関数	【予習】「2次関数」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。（2時間程度）	4時間

			度)。 【復習】「2次関数」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	
第6回	対面	2次関数：平方完成と利潤最大化問題	【予習】「平方完成と利潤最大化問題」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「平方完成と利潤最大化問題」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	1次関数・2次関数の確認問題を解きます	【予習】これまでの配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】これまでの配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	指数・対数①	【予習】「指数・対数」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「指数・対数」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	指数・対数②	【予習】「指数・対数」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「指数・対数」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第10回	対面	中間テスト	【予習】これまでの配布資料と指定問題について確認し、自らの手で解けるようにしておいてください。(2時間程度) 【復習】試験で解けなかった部分について解けるように手を動かして理解を深めてください。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	1変数の微分	【予習】「1変数の微分」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「1変数の微分」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	微分演算の性質	【予習】「微分演算の性質」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分演算の性質」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	関数の増減と最大・最小	【予習】「関数の増減と最大・最小」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「関数の増減と最大・最小」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	利潤最大化問題と供給関数	【予習】「利潤最大化問題と供給関数」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「利潤最大化問題と供給関数」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデ	定期試験対策として、これまでの講義のま	【予習】これまでの授業回の配布資料・テキストの該	4時間

2025/05/01

	マンド	とめ問題を解きます	当部分を確認し，振り返りを行ってください。（2時間程度） 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で解けなかった問題を復習してください。（2時間程度）	

科目名	経済数学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	多変数関数の微分法など、経済学で使用する数学を学びます		
授業の目的及び概要	本科目では、経済学で必要となる数学について学びます。 一変数関数の微分について簡単に復習したあと、多変数関数の微分、条件付き極値問題を解くスキルをひとつと身につけ、経済学の世界でどのように応用されているかを、効用最大化問題や費用最小化問題などの最適化問題を解くことで学修します。 そのため、「実学としての経済学」を学ぶ重要なステップです。 講義の後半では確率とリスク、積分といった分野も解説します。 経済数学Ⅰとこの経済数学Ⅱは連続した科目として設定されており、この2つを履修することで最終的に経済学で扱われる効用最大化や費用最小化などのいわゆる多変数関数の極値問題が解けるようになることを目標としています。 したがって、将来大学院等で経済学を学び高度の専門性が求められる職業を目指す者など数学的な知識が必要になる学生は、経済数学Ⅰと経済数学Ⅱの両方を履修することを強く推奨します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多変数関数の偏微分・条件付き極値問題について学修し、効用最大化問題や費用最小化問題といった経済学における最適化問題を解けるようになることを目標とします。 また、確率や積分など、より応用的な分野の経済学で使用する数学も理解できるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストの内容について、講義中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める，尾山大輔・安田洋祐，日本評論社，2013 年	ISBN	①9784535556591
参考書	①経済学のための数学入門，浦井憲・神谷和也，東京大学出版，2019 年 ②現代経済学の数学基礎 [第4版] (上)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年 ③現代経済学の数学基礎 [第4版] (下)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年	ISBN	①9784130091350 ②9784779160042 ③9784779160059
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この講義は経済数学Ⅰ(1変数の微分)の知識を前提として進めますので、微分を知らない・忘れていた方は秋学期の経済数学Ⅰを受講してから履修してください。 講義は資料に則って進めますので、講義前・講義後に資料を読むことを強く推奨します。 また、解けない問題についても繰り返し手を動かして解いてみるようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと授業の概要	【予習】事前にシラバスによく目を通し、経済数学Ⅰ程度の復習してください。(2時間程度) 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第2回	対面	1変数の微分①	【予習】「1変数の微分①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「1変数の微分①」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第3回	対面	1変数の微分②	【予習】「1変数の微分②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「1変数の微分②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第4回	対面	ベクトル①	【予習】「ベクトル①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「ベクトル①」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第5回	対面	ベクトル②	【予習】「ベクトル②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「ベクトル②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第6回	対面	多変数関数の微分①	【予習】「多変数関数の微分①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「多変数関数の微分①」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	多変数関数の微分②	【予習】「多変数関数の微分②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「多変数関数の微分②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	多変数関数の微分の確認問題を解きます	【予習】「多変数関数の微分①②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「多変数関数の微分①②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	中間テスト	【予習】これまでの配布資料と指定問題について確認し、自らの手で解けるようにしておいてください。	4時間

			(2時間程度) 【復習】試験で解けなかった部分について解けるように手を動かして理解をしてください。(2時間程度)	
第10回	対面	最適化問題①	【予習】「最適化問題①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「最適化問題①」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	最適化問題②	【予習】「最適化問題②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「最適化問題②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	最適化問題の確認問題を解きます	【予習】「最適化問題①②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「最適化問題①②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	積分①	【予習】「積分①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「積分①」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	積分②	【予習】「積分②」に関する配布資料を事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「積分②」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験対策として問題を解きます	【予習】これまでの授業回の配布資料を確認し、振り返りを行ってください。(2時間程度) 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	経済統計学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	内海 正郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	記述統計の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では経済現象の分析に用いられる統計の知識を身に着ける事を目的としています。春学期開講の経済統計学Ⅰでは、調査対象のデータから傾向や特徴を見出す記述統計学の基礎を学びます。秋学期開講の経済統計学Ⅱでは推測統計学の基礎を学びます。これらを合わせて履修する事によって、経済統計学の基礎を一通り学ぶ事ができます。経済統計学の知識を身に着ける事により、現実の統計データが分析できるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	度数分布表やヒストグラムの作成、データ集団の整理や分析を行える知識を身に着ける事を目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての統計学、鳥居泰彦、日本経済新聞出版社、1994 年	ISBN	ISBN：9784532130749
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	科目の性質上、数学の知識が不可欠な部分もありますが、極力平易に解説していきます。予習復習をしっかりとこなして計算に慣れてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	初回ガイダンスで講義の進め方、試験や成績評価について説明を行い、統計学の概要を紹介する。	【予習】シラバスをよく読み、指定教科書に目を通しておく事。（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1時間程度）。	3 時間
第2回	対面	度数分布表およびヒストグラムについての解説する。	【予習】テキスト 1～9 ページまで読み込んでおく事。（1時間程度）。	3 時間

			【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	
第 3 回	対面	確率、確率分布について解説する。	【予習】テキスト 10～14 ページまで読み込んでおく事。（1 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	3 時間
第 4 回	対面	母集団、及び標本の概念について解説する。	【予習】テキスト 15～31 ページまで読み込んでおく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	階級データ及び、ヒストグラムの作成について解説する。	【予習】テキスト 33～36 ページまで読み込んでおく事。また、37～42 ページまでの演算を取り扱う補論の内容も確認しておく事。（1 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	3 時間
第 6 回	対面	平均値、中央値、最頻値の概念を解説し、値を算出する計算を行う。	【予習】テキスト 49～62 ページまで読み込んでおく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	分散、標準偏差、変動係数の概念を解説し、値を算出する計算を行う。	【予習】テキスト 63～71 ページまで読み込んでおく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	中間試験。 試験問題と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。 試験はオンラインで提出を求める。	【予習】これまでに学習した内容を復習しておく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 9 回	対面	階乗、順列、組合せの概念を解説し、値を算出する計算を行う。 また、中間試験の解説を行う。	【予習】テキスト 77～87 ページまで読み込んでおく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	確率変数について解説する。	【予習】テキスト 88～92 ページまで読み込んでおく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	対面	二項分布について解説する。	【予習】テキスト 93～99 ページまで読み込んでおく事。（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 12 回	対面	ポアソン分布について解説する。	【予習】テキスト 100～106 ページまで読み込んでおく事。（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 13 回	対面	一様分布について解説する。	【予習】テキスト 107～110 ページまで読み込んでおく事。（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 14 回	対面	正規分布について解説する。	【予習】テキスト 111～117 ページまで読み込んでおく事。（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 15 回	オンデマンド	正規分布の標準化について解説し、計算を行う。	【予習】テキスト 118～124 ページまで読み込んでおく事。（3 時間程度）。 【復習】これまでの配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を総復習してください（3 時間程度）。	6 時間

科目名	経済統計学Ⅰ		開講年度	2025
担当者	前田 一樹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得			
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。			
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅱ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。			
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月に実施する学内試験での合格を目指します。			
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年		ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		20	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		30	
	その他（％）		30	
	その他の内容		統計検定 4 級の得点	
この科目の受講に	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・統計的問題解決の方法・データの種類の把握する	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第2回	対面	基本的なグラフの見方・読み方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第3回	対面	質的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第4回	対面	量的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第5回	対面	グラフ、量・質的データに関する総復習	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。これまでの授業回で登場した演習問題で苦手だと感じる部分について、特に時間をかけて復習してください。	4時間
第6回	対面	データの代表値	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第7回	対面	時系列データの基本的な見方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの基本的な見方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第8回	対面	確率の基礎①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第9回	対面	確率の基礎②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第10回	対面	標本調査の知識	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けて復習を行ってください。	4時間
第11回	対面	中間試験	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4時間
第12回	対面	過去問演習①	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6時間
第13回	対面	過去問演習②	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6時間
第14回	対面	総復習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4時間
第15回	オンデ	統計学に必要な数学補習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験	4時間

2025/05/01

	マンド		験に備えて総復習してください。	

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	内海 正郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	推測統計の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では経済現象の分析に用いられる統計の知識を身に着ける事を目的としています。春学期開講の経済統計学Ⅰでは、調査対象のデータから傾向や特徴を見出す記述統計学の基礎を学びます。秋学期開講の経済統計学Ⅱでは推測統計学の基礎を学びます。これらを合わせて履修する事によって、経済統計学の基礎を一通り学ぶ事ができます。経済統計学の知識を身に着ける事により、現実の統計データが分析できるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	まず経済統計学Ⅰで学習した記述統計学について復習を行います。この後、区間推定や仮説検定など推測統計学の内容を学習していきます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての統計学、鳥居泰彦、日本経済新聞出版社、1994 年	ISBN	ISBN：9784532130749
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	科目の性質上、数学の知識が不可欠な部分もありますが、極力平易に解説していきます。予習復習をしっかりとこなして計算に慣れてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	初回ガイダンスで講義の進め方、試験や成績評価について説明を行い、その後講義全体の概観を説明する。	【予習】シラバスをよく読み、指定教科書に目を通しておく事（1時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1時間程度）。	2 時間
第2回	対面	平均、分散、標準偏差等の概念と計算方法を解説し、演習を行う。	【予習】テキスト 49～68 ページまで読み込んでおく事（3時間程度）。	4 時間

			【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	
第 3 回	対面	二項分布、ポアソン分布の概念を解説する。	【予習】テキスト 79～106 ページまで読み込んでおく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	4 時間
第 4 回	対面	一様分布、正規分布の概念を解説する。	【予習】テキスト 107～126 ページまで読み込んでおく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	信頼係数、有意水準の概念を解説する。	【予習】テキスト 131～138 ページまで読み込んでおく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 6 回	対面	標本平均について解説する。	【予習】テキスト 139～144 ページまで読み込んでおく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	母平均の区間推定について解説する。	【予習】テキスト 145～150 ページまで読み込んでおく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	中間試験。 試験問題と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。 試験はオンラインで提出を求める。	【予習】これまでに学習した内容を復習しておく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	3 時間
第 9 回	対面	t 分布について解説する。 また、中間試験の解説を行う。	【予習】テキスト 155～160 ページまで読み込んでおく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	前回に引き続き t 分布について解説する。 また、応用問題を用いて演習を行う。	【予習】テキストの前の範囲、及び講義内容をよく復習しておく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	対面	母平均の推定について解説する。	【予習】テキスト 162～169 ページまで読み込んでおく事（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	前回に引き続き母平均の推定について解説する。また、応用問題を用いて演習を行う。	【予習】テキストの前の範囲を復習しておく事。及び章末問題に挑戦しておく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 13 回	対面	仮説検定の基本的な概念を解説する。	【予習】テキスト 191～196 ページまで読み込んでおく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 14 回	対面	前回に引き続き仮説検定について解説する。	【予習】テキスト 197～203 ページまで読み込んでおく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	5 時間
第 15 回	オンデマンド	定期試験と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。	【予習】前回の講義内容を復習しておく事（3 時間程度）。 【復習】これまでの配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を総復習してください（3 時間程度）。	6 時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月に実施する学内試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講に	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデ	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験	4 時間

2025/05/01

	マンド		験に備えて総復習してください。	

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月に実施する学内試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講に	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデ	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試	4 時間

2025/05/01

	マンド		験に備えて総復習してください。	

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月に実施する学内試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講に	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデ	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験	4 時間

2025/05/01

	マンド		験に備えて総復習してください。	

科目名	産業組織論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論入門		
授業の目的及び概要	この授業では、産業組織論の入門的内容について学修します。まず基本的なミクロ経済学の内容（完全競争市場）について復習します。次に、不完全競争市場構造（独占市場や寡占市場）がどのような企業行動を引き起こし、また企業行動がどのように市場構造に影響を与えるか、さらに、その結果として資源配分や社会厚生はどうなるのかについて学修します。これらの授業を通じて、公務員や中学校・高等学校の教員にとって必要な産業組織論についての入門的な知識を修得します。 「実学としての経済学」との関連 この授業を受講することにより、産業組織論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）ミクロ経済学を基礎として、独占市場における企業行動やその結果としての資源配分や社会厚生について説明することができる。 （２）上記の内容について計算し、グラフに表現することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、配付資料に基づいて授業を行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	配布資料を利用して予習・復習を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標等	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度）。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、確認してください（1時間程度）。	2時間
第2回	対面	ミクロ経済学の復習1	【予習】参考資料などで供給曲線、需要曲線、市場均衡について復習しておいてください（2時間程度）。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	ミクロ経済学の復習2	【予習】需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	費用の諸概念	【予習】「費用の諸概念」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「費用の諸概念」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	余剰	【予習】「余剰」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「余剰」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	市場介入（1）	【予習】「上限価格規制」「下限価格規制」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「上限価格規制」「下限価格規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	市場介入（2）	【予習】「数量規制」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「数量規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	参入規制	【予習】「参入規制」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「参入規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	独占企業の価格設定	【予習】「独占企業の価格設定」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「独占企業の価格設定」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	価格差別（1）	【予習】「価格差別の手段と効果」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「価格差別の手段と効果」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	価格差別（2）	【予習】「市場分割」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「市場分割」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	定期試験対策	【予習】「定期試験対策」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。 【復習】「定期試験対策」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	自然独占と規制	【予習】「自然独占と規制」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2時間程度）。	4時間

			【復習】「自然独占と規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	
第 1 4 回	対面	コンテストブル市場	【予習】「コンテストブル市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください（2 時間程度）。 【復習】「コンテストブル市場」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください（3 時間程度）。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、総復習してください（3 時間程度）。	6 時間

科目名	産業組織論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	寡占市場における企業の行動理論		
授業の目的及び概要	産業組織論は企業の競争に関連する行動や、競争の中で生じる社会的な問題に対する規制を分析する学問分野です。このため本講義では、競争的な状況に直面する企業の行動を議論の主要な対象とします。 本講義では企業間の戦略的な駆け引きを扱いますので、本講義を通じて得られた知識は、卒業後に企業の一員として意思決定を行う場合や、消費者として企業の思惑を見抜く場合などに活用できます。すなわち、本科目を通じて得られる知識は、企業の行動を理解して実践に活かすことにつながり、「実学としての経済学」の修得に関連します。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を取得していないと履修できません。 この授業科目は、産業組織論Ⅰの上位科目であり、産業組織論Ⅰの合格者の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	寡占市場において企業が直面する状況を知り、合理的な意思決定の結果どのような選択が行われるのか考察できるようになることを目標とします。この表現方法として、数式やグラフによって理論を説明することが望ましいです。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出課題に対するコメントを、授業の冒頭等の時間を用いて適宜行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。 必要な資料等は授業中に配付します。	ISBN	なし
参考書	ミクロ経済学の力, 神取道宏, 日本評論社, 2014 年	ISBN	9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	産業組織論を学ぶと、企業の”思惑”が見えてきます。 企業が意思決定を行う指標は利潤の最大化であっても、利潤追求の方法を論理的に理解するためには、数理モデルに基づく議論が役立ちます。 本科目ではミクロ経済学や初歩的な数学を用いた議論を行いますが、これらの小難しい理論を学ぶと論理的思考力が高まり、卒業後の人生にも大いに役立ちます。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認	1 時間
第2回	対面	数学とミクロ経済学の復習	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・高校までの参考書等を用いた計算練習（2 時間程度）	4 時間
第3回	対面	余剰分析	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・参考書等で余剰分析を扱う章を読む（2 時間程度）	4 時間
第4回	対面	独占企業の価格設定	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・参考書等で独占企業の価格設定を扱う章を読む（2 時間程度）	4 時間
第5回	対面	戦略形ゲームの基礎	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・身近な例をゲームで表す練習（2 時間程度）	4 時間
第6回	対面	価格差別	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・価格差別の具体例を考える（2 時間程度）	4 時間
第7回	対面	戦略形ゲームを解く	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・ゲーム理論の教科書等を用いた支配戦略均衡を求める練習（2 時間程度）	4 時間
第8回	対面	戦略形ゲームとナッシュ均衡	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・ゲーム理論の教科書等を用いたナッシュ均衡を求める練習（2 時間程度）	4 時間
第9回	対面	クールノーモデル	・授業での配布資料に基づく復習（4 時間程度） 特にクールノーモデルにおける利得計算を自分の手で計算してみてください。	4 時間
第10回	対面	クールノー競争による複占市場の分析	・授業での配布資料に基づく復習（4 時間程度） 特に余剰分析について十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第11回	対面	ベルトランモデル	・授業での配布資料に基づく復習（4 時間程度） 理論的に理解することが大変な部分なので、十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第12回	対面	戦略的代替	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・クールノーモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	戦略的補完	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・ベルトランモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	展開形ゲーム	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・期末試験に備えた総復習（3 時間程度）	5 時間
第15回	オンデマンド	シュタッケルベルグ競争，総復習	・授業での配布資料に基づく復習（2 時間程度） ・期末試験に向けた総復習（4 時間程度）	6 時間

科目名	財政学 I	開講年度	2025
担当者	中村 和之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	政府の経済活動である財政の役割・機能と制度を学ぶ。		
授業の目的及び概要	財政学の目的は公共部門の経済活動を分析することです。公共部門とは、国や地方自治体等の一般政府や公的企業を指します。経済活動とは、公共部門が行う財・サービスの供給や社会基盤の整備、社会保障といった公共支出に関する活動と、その財源となる租税や公債発行による資金調達に関する活動を指します。分析するとは、公共部門の経済活動が家計や企業の経済活動に与える影響を考察すること（実証分析）と、公平性と効率性という基準から望ましい経済活動の在り方を考えること（規範分析）を意味します。 この目的のために、財政学 I では、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いながら、日本の財政制度や公共支出の経済効果を財政の役割や目的と関連させながら解説します。税制や公債については財政学 II で取り上げます。財政は私たちの暮らしと密接に関係しているのですが、その仕組みは複雑で分かりにくいところがあります。この授業では、財政の仕組みや機能をできるだけ見通し良く理解できるように心がけます。		
履修条件・留意点	・秋学期に開講される「財政学 II」とあわせて受講すれば、財政の全体像をしっかりと理解できます。 ・都道府県や市町村など地方自治体の財政に関心がある人には「地方財政論」の受講を薦めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 政府による経済活動の意義を市場の失敗という観点から説明できる。 2 新聞や雑誌などで報道される財政に関するニュースをその背景も含めて理解・説明できる。 3 財政に関する政策が経済社会に与える影響を経済学の理論を援用して推論できる。 4 わが国の財政が直面する問題について理論を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらい、次回の授業開始時に紹介、質問や意見に回答します。 ・理解度を確認するための小テストをラーニングポータルで出題します。小テストの結果はラーニングポータル上でフィードバックします。 ・提出された中間レポートについてもラーニングポータル上でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 講義資料や補習用の資料をラーニングポータルにアップします。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第2版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021年 ②図説 日本の財政(令和5年度版), 財経詳報社, 2023年 ③財政学をつかむ【第3版】, 畑農鋭矢・林正義・吉田 浩, 有斐閣, 2024年	ISBN	①9784535540071 ②9784881776063 ③9784641177338
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に関心を持って観察している、といった共通の特徴があります。 財政学の醍醐味は、公共サービスや財政政策、税制など身近でかつ実践的な問題を経済学の理論を用いて明快に理解できることです。そのためには若干の忍耐を必要としますが、担当教員も発展的な学修に向けた話題提供、基礎的な理解を高めるための教材提供などで支援しますので、ぜひ粘り強く取り組んでください。 公務員志望の受講生はもちろん、これから社会に出るすべての受講生にとって財政制度に関する深い理解や経済学的な考え方は大きな力になります。意欲的な取り組みを期待します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前後の学修時間
第1回	対面	講義内容の計画や授業の進め方を説明します。続いて、財政を巡る近年の課題を解説します。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでください。財政と関係すると思われるニュースやネットの記事などをあらかじめピックアップしておく、財政学のイメージがわくと思います。【復習】授業後は改めて授業で取り上げたトピックスについて図書館やネットを通じて調べてください。	2時間
第2回	対面	【財政の役割】私たちの社会で政府の経済活動（財政）が必要とされる理由を学びます。	【予習】政府が担っている経済活動を見つけて、それらがなぜ民間の企業や家計で担えないのかを考えてみてください。【復習】財政の目的はこれからの授業の核となるので必ず復習してください。また、新聞やインターネット等で報じられている財政に関するニュースを探して、それは財政のどのような目的と関係するのかを考えてください。	4時間
第3回	対面	【財政と国民経済】国全体の経済活動の中でみた財政の規模と動向を学びます。	【予習】中学校の公民科で学んだ国内総生産（GDP）や経済成長率など国の経済活動を測る指標について復習しておいてください。【復習】政府の統計（estat）などから授業で説明した財政の動向を調べてみてください。公務員志望の人は参考書②を使いながら知識の定着を図ってください。	4時間
第4回	対面	【予算制度】国の予算の制度と仕組み、近年の動向を学びます。	【復習】予算の仕組みや規模、その使途など授業で解説した内容を復習してください。公務員志望の人は参考書②などでさらに詳細な学修にチャレンジしてください。	4時間
第5回	対面	【国の財政と地方の財政】国と地方自治体の財政は密接に関係しています。授業では財政の機能分担や財源の配分の制度と実態を学びます。	【復習】地方の財政は「地方財政論」で講義しますが、関心ある人は『地方財政白書』（ネットで読めます）等で理解を深めてください。	5時間
第6回	対面	【市場経済における資源配分】財政を経済学的に分析する上でミクロ経済学の知識は必須です。ここではミクロ経済学の復習を兼ねて、需要の理論と供給の理論を概説します。	【予習】授業では需要曲線や供給曲線、限界便益や限界費用について解説するので、配布予定の資料やミクロ経済学のテキストなどで予め復習しておいてください。【復習】授業を聴いてわかりにくかったところは必ず自習や教員への質問などで解消するようにしてください。	5時間

第7回	対面	【市場経済の効率性】いくつかの条件を満たせば価格メカニズム（市場経済）は効率的な資源配分を達成することを学びます。	【予習】この授業は前回の授業の理解が基本になります。消費者余剰や生産者余剰などミクロ経済学で学ぶ諸概念を復習しておくことで理解が深まります。【復習】簡単な計算問題が解けるように小テストなどで復習してください。	4 時間
第8回	対面	【市場の失敗】市場経済は素晴らしいが万能ではなく、政府の経済活動（財政）が求められることを学びます。	【予習】この授業は前回の授業の理解が基本になるので、必ず配布資料等で前回の復習を済ませて授業を受けてください。【復習】前回と今回でお話しする内容は、これ以降、知っているものとして授業を進めるので、知識の定着を心がけてください。	4 時間
第9回	対面	【公共財】市場（民間）で上手く供給できない財に公共財と呼ばれる財があります。ここでは公共財の定義と特徴、その供給を巡る問題を考えます。	【復習】公共財の性質を理解するとともに、民間では上手く供給できない理由を説明できるように復習してください。また、身近な財、サービスを例にとって公共財の特徴を考えてみてください。	4 時間
第10回	対面	【外部性】政府の経済活動が必要とされる一つの理由である外部性について学びます。	【予習】国や地方自治体が私たちや企業の経済活動に補助金を出しているものや逆に課税している事例を調べてみてください。【復習】ピグー税やピグー補助金の考え方や効果を経済理論を用いて説明できるように復習してください。	4 時間
第11回	対面	【所得再分配】財政の重要な役割である所得の再分配について、その必要性や財政における政策手段を学びます。	【復習】所得再分配の目的は公平性です。どのような状態が公平なのでしょう。授業を踏まえて各自で考えてみてください。	4 時間
第12回	対面	【社会保険の考え方】政府は医療や介護、労働、年金に関する保険制度を運営しています。これらを総称して社会保険と言います。ここでは保険制度の基本的な考え方を学びます。	【復習】社会保険制度の詳細は「財政学 II」で学びます。ここでは保険と言う仕組みの理論的な側面を学びます。ここで解説するリスクについての考え方はこの講義に限らず広く役立つのでぜひ理解を確かなものにしてください。	4 時間
第13回	対面	【財政政策と景気安定化機能】不況期に財政支出を増やすことによって国全体の所得を増やそうとする財政政策の考え方を学びます。	【復習】乗数効果のメカニズムを確実に理解してください。公務員志望の人はこの授業内容を復習したのちマクロ経済学で発展的な学修に取り組んでください。	4 時間
第14回	対面	【公共支出を巡る新しい潮流】社会資本整備における公民連携をはじめとして財政の新しい動きを学びます。	【復習】これまでの授業を参考にして、財政の世界での新たな取り組みの背景や課題を説明できるように復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義全体における重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4 時間

科目名	財政学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	政府の経済活動である財政の役割・機能と制度を学ぶ		
授業の目的及び概要	本講義では、まず政府や公共部門の経済活動である財政の果たす役割・機能とその背景にある基礎理論からはじめ、国や地方の財政制度、国と地方政府との関係、今後の財政を巡る課題について解説し、ニュースなどで報道される内容だけでなく、今後、自らのビジネスや実生活のなかでも経済全体との関係をおさえながら財政の現状や改革の必要性について正しく理解できる力を身につけることを目的とします。現場での実体験も交えながら講義しますので、将来、公務員などを目指す方の参考にもなる内容にしていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 １． 財政の理論や制度の基本的な知識を身につけ、財政の果たす役割や機能について理解すること ２． 財政と経済全体との相互の関係を整合的に説明できるようになること ３． （特に公務員を目指す方は、）公務員という役割や立場を知ること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講義後に、内容の理解を確認するための小テストをラーニングポータルに掲載します。解答期間終了後、直ちに自動採点され理解度をチェックできるようにします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 適宜、講義資料を配布して授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第 2 版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021 年 ②図説 日本の財政(令和 4 年度版), 財経詳報社, 2022 年 ③財政学 1 5 講, 麻生良文, 小黒一正, 鈴木将覚, 新世社, 2018 年	ISBN	①9784535540071 ②9784881774922 ③9784883842698
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	これまでの教員の実体験も交えながら、財政の世界について、公務員や行政関係ビジネスに携		

あたって	わる会社員、公益事業に携わる団体職員を志望する皆さんにとって有益な知識、視点、考え方を学修してもらいます。 講義内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の講義後にラーニングポータルで小テストを掲載しますので、資料やノートを見ながら復習しながら回答してください。また、夏場や年末、年度末までの時期に財政が特に話題になるシーズンがあることも抑えながら、日頃から、新聞、インターネット（志望する役所の HP など含む）、雑誌などで、財政に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。 なお、財政の機能の理論の理解を深めるために、ミクロ経済学、マクロ経済学などの講義を併せて履修しておくことを薦めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義内容の計画と授業の進め方について説明します。併せて、最近の身近なニュースを引用しながら、財政の役割について関心を高めてもらいます。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	2 時間
第2回	対面	国や地方の経済活動である財政と民間企業活動との相違点について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第3回	対面	財政が必要とされる基礎理論として、財政の機能（ミクロ的機能：公共財の定義とその提供など）について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第4回	対面	財政が必要とされる基礎理論として、前回に引き続き財政の機能（ミクロ的機能：市場の失敗の是正、ピグー課税、リンダール均衡、自然独占、情報の非対称性など）について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第5回	対面	財政が必要とされる基礎理論として、財政の機能（マクロ的機能：経済安定化、ビルトインスタビライザー効果、所得再分配政策）について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第6回	対面	国の財政について、財政の基本ルール（憲法や財政法）、予算制度、歳出内容の概要について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	5 時間
第7回	対面	国の歳出の現状とその背景にある要因について（高齢化など）について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第8回	対面	歳入の基本財源である租税制度の概要について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第9回	対面	財政の基本的機能、国の予算制度と歳出と歳入の内容といったこれまでの講義内容の定着を確認するために中間テストを行います。	中間テストに備えて、これまでの講義内容を、もう一度ノートや資料を参照して復習を十分行って下さい。答案回収後、解説しますので、間違えたところについては、期末テストに向けて再確認して下さい。	4 時間

第10回	対面	租税制度の原則、租税制度が果たす機能と背景にある理論について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第11回	対面	代表的な税である所得税、消費税、法人税の特徴と仕組みの概要をそれぞれ解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第12回	対面	国と地方との関係（地方交付税交付金、国庫支出金など財政資金の流れを含む）について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第13回	対面	財政赤字の現状と背景をレビューしたのち、財政赤字を巡る理論（プライマリーバランス、リカードの中立命題やドーマー理論など）、財政再建を巡る論争などについて解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第14回	対面	定期試験に備えて試験で取り上げる学修範囲の内容を模擬問題形式で演習します。解答作業の後、解説を行います。	授業後に実施した演習問題を今一度理解できるまでこれまで配布された教材などを確認して定着を図るようにしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	前回実施した演習問題を中心に、これまでの講義全体における内容の重要ポイントを復習します。	定期試験に備えて、講義全体についてこれまでの確認課題やノート、配布資料、演習問題を読み直しながら、十分復習を行って下さい。	5 時間

科目名	財政学Ⅱ		開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経費（支出）と租税(収入) の両面から見た財政の直面する課題の考察			
授業の目的及び概要	政府など公的部門の経費を賄うための各種租税制度と政策効果、社会保険制度、経費面でその膨張する要因となっている社会保障関係支出の展望、財政赤字を巡る各種の議論を解説し、本講義を受講することにより、納税者あるいは被保険者としてもビジネスや実生活面で接することになる公的部門との関係や仕組みについて、公的部門の立場からの視野も持って広く理解できる力を身につけることを目的とします。なお、本講義は、春学期の財政学Ⅰ(財政と制度)の内容をさらに掘り下げたものと位置付けられます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1. 日本の財政について、経費や租税の主な項目についての制度の基本的な仕組みとその考え方について理解できること 2. 経済や人口の動向から財政との相互の関係を整合的に説明できるようになること 3. 日本の財政が置かれている課題を理解し、その対応策について自らも意見を持てるようになること			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎講義後に、内容の理解を確認するための小テストをラーニングポータルに掲載します。解答期間終了後、直ちに自動採点され理解度をチェックできるようにします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。			
テキスト	特定のテキストは指定しません。適宜、講義資料を配布します。		ISBN	なし
参考書	①入門財政学（第 2 版）， 土居丈朗， 日本評論社，2021 年 ②図説 日本の財政（令和 6 年度版），財経詳報社，2024 年		ISBN	①9784535540071 ②9784881779101
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講に	本講義では、春学期の「財政学Ⅰ（財政と制度）」の講義に引き続き、より各論的にテーマを取り上げながら今後の財政需要を巡る社会的課題と対応策について理解を深めることを目的とし			

あたって	ます。現場での実体験にも基づき講義しますので、将来、公務員を目指す方の参考にもなる内容にしていきます。並行してマクロ経済学関連科目の履修を薦めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義予定の内容全体の概要と進め方について説明します。はじめに現場経験も交え最近の具体的事例を用いながら財政の巡る課題を取り上げ関心を高めてもらいます。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	2時間
第2回	対面	財政学Ⅰの内容の再確認として、財政ルール全般に関わる話として、まず憲法、財政法などに定められている財政の諸原則について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第3回	対面	公平、中立、簡素といった租税三原則と租税体系の体系、及び租税特別措置などの考え方について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第4回	対面	財政収入における所得税の位置づけ、政策効果（累進制度による効果や各種減税）、課題について国際比較なども交え解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第5回	対面	財政収入における消費税の位置づけ、政策効果（軽減税率など）、課題について国際比較も交え解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第6回	対面	法人税の課税と効果の理論（法人実在説、法人擬制説など）、法人税改革（税率引き下げの経緯）、政策減税（租税特別措置）、国際的な課税ルールについて解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第7回	対面	資産課税（相続税、贈与税）、その他最近注目される税目を取り上げその目的や効果について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第8回	対面	財政収入（租税関係）に関するこれまでの理解度を確認するために、中間テストを実施します。テスト後、解説を行います。	中間テストに向け、これまでの講義内容を十分復習しておいて下さい。テスト後、間違えた部分については、期末テストに向けて再確認して下さい。	5時間
第9回	対面	社会保険制度（年金、医療、介護、雇用）、社会保険料負担と国庫負担との関係など日本の社会保障制度の全体の仕組みと課題について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第10回	対面	社会保障制度のうち、日本の年金制度についてその仕組みと課題について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第11回	対面	社会保障制度のうち、医療保険制度、介護保険制度についてその仕組みの概要と課題について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されます	4時間

			すので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	
第12回	対面	大きな政府か小さな政府かの選択、注目すべき財政指標、膨張する社会保障を背景に拡大する財政赤字の功罪、再建目標等について解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	5 時間
第13回	対面	行財政改革の必要性と、その一環として、EBPM(証拠に基づく政策立案)、PDRC といった行政評価、政策効果の評価手法について具体例も交えながら解説します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第14回	対面	定期試験に備え、特に財政の経費面（社会保障制度）、財政赤字、財政改革を中心としたこれまでの学修内容を総復習します。	毎授業後、ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、復習をかねて期限（次回授業日前日）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	前回の復習内容も含め、定期テスト対策として繰り返し参照できるようオンデマンド形式にてこれまでの講義の全体総括を行います。	定期試験に備えて、これまでのノートや講義資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認するなど十分復習を行ってください。	5 時間

科目名	財政学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	中村 和之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	税制や財政収支を中心として政府の経済活動である財政の役割・機能と制度を学ぶ。		
授業の目的及び概要	財政学の目的は公共部門の経済活動を分析することです。公共部門とは、国や地方自治体等の一般政府や公的企業を指します。経済活動とは、公共部門が行う財・サービスの供給や社会基盤の整備、社会保障といった公共支出に関する活動と、租税や公債発行といった財源調達に関する活動を指します。分析するとは、公共部門の経済活動が家計や企業の経済活動に与える影響を考察すること（実証分析）と、公平性と効率性という基準から望ましい経済活動の在り方を考えること（規範分析）を意味します。 この目的のために、財政学Ⅱでは、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いながら、税制や社会保障制度、公債発行の仕組みと経済効果を、財政の目的と関連させながら解説します。財政の全体像は財政学Ⅰで取り上げるので、両科目を履修することで財政に対する理解が一層深まります。税制や社会保障は私たちの暮らしと深く関係しています。授業では、これらの仕組みや機能をできるだけ見通し良く理解できるように解説します。		
履修条件・留意点	・春学期に開講される「財政学Ⅰ」とあわせて受講すれば、財政の全体像をしっかりと理解できます。 ・都道府県や市町村など地方自治体の財政に関心がある人には「地方財政論」の受講を薦めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 政府の歳入調達の方法や財政収支の動向を統計指標などを用いながら説明できる。 2 新聞や雑誌などで報道される税制や社会保障、財政収支に関するニュースをその背景も含めて理解・説明できる。 3 租税が経済社会に与える影響を経済学の理論を用いながら説明できる。 4 わが国の財政が直面する問題について理論を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらい、次回の授業開始時に紹介、質問や意見に回答します。 ・理解度を確認するための小テストをラーニングポータルで出題します。小テストの結果はラーニングポータル上でフィードバックします。 ・提出された中間レポートについてもラーニングポータル上でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 講義資料をラーニングポータルで配布します。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第2版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021年 ②図説 日本の財政(令和5年度版), 経経詳報社, 2023年 ③財政学をつかむ【第3版】, 畑農鋭矢・林正義・吉田 浩, 有斐閣, 2024年	ISBN	①9784535540071 ②9784881776063 ③9784641177338
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に関心を持って観察している、といった共通の特徴があります。 財政学の醍醐味は、公共サービスや財政政策、税制など身近で実践的な問題を経済学の理論を用いて明快に理解できることです。そのためには若干の忍耐を必要としますが、担当教員も発展的な学修に向けた話題提供、基礎的な理解を高めるための教材提供などで支援しますので、ぜひ粘り強く取り組んでください。 公務員志望の受講生はもちろん、これから社会に出るすべての受講生にとって財政に関する知識や経済学的な考え方は大きな力になります。意欲的な取り組みを期待します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・財政の目的】講義内容の計画や授業の進め方を説明します。続いて、財政の目的を学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでください。【復習】財政の目的は今後の授業のコアになる事柄なので、復習により理解を確かなものにしてください。	4 時間
第2回	対面	【財政における意思決定】政府の意思決定過程を説明する理論を学ぶことを通じて、社会が望ましい意思決定を行うことの困難さを学びます。	【復習】授業の内容を踏まえて、社会的な意思決定のメカニズムを復習してください。	4 時間
第3回	対面	【政府の収入と国民経済】租税をはじめとする政府収入の動向をマクロ経済と関連させながら学びます。	【復習】租税や社会保障経費の負担が時代とともにどのように推移したかを統計指標の暗記ではなく、時々の経済状況や政策課題と関連させて説明できるように復習してください。公務員志望の人は参考書②などで大きな流れをつかんでください。	4 時間
第4回	対面	【租税の理念と体系】税制を学ぶ上で必要な概念を解説した後、望ましい租税が備えるべき原則（租税原則）を学びます。	【復習】租税原則は抽象的な概念なので、より具体的なイメージをつかめるように復習してください。また、公務員志望の人は参考書②などで租税原則の学説史上の展開（論者や内容）を整理してください。	4 時間
第5回	対面	【消費課税（消費税）の仕組み】消費税をはじめとするモノやサービスの消費に着目して課税される租税の制度を学びます。	【予習】日本では、消費税は常に政策的な議論になる税です。消費税を巡る議論を新聞記事等で検索して目を通しておけば関心が深まると思います。【復習】日本の消費税は付加価値税の一種です。付加価値税の仕組みを復習しておきましょう。	4 時間
第6回	対面	【租税の経済効果】個別の財やサービスに対する課税がもたらす価格や取引量、余剰の変化を学びます。	【予習】需要と供給の理論を用いて租税の経済効果を考えるので、復習をしておいてください。【復習】ここで解説する「租税の転嫁と帰着」や「死荷重」と言った考え方は租税の経済分析の中心となる考え方です。図を用いながら独力で説明できるまで復習してください。	4 時間
第7回	対面	【所得課税（所得税）の考え方と仕組み】所得税の制度と仕組みを解説します。	【復習】所得の定義がこのセクションの理解の基礎となるので講義資料で復習してください。	4 時間
第8回	対面	【所得課税（所得税）の経済効果】所得税が労働供給に与える影響を考えます。	【予習】所得税の経済効果を考えるために、やや進んだミクロ経済学のツールを用います。消費者理論で学んだ無差別曲線や所得効果、代替効果と言った概念	4 時間

			をあらかじめ学んでおくとう理解が容易いと思われます。	
第9回	対面	【企業課税（法人税）】企業に対する課税の制度としくみを考えます。	【復習】このセクションは用語が難しいところです。まずは法人税の仕組みや実態のエッセンスを捉えられるように復習してください。	4 時間
第10回	対面	【社会保障と財政—公的年金—】政府支出の中でも大きな比重を占める社会保障の制度を学ぶとともに、社会保険制度の負担配分のあり方や効率性を考えます。まず、このセクションでは公的年金の制度や仕組みを学ぶとともに、負担配分のあり方や効率性について考えます。	【復習】公的年金の理念や目的、機能を講義資料等で復習してください。	4 時間
第11回	対面	【社会保障と財政—医療・介護—】人口構成の高齢化や総人口の減少に伴い、医療や介護と言った社会保険の役割は益々高まっています。このセクションでは、社会保険制度のうち、医療と介護を取り上げ、その仕組みや課題を考えます。	【復習】医療、介護といった社会保険制度は私たちにとって身近なものです。その仕組みとそれらが抱える課題を理解できるように復習してください。	4 時間
第12回	対面	【財政収支】政府は租税や社会保険料の他に公債を発行して借入の形で財源を賄っています。政府収入と政府支出のバランスを財政収支と言います。ここでは基礎的財政収支をはじめとするいくつかの指標の概念とその構造を学びます。	【復習】基礎的財政収支（プライマリーバランス）は新聞記事やニュースでもよく言及されます。その意味を理解できるよう資料や統計などで復習してください。	4 時間
第13回	対面	【財政の持続可能性】政府の借金（債務）が増え続けて財政運営が破たんすることはあるのでしょうか。ここでは財政の持続可能性について基本的な理論を学びます。	【復習】このセクションは少し難易度が高くなりますが、理論の根幹部分を理解できるように講義資料等で復習してください。	4 時間
第14回	対面	【税制・社会保障の課題】経済のグローバル化やデジタル化、わが国の人口減少や高齢化は税制や社会保障に变革を求めています。これまで取り上げたトピックスを改めて展望します。	【予習】これまでの授業で学んだ税制や社会保障の知識を復習し、自分なりにその課題を抽出してみてください。【復習】授業で取り上げた課題を巡る社会の動向を新聞やネット等で調べてみてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義を振り返り、重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4 時間

科目名	公共経済学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	厚生経済学について学びます		
授業の目的及び概要	この科目では、厚生経済学の基礎について学修します。厚生経済学は経済学の考え方をを使って、「社会にとって何が善いのか」を考えていく分野です。 本講義では主に公正な配分や、それをどうやって決めていくのか、ということを解説していきます。通常の経済学が「効率性」を目的とするのに対して、厚生経済学では「公平性」を追求していくことになります。 経済格差など、「実学としての経済学」に関連した現代の問題をより原理的に深く考えたい人におすすめです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	厚生経済学の基本的な考え方を学び、様々な問題に応用できるようになることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員によ る授業科目			
テキスト	①公共経済学(第2版), 小川光・西森晃, 中央経済社, 2021 年	ISBN	①ISBN:978-4502411717
参考書	①ミクロ経済学, 芦谷政浩, 有斐閣, 2009 年	ISBN	①ISBN:978-4641163508
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に あたって	選好や均衡など、ミクロ経済学の基礎的な考え方を利用し、公平性の理論を勉強します。 基礎的なミクロ経済学(ミクロ経済学Ⅰ程度)の知識や微分を使用しますので、自信のない方は事前に勉強しておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと授業の概要	【予習】事前にシラバスによく目を通し、厚生経済学について考えてみましょう（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4 時間

第2回	対面	選好	【予習】「選好」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「選好」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第3回	対面	効用	【予習】「効用」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「効用」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第4回	対面	無差別曲線	【予習】「無差別曲線」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「無差別曲線」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第5回	対面	効用最大化問題	【予習】「効用最大化問題」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「効用最大化問題」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第6回	対面	効用最大化問題の続き、小テスト①	【予習】これまでの配布資料・テキストの該当部分を読んで復習しておいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第7回	対面	小テスト①解説、市場均衡理論①	【予習】「市場均衡理論①」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「市場均衡理論①」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第8回	対面	市場均衡理論②	【予習】「市場均衡理論②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「市場均衡理論②」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第9回	対面	エッジワースボックスと契約曲線	【予習】「エッジワースボックスと契約曲線」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「エッジワースボックスと契約曲線」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第10回	対面	厚生経済学の第1定理	【予習】「厚生経済学の第1定理」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「厚生経済学の第1定理」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第11回	対面	社会的厚生関数	【予習】「社会的厚生関数」に関する配布資料・配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「社会的厚生関数」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第12回	対面	社会的厚生関数のつづき、小テスト②	【予習】これまでの配布資料・テキストの該当部分を読んで復習しておいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第13回	対面	社会選択	【予習】「社会選択」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度)	4 時間

			でおいてください。(2時間程度) 【復習】「社会選択」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	
第14回	対面	アローの不可能性定理	【予習】「アローの不可能性定理」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「アローの不可能性定理」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験対策として問題を解きます	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	公共経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公共部門の経済学		
授業の目的及び概要	この科目では、公共部門の経済学の役割について学修します。 初めに、市場がもつ機能と政府の役割について学びます。その後、公共財について学び、なぜ政府の介入が必要かについて学びます。また、租税やそれに伴う影響と、年金の制度について学びます。 これらの授業を通じて、経済学的視点から現実の経済で行われている政策や社会問題が発生する要因を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ミクロ経済学を基礎として、外部効果や自然独占、さらに政府が果たす役割を説明することができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①公共経済学(第2版), 小川光・西森晃, 中央経済社, 2021 年	ISBN	①ISBN:978-4502411717
参考書	①ミクロ経済学, 芦谷政浩, 有斐閣, 2009 年	ISBN	①ISBN:978-4641163508
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義はテキストに則って進めますので、講義前・講義後にテキストを読むことを強く推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと授業の概要	【予習】事前にシラバスによく目を通し、公共経済学について考えてみましょう（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4 時間

第2回	対面	需要曲線と消費者余剰	【予習】「需要曲線と消費者余剰」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「需要曲線と消費者余剰」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第3回	対面	供給曲線と生産者余剰	【予習】「供給曲線と生産者余剰」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「供給曲線と生産者余剰」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第4回	対面	市場均衡と総余剰	【予習】「市場の均衡」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「市場の均衡」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第5回	対面	外部効果	【予習】「外部効果」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「外部効果」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第6回	対面	ピグー税	【予習】「ピグー税」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「ピグー税」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第7回	対面	コースの定理	【予習】「コースの定理」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「コースの定理」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間テスト	【予習】これまでの配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第9回	対面	中間テストの解説	【予習】これまでの配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第10回	対面	独占市場	【予習】「独占市場」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「独占市場」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第11回	対面	規模の経済	【予習】「規模の経済」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「規模の経済」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間

第12回	対面	自然独占と価格規制①	【予習】「自然独占と価格規制①」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「自然独占と価格規制①」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	自然独占と価格規制②	【予習】「自然独占と価格規制②」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「自然独占と価格規制②」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	公共財	【予習】「公共財」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】「公共財」に関する配布資料・テキストの該当部分を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験対策として問題を解きます	【予習】これまでの授業回の配布資料・テキストを事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの授業回の配布資料・テキストを読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	計量経済学 I	開講年度	2025
担当者	加藤 路子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済データを利用した計量的分析		
授業の目的及び概要	受講生が経済データを利用した統計的分析を行うことができるようになることを目標とした講義です。 経済データを扱う統計的手法にはさまざまなものがありますが、その中から回帰分析を中心に講義します。 はじめに経済データの扱い方など、 データ分析を行う上での基礎的事項を実際のデータに触れながら学び、その後、2つの経済データの関係性を捉える単純回帰分析、3 つ以上の経済データの関係性を捉える重回帰分析へと進んでいきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経済データを正しく読み取るとともに、それらを利活用できるようになることを学修の到達目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課す小テストやレポートに対する解説、講評は、授業支援システム(Learning Portal)に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『ライブラリ 今日の経済学 17 計量経済学』, 谷崎久志・溝渕健一, 新世社, 2023 年	ISBN	9784883843701
参考書	山本拓『計量経済学 第2 版』新世社山本拓・竹内明香『入門計量経済学 Excel による実証分析へのガイド』新世社小巻泰之・山澤成康『計量経済学 15 講』新世社	ISBN	1. 9784883843435 2. 9784883841981 3. 9784883842742
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業では Excel と、RStudio を利用した演算を行います。エクセルに関しては、簡単な演算や作表・作図に関する基礎的素養が必須ですから、IT リテラシー等の関連科目を修得済みであることが望まれます。また事前に数学、統計学、あるいは、それに関連する科目を修得していると、授業を理解しやすいでしょう。 計量経済学は知識の積み重ねが重要ですから、欠席しないことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【計量経済学とは何か】 計量経済学とは何か、具体例を通じて大まかなイメージをつかみます。 また演習に利用する Excel および Rstudio の基本操作について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は Excel、および、Rstudio の操作について復習してください。	4 時間
第2回	対面	【データの整理1】 データの分類について説明した上で、質的データを整理し、読み解く方法について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第3回	対面	【データの整理2】 量的データを整理して読み解く方法について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第4回	対面	【記述統計】 データの中心傾向や散らばりを示す代表値と、2つのデータの関係性を示す統計量について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第5回	対面	【単回帰分析】 2つの変数の因果関係を分析する、単純回帰分析と呼ぶ統計手法の基本について解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで、疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第6回	対面	【重回帰分析】 3つ以上のデータの因果関係を分析する、重回帰分析と呼ぶ統計手法の基本について解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第7回	対面	【回帰モデルの関数形】 逆数や多項式など、線形モデル以外の回帰モデルについて解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第8回	対面	【統計的推測1】 確率、確率変数、確率分布という概念について説明した上で、回帰分析において頻繁に登場する正規分布と t 分布について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第9回	対面	【統計的推測2】 母集団と標本、点推定と区間推定、回帰パラメータの区間推定について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第10回	対面	【統計的推測3】 仮説検定、回帰パラメータの有意性検定を解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第11回	対面	【統計的推測4】 F 分布、パラメータの線形制約の検定を解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第12回	対面	【統計的推測5】 構造変化の F 検定について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第13回	対面	【ダミー変数】 異常値ダミー、グループダミーを利用した回帰分析について解説します	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間

第14回	対面	【推計値の理想的性質】 回帰式の古典的仮定、推定値の理想的性質、説明変数が過剰なケースと過少なケースの弊害、ラムゼイ検定について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第15回	オンデマンド	【不均一分散】 回帰モデルの仮定が崩れることによって生じる問題の中から不均一分散について解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間

科目名	計量経済学 I	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	入門計量経済学		
授業の目的及び概要	この授業は、受講生が統計学および計量経済学の基礎的な概念や手法を習得し、データ分析を通じて経済現象を理解・解釈する力を養うことを目的としています。 具体的には、統計学の基礎から出発し、確率論、推定、仮説検定、回帰分析といった計量経済学の中心的な内容を段階的に学びます。また、本講義の内容は統計検定 2 級レベルに準拠しており、統計学の知識を体系的に身につけることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	統計学の基礎を理解し、標本分布、推定、および仮説検定の理論と手法を習得します。統計検定 2 級レベルの知識を身につけ、経済データを正確に読み解き、適切に活用する能力の修得を学修の到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業後に配布する宿題の解答および講評は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『統計学入門』，東京大学教養学部統計学教室，東京大学出版会，1991 年	ISBN	①9784130420655
参考書	『基礎統計学（第3版）』豊田利久・大谷一博・小川一夫・長谷川光・谷崎久志，東洋経済新報社，2010 年	ISBN	9784492470831
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	事前に数学、統計学、あるいは、それに関連する科目を修得していると、授業を理解しやすいでしょう。 計量経済学は知識の積み重ねが重要ですから、欠席しないことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【計量経済学とは何か】 計量経済学とは何か、具体例を通じて大まかなイメージをつかみます。	事前にテキスト第 1 章を読んで疑問点をまとめておきましょう。	4 時間

		計量経済学の基礎となる統計学の基本概念と統計データを紹介します。		
第2回	対面	【1次元のデータ】 データの種類と1次元データ（代表値・散布度）について解説します。	事前に参考書の第2章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第3回	対面	【2次元のデータ】 2次元データの相関と回帰、散布図及び相関係数などについて解説します。	事前にテキストの第3章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第4回	対面	【データの活用】 回帰分析の基礎と時系列データについて解説します。データの収集法を紹介します。	事前にテキストの第1章と配布資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第5回	対面	【確率論1】 確率の定義と基本的性質、確率の法則について解説します。	事前にテキストの第4章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第6回	対面	【確率論2】 確率変数とその期待値、分散、標準偏差の概念について解説します	事前にテキストの第5章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第7回	対面	【確率論3】 基礎的な確率分布の特徴、代表的な分布（例：二項分布、正規分布）について解説します	事前にテキストの第6章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第8回	対面	【大数の法則と中心極限定理】 標本の理論的な性質、大数の法則、中心極限定理について解説します。	事前にテキストの第8章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第9回	対面	【標本分布1】 標本統計量の分布、母集団から標本を抽出する際の性質について解説します。	事前にテキストの第9章と第10章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第10回	対面	【標本分布2】 正規分布の標本分布、標本平均と標本分散について解説します。	事前にテキストの第10章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第11回	対面	【推定】 母数の点推定と区間推定の基本概念および手法について解説します。	事前にテキストの第11章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第12回	対面	【仮説検定1】 仮説検定の理論、p値、帰無仮説(H0)と対立仮説(H1)、両側検定と片側検定、第1種の過誤と第2種の過誤、検出力について解説します。	事前にテキストの第12章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第13回	対面	【仮説検定2】 母平均の検定、母分散の検定、母比率の検定、適合度検定、独立性の検定などについて解説します。	事前にテキストの第12章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第14回	対面	【回帰分析】 回帰直線の傾きの推定と検定、重回帰モデル、偏回帰係数、回帰係数の検定、多重共線性など回帰モデルについて解説します。	事前にテキストの第13章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第15回	オンデマンド	【まとめと復習】 授業全体の知識をまとめて復習します。	事前にテキストと授業ノートをまとめておきましょう。	4時間

2025/05/01

			講義後は、テキスト全体と授業ノート及び配布資料 で復習しましょう。	

科目名	計量経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	加藤 路子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	観測個体が持つ複数の情報(変量)の関係性や構造を分析する様々な手法の理解		
授業の目的及び概要	この授業は、受講生が経済データを利用した統計的分析を行うことができるようになることを目標としています。 計量経済学Ⅰで取り上げた回帰分析のほか、クラスター分析、主成分分析、判別分析、分散分析、因子分析などを学びます。 受講生が、研究テーマに応じた適切な手法を選択、実行できるようになることが本講義における最大の目標です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経済データを正しく読み取るとともに、研究テーマに応じた適切な手法を選択して分析できるようになることを学修の到達目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に実施する小テストやレポート課題に対する解説・講評は、授業支援システム(Learning Portal)に掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『例題でよくわかるはじめての多変量解析』,加藤豊,森北出版株式会社,2020 年	ISBN	① 9784627082212
参考書	谷崎久志・溝渕健一『ライブラリ 17 計量経済学』新世社	ISBN	9784883843701
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではエクセルのほかに統計解析のための専門ソフトウェア（RStudio）を使用します。専門ソフトの操作については随時解説します。ひとつずつ確実に覚えてください。 この講義では、知識をひとつひとつ積み重ねていくことが大切です。欠席しないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	【統計の基礎的事項1】 多変量解析とは何か、その目的について解	テキスト1章から2章を読んで、疑問点をまとめておいてください。	4 時間

		説します。また多変量解析を学んでいくための準備としてデータの記述について解説するとともに、統計解析ソフトの基本操作を学びます。	講義終了後は指定した課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	
第2回	対面	【統計の基礎的事項2】 母集団と標本、確率分布、統計的推測（検定と推定）について解説します。	事前にテキストの第2章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第3回	対面	【クラスター分析1】 クラスター分析とは何か、何のために行うのかを中心に解説します。	テキスト第7章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第4回	対面	【クラスター分析2】 マンハッタンノルムと最大ノルムによるクラスター分析について解説します。	テキスト第7章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第5回	対面	【相関分析1】 データの種類について説明した上で、順位尺度 vs. 順位尺度、間隔尺度 vs. 間隔尺度の相関を測る統計量について解説します。	事前に配布する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第6回	対面	【相関分析2】 データの種類について説明した上で、名義尺度 vs. 名義尺度、名義尺度 vs. 間隔尺度の相関を測る統計量について解説します。	事前に配布する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第7回	対面	【分散分析1】 統計的検定について基礎的事項を解説した上で、一元配置の分散分析について解説します	事前に配布する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第8回	対面	【分散分析2】 繰返しのない二元配置の分散分析と、繰返しがある二元配置の分散分析について解説します。	事前に配布する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 授業後は、与えられた課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第9回	対面	【回帰分析1】 単回帰式の推定方法と評価方法、推定値の確率分布と予測値の区間推定について解説します。	事前にテキストの第4章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第10回	対面	【回帰分析2】 重回帰式の推定方法と評価方法、最小2乗法による推定量が望ましい性質を持つ条件（古典的仮定）が満たされないときに生じる問題の中から、多重共線性、系列相関、不均一分散について解説します。	事前にテキストの第5章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第11回	対面	【数量化Ⅰ類】 量的変数を質的変数で説明する場合の解析方法について解説します。	事前にテキスト第6章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第12回	対面	【判別分析】 判別分析とは何か、何のために行うのか例題を通して解説します。	事前にテキスト第9章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第13回	対面	【主成分分析】 主成分分析を理解するために必要な線形代数の基礎を解説した上で、主成分分析とは何か、何のために行うのかを、例題を通して解説します。	事前にテキスト第8章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第14回	対面	【因子分析】 因子分析とは何か、何のために行うのか例	事前にテキスト第10章を読んで疑問点をまとめておきましょう。	4 時間

2025/05/01

		題を通して解説します。	講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、ポイントを解説します。	全体を振り返った上で、疑問点をまとめておいてください。	4時間

科目名	計量経済学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済統計データの分析手法を学ぶ計量経済学		
授業の目的及び概要	この授業は、受講生が経済データの分析を行う手法が理解、応用できるようになることを目標としています。 計量経済学の統計基礎を復習した上で、回帰分析のほか、操作変数法、パネルデータ分析などを学びます。 受講生が回帰分析を用いた実証研究に取り組めるようになることが本講義における最大の目標です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	データ分析の手法を活用でき、経済データを正しく読み取り、利用できるようになることを学修の到達目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に実施する小テストは、授業支援システム(Learning Portal)に解答と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』、田中隆一、有斐閣ストゥディア、2015 年	ISBN	9784641150287
参考書	1. 『ベーシック計量経済学（第2版）』、羽森茂之、中央経済社、2018 年 2. 『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、1991 年	ISBN	1. 9784502255717 2. 9784130420655
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではエクセルのほかに統計解析のための専門ソフトウェア（gretl や R）を使用します。専門ソフトの操作については随時解説します。ひとつずつ確実に覚えてください。 この講義では、知識をひとつひとつ積み重ねていくことが大切です。欠席しないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	【ガイダンスと計量経済学の基礎概念】 計量経済学のアプローチと基礎概念を解説します。	テキスト1章を読んで、疑問点をまとめておいてください。 講義終了後は指定した課題に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第2回	対面	【統計の基礎1】 データの扱い方と確率の基礎概念について解説します。	事前にテキストの第2章と第3章の第1節を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第3回	対面	【統計の基礎2】 確率分布、確率変数（共分散、相関係数、条件付き期待値など）について解説します。	事前にテキストの第3章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第4回	対面	【統計の基礎3】 標本と母集団、標本分布、大数の法則と中心極限定理及び仮説検定について解説します。	事前にテキストの第4章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第5回	対面	【単回帰分析】 単回帰モデル、最小二乗法などについて解説します。	事前にテキストの第5章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第6回	対面	【重回帰分析】 欠落変数バイアス、重回帰モデル、大標本理論について解説します。	事前にテキストの第6章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第7回	対面	【重回帰分析の応用】 より複雑な政策効果モデル、ダミー変数、不均一分散などについて解説します。	事前にテキストの第7章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第8回	対面	【操作変数法】 内生性問題、操作変数モデル、二段階最小二乗法などについて解説します。	事前にテキストの第8章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第9回	対面	【パネルデータ分析】 差の差の推定量、2期間パネルデータ及び変量効果モデルについて解説します。	事前にテキストの第9章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第10回	対面	【マッチング法と回帰不連続デザイン】 傾向スコア・マッチング、回帰不連続デザインについて紹介します。	事前にテキストの第9章と第10章を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第11回	対面	【データ分析1】 統計ソフトウェアの使い方とデータについて解説します。	事前に配布資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、授業で勉強した知識の定着と統計ソフトウェアの使い方の練習を図ってください。	4時間
第12回	対面	【データ分析2】 データの導入と整理について解説します。	事前に配布資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、授業で勉強した知識の定着と統計ソフトウェアの使い方の練習を図ってください。	4時間
第13回	対面	【データ分析3】 データの分析と分析手法（単回帰モデル）の応用について解説します。	事前に配布資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、授業で勉強した知識の定着と統計ソフトウェアの使い方の練習を図ってください。	4時間
第14回	対面	【データ分析4】 データの分析と分析手法（重回帰モデル）の応用について解説します。	事前に配布資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、授業で勉強した知識の定着と統計ソフトウェアの使い方の練習を図ってください。	4時間
第15回	オンデ	【総括】	全体を振り返った上で、疑問点をまとめておいてく	4時間

2025/05/01

	マンド	これまでの講義を振り返り、ポイントを解説します。	ださい。	

科目名	経済成長論	開講年度	2025
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済成長の要因、経済成長モデル		
授業の目的及び概要	経済成長論とはマクロ経済学の代表的な分野の一つです。皆さんはマクロ経済学の授業で、1年間に生産できる財・サービスの量が GDP だと学んだはず。経済成長とは GDP の成長（GDP が前年に比べてどれだけ増加したか）を意味する言葉です。この経済成長論という科目では、5年や 10 年、場合によってはそれよりも長い歳月を対象に、経済成長がこういった要因によって引き起こされるのかを学びます。 この授業の前半部分では、まずは経済成長の要因を理解してもらいます。後半では、ソローモデルと呼ばれる最も基本的な経済成長モデルを紹介します。ソローモデルは学部のマクロ経済学のトピックとしては難易度が高いものになりますので、モデルの具体的な説明に入る前に、マクロ経済学の基礎を復習します。 本科目の学びを通じて、受講生にはマクロ経済学の応用分野を修得し、更に、大学院進学を目指す学生には大学院入試で出題される経済成長論に関する問題を解く力を修得することが目標となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 経済成長の要因を理解できる ② 経済成長理論を学ぶための前提知識となるマクロ経済学の基礎を定着させる ③ 経済成長モデルであるソローモデルの分析手法を学び、経済成長のメカニズムを理論的に理解できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目では特定のテキストを指定することはありません。	ISBN	本科目では特定のテキストを指定することはありません。
参考書	経済成長（第 2 版）、デイヴィッド・N. ワイル（著） 早見 弘・早見 均（翻訳）、ピアソン桐原、2010 年	ISBN	ISBN-13: 978-4864010016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	経済成長理論とはマクロ経済学の理論をベースに構築されるものです。受講生にはこの科目を履修登録する段階で、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱの単位が取得できていることを求めます。同様に、経済学の基礎でもあるミクロ経済学Ⅰ・Ⅱも既に受講していることが望ましいです。 また、この科目では、授業の後半部分でソローモデルと呼ばれる経済成長モデルを解説していきます。このモデルでは数式が登場しますので、受講生にはある程度の数学力があることが望ましいです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【概要】 ・授業ガイダンス ・経済成長論を学ぶ上で知っておくべき事実	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第2回	オンデマンド	【経済成長の歴史】 ・日本の戦後の経済成長 ・欧米先進諸国の経済成長 ・アジア発展途上国の経済成長 ・アフリカの低開発	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第3回	オンデマンド	【経済成長の要因1】 ・物的資本 ・人口成長	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第4回	オンデマンド	【経済成長の要因2】 ・将来人口 ・人的資本	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第5回	オンデマンド	【生産性1】 ・生産性とは？ ・生産性をどのように測るか ・技術革新と生産性の向上	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第6回	オンデマンド	【生産性2】 ・生産性と効率との関係 ・開放経済の成長	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第7回	オンデマンド	【経済成長の要因3】 ・政府 ・所得不平等 ・文化	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	【経済成長の要因4】 ・地理 ・気候 ・天然資源	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	オンデマンド	【マクロ経済学の復習】 ・マクロ経済における家計と企業の役割 ・ストックとフロー ・生産面から見た GDP	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	オンデマンド	【マクロ経済学の復習】 ・支出面から見た GDP ・分配面から見た GDP ・一人当たり GDP	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・コブ・ダグラス型生産関数 ・規模に関して収穫一定 ・技術進歩と全要素生産性	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・物的資本の蓄積	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業	4 時間

		・資本の減耗 ・消費と貯蓄、貯蓄率	後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	
第13回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・ソローモデルの定差方程式 ・動学モデルの均衡概念	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第14回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・均衡までの移行過程 ・人口成長率の経済成長への影響 ・貯蓄率の経済成長への影響	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめ】 ・レポートの解説 ・これまでの授業のまとめ ・期末試験に向けて	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間

科目名	日本経済史	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近現代の日本経済史を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、近代および現代の日本経済史を概観することにあります。具体的には幕末開港から高度経済成長期までの日本経済を扱います。経済を長期的視点から分析する手法を理解することによって、受講する学生諸君は、日本経済史に関するより深い理解が得られることでしょう。		
履修条件・留意点	特にありません。日本経済史ではありますが、西洋経済史・アジア経済史の視点も踏まえた講義を行います。日本経済はどのような変遷を経て今日に至るのかについて、強い関心を持っている学生諸君の受講を期待します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の到達目標は、幕末開港から高度経済成長期までの日本経済史に関わる深い理解を得ることにあります。また同時にそれらに関わる年表や資料(グラフ・表などのデータ)を読み解く能力を身に付けることにもあります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①概説日本経済史 近現代 [第4版]，三和良一・三和元，東京大学出版会 2021 年	ISBN	①9784130421539
参考書	特にありませんが、必要な際は授業の中で説明します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	各講で学習するテキストの内容を事前に読んでくることは必須です。疑問点を明確にして授業に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて ・テキスト第1章 資本制社会論	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラ	3 時間

			ーニングポータルより小テストに解答すること。 ☆この講義では第1章の概略を説明します。特に「封建制」「資本制」の定義と、封建制から資本制への移行が何を意味しているのかを分かりやすく説明します。	
第2回	対面	テキスト第2章 幕末の経済と開港	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第3回	対面	テキスト第3章 明治維新	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第4回	対面	テキスト第4章 殖産興業と松方財政	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第5回	対面	テキスト第5章 近代産業の発達(1)－軽工業－	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第6回	対面	テキスト第6章 近代産業の発達(2)－重工業－	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第7回	対面	テキスト第7章 日清・日露戦争と日本経済	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第8回	対面	テキスト第8章 第一次世界大戦と日本経済	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第9回	対面	テキスト第9章 1920年代 第10章 昭和恐慌	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第10回	対面	テキスト第11章 高橋財政 第12章 戦時経済	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第11回	対面	テキスト第13章 戦後経済改革	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第12回	対面	テキスト第14章 経済復興	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第13回	対面	テキスト第15章 高度経済成長	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間
第14回	対面	テキスト第16章 安定成長	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	3時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	・テキスト第17～19章の概略 ・第14講までの講義内容を振り返り、期末試験に向けた準備をオンデマンド授業で行います。	【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、期末試験に備えること。	3時間

科目名	日本経済論 I	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本の経済データの読み方		
授業の目的及び概要	この授業では、日本経済の現状を把握する上で必要な、経済データ（経済指標）の見方について学びます。まず、データを見る上で必要な基礎知識を説明し、経済全体の動向を捉えるための経済データとして GDP（国内総生産）と景気動向指数を取り上げます。次いで、企業部門の動向を捉えるための経済データ（生産、設備投資など）、家計部門を捉えるための経済データ（消費、雇用など）についてそれぞれ学び、さらに経済の体温とも言うべき物価について学びます。政府、日銀は、これら経済データの全体から、景気動向を分析する文書を定期的に発表していますが、その読み方も説明します。また、政府、日銀や経済の調査機関（シンクタンク）は、現状を把握した上で、将来の予測を行っていますが、予測手法の基本も学びます。こうした一連の知識を身に付けることで、新聞の経済面に掲載される経済データに関する記事を読みこなし、生活や将来の仕事に役立てられるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 経済データを読むための基礎知識を身に付ける。 ・ 経済全体と物価を捉える経済指標について説明できる。 ・ 企業部門、家計部門を捉える経済指標を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	予測の達人が教える経済指標の読み方，新家義貴，日本経済新聞出版，2017 年	ISBN	9784532357030
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済データの読み方を習得すれば、世の中の流れがわかるようになります。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	オンデマンド	何が景気循環をもたらすのかについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第1章1～3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	経済データを読み解くための基礎知識について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第1章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	経済データのチェックポイントについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第2章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	経済全体の動向を捉える経済データ（GDP、景気動向指数）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第3章1、2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（貿易）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（生産、企業収益）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章2、3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（景況感）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（設備投資）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章5の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（雇用・賃金）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（消費）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第12回	オンデマンド	物価を捉える経済データについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	月例経済報告について学びます。	【予習】 配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	経済見通しについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	経済予測の方法について学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間

科目名	日本経済論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本の経済データの読み方		
授業の目的及び概要	この授業では、日本経済の現状を把握する上で必要な、経済データ（経済指標）の見方について学びます。まず、データを見る上で必要な基礎知識を説明し、経済全体の動向を捉えるための経済データとして GDP（国内総生産）と景気動向指数を取り上げます。次いで、企業部門の動向を捉えるための経済データ（生産、設備投資など）、家計部門を捉えるための経済データ（消費、雇用など）についてそれぞれ学び、さらに経済の体温とも言うべき物価について学びます。政府、日銀は、これら経済データの全体から、景気動向を分析する文書を定期的に発表していますが、その読み方も説明します。また、政府、日銀や経済の調査機関（シンクタンク）は、現状を把握した上で、将来の予測を行っていますが、予測手法の基本も学びます。こうした一連の知識を身に付けることで、新聞の経済面に掲載される経済データに関する記事を読みこなし、生活や将来の仕事に役立てられるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 経済データを読むための基礎知識を身に付ける。 ・ 経済全体と物価を捉える経済指標について説明できる。 ・ 企業部門、家計部門を捉える経済指標を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	予測の達人が教える経済指標の読み方，新家義貴，日本経済新聞出版，2017 年	ISBN	9784532357030
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済データの読み方を習得すれば、世の中の流れがわかるようになります。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	オンデマンド	何が景気循環をもたらすのかについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第1章1～3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	経済データを読み解くための基礎知識について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第1章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	経済データのチェックポイントについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第2章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	経済全体の動向を捉える経済データ（GDP、景気動向指数）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第3章1、2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（貿易）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（生産、企業収益）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章2、3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（景況感）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（設備投資）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第4章5の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（雇用・賃金）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（消費）について学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第12回	オンデマンド	物価を捉える経済データについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第5章3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	月例経済報告について学びます。	【予習】 配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	経済見通しについて学びます。	【予習】 配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	経済予測の方法について学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間

科目名	日本経済論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	現代日本経済の構造		
授業の目的及び概要	この授業では、現代の日本経済を理解する上で重要なトピックスを取り上げ、経済学の知識や分析道具を使って、理解を深めていきます。取り上げるトピックスは、日本経済の成長の歩み、労働市場、産業構造、環境・エネルギー、金融、財政、地域、社会保障、グローバル化などです。これら日本経済の様々な側面は、一見、どうしてそのような状況になったのかを理解しにくい場合でも、経済学の枠組みを使えば、その構造がよくわかることがあります。現象の背後に隠れたメカニズムを解き明かしながら、現代の日本経済が直面する課題の全体像に迫っていきます。経済学といっても、使うのは最低限の基礎的な部分で、その都度必要な知識は説明していきます。経済学的に考えてみる習慣は、普段の生活や将来の仕事にも役立つはずです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日本経済の成長の歩みについて説明できる。 ・日本の労働市場や産業構造、環境・エネルギー問題について説明できる。 ・日本の金融や財政、社会保障の問題について説明できる ・日本の地域経済やグローバル化の問題について説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本経済論（第2版），宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之，中央経済社，2021 年	ISBN	9784502374814
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本経済の課題の全体像について理解を深めておくことは、個々の専門的な勉強に進んでいく上での基礎となります。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】テキスト第1章とLearning Portalに掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	オンデマンド	高度成長はなぜ実現できたのかについて学びます。	【予習】テキスト第2章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	バブルとその後の長期停滞について学びます。	【予習】テキスト第3章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	労働市場の構造変化と所得格差について学びます。	【予習】テキスト第4章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	中小企業・ベンチャー企業の役割について学びます。	【予習】テキスト第5章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	産業構造の変化と日本経済の盛衰について学びます。	【予習】テキスト第6章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	環境・エネルギー問題の克服について学びます。	【予習】テキスト第7章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	日本の金融システムについて学びます。	【予習】テキスト第8章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	デフレと非伝統的金融政策について学びます。	【予習】テキスト第9章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	財政の維持可能性について学びます。	【予習】テキスト第10章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	地域経済と政府の役割について学びます。	【予習】テキスト第11章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第12回	オンデマンド	人口減少と社会保障について学びます。	【予習】テキスト第12章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	国際経済の中の日本経済について学びます。	【予習】テキスト第13章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	これからの日本経済(平成経済から令和経済へ)について学びます。	【予習】テキスト第14章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	経済財政白書について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間

科目名	経済政策論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	高林 喜久生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	実際の経済政策と経済理論		
授業の目的及び概要	政府が採用する経済政策によって、一国の経済の活動水準や成長率、国民の経済厚生は大きな影響を受けます。経済政策の効果の波及メカニズムを理解することはとても重要です。経済政策論Ⅰでは「経済政策の基礎」を学びます。まず 1980 年代以降の日本経済について学び、実際に採用されていた経済政策を概観します。続いて経済政策の背後にある共通した基礎的な考え方を、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を用いて理解します。秋学期の経済政策論Ⅱでは、「経済政策の実践」として、いくつかの主要な分野別の経済政策（産業政策、農業政策、環境政策、労働政策、社会保障政策）について経済学の観点から考察します。経済政策論Ⅰ・Ⅱを学ぶことで、経済学の視点から現実の経済で行われている政策とその波及メカニズムを理解できる力を身につけることをができ、経済政策の観点から「実学としての経済学」の具体化をはかることを目的とします。また、各回の授業の最後にまとめの課題（練習問題）を行い授業時間内に提出していただき、理解の確認を行います。第 8 回終了後をめどに中間まとめの課題レポートを提出していただきます。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	様々な経済政策について、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を用いて理解します。個別の経済政策の背景や波及効果のメカニズムについて理解します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題（練習問題）については、翌週の授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を 1977 年から 10 年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出向し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）『セオリー＆プラクティス経済政策』有斐閣コンパクト、2017 年	ISBN	9784641164994
参考書	①藤川清史（編）『経済政策入門』法律文化社、2020 年 ②芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009 年 ③神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年	ISBN	①9784589040855 ②9784641163508 ③9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	配布資料は、書き込み式です。授業に出席し、抜けているところを埋めてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のガイダンスと日本の人口問題：授業の概要、進め方を説明します。また、本授業全体への準備として日本経済にとって重要な人口問題について概観します。 ※なお、2回目以降は授業の進行によって変更することがあります。	【予習】事前にシラバスによく目を通し、経済政策について考えてみましょう（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第2回	対面	日本経済の歩みと政策（その1）：1980年代以降、日本経済がどのように変化してきたのかを振り返り、それに対して実際にどのような政策がとられてきたかを確認します。今回は、とくにマクロ経済と経済政策との関係に注目します。	【予習】テキストの第1章と「日本経済の歩みと政策（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第1章と「日本経済の歩みと政策（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第3回	対面	日本経済の歩みと政策（その2）：1980年代以降、日本経済がどのように変化してきたのかを振り返り、それに対して実際にどのような政策がとられてきたかを確認します。今回は、とくにジニ係数を用いて所得格差の変化について取り上げます。	【予習】テキストの第1章と「日本経済の歩みと政策（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第1章と「日本経済の歩みと政策（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第4回	対面	経済政策論の基礎：経済政策の目的と手段、経済政策の主体、及び経済政策思想について解説します。	【予習】テキストの第2章と「経済政策論の基礎」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第2章と「経済政策論の基礎」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第5回	対面	社会政策論の基礎：社会政策とは社会問題への対策です。社会問題とは何かを検討した上で、社会保険を中心とする社会保障についての発展の経緯を述べ、現代の社会問題について考察します。	【予習】テキストの第3章と「社会政策論の基礎」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第3章と「社会政策論の基礎」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第6回	対面	国民経済計算の基礎（その1）：マクロ経済循環を理解するために、経済活動を多面的かつ体系的にとらえた国民経済計算について基本的な見方について解説します。今回は、とくに国民所得勘定の見方を取り上げます。	【予習】「国民経済計算の基礎（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】「国民経済計算の基礎（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第7回	対面	国民経済計算の基礎（その2）：マクロ経済循環を理解するために、経済活動を多面的かつ体系的にとらえた国民経済計算について基本的な見方について解説します。今回は、とくに国民経済の循環構造について取り上げます。	【予習】「国民経済計算の基礎（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】「国民経済計算の基礎（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第8回	対面	マクロ経済政策の基礎（その1）：マクロ経済政策を検討するための理論的基礎について解説します。今回は、とくに短期のマクロ経済政策（安定化政策）と財政政策について取り上げます。	【予習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第9回	対面	マクロ経済政策の基礎（その2）：マクロ経済政策を検討するための理論的基礎について解説します。今回は、とくに金融政策について取り上げます。	【予習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間

第10回	対面	マクロ経済政策の基礎(その3):マクロ経済政策を検討するための理論的基礎について解説します。今回は、とくに長期のマクロ経済政策(成長政策)について取り上げます。	【予習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎(その3)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第4章と「マクロ経済政策の基礎(その3)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	ミクロ経済政策の基礎(その1):市場メカニズムの成り立ちや概念を基礎としてミクロ経済学に立脚した経済政策について解説します。今回は、とくに市場の効率性について取り上げます。	【予習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎(その1)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎(その1)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	ミクロ経済政策の基礎(その2):市場メカニズムの成り立ちや概念を基礎としてミクロ経済学に立脚した経済政策について解説します。今回は、とくに余剰分析を用いて経済政策の效果に接近します。	【予習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎(その2)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎(その2)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	ミクロ経済政策の基礎(その3):市場メカニズムの成り立ちや概念を基礎としてミクロ経済学に立脚した経済政策について解説します。今回は、とくに不完全市場と市場の失敗について取り上げます。	【予習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第5章と「ミクロ経済政策の基礎」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	まとめ(その1):これまでの授業内容について、キーワードを中心に要点解説を行います。	【予習】テキスト第1章～第5章とこれまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(3時間程度) 【復習】テキスト第1章～第5章とこれまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(3時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ(その2):これまでの授業内容について、キーワードを中心に要点解説を行います。また、重点的に計算問題の復習を行います。	【予習】テキスト第1章～第5章とこれまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(3時間程度) 【復習】テキスト第1章～第5章とこれまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(3時間程度)	6時間

科目名	経済政策論 I	開講年度	2025
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済政策と経済理論		
授業の目的及び概要	本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論をもとに経済政策の基礎を解説する。現実の政府が実施する政策は多岐にわたるが、消費者の行動や生産者の行動といった経済活動に影響を及ぼすのが経済政策である。市場経済において非効率な資源配分が実現してしまう原因は何か。また、これらの非効率性に対してどのような政策介入を行うべきか。経済の不況期に有効な経済政策とは何か。こういった疑問に対して、理論分析を行えるようになることが本講義の目的となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	受講生が現実の経済政策に対して経済理論を使って考える力を身に付けられるようになることが学習の到達目標になります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。	ISBN	指定しません。
参考書	1. セオリー＆プラクティス経済政策, 柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）, 有斐閣コンパクト, 2017 年 2. ミクロ経済学の力, 神取道宏, 日本評論社, 2014 年 3. マンキューマクロ経済学 I 入門編, N・グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社, 2003 年	ISBN	1. 978-4641164994 2. 978-4535557567 3. 978-4492313220
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識の復習を徹底するように心掛けてください。本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンスと授業の概要 ・日本のマクロ経済 ・経済の構造変化 ・経済政策の歴史	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第2回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（1） ・消費者行動 ・需要曲線 ・消費者余剰	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第3回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（2） ・生産者行動 ・供給曲線 ・生産者余剰 ・総余剰	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第4回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（3） ・市場均衡の効率性 ・価格規制	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第5回	オンデマンド	税金（1） ・消費者への課税 ・生産者への課税 ・租税帰着	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第6回	オンデマンド	税金（2） ・貿易による余剰の変化 ・関税	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第7回	オンデマンド	外部性（1） ・外部性に伴う市場の効率性の損失	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第8回	オンデマンド	外部性（2） ・課税による負の外部性の解決	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第9回	オンデマンド	公共財（1） ・公共財の役割と問題点	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第10回	オンデマンド	公共財（2） ・公益事業に対する規制と競争政策	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第11回	オンデマンド	IS-LM モデルの基礎（1） ・財市場と IS 曲線	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第12回	オンデマンド	IS-LM モデルの基礎（2） ・貨幣市場と LM 曲線 ・IS-LM モデルにおける均衡	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第13回	オンデマンド	短期マクロ経済政策（1） ・財政政策が IS 曲線に与える影響とその帰結 ・金融政策が LM 曲線に与える影響とその帰結	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間

第14回	オンデマンド	短期マクロ経済政策（2） ・金融政策と財政政策の相互作用，ショックが均衡に与える影響	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	総復習	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4時間

科目名	経済政策論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	高林 喜久生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	実際の経済政策と経済理論		
授業の目的及び概要	実際に行われている経済政策には様々な種類があり、その政策の背景や効果について理解することが重要です。経済政策論Ⅱでは、経済政策の背後にあるミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な考え方の要点解説を行ったあとで、いくつかの主要な経済政策（産業政策、農業政策、環境政策、労働政策、社会保障政策）について考察します。経済政策論Ⅱを学ぶことで、経済学の視点から現実の経済で行われている政策とその波及メカニズムを理解できる力を身につけることをができ、経済政策の観点から「実学としての経済学」の具体化をはかることを目的とします。また、各回の授業の最後にまとめの課題（練習問題）を行い授業時間内に提出していただき、理解の確認を行います。第8回終了後をめどに中間まとめの課題レポートを提出していただきます。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。経済政策論Ⅰを履修済みであることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	様々な経済政策について、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を用いて理解します。個別の経済政策の背景や波及効果のメカニズムについて理解します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題（練習問題）については、翌週の授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、銀行員を 1977 年から 10 年以上経験しており、同期間内には、大蔵省に出向し、財政金融研究所主任研究官を務める等の経験も有している。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）『セオリー＆プラクティス経済政策』有斐閣コンパクト、2017 年	ISBN	9784641164994
参考書	①藤川清史（編）『経済政策入門』法律文化社、2020 年 ②芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009 年 ③神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年	ISBN	①9784589040855 ②9784641163508 ③9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	事前に講義資料をラーニングポータルにアップしますので読んでおいてください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のガイダンスとマクロ経済政策の基礎の復習：授業の概要、進め方を説明します。また、マクロ経済政策の基礎の復習を行います。 ※なお、2回目以降は授業の進行によって変更することがあります。	【予習】事前にシラバスによく目を通すとともに、配付資料とテキストの第5章を読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】シラバスと配付資料、テキストの第5章を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第2回	対面	ミクロ経済政策の基礎の復習：経済政策論Ⅱで取り上げる様々な分野の経済政策の基礎となるミクロ経済理論を復習します。	【予習】テキストの第4章と「ミクロ経済政策の基礎の復習」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第4章と「ミクロ経済政策の基礎の復習」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第3回	対面	産業政策（その1）：産業政策を産業育成政策、競争政策、規制政策に分けて、理論と実際を解説します。今回はとくに産業育成政策を取り上げます。	【予習】テキストの第6章と「産業政策（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第6章と「産業政策（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第4回	対面	産業政策（その2）：産業政策を産業育成政策、競争政策、規制政策に分けて、理論と実際を解説します。今回はとくに競争政策と規制政策を取り上げます。	【予習】テキストの第6章と「産業政策（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第6章と「産業政策（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第5回	対面	農業政策（その1）：農業の特殊性や日本の農業政策の理論と実際について解説します。今回はとくに農業政策の重要性と日本の農業政策について取り上げます。	【予習】テキストの第7章と「農業政策（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第7章と「農業政策（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第6回	対面	農業政策（その2）：農業の特殊性や日本の農業政策の理論と実際について解説します。今回は、とくに農業の特殊性と農業の非経済的意義について取り上げます。	【予習】テキストの第7章と「農業政策（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第7章と「農業政策（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第7回	対面	環境政策（その1）：環境が破壊される原因を述べ、環境を保護するための政策手段について解説します。今回はとくに「公共財」としての環境対策を取り上げます。	【予習】テキストの第8章と「環境政策（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第8章と「環境政策（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第8回	対面	環境政策（その2）：環境が破壊される原因を述べ、環境を保護するための政策手段について解説します。今回はとくに様々な環境政策手段の比較を行います。	【予習】テキストの第8章と「環境政策（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第8章と「環境政策（その2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第9回	対面	労働政策（その1）：労働市場の特徴について述べ、賃金や就業・解雇及び失業に対する政策についての理論と実際について解説します。今回はとくに日本の労働市場の特徴と労働政策について取り上げます。	【予習】テキストの第9章と「労働政策（その1）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第9章と「労働政策（その1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（2時間程度）	4時間
第10回	対面	労働政策（その2）：労働市場の特徴について述べ、賃金や就業・解雇及び失業に対す	【予習】テキストの第9章と「労働政策（その2）」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。	4時間

		る政策についての理論と実際について解説します。今回はとくに失業に対する労働市場政策を取り上げます。	(2時間程度) 【復習】テキストの第9章と「労働政策(その2)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	
第11回	対面	社会保障政策(その1): 社会保障の必要性について述べ、社会保障の制度、とくに年金、医療保険、介護保険、生活保護についての考え方と政策の実際について解説します。今回はとくに社会保障政策の根拠について取り上げます。	【予習】テキストの第10章と「社会保障政策(その1)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第10章と「社会保障政策(その1)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	社会保障政策(その2): 社会保障の必要性について述べ、社会保障の制度、とくに年金、医療保険、介護保険、生活保護についての考え方と政策の実際について解説します。今回はとくに年金制度について取り上げます。	【予習】テキストの第10章と「社会保障政策(その2)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第10章と「社会保障政策(その2)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	社会保障政策(その3): 社会保障の必要性について述べ、社会保障の制度、とくに年金、医療保険、介護保険、生活保護についての考え方と政策の実際について解説します。今回はとくに医療保険制度と介護保険制度を取り上げます。	【予習】テキストの第10章と「社会保障政策(その3)」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第10章と「社会保障政策(その3)」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	まとめ: これまでの授業内容について、キーワードを中心に要点解説を行います。	【予習】テキスト全体とこれまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(3時間程度) 【復習】テキスト全体とこれまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(3時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ: これまでの授業内容について、キーワードを中心に要点解説を行います。とくに計算問題の解き方を重点的に解説します。	【予習】テキスト全体とこれまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(3時間程度) 【復習】テキスト全体とこれまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(3時間程度)	6時間

科目名	農業経済論	開講年度	2025
担当者	金子 治平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	主に日本を対象として、歴史的な流れをふまえて食料問題と農業問題を考えます。		
授業の目的及び概要	この授業は、主に日本を対象として、食料問題や農業問題を理解してもらうことを目的としています。 各回の講義は各授業回の授業計画に沿って進めますが、受講者が持つ事前の知識や理解度に応じて適宜変更することもあります。		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です。 下記の事後学習を行う必要があります。 ・授業後に、講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分）(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） ※ 1 各回の講義資料は、日本語で A4 判 4~8 ページあります。日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分、日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います。 ※ 2 アンケートは、「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります。アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく、その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります。 ※ 3 アンケートを含むテストの成績が、成績評価 100 点満点中 60 点分になります。15 回の授業なので、1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります。つまり、毎回のテストでいい成績を取ることが、合格するための条件になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ほかの財や産業と比較した農業や食料の特質を理解し、説明することができる。 ・農業保護の論理の変化について理解し、説明することができる。 ・（途上国の現状とも通じる）日本農業の明治期以降の農業の発展過程を理解し、説明することができる。 ・現在の日本における食料や農業が抱える諸問題について理解し、説明することができる。 ・上記を通じて、主として日本を中心とする現代の食料や農業問題を検討することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて、 ・受講生全員に関係する質問等であれば、翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します。 ・受講生全員には関係しない質問等であれば、2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。 資料は、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに、授業時に配布します。	ISBN	なし
参考書	農林水産省や FAO の Web ページなどのほか、配布した資料に適宜、記載します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60
	成果発表（口頭・実技）		0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	食料や農業の現状の課題を他産業と比較しながら理解し、経済とどのように関連しているか、に興味を持ってもらいたいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的、概要、授業を受ける際の留意点、学習目標、成績評価などについて説明します。 また、ペティ＝クラークの法則、エンゲルの法則、需要の所得弾力性などについて説明します。	- 事前学習として、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通しておいください。 - 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストに、理解した点や疑問点などを回答してください。	4時間
第2回	対面	農業の生産過程の特徴 ペティ＝クラークの法則、エンゲル係数と、需要の所得弾力性の関係について説明します。 稲作の作業過程、農業生産と工業生産の違い、農業経営と工業経営の違いについて説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第1回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第2回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第3回	対面	ミクロ経済学の復習 需要曲線、需要曲線のシフト、需要の価格弾力性と消費者余剰、供給曲線、供給曲線のシフト、供給の価格弾力性と生産者余剰について説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第2回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第3回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第4回	対面	農産物の価格変動の特徴 世界の穀物価格は乱高下することや豊作貧乏、および、それらと需要の価格弾力性が小さいこととの関連を説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第3回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第4回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第5回	対面	政府による貿易への介入と社会的総余剰（1） 閉鎖市場や開放市場の場合の社会的総余剰、自由貿易のメリットなどについて説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第4回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第5回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第6回	対面	政府による貿易への介入と社会的総余剰（2） 輸入関税制度と輸入割当制度のもとでの社会的総余剰、日本における農産物輸入の「自由化」などについて説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第5回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第6回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間

第7回	対面	農業保護の論理（1） 農業保護の必要性，農業保護の根拠の変遷，食料自給率，食料自給力などについて説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第6回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第7回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第8回	対面	農業保護の論理（2）と環境への負荷 農業の多面的機能，農業生産による温室効果ガスの排出について説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第7回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第8回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第9回	対面	日本農業の歴史（1） 明治期以降の「里山」の形成，地主制の形成と農地改革，農業協同組合法，農業基本法などについて説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第8回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第9回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第10回	対面	日本農業の歴史（2） 食糧管理法，米の過剰と生産調整などについて説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第9回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第10回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第11回	対面	日本農業の歴史（3） 食糧管理法のもとでの米価政策，農業技術，構造改善事業，外部環境などの相互の関連について説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第10回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第11回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第12回	対面	米流通の変化と，食料・農業・農村基本法 食糧管理法と食糧法のもとでの米流通の違い，食料・農業・農村基本法，農家と農業経営の違いなどについて説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第11回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第12回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第13回	対面	農業経営（1） 農業経営の収支計算の基礎的な用語について説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第12回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には，第13回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第14回	対面	農業経営（2） 規模階層別の農業経営の収支がどのようになっているか，について説明します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで，第13回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験して	4時間

			ください。このテストの中には、第 14 回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	
第 15 回	オンデマンド	まとめ 必要であれば補充説明を行うとともに、全体の講義を振り返ります。	これまでの講義資料を読み直すとともに、毎回の小テストを使って、よく復習してください。	4 時間

科目名	農業経済論	開講年度	2025
担当者	吉田 茂一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	今日の日本の食料問題と日本農業の現状について考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、日本の食料と農業の現状を理解してもらう目的でおこなう。この授業を受講することにより、日本の農業についての基礎的知識を身につけるとともに、市場の成り立ちや経済学的な視点から今の日本の農業が抱える諸問題を理解することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	食料と農業経済に関する専門知識を修得し、経済学的視点から考察する能力を身につけることを目標とする。 必要に応じて最新のデータを用いた分析方法について解説し、学生各自が行うことができるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	メールにより質問を受け付けます。必要に応じて翌週の授業で説明します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①農業経済学(第5版) ， 荏開津典生・鈴木宣弘，岩波書店，2020 年	ISBN	①9784000289221
参考書	－	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「農業」の知識を「経済学」的な理論でどのように捉えるのか、に興味を持ってもらいたいと思います。 なお、学生の皆さんも日々の生活の中でお気づきでしょうが、昨今の食糧価格は高騰しており現状の食糧市場を取り巻く状況を理解するためには、最新のニュースや Web 上の参考資料を確認する必要があります。 配布資料には教科書だけではなく、現状を理解するために必要な最新ニュースのリンクなども追加しますので、必ず確認しておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデ	初回ガイダンス	テキストの第1章を読んでおいてください。	4 時間

	マンド	1. 経済学と農業的世界	復習として、配布資料を確認しておいてください。	
第2回	オンデマンド	2. 経済発展と農業	テキストの第2章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	5 時間
第3回	オンデマンド	3. 食料の需給と供給	テキストの第3章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第4回	オンデマンド	4. 農業生産と土地	テキストの第4章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	5 時間
第5回	オンデマンド	5. 農業の経営組織	テキストの第5章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第6回	オンデマンド	6. 農産物の市場組織	テキストの第6章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	3 時間
第7回	オンデマンド	7. 農産物貿易と農業保護政策	テキストの第7章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	3 時間
第8回	オンデマンド	前半部分の振り返り(まとめ動画による解説を含む)	配布資料および動画解説資料をよく確認しておいてください。	5 時間
第9回	オンデマンド	8. 世界の人口と食料	テキストの第8章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第10回	オンデマンド	9. 食生活の成熟とフード・システム	テキストの第9章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第11回	オンデマンド	10. 農業の近代化	テキストの第10章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第12回	オンデマンド	11. 資源・環境と農業	テキストの第11章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第13回	オンデマンド	12. 日本の農業と食料	テキストの第12章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第14回	オンデマンド	後半部分の振り返り(まとめ動画による解説を含む)	配布資料および動画解説資料をよく確認しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	理解できていない箇所を掘り下げ、よく復習しておくようにしてください。	3 時間

科目名	地域経済論 I	開講年度	2025
担当者	藤原 幸則	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域問題と都市・地域政策		
授業の目的及び概要	私たちが実際に生活している都市・地域の具体的な諸問題の原因と解決策を考えることを授業の目的とします。 授業では、都市経済学を含む広義の意味での地域経済学の基礎理論を学びつつ、地域に共通する問題、地域固有の問題や特徴を発見・理解し、問題の解決に向けてどのような解決策が実施されているのか、その効果あるいは有効性について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域経済学に関する基礎理論を習得するとともに、都市・地域の再生や活性化を実現させていくための国と地方自治体の制度および政策について理解する力を身に付け、活力ある豊かな都市・地域のあり方について考えられるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト(3回実施)は、授業中に解答を示し、講評を行います。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①地域経済学入門（第3版）， 山田浩之・徳岡一幸，有斐閣， 2018 年 ②地域政策の経済学， 林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇貴，日本評論社，2018 年	ISBN	①9784641165229 ②9784535558687
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	都市・地域政策に携わる公務員志望者はもとより、都市・地域をビジネスのフィールドとして仕事をしたい人や都市・地域問題に関心のある皆さんの受講を歓迎します。 授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、		

	必ず自分で調べる手間を惜しまないでください。 さらに、より深く理解したい場合は、参考書を活用して学修してください。 日ごろから、新聞、インターネットなどで、現代のさまざまな都市・地域問題に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。その問題で、授業の際に質問してもかまいません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：これから地域経済を学ぼう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、入門的内容として、経済学の中での地域経済学の位置づけ、地域経済学を学ぶ意義について解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	日本の地域と都市 日本の中で地域がどの程度異なっているのか、人口規模という基本的な指標に注目して概観していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	地域の産業構造 地域の経済活動の活発さを表す指標となる県内総生産という考え方を紹介し、それを用いて地域の違いを特徴付けることを解説します。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第2回と第3回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第4回	対面	地域間人口移動 日本の地域間人口移動の状況を概観し、人口移動の要因と影響を分析できる枠組みの基礎について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	集積の経済と都市化 日本の都市化の状況を概観し、都市化を引き起こした要因について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	住宅市場 住宅・土地市場の特徴、そこにおける価格の決まり方、日本の住宅・土地政策について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	都市内土地利用の分析 立地による土地の価値の違いを表現できる枠組み、地価や地代、住宅価格や家賃が立地ごとにどのように決まるかを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第8回	対面	都市システムモデルと最適人口規模（1） 都市をシステムとしてとらえる考え方、都市形成のメカニズムと都市規模の決定の基礎理論について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	都市システムモデルと最適人口規模（2） 都市システムモデルによる都市規模の決定に関する応用分析について解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は第4回から第9回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第10回	対面	地域間交易 全国各地間で交易を行うことの利点、交易	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。	4 時間

		が行われる要因、交易の社会への影響について解説します。	【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	
第11回	対面	企業立地 工業立地と商業立地の観点から、企業がどこに立地するかを決める要因について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	交通サービス 通勤・通学、物流などの交通サービスの特徴と起こりうる問題、解決法について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	地方政府の役割 地域問題に対応する地方政府（地方自治体）の役割、地方公共財の最適供給、企業誘致と租税競争について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第10回から第13回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	地域経済分析の手引き 地域で発生している問題の背景（決定要因）を探る「回帰分析の手法」、地域政策やプロジェクトの経済波及効果を計測する「産業連関分析」について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	地域経済論Ⅱ		開講年度	2025
担当者	藤原 幸則		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	地域生活と経済、地域づくり-関西地域をケースに			
授業の目的及び概要	本授業では、私たちに最も身近な地域である「関西」を対象に、その成り立ち、現状と課題、課題に対応するための処方箋について学修してもらいます。授業全体を通じた問題意識は、少子高齢化、グローバル化、技術革新、社会資本ストックの老朽化、災害の多発化などが進む中で、どのように関西の地域づくりを進めていくかです。この難しい問いに対して、皆さんも考えていく足がかりとなるよう、経済理論も踏まえた担当教員が考える処方箋を紹介していきます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	以下の 3 点を到達目標とします。 ①関西地域の強みと弱みについて説明できる。 ②関西地域が抱える課題とその対応策について、説明と自分なりの提案ができる。 ③一つでも多く関西について知り、履修前よりも関西が好きになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テスト(3 回実施)は、授業中に解答を示し、講評を行います。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし	
参考書	アジア太平洋と関西 関西経済白書 2024, アジア太平洋研究所, 日経印刷, 2024 年	ISBN	9784865794410	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	社会の現場の問題意識も踏まえ、皆さんが関西の行政機関や企業、団体などで活躍していく上で、有益な知識・視点・考え方を学修してもらいます。 授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、			

	自分で調べる手間を惜しまないでください。 さらに、より深く理解したい場合は、参考書をぜひ活用して学修してください。参考書には、関西の経済・社会に関する主要なデータも付けられています（ダウンロード利用可）。 日ごろから、新聞、テレビ、インターネットなどで、関西に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。関心を持った内容について、授業の際に質問してもかまいません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：これから関西の話をしよう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、入門的内容として、関西地域の基本的な情報・統計について解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	関西経済の歩み 江戸から平成までの関西経済の歴史を一気に振り返ります（大阪を中心に）。これから関西の経済や地域のことを学修していくうえで、関西経済の歴史を知っておくことは欠かせない基礎知識になります。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第1回と第2回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、第1回の授業資料も読み直してください。	4.5 時間
第3回	対面	関西名経営者列伝 関西経済の発展に尽力した経営者を紹介します。2つのショウト（商都、笑都）の形成に貢献した五大友厚と吉本せいの2人を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	関西経済の長期低迷 1970 年をピークに GRP の全国シェアが低下し続けている関西経済の長期低迷要因について、産業構造、法規制、人口移動などから解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	人口減少と関西 人口動態を知る基礎知識とともに、関西の人口減少や少子高齢化について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	女性の活躍と関西経済 全国平均に比べて関西の女性有業率は低くなっています。関西の女性活躍の現況と課題について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	災害リスク管理からみた関西の課題 地震や高潮などの関西が直面する災害リスクと課題について解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は第3回から第7回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第8回	対面	関西企業の強み 意外と知られていない点もある関西企業の強みについて、企業の時価総額のデータ分析などにより解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	貿易構造からみる関西経済 貿易統計検索に関する基礎知識とともに、対中国を中心に貿易構造からみる関西経済の特徴について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第10回	対面	関西のインバウンド戦略	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料を	4 時間

		関西経済にとってのインバウンド(訪日外国人旅行者)の意義と効果、ポストコロナを見据えた持続可能なインバウンド戦略について解説します。	あらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	
第11回	対面	スポーツ振興と関西経済 関西のスポーツ振興の歴史と課題、産業面も含めたスポーツ振興戦略について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	関西の交通インフラの課題 関西の交通インフラである空港、港湾、道路、鉄道の最新動向と課題について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	関西の建設需要 建築と建設の違い、建設業の役割と構造、建設投資の動向、うめきた2期などのお店の都市開発の状況、大阪ビジネス地区のオフィス需給の動向について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第8回から第13回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	MICE・IR と関西経済 これからの関西のビジネス・観光の振興において重要となるのが MICE (コンベンション等)、IR(統合型リゾート施設)です。これらの最新動向、関西経済にとっての意義と効果について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	都市経済論 I	開講年度	2025
担当者	三重 遷一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本の都市形成過程における経済的変容と、人口減少社会における都市の経済活動について		
授業の目的及び概要	都市経済は、人、モノ、金、情報が集積する都市での経済活動を分析する学問です。都市経済は企業の産業活動だけで成り立っているわけではありません。そこには、住民の生活や行政の役割も関係してきます。つまり多数のアクターの行動選択の中で、一方の側の利益が他方の不利益になることが生じることを意識する必要があります。 人口減少社会において、都市の持続的発展を図るためには、こうした住民、企業、行政の協働が求められています。 本講義では、都市形成史及び都市問題の検討を通して、不動産投資市場分析やまちづくり運動に具体化されるような、①都市問題発生要因について理解すること、②都市問題に対応する政策の形成とそのあり方を考えること、③都市間の格差の原因と将来的な展望を考える力を養うことを目的としています。		
履修条件・留意点	日本経済史についての履修を行っていることが望ましいが、必須ではない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義を通じて、以下の到達目標を定めています。 ①都市問題についてその原因と課題を説明することができること。 ②都市問題と行政による規制の関係について論じることができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストは採点し、解説を行います。 レポートの講評を行い、レポート作成の指導を行います。 優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは用いず、配布するレジュメをもとに授業を行います。	ISBN	テキストは用いず、配布するレジュメをもとに授業を行います。
参考書	①国際化時代の地域経済学 第4版, 岡田 知弘、川瀬 光義、鈴木 誠、富樫 幸一 編著, 有斐閣アルマ, 2016 年 ②入門 現代日本の経済政策, 岡田知弘、岩佐和幸 編著, 法律文化社, 2016 年 その他、適時講義の中で、参考書を紹介します。	ISBN	①9784641220751 ②9784589037534
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	時代を経るなかで変化する経済的・社会的状況によって、都市のかたちは変わってきます。この授業を履修するうえで、近所やまちの風景に目を向け、どのように変化しているのかを考えてみてください。 その背景には、授業で学ぶ「人口の変化」、「産業構造の変化」、「土地利用の変化」、「労働の形態」などさまざまな要因が働いています。 そうして、「どんなまちが住み良いのか？働きやすいのか？」を考えるきっかけにしたいと思います。 なお、授業に関係ない私語は控えてください。 また、就職・クラブ活動等で講義を受けることができない時は、その旨を申し出てください。申し出た学生に関しては考慮します。 逆に、申し出のない場合には定期試験の答案に書かれていても一切考慮しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の方針および内容について説明する。 また、評価方法についても説明します。	シラバスに目を通しておくこと。また、復習として、自分が住んでいる都市の情報を市役所のHP等を利用して調べてみる。	3時間
第2回	対面	現代では、都市への人口集中と大都市の形成が進行している。 こうした都市の基本的性質について考察し、なぜ都市に人や企業が集積するのかを考える。	復習として、参考書の『国際化時代の地域経済学 第4版』の第1章を読むことで、より専門的な知識を得ることができます。	4時間
第3回	対面	「少子化」「高齢化」が叫ばれる中、現代的な都市問題とはどういう問題があるのかについて考える。	予習として、参考書の『入門 現代日本の経済政策』の「第Ⅲ部 生活と経済政策」を読むことで、周辺領域を含めての学習効果が得られます。 復習として、野澤千絵 著『老いる家 崩れる街 住宅過剰社会の末路』講談社現代新書、2016 年を読むことを勧めます。	4時間
第4回	対面	都市では様々な経済活動が営まれているが、そのすべてが土地を利用することで行われている。そのため、土地利用と価格はどのようなメカニズムによって決定されているのかを理論的に解説する。	復習として、『国際化時代の地域経済学 第4版』第3章を読むことで、講義内容の具体的な日本での歴史的事例を学ぶことができます。	4時間
第5回	対面	都市が成長する過程には、土地利用をめぐる様々な問題が生じる。 高度経済成長期以降、日本における人口増加と都市の発展の関係について取り上げ、戦後の土地問題の背景とその問題に対処するために作られた政策についてみる。	予習復習として、参考書の『入門 現代日本の経済政策』を第3章を読むことで、関連情報を得てより理解度が高まります。	4時間
第6回	対面	1980年代の「バブル経済期」における「土地神話」がもたらした日本経済の状況を取り上げ、もたらされた都市空間の変化と影響について学ぶ。	復習として、『国際化時代の地域経済学 第4版』第3章の5を読むことで、バブル期の開発についてより詳しい理解を得られます。	4時間
第7回	対面	バブル経済崩壊以後の1990年代の「平成不況期」に起こった土地市場と都市政策の変化の特徴について学ぶ。	予習復習として、参考書『国際化時代の地域経済学 第4版』第2章を読んで、現代日本の都市問題への理解を深めるようにしてください。	4時間
第8回	対面	現代の不動産投資市場の特徴と抱えるリスクについて学び、土地商品の特質とバブル期以前との違いについて理解を深めることを目的とする。	授業内にレポートを課すので、予習としてインターネット等で「サブリース」「空中族」「Jリート」といった不動産投資に関する用語について調べておくことが望ましい。	4時間
第9回	対面	第8回までの授業の内容の確認のための小テストを行う予定です。 テストの形式は選択肢の中から適切な答えを選ぶ選択形式です。	これまでの講義内容を見直し、小テストに向けて復習しておく。	5時間

		最終的な評価の 20%を占めるので、必ず受けてください。		
第10回	対面	かつての都市人口が増加していた時代から、人口が減少する時代における都市の縮小化(コンパクト化)の方法や考え方について学ぶ。	復習として、都市の集約化を行っている都市の事例をインターネットや書物から調べてみて欲しい。	4 時間
第11回	対面	人口減少社会における「空き家」問題を中心に、中心市街地の活性化について考える。	復習として、『入門 現代日本の経済政策』第9章を読むことで、中心市街地活性化の目的であるコミュニティ政策についての理解が高まる。	4 時間
第12回	対面	人口減少社会の下で、これまでのような都市拡大は期待できない。そのために注目される「コンパクトシティ」について、その理念と課題について取り上げる。	復習として、講義で取り上げた事例についてインターネット等で、現在の状況について調べてみることで、より理解が深まる。	4 時間
第13回	対面	生活スタイルや社会的・経済的環境により、時代ごとに必要とされる都市の形において、現代的な課題を紹介する。	復習として、授業中に紹介する参考書を読んで、より深い理解を得ることを勧める。	4 時間
第14回	対面	地方の経済発展のために「観光を中心としたまちづくり」について、コロナ禍以前と以後の変化について考える。	予習として、日本の観光について、人気のある観光地や、日本を訪れる外国人数について調べてみる。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業の総括を行い、講義内容に関するポイントの理解の深化を図る。	これまでの講義内容を見直しておくことで、最終レポートの準備を始めておくこと。	4 時間

科目名	都市経済論Ⅰ		開講年度	2025
担当者	藤原 幸則		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	日本の都市をめぐる経済現象や都市問題に関する経済分析 - 理論の学修			
授業の目的及び概要	国民の大半は都市に住んでおり、さまざまな経済・社会活動が展開されています。こうした現代社会における都市の重要性からみて、経済学の視点から都市を分析することは重要です。授業では、①日本の都市をめぐる経済現象や都市問題について理解すること、②都市問題に対応する政策のあり方や手法を考えること、ということを目指しています。 なお、授業では、実学の観点から、都市経済論の基礎理論の解説にとどまらず、その理論や考え方を日本・関西の現実の都市問題にも関連づけて解説していきます。さらに、具体的な都市計画、都市インフラ、都市開発、都市政策と都市問題については、都市経済論Ⅱで学修してもらうことになっています。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業を通じて、以下の到達目標を定めています。 ①都市問題について、その原因と課題を説明することができること。 ②都市問題について、対応のあり方や政策を論じることができること。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テスト（3回実施）は、授業中に解答を示し、講評を行います。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし	
参考書	①都市経済学，高橋孝明，有斐閣，2012 年 ②都市経済学（第2版），金本良嗣・藤原 徹，東洋経済新報社，2016 年	ISBN	①9784641184060 ②9784492813034	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講に	学生の皆さんにとっての就職先には、地方自治体や不動産、流通、都市開発、交通といった都市経済論の知識が役立つ産業が多くあります。都市政策に携わる公務員志望者はもとより、都			

あたって	市をビジネスのフィールドとして仕事をしたい人や都市問題に関心のある皆さんの受講を歓迎します。 都市経済論の入門的な授業となりますが、担当教員が経済団体とシンクタンクでの業務経験を生かし、実際の事例やデータも豊富に取り上げて、実学としての学修にも配慮します。 なお、都市経済論の理論や考え方を的確に理解するには、経済学の基礎理論、とくにミクロ経済学の知識が必要ですが、授業では、適宜、ミクロ経済学の基礎的部分を解説したり、経済学の独特な考え方に注意を促したりすることによって、ミクロ経済学を十分に学修していない受講者でも都市経済論の基本的なメッセージを理解できるようにします。数学的な理解など、より厳密に理論や考え方を学修したい場合は、参考書を活用してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：これから都市経済論を学ぼう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法、授業計画について説明します。そして、入門的内容として、私たちの毎日の生活や住んでいる場所にかかわる身近な例をあげつつ、都市経済論を学ぶことの意義やメリットについて解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1 時間
第2回	対面	日本の地域と都市問題（1） 現在の日本で検討すべき都市・地域問題は何なのか、さまざまなデータをもとに解説します。この授業回では、人口減少が予想される中での都市問題・地域問題を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	日本の地域と都市問題（2） 前回授業に続き、現在の日本で検討すべき都市・地域問題は何なのか、さまざまなデータをもとに解説します。この授業回では、都市圏と地方の都市環境の比較、感染症による都市や地域経済への影響を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	住宅市場と住宅政策（1） 住宅市場の分析をするために、住宅の需要曲線、供給曲線と住宅市場の均衡と余剰について解説します。これらはミクロ経済学の応用になります。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	住宅市場と住宅政策（2） 日本の住宅市場ではさまざまな政府の介入が行われていますが、これらの介入政策を経済学的に考えます。そして、住宅市場で問題となる外部性や情報の非対称性について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	都市の住宅立地（1） 都市経済論の基礎となる都市の住宅立地の理論を学びます。ミクロ経済学で学ぶ無差別曲線と予算制約線を用いて、都市内での地代や土地利用がどのように決まり、その決定要因である通勤費や所得などの影響を解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	都市の住宅立地（2） 前回授業に続き、都市の住宅立地の理論を学びます。この授業回では、都市構造の分析とその応用（郊外化や外部不経済に対する施策）について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間

		また、授業終了後、第1回小テストをWebで行います。第2回から第7回までの授業内容から出題します。		
第8回	対面	日本の地域間格差問題 日本の地域には、さまざまな視点から地域間格差の存在を指摘できます。この授業回では、人口や産業構造に関する地域間格差をローレンツ曲線や特化係数といった指標をもとに考察できることを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	地域間人口移動の理論と実際 この授業回では、実際のデータを示しながら日本の人口移動の特性について解説します。また、人口移動に関する理論の紹介も行います。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第10回	対面	都市集積と都市規模 古代から現代、そして未来へ、多くの人が生活を営み、さまざまな経済社会活動が行われる都市がどうして存在するのか。そのために必要な3つの要素、自然条件、規模の経済、集積の経済について解説します。また、授業終了後、第2回小テストをWebで行います。第8回から第10回までの授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第11回	対面	都市インフラ（1） 人口減少下では都市インフラの整備や維持補修は非常に重要になってきます。教育施設から上下水道など生活に必要な都市インフラから防災まで幅広く経済学の視点から考えていきます。この授業回では、地方公共財・公共サービス、都市インフラの規模の経済と集積の経済を取り上げて解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	都市インフラ（2） 前回授業に続き、都市インフラについてさらに学びます。この授業回では、医療サービス、保育・教育サービス、介護サービス、防災インフラを取り上げて、経済学の視点から解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	都市交通 大都市と地方都市では交通に関する問題点が異なっています。大都市では混雑現象、地方都市では交通インフラの維持が問題になります。交通経済は経済学の1つの分野として成り立つぐらい広範な問題を取り扱っていますので、ここでは都市経済論に必要な最小限度の問題について解説します。交通経済に興味をもった方は、都市経済論Ⅱの受講をお勧めします。また、授業終了後、第3回小テストをWebで行います。第11回から第13回までの授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	地方公共投資と都市財政 都市の魅力を高めるために、各自治体は公共投資や公共サービスの供給を行っています。ここでは、これらの供給がどのように変化しているか、その財政的基盤がどの	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間

		ようになっているかを解説します。		
第15回	オンデマンド	全体総括 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5.5 時間

科目名	地方財政論	開講年度	2025
担当者	中村 和之	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地方自治体（都道府県や市町村など）の財政について、その仕組みや役割、機能を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、地方政府の経済活動（地方財政）を考えることです。地方政府とは、都道府県や市町村などの地方自治体を指します。経済活動とは、地方政府が行う公共支出や課税、国から地方への補助金の配分などを意味します。考えるとは、地方政府の活動が経済に与える影響や望ましい地方財政のありかたを検討することを指します。これによって地方財政を巡る課題を考える手がかりを得たいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 わが国の地方財政制度のあらましを説明できる、 2 地方政府の経済活動が社会に与える影響を経済学の理論を用いて考えることができる、 3 地方財政を巡る政策課題について、授業で学んだことを手がかりとして自分なりの見解を述べるができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	理解度を確認するための小テストを出題します（出題方法等は初回の授業でお知らせします）。小テストの結果を踏まえて、理解度向上を図るためのフィードバックを授業や資料配布の形で行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 講義資料を配布して授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①地方財政の見取り図、菅原宏太・松本睦・加藤秀弥、有斐閣、2023 年 ②新しい地方財政論 新版、中井英雄・齊藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之、2020 年	ISBN	①9784641151161 ②9784641221567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
この科目の受講にあたって	その他の内容		
	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に興味を持って観察している、といった共通の特徴があります。 地方財政は私たちの生活と密接に関係しています。ぜひ、地元の自治体の財政に関心を持ち		

	ながら学修に取り組んでください。また、地方財政を学ぶ上では「地域の多様性」を知ることが鍵となります。この授業を通じて広い視野を獲得することを願っています。 担当教員は発展的な学修に向けた話題提供、基礎的な理解度を高めるための教材提供などで皆さんの学修を支援しますので、ぜひ粘り強く取り組んでください。 地方公務員を志望する受講生はもとより、これから社会に出るすべての受講生にとって地方財政に関する知識や経済学的な考え方は大きな力になります。意欲的な取り組みを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・財政の目的】講義の計画と授業の進め方を説明します。続いて、地方財政を巡るトピックスを学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでおいてください。【復習】地元や自分が関心ある自治体の人口構成や財政状況を調べてみてください。	4時間
第2回	対面	【市場経済と地方政府の役割】授業で用いる経済理論の復習を兼ねて、市場経済における地方政府の経済活動の意義を学びます。	【予習】ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておいてください。【復習】講義資料等を活用して経済分析の手法に慣れるように復習してください。	4時間
第3回	対面	【地方財政制度のあらまし】国と地方の財政関係を中心に地方財政の制度と仕組みを学びます。	【復習】様々な専門用語が出てきて戸惑うところですが、参考書や地方財政白書などで制度や仕組みの大枠を把握してください。	4時間
第4回	対面	【地方の歳入、歳出と予算】地方政府の歳入、歳出の状況を知るとともに、予算の仕組みを学びます。	【復習】授業の内容を踏まえて、地元や関心ある自治体の歳入、歳出の状況をネット等で調べてみてください。	4時間
第5回	対面	【地方における公共サービス供給】地方政府が供給する公共サービスの現況と効率的な供給に向けた取り組みを学びます。	【復習】公共サービス生産の効率性に関する諸概念を講義資料等で復習してください。	4時間
第6回	対面	【地方公共財、公共サービス便益の漏出】それぞれの地域には多数の人々が暮らしており、他地域の人々と行き来しながら経済活動を営んでいます。その中で公共サービス供給のあり方を学びます。	【復習】理論的な解説が多くなるので、現実を引き寄せて理解できるように復習してください。	4時間
第7回	対面	【地方政府による公共投資】地方政府によるインフラや公共施設の整備について、現況や機能、課題を学びます。	【復習】授業では基礎的な事柄をお話しするので、地元や関心ある自治体での状況を調べて理解を定着させてください。	4時間
第8回	対面	【行政評価制度・費用便益分析】地方自治体の経済活動を評価するための視点を学びます。	【復習】授業でお話しした視点に沿って、地元や関心ある自治体での行政評価の取り組みを調べてください。	4時間
第9回	対面	【地方税総論、理念、制度、経済効果】租税に関する基礎的な概念を学ぶとともに、地方政府が課す租税の制度と現況、経済効果を学びます。	【復習】国の税制で求められる役割や機能と、地方政府が課す租税に求められる役割や機能の共通点と異なる点を理解できるように整理、復習してください。	4時間
第10回	対面	【地方税（各論）】主要な地方税の制度と仕組み、実態を知るとともに、地方税制度の課題を学びます。	【復習】都道府県や市町村が課す主な租税の仕組みを理解できるように復習してください。	4時間
第11回	対面	【地方交付税】国から地方自治体への財政移転である地方交付税の制度と機能を学びます。	【予習】地方交付税の仕組みが理解できるように復習してください。さらに、地方交付税が地方財政で果たしている役割を講義をもとに考えてください。	4時間
第12回	対面	【国庫支出金】国から地方自治体への補助金の実態と経済効果を学びます。	【復習】補助金の経済効果は理論的な解説が主となります。グラフを用いた説明が理解できるように復習してください。	4時間
第13回	対面	【地方債と財政健全化指標】地方政府の借り入れである地方債の発行について、その制度と役割、機能を学ぶとともに、財政健全化を巡る制度や指標を学びます。	【復習】地方債発行の意義や機能を復習するとともに、財政健全化指標の意味を理解できるように復習してください。	4時間
第14回	対面	【地方財政を巡る課題と展望】これまでの授業を踏まえて、改めて初回の授業で取り上げたトピックスを考えます。	【予習】講義資料でこれまでに取り上げたテーマの重要な論点を復習しておくことで理解が深まります。【復習】ここで考えた地方財政の課題が皆さんの住んで	4時間

			いる自治体ではどのように現れているのか考えてみてください。	
第15回	オンデマンド	これまでの講義を振り返り、重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4時間

科目名	金融論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	小巻 善郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	金融市場と金融商品		
授業の目的及び概要	この金融論Ⅰは、社会に出てから必要となる金融の知識、すなわち金融リテラシーを身につけることを目的としています。 授業では、預金や信託、生命保険、損害保険、公社債、株式、金融派生商品などの代表的な金融商品についての学修が中心となります。 具体的には、まず貨幣の役割や金利・利回り、金融機関の種類といった金融商品の学修に必要な基礎的なことを学びます。その上で、各種の金融商品の具体的な内容とそのリスクを学ぶことに加えて、預金保険制度といった信用秩序維持制度や金融機関への規制のほか、資産選択の理論についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・金融市場の仕組みを理解できるようになる。 ・金融機関の種類を理解できるようになる。 ・主な金融商品の内容とそのリスクを理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	この金融論Ⅰでは、パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント用の資料は、事前に「授業レジュメ」としてラーニングポータルに掲載します。 授業中に毎回課題を出しますので、授業終了時にその課題を提出することが必要です。課題の結果は、授業において口頭でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①金融論（第3版），家森信善，中央経済社，2022 年	ISBN	①9784502415913
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	金融論で取り扱う研究テーマは、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなど多岐にわたっています。 この金融論Ⅰでは、そうした金融論への入門として、金融商品を中心に学修しますが、金融政策やファイナンス、金融システム、国際金融に関するものは、秋学期からの金融論Ⅱで取り上		

げますので、この金融論Ⅰの履修生には、秋学期の金融論Ⅱも履修することを期待しています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメと配布資料を復習する。	4時間
第2回	対面	貨幣の役割 貨幣の役割のほか、マネーストックの定義や、電子マネーなどの新しい決済手段、中央銀行デジタルマネーの動向について学びます。	・参考書の第2章「貨幣」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	金利と利回り 金利と利回りの意味、その決定要因などについて学びます。	・参考書の第3章「金利」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	金融市場の種類 金融市場の種類とその特徴のほか、決済システムの概要などについて学びます。	・参考書の第7章「金融システムと金融仲介機関の役割」を予習する。 ・第4回授業レジュメを復習する。	4時間
第5回	対面	金融機関の種類と役割 金融機関の種類と役割に加えて、間接金融と直接金融の違いなどについて学びます。	・参考書の第8章「銀行以外の金融機関」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	金融商品の基礎…預金・信託 預金の種類とその特徴、信託の基本的な機能とおもな信託商品について学びます。	・参考書の第12章「間接金融型の金融商品」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	金融商品の基礎…生命保険・損害保険 生命保険の種類とその特徴、損害保険の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「間接金融型の金融商品」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	金融商品の基礎…公社債 公社債市場の内容と、公社債の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	金融商品の基礎…株式 株式市場の内容と、株式の種類とその特徴、株価の決定要因などについて学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	金融商品の基礎…投資信託 投資信託の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	金融商品の基礎…デリバティブ商品 デリバティブ商品（先物・オプション・スワップ）の内容とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	金融機関の破綻への対応策 預金保険制度、分別管理と投資者保護基金、保険契約者保護などについて学びます。	・参考書の第10章「金融機関の破綻への対応策」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間
第13回	対面	金融市場への規制 金融市場への規制の必要性やその内容について学びます。	・参考書の第11章「金融市場に関する規制」を予習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	4時間
第14回	対面	資産選択の理論 資産選択の理論に関する基礎的な内容を学びます。	・参考書の第14章「ファイナンスの基礎理論」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の講義内容の総括を行います。	・第15回授業レジュメを復習するとともに、学期末の定期試験に向けて、ポイントを押さえた春学期全体の復習を行う。	4時間

科目名	金融論Ⅱ		開講年度	2025
担当者	小巻 善郎		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	金融のしくみと基礎理論			
授業の目的及び概要	この金融論Ⅱでは、資産運用や為替レートなど社会に出てから必要となる金融の知識を身につけることを目的としています。 そのため、金融論の主要な研究テーマ（金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するもの）のそれぞれの基礎的な内容を学修します。授業ではまず、金融取引の全体像を資金循環の観点から概観し、次いで銀行の貸出行動、家計の資金運用、企業の資金調達といった部門別の金融取引について学びます。続いて、中央銀行の役割と機能、金融政策の手段と波及効果とともに、財政と金融の問題についても学びます。最後に、国際金融分野では国際通貨制度と為替レートの変動要因を学びます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・家計や企業などの部門別の金融取引を理解できるようになる。 ・中央銀行の役割と機能、金融政策を理解できるようになる。 ・国際通貨制度と為替レートの変動要因を理解できるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	この金融論Ⅱでは、パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント用の資料は事前に「授業レジュメ」としてラーニングポータルに掲載します。 授業中に毎回課題を出しますので、授業終了時にその課題を提出することが必要です。課題の結果は、授業において口頭でフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	テキスト指定はありません。		ISBN	なし
参考書	①誰でもわかる金融論, 代田純, 学文社, 2016 年		ISBN	①9784762026874
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		55	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この金融論Ⅱでは、春学期の金融論Ⅰで学修した内容を踏まえたうえで、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなどの基礎的な内容を取り上げますので、金融論Ⅰを履修していることが望ましいと思います。 なお、金融論Ⅰを履修していなくても理解できるように授業は進めていく予定です。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメを復習する。	2時間
第2回	対面	景気変動と金利 景気変動による資金の需給バランスと金利との関係について学びます。	・参考書の第5章「金利と利回り」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	資金循環と金融 各経済主体（家計・企業・政府等）の金融資産・負債、資金運用・調達額、資金過不足の状況について学びます。	・参考書の第1章「金融と通貨」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	決済システム 日銀ネットや全銀システムといった決済システムの仕組みについて学びます。	・参考書の第1章「金融と通貨」を予習する。 ・第4回授業レジュメを予習する。	4時間
第5回	対面	銀行の貸出行動 銀行貸出の種類と特徴、貸出残高の推移、貸出金利の決定要因について学びます。	・参考書の第4章「金融機関」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	家計の資産運用 家計の貯蓄率の動向や背景、資産運用の特徴などについて学びます。	・参考書の第2章「家計と金融」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	企業の資金調達① 企業の資金過不足の動向、資金需要の種類と特徴について学びます。	・参考書の第3章「企業と金融」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	企業の資金調達② 銀行借入や社債といった企業の資金調達の方法と特徴について学びます。	・参考書の第3章「企業と金融」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	中央銀行の役割と機能 日本銀行の歴史と、日本銀行の3つの役割と機能について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	中央銀行の金融政策手段 日本銀行の伝統的な金融政策手段の内容について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	中央銀行の金融政策の効果 日本銀行の非伝統的金融政策の内容とその効果、現状の日本銀行の金融政策の内容について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	財政政策と金融政策 財政政策の内容と金融政策との関係について学びます。	・参考書の第8章「財政と金融」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間
第13回	対面	国際通貨制度の変遷 戦後の固定相場制から変動相場制への国際通貨制度の変遷について学びます。	・参考書の第9章「国際金融」を予習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	4時間
第14回	対面	為替レートの変動要因 円ドルレートの推移とその変動要因について学びます。	・参考書の第9章「国際金融」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	秋学期の総括 秋学期の講義内容の総括を行います。	・第15回授業レジュメを復習するとともに、学期末の定期試験に向けて、ポイントを押さえた秋学期全体の復習を行う。	6時間

科目名	国際経済学 I	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策について学ぶ		
授業の目的及び概要	経済の国際化が進んでいる中で、国境を超える財・サービスの輸出と輸入は活発に発生している。 この講義では、「比較優位」など国際経済学の基礎理論を踏まえ、国際貿易（輸出・輸入）に焦点を当て、国際経済の動向を分析していきます。 この講義を受講することにより、国際経済学の基礎知識を身に付けることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）国際貿易の理論を身に付けること。 （２）様々な貿易政策の効果を理解できること。 （３）国際経済学の基礎知識を身に付けること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	①国際経済をつかむ 第 2 版, 石川城太・椋寛・菊池徹, 有斐閣, 2013 年 ②コア・テキスト国際経済学 第 2 版, 大川昌幸, 新世社, 2015 年	ISBN	①9784641177192 ②9784883842322
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを熟読して予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきま	4 時間

		て 国際経済学の研究対象について	しょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	
第2回	対面	国際貿易の概観	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第3回	対面	比較優位と絶対優位	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第4回	対面	リカード・モデル①	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第5回	対面	リカード・モデル②	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第6回	対面	ヘクシャー＝オリーン・モデル	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第7回	対面	規模の経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第8回	対面	産業内貿易	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第9回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】中間試験でわからなかった内容を復習し、理 解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	生産要素の国際移動	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第11回	対面	貿易政策の手段①関税	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第12回	対面	貿易政策の手段②その他の貿易政策	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第13回	対面	国際貿易協定の概観	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第14回	対面	発展途上国の貿易政策	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第15回	オンデ マンド	講義の振り返りと定期試験に向けての対 策	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしまし ょう。	4 時間

科目名	国際経済学 I	開講年度	2025
担当者	朱 浩良	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果について学びます。		
授業の目的及び概要	この講義では、「比較優位の原理」などの国際経済学の基本的な考え方を学ぶことから出発して、「財・サービスの取引（貿易）」に焦点を当てて、世界経済の基本的な成り立ちを平易に解説し、世界経済の現状を分析していきます。まず、貿易が行われる理論的背景を理解し、国際貿易がもたらす経済的な恩恵を理論モデルで示し、経済のグローバル化のもとで、現在の世界情勢について触れていきます。 実学としての経済学との関係： この授業を受講することにより、国際経済学の視点から、世界経済のしくみを理解できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 国際経済学と世界経済のしくみに関する基本知識を身につけます。 (2) 国際経済情報を自ら分析する能力の基礎を身につけます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	①国際経済をつかむ 第 2 版, 石川城太・椋寛・菊池徹, 有斐閣, 2013 年 ②コア・テキスト国際経済学 第 2 版, 大川昌幸, 新世社, 2015 年	ISBN	①9784641177192 ②9784883842322
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	この授業では経済学の基礎知識が必要となります。授業では必要に応じてそれらの基礎知識について解説を加えます。 なお、授業の進行状況によっては内容を変更することがあります。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス及び世界と日本の貿易の現状	授業内容の復習	4 時間
第2回	対面	部分均衡分析を用いた輸入需要と輸出供給の考え方	授業内容の復習	4 時間
第3回	対面	余剰分析を用いた貿易利益の考え方	授業内容の復習	4 時間
第4回	対面	絶対優位と比較優位の考え方	授業内容の復習	4 時間
第5回	対面	リカード・モデル（1）	授業内容の復習	4 時間
第6回	対面	リカード・モデル（2）	授業内容の復習	4 時間
第7回	対面	生産要素と国際貿易（1）	授業内容の復習	4 時間
第8回	対面	生産要素と国際貿易（2）	授業内容の復習	4 時間
第9回	対面	規模の経済	授業内容の復習	4 時間
第10回	対面	産業内貿易	授業内容の復習	4 時間
第11回	対面	フラグメンテーション/ グローバル・バリューチェーン	授業内容の復習	4 時間
第12回	対面	関税政策の基礎分析（1）	授業内容の復習	4 時間
第13回	対面	関税政策の基礎分析（2）	授業内容の復習	4 時間
第14回	対面	地域貿易協定	授業内容の復習	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめと期末評価の準備	授業内容の復習	4 時間

科目名	世界経済論	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	世界経済の現状と課題		
授業の目的及び概要	経済の国際化が進んでいる中で、国境を超える財・サービスの輸出と輸入は活発に発生している。 この講義では、国際経済学の基礎理論を踏まえ、国際社会で起きている主要な経済問題についての理解を深める、国際経済の動向を分析していきます。また、具体例として中国および ASEAN 等を取り上げ、国際経済社会における役割を検証します。 この講義を受講することにより、国際経済学の基礎知識を身に付けることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）世界経済の実態について認識を深ること。 （２）世界経済の動向と各国・地域の経済との関係を把握できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介していく。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ	4 時間

			う。	
第2回	対面	国際貿易のまとめ	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第3回	対面	為替レートと国際取引	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第4回	対面	固定為替相場制と変動相場制	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第5回	対面	中国の経済状況①	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第6回	対面	中国の経済状況②	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第7回	対面	中国の経済状況③	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第8回	対面	中国の経済状況④	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第9回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】中間試験でわからなかった内容を復習し、理解を深めましょう。	4時間
第10回	対面	食料問題を考える	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第11回	対面	貧困と格差問題を考える	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第12回	対面	開発協力を考える	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第13回	対面	環境問題を考える	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第14回	対面	現在の世界経済の諸課題やリスク	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の振り返りと定期試験に向けての準備	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしましょう。	4時間

科目名	国際金融論	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際的な金融取引や為替レートの動きの要因と影響について考察する		
授業の目的及び概要	経済がグローバル化する中で、国際的な取引は貿易にとどまらず外国の債券や株の売買など多岐にわたる金融取引が拡大しています。こうした国際間の資金移動を引き起こす要因やそうした取引に介在する為替レートの果たす役割とその決定要因、また為替レート変動の影響、変動相場制や共通通貨制度の功罪についても学修します。本講義を通じて、日常のニュースなどで取り上げられる為替レートの変動や国際的な経済関係に対する認識を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	経済理論に基づく分析を含むため、ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①国際収支や国際間の資金移動の動向について正確に理解できる。 ②為替レートの水準を決める要素や変動要因、その変動による経済への影響について理論的に説明できる。 ③「日米の金融政策の変更が円安あるいは円高につながっている」、「最近、実質的には半世紀と同じ円安水準となっている」といった国際金融関連の日々のニュースの内容を、講義での学修内容と対応させて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、講義の内容に関する課題をラーニングポータル上で掲載しますので、それを解答してもらい、正答率に応じて次回講義で復習します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは指定しません。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自事前に閲覧予習しておくこと。	ISBN	なし
参考書	国際収支の定義が大幅に変更されているため、古い参考書、問題集は使えません。できるだけ最近のものを参照してください。 ①国際金融論をつかむ、橋本 優子・小川 英治・熊本 方雄、有斐閣、2019 年 ②国際金融論 15 講、佐野綾野、中田勇人、新世社、2021 年	ISBN	①9784641177284 ②9784883843237
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	

	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業ではミクロ経済学、マクロ経済学双方の基礎知識を応用する内容を含みます。該当するところではわからなかった場合は、ミクロ、マクロ経済学の基礎に立ち返って復習しましょう。なお、授業では必要に応じてそれらの基礎知識について解説を加えます。また、授業の進行状況によっては内容を変更することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスとして授業内容の全体の流れや進め方、学修成果の評価方法について説明します。	国際金融の講義を通じて学習する内容を確認し、外国為替（円レート）などに関するニュースについて日頃から注意してみる習慣をつけましょう。 なお、事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。	2 時間
第2回	対面	国際金融取引と貿易の関係を概観するために、国際収支表を用いて、国際収支（経常取引と金融取引）の基本的な見方と最近の動向について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第3回	対面	外国為替の基礎として、為替市場のしくみと様々な為替関係指標（実質為替レートなど）の見方について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第4回	対面	為替レートの決定理論として購買力平価説について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第5回	対面	為替レートの決定理論として金利平価説について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第6回	対面	為替レートの決定理論としてフローアプローチとアセットアプローチについて解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第7回	対面	為替レートの決定や変動の理論としてポートフォリオバランスモデル、バラッサ＝サミュエルソン効果などについて解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第8回	対面	第7回授業までで学修した国際収支表、為替理論に関して中間テストを実施します。	中間テストに備えて7回目までに学修した内容の総復習をしてください。	4 時間
第9回	対面	資金移動や為替レートの変化による経済への影響を分析する枠組みであるマンデルフレミングモデルについて解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニング	4 時間

			ポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	
第10回	対面	マンデルフレミングモデルに基づいた財政政策と金融政策の効果について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第11回	対面	国際金融のトリレンマ（国際金融上の政策目標間にある対立関係）について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第12回	対面	1990年代半ばアジアで発生した通貨危機について、その発生メカニズムと他の地域への伝播過程、さらにそうした危機に対してどのような対応がとられたか解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第13回	対面	2008年に発生した世界金融危機（リーマンショック）について発生メカニズムと各国の対応について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第14回	対面	2010年初頭に発生した欧州債務危機とその対応、共通通貨制（ユーロ）の課題について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に備え授業全体の総復習（オンデマンド形式）をします。	定期試験に備え、第2回授業から14回授業までの授業内容の総復習をしてください。	6 時間

科目名	開発経済論	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済発展メカニズムや経済開発における諸問題を、経済学的な視点から勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業では、経済発展メカニズムや経済開発における諸問題を、経済学的な視点から勉強します。 貧困のメカニズムや人口問題、経済発展と分配の不平等化、貿易や産業政策の役割、政府の役割などの、開発経済学の入門的な知識を身に着けることを目的とします。 なお、講義内容は授業の進捗状況や受講者の関心に沿って変更することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（1）開発における課題や開発のメカニズムに関する理解を深める。 （2）データやグラフから現状を読み解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業終わりに小テストを実施し、理解度の確認をします。小テストの解説は次回の講義の最初に行います。 中間試験と期末試験を行います。授業内で解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	開発経済学入門（第 3 版），渡辺利夫，東洋経済新報社，2010 年	ISBN	9784492443644
参考書	授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	テキストを精読して予習することが望ましいです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】テキスト 1～14 ページを事前に読んでください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4 時間

第2回	オンデマンド	貧困のメカニズムについて知る	【予習】テキストの15～25ページ事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第3回	オンデマンド	人口転換と出生の経済学について学ぶ	【予習】テキストの27～44ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第4回	オンデマンド	少子高齢化について学ぶ	【予習】テキストの45～66ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第5回	オンデマンド	農業の技術進歩が引き起こされる要因について学ぶ	【予習】テキストの67～86ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第6回	オンデマンド	工業発展①農工2部門モデルについて学ぶ	【予習】テキストの87～111ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第7回	オンデマンド	工業発展②工業化政策について学ぶ	【予習】テキストの113～132ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第8回	オンデマンド	中間試験と解説	【予習】今までの授業内容を復習をしましょう。 【復習】中間試験でわからなかった箇所を復習し、知識を定着させましょう。	4時間
第9回	オンデマンド	貿易と海外直接投資について学ぶ	【予習】テキストの133～154ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第10回	オンデマンド	市場経済への転換について学ぶ	【予習】テキストの155～183ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第11回	オンデマンド	政府開発援助について学ぶ	【予習】テキストの185～202ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第12回	オンデマンド	経済危機について知る	【予習】テキストの203～230ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第13回	オンデマンド	経済統合について考える	【予習】テキストの231～249ページを事前に読んでおいてください。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第14回	オンデマンド	持続可能な開発について考える	【予習】持続可能な開発について調べてみましょう。 【復習】小テストに取り組みましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ	【予習】全体の振り返りをしましょう。 【復習】学んだ点をまとめてみましょう。	4時間

科目名	アジア経済概論	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア経済発展のメカニズムを解明するとともに、現在生じつつある新たな課題についても理解する。		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、アジア経済発展のメカニズムや現在生じている新たな課題に対する知見を深めることです。授業では、東アジアおよび東南アジアの経済に焦点を当て、特に 21 世紀のアジア経済に注目し、各国のアジア経済における位置づけを勉強します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) アジア経済発展の特徴およびその背景に関する知識を深める。 (2) データや図表等からアジアの経済の現状や将来を読み解くことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講授業終了後にコメントシートを回収します。 コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代アジア経済論――「アジアの世紀」を学ぶ、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編）、有斐閣ブックス、2018 年	ISBN	ISBN 9784641184428
参考書	授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	テキストの内容を事前に読んでおくことが望ましいです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、授業の進め方などについて。 テキスト序章 「アジアの世紀」のアジア経済論	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第 2 回	対面	テキスト第 1 章 変貌するアジア―ア	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいて	4 時間

		アジア経済はどう論じられてきたか	ください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	
第3回	対面	テキスト第2章 アジア化するアジア ー域内貿易と経済統合の進展	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第4回	対面	テキスト第3章 中国が変えるアジア ー改革開放と経済大国・中国の登場	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第5回	対面	テキスト第4章 生産するアジア ーグローバルな分業ネットワークと地場企業の発展	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第6回	対面	テキスト第5章 資本がめぐるアジア ー成長と資本フロー	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第7回	対面	テキスト第6章 移動するアジア ー相互依存関係の深まりと加速するヒトの流れ	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第8回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの授業内容の復習をしましょう。 【復習】中間試験でわからなかった箇所を復習し、知識を定着させましょう。	4 時間
第9回	対面	テキスト第7章 革新するアジア ー中所得国化と成長パターンの転換	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第10回	対面	テキスト第8章 都市化するアジア ーメガリージョン化する都市	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第11回	対面	テキスト第9章 インフォーマル化する アジア ーアジア経済のもう1つのダイナミズム	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第12回	対面	テキスト第10章 老いていくアジア ー人口ボーナスから人口オーナスへ	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第13回	対面	テキスト第11章 不平等化するアジア ー貧困から格差へ	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第14回	対面	テキスト第12章 環境問題に向き合うア ジア ー後発性と多様性のなかで 第13章 分かちあうアジア ー開発協力と相互依存	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおいてください。 【復習】テキストを復習して、知識を定着させましょう。	4 時間
第15回	オンデ マンド	第1回～第14回授業の講義内容を振り返るとともに、期末試験に向けての対策について、オンデマンド授業を実施します。	【復習】全体の振り返りをして、期末試験に向けての準備をしておいてください。	4 時間

科目名	アジア経済概論	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	躍進するアジア経済発展のメカニズムを解明するとともに、現在生じつつある新たな課題についても理解する。		
授業の目的及び概要	本授業の目的は、アジア経済発展のメカニズムについての理解を深め、現在生じている新たな課題についても知見を深めることにある。授業では、特に東アジア、東南アジア、南アジアの経済に焦点を当てる。本授業では、以下の2つのアプローチを通してアジア経済への理解を深めていく。第1のアプローチは、1950 年代から 60 年代にかけての輸入代替工業化に始まり 1970 年代から 90 年代までの輸出指向型工業化の成功に見られるキャッチアップ型工業化の時代、そして 2000 年代以降から現在に至るポスト・キャッチアップの時代におけるアジア経済の大きな変化と課題を考察することである。第2のアプローチは、アジア諸国における様々な経済活動が国境を越えてグローバルに行われていることを踏まえ、アジアという地域レベルの統合や、アジアが世界的なサプライチェーンの一環に組み込まれていることを理解することである。		
履修条件・留意点	・特にありませんが、1950 年代以降のアジア経済の発展を振り返るとともに、現在の世界経済に占めるアジア経済の重要性について理解を深めたい学生諸君の履修を期待しています。 ・テキストの内容すべてを扱うわけではありませんが、アジア経済の現状についての基本的な理解が得られるように章を選んで講義を行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本との相互依存関係がますます強くなりつつあるアジア経済の現状を理解し、今後のアジアの経済発展について、自らの言葉で語り、また分析できるようになること、そして、本授業で学修したことが将来の職業選択や就職活動に資するようになることを目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①アジア経済論，小林尚朗・山本博史・矢野秀一，春日尚雄編著，文眞堂，2022 年	ISBN	①9784830951749
参考書	特にありませんが、必要があれば、適宜授業の中で指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講に	・各講で学習するテキストの内容を事前に読んでくることは必須です。 ・疑問点を明確にして授業に臨んでください。		

あたって	・本授業を通して、アジア経済と日本経済との結びつきの強さとともに、グローバル・エコノミーの中でのアジア経済の重要性についての理解を深めてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて。 ・テキスト 第1章 アジア経済の発展と新たなフロンティア（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第2回	対面	テキスト 第1章 アジア経済の発展と新たなフロンティア（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第3回	対面	テキスト 第2章 アジアの経済統合の現状と課題（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第4回	対面	テキスト 第2章 アジアの経済統合の現状と課題（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第5回	対面	テキスト 第3章 中国の経済発展と今後の制約要因（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第6回	対面	テキスト 第3章 中国の経済発展と今後の制約要因（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第7回	対面	テキスト 第4章 対外経済政策としての一帯一路構想テキスト（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第8回	対面	テキスト 第4章 対外経済政策としての一帯一路構想テキスト（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第9回	対面	テキスト 第5章 シンガポールにおける経済発展－国家主導型開発モデルテキスト（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第10回	対面	テキスト 第5章 シンガポールにおける経済発展－国家主導型開発モデルテキスト（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第11回	対面	テキスト 第6章 変容する現代インド経済－再生可能エネルギー、デジタル分野を中心に（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第12回	対面	テキスト 第6章 変容する現代インド経済－再生可能エネルギー、デジタル分野を中心に（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第13回	対面	テキスト 第15章 アジアのエネルギー市場と気候変動（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラ	3時間

			ーニングポータルから小テストに解答すること。	
第14回	対面	テキスト 第15章 アジアのエネルギー市場と気候変動（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	3時間
第15回	オンデマンド	第1回～第14回授業の講義内容を振り返るとともに、期末試験に向けての対策について、オンデマンド授業を実施する。	【復習】動画視聴で再確認した重要事項を中心に、期末試験に向けての準備を万端にしておいてください。	3時間

科目名	中国経済論	開講年度	2025
担当者	木下 英雄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	戦後日中経済関係の歴史		
授業の目的及び概要	この授業は、改革開放後、特に経済大国化した後の中国経済の現状と課題について理解することを目指す。具体的には、国交回復前の日中貿易の発展とその限界、国交回復後の日中貿易、ODA、日系企業進出等による日本の貢献等について解説する。また今年度は、昨年度に引き続き、米中経済関係の歴史と一帯一路、米中「新冷戦」についてもみていくこととする。また、北京オリンピックの効果も含めて、現代における中国の著しい経済発展の要因について理解するとともに、それによって生じる格差、貧困、環境汚染等の問題に焦点をあて、これらの諸問題の解決方法についても考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	2010 年代後半には改善傾向が一時的にみられたものの、米国バイデン政権の対中強硬政策の同盟国を巻き込む形の遂行が行われる中、敵基地攻撃能力保有で、日中国交回復の 50 周年を祝うべき年であった 2022 年は、再び日中関係が険悪化していました。2023 年 11 月、米中首脳会談が行われ、米中対立の緩和の期待が生まれるとともに、日中間でも戦略的互惠関係が再確認され、2024 年 12 月に日中外相会談が開かれ、日中ハイレベル経済対話の開催、日中安保対話の開催で合意し、対立が緩和しているようにも見えます。しかし、日本とは本来は無関係なはずの中台危機のためにわざわざ日本が南西諸島を中心に敵基地攻撃可能なミサイルを配備する動きは変わっていません。90 年代後半以降、長く険悪な関係が続いてきた日中関係も一時期は非常に良かった時期もありました。1980 年代に日中間の蜜月期を形成した日本から中国への ODA 経済援助は、戦後賠償免除とも密接なかわりがあります。蜜月期には歴史認識問題はそれほど大きくは問われませんでした。日中間の経済交流の歴史を概観することは、日中関係自体を好転させるヒントを得るのに役立つはずであることはもちろんですが、東アジア諸国との良好な関係を今後築いていくために何が必要かを考えるヒントも与えてくれるでしょう。歴史認識問題への望ましい対応を考えると共に、戦後の日中経済交流の歴史を 一、国交のなかった 50 年代、60 年代、 二、国交回復後の良好な関係が築かれていた蜜月期を含む 70 年代から 90 年代前半、 三、悪化した関係の続く 90 年代後半以降 の 3 つの時期に区分して、それぞれの時期の経済交流の特徴を理解する。社会におけるいろいろな状況に置かれた人たちのそれぞれの立場から考えて、どのような経済政策、貿易・投資政策、日中交流の在り方、それぞれの人の社会に向き合う態度が望ましいか、それぞれの人の利益に合うかを考えることが出来るようになることが重要です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の最後に質問時間を設けていますが、時間なかったり、質問しにくかったりする場合もあるかと思うので、毎回の受講票に質問内容を書いておいてください。学会発表前や新しいプリントの作成の時には出来ないことも出て来るかとは思いますが、出来る限り次の授業で回答するようにしたいと思います。もし、答えて欲しい質問に回答がなかったり、回答が早く欲しい場合は、目立つように赤色など色のついたペンでもう一度書いておいてください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	テキストは使用しません。

参考書	①国分良成・渋谷芳秀・高原明生・川島真『日中関係史』有斐閣アルマ 2013 年 ②毛里和子『日中関係』岩波新書、2006 年 ③服部健治・丸川知雄『日中関係史Ⅱ 1972-2012 経済』東京大学出版会	ISBN	①9784641220065 ②9784004310211 ③9784130230629
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本人学生の皆さんには歴史認識問題に強くなり、日中関係の改善に貢献できる人になってもらえればと思います。中国人の皆さんには日本国内の現実をよく見て歴史認識問題が根強く残る要因と友好を育む大多数の日本人との付き合い方を考えてもらえればと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	戦後日中関係を概観するビデオを見てもらいます。	ビデオの内容を中心とした、戦後日中関係を整理したプリントを配布しますので、それを見ておいてください。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第2回	オンデマンド	日華平和条約とココムの制約下で始まった日中民間貿易(50年代)。50年代に国交のない状態で始められた民間の日中貿易はどのような環境にあったか。その貿易の特徴はどのようなものだったか。貿易協定で日本と中国、それぞれの基本的姿勢はどのようなものであったか。58年にいったん全面ストップした原因は?	50年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p39-73 ②p1-14, p21-32, p36-42 ③p5-9 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第3回	オンデマンド	2つのチャンネルで行われた日中貿易(60年代)。60年代の2つの貿易チャンネルとは?経済政策重視の池田内閣の下で中国側の念願の工業プラント輸入を実現するためにとられた貿易の方式とは?これは通産省の役人の支持を取り付けて行われた半官半民の貿易とされるが、それに対し政府はどのような態度を取り、これを阻止するために台湾はどのような行動に出たか?	60年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p75-104 ②p14-20, p33-35, p43-48 ③p9-13 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第4回	オンデマンド	米中接近と日中国交正常化。米中それぞれのどのような事情が米中接近へと向かわせたか。60年代後半に工業プラント貿易を可能にした貿易方式が、台湾の行動で失速していたが、70年の「周恩来四条件」はどのような効果をもたらしていたか。米中接近後、一気に日中国交正常化に突き進んだ要因は?	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p105-128②p49-94③55-57 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第5回	オンデマンド	対ソ戦略提携と中国近代化路線の下で発展した日中貿易(70年代)。70年代の日中貿易の発展は、日中双方のどのような経済状況に基づくものか。1974年日中貿易協	70年代日中関係について説明したまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p129-	4時間

		定で、対ソ戦略提携のもと米国が行った貿易規制緩和をまねたと考えられるその中身とは?1978 年長期貿易協定により、ようやく日本政府も正式に承認して始められた工業プラント輸入にいったんストップがかかった要因は?またそれに対して日本側はどのような手を差しのべたか。	137, p142-145 ②p96-104③p58-63, p73-80, p123-130 さらに出来れば p81-95 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第 6 回	オンデマンド	改革開放政策と ODA 援助(80 年代)。日本が ODA 援助を行い、中国がそれを受けることになったそれぞれの事情はどういうものか。米国からの対中 ODA 援助が少なく日本がダントツだった原因は?ODA 援助実施に当たっては日本の省庁間で諸外国の懸念もあり対立があった。その対立はどのようなもので、どのような調整が図られたか。ODA 援助に対して中国人の評価は?80 年代の対中直接投資に多かった委託加工とは?	80 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p145-167②p44-45, p104-128③p105-121, p131-137 さらに出来れば p139-163 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 7 回	オンデマンド	天安門事件の背後の 2 つの経済路線勢力と日本。歴史的に重要な第 11 期 3 中全会ののち改革開放が直ちには始まらず、海外からの工業プラント輸入キャンセル問題を惹き起こす原因を作った勢力とは?それに対し、鄧小平はどのように行動し、日本はそれをどのように支えたか。天安門事件において学生、民衆は何に抗議していたか、それに対し武力鎮圧を行った異なる 2 つの方向の勢力とは?それに対して日本はどのような態度で臨んだか?	2 つの経済路線勢力と日本の中国関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p160-167 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 8 回	オンデマンド	南巡講話と外資企業、日系外資企業(90 年代)。世界的対中投資ブームが起こった要因は?90 年代に現地法人を設立した外資企業は何を目的として進出してきた企業が多いか。WTO 加盟を果たすためにどのような規制緩和が行われたか。2000 年前後から外資企業の進出目的で増えてきたのはどのような目的か?90 年代後半以降、ODA の重点は環境協力に移行する。日本の環境協力について見ておく。	90 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p172-181③p22-31, p46-47, p167-181, さらに出来れば p175-181, p219-243 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 9 回	オンデマンド	台湾海峡危機、安保再定義、中国の高度経済成長と日中関係の悪化。95 年くらいまでは日中関係は蜜月関係と言われるほど良好であったが、95 年前後以降、一気に悪化した。その要因は何だったか。	参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p181-201②p130-184 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 10 回	オンデマンド	中国の海洋経済発展戦略。中国の海洋発展戦略とその土台となっている海洋経済発展戦略とはどんなものか。領有権問題における帰属についてどのように考えるべきか。中国、日本はそれぞれどのような根拠に基づいて自国領有権を主張しているか。	海洋経済発展戦略に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は参考書の該当箇所を見ておいください。①p232-247 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	米国の対中関与政策。米国は中国に対し、50 年代のココムをはじめとして、経済関係の規制を行ってきた。中国から GATT、WTO 加盟申請に対して、米国はどのように対応してきたか。中国が GATT、WTO 加盟を申請するに至るまでおよび申請後、交渉し、実際に加盟を果たす中でどのような変	米国の対中関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間

		化を遂げてきたか。		
第12回	オンデマンド	新たな外資導入政策と中国進出日本企業の特徴(2000年代以降)。2000年代の政冷経熱、2012年以降の政冷経冷の意味は？外資企業の沿海部に集中している状況に対し、中国政府はどのような政策を打ち出したか。中国に進出した外資企業の中で、日本企業はどのような特徴を持っているか。	2000年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書①p203-231 ②p185-223 ③p247-256 p333-342 さらに出来れば p307-330。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第13回	オンデマンド	中国「一帯一路」政策。中国は、米国の制止を振り切って参加してきた英独仏伊含む70か国もの参加国を集めて AIIB(アジアインフラ投資銀行)を創設し、中国から欧州までを「シルクロード経済帯」(「一帯」と「21世紀海上シルクロード」(「一路」)で結ぶために交通インフラを建設しそれを金融面から支えようとしている。具体的進行状況とともにその目的について見ておきます。	中国「一帯一路」政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第14回	オンデマンド	米中関係の戦後史を見ることにします。新中国建国間もないころのココム、チンコム対中包囲網、米中接近後のチャイナカード時代、対中関与政策の時代と「新冷戦」に入る前の米中関係の歴史を見ていきます。	米中関係の歴史に関するまとめプリントを配布しますので、授業プリントとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	対中関与政策との決別と対中制裁の行方。米国トランプ政権は、TPPを離脱し、保護貿易政策を打ち出し、世界各国に自国第一主義の貿易政策、投資政策などを押し付けました。中国との間には米中貿易戦争など対中制裁が行われました。バイデン政権も、自国第一主義の政策は廃止したものの対中強硬路線は続いています。対中制裁の背景、具体的様相と日本への影響を見るとともに、今後あるべき世界経済秩序について考えることとします。	対中関与政策との決別と対中制裁に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間

科目名	中国経済論	開講年度	2025
担当者	木下 英雄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	戦後日中経済関係の歴史		
授業の目的及び概要	この授業は、改革開放後、特に経済大国化した後の中国経済の現状と課題について理解することを目指す。具体的には、国交回復前の日中貿易の発展とその限界、国交回復後の日中貿易、ODA、日系企業進出等による日本の貢献等について解説する。また今年度は、昨年度に引き続き、米中経済関係の歴史と一帯一路、米中「新冷戦」についてもみていくこととする。また、北京オリンピックの効果も含めて、現代における中国の著しい経済発展の要因について理解するとともに、それによって生じる格差、貧困、環境汚染等の問題に焦点をあて、これらの諸問題の解決方法についても考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	2010 年代後半には改善傾向が一時的にみられたものの、米国バイデン政権の対中強硬政策の同盟国を巻き込む形の遂行が行われる中、敵基地攻撃能力保有で、日中国交回復の 50 周年を祝うべき年であった 2022 年は、再び日中関係が険悪化していました。2023 年 11 月、米中首脳会談が行われ、米中対立の緩和の期待が生まれるとともに、日中間でも戦略的互惠関係が再確認され、2024 年 12 月に日中外相会談が開かれ、日中ハイレベル経済対話の開催、日中安保対話の開催で合意し、対立が緩和しているようにも見えます。しかし、日本とは本来は無関係なはずの中台危機のためにわざわざ日本が南西諸島を中心に敵基地攻撃可能なミサイルを配備する動きは変わっていません。90 年代後半以降、長く険悪な関係が続いてきた日中関係も一時期は非常に良かった時期もありました。1980 年代に日中間の蜜月期を形成した日本から中国への ODA 経済援助は、戦後賠償免除とも密接なかわりがあります。蜜月期には歴史認識問題はそれほど大きくは問われませんでした。日中間の経済交流の歴史を概観することは、日中関係自体を好転させるヒントを得るのに役立つはずであることはもちろんですが、東アジア諸国との良好な関係を今後築いていくために何が必要かを考えるヒントも与えてくれるでしょう。歴史認識問題への望ましい対応を考えると共に、戦後の日中経済交流の歴史を 一、国交のなかった 50 年代、60 年代、 二、国交回復後の良好な関係が築かれていた蜜月期を含む 70 年代から 90 年代前半、 三、悪化した関係の続く 90 年代後半以降 の 3 つの時期に区分して、それぞれの時期の経済交流の特徴を理解する。社会におけるいろいろな状況に置かれた人たちのそれぞれの立場から考えて、どのような経済政策、貿易・投資政策、日中交流の在り方、それぞれの人の社会に向き合う態度が望ましいか、それぞれの人の利益に合うかを考えることが出来るようになることが重要です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の最後に質問時間を設けていますが、時間なかったり、質問しにくかったりする場合もあるかと思うので、毎回の受講票に質問内容を書いておいてください。学会発表前や新しいプリントの作成の時には出来ないことも出て来るかとは思いますが、出来る限り次の授業で回答するようにしたいと思います。もし、答えて欲しい質問に回答がなかったり、回答が早く欲しい場合は、目立つように赤色など色のついたペンでもう一度書いておいてください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	テキストは使用しません。

参考書	①国分良成・渋谷芳秀・高原明生・川島真『日中関係史』有斐閣アルマ 2013 年 ②毛里和子『日中関係』岩波新書、2006 年 ③服部健治・丸川知雄『日中関係史Ⅱ 1972-2012 経済』東京大学出版会	ISBN	①9784641220065 ②9784004310211 ③9784130230629
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本人学生の皆さんには歴史認識問題に強くなり、日中関係の改善に貢献できる人になってもらえればと思います。中国人の皆さんには日本国内の現実をよく見て歴史認識問題が根強く残る要因と友好を育む大多数の日本人との付き合い方を考えてもらえればと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	戦後日中関係を概観するビデオを見てもらいます。	ビデオの内容を中心とした、戦後日中関係を整理したプリントを配布しますので、それを見ておいてください。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第2回	オンデマンド	日華平和条約とココムの制約下で始まった日中民間貿易(50年代)。50年代に国交のない状態で始められた民間の日中貿易はどのような環境にあったか。その貿易の特徴はどのようなものだったか。貿易協定で日本と中国、それぞれの基本的姿勢はどのようなものであったか。58年にいったん全面ストップした原因は？	50年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p39-73 ②p1-14, p21-32, p36-42 ③p5-9 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第3回	オンデマンド	2つのチャンネルで行われた日中貿易(60年代)。60年代の2つの貿易チャンネルとは？経済政策重視の池田内閣の下で中国側の念願の工業プラント輸入を実現するためにとられた貿易の方式とは？これは通産省の役人の支持を取り付けて行われた半官半民の貿易とされるが、それに対し政府はどのような態度を取り、これを阻止するために台湾はどのような行動に出たか？	60年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p75-104 ②p14-20, p33-35, p43-48 ③p9-13 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第4回	オンデマンド	米中接近と日中国交正常化。米中それぞれのどのような事情が米中接近へと向かわせたか。60年代後半に工業プラント貿易を可能にした貿易方式が、台湾の行動で失速していたが、70年の「周恩来四条件」はどのような効果をもたらしていたか。米中接近後、一気に日中国交正常化に突き進んだ要因は？	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p105-128②p49-94③55-57 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第5回	オンデマンド	対ソ戦略提携と中国近代化路線の下で発展した日中貿易(70年代)。70年代の日中貿易の発展は、日中双方のどのような経済状況に基づくものか。1974年日中貿易協	70年代日中関係について説明したまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p129-	4時間

		定で、対ソ戦略提携のもと米国が行った貿易規制緩和をまねたと考えられるその中身とは?1978 年長期貿易協定により、ようやく日本政府も正式に承認して始められた工業プラント輸入にいったんストップがかかった要因は?またそれに対して日本側はどのような手を差しのべたか。	137, p142-145 ②p96-104③p58-63, p73-80, p123-130 さらに出来れば p81-95 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第 6 回	オンデマンド	改革開放政策と ODA 援助(80 年代)。日本が ODA 援助を行い、中国がそれを受けることになったそれぞれの事情はどういうものか。米国からの対中 ODA 援助が少なく日本がダントツだった原因は?ODA 援助実施に当たっては日本の省庁間で諸外国の懸念もあり対立があった。その対立はどのようなもので、どのような調整が図られたか。ODA 援助に対して中国人の評価は?80 年代の対中直接投資に多かった委託加工とは?	80 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p145-167②p44-45, p104-128③p105-121, p131-137 さらに出来れば p139-163 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 7 回	オンデマンド	天安門事件の背後の 2 つの経済路線勢力と日本。歴史的に重要な第 11 期 3 中全会ののち改革開放が直ちには始まらず、海外からの工業プラント輸入キャンセル問題を惹き起こす原因を作った勢力とは?それに対し、鄧小平はどのように行動し、日本はそれをどのように支えたか。天安門事件において学生、民衆は何に抗議していたか、それに対し武力鎮圧を行った異なる 2 つの方向の勢力とは?それに対して日本はどのような態度で臨んだか?	2 つの経済路線勢力と日本の中国関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p160-167 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 8 回	オンデマンド	南巡講話と外資企業、日系外資企業(90 年代)。世界的対中投資ブームが起こった要因は?90 年代に現地法人を設立した外資企業は何を目的として進出してきた企業が多いか。WTO 加盟を果たすためにどのような規制緩和が行われたか。2000 年前後から外資企業の進出目的で増えてきたのはどのような目的か?90 年代後半以降、ODA の重点は環境協力に移行する。日本の環境協力について見ておく。	90 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p172-181③p22-31, p46-47, p167-181, さらに出来れば p175-181, p219-243 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 9 回	オンデマンド	台湾海峡危機、安保再定義、中国の高度経済成長と日中関係の悪化。95 年くらいまでは日中関係は蜜月関係と言われるほど良好であったが、95 年前後以降、一気に悪化した。その要因は何だったか。	参考書の該当箇所を見ておいください。参考書①p181-201②p130-184 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 10 回	オンデマンド	中国の海洋経済発展戦略。中国の海洋発展戦略とその土台となっている海洋経済発展戦略とはどんなものか。領有権問題における帰属についてどのように考えるべきか。中国、日本はそれぞれどのような根拠に基づいて自国領有権を主張しているか。	海洋経済発展戦略に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。また、余裕ある人は参考書の該当箇所を見ておいください。①p232-247 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	米国の対中関与政策。米国は中国に対し、50 年代のココムをはじめとして、経済関係の規制を行ってきた。中国から GATT、WTO 加盟申請に対して、米国はどのように対応してきたか。中国が GATT、WTO 加盟を申請するに至るまでおよび申請後、交渉し、実際に加盟を果たす中でどのような変	米国の対中関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間

		化を遂げてきたか。		
第12回	オンデマンド	新たな外資導入政策と中国進出日本企業の特徴(2000年代以降)。2000年代の政冷経熱、2012年以降の政冷経冷の意味は？外資企業の沿海部に集中している状況に対し、中国政府はどのような政策を打ち出したか。中国に進出した外資企業の中で、日本企業はどのような特徴を持っているか。	2000年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書①p203-231 ②p185-223 ③p247-256 p333-342 さらに出来れば p307-330。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第13回	オンデマンド	中国「一帯一路」政策。中国は、米国の制止を振り切って参加してきた英独仏伊含む70か国もの参加国を集めて AIIB(アジアインフラ投資銀行)を創設し、中国から欧州までを「シルクロード経済帯」(「一帯」と「21世紀海上シルクロード」(「一路」)で結ぶために交通インフラを建設しそれを金融面から支えようとしている。具体的進行状況とともにその目的について見ておきます。	中国「一帯一路」政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第14回	オンデマンド	米中関係の戦後史を見ることにします。新中国建国間もないころのココム、チンコム対中包囲網、米中接近後のチャイナカード時代、対中関与政策の時代と「新冷戦」に入る前の米中関係の歴史を見ていきます。	米中関係の歴史に関するまとめプリントを配布しますので、授業プリントとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	対中関与政策との決別と対中制裁の行方。米国トランプ政権は、TPPを離脱し、保護貿易政策を打ち出し、世界各国に自国第一主義の貿易政策、投資政策などを押し付けました。中国との間には米中貿易戦争など対中制裁が行われました。バイデン政権も、自国第一主義の政策は廃止したものの対中強硬路線は続いています。対中制裁の背景、具体的様相と日本への影響を見るとともに、今後あるべき世界経済秩序について考えることとします。	対中関与政策との決別と対中制裁に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいください。参考書の該当箇所なし。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間

科目名	アメリカ経済論	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アメリカ経済の現状と課題		
授業の目的及び概要	世界第一の経済大国であるアメリカは、紛れもなくグローバル社会の中心的存在として、各国・地域の政治や経済の動向にも大きな影響を及ぼしている。 そのアメリカの経済の状況や構造を学んでいくことは、単にその国についての知識と教養を深めるのみならず、今後のグローバル経済の行方や国際政治の流れを読み解くうえでも重要なファクターとなる。 本講義では、こうしたアメリカと国際社会との関係にも注視しながら、現在のアメリカ経済の実態を様々な視点から平易に解説し、アメリカが抱えている経済的な問題や課題についても明らかにしていく。 本科目は、国際経済コースを選択した学生に求められる、国家間の経済関係や諸外国の経済事情への理解を深めていくことを目的としており、本コースの基本科目となっている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）アメリカ経済の実態について、あらゆる角度から説明できる。 （２）アメリカが直面している経済問題について理解し、その対応策を導き出すことができる。 （３）アメリカ経済と各国・地域の経済との関係を把握し、グローバル経済の行方を考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	①現代アメリカ経済分析―理念・歴史・政策，中本悟・宮崎礼二，日本評論社，2013 年 ②アメリカ経済論入門 第3 版，宮田由紀夫・玉井敬人，晃洋書房，2018 年 ③入門アメリカ経済 Q&A100，坂出健・秋元英一・加藤一誠，中央経済社，2019 年 ④現代アメリカ経済史 「問題大国」の出現，谷口明文・須藤功，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784535557604 ②9784771036178 ③9784502291913 ④9784641164925
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	35	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書を熟読して予習をするとともに、授業中には必ずノートを取ることが重要である。中間テストや定期試験に対応するには、講義内で示されるポイントを理解しておくことがカギとなるため、欠かさずに授業に出席することが求められる。また、普段から新聞やニュースを通して、アメリカの政治経済事情に触れておくとい良いでしょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 講義の進め方や評価の方法を説明し、本講義で取り扱うアメリカ経済の主要なトピックスについて概説する。	講義資料に目を通して、学習する内容を把握しておくとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第2回	オンデマンド	アメリカ経済の土台となっている基本的な理念や政治との関係について説明する。	講義資料や参考書①「第1章 資本主義発展と遠ざかる建国の理念」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	オンデマンド	アメリカ経済の発展の経緯を GDP 統計と主要な経済イベントに着目して解説していく。	講義資料や参考書①「第2章 マクロ経済の展開と政策思想の変遷」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	オンデマンド	産業構造の変化とその特徴について学んでいく。	講義資料や参考書①「第3章 産業構造の再編とその現段階」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデマンド	雇用環境と企業システムについて、主要な企業などにも注目して解説する。	講義資料や参考書①「第3章 産業構造の再編とその現段階」と「第5章 社会保障制度」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	オンデマンド	アメリカ経済の大きな問題となっている格差と貧困の状況について学習する。	講義資料や参考書①「第4章 科学技術政策と教育政策」、「第5章 社会保障制度」、「第8章 低所得コミュニティの開発と金融」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	オンデマンド	政策論争の中心的な課題となりやすい社会保障制度について学んでいく。	講義資料や参考書①「第5章 社会保障制度」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	オンデマンド	アメリカの国家予算と財政状況について説明する。	講義資料や参考書①「第6章 オバマ政権と自由裁量的財政政策の復権」を熟読して予習を行うとともに	4 時間

			に、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	
第9回	オンデマンド	2008年に世界経済を揺るがした米国発の金融危機について解説する。	講義資料や参考書①「第7章 金融規制の政治経済学」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第10回	オンデマンド	連邦準備制度と金融政策について学習する。	講義資料や参考書①「第9章 金融システムとアンバノクト」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第11回	オンデマンド	貿易の状況と自由貿易協定（FTA）政策について概説する。	講義資料や参考書①「第11章 NAFTAと対ラテンアメリカFTA戦略」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第12回	オンデマンド	通商政策とその根幹をなす貿易戦略について学んでいく。	講義資料や参考書①「第10章 多極化のなかの通商政策」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第13回	オンデマンド	国際通貨制度とドルの機能について説明する。	講義資料や参考書①「第12章 グローバルな資金循環とドル体制の行方」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第14回	オンデマンド	日本とアメリカの経済関係について、これまでの経緯も含めて学んでいく。	講義資料や参考書①「終章 戦後日米経済関係」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて	定期試験に関する案内に沿って、各自で試験に向けた課題に取り組んでください。これまでの学習を通して学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて振り返りを行ってください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間

科目名	社会政策	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	本講義では社会政策について、第 1 回～第 11 回で現在の日本を事例として、第 12～14 回) では近現代のイギリスを事例として、社会政策に対する理解を深めていく。		
授業の目的及び概要	本講義では、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会政策について、現代日本の政策と近現代イギリスの社会政策をめぐる試行錯誤の歴史から学びます。この授業を受講することにより、労働者の生活を保護する社会政策の必要性や意義を、実学としての経済学の一環として理解することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会保障政策、労働政策、保健・医療制度のあらましについて説明することができる。 第二に、自由放任を旨としたイギリスにおいて福祉国家が誕生し、解体され、転換を迫られた歴史的事象を学ぶことで、国家は民事に介入すべきでないという原則をもつ資本主義市場経済において、その原則を修正するような社会政策がなぜ必要とされたのか、具体的な事例や問題を挙げて説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	なし
参考書	参考文献については、適宜授業中に指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日頃から、政治、経済、社会、労働、社会保障のニュースに関心を持って、新聞や TV を視聴するようにしましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス】 前半に授業の進め方について説明し、後半	予習：労働や社会保障のニュースに意図的に触れて、自分なりに社会政策とは何かを考えてみる。	4 時間

		で社会政策とは何かについて講義します。	復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。	
第2回	対面	【最低生活保障システム①】 最低賃金に着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第3回	対面	【最低生活保障システム②】 生活保護、社会保険などに着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第4回	対面	【働き方改革①】 「働き方改革」について、労働時間をめぐる諸問題に着目しながら理解を深めます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第5回	対面	【働き方改革②】 「働き方改革」について、非正規雇用や同一価値労働同一賃金などをキーワードとして学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第6回	対面	【働き方改革③】 「働き方改革」について、WLB（ワーク・ライフ・バランス）を模索する政策を中心に学びます。 【高齢社会における福祉】 高齢社会に対応する社会政策のあり方について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第7回	対面	【失業問題と社会政策①】 近年の日本における失業者の動向を把握したうえで、雇用を安定させ、失業問題を改善する手段としての社会政策について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。第8回授業で行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をしっかりと身につけること。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲から中間テストを行います。 【現代日本の社会政策】 これまでに学んできた現代日本の社会政策を概略したうえで、社会政策の意義と必要性について考えます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。第7回の授業時に中間テストのポイント解説を行うので、その内容をしっかりと復習してくること。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	5 時間
第9回	対面	【失業問題と社会政策②】 雇用保険の制度に対する理解を深めるとともに、その問題点についても学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第10回	対面	【外国人労働者問題①】 外国人労働者をとりまく諸問題を確認し	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。	4 時間

		たうえで、それを改善するための社会政策について学びます。	復習：レジメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジメに記載する参考文献にあたってみること。	
第11回	対面	【外国人労働者問題②】 外国人労働者の生活面に関する諸制度について学びます。	予習：前回のレジメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第12回	対面	【19 世紀イギリスにおける救貧法と工場法】 19 世紀イギリスにおける救貧法（の改正）と工場法の制定過程を学び、自由放任を是とした 19 世紀イギリスにおける社会保障政策の必要性とそのあり方について解説します。	予習：前回のレジメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第13回	対面	【19 世紀末の貧困調査からリベラル・リフォームへ】 C. ブースと B. S. ラウントリの貧困調査から 19 世紀末のイギリスの貧困状態を学んだうえで、20 世紀初頭に制定された国民保険法などの一連の社会政策立法について解説します。	予習：前回のレジメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第14回	対面	【イギリス福祉国家の形成】 ベヴァリッジ報告において描き出されたイギリスの福祉国家構想を学びます。	予習：13 回のレジメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	社会保障	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会保障制度にはどのような制度があるの？		
授業の目的及び概要	社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。 この授業を受講することにより、社会保障制度の現状と課題について理解できる力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障制度にかかわる基本的知識、いわば社会保障制度の基礎的な常識を身につけることを第一目標とする。少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度や社会福祉制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保障制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。 この授業を通じて、皆さんが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときに、自分自身で社会保障制度の動向を評価できる基礎知識を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義に、コメントカードに質問、意見、提案などを書いてもらい、次の授業中に口頭で回答を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第3版）、古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	『社会政策』の科目を履修することをお勧めします。担当者は、法学部の「社会保険法」、「社会福祉法」の科目も担当しているので、興味ある方は、受講してください。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス 何のために社会保障があるの？	専門用語などが多いので、授業前に、予習などを行うことをお勧めします。また、授業後はレジュメを用い、復習してください（1時間程度）。 教科書、1～15頁の「社会保障とは」を読んで予習してください（2時間程度）。	3時間
第2回	対面	社会保障制度にはどんなものがあるんだろう？ 社会政策とは何か、何のために社会政策があるの？	授業後は、教科書、1～15頁の「社会保障とは」を読んで復習してください（2時間程度）。 社会政策とは、別紙でご紹介致します。 また、16頁～20頁の第2章「医療保険」の医療保険とはを予習してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	病気になったらどうする？（1） 医療保険の保険関係と財源	授業後は、教科書の16頁～20頁の第2章「医療保険」の医療保険とはを復習してください（2時間程度）。 また、21頁～37頁の医療保険仕組みと課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	病気になったらどうする？（2） 保険診療の法体系・医療供給体制・保険診療の内容 医療保険制度の課題	授業後は、教科書の21頁～37頁の医療保険仕組みと課題について復習してください（2時間程度）。 また、38～41頁の第3章「介護保険」について予習してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	介護保険 ・介護保険とは	授業後は、教科書の38～41頁の第3章「介護保険」について復習してください（2時間程度）。 また、42～57頁の介護保険制度の概要と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	介護保険の概要 今後の課題	授業後は、教科書の42～57頁の介護保険制度の概要と課題について復習してください（2時間程度）。 また、58～69頁の年金制度とは何かを予習してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	年金制度 年金制度とは何か	授業後は、教科書の58～69頁の年金制度とは何かを復習してください（2時間程度）。 また、70～85頁の年金制度の仕組みと現状、課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	年金制度の仕組みと現状 公的年金制度の課題	授業後は、教科書の70～85頁の年金制度の仕組みと現状、課題について復習してください（2時間程度）。 これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、しっかり復習してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	これまでの勉強した内容を総括	授業後は、これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、復習してください（2時間程度）。 また、教科書の86～95頁の労働保険の内容について予習してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	労働保険 労働者災害補償保険制度とは	授業後は、教科書86頁～95頁の労働者災害補償保険制度について復習してください（2時間程度）。 また、96～107頁の雇用保険制度と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	雇用保険制度とは 今後の課題	授業後は、教科書96～107頁の雇用保険制度と課題について復習してください（2時間程度）。 また、118～124頁の第7章社会福祉とを予習してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	社会福祉とは 今後のゆくえ	授業後は、教科書の118～124頁の第7章社会福祉とを復習してください（2時間程度）。 また、168～183頁の生活保護制度について予習してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	生活保護制度とは 生活保護制度のしくみ その課題	授業後は、教科書の168～183頁の生活保護制度について復習してください（2時間程度）。 また、128～135頁の児童福祉について予習してください（2時間程度）。	4時間

第14回	対面	児童福祉 児童福祉とは 児童福祉の仕組みと現状 課題	授業後は、教科書 128 頁～137 頁の児童福祉について復習してください（2 時間程度）。 また、159～167 頁の第 11 章の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第15回	対面	社会手当 社会手当とは 社会手当の種類と概要 今後の課題	授業後は、教科書の 159～167 頁の第 11 章の社会手当を復習してください（5 時間程度）。	5 時間

科目名	社会保障	開講年度	2025
担当者	呉 紅敏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会保障制度にはどのような制度があるの？		
授業の目的及び概要	社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。 この授業を受講することにより、社会保障制度の現状と課題について理解できる力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障制度にかかわる基本的知識、いわば社会保障制度の基礎的な常識を身につけることを第一目標とする。少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度や社会福祉制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保障制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。 この授業を通じて、皆さんが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときに、自分自身で社会保障制度の動向を評価できる基礎知識を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義に、コメントカードに質問、意見、提案などを書いてもらい、次の授業中に口頭で回答を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	『社会政策』の科目を履修することをお勧めします。担当者は、法学部の「社会保険法」、「社会福祉法」の科目も担当しているので、興味ある方は、受講してください。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス 何のために社会保障があるの？	専門用語などが多いので、授業前に、予習などを行うことをお勧めします。また、授業後はレジュメを用い、復習してください（1時間程度）。 教科書、1～15頁の「社会保障とは」を読んで予習してください（2時間程度）。	3時間
第2回	対面	社会保障制度にはどんなものがあるんだろう？ 社会政策とは何か、何のために社会政策があるの？	授業後は、教科書、1～15頁の「社会保障とは」を読んで復習してください（2時間程度）。 社会政策とは、別紙でご紹介致します。 また、16頁～20頁の第2章「医療保険」の医療保険とはを予習してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	病気になったらどうする？（1） 医療保険の保険関係と財源	授業後は、教科書の16頁～20頁の第2章「医療保険」の医療保険とはを復習してください（2時間程度）。 また、21頁～37頁の医療保険仕組みと課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	病気になったらどうする？（2） 保険診療の法体系・医療供給体制・保険診療の内容 医療保険制度の課題	授業後は、教科書の21頁～37頁の医療保険仕組みと課題について復習してください（2時間程度）。 また、38～41頁の第3章「介護保険」について予習してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	介護保険 ・介護保険とは	授業後は、教科書の38～41頁の第3章「介護保険」について復習してください（2時間程度）。 また、42～57頁の介護保険制度の概要と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	介護保険の概要 今後の課題	授業後は、教科書の42～57頁の介護保険制度の概要と課題について復習してください（2時間程度）。 また、58～69頁の年金制度とは何かを予習してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	年金制度 年金制度とは何か	授業後は、教科書の58～69頁の年金制度とは何かを復習してください（2時間程度）。 また、70～85頁の年金制度の仕組みと現状、課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	年金制度の仕組みと現状 公的年金制度の課題	授業後は、教科書の70～85頁の年金制度の仕組みと現状、課題について復習してください（2時間程度）。 これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、しっかり復習してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	これまでの勉強した内容を総括	授業後は、これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、復習してください（2時間程度）。 また、教科書の86～95頁の労働保険の内容について予習してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	労働保険 労働者災害補償保険制度とは	授業後は、教科書86頁～95頁の労働者災害補償保険制度について復習してください（2時間程度）。 また、96～107頁の雇用保険制度と課題について予習してください（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	雇用保険制度とは 今後の課題	授業後は、教科書96～107頁の雇用保険制度と課題について復習してください（2時間程度）。 また、118～124頁の第7章社会福祉とを予習してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	社会福祉とは 今後のゆくえ	授業後は、教科書の118～124頁の第7章社会福祉とを復習してください（2時間程度）。 また、168～183頁の生活保護制度について予習してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	生活保護制度とは 生活保護制度のしくみ その課題	授業後は、教科書の168～183頁の生活保護制度について復習してください（2時間程度）。 また、128～135頁の児童福祉について予習してください（2時間程度）。	4時間

第14回	対面	児童福祉 児童福祉とは 児童福祉の仕組みと現状 課題	授業後は、教科書 128 頁～137 頁の児童福祉について復習してください（2 時間程度）。 また、159～167 頁の第 11 章の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第15回	対面	社会手当 社会手当とは 社会手当の種類と概要 今後の課題	授業後は、教科書の 159～167 頁の第 11 章の社会手当を復習してください（5 時間程度）。	5 時間

科目名	労働経済学	開講年度	2025
担当者	李 慧慧	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	働くことを経済学的視点から学びます。		
授業の目的及び概要	この科目では、経済学の理論的枠組みとデータに基づき、労働経済学について学修します。はじめに、労働経済学の基礎理論（労働供給と労働需要）を扱います。その後、人的資本および「多様化する働き方」について学びます。これらの授業を通じて、経済学的視点から労働や家族の未来、特に賃金格差の大きい女性労働・非正規雇用のあり方・失業などの社会問題が発生する要因を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は、以下の通り設定しています。 1. ミクロ経済学を基礎として、労働需要や労働供給などの労働市場に関する経済理論と分析枠組みを理解することができる。 2. 日本の労働市場を客観的に考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に適宜的に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは以下の通りです。それ以外は、講義の際に紹介します。労働経済学をつかむ、大森義明・永瀬伸子、有斐閣、2021 年	ISBN	9784641177307
参考書	労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年	ISBN	9784641165076
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	1. テキストを入手して読み理解することです。 2. 時事的問題について受講と平行して自習することです。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第 1 回	オンデ	授業の概要と日本の労働市場	【予習】事前にシラバスによく目を通し、労働経済学	4 時間

	マンド		について考えてみましょう（1時間程度）；テキストの第1章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】シラバスとテキストの第1章を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（2時間程度）	
第2回	オンデマンド	労働供給と労働需要の導入内容	【予習】テキストの第1章と第2章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第1章と第2章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（3時間程度）	4時間
第3回	オンデマンド	労働供給（1）	【予習】テキストの第2章のunit3「労働供給」（ページ31～38）を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第2章のunit3「労働供給」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（3時間程度）	4時間
第4回	オンデマンド	労働供給（2）	【予習】テキストの第2章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第2章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（3時間程度）	4時間
第5回	オンデマンド	労働需要	【予習】テキストの第3章を事前に読んでおいてください。（2時間程度） 【復習】テキストの第3章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（2時間程度）	4時間
第6回	オンデマンド	教育・訓練と人的資本	【予習】テキストの第4章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第4章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（3時間程度）	4時間
第7回	オンデマンド	長期雇用の賃金決定のメカニズム	【予習】テキストの第5章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第5章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（3時間程度）	4時間
第8回	オンデマンド	転職・就職	【予習】テキストの第6章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第6章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。（3時間程度）	4時間
第9回	オンデマンド	賃金格差	【予習】テキストの第7章を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第7章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。（3時間程度）	4時間
第10回	オンデマンド	失業と不安定雇用	【予習】テキストの第8章のunit16「不本意な非正規雇用」を事前に読んでおいてください。（1時間程度） 【復習】テキストの第8章のunit16「不本意な非正	4時間

			規雇用」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	
第11回	オンデマンド	女性労働	【予習】テキストの第9章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第9章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第12回	オンデマンド	高齢者の就業と引退	【予習】テキストの第10章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第10章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(3時間程度)	4時間
第13回	オンデマンド	労使関係	【予習】テキストの第11章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第11章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第14回	オンデマンド	これからの労働	【予習】テキストのunit23「結 これからの労働」を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストのunit23「結 これからの労働」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	経済学史 I	開講年度	2025
担当者	西 淳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学の歴史を学ぶことを通じて、経済学の基本的な考え方を理解することがテーマです。		
授業の目的及び概要	履修者が、経済学の歴史の学修を通じて経済学の基本を理解できるようになることを目標とする。経済学の歴史の授業であるから個々の学説の紹介も重要であるが、それだけでなく、それらと現代の経済問題がどのように関係しているのかに集中して授業を進めていく。また総花的に何人もの学者や諸学説をとりあげて解説するというのではなく絞ってとり上げ、それらの議論を深く掘り下げていくという方向で考えたい。経済学史 I でとり上げるのは、重商主義、重農主義、アダム・スミス、デヴィッド・リカードである。この授業を履修することを通じて、市民社会における主体として身につけるべき経済学についての考え方が獲得できます。 なお、この授業を受講することにより、現実の経済現象について考えてみずからの考察をそれに付け加えることができるようになるはずです。 最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の経済学者の学説の学修を学ぶことを、現代の経済学の理解へとつなげていくことが最終的な目標です。もちろん理論だけでなく、その背後にある思想的な部分についても説明しますので、理論との関連で理解してほしいと考えます。そして最終目標は、そのような学びを通じて現実の経済への理解につながるような知識を身につけることです。この授業の履修を通じて経済学の歴史について説明することができるようになり、そのような知識を通じて現実の経済を自分の力で考えていくことができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中、コメント・シートの提出を求めることがあります。それは返却はしませんが、その内容については次の授業の時にいくつか取り上げ論評するようにしたいと考えます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業中に配布するプリントで進めます)。	ISBN	なし
参考書	①経済学史, 喜多見洋・水田健編著, ミネルヴァ書房, 2012 年 ②対話でわかる痛快明解経済学史, 松尾匡, 日経 BP 社, 2009 年	ISBN	①9784623059362 ②9784822247645
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	経済学史とは経済学についての昔話などではなく、現実の経済を理解するための方法を獲得するための科目です。そのつもりで、授業にのぞんでください。また私語は厳禁です。ご注意ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	経済学とは何か。経済学の歴史を学ぶことの意義とは何か。	予習：「経済学史」とはいかなる学問かについて、記載している参考書などで調べておくこと。復習：オリエンテーションで述べる内容について、プリントを読み直して理解を深めておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第2回	対面	経済学の誕生と資本主義の成立。なぜ資本主義は経済学を発展させるきっかけとなったか。	予習：資本主義とはどのような社会であり、またそれは経済学の成立といかなる関係があるのかを授業で説明されるので、資本主義とはいかなる経済システムであるかということ各自、調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容の再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第3回	対面	スミス以前の経済学について（スミス以前の経済学は豊かさなどをどうとらえたか）。重商主義と重農主義とは何か。またそれらとスミスとの関係。	予習：「豊かさ」の意味について考えておくこと。復習：配布されたプリントを読み直し、その日の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第4回	対面	市場の役割（神の見えざる手）。資源配分の効率性とはどういうことか。	予習：市場とはどのような機能をもつのかを調べておくこと。また市場の存在が、われわれの日常生活にどのようなプラス効果とマイナス効果を与えているかを考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第5回	対面	分業とは何か（組織内分業、国内分業、国際分業）。分業の利点と欠点はどこにあるのか。分業と市場との関係はどのようなになっているのか。	予習：分業（仕事を社会成員全体で手分けしてすること）がわれわれの日常生活に対して与えるプラス効果とマイナス効果について考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第6回	対面	絶対優位の貿易理論。小さな政府論について。	予習：「絶対優位」とはいかなる概念かについて調べておくこと。また、個々人の経済活動を政府の干渉からの自由によだねるとどのようなよいことがあるかを考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第7回	対面	経済倫理の違いが人々の経済活動にどのような違いをもたらすのか（貯蓄は美徳か、消費は美徳か）。スミスの株式会社批判はどのようなものか。	予習：貯蓄という行為がどのような意味を持つか（個人レベルで、あるいは社会全体のレベルで）を考えておくこと。また、「法人」と「自然人」という用語について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認すること。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第8回	対面	財の交換比率はどう決まるのか（労働量と希少性）。	予習：経済学によく出てくる用語である「価格」と「価値」はどのように違うのかを調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認すること。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第9回	対面	生産できる生産要素とできない生産要素との違いの重要性。土地が狭い国の経済成長の法則とは（希少な生産要素である土地と成長の問題）。	予習：「生産要素」とはいかなる用語かを調べておくこと。またそれにはどのようなものがあるのかについても調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容の再確認をしておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間

第10回	対面	経済的レントの問題。比較優位にもとづく貿易理論とはどのようなものか。	予習：「生産要素」の価格はどう決まるのかについてミクロ経済学のテキストなどを読んで調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第11回	対面	自由貿易の利益とは何か。自由貿易主義と保護貿易主義。	予習：「自由貿易の利益」という用語の意味について調べておくこと。また「保護貿易」という用語についても調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第12回	対面	セイ法則とは何か。一般的過剰生産と部分的過剰生産について。	予習：「セイ法則」ということの意味について、提示している参考書などで調べておくこと。また「過剰生産」という用語についても調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第13回	対面	価値論の再論。リカードとマルサスの一般的過剰生産をめぐる論争。	予習：貨幣のもつ役割について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第14回	対面	【補論】資本主義の誕生と経済学の成立過程とはどのように関係しているのかを考える。	予習：経済史における「共同体」や「産業革命」とはどのようなものか、調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容を復習し、その流れを説明する。	予習：これまでの授業の全体的な流れをこれまで配布したプリントを参照しつつ、考えておくこと。復習：まとめプリントをよみ、授業全体の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間

科目名	経済学史Ⅱ	開講年度	2025
担当者	西 淳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	主に、マルクス、マーシャルとケインズの学説を通じて、経済学を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業では、経済学の基本的な考え方を過去の経済学者たちの学説を通じて考えてみたいと思います。現代において論じられている経済についての考え方は歴史的なプロセスを通じて形成されてきたものですので、そのプロセスを学ぶことは経済学の基礎的なロジックを身につけるのに役に立ちます。過去の学説の紹介に終るのではなく、現代の経済をみる力を身につけるのが目的です。とりあげる経済学者は主には、マルクス、マーシャル、ケインズ、シュムペーターです。この授業の履修を通じて経済をみる目をやしなってください。 この授業を受講することにより、現実の経済の動きを理解し、それについての自分の意見をもつことができるようになるはずです。 なお、最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の経済学者の学説を学ぶのがこの授業の内容ですが、その理解を現代の経済学の理解へとつなげていくことが最終的な目標です。もちろん理論だけでなく、その背後にある思想的な部分についても説明します。この授業を履修することによって、経済学、経済思想の歴史について説明することができ、またそのような知識によって自分の力で現実の経済について考えることができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出されたコメント・シートを読んで、それについての意見、論評を次の授業の際に行うようにします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業中に配布するプリントで進めます)。	ISBN	なし
参考書	①経済学史、喜多見洋・水田健編著、ミネルヴァ書房、2012 年 ②対話でわかる痛快明解経済学史、松尾匡、日経 BP 社、2009 年	ISBN	①9784623059362 ②9784822247645
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	経済学史Ⅰのシラバスでも書きましたが、経済学史という科目は昔の経済学を学んで終わりという授業ではありません。そうではなく、過去の経済学者の学説の検討を通じて現代の現実の		

あたって	経済を理解するための方法を獲得するための科目です。そのつもりで、授業にのぞんでください。なお、私語は厳禁です。ご注意ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	はじめに。	「マルクス」、「マーシャル」、「ケインズ」とは、それぞれどのような人物か、提示している参考書などで調べておくこと。復習：その日の配布プリントを読み直し、授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第2回	対面	カール・マルクスの経済学(1)：剰余労働の搾取とはどういうことか。なぜマルクスは搾取の問題を考えたのか。資本主義における搾取の問題。	予習：「搾取」という言葉について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第3回	対面	カール・マルクスの経済学(2)：資本主義における搾取は、奴隷制社会や封建制社会のそれに比べてなぜわかりにくいのか。史的唯物論とはなにか。	予習：「歴史法則」というものについて調べておくこと。またそもそも歴史に法則性があるのかについても考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第4回	対面	カール・マルクスの経済学(3)：社会主義論が提起する問題とは何か(平等性と効率性は両立するのか、それとも対立するのか)。	予習：「社会主義」と「資本主義」とはどう違うのか、調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第5回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(1)：限界主義の方法論とはなにか、その特徴(資源の希少性、機会費用、など)。	予習：「限界」という用語の意味を調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第6回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(2)：需要と供給の法則について(モノの希少性を評価するものとしての価格)。	予習：「希少性」という経済学の用語について調べておくこと(普通の辞書に出ている意味ではなく)。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第7回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(3)：部分均衡と一般均衡。経済学における時間の概念。規模の経済。企業のライフ・サイクル理論。労働組合は労働者の味方か？	予習：経済学における「短期」や「長期」の意味について、ミクロ経済学の本などを参照して調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第8回	対面	“ケインズ以前の経済学”とはどのようなものであったか(1)：価格メカニズム。家計と企業の調和的ヴィジョン。失業観。	予習：自由放任主義とはどのような考え方が調べておくこと。復習：配布プリントを読みなおし、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第9回	対面	“ケインズ以前の経済学”とはどのようなものであったか(2)：選択の自由と自己責任の重視。ただめしはないという経済学。	予習：個々人の経済活動が「政府の干渉から自由」であるとはどういうことが調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第10回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(1)：有効需要の原理、数量調整。	予習：個々人の経済活動は社会関係(他の人々との関係)のなかで行われ、その結果がそれぞれの個人にもたらされるが、その中のどれだけの部分がどういう理由で自己責任だといえるだろうか。考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復	4時間

			習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	
第11回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(2):デフレ予想の景気への影響、企業の意思決定の優位性。	予習:一国の豊かさを決めるのは需要であるという考え方について調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第12回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(3):新古典派の側からのケインズへの批判とそれに対する反批判。民間と政府の混合体制(なぜ自由放任主義はいけないのか)。	予習:「貨幣」は「交換の潤滑油」であるという考え方と「不況の原因」であるという考え方がある。それぞれについて調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第13回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(4):ただめしがあるという経済学。資産保有の問題。	予習:政府も民間と同じように行動したほうが良いという考え方(小さな政府論)とそれではいけないという考え方がある。それぞれの考え方について調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業内容の理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第14回	対面	J.A. シュムペーターの経済学:イノベーションと経済発展、利潤、景気循環との関係。	予習:イノベーションとはどのようなものか調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業内容の理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめ。	予習:これまでの配布プリントを読み返すことによって授業の全体的な流れを理解しておくこと。復習:最後のまとめプリントを読み直すことで、全体の復習をしておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ1時間程度は行うことが望ましい。	4時間

科目名	経済学部生のための経営学入門	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経営学の基礎		
授業の目的及び概要	この授業では、経営学を専門としない経済学部生にとって、最低限知っておくべき経営学の知識を学びます。経営学を学ぶ場合、基礎的な知識を項目ごとに体系的に学んでいく方法もありますが、もともと経営学は、生きている企業を分析していく中で発展してきた学問です。そこでこの授業では、より経営学に親しみやすいように、具体的なケース（事例）を最初に説明し、そのケースにしたがって経営学の基礎的な概念を説明していく方法を取ります。ケースで取り上げる企業の多くは聞いたことのある企業だと思います。多くのケースを読み解きながら、経営学の知識が自然と身に付けられるようにします。大学卒業後は多くの人は、企業などの組織で働くことになると思いますが、そうした組織の原理や機能を理解する上でも経営学は役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 企業とはどういうものかを説明できる。 ・ 企業の戦略で必要な要素について説明できる。 ・ 企業のマネジメントで必要な要素について説明できる。 ・ 社会的存在としての企業のあり方について説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ケースに学ぶ経営学 [第 3 版]，東北大学経営学グループ，有斐閣，2019 年	ISBN	9784641184480
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業は経済学の分析対象でもありますが、経営学の視点も学んでおけば、企業をより深く理解できるようになります。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】テキスト序章と Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	オンデマンド	企業の誕生（メルカリの設立と成長）について学びます。	【予習】テキスト第 1 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	会社とは誰のものか（カゴメのファン株主拡大戦略）について学びます。	【予習】テキスト第 2 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	環境・戦略・組織（フォードと GM の覇権交代）について学びます。	【予習】テキスト第 3 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	競争戦略の基本型（マクドナルドとモスバーガーの戦略）について学びます。	【予習】テキスト第 4 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	事業のリストラクチャリングと組織改革（GE の企業革新）について学びます。	【予習】テキスト第 5 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	ビジネス・システム（コマツのビジネス・システムの革新と IoT）について学びます。	【予習】テキスト第 6 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	破壊的技術への対応と新規事業創造（富士フイルムの企業変貌）について学びます。	【予習】テキスト第 7 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	プラットフォーム・ビジネス（アップルの App Store の展開）について学びます。	【予習】テキスト第 8 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	グローバル戦略（サムスン電子の統合と適応のジレンマ）について学びます。	【予習】テキスト第 9 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	経営理念と組織文化（リクルートの起業家精神に基づく組織文化）について学びます。	【予習】テキスト第 10 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第12回	オンデマンド	人材のマネジメント（双日の人事管理）について学びます。	【予習】テキスト第 11 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	日本的生産システム（トヨタの生産方式）について学びます。	【予習】テキスト第 12 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	環境変化期のマーケティング活動（良品計画における危機と克服）について学びます。	【予習】テキスト第 14 章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間

第15回	オンデマンド	ビジネスの倫理（JR 西日本の新幹線台車亀裂トラブル）について学びます。	【予習】テキスト第15章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間

科目名	海外フィールドスタディ I		開講年度	2025
担当者	穴井 佑		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	日本以外の経済社会に対する関心と知識を高め、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	日本以外の経済社会を学び、日本の経済社会を相対化するとともに、両者を比較検討する。特に韓国と日本は相違点も多い一方、共通する課題も少なくない間柄である。これまでに学んできた基礎的な経済学の知識に、現地でのフィールドワークを行うなかで体感した知見を加えて、経済学部での学びを実践的な学問へと発展させる。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、韓国の政治、経済、文化、言語学び、理解を深める。 （２）韓国の経済社会が抱える問題と日本の経済社会が抱える問題を比較検討できるようになる。 （３）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じていくことで、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得る。 （４）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を経験し、言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させるとともに国際理解と国際性を涵養する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地での研修評価	
この科目の受講にあたって	韓国の経済社会に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段			

自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代文化の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第2回	対面	現代韓国社会と文化について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴とアジアでの経済的発展について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第3回	対面	日本の近代化の歴史のなかで韓国がどのように扱われてきたかを学ぶ。また、戦後韓国の経済成長について学び、理解を深める。	事前学修：日本の近代化の歴史と戦後日本の経済成長について振り返っておく 事後学修：韓国と日本の近代化および経済成長について比較検討する	4 時間
第4回	対面	現地で訪問するジェットロ（日本貿易振興機構）ソウル事務所とジェットロの役割について学ぶ	事前学修：ジェットロの HP を確認しておく 事後学修：韓国でおこなっているジェットロの取り組みを一つ選び、内容をまとめる	4 時間
第5回	対面	中央銀行の役割と韓国銀行について学ぶ	事前学修：中央銀行の役割について振り返っておく 事後学修：現地で訪問予定の韓国銀行貨幣博物館について調べておく	4 時間
第6回	対面	現地での学修 フィールドワーク①	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第7回	対面	現地での学修 ジェットロ訪問	事前学修：韓国や韓国に進出している日本企業の情報及びビジネス戦略について調べる 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを振り返り、考えをまとめる	4 時間
第8回	対面	現地での学修 フィールドワーク②	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第9回	対面	現地での学修 フィールドワーク③	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第10回	対面	現地での学修 韓国銀行貨幣博物館訪問	事前学修：空港や市内の換金所のレートをチェックしておく 事後学修：為替や金融についての基礎知識を整理し、その中に訪問先で学んだ知見を加える	4 時間
第11回	対面	現地での学修 フィールドワーク④	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第12回	対面	現地での学修 現地企業訪問	事前学修：訪問先の企業情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、企業訪問レポート作成	4 時間
第13回	対面	現地での学修 フィールドワーク⑤	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてま	4 時間

			とめ、グループでプレゼン内容についてディスカッション	
第14回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：企業訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第15回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果 発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディ I	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、NIEs の一員として韓国、香港、シンガポールと共に、急成長を遂げた台湾を取り上げ、その発展が可能となった経済的な要因を探っていくと共に、現在の経済の特徴並びにその課題と展望についても考察していく。国際社会の中でも本地域は独特な環境下にあることから、その台湾を取り巻く国際関係の変化の歴史を辿ることで、世界の中での現在の台湾の立ち位置も明らかにしていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済や商業の現状が学べる公的機関への訪問、さらに現地の歴史や文化が学習できる施設の見学なども行い、参加者が肌で感じることが出来る貴重な経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）台湾が一早く経済成長を遂げることができた要因や、国際社会での立ち位置の変化について、説明できるようになる。 （２）台湾の企業や商業施設、街並み等の現場に足を運び実体験を深める中で、現地の経済の状況や生活の様子についての肌感覚を得ることができる。 （３）台湾の歴史や文化に深く関連した様々な施設の見学やそこでの体験を通して、当該地域に対する認識と理解を広げ、興味と関心を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	現地での研修評価
この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレイキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「台湾について」 ・台湾の概容と共に、その成り立ちや政治、経済、社会の主な特徴について学んでいく	事前学修：台湾の成り立ちや、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「台湾を取り巻く国際関係の変遷について」 ・台湾は国際社会における立場がめまぐるしく変化してきていることから、その様相について学習していく	事前学修：台湾の国際社会での立ち位置について調べ考えておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「台湾の経済発展について」 ・NIEsの一員として経済発展を成し遂げた要因と、現在直面している課題並びにその展望について考えていく	事前学修：台湾経済の発展の経緯とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	現地での学修① 英語研修、交流事務所への訪問、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第7回	対面	現地での学修② 英語研修、研究所への訪問及び研究員による講義	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修③ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノート	4時間

			やファイルに整理しながらまとめておく	
第9回	対面	現地での学修④ 英語研修、歴史・文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第10回	対面	現地での学修⑤ 英語研修、政府関連施設並びに歴史研究機関への訪問	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑥ 文化体験、商業施設の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑦ 主要観光施設の見学、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	現地での学修⑧ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」と「報告資料の作成」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を作成する	6 時間
第15回	対面	事後研修：第2回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディ I	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、ASEAN 経済の中でもその一翼を担う存在として、模範的な繁栄を遂げてきた多民族国家であるマレーシアの特徴や社会経済の学習を通して、その経済発展の過程において日本がどのように関わってきたのか、そして、他の ASEAN 各国との類似点や相違点は何なのかを明らかにしながら、マレーシアが現在直面する課題やその解決策について探究する機会としていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済やビジネスの実態が学べる公的機関や企業への訪問、さらに現地文化に基づいた金融や食品のあり方が垣間見える施設の見学なども行い、マレーシアの社会経済の現状を実感できる経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）マレーシアの経済発展の経緯や、日本や ASEAN との関係性、現在の経済情勢並びに社会状況について、説明できるようになる。 （２）マレーシアのビジネスや商業の現場を訪問して、実際の様子を見聞きすることで、現在の同国の経済状況や市場の動向について、その一端を垣間見ることができる。 （３）現地の社会や文化に関連した施設の見学や視察を通して、その国に対する認識と理解を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	現地での研修評価
この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレイキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「ASEANについて」 ・ASEANの概容と共に、その中のマレーシアの立ち位置や役割などについて学習していく	事前学修：ASEANの成立過程や、その組織の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「マレーシアについて」 ・多民族国家であるマレーシアの成り立ちや、その政治、経済、社会の特徴について学んでいく	事前学修：マレーシアの国家の歴史や、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「マレーシアの経済発展について」 ・経済成長の経緯と日本との関係、並びに直面する社会経済上の課題について、明らかにしていく	事前学修：マレーシア経済の発展の軌跡とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	現地での学修① 現地学生との交流、クアラルンプール市内の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第7回	対面	現地での学修② 英語による講義、歴史・文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修③ ハラール食品関連企業並びに金融機関への訪問	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノート	4時間

			やファイルに整理しながらまとめておく	
第9回	対面	現地での学修④ 日本の現地援助機関への訪問並びにプロジェクト現場の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第10回	対面	現地での学修⑤ 主要観光施設の見学、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑥ 政府系ハラル認証機関への訪問、日本の現地公的機関でのブリーフィング	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑦ 商業施設の視察、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	現地での学修⑧ 現地学生との交流、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」と「報告資料の作成」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を作成する	6 時間
第15回	対面	事後研修：第2回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	Practical Business English I	開講年度	2025
担当者	宋 南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	英語を通してビジネスに必要な知識、教養を学ぶ。 ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスに関する様々なア－ティクルを読み、現代社会におけるビジネスに必要な知識・教養を英語を通して学ぶ。 また、ビジネスの場における英語コミュニケーションに必要な基礎英語力（語彙・文法・構文・表現）を養うことを目的とする。ビジネスシーンで頻繁に使用される英語表現、文法構造を理解し、正確な英語コミュニケーション能力を養う。		
履修条件・留意点	春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business EnglishⅡは連動しております。両方とも履修することが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 英語を通してビジネスに必要な知識・素養を学ぶ。 ② ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業や課題のフィードバックは、授業時間内に適宜行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバ－ト、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①Business Sense , Andrew E. Bennett 著, 南雲堂, 2015 年	ISBN	①9784523177425
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	母語が日本語でない受講者は、日本語能力 N2 以上あることが望ましいです。また、春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business EnglishⅡは連動しており、両方とも履修することが望ましいです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	Introduction: 受講上の留意点、授業内容、授業の進め方	課題と予習	2 時間
第 2 回	対面	Lesson 1: An Express Courier Legend	予習と課題	4 時間

		アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。		
第3回	対面	Lesson 1: An Express Courier Legend トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習。	4 時間
第4回	対面	Lesson 2: The student Who Started Google アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第5回	対面	Lesson 2: The student Who Started Google トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第6回	対面	Lesson 3: Emotional Intelligence in the workplace アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第7回	対面	Lesson 3: Emotional Intelligence in the workplace トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第8回	対面	Lesson 4: Toyota – R&D Powerhouse アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第9回	対面	Lesson 4: Toyota – R&D Powerhouse トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第10回	対面	Lesson 5: Michael E. Porter – Management Guru アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第11回	対面	Lesson 5: Michael E. Porter – Management Guru トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第12回	対面	Lesson 6: Harley-Davidson – A legend Rolls on アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第13回	対面	Lesson 6: Harley-Davidson – A legend Rolls on トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第14回	対面	Lesson 7: Sporting Troubles – The Financial Fall of Leeds United アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第15回	オンデマンド	Lesson 7: Sporting Troubles – The Financial Fall of Leeds United トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	・今学期の全ての授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・今学期の全ての授業内容を振り返り、自分が強化すべき項目を確認して今後の課題とする。 ・返却された今学期全ての課題を見直し、今後取り組むべき項目を認識する。	6 時間

科目名	Practical Business English II	開講年度	2025
担当者	宋 南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	英語を通してビジネスに必要な知識、教養を学ぶ。 ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスに関する様々なア－ティクルを読み、現代社会におけるビジネスに必要な知識・教養を英語を通して学ぶ。 また、ビジネスの場における英語コミュニケーションに必要な基礎英語力（語彙・文法・構文・表現）を養うことを目的とする。ビジネスシーンで頻繁に使用される英語表現、文法構造を理解し、正確な英語コミュニケーション能力を養う。		
履修条件・留意点	Practical Business English I に続き講義を行います。Practical Business English I を履修していることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 英語を通してビジネスに必要な知識・素養を学ぶ。 ② ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業や課題のフィードバックは、授業時間内に適宜行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバ－ト、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①Business Sense , Andrew E. Bennett 著, 南雲堂, 2015 年	ISBN	①9784523177425
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	母語が日本語でない受講者は、日本語能力 N2 以上あることが望ましいです。また、春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business English II は連動しており、両方とも履修することが望ましいです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Introduction: 受講上の留意点、授業内容、授業の進め方	課題と予習	4 時間
第2回	対面	Lesson 8: Women in Business	課題と予習	4 時間

		アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。		
第3回	対面	Lesson 8: Women in Business トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第4回	対面	Lesson 9: Fighting African Poverty with Cell Phones アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第5回	対面	Lesson 9: Fighting African Poverty with Cell Phones トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第6回	対面	Lesson 10: The Creative Vision of Walt Disney アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第7回	対面	Lesson 10: The Creative Vision of Walt Disney トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第8回	対面	Lesson 11: Tata - India's Mega Group アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第9回	対面	Lesson 11: Tata - India's Mega Group トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第10回	対面	Lesson 12: Big Banks, Big Problems アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第11回	対面	Lesson 12: Big Banks, Big Problems トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第12回	対面	Lesson 13. The Spending Habits of the Super Rich アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第13回	対面	Lesson 13. The Spending Habits of the Super Rich トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第14回	対面	Lesson 14: The Story of Marvel Comics アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第15回	オンデマンド	Lesson 14: The Story of Marvel Comics トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	事後学修	2 時間

科目名	Economic Issues in English I	開講年度	2025
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	英語で経済動向と金融市場（株式市場、貸出市場、債券市場）について勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。この科目の主な目的は、マクロ経済の動きと企業のビジネスについて勉強することである。特に、株価、為替レート、利子率、賃金、物価、税金、住宅価格といった変数の変動を起こす要因は何か、そして企業、投資家、個人にどのような影響を与えるかについて勉強する。更に、この科目は、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の内容（GDP、利子率、為替レート、貿易のつながりのメカニズム）の関連科目であり、英語で勉強することができる。授業で勉強する主なトピックスは以下の通りである。更に、日本の多国籍企業、貿易会社、金融機関、外資系会社などに勤めたい学生がより充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になることである。 1. 日本経済の現状と将来の見通し 2. 株式市場 3. 株式市場におけるバブル 4. 債券市場 5. 貸出市場と金融政策 6. 先渡取引と先物取引 7. 外国為替市場 1. Japan Economic Outlook 2. Stock Market 3. Stock Bubbles 4. Bond Market 5. Credit Market and Monetary Policy 6. Forward and Futures Contracts 7. The Foreign Exchange Market		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標はマクロ経済とビジネス戦略の関係について英語で考えて、英語で説明できるようになることである。この目標を達成するために、授業では以下の力を身につけるようにしたいと思う。 1. 日本のマクロ経済と企業の経営の関係について英語で考えて、分析できる力 2. 株式や債券といった金融投資について分析ができ、英語で説明できる力 3. 利子率、為替レート、貿易、観光、金融政策について、英語で話せる力 4. 株価や利子率の変動を予測でき、英語で説明できる力 5. 英語でコミュニケーションできる力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容についての練習問題に対して Learning Portal に毎回フィードバックする。必要があれば、次の授業で改めて説明する。「最終レポート」に対してもコメントを Learning Portal にフィードバックする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書と日本政府のデータベースの情報を利用して作成した資料を大学のホームページのなか、Learning Portal、授業内容/教	ISBN	なし

	材にアップする。			
参考書	①Business Economics, Gillespie, Andrew, 2013, Oxford University Press 以下のインターネットサイトやデータベースを利用して、世界や日本の現状、国際経済、貿易、直接投資などについて勉強することができる。 https://www.bloomberg.com/asia https://www.reuters.com/ http://www.ibtimes.com/ https://edition.cnn.com/ https://www.bbc.com/ https://www.nikkei.com/ データベース IMF: https://www.imf.org/ WORLD BANK: https://data.worldbank.org/ e-Stat: https://www.e-stat.go.jp/ JETRO: https://www.jetro.go.jp/ 日本銀行: https://www.boj.or.jp/ 外務省: https://www.mofa.go.jp/mofaj/ 財務省: https://www.mof.go.jp/		ISBN	①0199657998
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	20		
	その他の内容	最終レポート		
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経済や金融について勉強するため、特に、貿易会社、外資系会社、旅行会社で働きたいと思っている学生は是非履修してみてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「Class 1 Course outline」を読んで下さい。 復習：「Exercise 1 Main topics of the course」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートのテーマを決めて、内容について計画を立ててください。	1 時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「Class 2 Japan economic outlook」を読んで下さい。 復習：「Exercise 2 Japan economic outlook」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第3回	対面	貯蓄と預金の残高の計算法について勉強	予習：「Class 3 Savings and bank deposits」を読	4 時間

		する。	んで下さい。 復習：「Exercise 3 Savings and bank deposits」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	
第4回	対面	割引現在価値について勉強する。	予習：「Class 4 Loans payments and the NPV」を読んで下さい。 復習：「Exercise 4 Loans payments and the NPV」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第5回	対面	債券の仕組みと債券の価格について勉強する。	予習：「Class 5 Bonds and bond prices」を読んで下さい。 復習：「Exercise 5 Bonds and bond prices」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第6回	対面	リスクのある債券、格付け、利回り率について勉強する。	予習：「Class 6 Risk, credit rating and the yield」を読んで下さい。 復習：「Exercise 6 Bonds and risk」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第7回	対面	株の価値について勉強する。	予習：「Class 7 The value of stocks」を読んで下さい。 復習：「Exercise 7 The value of stocks」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第8回	対面	株式市場について勉強する。	予習：「Class 8 The stock market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 8 The stock market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第9回	対面	貸出市場、利子率、インフレ率、経済政策について勉強する。	予習：「Class 9 The interest rate, prices and economic policy」を読んで下さい。 復習：「Exercise 9 The interest rate, prices and economic policy」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第10回	対面	投資家が将来の見通しをどのように予想するかについて勉強する。	予習：「Class 10 How do investors predict the future？」を読んで下さい。 復習：「Exercise 10 How do investors predict the future？」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4 時間
第11回	対面	株式市場におけるバブルについて勉強する。	予習：「Class 11 Stock bubbles」を読んで下さい。 復習：「Exercise 11 Stock bubbles」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4 時間
第12回	対面	先渡し取引と先物取引について勉強する。	予習：「Class 12 Forward and futures contracts」を読んで下さい。 復習：「Exercise 12 Forward and futures contracts」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4 時間
第13回	対面	財務諸表について勉強する。	予習：「Class 13 Financial Statements」を読んで下さい。 復習：「Exercise 13 Financial Statements」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートと定期試験の準備をしてください。	5 時間

第14回	対面	変動為替相場、円安と円高の原因について勉強する。	予習：「Class 14 The foreign exchange market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 14 The foreign exchange market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートと定期試験の準備をしてください。	5時間
第15回	オンデマンド	まとめと定期試験に向けた案内を行う。	予習：「Class 15 End of Course Summary」を読んで下さい。 復習：「Exercise 15 End of Course Summary」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを完成させて、Learning Portal のレポート機能に提出してください。 「Practice for exam」を解いて、Learning Portal に提出してください。 定期試験の準備を行ってください。	5時間

科目名	Economic Issues in English II	開講年度	2025
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	英語で経済のメカニズムと経済政策の効果について勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。この科目の主な目的は、マクロ経済の動きと企業のビジネスについて勉強することである。特に、為替レート、利子率、賃金、住宅価格といった変数の変動を起こす要因は何か、企業・投資家・個人がどのように反応するかについて勉強する。更に、データから日本経済の現状と将来の見通し、貿易、観光などについて学ぶ。日本の多国籍企業、貿易会社、金融機関、外資系会社などに勤めたい学生がより充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になる。更に、この科目は、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の関連科目であり、英語で勉強することができる。授業で勉強する主なトピックスは以下の通りである。 1. 日本経済の現状と将来の見通し 2. ビジネス投資 3. 税金 4. 住宅市場 5. 貿易、観光、海外投資 6. 自由貿易協定 7. 経済政策 1. Japan Economic Outlook 2. Business Investment 3. Taxes 4. The Housing Market 5. Trade, Tourism and Foreign Investment 6. Free Trade Agreements 7. Economic Policy		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標はマクロ経済とビジネス戦略の関係について英語で考えて、英語で説明できるようになることである。この目標を達成するために、授業では以下の力を身につけるようにしたいと思う。 1. 経済動向や市場の変化が企業に与える影響について分析ができ、英語で説明できる力 2. 利子率、住宅市場、不動産の投資について、英語で話せる力 3. 経済政策が市場や企業に与える影響を予測でき、英語で説明できる力 4. 英語でコミュニケーションできる力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容についての練習問題に対して毎回フィードバックをする。必要があれば、次の授業で改めて説明する。最終レポートに対してもコメントをフィードバックする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書・データベースの情報を利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	なし

参考書	以下の本が経済や国際経済について様々な面白いトピックスを扱っている。授業の内容をより深く勉強することができるので、良ければ、図書館で借りてください。		ISBN	①0199657998
	①Business Economics, Gillespie, Andrew, 2013, Oxford University Press			
	以下のインターネットサイトやデータベースを利用して、世界の現状、国際経済、貿易、直接投資などについて勉強することができる。最終レポートの作成にも活用してみてください。			
	インターネットサイト：			
	https://www.bloomberg.com/asia			
	https://www.reuters.com/			
	http://www.ibtimes.com/			
	https://edition.cnn.com/			
	https://www.bbc.com/			
	データベース			
International Monetary Fund:				
https://www.imf.org/				
World Bank:				
https://data.worldbank.org/				
e-Stat:				
https://www.e-stat.go.jp/				
JETRO:				
https://www.jetro.go.jp/				
日本銀行:				
https://www.boj.or.jp/				
観光庁:				
https://www.mlit.go.jp/kankocho/index.html				
日本観光統計データ（JNTO）:				
https://statistics.jnto.go.jp/				
財務省:				
https://www.mof.go.jp/				
外務省:				
https://www.mofa.go.jp/mofaj/				
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	20		
	その他の内容	最終レポート		
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経済について勉強するため、特に、貿易会社、外資系会社、旅行会社で働きたいと思っている学生は是非履修してみてください。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「Class 1 Course outline」を読んで下さい。 復習：「Exercise 1 Main topics of the course」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートのテーマを決めて、内容について計画を立ててください。	1 時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「Class 2 Japanese economy outlook」を読んで下さい。 復習：「Exercise 2 Japanese economy outlook」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第3回	対面	労働市場について勉強する。	予習：「Class 3 The labor market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 3 The labor market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第4回	対面	お金の時間的な価値について勉強する。	予習：「Class 4 Time value of money」を読んで下さい。 復習：「Exercise 4 Time value of money」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第5回	対面	ビジネス投資について勉強する。	予習：「Class 5 Business investment」を読んで下さい。 復習：「Exercise 5 Business investment」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第6回	対面	ビジネス投資の財務分析について勉強する。	予習：「Class 6 Financial Analysis of Investment Projects」を読んで下さい。 復習：「Exercise 6 Financial Analysis of Investment Projects」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第7回	対面	税金について勉強する。	予習：「Class 7 Taxes」を読んで下さい。 復習：「Exercise 7 Taxes」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第8回	対面	住宅の価値と住宅の価格について勉強する。	予習：「Class 8 Home values and home prices」を読んで下さい。 復習：「Exercise 8 Home values and home prices」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第9回	対面	住宅市場について勉強する。	予習：「Class 9 The housing market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 9 The housing market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第10回	対面	貸出市場と利率について勉強する。	予習：「Class 10 The credit market and the interest rate」を読んで下さい。 復習：「Exercise 10 The credit market and the interest rate」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間

第11回	対面	住宅バブルについて勉強する。	予習:「Class 11 Housing bubbles」を読んで下さい。 復習:「Exercise 11 Housing bubbles」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	4 時間
第12回	対面	貿易、観光、外国投資について勉強する。	予習:「Class 12 Trade, tourism and foreign investment」を読んで下さい。 復習:「Exercise 12 Trade, tourism and foreign investment」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	4 時間
第13回	対面	自由貿易協定又は経済連携協定について勉強する。	予習:「Class 13 Free trade agreements」を読んで下さい。 復習:「Exercise 13 Free trade agreements」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	5 時間
第14回	対面	経済政策の効果・貿易・為替レートの関係について勉強する。	予習:「Class 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を読んで下さい。 復習:「Exercise 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。試験の準備も行ってください。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめと定期試験に向けた案内を行う。	予習:「Class 15 End of Course Summary」を読んで下さい。 復習:「Exercise 15 End of Course Summary」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを完成させて、Learning Portal のレポート機能に提出してください。 「Practice for exam」を解いて、Learning Portal に提出してください。 定期試験の準備を行ってください。	5 時間

科目名	経済学部生のための法学入門		開講年度	2025
担当者	呉 紅敏		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経済学部 1 年生のための法学入門			
授業の目的及び概要	法が現実の社会生活のなかでどのように使われ、どのような働きをもっているかについて、具体例を示しつつ説明していき、社会における法の役割について、全体的なイメージを作っていきます。そのなかで法律知識・法学的思考方法を身につけていくことで、経済学科生として、生活と学修を自信と夢をもって進めるための基盤となる知識・スキルを養う。同時に市民としての法律の常識を身につけることによって、社会人としての基礎力を養うことになり、就業力育成の土台となります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	現代社会に生きる市民として、 ①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②各々の法分野に関心・問題意識を持ち、法律系科目を選択する際の基盤をつくる。 ③経済学科生・経営学科生として、本科目で得た法学の知識・法的思考方法により、日常生活のできごとやニュースの意味の理解を深めることができる。 ④社会的な問題について、自分の意見を表明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	①毎回の授業で学んだテキストの内容（とくに法学基礎必須用語の意味・概念）をしっかりと確認すること。とくに必須用語は覚えること。②毎回、learning portal による法律重要用語の復習をしっかりとってください。③翌週の授業のはじめに教員が、学生たちの書いたコメントシートの疑問・質問に答え、感想や学んだ点について講評し評価する。			
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	① 『経法大新入生のための法学入門』, 大阪経済法科大学法学部「法学入門」作成委員会著		ISBN	①9784797257519
参考書	信山社刊行「法学六法 24」		ISBN	①9784797257540
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		40	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、より専門的な法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業に積極的に参加してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	① ガイダンス ② 法と人間とのかかわり ③ 法を学ぶ意義 ④ 「規範」としての法 ⑤ 法と道徳の区別	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	① 法の体系 ② 法の種類 ③ 法律の構造	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	① 法の解釈の方法 ② 法の適用の方法 ③ 裁判所による法の解釈	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	① 「憲法」とは何か ② わが国の統治体制 ③ 三権分立	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	第1回～第4回目までの確認テスト	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	① 日本国憲法の理念 ② 基本的人権の尊重 ③ 新しい権利	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	① 「民法」とは何か ② 「契約」とは何か ③ 「不法行為」とは何か	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	① 「家族」とは何か ② 婚姻と離婚 ③ 親子関係と相続	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	第6回～第8回目までの確認テスト	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。	4時間

			(2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	
第 10 回	対面	① 「刑法」とは何か ② 「犯罪」とは何か ③ 「犯罪」が成立しない場合	① 予習; テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	① 「刑罰」とは何か ② 刑罰の正当化 ③ 少年法	① 予習; テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 12 回	対面	① 裁判制度と裁判所 ② 民事手続 ③ 刑事手続 ④ 裁判の担い手	① 予習; テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 13 回	対面	① 国際社会 (international community) とは何か ② 国家の基本的な権利義務 ③ 国家の具体的な権利義務と秩序の回復	① 予習; テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 14 回	対面	第 11 回～第 13 回目までの確認テスト	① 予習; テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 15 回	対面	全体のまとめ; テキストの内容を全部ふり返し、重要用語の概念や疑問点を洗い出し確認する。	① 予習; テキスト全体をふり返し、疑問点を洗い出し自分で調べてみる通読しておくこと (2 時間)。 ② 復習; (1) 毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。 (3) 「論述問題」対策準備を行う (2 時間)	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（基礎） ー経済理論と戦略的思考で社会を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学の考え方に基づいて、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 日常には様々な疑問が満ちています。たとえば、通販会社が「不満なら全額返金」を保証するのはなぜでしょうか。多くの学校で制服の着用が義務付けられているのはなぜでしょうか。航空券は直前に買うほど高くなるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。教育において「我慢強さ」が評価される理由を理論的に説明できるでしょうか。 社会にも様々な疑問を見出すことができます。地球温暖化問題が一向に解決しないのは、なぜでしょうか。政府が企業の競争を促進したり規制したりするのは、どのような判断基準に基づいているのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学といった経済理論を学修して戦略的思考力を身につけると、このような疑問に対して確固たる自分の考えを持つことができるようになります。そこで本科目では、受講生の関心に応じて、「企業の戦略的行動」、「環境問題」、「公共政策」といった経済学で頻繁に扱われるテーマを中心に、日常生活における人間の行動等も盛り込んで、経済学的・戦略的思考能力の修得を目指します。 本科目の学修を通じて、以下の「学修の到達目標」に記載された能力を養うことは、今後の大学での学修に限らず、就業力を高めることにもつながります。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論や行動経済学は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目での学修を通じて、人との関わりにおける戦略的關係や企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済理論に基づいて問題の所在を正しく認識し、適切な調査・分析を行った結果をまとめることができる 2. 考察を他人にも伝わるように発表・プレゼンテーションを行うことができる 3. ゲーム理論や行動経済学の基礎的理解に基づき、現実経済・社会への適用を考えることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・授業で作成した目標シート等に基づいて、今後の学修計画等を詳細に確認してください。 ・次回に行うグループワークに向けて、複数のテーマ候補を各自で考えてください。	4時間
第2回	対面	ゲーム理論と行動経済学の諸理論および第1回グループワーク（テーマ設定と調査）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第3回	対面	第1回グループワーク（テーマ設定と調査）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第4回	対面	第1回グループワーク（課題発見）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第5回	対面	第1回グループワーク（報告資料作成）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第6回	対面	第1回グループワーク（報告練習）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業 （各自の報告分担を確認するとともに、円滑な報告ができるよう練習を行ってください。） ・次のグループワークで使用するテーマの検討	4時間
第7回	対面	第1回グループワーク（報告）	・グループワークの振り返り ・次のグループワークで使用するテーマの検討	4時間
第8回	対面	第2回グループワーク（テーマ設定・チーム編成）	・テーマの検討 ・グループで決めた作業	4時間
第9回	対面	第2回グループワーク（調査1）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第10回	対面	グループワーク（調査2）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第11回	対面	第2回グループワーク（調査3，課題発見）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第12回	対面	第2回グループワーク（課題発見，課題解決案の検討）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間

2025/05/01

第13回	対面	第2回グループワーク（課題解決案の検討，プレゼンテーション準備）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第14回	対面	第2回グループワーク（プレゼンテーション）	・グループで決めた作業 ・レポート執筆	4時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会への備え	・資料に基づき，学生研究発表大会に向けた準備を進めてください。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	家計内資源配分と女性の社会進出（基礎）		
授業の目的及び概要	家計経済学の視点から、家計におけるさまざまな問題や課題について学びます。具体的には、「人々は結婚に何を求めるのか」「子供を持つという意思決定にはどのような要因が影響するのか」「なぜ親は子供の教育に投資するのか」「女性の社会進出を促す要因とは何か」など、日常生活に根ざした疑問を経済理論に基づいて理解することを目指します。さらに、家計に関連する経済政策の仕組みやそのメカニズムについても学びます。そして、家計経済学の理論を踏まえ、自分が関心を持つテーマを設定し、実際のデータを活用して分析を行うことで、実証的な分析力を養います。演習では、データ分析の手法を実践的に習得し、経済学的な視点から社会課題を論理的に考察する能力を高めることを目標とします。これにより、学修だけでなく、就職活動や今後のキャリアにも活かすことができるでしょう。 これらの学びを通じて、経済学部が掲げる「実学としての経済学」と繋がることで、得た知識とスキルを学修だけでなく、就職活動や今後のキャリアにおいても役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	家計におけるさまざまな課題を理解することで、日本が直面する家計関連の現状についての理解を深め、家計経済学に関する幅広い知識と素養を習得する。また、グループワークを通じた報告資料の作成および発表を行うことで、協調性やコミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対し、コメントを通じて適切なフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』、山口慎太郎、光文社新書、2019 年	ISBN	①9784334044220
参考書	①『子育て支援の経済学』、山口慎太郎、日本評論社、2021 年 ②『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』、牧野百恵、中央公論新社、2023 年 ③『女性たちの平成不況』、樋口美雄・太田清・家計経済研究所、日本経済新聞社、2004 年	ISBN	①9784535559035 ②9784121027689 ③9784532350918
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、自分が興味を持つテーマについて考察してください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの該当箇所を確認し、その内容をどのように報告するか検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	結婚の経済学（1）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	結婚の経済学（2）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	赤ちゃんの経済学（1）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	赤ちゃんの経済学（2）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	育休の経済学（1）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	育休の経済学（2）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	イクメンの経済学（1）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。	4時間

			料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	
第9回	対面	イクメンの経済学(2)	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	保育園の経済学(1)	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	保育園の経済学(2)	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	離婚の経済学(1)	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	離婚の経済学(2)	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	日本の家計問題	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。(2時間程度)。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の学修内容を振り返り、自分の理解を深めてください。 ・秋学期の研究発表に向けて、自分が取り組みたい研究テーマについて考えておいてください。秋学期の研究発表や卒業研究に向けて、自身興味のある研究テーマに関連するデータセットを調査し、活用の可能性を検討してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（基礎）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代だけでなく、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。本演習では、エネルギー・環境問題に関する課題、問題解決の方策についての知見を高め、各問題を経済学的に解釈し表現できる能力の向上を目指します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース（経済理論・国際経済・都市経済・現代日本経済）所属でも履修可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①具体的なエネルギー・環境問題に関する基礎的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	新・環境経済学入門講義, 浜本光紹 , 創成社, 2024 年	ISBN	9784794432490
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本演習ではテキストを使用して環境問題の経済学的な見方を学修します。 受講生自らが積極的に関与することを期待します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス(教員、演習受講者の自己紹介、本演習の進め方)	・事前にテキストに目を通し、興味や関心がある箇所については丁寧に読んでください。	4 時間
第2回	対面	環境経済学とはどのような学問か(1)	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第3回	対面	環境経済学とはどのような学問か(2)	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第4回	対面	市場メカニズムと環境問題(1)	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第5回	対面	市場メカニズムと環境問題(2)	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第6回	対面	環境管理のためのアプローチ(1)	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第7回	対面	環境管理のためのアプローチ(2)	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第8回	対面	環境政策の理論(1)	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第9回	対面	環境政策の理論(2)	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第10回	対面	環境政策の実際(1)	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第11回	対面	環境政策の実際(2)	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と	4 時間

			質問に対する回答をまとめてください。	
第12回	対面	地球温暖化と国際協調（1）	・授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第13回	対面	地球温暖化と国際協調（2）	・報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第14回	オンデマンド	レポートの書き方	・オンデマンド動画の資料を丁寧に読んでください。 ・「経済学部生のためのレポート作成要領」を読んで参考文献リストの作成方法を確認してください。	4 時間
第15回	対面	まとめ	・今学期の振り返り	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論を実戦に生かそう (1)		
授業の目的及び概要	この演習では、ゲーム理論の基本的な考え方を理解するとともに、そのビジネス活動での応用、そしてゲーム理論を生かした意思決定プロセスについて勉強していきたいと思います。その主な内容は以下の通りです。 1. ゲーム理論とは何か 2. ゲーム理論の歴史とその役割 3. ゲーム理論の基礎 4. 独自のゲームの作成 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。この授業を受講することにより、ゲーム理論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。 また、この演習は、ゲーム理論のもっとも基本的な解き方を学修することに重点を置きますので、ゲーム理論の入門レベルにあたります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. ゲーム理論の基本的な考え方を理解することができる。 2. その考え方をを用いて、日常生活のさまざまな場面や卒業後のビジネス活動を理解することができる。 3. 就職活動に必要なプレゼン能力をもつことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	①図解で学ぶゲーム理論入門，天谷研一，日本能率協会マネジメントセンター，2011 年 ②ビジュアル ゲーム理論，渡辺隆裕，日本経済新聞，2019 年	ISBN	①9784820747185 ②9784532119393
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	ゲーム理論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を問わず、経済学のほとんどの分野に応用され、経済分析のための基本道具の一つとなっています。さらに、経済学の分野を超えて政治学など他の社会科学の分野にも広く応用されています。少し難しい学問ですが、力を合わせて頑張りましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・担当教員を含むゼミ参加者全員の自己紹介を行います。 ・授業内容や運営方法を説明し、参加者の意思統一をはかります。 （受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。）	「学修ポートフォリオ」と「ラーニングポータル」の使い方や掲載資料について確認し、予習してください。	4時間
第2回	対面	春学期の目標を設定しましょう ・「学修ポートフォリオ」の使い方について説明（確認）します。 ・現状確認をもとに春学期の成長目標について話し合います。	次回の授業までに、「ラーニングポータル」の掲載資料を読んで予習してください。	4時間
第3回	対面	グループ学習のスタート ・グループを編成し、グループの運営方法や運営ルール等について話し合います。	次回の授業までに、配布資料を参考にレジュメを作成し、「マイノート」に保存してください。	4時間
第4回	対面	ゲーム理論とは何か（1） ・ゲーム理論とは何かについて勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジュメを作成し学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第5回	対面	ゲーム理論とは何か（2） ・ゲーム理論の歴史について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジュメを作成し「マイノート」に保存してください。	4時間
第6回	対面	ゲーム理論とは何か（3） ・ゲーム理論の役割について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジュメを作成し、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第7回	対面	ゲーム理論の基礎（1） ・ゲームを構成する4要素について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジュメを作成し、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第8回	対面	ゲーム理論の基礎（2） ・ゲームのルールについて勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジュメを作成し、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第9回	対面	独自の事例からゲームを作りましょう（1） ・独自の事例からゲームのルールを考えます。	参加者は事前に日常生活などから独自の事例を見つけ、レジュメを作成し、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第10回	対面	独自の事例からゲームを作りましょう（2） ・利得の算出について考えます。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、利得の算出方法について考えてください。	4時間
第11回	対面	独自の事例からゲームを作りましょう（3） ・引き続き、利得の算出について考えます。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、利得の算出方法について考えてください。	4時間
第12回	対面	独自のゲームを発表しましょう（1） ・各グループの発表と指導を行います。	発表したグループは、次回の授業までに、レジュメを修正し、「修正後レジュメ」をマイノートに保存してください。	4時間
第13回	対面	独自のゲームを発表しましょう（2） ・各グループの発表と指導を行います。 ・グループ間の「修正後レジュメ」を比較し、春学期の優勝グループを選出します。	次回の授業までに、春学期のレポートを完成し、マイノートに保存してください。	4時間
第14回	対面	まとめ ・期末レポートの提出	夏休み中の課題について取り組んでください。	4時間

		・春学期初めに作成した各自の「春学期の目標」の達成度と反省点について報告し、話し合います。 ・夏休み中の勉強内容について話し合います。		
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加を準備しましょう ・発表準備に向けて、学生研究発表大会の動画をオンデマンドで配信します。いずれかの動画を視聴して発表の参考にしてください。	オンデマンド動画を視聴した上で、発表資料を作成し、レジュメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国の情勢と国際経済の要点を学ぶ（1）		
授業の目的及び概要	本演習では、世界経済に関連する様々なテーマを幅広く扱い、平易に分かりやすく学んでいくことで、国際的にはどのような経済問題が潜んでいるのか、世界の国々はどのような経済状況にあるかなどについて、理解を深めていくことにする。特に、アジア各国の経済社会問題や現実には起きている世界経済の諸課題に焦点を当て、その背景や本質を考察していく中で、実際に起きている経済現象への認識を深め、現実的な政策対応を検討していく。本演習での学びを基礎として、国際経済への興味や関心を高めていき、次年時以降の学習や研究課題の探究につなげていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際社会やアジアの国々が直面している、経済に関する諸問題を知ることで、アジア経済やグローバル経済の現状や状況について精通していくと共に、国際経済学の領域において、幅広い理解と基礎的な素養を身に付けていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①アジア動向年 2024, アジア経済研究所, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2024 年 ②世界経済入門（講談社現代新書）, 野口悠紀雄, 講談社, 2018 年	ISBN	①9784258010240 ②9784062884730
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講者の紹介、演習の進め方、報告 担当箇所の割り振り。	興味や関心のある東アジアの国や地域について、考 えておいてください。授業で学んだことや思ったこ と、考えたことなどは、復習としてノートやファイル に整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第2回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説 (1)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書 籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を 深めておいてください。授業で学んだことや思ったこ と、考えたことなどは、復習としてノートやファイル に整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説 (2)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書 籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を 深めておいてください。授業で学んだことや思ったこ と、考えたことなどは、復習としてノートやファイル に整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説 (3)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書 籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を 深めておいてください。授業で学んだことや思ったこ と、考えたことなどは、復習としてノートやファイル に整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデ マンド	アジア経済を学ぶ プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料など を収集し、プレゼンの資料を作成してください。授業 で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習 としてノートやファイルに整理して、まとめておく とい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備 をしてください。その他の受講者は、報告されるテー マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等 に触れて、理解を深めておいてください。授業で学ん だことや思ったこと、考えたことなどは、復習として ノートやファイルに整理して、まとめておくとい良 いでしょう。	4 時間
第7回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備 をしてください。その他の受講者は、報告されるテー マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等 に触れて、理解を深めておいてください。授業で学ん だことや思ったこと、考えたことなどは、復習として ノートやファイルに整理して、まとめておくとい良 いでしょう。	4 時間
第8回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備 をしてください。その他の受講者は、報告されるテー マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等 に触れて、理解を深めておいてください。授業で学ん だことや思ったこと、考えたことなどは、復習として ノートやファイルに整理して、まとめておくとい良 いでしょう。	4 時間
第9回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備 をしてください。その他の受講者は、報告されるテー マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等 に触れて、理解を深めておいてください。授業で学ん だことや思ったこと、考えたことなどは、復習として ノートやファイルに整理して、まとめておくとい良 いでしょう。	4 時間
第10回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備 をしてください。その他の受講者は、報告されるテー マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等 に触れて、理解を深めておいてください。授業で学ん	4 時間

			だことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第11回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができるようになる。実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学修・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 毎回の講義はテキストに基づいて輪読・討論を行います。 （教科書は図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413
参考書	①労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ②職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年	ISBN	①9784641165076 ②9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの対応箇所を把握し、どのように報告を行うか検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（4）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。	4時間

			・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	
第10回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立(2)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立(3)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(1)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(2)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(3)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。学期末レポートの作成を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の研究発表に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるようなデータセット等を探してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	貿易統計から学ぶ国際経済		
授業の目的及び概要	この演習では新聞紙等の資料を用い、経済学の視点から世の中の具体的な出来事を考えます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の基礎知識を身に付けること。 (2) 資料を読み解ける能力を育成すること。 (3) 問題を発見し、解決に向けて自ら考えて、動けること。 (4) 自分の意見を文字化して、プレゼンテーションできること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中にプリントを配布します。	ISBN	なし
参考書	授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加することを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について レジュメの作り方など	【予習】 シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 配布資料を整理し、理解を深めましょう。	4 時間

第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第3回	対面	資料輪読②	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	資料輪読⑧	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	研究報告テーマの発表	・各自関心の所在を確認し、テーマを練り、説明できるようにしておきましょう。 ・各自のテーマに関連する情報を確認してみましょう。	4 時間
第11回	対面	参考資料の精査	・参考資料を精読の上、レジюмеを作成してみましょう。 ・疑問点をまとめてみましょう。	4 時間
第12回	対面	研究報告および報告内容に対する質疑応答①	・レジюмеを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第13回	対面	研究報告および報告内容に対する質疑応答②	・レジюмеを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第14回	オンデマンド	レポート作法のガイダンス	レジюмеに基づき、レポートを作成してみてください。	4 時間
第15回	対面	振り返り	これまでの授業内容を復習して、興味のある内容を確認してみましょう。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	近世・近代西洋の社会経済史に関する基礎的なテキストをいくつか輪読します。その一方で、各自の研究報告も行います。研究報告に関しては、近世・近代西洋社会経済史を中心にしますが、各自の関心にもとづく研究報告も歓迎します。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうえで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、課題への回答、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	輪読のレジュメや個別研究のスライドから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション(学術的な文章の作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、輪読するテキストの報告担当箇所を決めます。	【予習】基礎演習で学修した学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。	4時間
第2回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第3回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第4回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第5回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第6回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第7回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第8回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第9回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第10回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第13回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。報告の練習も行うこと。	4時間

第14回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論（基礎） ー産業組織論に基づいた産業および企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析の基礎を学んでいきます。産業組織論や企業経済論の理論の基礎を学修しながら、現実の企業活動を理論的に分析することを目的とします。具体的には、流通業（小売業・卸売業）や観光業（宿泊業、テーマパーク）などの産業が考えられます。演習では、テキストを輪読することで、産業組織論における理論と具体例の考え方を習得した後、各グループ・個人で興味のある内容について調査し、発表してもらいます。それをもとにして、討論を行います。産業組織論は、企業行動の分析だけでなく、政府の政策の分析にも大きく関わります。これらの学修を進めていくことで、「実学としての経済学」の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論に関する基本的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実に行っている産業・企業に関する経済現象について分析し説明できる。 3. 分析結果の内容をまとめ、プレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織論への招待、西村淳一・山内勇、新世社、2025 年	ISBN	9784883844036
参考書	①この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、根来龍之・富樫佳織・足代訓史、SB クリエイティブ、2020 年 ②経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784797392777 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、産業、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的に行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	ミクロ経済学の基礎	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	産業分析のための基本概念	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	完全競争市場と独占	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	新規参入	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	市場の構造、行動、そして成果	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	企業戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第8回	対面	価格差別	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第9回	対面	イノベーション戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備して	4時間

			ください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	
第10回	対面	製品戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	広告・流通戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	企業の境界・組織のガバナンス	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	企業成長	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	競争優位のための戦略的行動	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】これまで調査した経済現象についてまとめておいてください。 【復習】テキストで学んだことを復習してください。秋学期の学生研究発表大会に関するテーマを考え、関連する文献を読んでください。	6 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	この授業では、レポート作成や卒業論文の準備として、リサーチの方法論を習得することを目的としています。「問題・課題を発見し、その原因を考えて仮説を立て、仮説検証のためのデータを収集し検証を行い、結果をまとめて報告する」というリサーチの手順を、教科書の輪読によって学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の3つです。 1. リサーチの手順が理解できる。 2. 問題解決・課題解決のための仮説の設定と検証方法が理解できる。 3. 相関関係と因果関係の違いが理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人で教科書の各章を分担して輪読する予定で、授業内でコメントを通じてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①『政策リサーチ入門 増補版』, 伊藤修一郎著, 東京大学出版会, 2022 年	ISBN	①9784130322324
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	教科書の輪読をしますので、必ず教科書を予習してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（教員および学生の自己紹介、授業の進め方の説明、輪読の順番決め、教員による「序章」の説明）	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】教科書の序章を読み直し、知識の定着を図る	4 時間

			てください。	
第2回	対面	リサーチ・クエスチョンを立てる（教科書第1章）	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第3回	対面	仮説をたてる（教科書第2章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第4回	対面	仮説をたてる（教科書第2章）② 相関関係と因果関係について教員が説明します。	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】資料や授業中のメモを読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第5回	対面	資料・データを収集する（教科書第3章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第6回	対面	資料・データを収集する（教科書第3章）② 地域間人口移動、結婚、出産に関する先行研究を紹介します。	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】資料や授業中のメモを読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第7回	対面	仮説を検証する（教科書第4章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第8回	対面	仮説を検証する（教科書第4章）② 教科書で紹介されている分析手法について教員が説明します。	【予習】事前に配布する資料を読み、疑問点を明確にしておいてください。 【復習】資料を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第9回	対面	リサーチの結果をまとめ、伝える（教科書第5章）	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第10回	対面	リサーチ結果を政策化する（教科書第6章）	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第11回	対面	演習例1 自転車事故の原因探求	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第12回	対面	演習例2 景観保存の成功条件抽出	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第13回	対面	演習例3 治安悪化の要因分析	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4時間
第14回	対面	演習例4 広告景観規制の実施分析	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。	4時間

2025/05/01

			【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】これまでの勉強したことを振り返り、疑問点等がないか確認してください。 【復習】教科書を読み直し知識の定着を図ってください。	4時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	所得格差と経済成長の関係(歴史的アプローチによる日本と欧米の比較)①		
授業の目的及び概要	アメリカ合衆国の経済学者であるサイモン・クズネッツ(1901～1985)は、アメリカ合衆国、イギリス、ドイツの発展過程と所得分布を観察し、経済成長と所得格差の関係は、経済の発展段階に依存するという仮説を提唱しているが、この仮説はどの程度日本に当てはまるのか、また当てはまらないのかを、まず検証してみたい。その上で、クズネッツの仮説に対する賛否両論の見解も検討し、現在の日本経済が抱える様々な問題点との関連性を、演習参加者全員で考えてみることにしたい。		
履修条件・留意点	特にありませんが、遅刻は厳禁と与えられた課題はきちんとこなすこと。 この演習ⅠAでは、文献の輪読を中心に進めますが、担当となった箇所の報告は責任を持って取り組んでいただきたいと思います。手法については手取り足取り指導しますので、恐れずに参加してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習ⅠAの到達目標としては、 まず第一に、資料(文献及びグラフや表)を正確に読み取る力を養成する。 第二に、その読み取りに基づいて、自分なりの見解をまとめる力を養成する。 第三に、その見解を他人にうまく伝えられるプレゼンテーション力を養成する。 の3点になります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、資料の読み方、レジュメの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションに対してしっかりコメントします。質疑応答の時間も確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	購入するテキストはありません。	ISBN	なし
参考書	岩波講座『日本経済の歴史』の第3巻を使用しますが、序章のみを扱いますので、参加者の人数分をこちらで印刷して、第1回目の授業で配布します。 他にも参考文献の必要が生じれば、適宜紹介します。	ISBN	ISBN 9784000114035
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表(口頭・実技)	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	まず最初にゼミ生及び教員の自己紹介を行い、続いて授業の進め方について、イントロダクションを行います。次に輪読のテキストを配布し、教員がまず読み方の見本を示します。最後に輪読するテキストの報告担当箇所を決めます。	【予習】基礎演習で学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第2回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.2～5	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第3回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.5～8	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第4回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.8～12	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第5回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.12～14	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第6回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.14～16	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第7回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.16～18	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第8回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第1節 成長とマクロ経済 p.18～22	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間
第9回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3時間

		所得と資産の分配 p. 39～41		
第10回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p. 41～43	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3 時間
第11回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p. 43～48	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3 時間
第12回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p. 48～51	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3 時間
第13回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p. 51～54	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3 時間
第14回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第3巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p. 54～56	【予習】輪読するテキストの該当箇所を、事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの該当箇所について、論点を整理し、理解を深めること。	3 時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきた文献の内容のまとめ、秋学期の学生研究発表大会へ向けてのガイダンス、夏季休暇中の課題についての説明を、オンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する小テストに解答してもらうことにします。	3 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（基礎） ー経済理論と戦略的思考で社会を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学の考え方に基づいて、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 日常には様々な疑問が満ちています。たとえば、通販会社が「不満なら全額返金」を保証するのはなぜでしょうか。多くの学校で制服の着用が義務付けられているのはなぜでしょうか。航空券は直前に買うほど高くなるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。教育において「我慢強さ」が評価される理由を理論的に説明できるでしょうか。 社会にも様々な疑問を見出すことができます。地球温暖化問題が一向に解決しないのは、なぜでしょうか。政府が企業の競争を促進したり規制したりするのは、どのような判断基準に基づいているのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学といった経済理論を学修して戦略的思考力を身につけると、このような疑問に対して確固たる自分の考えを持つことができるようになります。そこで本科目では、受講生の関心に応じて、「企業の戦略的行動」、「環境問題」、「公共政策」といった経済学で頻繁に扱われるテーマを中心に、日常生活における人間の行動等も盛り込んで、学生研究発表大会への参加等を通じて、経済学的・戦略的思考能力の修得を目指します。 本科目の学修を通じて、以下の「学修の到達目標」に記載された能力を養うことは、今後の大学での学修に限らず、就業力を高めることにもつながります。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済理論に基づいて問題の所在を正しく認識し、適切な調査・分析を行った結果をまとめることができる 2. 考察を他人にも伝わるように発表・プレゼンテーションを行うことができる 3. ゲーム理論や行動経済学の基礎的理解に基づき、現実経済・社会への適用を考えることができる 4. 他者と協力して研究等を行うことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認（30分程度） ・今学期の目標設定（90分程度） ・グループワークの計画検討（2時間程度）	4時間
第2回	対面	グループワーク（調査）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第3回	対面	グループワーク（調査）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第4回	対面	グループワーク（調査、分析）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第5回	対面	グループワーク（分析、中間報告準備）	・グループワークの作業 各自で必要と思われる情報を調査してください。 中間報告に備えて発表資料を作成してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第6回	対面	中間報告会1	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第7回	対面	中間報告会2	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第8回	対面	最終報告に向けた準備1	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第9回	対面	最終報告に向けた準備2	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第10回	対面	最終報告・最終報告の振り返り	・最終報告に向けた準備（2時間程度） ・最終報告の振り返り（2時間程度）	4時間
第11回	対面	グループワーク	・テーマの検討（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度）	4時間
第12回	対面	グループワーク	・グループワークの作業（2時間程度）	4時間

2025/05/01

			・ 期末レポートの執筆（2 時間程度）	
第 1 3 回	対面	グループワーク	・ グループワークの作業（2 時間程度） ・ 期末レポートの執筆（2 時間程度）	4 時間
第 1 4 回	対面	振り返り	・ 今学期の振り返り（2 時間程度） ・ 長期休み中の計画立案（2 時間程度）	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加・振り返り	学生研究発表大会参加後に振り返りを行ってください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	家計内資源配分と女性の社会進出（基礎）		
授業の目的及び概要	家計経済学の視点から、家計におけるさまざまな問題や課題について学びます。具体的には、「人々は結婚に何を求めるのか」「子供を持つという意思決定にはどのような要因が影響するのか」「なぜ親は子供の教育に投資するのか」「女性の社会進出を促す要因とは何か」など、日常生活に根ざした疑問を経済理論に基づいて理解することを目指します。さらに、家計に関連する経済政策の仕組みやそのメカニズムについても学びます。そして、家計経済学の理論を踏まえ、自分が関心を持つテーマを設定し、実際のデータを活用して分析を行うことで、実証的な分析力を養います。演習では、データ分析の手法を実践的に習得し、経済学的な視点から社会課題を論理的に考察する能力を高めることを目標とします。これにより、学修だけでなく、就職活動や今後のキャリアにも活かすことができるでしょう。 これらの学びを通じて、経済学部が掲げる「実学としての経済学」と繋がることで、得た知識とスキルを学修だけでなく、就職活動や今後のキャリアにおいても役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	家計におけるさまざまな課題を理解することで、日本が直面する家計関連の現状についての理解を深め、家計経済学に関する幅広い知識と素養を習得する。また、グループワークを通じた報告資料の作成および発表を行うことで、協調性やコミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対し、コメントを通じて適切なフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』、山口慎太郎、光文社新書、2019 年	ISBN	①9784334044220
参考書	①『子育て支援の経済学』、山口慎太郎、日本評論社、2021 年 ②『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』、牧野百恵、中央公論新社、2023 年 ③『女性たちの平成不況』、樋口美雄・太田清・家計経済研究所、日本経済新聞社、2004 年	ISBN	①9784535559035 ②9784121027689 ③9784532350918
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、自分が興味を持つテーマについて考察してください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの該当箇所を確認し、その内容をどのように報告するか検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本の家計問題（1）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	日本の家計問題（2）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本の家計問題（3）	・授業で扱うテーマに関連するテキストや配布資料に事前に目を通してください。報告担当者は、報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やディスカッションのポイントの振り返りと整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本の家計問題：各自興味ある内容についての報告（1）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本の家計問題：各自興味ある内容についての報告（2）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の家計問題：各自興味ある内容についての報告（3）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本の家計問題：各自興味ある内容についての報告（4）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	日本の家計問題：発表と討論（1）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2時間程度）。	4時間

			・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	
第 1 0 回	対面	日本の家計問題：発表と討論（2）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2 時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 1 回	対面	日本の家計問題：発表と討論（3）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2 時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 2 回	対面	日本の家計問題：発表と討論（4）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2 時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 3 回	対面	日本の家計問題：発表と討論（5）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2 時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 4 回	対面	日本の家計問題：発表と討論（6）	・報告担当者は、自身興味ある研究内容について報告資料の作成および準備を進めておいてください。（2 時間程度）。 ・授業後には、授業で受けたコメントに基づいて修正と整理を行ってください（2 時間程度）。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の学修内容を振り返り、自分の理解を深めてください。 ・来年度の研究発表に向けて、自分が取り組みたい研究テーマについて考えておいてください。卒業研究に向けて、自身興味のある研究テーマに関連するデータセットを調査し、活用の可能性を検討してください（4 時間程度）。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（基礎）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。 本演習では、エネルギー・環境問題に関する課題、問題解決の方策についての知見を高め、各問題を経済学的に解釈し表現できる能力の向上を目指します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース（経済理論・国際経済・都市経済・現代日本経済）所属でも履修可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①エネルギー・環境問題に関する基礎的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	新・環境経済学入門講義，浜本光紹，創成社，2024 年	ISBN	9784794432490
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習 I A で学んだ様々なテーマを更に掘り下げ、研究を進めます。研究成果は学生研究発表大会（グループ）および学期末レポート（個人）で発表します。 受講生自らが積極的に関与することを期待します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス（本演習の進め方）	・ 学生研究発表大会のテーマを各自で考えておいてください。	4 時間
第2回	対面	学生研究発表大会のためのテーマ選定	・ 学生研究発表大会のテーマを各自で考えておいてください。 ・ グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4 時間
第3回	対面	学生研究発表大会のための調査（1）	・ グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4 時間
第4回	対面	学生研究発表大会のための調査（2）	・ グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4 時間
第5回	対面	学生研究発表大会のための調査（3）	・ グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4 時間
第6回	対面	学生研究発表大会のためのパワーポイント作成（1）	・ グループのメンバーの作成分担を決め、次回までに各自で分担した個所のパワーポイント資料をまとめておくようにしてください。	4 時間
第7回	対面	学生研究発表大会のためのパワーポイント作成（2）	・ グループのメンバーの作成分担を決め、次回までに各自で分担した個所のパワーポイント資料をまとめておくようにしてください。	4 時間
第8回	対面	学生研究発表大会のための発表練習	・ 授業中のコメントを踏まえて各自発表の練習をしてください。	4 時間
第9回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	・ パワーポイント資料を最終確認し、発表練習をしてください。	4 時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り	・ 学生研究発表大会における教員コメントとグループの回答をまとめてください。 ・ 学生研究発表大会の振り返りシートを完成させてください。	4 時間
第11回	対面	地球環境と人間社会の持続可能性をめぐる諸課題（1）	・ 授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・ 翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第12回	対面	地球環境と人間社会の持続可能性をめぐる諸課題（2）	・ 報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・ 報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第13回	対面	費用便益分析と環境問題（1）	・ 授業で扱うテーマが記載されたテキスト該当箇所を事前に読んでおいてください。 ・ 翌週に報告予定のグループは報告資料をまとめ、それ以外のグループはディスカッションのための質問リストを準備しておくようにしてください。	4 時間
第14回	対面	費用便益分析と環境問題（2）	・ 報告予定のグループは報告資料を準備し、報告後はグループに対するコメントを反映して報告資料を提出してください。 ・ 報告しないグループはディスカッションのための質問リストを準備し、ディスカッション後は質問と質問に対する回答をまとめてください。	4 時間
第15回	対面	まとめ	・ 今学期の振り返りを各自まとめて提出してください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論を実戦に生かそう (2)		
授業の目的及び概要	この演習では、ゲーム理論の基本的な考え方を理解するとともに、そのビジネス活動での応用、そしてゲーム理論を生かした意思決定プロセスについて勉強していきたいと思います。その主な内容は以下の通りです。 1. 支配戦略均衡 2. ナッシュ均衡 3. 囚人のジレンマと「共有地の悲劇」 4. 繰り返しゲーム 5. 合理的な豚とフリーライダー この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。この授業を受講することにより、ゲーム理論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。 また、この演習は、ゲーム理論のもっとも基本的な解き方を学修することに重点を置きますので、ゲーム理論の入門レベルにあたります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 授業で勉強した主なゲームの説明ができる。 2. ゲーム理論の基本的な考え方を理解することができる。 3. その考え方をを用いて、日常生活のさまざまな場面や卒業後のビジネス活動を理解することができる。 4. 就職活動に必要なプレゼン能力をもつことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	①図解で学ぶゲーム理論入門, 天谷研一, 日本能率協会マネジメントセンター, 2011 年 ②ビジュアル ゲーム理論, 渡辺隆裕, 日本経済新聞, 2019 年	ISBN	①9784820747185 ②9784532119393
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表 (口頭・実技)	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験 (対面)	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゲーム理論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を問わず、経済学のほとんどの分野に応用され、経済分析のための基本道具の一つとなっています。さらに、経済学の分野を超えて政治学など他の社会科学の分野にも広く応用されています。少し難しい学問ですが、力を合わせて頑張りましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	学生研究発表大会出場チームの選出 ・夏休み中の宿題を点検します。 ・経済学部学生研究発表大会出場チームの選出。 （受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。）	次回の授業までに、研究発表大会報告用レジюмеを完成してください。	4時間
第2回	対面	出場チームの指導 ・経済学部学生研究発表大会出場チームに対して指導を行います。	次回の授業までに、研究発表大会報告用レジюмеを完成し、PPTを作成してください。	4時間
第3回	対面	秋学期の目標を設定しましょう ・春学期に蓄積した「マイノート」のファイルを整理するとともに、春学期末の感想文をもとに、春学期の成長した点、秋学期の課題について話し合います。	次回の授業までに、研究発表大会の発表内容について確認してください。	4時間
第4回	対面	グループ学習の改善 ・秋学期のグループ運営の改善方法について話し合います。	次回の授業までに、配布資料を参考にレジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第5回	対面	支配戦略均衡 ・支配戦略均衡について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第6回	対面	ナッシュ均衡 ・ナッシュ均衡について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、学修ポートフォリオの「マイノート」に保存してください。	4時間
第7回	対面	「囚人のジレンマ」 ・「囚人のジレンマ」について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第8回	対面	「囚人のジレンマ」と「共有地の悲劇」 ・「共有地の悲劇」は回避できるかについて勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第9回	対面	「繰り返しゲーム」と現在価値 ・「囚人のジレンマ」を克服する「繰り返しゲーム」について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第10回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加	学生研究発表大会の参加に向け、発表資料を修正し、レジюмеを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4時間
第11回	対面	「繰り返しゲーム」 ・引き続き「繰り返しゲーム」について勉強します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第12回	対面	「合理的な豚」 ・「合理的な豚」について勉強し、「囚人のジレンマ」との相違点を理解します。	参加者は事前に配布資料を読み込んだうえで、レジюмеを作成し、発表に備えるとともに、「マイノート」に保存してください。	4時間
第13回	対面	「合理的な豚」とフリーライダー ・「合理的な豚」を用いてフリーライダー問題を説明します。	参加者は資料を収集し、秋学期のレポート作成の準備を始めてください。	4時間
第14回	対面	秋学期のまとめ（1） ・秋学期初めに作成した各自の「秋学期の	次回の授業までに、秋学期のレポートを完成し、マイノートに保存してください。	4時間

2025/05/01

		目標」の達成度と反省点について報告し、話し合います。		
第15回	対面	秋学期のまとめ（2） ・ 期末レポートの提出 ・ 春休み中と次年度春学期の学修内容について話し合います。	今年度の学修成果を踏まえ、次年度の目標について考えてください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国の情勢と国際経済の要点を学ぶ（2）		
授業の目的及び概要	本演習では、世界経済に関連する様々なテーマを幅広く扱い、平易に分かりやすく学んでいくことで、国際的にはどのような経済問題が潜んでいるのか、世界の国々はどのような経済状況にあるかなどについて、理解を深めていくことにする。 特に、アジア各国の経済社会問題や現実には起きている世界経済の諸課題に焦点を当て、その背景や本質を考察していく中で、実際に起きている経済現象への認識を深め、現実的な政策対応を検討していく。 国際経済コースを選択した学生にとっては、本演習での学びを基礎として、国際経済への興味や関心を高めていき、次年時以降の学習や研究課題の探究につなげていくうえで有益となろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際社会やアジアの国々が直面している、経済に関する諸問題を知ること、アジア経済やグローバル経済の現状や状況について精通していくと共に、国際経済学の領域において、幅広い理解と基礎的な素養を身に付けていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①アジア動向年 2021, アジア経済研究所, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2021 年 ②世界経済入門（講談社現代新書）, 野口悠紀雄, 講談社, 2018 年	ISBN	①9784258010240 ②9784062884730
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当箇所の割り振り。	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、考えておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第2回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(1)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第3回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(2)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第4回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(3)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第5回	オンデマンド	国際経済を学ぶ プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料などを収集し、プレゼンの資料を作成してください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第6回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第7回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第8回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとういでしょう。	4時間
第9回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめて	4時間

			おくと良いでしょう。	
第10回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくと良いでしょう。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができるようになる。実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学修・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 毎回の講義はテキストに基づいて輪読・討論を行います。 （教科書は図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413
参考書	①労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ②職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年	ISBN	①9784641165076 ②9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学。マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、興味や関心のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの対応箇所を把握し、どのように報告を行うか、どのような先行研究があるかを調べてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（1）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（2）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（3）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（4）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や	4時間

			知識を確認してください（2時間程度）。	
第9回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（1）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4 時間
第10回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（2）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4 時間
第11回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（3）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4 時間
第12回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（4）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4 時間
第13回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（5）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4 時間
第14回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（6）	・報告担当者は、前回報告時のコメントを踏まえたうえで報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告時にもらった指摘を反映させて、報告資料の改善を行ってください。学期末レポートの作成を行ってください（2時間程度）。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・次年度の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください（4時間程度）。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易から学ぶ国際経済		
授業の目的及び概要	この演習では新聞紙等の資料を用い、経済学の視点から世の中の具体的な出来事を考えます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。 さらに研究や調査の基礎を身に付けるを期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の基礎知識を身に付けること。 (2) 資料を読み解ける能力を育成すること。 (3) 問題を発見し、解決に向けて自ら考えて、動けること。 (4) 自分の意見を文字化して、プレゼンテーションできること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中にプリントを配布します。	ISBN	なし
参考書	授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。	4 時間

			【復習】配布資料を整理し、理解を深めましょう。	
第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第3回	対面	資料輪読②	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	資料輪読⑧	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	研究報告テーマの発表	・各自関心の所在を確認し、テーマを練り、説明できるようにしておきましょう。 ・各自のテーマに関連する情報を確認してみましょう。	4 時間
第11回	オンデマンド	参考文献の精読① 文献調査のガイダンスなど	・提示した方法を踏まえて、参考文献を入手してみてください。 ・重要な文献を精読して、まとめてみてください。 ・疑問点をまとめてください。	4 時間
第12回	対面	参考文献の精読②	・参考資料を精読の上、レジュメを作成してください。 ・疑問点をまとめてください。	4 時間
第13回	対面	研究報告①	・レジュメを完成させ、報告の練習をやってみてください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第14回	対面	研究報告②	・レジュメを完成させ、報告の練習をやってみてください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第15回	対面	振り返りとレポートの作成	これまでの授業内容を復習して、興味の所在を見つけてみましょう。 修正したレジュメに基づき、レポートを作成してください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	演習 I A の学修を踏まえたうえで、グループや個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。また、演習 I A 同様に近世・近代西洋社会経済史に関する基礎的なテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション(学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、グループか個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	演習ⅠAで学修した、学術的な文章の作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	4時間
第2回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第3回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第5回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第6回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。また、スライドなどの作成を進めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。	4時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。	4時間
第9回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善のためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。 【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4時間
第10回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4時間
第11回	対面	演習ⅠAで扱った問題の応用的なテキストの輪読を行います。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第12回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第13回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。	4時間

		員でディスカッションを行う。	【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	
第14回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論（基礎） ー産業組織論に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論に基づいた企業行動の分析の基礎を学んでいきます。産業組織論の基礎や企業のビジネスモデルを学修しながら、現実の企業活動を理論的に分析することを目的とします。具体的には、流通業（小売業・卸売業）、観光業（宿泊業、テーマパーク）、プラットフォーム企業などが考えられます。演習では、テキストを輪読することで、産業組織論における理論と具体例の考え方を習得した後、各グループで興味のある内容について調査し、発表してもらいます。それをもとにして、討論を行います。産業組織論は、企業行動の分析だけでなく、政府の政策の分析にも大きく関わります。これらの学修を進めていくことで、「実学としての経済学」の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論に関する基本的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実に行っている産業・企業に関する経済現象について分析し説明できる。 3. 分析結果の内容をまとめ、プレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織論への招待、西村淳一・山内勇、新世社、2025 年	ISBN	9784883844036
参考書	①この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、根来龍之・富樫佳織・足代訓史、SB クリエイティブ、2020 年 ②経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784797392777 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的に行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・学生研究発表大会に向けての準備	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。学生研究発表大会のテーマを考えてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	テーマに関する事例の紹介	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例（新聞記事等）を探し、要約を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第3回	対面	テーマに関する事例の分析	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例について、産業組織論の理論を使ってどのように分析できるか考えてください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第4回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（1）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第5回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（2）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第6回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（3）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第7回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（4）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	【予習】発表スライドの確認及びプレゼン練習をおこなってください。 【復習】発表での質疑応答の内容をまとめてください。	4時間
第9回	対面	学生研究発表大会の振り返り	【予習】報告スライドおよび質疑応答の内容をまとめた資料を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第10回	対面	レポートの書き方とテーマの決定	【予習】事前に配布したレポートの書き方に関する資料を読んでください。レポートのテーマを考えてください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	文献の読み方と要約（1）	【予習】レポートのテーマに関する資料（書籍・論文・データ）を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4時間
第12回	対面	文献の読み方と要約（2）	【予習】レポートのテーマに関する資料（書籍・論文・データ）を準備してください。テーマに関するテキス	4時間

			トの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	
第13回	対面	文献の読み方と要約 (3)	【予習】レポートのテーマに関する資料(書籍・論文・データ)を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4 時間
第14回	対面	レポートの発表 (1)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	4 時間
第15回	対面	レポートの発表 (2)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	6 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本授業では、人口変動の 3 要素と言われる「出生、死亡、転入・転出」のうち、出生と転入・転出に焦点をあてて、都市と地方の人口変動の現状を把握することを目的とします。まず、出生、転入・転出の現状把握のために必要な統計データについて学び、次いで、実際に政府統計の総合窓口（e-Stat）を使ってこれらの統計データを取得して、記述統計等によってデータを整理し、主に都道府県別の出生、転入・転出の現状を把握します。そしてこれらの学修の成果として、研究発表大会で発表します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の 3 つです。 1. 人口変動を考察するための統計データについて説明できる。 2. 政府統計の総合窓口（e-Stat）を使って分析目的に適した統計データを取得できる。 3. 学生研究発表大会で発表する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人で報告や統計データ取得、エクセルによるグラフ作成などの実習を行います。参加者全員が実習内容をマスターできるようなフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は授業前に配布します。	ISBN	ナシ
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス（授業の進め方について説明）	【予習】演習 I A で使用した教科書や資料に目を通しておいください。	4 時間

			【復習】授業中に配布された資料を読み直しておいてください。	
第2回	対面	研究テーマの選定①	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマの検討を続けてください。	4 時間
第3回	対面	テーマ選定②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマを検討してください。	4 時間
第4回	対面	テーマ選定③	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマを検討してください。	4 時間
第5回	対面	中間報告①	【予習】報告資料を作成して下さい。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第6回	対面	中間報告②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第7回	対面	中間報告③	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第8回	対面	中間報告④	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第9回	対面	最終報告①	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてプレゼンの完成度を高めてください。	4 時間
第10回	対面	最終報告②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてプレゼンの完成度を高めてください。	4 時間
第11回	対面	研究発表大会の振り返り①	【予習】研究発表大会の反省点を書き出してください。 【復習】リサーチ手順を復習してください。	4 時間
第12回	対面	研究発表大会の振り返り②	【予習】研究発表大会の反省点を書き出してください。 【復習】リサーチ手順を復習してください。	4 時間
第13回	対面	リサーチ手順の再確認①	【予習】「政策リサーチ入門」を読み直してください。 【復習】授業ノートを復習してください。	4 時間
第14回	対面	リサーチ手順の再確認②	【予習】「政策リサーチ入門」を読み直してください。 【復習】授業ノートを復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】授業前に配布した資料に目を通して、疑問点などを明確にしておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	所得格差と経済成長の関係(歴史的アプローチによる日本と欧米の比較)②		
授業の目的及び概要	この演習 I B では、春学期の演習 I A で輪読し検討した「クズネッツ仮説」とその日本に対する妥当性の吟味を、引き続き 1914 年から 1936 年の時期に行います。また秋学期には学生研究発表大会が開催されるので、それに向けての研究準備と指導も併せて行います。学生研究発表大会後は、クズネッツ批判で有名なフランスの経済学者トマ・ピケティの『21 世紀の資本』の内容について、理解を深めます。		
履修条件・留意点	特にありませんが、遅刻は厳禁と与えられた課題はきちんとこなすこと。 この演習 I B では、履修者がそれぞれに課されたタスクをこなし、協同でプレゼンテーションを行うことに主眼を置いています。やり終えた時の達成感は計り知れないものがあると思いますので、大変かも知れませんが頑張ってくださいと幸いです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習 I B の目標としては、演習 I A に引き続き、 まず第一に、資料(文献及びグラフや表)を正確に読み取る力を養成する。 第二に、その読み取りに基づいて、自分なりの見解をまとめる力を養成する。 第三に、その見解を他人にうまく伝えられるプレゼンテーション力を養成する。 の3点ですが、演習 I B では、「学生研究発表大会でしっかりとした発表する」ことを最大の目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、資料の読み方、グラフの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションに対してしっかりコメントします。質疑応答の時間も確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL (課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート、討議 / グループワーク / プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	今回の演習では特にありません。強いて言えば、授業の中で紹介する参考文献や、統計資料やインターネットから収集したデータがテキストになります。	ISBN	なし
参考書	①日本経済の歴史 4 (近代2), 深尾京司・中村尚史・中林真幸(編), 岩波書店, 2017 年 ②21 世紀の資本, トマ・ピケティ(著) 山形浩生・守岡桜・森本正史(訳), みすず書房, 2014 年 ③ピケティ入門(『21 世紀の資本』の読み方), 竹信三恵子, (株)金曜日, 2014 年	ISBN	①ISBN 9784000114042 ②ISBN 9784622078760 ③ISBN 9784865720006
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表(口頭・実技)	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	① 演習 I A で得た知見の振り返り ② 統計資料やインターネットからのデータ収集の方法について ③ 輪読の報告の分担を決める ④ 研究発表のテーマの検討、グループ分けを行う	【予習】今回は必要ありません。 【復習】次回の予習になりますが、報告担当者は自分が担当する箇所の報告レジュメを作成する。	3 時間
第2回	対面	① 輪読：『日本経済の歴史』第4巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.43～46 ② 研究発表大会のテーマの検討、資料集め、草稿作成など	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第3回	対面	① 輪読：『日本経済の歴史』第4巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.46～49 ② 研究発表大会のテーマの再吟味、資料集め、草稿作成など	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第4回	対面	① 輪読：『日本経済の歴史』第4巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.50～54 ② 研究発表大会への準備作業：資料集め、草稿作成など	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第5回	対面	① 輪読：『日本経済の歴史』第4巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.54～60 ② 研究発表大会への準備作業：資料集め、草稿作成など	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第6回	対面	① 研究発表大会への準備作業：資料集め、草稿作成など ② 『ピケティ入門』の報告分担の割り振り	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第7回	対面	① 研究発表大会への準備作業（最終）：資料集め、草稿作成など ② 作成中の Power Point スライドのチェック	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間
第8回	対面	① 学生研究発表大会のリハーサル（その1） ② ①を踏まえてのディスカッション	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3 時間

第9回	対面	① 学生研究発表大会のリハーサル(その2) ② ①を踏まえてのディスカッション	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第11回	対面	輪読：『ピケティ入門』p. 10～19	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第12回	対面	輪読：『ピケティ入門』p. 20～29	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第13回	対面	輪読：『ピケティ入門』p. 29～40	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第14回	対面	輪読：『ピケティ入門』p. 40～51	【予習】報告担当者は自分が担当する部分について、報告レジュメを作成する。 他のメンバーも、輪読の予定箇所を読んでくる。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有する。	3時間
第15回	オンデマンド	☆オンデマンドで授業を行います。 ① 14回目までの授業で得られた知見について、振り返りを行います。 ② その後、ラーニングポータルアンケートに回答していただきます。	【予習】今回は必要ありません。 【復習】授業で得られた知見を履修者全員で共有した上で、まとめのアンケートに回答する。	3時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の課題と政策対応		
授業の目的及び概要	グローバル化の進展が目覚ましい昨今にあって、たとえ一国内の問題であったとしても、広く国際社会や他国の政治・経済へとその影響が波及していく事態は、決して珍しい現象ではなくなっている。まさにグローバル経済の真ただ中にある日本並びに他のあらゆる地域や国々は、時にこうした国際化の波に直面しながら、様々な経済問題や課題と向き合っている。本講義では、このような世界経済に関連する諸課題を見つけ、その本質を解明していく作業を、各自の調査・発表と全体での議論・討論を通して行っていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本を含む世界各国・地域や国際社会が直面している経済問題について、自ら情報収集し考察していく中で、課題発見能力と分析力を磨いていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。最終的には、レポートという形で文章にまとめていくことで構成力や表現力、文章力を高めていくと共に、次年時の卒業レポートや卒業論文の執筆につなげていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講者の紹介、演習の進め方、参考	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。授業で	4 時間

		書の紹介、報告担当箇所の割り振り。	学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第2回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(1)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(2)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(3)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデマンド	国際経済の課題と政策対応：プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料などを収集し、プレゼンの資料を作成してください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第10回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をして	4 時間

		論(6)	ください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	
第12回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第13回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第14回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(9)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができる。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学—理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、グループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	データ分析入門（データの把握1）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第3回	対面	データ分析入門（データの把握2）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第4回	対面	データ分析入門（回帰分析1）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第5回	対面	データ分析入門（回帰分析2）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第6回	対面	グループワーク1（テーマ設定と報告準備）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループワーク2（報告資料準備）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク3（報告）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク4（テーマ設定とグループ分け）	・グループワークのテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・グループで決定したテーマをどのように分析していくか検討してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク5（資料収集）	・グループテーマについて関連する書籍・論文等を調べて研究方法を検討してください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループワーク6（分析）	・グループテーマについて関連する書籍・論文等を調べて研究方法を検討してください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間

第12回	対面	グループワーク7（報告準備）	・グループテーマに関して報告資料の作成を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	グループワーク（報告1）	・報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	グループワーク（報告2）	・報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。学期末レポートの作成を行ってください（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください（4時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、必要な知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。都市・地域の現状を、「人口移動」、「高齢化」、「都市再生」、「地域活性化」、「地方行政」、「観光振興」、「住宅・土地市場」などの側面から学び、課題を分析していきます。そうした過程で、4年次の卒業論文で取り組むべき課題を各自見つけていきます。また、演習での報告、ディスカッションやグループワークを通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献の要点をまとめ、報告できる。 ・報告に対し互いに意見を述べ、議論できる。 ・都市・地域の現状を理解し、課題を抽出できる。 ・グループワークで課題の調査・分析を行い、結果をとりまとめ、報告できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。課題に対しては、コメントを付けて返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	①縮小まちづくり，米山秀隆，時事通信社，2018 年 ②アフターコロナの都市と住まい，米山秀隆，プログレス，2021 年	ISBN	①9784788715479 ②9784910288109
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	積極的な報告、発言、議論を心掛け、演習での学びを実りあるものにしていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、演習の内容・進め方、報告の割り振り	【予習】Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第2回	対面	調査・分析の手法と調査事例 1	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第3回	対面	調査・分析の手法と調査事例 2	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第4回	対面	報告・議論 1	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第5回	対面	報告・議論 2	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第6回	対面	報告・議論 3	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第7回	対面	報告・議論 4	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第8回	対面	報告・議論 5	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第9回	対面	報告・議論 6	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第10回	対面	報告・議論 7	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第11回	対面	報告・議論 8	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第12回	対面	グループワーク 1: グループ分け、テーマ設定	【予習】グループワークで取り組みたいテーマについて考えておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4 時間
第13回	対面	グループワーク 2: 文献収集	【予習】グループワークに向けて、必要な準備を行って下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4 時間
第14回	対面	グループワーク 3: 文献収集、夏休み中の課題設定 演習のまとめ	【予習】グループワークに向けて、必要な準備を行って下さい。 【復習】グループワークを振り返り、夏休みで取り組むことを整理して下さい	4 時間
第15回	オンデマンド	都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（応用） ーゲーム理論・行動経済学で戦略的行動を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学を応用して、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 ゲーム理論や行動経済学は、多様な社会現象・社会問題を分析することが可能です。たとえば、労使関係や、ライバル企業との競争関係なども考えられますし、様々な政策の効果や個人の意思決定も分析できます。 理論的な分析を行うと、様々な疑問に答えを得ることができます。たとえば、新卒採用で業務と直接関係ない資格取得やボランティアの経験が評価される場合があるのはなぜでしょうか。航空券は出発直前になるほど高額になるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。夏休みの宿題を計画通りに進められないのはなぜでしょうか。どうすれば年金保険料の未納率を下げることができるようになるのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学は、このような疑問への答えを考えるために便利な道具です。本科目では卒業研究のために、主にゲーム理論を用いた戦略的思考を学び、これを活用する能力を養うことを目的とします。このため授業ではゲーム理論・行動経済学を学びつつ、どのような状況に理論を応用できるか考える練習を受講者のプレゼンテーションを中心に行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論および行動経済学の基礎知識を修得する 2. 学修した理論を現実の様々な現象に応用できる 3. 社会問題・社会現象等に対してゲーム理論または行動経済学の考え方を適用し、他者と協働しながら自分の考えを整理して発信することができる 4. 他者と協力して研究活動に取り組むことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認（30分程度） ・今学期の目標設定（90分程度） ・グループワークの計画検討（2時間程度）	4時間
第2回	対面	グループワーク（調査）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第3回	対面	グループワーク（調査）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第4回	対面	グループワーク（調査、分析）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第5回	対面	グループワーク（分析、中間報告準備）	・グループワークの作業 各自で必要と思われる情報を調査してください。 中間報告に備えて発表資料を作成してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第6回	対面	中間報告会1	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第7回	対面	中間報告会2	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第8回	対面	最終報告に向けた準備1	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第9回	対面	最終報告に向けた準備2	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第10回	対面	最終報告・最終報告の振り返り	・最終報告に向けた準備（2時間程度） ・最終報告の振り返り（2時間程度）	4時間
第11回	対面	グループワーク1	・テーマの検討（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度）	4時間
第12回	対面	グループワーク2	・グループワークの作業（2時間程度） ・期末レポートの執筆（2時間程度）	4時間
第13回	対面	グループワーク3	・グループワークの作業（2時間程度） ・期末レポートの執筆（2時間程度）	4時間
第14回	対面	振り返り	・今学期の振り返り（2時間程度）	4時間

2025/05/01

			・長期休み中の計画立案（2 時間程度）	
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会に向けた準備	学生研究発表大会後に関連した授業資料に基づき、大会に向けた作業を進めてください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論の応用を考えるために、まずはゲーム理論の基礎をゼミ形式で学びます。		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は意思決定の学問です。各個体の意思決定が相互に影響し合うとき、ゲーム理論の分析対象となります。 したがってゲーム理論は現実への応用が非常に幅広く、実学に適した学問です。 この演習では、ゲーム理論の現実への応用を行うために、まずゲーム理論の基礎を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	身近なゲーム理論的状況を、ゲーム理論の枠組みで定式化できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	指定のテキストを輪読します。分担を決定し、自身の担当箇所をスライドで発表してもらい、それに対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ゼミナールゲーム理論入門，渡辺隆裕，日本経済新聞出版，2008 年	ISBN	①9784532133467
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	自己紹介と輪読分担決め	【事前学修】「ゲーム理論入門」の第 1 章を読んでおくこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の第 1 章を読み返し、ゲーム理論の概要について理解すること	4 時間
第 2 回	対面	輪読 1 回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備	4 時間

			備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	
第3回	対面	輪読2回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第4回	対面	輪読3回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第5回	対面	輪読4回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第6回	対面	輪読5回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第7回	対面	輪読6回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第8回	対面	輪読7回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第9回	対面	輪読8回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第10回	対面	輪読9回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第11回	対面	輪読10回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第12回	対面	輪読11回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第13回	対面	輪読12回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第14回	対面	輪読13回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について 振り返ること	4時間
第15回	オンデマンド	輪読を行った箇所の重要事項振り返り	【事前学修】「ゲーム理論入門」のこれまでの学習内容を振り返ること 【事後学修】「ゲーム理論入門」の重要事項を振り返ること	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習では、主要な新聞（とくに「日本経済新聞」）や雑誌の経済記事に対して問題提起と討論を行うことによって、皆さんがこれまでに修得してきたさまざまな専門知識、とくにマクロ経済学とミクロ経済学の基礎知識を日本経済の分析に応用することに重点をおきます。この授業を受講することにより、日経新聞を読める力を身につけ、経済学部を卒業した社会人として持つべき経済学的思考を身につけることを目的としています。 春学期には、限られた 90 分間の授業時間中にできるだけ多くのテーマを「浅く・広く」扱います。そのなかで自らが関心を持つテーマを少しずつ明確にしてもらいます。秋学期には、参加者の興味あるテーマについて、深く掘り下げていくように指導を行います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 1 年次と 2 年次に修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 上記の目標を目指す中で、卒業論文のテーマを選定し、そのための資料収集を行うことができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	皆で楽しく勉強できるゼミを作っていきます。 経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・担当教員を含むゼミ参加者全員の自己紹介を行います。 ・授業内容や運営方法を説明し、参加者の意思統一をはかります。 （受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。）	・「学修ポートフォリオ」の使用方法と「ラーニングポータル」の掲載資料について確認し、予習してください。 ・春学期の目標について話し合ってください。	3時間
第2回	対面	グループ学習のスタート ・グループを編成し、グループの運営方法や運営ルール等について話し合います。	・次回の授業までに、「ラーニングポータル」の掲載資料について確認し、予習してください。 ・グループの運営方法や運営ルール等について話し合い、確認してください。	4時間
第3回	対面	経済記事を読む（1） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第4回	対面	経済記事を読む（2） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第5回	対面	経済記事を読む（3） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第6回	対面	経済記事を読む（4） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第7回	対面	経済記事を読む（5） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第8回	対面	経済記事を読む（6） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第9回	対面	経済記事を読む（7） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間

第10回	対面	研究テーマの選定（1） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状況をまとめて報告する必要があります。	4 時間
第11回	対面	研究テーマの選定（2） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状況をまとめて報告する必要があります。	4 時間
第12回	対面	研究テーマの選定（3） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状況をまとめて報告する必要があります。	4 時間
第13回	対面	まとめ（1） ・春学期初めに作成した各自の「春学期の目標」の達成度と反省点について話し合います。 ・夏休み中の勉強内容について話し合います。	・これまでの配布資料と自らの成果物を事前に読んでください。 ・次回の授業までに、春学期のレポートを完成してください。	6 時間
第14回	対面	まとめ（2） ・期末レポートの提出 ・夏休み中の勉強内容について合意します。	・これまでの配布資料と自らの成果物を事前に読んでください。 ・夏休み中の課題について取り組んでください。	5 時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加を準備しましょう ・発表準備に向けて、学生研究発表大会の動画をオンデマンドで配信します。いずれかの動画を視聴して発表の参考にしてください。	オンデマンド動画を視聴した上で、発表資料を作成し、レジюмеを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	5 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	家計内資源配分と女性の社会進出（応用）		
授業の目的及び概要	本ゼミでは、家計経済学の視点から家計におけるさまざまな問題や課題について学びます。具体的には、「人々は結婚に何を求めるのか」「子供を持つ意思決定に影響する要因」「親の教育投資の動機」「女性の社会進出を促す要因」など、日常生活に根ざした疑問を経済理論で理解することを目指します。特に、データ分析を重視し、統計データや家計調査データを活用した実証的なアプローチを行います。例えば、統計ソフト（R など）を用いて、相関分析や回帰分析などの基礎的な統計手法を習得し、自ら設定したテーマに基づいてデータを収集・整理し、実証的な分析を行います。これにより、データを正確に読み解き、経済理論と実際の現象を結びつける力を養います。演習では、データの可視化や分析結果を整理し、グループワークや発表を通じてコミュニケーション力と分析結果を伝えるスキルも向上させます。こうしたデータ活用力は、学修の深化にとどまらず、就職活動や今後のキャリアにおいても大きな強みとなります。本ゼミを通じて、経済学部が掲げる「実学としての経済学」の理念と繋がり、理論とデータ分析を融合させる実践的な力を身につけることを目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	家計におけるさまざまな課題を理解でき、家計経済学に関する幅広い知識の習得に加え、統計データや家計調査データを活用して、実際の課題を分析するスキルを習得する。特に、統計ソフト（R やエクセルなど）を用いたデータの可視化や基礎的な統計手法（相関分析・回帰分析など）を通じて、経済理論を裏付ける実証分析の実践力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループワークまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業前あるいは授業中に資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	1. 『子育て支援の経済学』、山口慎太郎、日本評論社、2021 年 2. 『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』、牧野百恵、中央公論新社、2023 年 3. 『女性たちの平成不況』、樋口美雄・太田清・家計経済研究所、日本経済新聞社、2004 年	ISBN	1. 9784535559035 2. 9784121027689 3. 4532350913
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	本ゼミでは双方向の議論を重視し、学生同士が意見を交換し合いながら学びを深めることを目指します。また、グループワークを通じた報告資料の作成や発表の機会が多く設けられており、授業中だけでなく、授業外での準備も求められます。ゼミを充実したものにするためには、参加者一人ひとりの主体的な学びが欠かせません。参加者の皆さんの積極的な参加を期待します。なお、履修にあたっては、マクロ経済学、ミクロ経済学、および計量経済学の基礎知識があることが望ましいですが、必須ではありません。また、統計ソフトを使用してデータ分析を行うため、PCを持参してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	- 配布した資料に事前に目を通してください。興味のあるテーマを考えてください（2時間程度）。 - 今学期のグループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	データ分析の手法を学ぶ（1）	- 授業で扱うテーマに関連する配布したデータ分析の資料に事前に目を通してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。グループワークテーマの検討（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	データ分析の手法を学ぶ（2）	- 授業で扱うテーマに関連する配布したデータ分析の資料に事前に目を通してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。グループワークテーマの検討（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	データ分析の手法を学ぶ（3）	- 授業で扱うテーマに関連する配布したデータ分析の資料に事前に目を通してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。グループワークテーマの検討（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	データ分析の手法を学ぶ（4）	- 授業で扱うテーマに関連する配布したデータ分析の資料に事前に目を通してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。グループワークテーマの検討（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	実証分析の流れを学ぶ	- 授業で扱うテーマに関連する配布したデータ分析の資料に事前に目を通してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。グループワークテーマの検討（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループ分けと研究テーマ発表	- 事前に興味のある研究テーマに関する資料を準備してください（2時間程度）。 - グループワークの研究テーマ及び分析方法を検討してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク：研究テーマの報告	- グループワークのテーマを決めた上で関連資料及び報告資料を準備してください（2時間程度）。 - 授業中で得られたコメントやポイントを確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク：資料整理（研究背景、モチベーションなど）、データ紹介	- グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 - 授業中で得られたコメントやポイントを確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク：データの収集と整理（記述統計量）	- グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 - 授業中で得られたコメントやポイントを確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間

第11回	対面	グループワーク：分析	・グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・授業中で得られたコメントやポイントを確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	グループワーク：研究報告（1）	・グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・授業中で得られたコメントやポイントを確認してください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	グループワーク：研究報告（2）	・グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・授業中で得られたコメントやポイントを確認してください（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	グループワーク：研究報告（3）	・グループワークの報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・授業中で得られたコメントやポイントを確認してください（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行なってください。 ・秋学期の研究発表に向けて、自分が取り組みたい研究テーマについて考えておいてください。秋学期の研究発表や卒業研究に向けて、自身興味のある研究テーマに関連するデータセットを調査し、活用の可能性を検討してください（4時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	比較経済史(貿易・内需・経済成長などをめぐる日本と欧米の比較史)①		
授業の目的及び概要	担当教員の専攻分野は経済史(日本経済史・アジア経済史・比較経済史)です。経済史と聞くと「ああ歴史か」と思われるかも知れませんが、経済を数十年や 100 年といった長期的なスパンで分析することによって、そこから得られた知見を未来に活かすことのできる学問です。この演習では、経済の長期的分析に関わる専門知識を学修します。春学期には、演習Ⅰでも使用した岩波講座『日本経済の歴史』の現代のパートを輪読し、第二次世界大戦後から現在までの日本経済の長期分析を学修します。(演習Ⅰでは、「経済成長と所得格差の関係は経済の発展段階に依存する」というアメリカの経済学者サイモン・クズネッツの仮説の検証を行いました。)また経済発展とイノベーションに関する理論として、シュンペーターの『経済発展の理論』も併せて学修します。秋学期には、「学生研究発表大会」に出場します。「大会」への出場を通して、専門知識の実践的応用を学修します。大会終了後は、卒業論文に向けての個人の卒業研究を開始します。		
履修条件・留意点	本演習を履修すると、あなたの専攻分野は「経済史」ということになります。「歴史」のイメージを「長期的分析」と置き換えて、自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	3 年次の 1 年間の目標は、①経済史にも理論があり、その理論とは何かを理解し修得すること、②一つのテーマを選択して「学生研究発表大会」に出場すること、③卒業研究を開始して 2000 字のレポートにまとめること、の 3 点です。こうして 4 年次の卒業論文につなげていきます。特に演習Ⅱ A では、上記の①と、②の「学生研究発表大会」へ向けての下準備を目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、補足解説と報告に対する講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	中野剛志『入門 シュンペーター』PHP 新書 2024 年(購入してください)	ISBN	ISBN 9784569856186
参考書	①岩波講座『日本経済の歴史』第 5 巻・第 6 巻(使用箇所のコピーを最初の授業で配布します) ②平口良司『入門・日本の経済成長』日本経済新聞出版 2022 年(秋学期で第 2 部のみ扱う予定です)	ISBN	① 第 5 巻 INBN 9784000114059 第 6 巻 ISBN 9784000114066 ②ISBN 9784296113767
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表(口頭・実技)	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	
	その他の内容	なし	

この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	まずゼミ生の自己紹介を行い、次に授業の進め方について、イントロダクションを行います。最後に輪読のテキストを配布し、報告担当箇所の分担の割り振りを決めます。	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第2回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.52～56	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第3回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.57～62	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第4回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.62～68	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第5回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.48～53	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第6回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.53～57	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第7回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.57～62	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第8回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第1章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第9回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間

		・『入門・シュンパーター』第2章	とその内容を復習しておくこと。	
第10回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンパーター』第3章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第11回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンパーター』第4章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第12回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンパーター』第5章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第13回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンパーター』第6章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第14回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンパーター』第7章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	3時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきた文献の内容のまとめ、秋学期の学生研究発表大会へ向けてのガイダンス、夏季休暇中の課題についての説明を、オンデマンドで配信する動画教材で行う。	【予習】授業で扱った文献について、しっかりとその内容を復習しておくこと。 【復習】オンデマンド講義で提示された夏期休暇中の課題について、しっかりと取り組んでおくこと。	3時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	近世・近代の西洋社会における貧困問題や産業革命と経済成長に関する基礎的なテキストをいくつか輪読していきます。その一方で、各自の研究報告も行います。研究報告に関しては、西洋社会経済史を中心にしますが、各自の関心にもとづく研究報告も歓迎します。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	輪読のレジュメや個別研究のスライドから判断します。	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション(学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、輪読するテキストの報告担当箇所を決めます。	【予習】基礎演習や演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。	4時間
第2回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第3回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第4回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第5回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第6回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第7回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第8回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第9回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第10回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめて、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドの完成を目指します。	【予習】文献の精読をすすめて、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。報告の練習も行うこと。	4時間
第13回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善の	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。	4時間

		ためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	
第14回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	中国経済および国際貿易の実証研究		
授業の目的及び概要	この演習では中国の経済発展を踏まえて、国際貿易における中国の位置付けを読み解きます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。 さらに資料の取得や分析を通じて、研究や調査の基礎を身に付けるを期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の知識を深めること。 (2) 資料を読み解ける能力を高めること。 (3) 問題を発見し、解決を試みること。 (4) レポートの作成や発表ができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中にプリントを配布します。	ISBN	なし
参考書	現代中国経済論 [第2版], 梶谷懐・藤井大輔（編著）, ミネルヴァ書房, 2018 年	ISBN	9784623082247
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加することを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。	4 時間

			【復習】配布資料を整理し、理解を深めましょう。	
第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第3回	対面	資料輪読②	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	オンデマンド	Excel によるデータ分析のガイダンス	・研究テーマを考えて、関連するデータベースを確認してみましょう。	4 時間
第10回	対面	データおよび参考文献の精査	・関連するデータおよび参考文献を入手し、内容を確認しましょう。	4 時間
第11回	対面	参考文献の精読①	・参考文献を精読し、まとめてみましょう。	4 時間
第12回	対面	参考文献の精読②	・参考文献を精読し、まとめてみましょう。	4 時間
第13回	対面	研究報告①	・レポートを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第14回	対面	研究報告②	・レポートを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第15回	対面	振り返りとレポートの提出	・これまでの授業内容を復習して、興味のある内容を確認してみましょう。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。これらの問題の分析に当たり、データの見方やデータ分析の手法も学修します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	パソコンの実習を行うのでパソコンを持参してください。 エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース（経済理論・国際経済・都市経済・現代日本経済）所属でも履修可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①パソコンを利用し、情報収集、文献検索、分析の技法を高めるとともに、プレゼン能力、論文作成技法の基礎を学びます。加えて、具体的な環境問題に関する発展的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①やさしい計量経済学－プログラミングなしで身につける実証分析－，加藤久和，オーム社，2019 年 ②大学生のための経済学の実証分析，千田亮吉・加藤久和・本田圭市郎・萩原里紗，日本評論社，2023 年 ③実証分析のための計量経済学－正しい手法と結果の読み方，山本勲，中央経済社，2015 年	ISBN	①9784274224539 ②9784535559998 ③9784502168116
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習で学ぶデータ分析の手法は卒業後の進路先（就職先、大学院）でも大いに役立つものです。本演習を通じて一生の財産を獲得しましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（教員、演習受講者の自己紹介、本演習の進め方）	・事前に講義資料に目を通し、興味や関心がある箇所については丁寧に読んでください。	4 時間
第2回	対面	データの把握	・授業で扱うテーマが記載された講義資料を事前に読んでおいてください。 ・講義資料に記載された練習問題に各自取り組んでください。	4 時間
第3回	対面	統計分析の基本	・授業で扱うテーマが記載された講義資料を事前に読んでおいてください。 ・講義資料に記載された練習問題に各自取り組んでください。	4 時間
第4回	対面	回帰分析の基礎	・授業で扱うテーマが記載された講義資料を事前に読んでおいてください。 ・講義資料に記載された練習問題に各自取り組んでください。	4 時間
第5回	対面	回帰分析の応用	・授業で扱うテーマが記載された講義資料を事前に読んでおいてください。 ・講義資料に記載された練習問題に各自取り組んでください。	4 時間
第6回	オンデマンド	実証分析の論文はどう書けばいいか	・オンデマンド動画の視聴前にオンデマンド教材を事前に読んでください。 ・オンデマンド動画視聴後に課題に取り組んでください。	4 時間
第7回	対面	テーマの設定のための議論（グループワーク）	・テーマ設定に向けて、テーマに関する先行研究を調べてください。 ・テーマに関する先行研究を分担して読んでください。	4 時間
第8回	対面	テーマの決定と基本資料の収集（グループワーク）	・基本資料を収集してください。 ・収集した資料に基づき、テーマを決定してください。	4 時間
第9回	対面	現状の把握と先行研究の読み込み（グループワーク）	・テーマに関する現状を整理してください。 ・テーマに関する先行研究を分担して読み込んでください。 ・「問い」の設定を行い、報告資料にまとめてください。	4 時間
第10回	対面	中間報告（グループワーク）	・各グループは問いの設定に関する報告資料をを準備してください。 ・報告に対するコメントを踏まえて資料を修正してください。	4 時間
第11回	対面	データ収集／実証分析の実施	・問いに対する仮説を立ててください。 ・仮説を論証するためのデータを収集してください。	4 時間
第12回	対面	実証分析の実施／パワーポイント資料の作成（グループワーク）	・収集したデータに基づき実証分析を実施してください。 ・実証分析に基づき、報告資料を作成してください。	4 時間
第13回	対面	報告1（グループワーク）	・各グループは、報告資料を準備してください。 ・報告に対するコメントを反映して報告資料を提出してください。	4 時間
第14回	対面	報告2（グループワーク）	・各グループは、報告資料を準備してください。 ・報告に対するコメントを反映して報告資料を提出してください。	4 時間

2025/05/01

第15回	対面	まとめ	・今学期の振り返り	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本授業は、人口変動要因に関する統計データを観察し、なぜこのような状況になっているのかという疑問点や都市や地方の問題点や課題点は何かということを考えることを目的としています。まず、政府統計の総合窓口（e-Stat）で取得した「国勢調査」「人口動態統計」「住民基本台帳人口移動報告」の人口、配偶関係、婚姻、出生、転入・転出に関する統計データを、都道府県別、地域別に時系列推移やクロスセクション比較、あるいは記述統計等を観察して、疑問点や問題あるいは課題と考えられる点をレポートにまとめます。次いで、類似の問題意識を持っていると考えられる先行研究を探し、実際に参考になるかどうかあるいはデータ取得も含めた検証可能性を検討し、レポートにまとめて議論します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の 2 つです。 1. 統計データを使って現状分析ができる。 2. 自分の考えを論理的に飛躍なく伝えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	教科書は指定しません。必要な資料等は授業中に配布、紹介します。	ISBN	ナシ
参考書	①『政策リサーチ入門 増補版』, 伊藤修一郎著, 東京大学出版会, 2022 年	ISBN	①9784130322324
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（授業の進め方の説明、レポー	【予習】人口変動に関して関心のあるテーマについ	4 時間

		ト発表のグループないし個人の順番決め)	て考えてください。 【復習】演習Ⅰで学んだことを確認し、各自発表する 内容について考えてください。	
第2回	対面	グループワーク 現状分析、問題・課題の発見①	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第3回	対面	グループワーク 現状分析、問題・課題の発見②	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第4回	対面	グループワーク 現状分析、問題・課題の発見③	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第5回	対面	グループワーク 仮説の設定、文献リサーチ①	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第6回	対面	グループワーク 仮説の設定、文献リサーチ②	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第7回	対面	グループワーク 仮説の設定、文献リサーチ③	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第8回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討①	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第9回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討②	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第10回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討③	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第11回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討④	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第12回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討⑤	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第13回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討⑥	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第14回	対面	グループワーク 仮説の検証方法の論理性と分析手法の検 討⑦	【予習】演習Ⅰの内容を復習しておいてください。担 当者は発表資料を準備してください。 【復習】授業で報告された資料を読み直して、授業で の議論の内容や得た知識を整理してください。	4 時間
第15回	オンデ マンド	まとめ	【予習】第2回から第14回までの授業の復習をして ください。	4 時間

2025/05/01

			【復習】卒業研究のテーマについて考えてください。	

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の課題と政策対応		
授業の目的及び概要	グローバル化の進展が目覚ましい昨今にあって、たとえ一国内の問題であったとしても、広く国際社会や他国の政治・経済へとその影響が波及していく事態は、決して珍しい現象ではなくなっている。まさにグローバル経済の真ただ中にある日本並びに他のあらゆる地域や国々は、時にこうした国際化の波に直面しながら、様々な経済問題や課題と向き合っている。本講義では、このような世界経済に関連する諸課題を見つけ、その本質を解明していく作業を、各自の調査・発表と全体での議論・討論を通して行っていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本を含む世界各国・地域や国際社会が直面している経済問題について、自ら情報収集し考察していく中で、課題発見能力と分析力を磨いていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。最終的には、レポートという形で文章にまとめていくことで構成力や表現力、文章力を高めていくと共に、次年時の卒業レポートや卒業論文の執筆につなげていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当箇所の割り振り。	自分が取り上げたテーマや課題について、関連する新聞やニュース記事などに目を通して、最新の情報	4 時間

			を収集しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第2回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表の準備(1)	自分が取り上げたテーマや課題について、情報をアップデートしておくとともに、その対応策や解決手段について考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表の準備(2)	自分が取り上げたテーマや課題について、情報をアップデートしておくとともに、その対応策や解決手段について考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第5回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

第10回	オンデマンド	国際経済の課題と政策対応:課題レポートの執筆	研究テーマについて、口頭発表で作成したパワーポイント資料の内容を参考にして、課題レポートの作成に取り組んでください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第11回	対面	国際経済の課題と政策対応:発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第12回	対面	国際経済の課題と政策対応:発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第13回	対面	国際経済の課題と政策対応:発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第14回	対面	国際経済の課題と政策対応:発表並びに討論(10)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができる。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③ 9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、グループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	グループワーク1	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	グループワーク2	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	グループワーク3	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	グループワーク4	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	グループワーク5	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループワーク6	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク7	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク8	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク9	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループワーク（総括・振り返り）	・グループワークでこれまで調べたことを振り返ってください（2時間程度）。 ・グループワークの方法やテーマの掘り下げ方に関する振り返りを行ってください（2時間程度）。	4時間

第12回	対面	研究計画の策定1	・卒業研究のテーマの検討, 興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査(2時間程度)。 ・期末レポートの執筆(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	研究計画の策定2	・卒業研究のテーマの検討, 興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査(2時間程度)。 ・期末レポートの執筆(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	研究計画の策定3	・卒業研究のテーマの検討, 興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査(2時間程度)。 ・期末レポートの執筆(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・次年度の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに, 期末レポートの執筆と長期休みの目標を検討してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、必要な知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。都市・地域の現状を、「人口移動」、「高齢化」、「都市再生」、「地域活性化」、「地方行政」、「観光振興」、「住宅・土地市場」などの側面から学び、課題を分析していきます。そうした過程で、4年次の卒業論文で取り組むべき課題を各自見つけていきます。また、演習での報告、ディスカッションやグループワークを通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献の要点をまとめ、報告できる。 ・報告に対し互いに意見を述べ、議論できる。 ・都市・地域の現状を理解し、課題を抽出できる。 ・グループワークで課題の調査・分析を行い、結果をとりまとめ、報告できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。課題に対しては、コメントを付けて返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	①縮小まちづくり，米山秀隆，時事通信社，2018 年 ②アフターコロナの都市と住まい，米山秀隆，プログレス，2021 年	ISBN	①9784788715479 ②9784910288109
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	積極的な報告、発言、議論を心掛け、演習での学びを実りあるものにしていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	演習の内容・進め方、春学期の復習	【予習】Learning Portalに掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第2回	対面	グループワーク1：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第3回	対面	グループワーク2：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第4回	対面	グループワーク3：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第5回	対面	グループワーク4：調査・分析、中間報告準備	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第6回	対面	グループワーク5：中間報告	【予習】中間報告の準備をしておいて下さい。 【復習】中間報告での議論の結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第7回	対面	グループワーク6：追加の調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第8回	対面	グループワーク7：追加の調査・分析、最終報告準備	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第9回	対面	グループワーク8：最終報告	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】最終報告での議論の結果を整理して下さい。	4時間
第10回	対面	個人課題研究1：個人の課題（卒業論文テーマ）決定、 テーマの概要に関するレポートの書き方	【予習】自分が卒業論文として取り組みたい課題を考えておいて下さい。 【復習】課題に関する情報収集を行って下さい。	4時間
第11回	対面	個人課題研究2：調査・分析	【予習】収集した情報について説明できるよう準備しておいて下さい。 【復習】情報を整理・分析し、レポートで書きたい骨子を考えて下さい。	4時間
第12回	対面	個人課題研究3：レポート作成	【予習】レポートのドラフトを準備しておいて下さい。 【復習】レポートの手直しを行って下さい。	4時間
第13回	対面	個人課題研究4：レポート提出	【予習】レポートを提出できるように準備しておいて下さい。 【復習】授業で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第14回	対面	レポート返却及び演習のまとめ	【予習】演習全体の内容を振り返り、良かった点、反省点などを考えておいて下さい。 【復習】演習全体で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（応用） ーゲーム理論・行動経済学で戦略的行動を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学を応用して、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 ゲーム理論や行動経済学は、多様な社会現象・社会問題を分析することが可能です。たとえば、労使関係や、ライバル企業との競争関係なども考えられますし、様々な政策の効果や個人の意思決定も分析できます。 理論的な分析を行うと、様々な疑問に答えを得ることができます。たとえば、新卒採用で業務と直接関係ない資格取得やボランティアの経験が評価される場合があるのはなぜでしょうか。航空券は出発直前になるほど高額になるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。夏休みの宿題を計画通りに進められないのはなぜでしょうか。どうすれば年金保険料の未納率を下げることができるようになるのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学は、このような疑問への答えを考えるために便利な道具です。本科目では卒業研究のために、主にゲーム理論を用いた戦略的思考を学び、これを活用する能力を養うことを目的とします。このため授業ではゲーム理論を学びつつ、どのような状況に理論を応用できるか考える練習を受講者のプレゼンテーションを中心にを行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論および行動経済学の基礎知識を修得する 2. 学修した理論を現実の様々な現象に応用できる 3. 社会問題・社会現象等に対してゲーム理論または行動経済学の考え方を適用し、他者と協働しながら自分の考えを整理して発信する能力を身につけ、卒業研究を行う準備ができている 4. 他者と協力して研究活動に取り組むことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゲーム理論を学ぶと、意思決定の基準とする直感や経験に対して、論理的な根拠を与えることができるようになります。さらに自分が置かれている状況を整理する能力を鍛えることもできるので、意思決定を助けるツールとして、社会に出てからも役に立つでしょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認 ・夏休みの振り返り ・秋学期の目標設定 ・グループワークの計画検討	4時間
第2回	対面	グループワーク1	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第3回	対面	グループワーク2	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第4回	対面	グループワーク3	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第5回	対面	グループワーク4	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第6回	対面	グループワーク5	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第7回	対面	グループワーク6	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第8回	対面	グループワーク7	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第9回	対面	グループワーク8	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会に向けた最終調整	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第11回	対面	卒業論文のテーマ検討	学生研究発表大会での経験をもとに、卒業論文のテーマ検討を進めてください。	4時間
第12回	対面	研究計画の策定1 （卒業論文テーマの考え方、期末レポートの書き方）	・卒業論文のテーマの検討 ・テーマに関する文献調査 ・期末レポートの執筆	4時間
第13回	対面	研究計画の策定2	・卒業論文のテーマの検討 ・テーマに関する文献調査 ・期末レポートの執筆	4時間
第14回	対面	まとめ	期末レポートの執筆	4時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加と振り返り	学生研究発表大会後に振り返りを行ってください。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	篠田 太郎	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論の応用を考えるために、まずはゲーム理論の基礎をゼミ形式で学びます。		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は意思決定の学問です。各個体の意思決定が相互に影響し合うとき、ゲーム理論の分析対象となります。 したがってゲーム理論は現実への応用が非常に幅広く、実学に適した学問です。 この演習では、ゲーム理論の現実への応用を行うために、まずゲーム理論の基礎を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	身近なゲーム理論的状況を、ゲーム理論の枠組みで定式化できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	指定のテキストを輪読します。分担を決定し、自身の担当箇所をスライドで発表してもらい、それに対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ゲーム理論入門，武藤滋夫，日本経済新聞出版，2001年	ISBN	9784532108298
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	輪読分担決めと夏季休暇の報告	【事前学修】夏季休暇中に現実でのゲーム理論的状況を見つける 【事後学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所を読む	4 時間
第2回	対面	輪読1回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと	4 時間

			【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	
第3回	対面	輪読2回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第4回	対面	輪読3回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第5回	対面	輪読4回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第6回	対面	輪読5回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第7回	対面	輪読6回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第8回	対面	輪読7回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第9回	対面	輪読8回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第10回	対面	輪読9回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第11回	対面	輪読10回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第12回	対面	輪読11回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第13回	対面	輪読12回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第14回	対面	輪読13回目	【事前学修】「ゲーム理論入門」の担当箇所の発表準備を行うこと 【事後学修】「ゲーム理論入門」の発表箇所について振り返ること	4時間
第15回	オンデマンド	輪読を行った箇所の重要事項振り返り	【事前学修】「ゲーム理論入門」のこれまでの学習内容を振り返ること 【事後学修】「ゲーム理論入門」の重要事項を振り返ること	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習では、主要な新聞（とくに「日本経済新聞」）や雑誌の経済記事に対して問題提起と討論を行うことによって、皆さんがこれまでに修得してきたさまざまな専門知識、とくにマクロ経済学とミクロ経済学の基礎知識を日本経済の分析に応用することに重点をおきます。この授業を受講することにより、日経新聞を読める力を身につけ、経済学部を卒業した社会人として持つべき経済学的思考を身につけることを目的としています。 演習ⅡB では、演習ⅡA で各自が選定した研究テーマを深く掘り下げていくように指導を行います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 1 年次と 2 年次に修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 上記の目標を目指す中で、卒業論文のテーマを選定し、そのための資料収集を行うことができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版），伊藤元重，日本評論社，2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版），中谷巖，日本評論社，2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	皆で楽しく勉強できるゼミを作っていきましょう。 経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期の目標を設定しましょう ・春学期末の感想文をもとに、春学期の成長した点、秋学期の課題について話し合います。 （授業の進行状況と皆さんの希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる）	・春学期末の感想文をもとに、春学期の成長した点、秋学期の課題について考えてください	3時間
第2回	対面	より多くの文献を読む① ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジюмеを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第3回	対面	より多くの文献を読む② ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジюмеを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第4回	対面	より多くの文献を読む③ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジюмеを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第5回	対面	より多くの文献を読む④ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジюмеを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第6回	対面	より多くの文献を読む⑤ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジюмеを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第7回	対面	期末レポートの作成① ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第8回	対面	期末レポートの作成② ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間
第9回	対面	期末レポートの作成③ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4時間

第10回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加	学生研究発表大会の参加に向け、発表資料を修正し、レジメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4 時間
第11回	対面	期末レポートの作成④ ・ 期末レポートをまとめていきます。	・ 発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・ 授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4 時間
第12回	対面	期末レポートの作成⑤ ・ 期末レポートをまとめていきます。	・ 発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・ 授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4 時間
第13回	対面	期末レポートの作成⑥ ・ 期末レポートをまとめていきます。	・ 発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・ 授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正し、期末レポートとして完了してください。	5 時間
第14回	対面	期末レポートの作成⑦ ・ 期末レポートをまとめていきます。	・ 発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・ 授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正し、期末レポートとして完了してください。	5 時間
第15回	対面	まとめ ・ 授業全般にわたる総括を行います。	・ これまでの成果物を事前に読んで、現時点での到達点と不足する点など、自らの成長ぶりを確認してください。 ・ 今年度の学修成果を踏まえ、次年度の目標について考えてください。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	尹 相芸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	家計内資源配分と女性の社会進出（応用）		
授業の目的及び概要	本ゼミでは、家計経済学の視点から家計におけるさまざまな問題や課題について学びます。具体的には、「人々は結婚に何を求めるのか」「子供を持つ意思決定に影響する要因」「親の教育投資の動機」「女性の社会進出を促す要因」など、日常生活に根ざした疑問を経済理論で理解することを目指します。特に、データ分析を重視し、統計データや家計調査データを活用した実証的なアプローチを行います。例えば、統計ソフト（R など）を用いて、相関分析や回帰分析などの基礎的な統計手法を習得し、自ら設定したテーマに基づいてデータを収集・整理し、実証的な分析を行います。これにより、データを正確に読み解き、経済理論と実際の現象を結びつける力を養います。演習では、データの可視化や分析結果を整理し、グループワークや発表を通じてコミュニケーション力と分析結果を伝えるスキルも向上させます。こうしたデータ活用力は、学修の深化にとどまらず、就職活動や今後のキャリアにおいても大きな強みとなります。本ゼミを通じて、経済学部が掲げる「実学としての経済学」の理念と繋がり、理論とデータ分析を融合させる実践的な力を身につけることを目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	家計におけるさまざまな課題を理解でき、家計経済学に関する幅広い知識の習得に加え、統計データや家計調査データを活用して、実際の課題を分析するスキルを習得する。特に、統計ソフト（R やエクセルなど）を用いたデータの可視化や基礎的な統計手法（相関分析・回帰分析など）を通じて、経済理論を裏付ける実証分析の実践力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループワークまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業前あるいは授業中に資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	1. 『子育て支援の経済学』、山口慎太郎、日本評論社、2021 年 2. 『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』、牧野百恵、中央公論新社、2023 年 3. 『女性たちの平成不況』、樋口美雄・太田清・家計経済研究所、日本経済新聞社、2004 年	ISBN	1. 9784535559035 2. 9784121027689 3. 4532350913
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	本ゼミでは双方向の議論を重視し、学生同士が意見を交換し合いながら学びを深めることを目指します。また、グループワークを通じた報告資料の作成や発表の機会が多く設けられており、授業中だけでなく、授業外での準備も求められます。ゼミを充実したものにするためには、参加者一人ひとりの主体的な学びが欠かせません。参加者の皆さんの積極的な参加を期待します。なお、履修にあたっては、マクロ経済学、ミクロ経済学、および計量経済学の基礎知識があることが望ましいですが、必須ではありません。また、統計ソフトを使用してデータ分析を行うため、PCを持参してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	- 配布した資料に事前に目を通してください。興味のあるテーマを考えてください（2時間程度）。 - 今学期のグループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	グループワーク（1）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	グループワーク（2）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	グループワーク（3）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	グループワーク（4）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	グループワーク（5）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループワーク（6）	- グループワークに関する資料に事前に調べてください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク：研究報告（1）	- グループワークに関する資料に事前に準備してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク：研究報告（2）	- グループワークに関する資料に事前に準備してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク：研究報告（3）	- グループワークに関する資料に事前に準備してください（2時間程度）。 - 授業後には、授業で学んだ内容の振り返りと整理を行ってください。（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	個人の研究計画（1）	- 卒業研究のテーマを検討し、関連資料を調べてください（2時間程度）。 - 期末レポートの執筆（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	個人の研究計画（2）	卒業研究のテーマを検討し、関連資料を調べてください（2時間程度）。	4時間

			・期末レポートの執筆（2時間程度）。	
第13回	対面	個人の研究計画（3）	・卒業研究のテーマを検討し、関連資料を調べてください（2時間程度）。 ・期末レポートの執筆（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	個人の研究計画（4）	・卒業研究のテーマを検討し、関連資料を調べてください（2時間程度）。 ・期末レポートの執筆（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行なってください。 ・次年度の卒業研究に向けてテーマを検討し、期末レポートを執筆してください。（4時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	比較経済史(貿易・内需・経済成長などをめぐる日本と欧米の比較史)②		
授業の目的及び概要	担当教員の専攻分野は経済史(日本経済史・アジア経済史・比較経済史)です。経済史と聞くと「ああ歴史か」と思われるかも知れませんが、経済を数十年や 100 年といった長期的なスパンで分析することによって、そこから得られた知見を未来に活かすことのできる学問です。この演習では、経済の長期的分析に関わる専門知識を学修します。春学期には、演習Ⅰでも使用した岩波講座『日本経済の歴史』の現代のパートを輪読し、第二次世界大戦後から現在までの日本経済の長期分析を学修します。また経済発展とイノベーションに関する理論として、シュンペーターの『経済発展の理論』も併せて学修します。秋学期には、「学生研究発表大会」に出場します。「大会」への出場を通して、専門知識の実践的応用を学修します。大会終了後は、卒業論文に向けての個人の卒業研究を開始します。		
履修条件・留意点	本演習を履修すると、あなたの専攻分野は「経済史」ということになります。「歴史」のイメージを「長期的分析」と置き換えて、自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	3年次の演習Ⅱ Bにおける目標は、①演習Ⅱ Aに引き続き、経済史にも理論があり、その理論とは何かを理解し修得すること、②一つのテーマを選択して「学生研究発表大会」に出場すること、③卒業研究を開始して 2000 字のレポートにまとめること、の3点です。こうして4年次の卒業論文につなげていきます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、補足解説と報告に対する講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	入門・日本の経済成長, 平口良司, 日本経済新聞出版, 2022 年 第2部の第6～9章がデータ分析に必要な理論ですので、6回目の授業までは授業の冒頭で解説を行います。	ISBN	9784296113767
参考書	特にありませんが、必要に応じて適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	学生研究発表大会への取り組み	
この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	夏期休暇中に考えてきてもらった学生研究発表大会のテーマについて、グループまたは個人単位で報告していただきます。	夏期休暇中にしっかりと準備をしておく。	4 時間
第2回	対面	①『入門・日本の経済成長』第4章のコブ・ダグラス型生産関数についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(1)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集する。	4 時間
第3回	対面	①『入門・日本の経済成長』第4章の生産性の測定、経済成長率の求め方についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(2)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集し、それらを吟味する。	4 時間
第4回	対面	①『入門・日本の経済成長』第5章の経済成長の方程式、資本蓄積に関する方程式についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(3)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集し、それらを吟味する。	4 時間
第5回	対面	①『入門・日本の経済成長』第6章 人口の変化と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(4)	吟味した文献やデータを基に、Power Point のスライドショーの作成にかかる。	4 時間
第6回	対面	①『入門・日本の経済成長』第7章 人的資本と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(1)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第7回	対面	①『入門・日本の経済成長』第8章 生産性と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(2)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第8回	対面	①『入門・日本の経済成長』第9章 格差と成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(3)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第9回	対面	第8講までで実施したリハーサルを踏まえて、改善すべき点を修正する作業を行う	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第10回	対面	卒業研究のテーマの決定(1)	卒業研究のテーマを決め、参考文献やデータを収集する。	4 時間
第11回	対面	卒業研究のテーマの決定(2)	卒業研究のテーマを決め、参考文献やデータを収集し、その概略を考える。	4 時間
第12回	対面	決定した卒業研究のテーマについての報告(1)	卒業論文のタイトルを決め、論文によって自分は何を言いたいのかを明確にし、他人に説明できるようにする。	4 時間
第13回	対面	決定した卒業研究のテーマについての報告(2)	卒業論文のタイトルを決め、論文によって自分は何を言いたいのかを明確にし、他人に説明できるようにする。	4 時間
第14回	対面	決定した卒業研究のテーマについての報告(3)	自分が選んだテーマに関する先行研究をきちんと調べ、それを踏まえて自分の研究にはどのような意義があるのかを 2000 字レポートに反映できるようにする。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンドで、1 年間の振り返りと総括を行います。次年度の卒業論文執筆に向けて、執筆要領を再確認します。	2000 字レポートを完成させる。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅡA の学修を踏まえたうえで、グループや個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。また、演習ⅡA 同様に近世から近代にかけての西洋社会における貧困問題や産業革命と経済成長に関する基礎的なテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうえで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション(学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、グループか個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	【予習】演習ⅡAで学修した、学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	4時間
第2回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第3回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第5回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第6回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。また、スライドなどの作成を進めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。	4時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。	4時間
第9回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善のためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。 【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4時間
第10回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4時間
第11回	対面	演習ⅡAで扱った問題の応用的なテキストの輪読を行います。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第12回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理	4時間

			解を深めること。	
第13回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第14回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	張 哲	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	中国経済および国際貿易の実証研究		
授業の目的及び概要	演習ⅡA の学習を踏まえて、グループまたは個人で研究テーマを設定し、研究を行います。その上、試行錯誤しながら、レポートを仕上げます。また、参考文献の紹介やレポートの発表も求めます。 グループ協力して、問題を提起し、解明していくこと能力の養成を期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 文献を読み解ける能力を高めること。 (2) 問題を発見し、解決できること。 (3) レポートの作成や発表ができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中にプリントを配布します。	ISBN	なし
参考書	授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加することを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について グループまたは個人の研究テーマの設定	・グループの構成および研究テーマを事前に考えておいてください。 ・演習ⅡAで学修した内容を意識しながら、研究テーマに関連する文献調査を行ってください。	4 時間
第2回	対面	文献の調査および収集①	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってくださ	4 時間

			い。 ・収集した文献を精読してください。	
第3回	対面	文献の調査および収集②	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってください。 ・収集した文献を精読してください。	4 時間
第4回	対面	研究テーマごとに文献紹介を行う①	・紹介する文献と研究テーマの関連性を明確にしてください。 ・文献を精読の上まとめてください。	4 時間
第5回	対面	研究テーマごとに文献紹介を行う②	・紹介する文献と研究テーマの関連性を明確にしてください。 ・文献を精読の上まとめてください。	4 時間
第6回	オンデマンド	レポートの作法について	・動画を視聴の上、レポートの構成を考えてみてください。 ・各章節ではどのような内容を書くかを考えてみましょう。	4 時間
第7回	対面	研究テーマごとにレポートの構成の発表と討論	・討論の内容を踏まえて、レポートの構成を見直しましょう。	4 時間
第8回	対面	レポートの作成①	・レポートの構成に従い、レポートを作成しましょう。	4 時間
第9回	対面	レポートの発表および討論①	・討論者は発表予定のレポートを事前に読んでおいてください。 ・発表者に関しては、コメント等を踏まえて修正してみてください。	4 時間
第10回	対面	レポートの発表および討論②	・討論者は発表予定のレポートを事前に読んでおいてください。 ・発表者に関しては、コメント等を踏まえて修正してみてください。	4 時間
第11回	対面	レポートの作成②	・修正を重ねて、レポートを完成させましょう。	4 時間
第12回	対面	レポートの作成に関する討論	・先行研究からレポートの作成までの過程において良かったこと、難しかったことなどを考えてください。 ・授業中に経験や失敗などを共有してみてください。	4 時間
第13回	対面	資料の精読①	・資料を事前に読んでおきましょう。 ・資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第14回	対面	資料の精読②	・資料を事前に読んでおきましょう。 ・資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第15回	対面	振り返り	・これまでの授業内容を復習して、興味や関心のある研究テーマを考え直してください。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	伊勢 公人	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。これらの問題の分析に当たり、データの見方やデータ分析の手法も学修します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	パソコンの実習を行うのでパソコンを持参してください。 エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース（経済理論・国際経済・都市経済・現代日本経済）所属でも履修可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①パソコンを利用し、情報収集、文献検索の技法を高めるとともに、プレゼン能力、論文作成技法の基礎を学びます。加えて、具体的な環境問題に関する発展的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。 適宜、資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①やさしい計量経済学－プログラミングなしで身につける実証分析－，加藤久和，オーム社，2019 年 ②大学生のための経済学の実証分析，千田亮吉・加藤久和・本田圭市郎・萩原里紗，日本評論社，2023 年 ③実証分析のための計量経済学－正しい手法と結果の読み方，山本勲，中央経済社，2015 年	ISBN	①9784274224539 ②9784535559998 ③9784502168116
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	本演習で学ぶデータの分析手法は卒業後の進路先（就職先、大学院）でも大いに役立つものです。本演習を通じて一生の財産を獲得しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（本演習の進め方）	・ 学生研究発表大会の報告テーマを各自で考えておいてください。	4 時間
第2回	対面	学生研究発表大会における報告テーマ選定のための議論	・ テーマ設定に向けて、テーマに関する先行研究を調べてください。 ・ テーマに関する先行研究を分担して読んでください。	4 時間
第3回	対面	学生研究発表大会における報告テーマ決定と基本資料の収集	・ 基本資料を収集してください。 ・ 収集した資料に基づき、テーマを決定してください。	4 時間
第4回	対面	学生研究発表大会における報告準備：現状の把握と先行研究の読み込み	・ テーマに関する現状を整理してください。 ・ テーマに関する先行研究を分担して読み込んでください。 ・ 「問い」の設定を行い、報告資料にまとめてください。	4 時間
第5回	対面	学生研究発表大会における報告準備：中間報告	・ 各グループは問いに関する報告資料を準備してください。 ・ 報告に対するコメントを踏まえて、資料を修正してください。	4 時間
第6回	対面	学生研究発表大会における報告準備：データ収集／実証分析の実施	・ 問いに対する仮説を立ててください。 ・ 仮説を論証するためのデータを収集してください。	4 時間
第7回	対面	学生研究発表大会における報告準備：データ分析／パワーポイント資料の作成	・ 収集したデータに基づき実証分析を実施してください。 ・ 実証分析に基づき、報告資料を作成してください。	4 時間
第8回	対面	学生研究発表大会における報告の練習	・ 各グループは、報告資料を準備してください。 ・ 報告に対するコメントを反映して報告資料を提出してください。	4 時間
第9回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加，報告	・ パワーポイント資料を最終確認し、発表練習をしてください。 ・ 審査員のコメントをメモしておいてください。	4 時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り	・ 学生研究発表大会におけるコメントをメモしておいてください。 ・ 学生研究発表大会の審査員のコメントを踏まえて、パワーポイント資料を修正のうえ提出してください。	4 時間
第11回	対面	卒業研究に向けた準備：テーマの選定	・ テーマ設定に向けて、テーマに関する先行研究を調べてください。 ・ テーマに関する先行研究を読んでください。	4 時間
第12回	対面	卒業研究に向けた準備：テーマに関する現状の把握と先行研究の読み込み	・ テーマに関する現状を整理してください。 ・ テーマに関する先行研究を読み込んでください。 ・ 「問い」の設定を行い、報告資料にまとめてください。	4 時間
第13回	対面	卒業研究に向けた準備：「問い」を報告する（1）	・ 「問い」に関する報告資料を準備してください。 ・ 授業中のコメントを反映して、期末レポートを作成してください。	4 時間
第14回	対面	卒業研究に向けた準備：「問い」を報告する（2）	・ 「問い」に関する報告資料を準備してください。 ・ 授業中のコメントを反映して、期末レポートを作成してください。	4 時間
第15回	対面	まとめ	・ 「問い」に対する仮説を立て、仮説を論証するためのデータを収集してください。 ・ 期末レポートを仕上げてください。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本授業は卒業研究に向けた準備を目的とします。演習ⅡA で行った検討を踏まえて、先行研究で何が明らかになっており、何が明らかになっていないかということなどをレポートにまとめて、改めて自分の問題意識を明確にします。また、分析方法について、分析目的に適ったデータが取得できるかどうかを検討するとともに、分析目的に適った分析方法は何か、あるいは、代替的な方法があるかどうかなどの検討も行います。これらの学修成果として学生研究発表大会で発表します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の4点です。 1. 学術論文を読み、論理展開を評価し趣旨を説明することができる。 2. 分析目的に照らして適切な分析手法は何かということが判断できる。 3. 自分の考えを論理的に飛躍なく説明することができる。 4. 学生研究発表大会で発表する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	教科書は指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	ナシ
参考書	①『政策リサーチ入門 増補版』, 伊藤修一郎著, 東京大学出版会, 2022 年	ISBN	①9784130322324
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】演習ⅡA で勉強したことを復習しておいてく	4 時間

			ださい。 【復習】卒業研究完成までのおおよその過程についてイメージしておいてください。	
第2回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告①	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第3回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告②	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第4回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告③	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第5回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告④	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第6回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑤	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第7回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑥	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第8回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑦	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第9回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑧	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第10回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑨	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第11回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑩	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第12回	対面	先行研究、分析方法、分析結果の報告⑪	【予習】報告担当者はレポートをまとめるなど、報告準備をしてください。 【復習】授業中の議論を振り返り、議論の内容や議論の中で得られた知識などを整理してください。	4 時間
第13回	対面	卒業研究計画の策定①	【予習】報告担当者は卒業研究計画の報告準備をしてください。 【復習】授業中のコメントを整理してください。	4 時間
第14回	対面	卒業研究計画の策定②	【予習】報告担当者は卒業研究計画の報告準備をしてください。 【復習】授業中のコメントを整理してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】第1回から第14回までの授業の資料等を見直してください。 【復習】卒業研究のテーマ・内容の確認を行ってください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の展望と諸課題について考えながら、卒論内容の骨格を固める。		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済や地域が抱える諸問題を考えたり今後の展望を行うことを中心に、3年時の演習Ⅱ B で各自選択したテーマについての研究方針に従って、卒業研究内容の充実を図ることを目指します。秋学期に卒業論文を完成させることを想定しますので、その準備として、研究の骨格、要旨を今学期中に固めます。この演習を通じて、経済現象をデータを用いながら自ら分析し、考えをまとめるという力を身につけることが目的となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 3 年次までに身につけた経済学の知識を自分で選択したテーマに当てはめ分析に応用すること。 2. 卒業研究として首尾一貫した論文の書き方を身につけること。 3. ゼミでの報告と討論を通して、就職活動などでも有用なプレゼン能力、コミュニケーション能力を養うこと。 以上の3点を到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自の発表時にコメントするほか、作成された文書については適宜添削指導します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	テキスト指定は行いません。各自、必要な文献を用意してください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ゼミの運営スケジュールや内容について確認し、報告日程を決定します。	ガイダンスに基づいて各自日程を踏まえながら準備を進めてください。	2 時間
第2回	対面	卒業論文の執筆要領について解説します。	卒業論文の執筆要領を事前に読んでおいてください。(予習) 解説後、改めて執筆要領に応じた書き方を常に意識するようにしてください。(復習)	4 時間
第3回	対面	各自選んだ研究テーマと研究計画書の作成方法、記載内容について確認します。	各自研究計画書をあらかじめ準備しておいてください。(予習) 解説後、必要があれば修正して発表に耐える形にしてください(復習)	4 時間
第4回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第5回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第6回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第7回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第8回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第9回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第10回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第11回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第12回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第13回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第14回	対面	卒業論文の研究計画書(テーマ、検証した仮説や予想される結果、分析の方法など)の発表を順次行います。	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。(予習) 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください(復習)	4 時間
第15回	オンデマンド	各自、研究計画書に基づいて卒業論文作成に順次取り組んでもらいます。これまでの	今一度卒業論文作成要領を参照し、各自、作業がそれに沿っているかどうかよく確認してください。	6 時間

2025/05/01

		発表を踏まえて、卒論作成の注意点について総括するとともに、秋学期の卒論スケジュールについて確認します。		

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して都市と地方の人口変動について分析し、卒業論文としてまとめることを目的とする。授業では、各自の研究報告を行い、教員や他のゼミ生との議論を通じて分析の視点を広げ分析手法の改善し、質の高い卒業論文執筆を目指す。これらに加えて、報告者に対する質問や意見に対する心構えや対応の仕方などについてもレベルを上げることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	次の3つを目標とする。 1. 統計データを使って分析ができる。 2. 自分の考えを口頭や文章で論理的に伝えることができる。 3. 学術的な論文を読み、論文を書きすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	60	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	各自研究内容を決定し、研究計画を作成してください。	4 時間
第2回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4 時間

第3回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第4回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第5回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第6回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第7回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第8回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第9回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第10回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第11回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第12回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第13回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第14回	対面	振り返り	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	卒業論文執筆のポイント	授業資料にしたがって、卒業論文の素案を作成。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	山垣 真浩	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会政策（労働経済、社会保障）にかんする卒業研究		
授業の目的及び概要	社会政策に関して自身が選択したテーマに関係する文献を読んで報告していくことをとおして、卒業研究を進めていきます。卒業研究を通して、専門知識の獲得はもちろん、資料収集力、読解力、文章力ならびにコンピュータ操作能力、仲間との協働力等、今後の人生に行かせるさまざまな技能を身につけます。なお、報告者のいない回では、下記のテキストを購読します。		
履修条件・留意点	あなたの専攻分野(major)は、社会政策です。自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	最終的に「卒業研究」を完成させるのが目的です。自分の選択したテーマに関して、文献の解読から今どんなことが問題になっているのか理解し、それを表現することが求められます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	どうする日本の福祉政策，埋橋孝文編，ミネルヴァ書房，2020 年	ISBN	978-4623089611
参考書	どうする日本の労働政策，櫻井純理編，ミネルヴァ書房，2021 年	ISBN	978-4623091140
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	25	
	その他の内容	卒業論文の研究計画書	
この科目の受講にあたって	演習は、大学教育の中軸です。自分の専攻(major)を意識して取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表。報告者のいない回は上記テキストを輪読する。	文献の収集、解読、報告の準備。授業 15 回で 2 単位の授業なので、平均して毎週 4 時間以上の学修時間が求められるが、演習はあなたの主専攻であるから、卒業論文の完成ために貪欲に取り組んでほしい。	4 時間
第 2 回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間

第3回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第4回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第5回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第6回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第7回	対面	1 回目の研究発表全体へのコメント	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第8回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第9回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第10回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第11回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第12回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第13回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	研究計画書の執筆	4 時間
第14回	対面	研究計画書の提出と意見交換	研究計画書の執筆	4 時間
第15回	オンデマンド	今学期の総括と復習	研究計画書の修正	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済研究入門（１）		
授業の目的及び概要	本演習では、国際経済の各分野において、各自の関心に沿った研究テーマを絞り込むとともに、先行研究を講読する中で理解を深めていきながら、綿密な研究計画を立て、卒業レポートや卒業論文の内容を構想する。 また、「実学としての経済学」、具体的にはGDP、為替レート、金利、などの経済諸指標の連関についても、随時学んでいく。経済諸指標が互いに連動する関係を習熟しておくことで、経済の動きが見通せ、ビジネスや私生活においても実際に役に立つであろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業研究につき、決定したテーマの下、学期末までに問題意識および章構成が固まり、先行研究講読に着手していることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ば講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当者の割り振り。	卒業論文の執筆にあたって、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとうまいでしょう。	4 時間

第2回	対面	国際経済研究：研究計画書について	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済研究：論文の書き方について(1)	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを収集しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済研究：論文の書き方について(2)	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデマンド	国際経済研究：研究計画書の執筆	各自のテーマについて、研究計画書の作成を行ってください。あらかじめ関連する書籍や論文、雑誌・新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第10回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(6)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間

第12回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レジユメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第13回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レジユメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第14回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(9)	報告担当者は、レジユメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学理論の視点から日本経済の諸課題を考える		
授業の目的及び概要	経済学理論を勉強する目的の一つは、さまざまな政治、経済、社会現象を経済学の視点から理解し、把握することです。この演習は、こうした応用能力の育成に重点を置きます。 この演習では、卒業論文を書くことにより、論理構成力を身につけることを目的としています。日本経済の抱える諸課題を中心に、経済記事の議論を中心とした学修を続けながら、3年次の演習Ⅱ、とくに演習ⅡB で作成した期末レポートをもとに研究を深め、卒業研究の完成を目指します。秋学期の演習ⅢB では、卒業論文を作成する必要がありますので、演習ⅢA はそのための準備を進め、卒業研究の基礎を構築していきます。 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、卒業論文の執筆が必須となっております。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の初稿を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。（授業の進行状況と学生の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる）	・演習Ⅱの秋学期末レポートと感想文をもとに、演習Ⅱで成長した点と今年度の課題について考えてください ・次回の授業までに、「春学期の目標」を作成してください。	3時間
第2回	オンデマンド	*卒業論文の執筆要領を理解します。 卒業論文執筆要領を解説する動画をオンデマンドで配信します。	・卒業論文執筆要領を熟読し理解すること。 ・オンデマンド動画を視聴した上で、「基本チェックリスト」に従い、演習ⅡBで提出したレポートを修正し、ラーニングポータルの「レポート」に提出してください。	4時間
第3回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します①。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第4回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します②。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第5回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します③。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第6回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します④。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第7回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します⑤。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第8回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します⑥。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第9回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います①。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第10回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います②。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正して	4時間

			ください。	
第11回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います③。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第12回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います④。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第13回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います⑤。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第14回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います⑥。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第15回	対面	授業全般にわたる総括を行います。	・発表時に受けた指導に基づき、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、期末レポートの到達点と課題について整理・確認してください。	6時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を探求する		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、その基礎知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。3 年次の演習ⅡB で各自が作成したレポート（研究計画）に基づき、卒業論文の作成を進めていきます。演習での報告、ディスカッション、論文の作成を通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力、文書作成・表現能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ テーマに関する先行研究の内容を整理し、説明できる。 ・ 設定したリサーチクエストについて、自分なりに検証、考察できる。 ・ 調べた結果を、論文として論理的にまとめることができる。 ・ 論文の内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。レポート・論文については、添削指導を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じ、適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	卒業論文の完成に向け、授業で設定される課題を着実にこなしていくことはもちろんですが、自ら計画的に進めていくことを望みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の内容・進め方、卒業論文の執筆要領、報告の割り振り	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことを	4 時間

			整理して下さい。	
第2回	対面	研究報告Ⅰー1	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第3回	対面	研究報告Ⅰー2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第4回	対面	研究報告Ⅰー3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第5回	対面	研究報告Ⅰー4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第6回	対面	研究報告Ⅱー1	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第7回	対面	研究報告Ⅱー2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第8回	対面	研究報告Ⅱー3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第9回	対面	研究報告Ⅱー4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第10回	対面	研究報告Ⅱー5	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第11回	対面	研究報告Ⅱー6	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第12回	対面	期末レポートの作成指導	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第13回	対面	期末レポートへのフィードバック1	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第14回	対面	期末レポートへのフィードバック2 演習のまとめ、夏休み中の計画策定	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本経済、都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください。(2 時間程度) ・今学期の目標を決めるとともに、研究計画の検討をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第2回	対面	研究報告 1	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	研究報告 2	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	研究報告 3	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	研究報告 4	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	研究報告 5	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	研究報告 6	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	研究報告 7	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間

第11回	対面	研究報告8	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	研究報告9	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	前期最終報告1	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	前期最終報告2	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の卒業研究完成に向けてどのような改善が必要か論文を執筆しながら検討してください。適宜の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論・行動経済学の応用研究		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会全般を分析可能な、社会科学における非常に強力な分析ツールです。本科目では、これまでの学修成果を十全に活用して、社会問題や社会的現象等を中心にゲーム理論に基づく独自の分析を行い、卒業論文の形にまとめることを目的とします。 この目的を達成するため、授業では各自の研究報告を中心として、教員や他のゼミ生との議論を通じて、卒業論文の質を高めることを目指します。さらに、自身の研究を高度な水準で進めるだけでなく、他者の研究に対して意見を述べることを通じて、他者と協働する能力を高めることができます。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目での学修を通じて、人との関わりにおける戦略的関係や、企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論の基礎を再確認し、独力で社会に関連する戦略的状況を分析することができる 2. 他者の報告を聴いて、自らの意見を踏まえた建設的な提案ができる 3. 卒業論文等、学術的な文章を作成する基礎的な能力を修得している		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	原則として個人による研究報告に対するコメントを通じて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので、早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認 (30 分程度) ・今学期の計画立案 (90 分程度) ・研究計画の確認 (2 時間程度)	4 時間
第2回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第3回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第4回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第5回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第6回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第7回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第8回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第9回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第10回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第11回	対面	研究報告	・研究報告の準備 (2 時間程度) 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等 (2 時間程度) 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間

第12回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2時間程度） 報告予定者はPowerPoint等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4時間
第13回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2時間程度） 報告予定者はPowerPoint等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4時間
第14回	対面	振り返り	・期末レポートの執筆 前期末レポートを完成させて、内容の要約を簡単に発表できるよう準備してください。	4時間
第15回	オンデマンド	期末レポート執筆のポイント	・授業資料にしたがって、自身の期末レポートを確認し、必要な加筆修正を行ってください。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください。(2 時間程度) ・今学期の目標を決めるとともに、研究計画の検討をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第2回	対面	研究報告 1	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	研究報告 2	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	研究報告 3	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	研究報告 4	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	研究報告 5	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	研究報告 6	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	研究報告 7	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間

第11回	対面	研究報告8	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	研究報告9	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	前期最終報告1	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	前期最終報告2	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の卒業研究完成に向けてどのような改善が必要か論文を執筆しながら検討してください。適宜の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代イギリス社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅡA・Bの学修を踏まえたうえで、個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。必要に応じて、近世から近代にかけてのイギリスにおける貧困問題や産業革命と経済成長に関するテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、卒業論文の作成を目指します。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。 第四に、以上の力やスキルを総動員して卒業論文の執筆に向けた準備をする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章の作成技法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします）を行った後に、個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	【予習】 演習ⅡA・B で学修した、学術的な文章作成の技法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】 学術的な文章作成の技法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	4 時間
第2回	対面	個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第3回	対面	個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】 文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第5回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。合わせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】 研究報告を行うためのレジュメを作成すること。 【復習】 質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第6回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】 研究報告を行うためのレジュメを作成すること。 【復習】 質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】 文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】 文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第9回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】 研究報告を行うためのレジュメを作成すること。 【復習】 質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第10回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】 研究報告を行うためのレジュメを作成すること。 【復習】 質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究作業を進めます。また、ここまでの研究の文章化も始めていきます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】 文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、文章の改善に努めること。	4 時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究作業を進めます。また、ここまでの研究の文章化も始めていきます。	【予習】 自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。	4 時間

			【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。 また、文章の改善に努めること。	
第13回	対面	ここまでの研究を文章化し、それをもとにした研究報告を行います。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。 また、文章の改善に努めること。	4 時間
第14回	対面	ここまでの研究を文章化し、それをもとにした研究報告を行います。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。 また、文章の改善に努めること。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの研究内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、これまでの研究の改善に努めること。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（応用） ー産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、3 年次の演習で学んだ産業組織論・企業経済学に関わるテーマを中心として、3 年次の演習ⅡB で決定したテーマの研究を進め、卒業研究の完成を目指します。卒業研究を行うことで産業・企業で生じる問題について自ら考え理解できる「実学の経済学」としての能力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業・企業で発生する諸問題について、3 年次の演習で学修した知見と方法に基づいて、卒業論文（卒業レポート）に結びつく問題意識と探求課題を自分で立てることができる。 2. 研究課題に関わる先行研究を理解し、それを研究課題の設定と研究に内容に生かすことができる。 3. 分析結果を文章にまとめ、それをわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。 4. 研究結果を考慮した上で、問題の解決策を考案することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術、小笠原喜康、講談社、2018 年	ISBN	9784065135020
参考書	①経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ②プラクティカル産業組織論、泉田成美・柳川隆、有斐閣、2008 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784641164956 ②9784641123724 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	研究結果とその発表について着実に見直してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・演習Ⅱの振り返り①	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。演習ⅡBで提出したレポートの発表準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。ゼミ内での議論をもとにレポートの修正をしてください。	2時間
第2回	対面	演習Ⅱの振り返り②	【予習】演習ⅡBで提出したレポートの発表準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】ゼミ内での議論をもとにレポートの修正をしてください。	4時間
第3回	オンデマンド	卒業論文の構成・先行研究の読み方・文献検索の解説	【予習】卒業論文（卒業レポート）のテーマ・問題意識について考えてください。 【復習】動画を視聴後、卒業研究のテーマに関連した文献を探してください。	4時間
第4回	対面	研究に関連する文献・資料の内容報告①	【予習】文献・資料の読み込みと報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】文献・資料の再整理をしてください。	4時間
第5回	対面	研究に関連する文献・資料の内容報告②	【予習】文献・資料の読み込みと報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】文献・資料の再整理をしてください。	4時間
第6回	対面	研究に関連する文献・資料の内容報告③	【予習】文献・資料の読み込みと報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】文献・資料の再整理をしてください。	4時間
第7回	対面	研究に関連する文献・資料の内容報告④	【予習】文献・資料の読み込みと報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】文献・資料の再整理をしてください。	4時間
第8回	対面	研究結果の報告①	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての追加調査をしてください。	4時間
第9回	対面	研究結果の報告②	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての追加調査をしてください。	4時間
第10回	対面	研究結果の報告③	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての追加調査をしてください。	4時間
第11回	対面	研究結果の報告④	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての修正をしてください。	4時間
第12回	対面	研究結果の報告⑤	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての修正をしてください。	4時間
第13回	対面	研究結果の報告⑥	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。	4時間

2025/05/01

			【復習】コメントを受けての修正をしてください。	
第14回	対面	改善された研究計画の報告①	【予習】研究結果の報告準備（レジユメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての再修正をしてください。	4 時間
第15回	対面	改善された研究計画の報告②	【予習】研究結果の報告準備（レジユメの作成）をしてください。 【復習】コメントを受けての再修正をしてください。	6 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	藤原 幸則	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域経済の課題の分析と政策提案		
授業の目的及び概要	この演習ⅢA では、実社会に出てから必要となる調査能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を涵養するとともに、行政やビジネスで必要となる地域経済の構造とその変化の把握、それをもとにした地域活性化の政策を考える力を身につけることを目的としています。 近年、少子高齢化、経済活動の衰退、財政状況の悪化、東京一極集中といった社会経済環境の変化の中で、持続可能性すら危ぶまれる地域が少なくありません。この演習ⅢA では、地域経済の構造変化と諸課題に関して、演習参加者各自が取り組みたい課題として設定した研究テーマに沿って調査・研究を行い、演習ⅢB での卒業論文の完成に向けて、卒業論文を視野に入れた5000 字以上のレポート作成を学期末までに行ってもらいます。 そのため、まず担当教員から地域経済の見方・考え方、分析手法について講義します。そして、それらも参考にして、演習参加者がそれぞれの調査・研究を深めていくとともに、プレゼンテーションや演習参加者同士のディスカッションなどを通じて、各自の卒業研究をより良いものへと練り上げてもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域経済の研究に関して、以下の3 点を学修の到達目標とします。 ・各種の統計データを収集して分析ができて、それを踏まえた政策提案を行えるようになる。 ・きちんとしたレポートやプレゼン資料を作成できるようになる。 ・説得力あるプレゼンテーションを行うことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究報告に対しては、改善や充実に向けたコメントをします。また、学期末までに作成されたレポートは加筆した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはありません。 必要に応じて、適宜、担当教員が資料を作成して配布します。	ISBN	なし
参考書	①地域政策の経済学，林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇貴，日本評論社，2018 年 ②地域データ分析入門，林宜嗣・林亮輔，日本評論社，2021 年	ISBN	①9784535558687 ②9784535559479
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講生の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。教員の講義だけで終わってはいけませんし、受講生も黙って出席しているだけでもいけません。授業には、積極的に参加し、教員と学生の間、さらには、学生同士でも、お互いに疑問や意見を交わし、議論をしていきましょう。こうしたコミュニケーションは、社会人基礎力として、学生から身に付けておきたい重要なことでもあります。また、授業での議論に参加するため、報告資料の準備はもちろん、議論するための事前の文献資料の確認など、授業以外の時間でも準備が必要です。履修にあたり、地域経済論、都市経済論の基礎的な理論や分析手法について知識があることが望ましいですが、授業でも適宜紹介するので、必須ではありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 演習ⅢAの進め方、卒業論文執筆要領、先行研究サーベイの方法、情報入手の留意点、学期末レポートの作成について説明します。	シラバス、配布資料をよく読み返し、復習してください。 特に、本学経済学部卒業論文執筆要領をよく読むようにしてください。学期末レポートの作成でも執筆要領にしたがうべきであり、書式要件で確認したい場合には都度、執筆要領の該当箇所を参照するなど、座右の書にしてください。	4時間
第2回	対面	データで読み解く地域の実態 地域の実態を、人口・経済・財政など、住民生活を左右すると考えられる主要な側面について検証し、ディスカッションしましょう。	配布資料をよく読み返し、学んだ知識や考え方を復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう（社会に出てから必要な要約力を鍛えることになります）。	4時間
第3回	対面	地域経済の見方・考え方 地域は人や企業が活動する「器」という視点から、地域経済の見方と考え方を理解しましょう。	配布資料をよく読み返し、学んだ知識や考え方を復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう。	4時間
第4回	対面	地域経済の実態把握 政策を立案するための第一歩として、地域経済の実態を知る基本的な手法を理解しましょう。	配布資料をよく読み返し、学んだ知識や考え方を復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう。	4時間
第5回	対面	産業連関表による経済波及効果の計測 メディアでよく取り上げられる経済波及効果の仕組みを理解しましょう。	配布資料をよく読み返し、学んだ知識や考え方を復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう。	4時間
第6回	対面	地域経済の分析例 関西の人口減少・高齢化を取り上げて、地域経済の分析について考えてみましょう。	配布資料をよく読み返し、学んだ知識や考え方を復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう。	4時間
第7回	対面	学期末レポートに向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第8回	対面	学期末レポートに向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第9回	対面	学期末レポートに向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研	4時間

		(3人から4人程度)、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	
第10回	対面	学期末レポート作成に向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし(3人から4人程度)、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第11回	対面	学期末レポートに向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし(3人から4人程度)、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第12回	対面	学期末レポートに向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし(3人から4人程度)、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第13回	対面	学期末レポート作成に向けた研究内容の発表 各自の研究内容をプレゼンテーションし(3人から4人程度)、全体でディスカッションします。 報告担当者は、研究テーマとした問題意識、先行研究、今後の分析・考察に向けた考えを報告してください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマに沿った文献資料・統計データの収集や分析研究を行いながら、学期末レポートの作成を着実に進めてください。	4時間
第14回	対面	学期末レポートの完成の確認 学期末レポートの完成について、個別に報告を受けながら確認します。執筆要領にしたがった書式要件についても、満たしているかを確認します。	・全員、学期末レポートの最終原稿を準備して、授業に出席してください。 ・授業終了後、追加修正を行うことが必要であれば早急に対応してください。また、全員、卒業論文執筆要領にしたがった書式要件を満たしているか、誤字脱字がないか、をよく確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 春学期のまとめを行います。あわせて、秋学期の演習ⅢBでの卒業論文完成に向けた今後の留意点についても説明します。	学期末レポートを最終提出してください(期限は別途指示、厳守)。 春学期のまとめについて、A4用紙1枚くらいで、要点を整理しておきましょう。 さらに、夏休み中に、学期末レポートをベースにして卒業論文作成を進めてください。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2025
担当者	前鶴 政和	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済と経済政策		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済の抱える諸課題を中心に、3 年次の演習ⅡB で作成した学期末レポートをもとに研究し、卒業研究の完成を目指します。秋学期の演習ⅢB では、卒業論文または 5000 字以上の卒業レポートを作成する必要がありますので、演習ⅢA はそのための準備を進め、卒業研究の基礎を構築していきます。 この演習は皆さんが経済学の専門知識を深め、社会で活躍するために必要な経済問題の解決について考察する能力の修得を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。 「実学としての経済学」との関係： この授業を受講することにより、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の専門知識をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の 1 次原稿を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、就職活動に必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された卒業研究の原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①ほんとうの日本経済, 坂本貴志, 講談社, 2024 年	ISBN	①9784065371978
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	卒業研究の 1 次原稿	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。	【予習】この演習のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	卒業論文の執筆要領について解説します。	【予習】卒業論文の執筆要領を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、卒業論文の執筆要領について復習してください。	4時間
第3回	対面	「日本経済の変化1」について学修します。	【予習】「日本経済の変化1」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化1」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	「日本経済の変化2」について学修します。	【予習】「日本経済の変化2」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化2」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	「日本経済の変化3」について学修します。	【予習】「日本経済の変化3」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化3」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	「日本経済の変化4」について学修します。	【予習】「日本経済の変化4」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化4」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	「日本経済の変化5」について学修します。	【予習】「日本経済の変化5」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化5」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表①を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第9回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表②を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第10回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表③を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第11回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表④を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第12回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑤を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第13回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑥	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文	4時間

		を行います。	(または卒業レポート)を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文(または卒業レポート)を修正してください。	
第14回	対面	卒業論文(または卒業レポート)の発表⑦を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文(または卒業レポート)を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文(または卒業レポート)を修正してください。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の展望と諸課題について考察した卒業論文を各自完成させる。		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済や地域が抱える諸問題を考えたり今後の展望を行うことを中心に、演習ⅢA で各自報告した研究計画（要旨）に従って、卒業研究の完成を目指します。この演習での卒業研究を通じて、経済現象をデータを用いながら自ら分析し、考えをまとめ、プレゼンできる力を身につけることが目的となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 3 年次までに身につけた経済学の知識を自分で選択したテーマに当てはめ分析に応用すること。 2. 卒業研究として首尾一貫した論文の書き方を身につけること。 3. ゼミでの報告と討論を通して、就職活動などでも有用なプレゼン能力、コミュニケーション能力を養うこと。 以上の3点を到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された卒業研究の原稿について、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特に指定しません。各自、卒論研究に必要な文献、資料を集めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	演習の運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。	研究計画書（要旨）に沿って、各自の卒論執筆のスケジュール管理を徹底してください。 引き続き卒論執筆に必要な資料収集、文献読み込みを行ってください。	2 時間
第2回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第3回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第4回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第5回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第6回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第7回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第8回	対面	卒業論文（2巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第9回	対面	卒業論文（2巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第10回	対面	卒業論文（2巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第11回	対面	卒業論文（2巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第12回	対面	卒業論文（3巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジュメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行	4 時間

			い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	
第13回	対面	卒業論文（3巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第14回	対面	卒業論文（3巡目）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。	卒業論文のレジメを事前に準備し、演習中に配布できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第15回	オンデマンド	期限までの卒業論文の提出に向け、論文の形式的な面も含めたチェックポイントとスケジュールの説明をオンデマンドで行いますので、それに従い各自で最終チェックを行ってまいります。	卒業論文の提出期限、要件を満たしているかどうか、最終的な確認を行ってください（事前） 演習（オンデマンド）後、必要に応じて修正を行い、期限までの提出に備えてください（事後）	6 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	牧田 修治	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して都市と地方の人口変動について分析し、卒業論文としてまとめることを目的とする。授業では各自の研究報告を行い、教員や他のゼミ生との議論を通じて、分析の視点を広げ分析手法の改善を行い、質の高い卒業論文の完成を目指す。さらに、報告者に対する質問や意見に対する報告者の心構えや対応の仕方などについてのレベル向上も目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	次の3つを目標とする。 1. 統計データを使って分析ができる。 2. 自分の考えを口頭や文章で論理的に伝えることができる。 3. 学術的な論文を読み、論文を書くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	60	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・長期休み中の研究成果の振り返り（2時間程度） ・卒業論文執筆に向けた計画の再確認（2時間程度）	4 時間
第2回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4 時間

第3回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第4回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第5回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第6回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第7回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第8回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第9回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第10回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第11回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第12回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第13回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第14回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第15回	オンデマンド	卒論の最終確認事項について	卒論の完成のための最終確認をしてください	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	山垣 真浩	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会政策（労働経済、社会保障）にかんする卒業研究		
授業の目的及び概要	卒業研究を通して、専門知識の獲得はもちろん、資料収集力、読解力、文章力ならびにコンピュータ操作能力、仲間との協働力等、今後の人生に行かせるさまざまな技能を身につけます。 「実学としての経済学」との関係：卒業研究をおこなうことにより、生きていく上で役に立つ、労働または社会保障に関する専門知識が修得でき、また文章力、プレゼンテーション、パソコン操作力などが身につきます。		
履修条件・留意点	あなたの専攻分野(major)は、社会政策です。自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「卒業研究」を完成させます。自分の選択したテーマに関して、文献の解読から今どんなことが問題になっているのか理解し、それを表現することが求められます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	—
参考書	指定しない。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	卒業研究の出来栄え。	
この科目の受講にあたって	演習は、大学教育の中軸です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第2回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第3回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第4回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間

第5回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第6回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第7回	対面	1 回目の研究発表全体へのコメント	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第8回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第9回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	文献の収集、解読、報告の準備	4 時間
第10回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	卒業研究の執筆	4 時間
第11回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	卒業研究の執筆	4 時間
第12回	対面	演習参加者の卒業研究テーマの発表	卒業研究の執筆	4 時間
第13回	オンデマンド	卒業研究へのコメントと意見交換	卒業研究の執筆	4 時間
第14回	対面	卒業研究へのコメントと意見交換	卒業研究の執筆	4 時間
第15回	対面	卒業研究へのコメントと意見交換	卒業研究の執筆	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	畑佐 伸英	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済研究入門（２）		
授業の目的及び概要	本演習では、国際経済の各分野において、各自の関心に沿った研究テーマを絞り込むとともに、先行研究を講読する中で理解を深めていながら、綿密な研究計画を立て、卒業レポートや卒業論文の内容を構想する。 また、「実学としての経済学」、具体的にはGDP、為替レート、金利、などの経済諸指標の連関についても、随時学んでいく。経済諸指標が互いに連動する関係を習熟しておくことで、経済の動きが見通せ、ビジネスや私生活においても実際に役に立つであろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業研究の提出を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当者の割り振り。	自分を取り上げたテーマや課題について、関連する新聞やニュース記事などに目を通して、最新の情報も収集しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間

第2回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(6)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第10回	オンデマンド	国際経済研究：研究論文の執筆	各自の研究テーマについて、関連する書籍や論文、雑誌・新聞記事などを参考にしながら、論文・レポートの執筆に取り組んでください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(10)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや	4 時間

			思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	
第12回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(11)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(12)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(13)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	朱 東平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学理論の視点から日本経済の諸課題を考える		
授業の目的及び概要	経済学理論を勉強する目的の一つは、さまざまな政治、経済、社会現象を経済学の視点から理解し、把握することです。この演習は、こうした応用能力の育成に重点を置きます。 この演習では、卒業論文を書くことにより、論理構成力を身につけることを目的としています。日本経済の抱える諸課題を中心に、経済記事の議論を中心とした学修を続けながら、演習ⅢA で作成した期末レポートをもとに、卒業研究の完成を目指します。演習ⅢB では、卒業論文を作成する必要があります。 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、卒業論文の執筆が必須となっております。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業論文を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。（授業の進行状況と学生の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる）	・演習ⅢAの期末レポートと感想文をもとに、演習ⅢAで成長した点と秋学期の課題について考えてください。また、卒業論文の執筆要領について復習してください。	3時間
第2回	オンデマンド	*卒業論文の執筆要領を確認します。 卒業論文執筆要領を解説する動画をオンデマンドで配信します。	・オンデマンド動画を視聴した上で、「卒業論文チェックリスト」に従い、演習ⅢAで提出したレポートを修正し、ラーニングポータル「レポート」に提出してください。	4時間
第3回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います①。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第4回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います②。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第5回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います③。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第6回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います④。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第7回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑤。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第8回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑥。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第9回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑦。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第10回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑧。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業論文または卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第11回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います①。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究または卒業論文の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジュメを修正し、卒業論文または卒業研究の完了を目指してください。	4時間
第12回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います②。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究または卒業論文の初稿を修正してください。	4時間

			・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正し、卒業論文または卒業研究の完了を目指してください。	
第13回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います③。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究または卒業論文の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正し、卒業論文または卒業研究の完了を目指してください。	4 時間
第14回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います④。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究または卒業論文の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正し、卒業論文または卒業研究の完了を目指してください。	4 時間
第15回	対面	全体の総括	・発表時に受けた指導に基づき、これまでの研究成果を卒業論文または卒業研究の最終版としてまとめてください。 ・卒業論文または卒業研究の作成より何を身につけたかについて総括してください。	5 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	米山 秀隆	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を探究する		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、その基礎知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。演習ⅢA に引き続き、卒業論文の作成を進めていきます。演習での報告、ディスカッション、論文の作成を通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力、文書作成・表現能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ テーマに関する先行研究の内容を整理し、説明できる。 ・ 設定したリサーチクエストについて、自分なりに検証、考察できる。 ・ 調べた結果を、論文として論理的にまとめることができる。 ・ 論文の内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。論文については、添削指導を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じ、適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	卒業論文の完成に向け、授業で設定される課題を着実にこなしていくことはもちろんですが、自ら計画的に進めていくことを望みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習の内容・進め方、報告の割り振り	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことを	4 時間

			整理して下さい。	
第2回	対面	研究報告 1	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第3回	対面	研究報告 2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第4回	対面	研究報告 3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第5回	対面	研究報告 4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第6回	対面	研究報告 5	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第7回	対面	研究報告 6	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第8回	対面	完成に向けた指導 1	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第9回	対面	完成に向けた指導 2	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第10回	対面	完成に向けた指導 3	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第11回	対面	完成に向けた指導 4	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第12回	対面	最終報告 1	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】提出に向けた最終の仕上げを行って下さい。	4 時間
第13回	対面	最終報告 2	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】提出に向けた最終の仕上げを行って下さい。	4 時間
第14回	対面	演習のまとめ	【予習】演習全体の内容を振り返り、得られた点や反省点などを考えておいて下さい。 【復習】演習全体で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本経済、都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・これまでの卒業研究の進捗状況について確認してください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、卒業研究の執筆計画を検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	卒業論文執筆ガイダンス	・オンデマンド動画を視聴し、卒業論文の執筆要領の確認を行ってください。 ・自身が執筆する卒業論文の内容が執筆要領にしているか確認し、加筆修正を行ってください（4時間程度）。	4時間
第3回	対面	研究報告1	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究報告2	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	研究報告3	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究報告4	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	中間報告会1	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間報告会2	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	研究報告5	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	研究報告6	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	研究報告7	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	最終報告1	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	最終報告2	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。	4時間

			時間程度)。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください(2時間程度)。	
第14回	対面	最終報告3	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください(2時間程度)。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	対面	振り返り	・卒業研究の振り返りを行ってください(2時間程度)。 ・今学期の振り返りを行ってください(2時間程度)。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	藤田 峻	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論・行動経済学の応用研究		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会全般を分析可能な、社会科学における非常に強力な分析ツールです。本科目では、これまでの学修成果を十分に活用して、社会問題や社会的現象等を中心にゲーム理論に基づく独自の分析を行い、卒業論文の形にまとめることを目的とします。 この目的を達成するため、授業では各自の研究報告を中心として、教員や他のゼミ生との議論を通じて、卒業論文の質を高めることを目指します。さらに、自身の研究を高度な水準で進めるだけでなく、他者の研究に対して意見を述べることを通じて、他者と協働する能力を高めることができます。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目での学修を通じて、人との関わりにおける戦略的關係や、企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論・行動経済学に関連する卒業研究を行うことができる 2. 卒業論文の進捗を分かりやすく発表することができる 3. 卒業論文に相応しい文章を作成することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究報告に対するコメント等を通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので、早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・長期休み中の研究成果に関する振り返り（2時間程度） ・卒業論文完成に向けた計画・工程の再確認（2時間程度）	4時間
第2回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第3回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第4回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第5回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第6回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第7回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第8回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第9回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第10回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第11回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1時間程度） ・卒業論文の執筆（3時間程度）	4時間
第12回	対面	卒業論文の最終調整	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文の第1案を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4時間
第13回	対面	卒業論文の最終調整	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4時間
第14回	対面	卒業論文の最終調整・振り返り	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	卒業論文の最終確認手順	・オンデマンド教材を用いて卒業論文を仕上げるにあたっての詳細な確認事項・改善事項を確認してください。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・これまでの卒業研究の進捗状況について確認してください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、卒業研究の執筆計画を検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	卒業論文執筆ガイダンス	・オンデマンド動画を視聴し、卒業論文の執筆要領の確認を行ってください。 ・自身が執筆する卒業論文の内容が執筆要領にしているか確認し、加筆修正を行ってください（4時間程度）。	4時間
第3回	対面	研究報告1	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究報告2	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	研究報告3	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究報告4	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	中間報告会1	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間報告会2	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	研究報告5	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	研究報告6	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	研究報告7	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	最終報告1	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	最終報告2	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。	4時間

			時間程度)。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください(2時間程度)。	
第14回	対面	最終報告3	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください(2時間程度)。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	対面	振り返り	・卒業研究の振り返りを行ってください(2時間程度)。 ・今学期の振り返りを行ってください(2時間程度)。	4時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代イギリス社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅢAの学修を踏まえたうえで、引き続き個別研究を行います。必要に応じて、近世から近代にかけてのイギリスにおける貧困問題や産業革命と経済成長に関するテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、卒業論の作成を目指します。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。 第四に、以上の力やスキルを総動員して卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業のイントロダクション(学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	演習ⅢAで学修した、学術的な文章の作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。卒業論文の執筆に励むこと。	4時間
第2回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第3回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第4回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第5回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第6回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第7回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第8回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第9回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第10回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第11回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4時間
第12回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の草稿を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4時間
第13回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の草稿を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4時間
第14回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の論文を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの研究内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、これまでの研究を客観的に振り返り、よかった点、反省点などを見定めるこ	4時間

2025/05/01

			と。	

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	二替 大輔	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（応用） ー産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、3 年次の演習で学んだ産業組織論・企業経済学に関わるテーマを中心として、3 年次の演習ⅡB で決定したテーマの研究を進め、卒業研究の完成を目指します。卒業研究を行うことで産業・企業で生じる問題について自ら考え理解できる「実学の経済学」としての能力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業・企業で発生する諸問題について、3 年次の演習で学修した知見と方法に基づいて、卒業論文（卒業レポート）に結びつく問題意識と探求課題を自分で立てることができる。 2. 研究課題に関わる先行研究を理解し、それを研究課題の設定と研究に内容に生かすことができる。 3. 分析結果を文章にまとめ、それをわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。 4. 研究結果を考慮した上で、問題の解決策を考案することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術、小笠原喜康、講談社、2018 年	ISBN	9784065135020
参考書	①経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ②プラクティカル産業組織論、泉田成美・柳川隆、有斐閣、2008 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784641164956 ②9784641123724 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	研究結果とその発表について着実に見直してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・研究計画の発表①	【予習】研究計画の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。報告に対するフィードバックを参考に研究計画を見直してください。	2時間
第2回	対面	研究計画の発表②	【予習】研究計画の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。報告に対するフィードバックを参考に研究計画を見直してください。	4時間
第3回	オンデマンド	卒業論文執筆要綱の解説・卒業論文の構成・先行研究の読み方・文献検索についての復習	【予習】卒業論文の執筆要綱を読んでください。 【復習】動画を視聴後、卒業論文の執筆要綱を用いて、参考文献リストの見直しを行ってください。	4時間
第4回	対面	研究結果の報告①	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第5回	対面	研究結果の報告②	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第6回	対面	研究結果の報告③	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第7回	対面	研究結果の報告④	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第8回	対面	改善された研究結果の報告①	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第9回	対面	改善された研究結果の報告②	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第10回	対面	改善された研究結果の報告③	【予習】研究結果の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。	4時間
第11回	対面	卒業論文のプレゼンテーションと質疑応答①	【予習】研究結果のプレゼンテーションの準備をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りとプレゼンテーションの改善をしてください。	4時間
第12回	対面	卒業論文のプレゼンテーションと質疑応答②	【予習】研究結果のプレゼンテーションの準備をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りとプレゼンテーションの改善をしてください。	4時間
第13回	対面	改善されたプレゼンテーションの実施①	【予習】研究結果のプレゼンテーションの準備をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りとプレゼンテーションの改善をしてください。	4時間

第14回	対面	改善されたプレゼンテーションの実施②	【予習】研究結果のプレゼンテーションの準備をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りとプレゼンテーションの改善をしてください。	4 時間
第15回	対面	まとめ・残された研究課題の報告	【予習】残された研究課題の報告準備（レジメの作成）をしてください。 【復習】質疑応答の振り返りをしてください。卒業論文を完成させ提出してください。	6 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2025
担当者	藤原 幸則	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域経済の課題の分析と政策提案		
授業の目的及び概要	この演習Ⅲ Bでは、実社会に出てから必要となる調査能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を涵養するとともに、行政やビジネスで必要となる地域経済の構造とその変化の把握、それをもとにした地域活性化の政策を考える力を身につけることを目的としています。 近年、少子高齢化、経済活動の衰退、財政状況の悪化、東京一極集中といった社会経済環境の変化の中で、持続可能性すら危ぶまれる地域が少なくありません。こうした地域経済の構造変化と諸課題に関して、この演習Ⅲ Bでは、各自が演習Ⅲ A で取り組んできた研究内容をさらに深めていくことで、卒業論文の完成まで行ってもらいます。 そのため、演習参加者が、それぞれの調査・研究を深めていくとともに、プレゼンテーションや教員・演習参加者同士のディスカッションを通じて、卒業論文をより良いものへと練り上げてもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域経済の研究に関して、以下の3点を学修の到達目標とします。 ・各種の統計データを収集して分析ができて、それを踏まえた政策提案を行えるようになる。 ・きちんとしたレポートやプレゼン資料を作成できるようになる。 ・説得力あるプレゼンテーションを行うことができるようになる。 これらを通じて、その集大成として、卒業論文を執筆・完成できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究報告に対しては、改善や充実に向けたコメントをします。また、卒業論文草稿は添削指導をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはありません。 必要に応じて、適宜、担当教員が資料を作成して配布します。	ISBN	なし
参考書	①地域政策の経済学，林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇貴，日本評論社，2018 年 ②地域データ分析入門，林宜嗣・林亮輔，日本評論社，2021 年	ISBN	①9784535558687 ②9784535559479
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	

	その他の内容	卒業論文（やむを得ない場合は卒業レポート）の作成・提出
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講生の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。教員の講義だけで終わってはいけませんし、受講生も黙って出席しているだけでもいけません。授業には、積極的に参加し、教員と学生の間、さらには、学生同士でも、お互いに疑問や意見を交わし、議論をしていきましょう。こうしたコミュニケーションは、社会人基礎力として、学生から身に付けておきたい重要なことでもあります。また、授業での議論に参加するため、報告資料の準備はもちろん、議論するための事前の文献資料の確認など、授業以外の時間でも準備が必要です。履修にあたり、地域経済論、都市経済論の基礎的な理論や分析手法について知識があることが望ましいですが、授業でも適宜紹介するので、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 演習ⅢBの進め方について説明します。また、今後の卒業論文の作成に向けて、最近の動向を踏まえて、参考となる地域経済の分析に関する情報やデータ分析を補足説明します。	シラバス、配布資料をよく読み返し、復習してください。その際、A4用紙1枚くらいで、教員の説明と全体ディスカッションの要点をまとめておきましょう。 また、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4時間
第2回	対面	卒業論文の執筆要領の確認 卒業論文は適切かつ十分な内容を準備することはもちろん必要ですが、定められた書式を厳格に満たすよう執筆しなければなりません。卒業論文執筆要領にしたがった書式要件を改めて確認してもらいます。	授業で確認した卒業論文の執筆要領のポイントについて、A4用紙1枚くらいでまとめておきましょう。さらに、本学経済学部卒業論文執筆要領をよく読むようにしてください。今後の卒業論文執筆にあたり、確認したい場合には都度、執筆要領の該当箇所を参照するなど、座右の書にしてください。 また、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4時間
第3回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4時間
第4回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4時間
第5回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4時間
第6回	対面	卒業論文草稿の報告	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。	4時間

		各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	
第7回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4 時間
第8回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4 時間
第9回	対面	卒業論文草稿の報告 各自の卒業論文草稿についてプレゼンテーションし（3人から4人程度）、全体でディスカッションします。プレゼンテーションは、研究する課題、その課題が生じている背景要因、その課題解決のための政策提案、参考や根拠とする文献・資料やデータのポイントをまとめたものとしてください。	・報告担当者は事前に報告資料を準備してください。 ・授業終了後、全員、授業内容も踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の作成作業を着実に進めてください。	4 時間
第10回	対面	卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の仕上げに向けて、苦労しているところや悩んでいるところに関する個別の相談を受けたり、個別に指導を行います。	教員の指導を踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の仕上げ作業を着実に進めてください。	4 時間
第11回	対面	卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の仕上げに向けて、苦労しているところや悩んでいるところに関する個別の相談を受けたり、個別に指導を行います。	教員の指導を踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の仕上げ作業を着実に進めてください。	4 時間
第12回	対面	卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の仕上げに向けて、苦労しているところや悩んでいるところに関する個別の相談を受けたり、個別に指導を行います。	教員の指導を踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の仕上げ作業を着実に進めてください。	4 時間
第13回	対面	卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の仕上げに向けて、苦労しているところや悩んでいるところに関する個別の相談を受けたり、個別に指導を行います。	教員の指導を踏まえて、各自の研究テーマについての卒業論文の仕上げ作業を着実に進めてください。	4 時間
第14回	対面	卒業論文の完成の確認 卒業論文の完成について、個別に報告を受	・全員、卒業論文の最終原稿を準備してください。 ・授業終了後、追加修正を行うことがあれば早急に対	4 時間

		けながら確認します。執筆要領にしたがった書式要件についても、満たしているかを確認します。	応してください。各自、作成した卒業論文について、執筆要領にしたがった書式要件を満たしているか、誤字脱字がないか、をよく確認してください。	
第15回	オンデマンド	総括 秋学期のまとめを行います。また、社会に出ていく皆さんへの担当教員のメッセージも伝えたいと思います。	卒業論文を最終提出してください(期限は1月末、厳守)。 秋学期のまとめについて、A4用紙1枚くらいで、要点を整理しておきましょう。	4時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	前鶴 政和	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済と経済政策		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済の抱える諸課題を中心に、演習ⅢA で作成した卒業研究の 1 次原稿をもとに、卒業研究の完成を目指します。秋学期の演習ⅢB では、卒業論文または 5000 字以上の卒業レポートを作成する必要があります。 この演習は、経済学の専門知識を深め、皆さんが社会で活躍するために必要な経済問題の解決について考察する能力の修得を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。 「実学としての経済学」との関係： この授業を受講することにより、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の専門知識をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業研究のテーマを確定し、卒業研究を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された卒業研究の原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①ほんとうの日本経済, 坂本貴志, 講談社, 2024 年	ISBN	①9784065371978
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	卒業研究の最終原稿	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。	【予習】この演習のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	「日本経済の変化6」について学修します。	【予習】「日本経済の変化6」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化6」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	「日本経済の変化7」について学修します。	【予習】「日本経済の変化7」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化7」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	「日本経済の変化8」について学修します。	【予習】「日本経済の変化8」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化8」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	「日本経済の変化9」について学修します。	【予習】「日本経済の変化9」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化9」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	「日本経済の変化10」について学修します。	【予習】「日本経済の変化10」に関する配付資料を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の変化10」に関する配付資料を読み直し、授業で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑧を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第8回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑨を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第9回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑩を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第10回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑪を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第11回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑫を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間
第12回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表⑬を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4時間

第13回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表 ^⑭ を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4 時間
第14回	対面	卒業論文（または卒業レポート）の発表 ^⑮ を行います。	【予習】卒業論文の執筆要領に基づいて、卒業論文（または卒業レポート）を事前に作成してください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて卒業論文（または卒業レポート）を修正してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究に取り組む。		
授業の目的及び概要	本科目は、研究計画に基づき、卒業論文もしくは卒業レポートを完成させることが目的です。進捗報告と意見交換を通して、卒業論文もしくは卒業レポートの作成に取り組みます。大学での学修を通して培った基礎的・専門的知識をさらに深めるとともに、自身の研究成果を他者にわかりやすく伝える能力を身につけることを目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①研究テーマに関する基礎的・専門的知識を身につけることができる。 ②自身の研究テーマについて調査した結果を他者にわかりやすく伝えることができる。 ③研究成果を卒業論文もしくは卒業レポートにまとめることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	進捗報告について、コメントやアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし	ISBN	－
参考書	研究テーマに応じて、適宜紹介します。	ISBN	－
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	報告資料の内容、報告の仕方などを総合的に評価する。	
この科目の受講にあたって	卒業研究は大学での学修の集大成です。自身が設定した研究テーマに積極的に取り組むことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・ガイダンス、卒業論文の作成準備 授業の概要、到達目標、成績評価の方法等について説明後、今後のスケジュールについて確認します。	【事前学修】シラバスを事前に読んでください。 【事後学修】卒業論文を作成するための今後の計画を立ててください。	4 時間

第2回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第3回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第4回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第5回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第6回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第7回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第8回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第9回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】研究成果をまとめ、進捗報告準備（資料作成など）をしてください。 【事後学修】進捗報告の意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第10回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第11回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第12回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第13回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第14回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・秋学期のまとめ 秋学期のまとめを行います。	【事前学修】これまでの研究成果を振り返ってください。 【事後学修】大学での学修を今後のキャリアにどのように活かすか考えてください。	4 時間

科目名	演習ⅢB	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究に取り組む。		
授業の目的及び概要	本科目は、研究計画に基づき、卒業論文もしくは卒業レポートを完成させることが目的です。進捗報告と意見交換を通して、卒業論文もしくは卒業レポートの作成に取り組みます。大学での学修を通して培った基礎的・専門的知識をさらに深めるとともに、自身の研究成果を他者にわかりやすく伝える能力を身につけることを目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①研究テーマに関する基礎的・専門的知識を身につけることができる。 ②自身の研究テーマについて調査した結果を他者にわかりやすく伝えることができる。 ③研究成果を卒業論文もしくは卒業レポートにまとめることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	進捗報告について、コメントやアドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし	ISBN	－
参考書	研究テーマに応じて、適宜紹介します。	ISBN	－
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	報告資料の内容、報告の仕方などを総合的に評価する。	
この科目の受講にあたって	卒業研究は大学での学修の集大成です。自身が設定した研究テーマに積極的に取り組むことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・ガイダンス、卒業論文の作成準備 授業の概要、到達目標、成績評価の方法等について説明後、今後のスケジュールについて確認します。	【事前学修】シラバスを事前に読んでください。 【事後学修】卒業論文を作成するための今後の計画を立ててください。	4 時間

第2回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第3回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第4回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第5回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第6回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第7回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第8回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第9回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】研究成果をまとめ、進捗報告準備（資料作成など）をしてください。 【事後学修】進捗報告の意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第10回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第11回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第12回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第13回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第14回	対面	・卒業論文の作成 卒業論文の完成に向けて、卒業研究の進捗報告後、意見交換を行います。	【事前学修】卒業研究の進捗について、報告準備をしてください。 【事後学修】意見交換の内容を踏まえて卒業論文にまとめてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・秋学期のまとめ 秋学期のまとめを行います。	【事前学修】これまでの研究成果を振り返ってください。 【事後学修】大学での学修を今後のキャリアにどのように活かすか考えてください。	4 時間

科目名	卒業論文		開講年度	2025
担当者	演習ⅢA・B 担当教員		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	4 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	卒業論文を通じて大学での学びを完成させる			
授業の目的及び概要	「演習ⅢA・B」での報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。提出時期は1月（予定）です。作成の方法等については、「卒業論文執筆要領」を参照してください。 卒業論文は自身の所属ゼミの専攻分野の中からテーマを選び、講義科目で学修した知識や分析手法・思考法に基づき、演習をはじめとした各科目で身につけた情報収集力、文献理解力、文章力、分析力、課題解決能力、ICT スキル等を十全に発揮し、自身の集中力と忍耐力の全てをもって取り組むものです。これは、4年間にわたる大学での経済学に関する学びの集大成といえるべきものです。 卒業論文の執筆は、経済学の専門知識を深め、社会で活躍するために必要な経済・社会に関する課題を洞察・解決する力を身につけることに大きく寄与します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	自身が設定したテーマに関して、これまでの議論を整理し、卒業論文に相応しい水準で、残された課題や自身の意見を述べるができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	論文の添削・指導を行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	—	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	100		
	その他の内容	卒業論文		
この科目の受講にあたって	“質”の高い卒業論文は、「1. 的確な課題を発見」し、「2. 問題の所在や本質を明らかに」した上で、「3. 多くの正確な資料」に基づき「4. 論理的に適切な手法によって考察・分析」を行い、「5. 自身の考えを他者に納得させるようなプレゼンテーション」によって公表されます。これらのプロセスは大学における学びに限らず、就業後に大多数の業務で一般に行われるもので、こうした取り組みを本格的に「学術的」な観点で行うことができる機会は人生の中でも稀少です。 この機会を十全に活用して、卒業論文を完成させることができれば、大学4年間の象徴的な成果として誇ることができる作品を残すことができるだけでなく、自身の飛躍的な成長にもつながります。			

大学生生活の「総仕上げ」として、これまでに身に付けたあらゆるスキルを発揮して、素晴らしい卒業論文を執筆されることを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	—	—	6時間
第2回	対面	—	—	6時間
第3回	対面	—	—	6時間
第4回	対面	—	—	6時間
第5回	対面	—	—	6時間
第6回	対面	—	—	6時間
第7回	対面	—	—	6時間
第8回	対面	—	—	6時間
第9回	対面	—	—	6時間
第10回	対面	—	—	6時間
第11回	対面	—	—	6時間
第12回	対面	—	—	6時間
第13回	対面	—	—	6時間
第14回	対面	—	—	6時間
第15回	対面	—	—	6時間

科目名	ICT特別演習 I A		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース(データサイエンス)について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【令和 7 年度】いちばんやさしい 基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集 高橋 京介(著) SB クリエイティブ		ISBN	9784815629380
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	自宅学習：過去問道場の問題を解いて、その結果を2回分（または2半期分）提出することで10点を配点する。 期間中の資格取得：ITパスポート、基本情報技術者、データサイエンティストの資格新規取得で秀評価。
この科目の受講にあたって	・1年目春 I、秋 II、2年目春 III、秋 IV の順で履修可能 ・各学期2単位、2年間で8単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。	4 時間
第2回	対面	第1章 情報技術の基礎 2進数、8進数	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第3回	対面	第2章 データ構造とアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第2章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第4回	対面	第3章 ハードウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第3章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第5回	対面	第4章 ソフトウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第4章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第6回	対面	第5章 ネットワーク	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第5章の章末問題を現状の知識で	4 時間

			解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 7 回	対面	第 6 章 セキュリティ	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 6 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	第 7 章 データベース	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 11 章と第 12 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	第 8 章 ソフトウェア開発	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 8 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 10 回	対面	第 9 章 マネジメント	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 9 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	第 10 章 ストラテジ	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 10 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	答練①テクノロジー分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくこととよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 13 回	対面	答練② マネジメント・ストラテジ分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくこととよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 14 回	対面	答練③ 総合分野	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくこととよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	答練④（オンライン答練）	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4時間

科目名	ICT特別演習 I B		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から基本情報技術者の資格取得をめざす。他の情報系資格を目指したい場合には、個別希望に応じて個々人の資格取得を講義内でサポートする。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ ICT 特別演習全体の概要は次の通り。各学期の 1 コマ目となる IA・IB・IIIA・IIIB においてはプログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につけた後、数理・データサイエンス・AI 時代に合わせた機械学習やディープラーニングなどの技法についての学修などに挑戦する。各学期の 2 コマ目となる IIA・IIB・IVA・IVB においては ICT に関する幅広い知識を修得するとともに、国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。 ・ 基本情報技術者試験の科目 A・科目 B とあるうちの科目 B 対策の講義を主として行う。科目 B では情報セキュリティ分野が出題される。この科目の受講者は情報セキュリティマネジメントの資格も同時に取得を目指すことができる内容となっている。			
履修条件・留意点	IT パスポートの資格を取得していることが望ましいが、基本情報技術者科目 A の勉強を通して、IT パスポートの資格取得を目指すこともできる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆この科目では、基本情報技術者試験科目 B での出題内容を念頭において、情報セキュリティに関する知識を獲得する。同時に、情報セキュリティマネジメント試験での出題内容を念頭において、情報セキュリティに関する知識（科目 A）と実例を通じた情報セキュリティ・インシデントへの対応能力（科目 B）を身につける。 ◆IT パスポートを未取得の受講者はこの科目を通じていち早く IT パスポート資格の取得を目指す。それを前提として「情報セキュリティマネジメント」、「基本情報技術者」、「応用情報技術者」、「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」、「G 検定」のいずれかの資格を半年間で新規で習得できるだけの知識、プログラミング力、計算力を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	ニュースバックテキスト 情報セキュリティマネジメント 2024 年度, TAC 情報処理講座著, TAC 出版	ISBN	9784300109403	
参考書	合格対策 データサイエンティスト検定[リテラシーレベル] 教科書, 園部 康弘 (著), 藤丸 卓也 (著), 安福 香花 (著), 住原 達也 (著), リックテレコム	ISBN	978-4865943412	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60		
	成果発表（口頭・実技）	0		

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	10
	その他の内容	自宅学習：自主的に過去問道場の問題を解いて、その結果を2回分（または2半期分）提出することで10点を配点する。 期間中の資格取得：ITパスポート、基本情報技術者、データサイエンティストの資格新規取得で秀評価。
この科目の受講にあたって	・1年目・1年目春 IA・IIA、秋 IB・IIB、2年目春 IIIA・IVA、秋 IIIB・IVB の順で履修可能 ・IA・IIA、IB・IIB、IIIA・IVA、IIIB・IVB はそれぞれ2コマ連続受講 ・各学期4単位、2年間で16単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。	4時間
第2回	対面	第1部 第1章① 情報セキュリティの基本概念	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1部第1章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第3回	対面	第1部 第1章② サイバー攻撃と情報セキュリティ対策 第1章③ 情報セキュリティを確保する技術	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1部第1章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第4回	対面	第1部 第2章 情報セキュリティ管理	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1部第2章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して20問解いてみるのが望ましい。	4時間
第5回	対面	第1部 第3章 関連法規	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第1部第3章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。	4時間

			範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 6 回	対面	第 1 部 第 4 章 情報セキュリティについての主要関連分野	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 1 部第 4 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 7 回	対面	第 2 部 第 1 章① 科目 B 対策 前半	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 1 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	第 2 部 第 1 章② 科目 B 対策 後半	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 1 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	第 2 部 第 2 章① 標的型攻撃	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 2 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 10 回	対面	第 2 部 第 2 章② マルウェア	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 2 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	第 2 部 第 2 章③ クラウド導入	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 2 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	第 2 部 第 2 章④ 個人情報保護	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 部第 2 章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4 時間

			い。	
第13回	対面	第2部 第2章⑤ セキュリティガバナンス	【予習】 Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第2部第2章の問題を事前に読んでおくことよい。 【復習】 やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して解いてみるのが望ましい。	4時間
第14回	対面	第2部 第3章 実践練習問題	【予習】 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】 不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4時間
第15回	オンデマンド	答練（答案提出）：過去問道場から出題する	【予習】 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】 不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4時間

科目名	I C T特別演習Ⅲ A		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から IT パスポート、基本情報技術者の資格取得をめざす。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ IT パスポートまたは基本情報技術者の資格取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。国家試験である、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につける。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して受験意志のある人に受講は限定する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆IT パスポートの資格取得を通して、ICT に関する幅広い知識を習得する。 ◆IT パスポートの資格をすでに取得している受講生については、基本情報技術者の資格取得を目指す。とくにプログラミングや、データベース(データサイエンス)について基礎からしっかりと理解する。自らプログラムを作成し、データ処理ができるようになることを目指す。 ◆基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生については、応用情報技術者の資格取得を目指す。IT パスポート、または基本情報技術者の資格をすでに取得している受講生について、情報セキュリティマネジメントの資格取得に関する指導も行う。受講者は基本情報技術者と情報セキュリティマネジメントのいずれの資格を取得するかを選択してよい。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【令和7年度】いちばんやさしい 基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集 高橋 京介(著) SB クリエイティブ		ISBN	9784815629397
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	

	その他 (%)	10
	その他の内容	自宅学習：自主的に過去問道場の問題を解く。 期間中の資格取得：IT パスポート、基本情報技術者、応用情報技術者、情報セキュリティマネジメントの資格新規取得で加点。
この科目の受講にあたって	・1 年目春 I、秋 II、2 年目春 III、秋 IV の順で履修可能 ・各学期 2 単位、2 年間で 8 単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス テクノロジー 第 1 章 コンピュータ科学の基礎理論	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 1 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 2 回	対面	テクノロジー 第 2 章 コンピュータの構成要素	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 3 回	対面	テクノロジー 第 3 章 ソフトウェア	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 3 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 4 回	対面	テクノロジー 第 4 章 コンピュータシステム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 4 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 5 回	対面	テクノロジー 第 5 章 データベース	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 5 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 6 回	対面	テクノロジー 第 6 章 ネットワーク	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。	4 時間

			教科書の第 6 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 7 回	対面	テクノロジー 第 7 章 セキュリティ	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 7 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	テクノロジー 第 8 章 システム開発技術	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 8 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	テクノロジー 第 9 章 データベース、アルゴリズム、プログラミング	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 9 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 10 回	対面	テクノロジーのまとめ 演習問題の実習	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、テクノロジー分野について総復習しておくこととよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	マネジメント 第 1-2 章 プロジェクトマネジメント、IT サービスマネジメント	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 3 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	マネジメント 第 3 章 システム監査	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 3 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 13 回	対面	ストラテジ 第 1 章 システム戦略、経営戦略	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 1 章の章末問題を現状の知識で	4 時間

			解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 14 回	対面	ストラテジ 第 2 章 企業と法務	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書の第 2 章の章末問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	答練（答案提出）総合演習 過去問道場より問題を出題	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくことよい。 【復習】やる気のある人は、勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定せずに 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間

科目名	I C T 特別演習Ⅲ B		開講年度	2025
担当者	岩田 順敬		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位	
グレード	G3	授業方法	演習	
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ICT に関する実践的知識の修得という観点から基本情報技術者の資格取得をめざす。他の情報系資格を目指したい場合には、個別希望に応じて個々人の資格取得を講義内でサポートする。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。 ・ ICT 特別演習全体の概要は次の通り。各学期の 1 コマ目となる IA・IB・IIIA・IIIB においてはプログラミング言語である Python を基礎から学修し基本的なプログラミング技能を身につけた後、数理・データサイエンス・AI 時代に合わせた機械学習やディープラーニングなどの技法についての学修などに挑戦する。各学期の 2 コマ目となる IIA・IIB・IVA・IVB においては ICT に関する幅広い知識を修得するとともに、国家試験である、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験合格を目指す。 ・ 基本情報技術者試験の科目 A・科目 B とあるうちの科目 B 対策の講義を主として行う。科目 B では疑似言語によるプログラミングが出題されることから、この科目では Python を用いてプログラミングとアルゴリズムの双方を具体的なプログラム作成実習を通して学習する。			
履修条件・留意点	IT パスポートの資格を取得していることが望ましいが、基本情報技術者科目 A の勉強を通して、IT パスポートの資格取得を目指すこともできる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	◆この科目では、基本情報技術者試験科目 B での出題内容を念頭において、アルゴリズムについて学習する。疑似言語によって書かれたプログラムが理解できるようになり、典型的ないくつかアルゴリズムの考え方が理解できるようになることを目標とする。 ◆IT パスポートを未取得の受講者はこの科目を通じていち早く IT パスポート資格の取得を目指す。それを前提として「情報セキュリティマネジメント」、「基本情報技術者」、「応用情報技術者」、「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」、「G 検定」のいずれかの資格を半年間で新規で習得できるだけの知識、プログラミング力、計算力を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①うかる！ 基本情報技術者【科目 B・アルゴリズム編】 2024 年版 福嶋先生の集中ゼミ、 福嶋宏訓(著)、日本経済新聞出版社	ISBN	①9784296119554	
参考書	合格対策 データサイエンティスト検定[リテラシーレベル] 教科書、 園部 康弘(著)、 藤丸 卓也(著)、 安福 香花(著)、 住原 達也(著)、 リックテレコム	ISBN	978-4865943412	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60		
	成果発表(口頭・実技)	0		

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	10
	その他の内容	自宅学習：自主的に過去問道場の問題を解いて、その結果を2回分（または2半期分）提出することで10点を配点する。 期間中の資格取得：ITパスポート、基本情報技術者、データサイエンティストの資格新規取得で秀評価。
この科目の受講にあたって	・1年目春 IA・IIA、秋 IB・IIB、2年目春 IIIA・IVA、秋 IIIB・IVB の順で履修可能。 ・IA・IIA、IB・IIB、IIIA・IVA、IIIB・IVB はそれぞれ2コマ連続受講。 ・各学期4単位、2年間で16単位の取得が可能である。 ・各学期において履修についての選考がある。なお、通常の演習（ゼミ）と曜限が重複する場合、履修ができない。また、他の特別演習と重複する場合、どちらかを選択する必要がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ガイダンス 第1章 Lesson 1 アルゴリズムとは何か？	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第2回	対面	第1章 Lesson 2-3 流れ図と記号	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第3回	対面	第1章 Lesson 4-5 合計計算のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4時間
第4回	対面	第1章 Lesson 6-7 最大・最小のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくことよい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。	4時間

			授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	
第5回	対面	第1章 Lesson 8-9 二次元配列	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第6回	対面	第1章 Lesson 10-11 Pythonを用いたアルゴリズム実習（練習問題）	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第7回	対面	第2章 Lesson 1-2 疑似言語	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第8回	対面	第2章 Lesson 3-4 同じ計算を行う複数のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第9回	対面	第2章 Lesson 5-6 より効率のよいアルゴリズムとは？	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第10回	対面	第2章 Lesson 7-8 通算日数計算のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第11回	対面	第2章 Lesson 9-10 金種計算のアルゴ	【予習】Learning Portal でどのような内容について	4 時間

		リズム	講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	
第12回	対面	第2章 Lesson 11-12 Pythonを用いたアルゴリズム実習2（練習問題）	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第13回	対面	第3章 Lesson 1-2 最大値のアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第14回	対面	第3章 Lesson 3-4 選択ソート、バブルソートのアルゴリズム	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を読んでみて、知らない単語があればアンダーラインを引くなどしてチェックしておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間
第15回	オンデマンド	プログラミング課題実習（自作プログラムの提出）	【予習】Learning Portal でどのような内容について講義が行われるかについて事前に知っておくこと。 教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとい。 【復習】やる気のある人は、自分で少しアレンジしたプログラムを作成してみるとよい。 授業で作ったプログラムを自分なりにアレンジしてきた人は後日提出で加点対象とする。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	石川 英樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメントシート	
この科目の受講に	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞		

あたって	こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。	4 時間

			【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の			

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメ ントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA		開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位	
グレード	G2	授業方法	演習	
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。	
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	コメントシート		
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタツ			

	くしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思ひます。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めながら志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験（教養試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	近年、日本や地域社会は、従来から進行する少子高齢化やデジタル化にとどまらず、持続的な質上げやインフレなどの新たな課題への対応にも迫られています。こうした日本や地域社会全体の方向性を見すえて、そのための制度や政策を国民や地域のために企画し実行・実現していくという公務員の役割はますます重要になっています。公務員の仕事は、私たちの生活や社会にとってなくてはならないさまざまな仕事を国民や地域の人々のためにしていく仕事です。それだけにやりがいのある仕事であり、志望する人もたくさんいます。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験はやさしくはありません。また、知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人は求められていません。つまり、公務員には、幅広い知識の習得を怠らない学習意欲、多くの人の意見に耳を傾け施策について伝えることができるコミュニケーション能力、同僚や関係者と協調しながら社会のためにやりとげる責任感が必要です。そこで、本演習は行政職公務員志望者を対象とした公務員特別演習の初年度科目であることから、公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験問題を解くために必要な基礎知識や解法テクニックを学んでもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めて志望モチベーションを高める。 ②自分がめざす分野の公務員について、具体的な志望動機を説明できるようになる。 ③公務員試験（1次試験）問題を解くために必要な基礎知識や解法テクニックを修得する（判断推理、数的推理、文章理解、資料解釈）。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメントやアドバイスをします。必修問題に対しては、授業中に正解を解説します。確認テストに対しては、答案の提出と引き換えに詳しい解説資料を渡します。期末レポートに対しては、個別にコメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として30年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』 ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 判断推理、資格試験研究会、実務教育出版、2023年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 数的推理、資格試験研究会、実務教育出版、2023年 ④公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 文章理解・資料解釈、資格試験研究会、実務教育出版、2023年	ISBN	①なし ②9784788937444 ③9784788937451 ④9784788937468

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験の2年前から対策と準備に取り組むことが望ましいです。2年生から受験準備を本格化させることは、競争する多くの公務員志望者がいる中で、試験準備のアドバンテージとなります。したがって、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。ただし、やみくもに時間ばかりかけて勉強すれば良いというものではなく、ポイントを要領よく効率よく学習していくことも重要です。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、行政職公務員の仕事への理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験の最初の関門である1次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の修得に全力でサポートしていきます。こうした基本事項をしっかり押さえ、過去問を中心に問題を繰り返し解く、より多くの問題を解く、という努力を重ねれば必ず成果が出るものです。 なお、正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、どのように授業を進行させるかについての概略を説明します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	2 時間
第2回	対面	公務員の種類と仕事の内容 公務員の種類と仕事の内容について、民間企業との違いやその利点、採用後の待遇・将来の可能性などを知ってもらいます。あわせて、求められる公務員像について、ディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。また、次回授業で報告できるよう、自分が公務員を志望する理由を具体的に考えて整理してください。	4 時間
第3回	対面	公務員の仕事研究 受講生から公務員の志望理由を報告してもらいディスカッションしながら、自分が志望する公務員の種類・仕事・待遇・試験内容・試験スケジュールについてまとめてもらいます。教員からも、適宜、公務員の仕事内容の補足説明を行います。	【予習】授業で報告（3分程度）できるよう、自分が公務員を志望する理由を具体的にまとめておいてください。また、 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で調べたり考えたりしたことなどを整理してください。	4 時間
第4回	対面	公務員試験の全体像、受験のための情報収集方法 公務員試験の全体像（教養試験、専門試験、論文試験、人物試験）と対策のポイント、公務員試験受験のための情報収集方法を知ってもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第5回	対面	判断推理に関する問題研究① うそつき問題、命題・論理、順序関係に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	判断推理に関する問題研究② 位置関係の問題、対応表の問題、集合の問題	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。	4 時間

		題、試合の問題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	
第7回	対面	判断推理に関する問題研究③ 空間図形の問題、川渡り・暗号・道順の問題、平面図形の問題、N進法・虫食い・魔方陣の問題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	判断推理に関する確認テスト	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの正解を参照して、間違った問題は再度解くなどの復習をしておいてください。	4.5 時間
第9回	対面	数的推理に関する問題研究① 整数の性質の問題、年齢算・平均算の問題、文章題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第10回	対面	数的推理に関する問題研究② 不定方程式の問題、平均速度・通過算の問題、流水算の問題、旅人算・相対速度の問題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	数的推理に関する問題研究③ 仕事算・ニュートン算の問題、濃度の問題、売買算の問題、順列・組合せの問題、確率の問題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	数的推理に関する確認テスト	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの正解を参照して、間違った問題は再度解くなどの復習をしておいてください。	4.5 時間
第13回	対面	資料解釈に関する問題研究 資料解釈に関する代表的問題例(対前年比の求め方、指数の計算など)を解いてもらい、解法のポイントを解説します。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	資料解釈・文章理解に関する確認テスト	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの正解を参照して、間違った問題は再度解くなどの復習をしておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ 春学期を振り返り、自身の課題をチェックしてもらいます。また、行政課題の把握に関する手引きを説明します。	【復習】春学期を振り返り、自身の課題とその改善に向けた考え方を整理して期末レポートを提出してください。 なお、夏休み中の時間も利用して、参考書なども活用して判断推理・数的推理・文章理解・資料解釈に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。また、自分が志望する行政組織について、採用試験がどうなっているか、どのような行政課題があるかをホームページから調べておきましょう。	5 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足をを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチカ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチカ等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2025
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の			

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメ ントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメ ントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタツ		

	クしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2025
担当者	石川 英樹		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講に	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞			

あたって	こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。	4 時間

			【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めながら志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験（専門試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	近年、日本や地域社会は、従来から進行する少子高齢化やデジタル化にとどまらず、持続的な質上げやインフレなどの新たな課題への対応にも迫られています。こうした日本や地域社会全体の方向性を見すえて、そのための制度や政策を国民や地域のために企画し実行・実現していくという公務員の役割はますます重要になっています。公務員の仕事は、私たちの生活や社会にとってなくてはならないさまざまな仕事を国民や地域の人々のためにしていく仕事です。それだけにやりがいのある仕事であり、志望する人もたくさんいます。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験はやさしくはありません。また、知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人は求められていません。つまり、公務員には、幅広い知識の習得を怠らない学習意欲、多くの人の意見に耳を傾け施策について伝えることができるコミュニケーション能力、同僚や関係者と協調しながら社会のためにやりとげる責任感が必要です。そこで、本演習では、行政職公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験問題（1次試験）を解くために必要な経済学の基礎知識と問題解法のテクニックを学んでもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高める。 ②公務員試験問題を解くために必要な基礎知識と問題解法のテクニックを修得する（経済学関係）。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	必修問題については、授業内で正解を示します。確認テストに対しては、答案の提出と引き換えに詳しい解説資料を渡します。期末レポートに対しては、コメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として30年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』 ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 ミクロ経済学、資格試験研究会、実務教育出版、2023年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 マクロ経済学、資格試験研究会、実務教育出版、2023年	ISBN	①なし ②9784788937574 ③9784788937581
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験の2年前から対策と準備に取り組むことが望ましいです。2年生から受験準備を本格化させることは、競争する多くの公務員志望者がいる中で、試験準備のアドバンテージとなります。したがって、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。ただし、やみくもに時間ばかりかけて勉強すれば良いというものではなく、ポイントを要領よく効率よく学習していくことも重要です。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、行政職公務員の仕事への理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験の最初の関門である1次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の修得に全力でサポートしていきます。こうした基本事項をしっかり押さえ、過去問を中心に問題を繰り返し解く、より多くの問題を解く、という努力を重ねれば必ず成果が出るものです。 正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス どのように授業を進行させるかについての概略、ミクロ・マクロ経済学問題攻略のポイントについて説明します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	2.5 時間
第2回	対面	ミクロ経済学問題の研究① 消費者理論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第3回	対面	ミクロ経済学問題の研究② 生産者理論（完全競争）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第4回	対面	ミクロ経済学問題の研究③ 生産者理論（不完全競争）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第5回	対面	ミクロ経済学問題の研究④ 市場の理論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第6回	対面	ミクロ経済学問題の研究⑤ 市場の失敗に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第7回	対面	ミクロ経済学問題の研究⑥ ミクロ貿易論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第8回	対面	ミクロ経済学問題に関する確認テストの実施	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	4.5 時間

第9回	対面	マクロ経済学問題の研究① 国民経済計算体系に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第10回	対面	マクロ経済学問題の研究② 財市場の分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第11回	対面	マクロ経済学問題の研究③ 貨幣市場と IS-LM 分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第12回	対面	マクロ経済学問題の研究④ 前回授業に続き、貨幣市場と IS-LM 分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第13回	対面	マクロ経済学問題の研究⑤ 総需要・総供給分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第14回	対面	1. マクロ経済学問題の研究 ⑥ハロッド＝ドーマーモデルによる経済成長論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。 2. マクロ経済学問題に関する確認テストの実施(答えの解説は15回オンデマンド演習にて実施)	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【予習】 確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。また、確認テストについては、それを実際に解いておいてください。	4.5 時間
第15回	オンデマンド	確認テストの解説と秋学期のまとめ 秋学期を振り返り、自身の課題をチェックしてもらいます。	【復習】 解説を視聴して前回実施した確認テストの答え合わせをしてください。 その後、秋学期を振り返り、確認テストのスコアと自身の課題とその改善に向けた考え方を整理して期末レポートを提出してください。 なお、春休み中の時間も利用して、参考書なども活用してミクロ経済学・マクロ経済学に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。 また、自分が志望する行政組織について、採用試験はどうなっているか、どのような行政課題があるかをホームページから調べておきましょう。	4.5 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2025
担当者	上林 大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメントシート	
この科目の受講にあたって	治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道です。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。しかし、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援しているのです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の		

	喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。 ※ 各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ※ 課題提出等については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ※ 状況により現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する	4 時間

		(課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	る研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2025
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる公務員試験（教養・専門試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	行政職公務員試験の最初に課せられる関門は、教養試験（基礎能力試験）と専門試験という1次試験です（受験先によっては論文試験もある）。これを突破しないと最後の関門の人物試験に行くことができません。公務員を目指すうえで、なんとしても1次試験に合格することが不可欠となります。そこで、本演習では、公務員特別演習Ⅰの内容を追加する形で、さらに進んだ公務員試験（1次試験の教養・専門試験）対策を進めるために必要な基礎知識と問題解法のテクニックをより幅を広げて学んでもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①公務員試験問題を解くために必要な基礎知識と問題解法のテクニックを修得する（教養問題、ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学に関する問題）。 ②公務員試験の1次試験（教養試験、専門試験）で合格ボーダーラインに到達できるレベルになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	必修問題については、授業内で正解を示します。確認テストに対しては、答案の提出と引き換えに詳しい解説資料を渡します。期末レポートに対しては、コメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』 ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 ミクロ経済学，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 マクロ経済学，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年 ④公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 財政学，資格試験研究会，実務教育出版，2024 年	ISBN	①なし ②9784788937574 ③9784788937581 ④9784788937598
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験準備を継続する強い意志が必要です。したがって、本演習は真剣に行政職の公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、公務員試験の最初の関門である1次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の学修に全力でサポートしていきます。正当な理由のない欠席や遅刻をせず、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。 なお、本演習で十分にカバーできない時事問題に関しては、日頃から新聞記事に目を通すことにより、自分なりの考えを持つようにしてください。 また、自分が志望する国や地方の行政組織がある程度固まってきたら、ホームページを見て、どのような行政課題があるのかを適宜チェックしておいてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、どのように授業を進行させるかについての概略を説明します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	1 時間
第2回	対面	国家公務員（大卒一般職）について 国家公務員（大卒一般職）は、公務員志望者にとってお勧めの職業です。それを理解してもらうために、国家公務員の仕事の基本と特徴、国家公務員の魅力と待遇、国家公務員試験の流れと試験科目（攻略方法も含め）について説明します。あわせて、地方公務員や民間企業と比べたとき、国家公務員の仕事はどう違うのか、何が魅力と言えるのか、ディスカッションします。 また、授業終了後、Learning Portal を通じて、受講生全員を対象に志望先のアンケートを実施します。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。また、Learning Portal を通じて、志望先のアンケートに回答してください。	3 時間
第3回	対面	教養問題（判断推理、数的推理）に関する確認テストの実施	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料（教養問題の解法のポイント）を事前に読んでおいてください。 【復習】 確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	5 時間
第4回	対面	ミクロ経済学問題の研究① 消費者理論の応用、最適生産要素投入に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第5回	対面	ミクロ経済学問題の研究② 寡占者理論、パレート最適性に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第6回	対面	マクロ経済学問題の研究① 投資理論、国際マクロ経済学に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第7回	対面	マクロ経済学問題の研究② 経済変動理論（ハロッド＝ドーマー型経済成長理論、新古典派経済成長理論）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第8回	対面	ミクロ経済学・マクロ経済学に関する確認テストの実施	【予習】 確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】 確認テストの解説資料を読み、間違った問題	5 時間

			を再度解くなどの復習をしておいてください。	
第9回	対面	財政学問題の研究① 予算の原則と制度、日本の財政事情、財政の国際比較に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第10回	対面	財政学問題の研究② 財政投融资と国庫金、日本の財政史、地方の財政に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第11回	対面	財政学問題の研究③ 租税の分類、租税体系の理論、租税の原則、日本の税制に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第12回	対面	財政学問題の研究④ 日本の税制史、租税負担、公債の制度、公債の理論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第13回	対面	財政学問題の研究⑤ 財政の役割、乗数効果、公共財の理論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第14回	対面	財政学問題に関する確認テストの実施	【予習】 確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】 確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	5 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ 春学期を振り返り、自身の課題をチェックしてもらいます。	【復習】 春学期を振り返り、自身の課題とその改善に向けた考え方を整理して期末レポートを提出してください。 なお、夏休み中の時間も利用して、参考書なども活用して、判断推理、数的推理、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。また、自分が志望する行政組織について、どのような行政課題があるかをホームページから調べておきましょう。	5 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2025
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要な公務員試験（論文試験、面接試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員試験は、ますます「仕事力」や「即戦力」という視点を重視するようになっており、「知識重視型」の選抜から行政の担い手としての「資質評価型」の選抜へと変わってきています。そうしたことから、国家公務員試験、地方公務員試験ともに、行政課題や公共政策についての論文試験や集団討論を課することが多くなっています。面接での問いも、行政課題や公共政策にかかわることが増えています。つまり、国も地方も、本気で公務員を目指しているのかを「行政課題や政策についてきちんと考えているか」によって確認しようとしています。 公務員試験の新傾向に対応するために、本演習では、公務員試験の論文試験、面接試験に対する対策として、論文作成のポイントの指導と論文の作成トレーニング、面接試験での留意点の指導と面接試験のトレーニングを行います。なお、集団討論のトレーニングは、公務員特別演習Ⅲ A で扱います。実は集団討論も論文と根は同じです。なぜなら、根拠で裏付けつつ説得的な主張を述べていく構造は、論文と共通だからです。論文が書ける人は集団討論もできます。この演習を通じて、論文作成能力を高めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①必要な知識・情報の把握と理解を前提に、根拠で裏付けつつ説得的な論述ができる論文作成能力を身に付ける。 ②面接での基本である素直に相手と会話のキャッチボールができ、良い印象が得られるような対応を心がけ、実践できるようになる。 ③行政課題が問われる面接において、対応すべき課題が何であり、自分が考える政策が何かを述べられるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	トレーニングで作成した論文については、個別に添削した答案とコメントを返すとともに、授業内で問題点や改善点を議論します。模擬面接については、授業内で個別に講評を行い、改善に向けた指導・助言を行います。期末レポートに対しては、個別にコメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 必要に応じて、担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験準備を継続する強い意志が必要です。したがって、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、知識の活用や思考力を問う新傾向の公務員試験で重視される論文試験に対して、実践的なトレーニングを重ねることで自信を持てるようにします。 正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。 なお、本演習で十分にカバーできない時事問題に関しては、日頃から新聞記事に目を通すことにより、自分なりの考えを持つようにしてください。 また、自分が志望する行政組織について、随時、ホームページを見て、どのような行政課題があるのか、どのような政策が展開されているのか、を適宜チェックしておいてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 新傾向の公務員試験対策として、論文試験と面接に対応するためにどのように授業を進行させるかについて説明します。 また、授業終了後、Learning Portal を通じて、受講生全員を対象に志望先のアンケートを実施します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。また、Learning Portal を通じてアンケートを回答してください。	2 時間
第2回	対面	論文対策①： 論文試験で、論述をどう展開していくかのポイントについて解説し、ディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	5 時間
第3回	対面	論文対策②： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第4回	対面	論文対策③： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第5回	対面	論文対策④： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第6回	対面	論文対策⑤： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第7回	対面	論文対策⑥： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第8回	対面	論文対策⑦： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それ	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことな	4 時間

		に基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	どを整理してください。	
第9回	対面	論文対策⑧： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第10回	対面	論文対策⑨： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第11回	対面	面接対策①： 担当教員が面接官となって、行政課題に関する模擬面接を行います。	【復習】模擬面接で問われたことで、知識・情報が不十分だったこと、わからなかったことについては調べておいてください。言い方で見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第12回	対面	面接対策②： 担当教員が面接官となって、行政課題に関する模擬面接を行います。	【復習】模擬面接で問われたことで、知識・情報が不十分だったこと、わからなかったことについては調べておいてください。言い方で見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第13回	対面	面接対策③： 担当教員が面接官となって、自身に関する模擬面接を行います。	【復習】模擬面接で問われたことで、言い方を見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第14回	対面	面接対策④： これまでの模擬面接について、担当教員がコメントや助言、留意点、必要な知識・情報の解説をします。それに基づいて、各自が自分の受け答え内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	秋学期のまとめ 秋学期を振り返り、自身の課題をチェックしてもらいます。	【復習】秋学期を振り返り、自身の課題とその改善に向けた考え方を整理して期末レポートを提出してください。 なお、春休み中の時間も利用して、自分が志望する行政組織について、どのような行政課題があるか、どのような政策が展開されているかをホームページから調べて、それに対する自分の意見を文章にまとめるトレーニングをしておきましょう。	5 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A		開講年度	2025
担当者	嶋田 裕光		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	目指す行政職公務員の職種理解、行政課題の理解、実践的な試験（面接・集団討論）対策			
授業の目的及び概要	公務員試験に向けて、公務員志望者として知っておくべき最新の主要な行政課題や時事問題に関する知識を学んでもらうとともに、公務員試験の直前対策として重要な集団面接・集団討論の実践を徹底して繰り返し、どのようなテーマが問われても、根拠で裏付けつつ説得的な主張をできるようにトレーニングを重ねてもらいます（試験の本番では、発言や討論した経験の積み重ねがモノを言います）。 公務員の仕事は、自分と異なる立場の人たちと対話し、そこから、よりよい結論を調整を重ねながら見つけ出す作業です。だから、こうした討論能力の養成は、公務員として仕事をしていく「底力」となり、将来の仕事にも直接役立ちます。 この演習を通じて必要な準備に着実な取り組みを行うことで、本試験には自信と気持ちの余裕を持って臨めるようにしてもらいます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①公務員試験の集団面接・集団討論に向けて、必要な準備と対策を行い、公務員試験に合格できる討論能力に達する。 ②行政課題や時事問題に関する知識や情報を把握し、自分なりの考え方を持てる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	発言や報告の内容に対し、授業内でコメントやアドバイスをします（必要に応じて授業外でも）。 期末レポートなどの課題に対しては、コメントを付けて戻します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。			
テキスト	指定しません。 適宜、必要に応じて、担当教員が資料を配布します。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし	
参考書	公務就職支援室配布の「公務就職ナビブック」	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講に	公務員になりたいというモチベーションを維持しながら、目標をともにする人たちが互いに励まし合い、高め合っていくことで、望む結果を獲得していきましょう。			

あたって	担当教員は、長年国家公務員としての勤務経験があるので、公務員の仕事の現場の実態とやりがいを伝えることができます。受講者の公務員志望のモチベーションを維持し、さらに高めていくことに貢献したいと思います。 毎日、テレビニュースを見たり、新聞記事を読んで、時事問題や行政の動き、様々な行政課題について、積極的に情報収集を行ってください。詳しい情報は役所のホームページに資料等が掲載されていることが多いので、アクセスしてよく見ておいてください。情報収集のアンテナをできるだけ広げておくことが大切です。気になった時事問題や行政課題等で、うまく調べられないときは、遠慮せずに担当教員に尋ねてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、演習の内容・進め方、情報の集め方、公務員試験の受験先と試験日のアンケート	【予習】シラバスや「公務就職ナビブック」を事前に目を通しておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。授業終了後、Learning Portal を通じて、受講生全員が公務員試験の受験先と試験日のアンケートに回答してください。	4 時間
第2回	対面	公務員の職種理解 公務員制度、公務員の仕事・意義・やりがいの解説	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第3回	対面	最近の時事問題研究① 今年の公務員試験の論文や討論で出題されそうな政策分野の解説	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第4回	対面	最近の時事問題研究② 今年の公務員試験の論文や討論で出題されそうな政策分野の解説	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第5回	対面	面接・集団討論対策① 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第6回	対面	面接・集団討論対策② 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第7回	対面	面接・集団討論対策③ 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第8回	対面	面接・集団討論対策④ 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第9回	対面	面接・集団討論対策⑤ 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第10回	対面	面接・集団討論対策⑥ 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第11回	対面	面接・集団討論対策⑦ 教員からテーマに関する情報提供、そのテーマについての集団面接・集団討論の実践	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことな	4 時間

			どを整理してください。	
第12回	対面	個別の志望先に対する受験対策① 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4時間
第13回	対面	個別の志望先に対する受験対策② 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4時間
第14回	対面	個別の志望先に対する受験対策③ 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ 春学期全体の振り返り、自身の課題と今後すべきことのチェック	【復習】春学期を振り返っての自身の課題、今後の就職活動や公務員試験に向けてすべきことについて整理し、期末レポートを提出してください。	4時間

科目名	海外インターンシップ		開講年度	2025
担当者	米山 秀隆		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	東南アジアやオーストラリアでの就業体験を通じ、異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。			
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、東南アジア、オーストラリアにある日系企業等での就業体験するプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外の日系企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、英語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	実習中に作成する日誌は、提出後、担当者から返却する。返却した日誌を元に自身を振り返って、次の実習に活かすこと。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	20		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの英語コミュニケーション能力が必要。そのため、研修前か研修後の TOIEC®受験（IP も可）を必須とする。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが			

厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておく。そのた

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第2回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人としての基本的な部分を事前に準備しておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第3回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第4回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第5回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第6回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第7回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第8回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第9回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑤（5日目）	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度）	1時間

		海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	
第10回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥(6日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第11回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦(7日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第12回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧(8日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第13回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨(9日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第14回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩(10日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度)	1時間
第15回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学習として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度) 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。(30分程度)	1時間

科目名	経営管理論 I	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。		
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業がどのような構造を持っているのか、企業とはどのようなものかや経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、こういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①経営管理論, 上野 恭裕・馬場 大治 編著, 中央経済社, 2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	①9784502190612
参考書	井原久光, 経営学入門キーコンセプト, ミネルヴァ書房, 2013 年	ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。		

- ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。
④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5時間
第2回	対面	第2回：企業を起業する！！でも会社と個人商店は何が違うのか 現在は、誰でも簡単に起業することが出来ます。しかし、起業した企業が「会社」と呼ばれるには、様々なしくみが必要です。日本で会社と呼ばれるにはどのようなしくみが必要なのか学びましょう。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：日本的経営、株式会社、有限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第3回	対面	第3回：どうやってお金を集めるのか？株主からの投資と銀行からの借金の違い 会社の形を整え、事業を始めようとする際、自分のお金だけでは不足します。投資を募りましょう。その際、どこからお金を調達したらよいのでしょうか？日本企業の資金調達方法の特徴や仕組みについて学びます。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第4回	対面	第4回：人を雇って、給料をきめよう 起業をして事業の元手となる資金を集めたら、それを活用する人材を集めないといけません。その際、どんな給料体系にしたら良いのでしょうか？様々な人事制度の特徴について学びます。 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJTとOFFJT(64)、日本的経営(67)” キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第5回	対面	中間テスト① 第1回から第4回の授業内容についての中間テストを行います。	【事前学習】第1回～第4回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】テスト内容、参考書、授業資料を参考に復習すること。	4時間
第6回	対面	第6回：製品を作ろう！！だが、その前に 行う事業が決まり、ヒトも雇ったら、いよいよ事業を展開していきましょう。製品の生産です。しかし、生産のやり方にはそれぞれ特徴があります。それらの違いについて	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。	4時間

		て学びましょう。 生産管理の基本 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産	【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第7回	対面	第7回：製品を作ろう！！大量生産するには① フォードシステム 製品はたくさん作れば良いというわけではありませし、たくさん作るためには、さまざまな工夫が必要です。今まで行われた大量生産のやり方を学び、大量生産にはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォーディズム(75) キーワード：フォードシステム、フォーディズム、オートメーション（自動化）	【事前学習】教科書第14章(pp. 221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第8回	対面	第8回：製品を作ろう！！大量生産するには② トヨタ生産方式 トヨタ生産方式は、大量生産をしながらたくさんの品種展開にも対応するというフォードシステムを発展させたものでした。それがどのようなものかを学び、これを実行するにはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：フォードシステムとフォーディズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード：デトロイト方式、かんぱん方式、JIT、QC 活動	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第9回	対面	中間テスト②前のまとめ 日本企業の財務・人材・生産管理の特徴(第2回～第8回の内容)について復習します。	【事前学習】第1回～第8回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第10回	対面	中間テスト② 第1回～第8回の内容についてのテストを行います。	【事前学習】第1回～第8回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第11回	対面	第11回：従業員がサボらないようにするためにはどうしたらいいのか？理論から学ぶ経営管理① 企業を経営する際、「ヒト（従業員）をやる気にさせるにはどうすればいいのか？」ということは大きな問題です。経営管理でも大きなテーマです。そのベースとなる理論を学び、今まで学んだことにどのように反映されているかを学びます。 科学的管理法と人間関係論（伝統的管理論） 参考書対応項目：科学的管理法(40)、人間関係論(42)	【事前学習】教科書第3章(pp. 49-p. 56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間

		キーワード:科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論		
第12回	対面	第12回:仕事とプライベートは別物かー緒なのか?理論から学ぶ経営管理② 近代的管理論 仕事とプライベートを両立するべきか否か。日本企業でも働き方に対する考え方が変化してきました。働き方に関する考え方の変化を近代的管理論を通して学びます。 キーワード:自律型人材モデル、協働、共通(組織)目的、協働意思(貢献意欲)	【事前学習】教科書第4章(pp. 60-p. 69)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第13回	対面	第13回:周りの状況によってやり方も変えないといけない?理論から学ぶ経営管理③ コンティンジェンシー理論 状況によってうまくいったり、うまくいかなかったり…。変化にすばやく対応することも企業経営をうまくやるコツの一つです。コンティンジェンシー理論の学修を通して、環境適応の功罪を学びます。 参考書対応項目:コンティンジェンシー理論(56) キーワード:コンティンジェンシー理論、組織構造、分権化、集権化	【事前学習】教科書第9章(pp. 142-146, pp. 150-152)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	対面	第11~13回のまとめ 第10回から第13回の授業内容についてまとめを行います。	【事前学習】11回~13回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5時間

科目名	経営管理論 I	開講年度	2025
担当者	垣谷 幸介	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。		
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業がどのような構造を持っているのか、企業とはどのようなものかや経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、こういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①経営管理論, 上野 恭裕・馬場 大治 編著, 中央経済社, 2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	①9784502190612
参考書	井原久光, 経営学入門キーコンセプト, ミネルヴァ書房, 2013 年	ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。		

- ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。
- ④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5時間
第2回	対面	第2回：企業を起業する！！でも会社と個人商店は何が違うのか 現在は、誰でも簡単に起業することが出来ます。しかし、起業した企業が「会社」と呼ばれるには、様々なしくみが必要です。日本で会社と呼ばれるにはどのようなしくみが必要なのか学びましょう。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：日本的経営、株式会社、有限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第3回	対面	第3回：どうやってお金を集めるのか？株主からの投資と銀行からの借金の違い 会社の形を整え、事業を始めようとする際、自分のお金だけでは不足します。投資を募りましょう。その際、どこからお金を調達したらよいのでしょうか？日本企業の資金調達方法の特徴や仕組みについて学びます。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第4回	対面	第4回：人を雇って、給料をきめよう 起業をして事業の元手となる資金を集めたら、それを活用する人材を集めないといけません。その際、どんな給料体系にしたら良いのでしょうか？様々な人事制度の特徴について学びます。 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJTとOFFJT(64)、日本的経営(67)” キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第5回	対面	中間テスト① 第1回から第4回の授業内容についての中間テストを行います。	【事前学習】第1回～第4回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】テスト内容、参考書、授業資料を参考に復習すること。	4時間
第6回	対面	第6回：製品を作ろう！！だが、その前に 行う事業が決まり、ヒトも雇ったら、いよいよ事業を展開していきましょう。製品の生産です。しかし、生産のやり方にはそれぞれ特徴があります。それらの違いについて	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。	4時間

		て学びましょう。 生産管理の基本 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産	【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第7回	対面	第7回：製品を作ろう！！大量生産するには① フォードシステム 製品はたくさん作れば良いというわけではありませし、たくさん作るためには、さまざまな工夫が必要です。今まで行われた大量生産のやり方を学び、大量生産にはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォーディズム(75) キーワード：フォードシステム、フォーディズム、オートメーション（自動化）	【事前学習】教科書第14章(pp. 221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第8回	対面	第8回：製品を作ろう！！大量生産するには② トヨタ生産方式 トヨタ生産方式は、大量生産をしながらたくさんの品種展開にも対応するというフォードシステムを発展させたものでした。それがどのようなものかを学び、これを実行するにはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：フォードシステムとフォーディズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード：デトロイト方式、かんぱん方式、JIT、QC活動	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第9回	対面	中間テスト②前のまとめ 日本企業の財務・人材・生産管理の特徴(第2回～第8回の内容)について復習します。	【事前学習】第1回～第8回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第10回	対面	中間テスト② 第1回～第8回の内容についてのテストを行います。	【事前学習】第1回～第8回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第11回	対面	第11回：従業員がサボらないようにするためにはどうしたらいいのか？理論から学ぶ経営管理① 企業を経営する際、「ヒト（従業員）をやる気にさせるにはどうすればいいのか？」ということは大きな問題です。経営管理でも大きなテーマです。そのベースとなる理論を学び、今まで学んだことにどのように反映されているかを学びます。 科学的管理法と人間関係論（伝統的管理論） 参考書対応項目：科学的管理法(40)、人間関係論(42)	【事前学習】教科書第3章(pp. 49-p. 56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間

		キーワード:科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論		
第12回	対面	第12回:仕事とプライベートは別物かー緒なのか?理論から学ぶ経営管理② 近代的管理論 仕事とプライベートを両立するべきか否か。日本企業でも働き方に対する考え方が変化してきました。働き方に関する考え方の変化を近代的管理論を通して学びます。 キーワード:自律型人材モデル、協働、共通(組織)目的、協働意思(貢献意欲)	【事前学習】教科書第4章(pp. 60-p. 69)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第13回	対面	第13回:周りの状況によってやり方も変えないといけない?理論から学ぶ経営管理③ コンティンジェンシー理論 状況によってうまくいったり、うまくいかなかったり…。変化にすばやく対応することも企業経営をうまくやるコツの一つです。コンティンジェンシー理論の学修を通して、環境適応の功罪を学びます。 参考書対応項目:コンティンジェンシー理論(56) キーワード:コンティンジェンシー理論、組織構造、分権化、集権化	【事前学習】教科書第9章(pp. 142-146, pp. 150-152)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	対面	第11~13回のまとめ 第10回から第13回の授業内容についてまとめを行います。	【事前学習】11回~13回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5時間

科目名	経営管理論 I	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。		
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業がどのような構造を持っているのか、企業とはどのようなものかや経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、こういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	上野 恭裕・馬場 大治 編著、『経営管理論』中央経済社、2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	9784502190612
参考書	井原久光編著、経営学入門キーコンセプト、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。		

- ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。
④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント 小テストあり	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5時間
第2回	オンデマンド	第2回：企業を起業する！！でも会社と個人商店は何が違うのか 現在は、誰でも簡単に起業することが出来ます。しかし、起業した企業が「会社」と呼ばれるには、様々なしくみが必要です。日本で会社と呼ばれるにはどのようなしくみが必要なのか学びましょう。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：日本的経営、株式会社、有限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い 小テストあり	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第3回	オンデマンド	第3回：どうやってお金を集めるのか？株主からの投資と銀行からの借金の違い 会社の形を整え、事業を始めようとする際、自分のお金だけでは不足します。投資を募りましょう。その際、どこからお金を調達したらよいのでしょうか？日本企業の資金調達方法の特徴や仕組みについて学びます。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制 小テストあり	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第4回	オンデマンド	第4回：人を雇って、給料をきめよう 起業をして事業の元手となる資金を集めたら、それを活用する人材を集めないといけません。その際、どんな給料体系にしたら良いのでしょうか？様々な人事制度の特徴について学びます。 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJTとOFFJT(64)、日本的経営(67) キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT 小テストあり	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第5回	オンデマンド	中間レポート① 第1回から第4回の授業内容について復習の上、中間レポートを課します。	【事前学習】第1回～第4回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】テスト内容、参考書、授業資料を参考に復習すること。	4時間
第6回	オンデマンド	第6回：製品を作ろう！！だが、その前に行う事業が決まり、ヒトも雇ったら、いよ	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べる。	4時間

		いよ事業を展開していきましょう。製品の生産です。しかし、生産のやり方にはそれぞれ特徴があります。それらの違いについて学びましょう。 生産管理の基本 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産 小テストあり	また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第7回	オンデマンド	第7回：製品を作ろう！！大量生産するには① フォードシステム 製品はたくさん作れば良いというわけではありませんし、たくさん作るためには、さまざまな工夫が必要です。今まで行われた大量生産のやり方を学び、大量生産にはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォーディズム(75) キーワード：フォードシステム、フォーディズム、オートメーション（自動化） 小テストあり	【事前学習】教科書第14章(pp.221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第8回	オンデマンド	第8回：製品を作ろう！！大量生産するには② トヨタ生産方式 トヨタ生産方式は、大量生産をしながらたくさんの品種展開にも対応するというフォードシステムを発展させたものでした。それがどのようなものかを学び、これを実行するにはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：フォードシステムとフォーディズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード：デトロイト方式、かんぱん方式、JIT、QC活動 小テストあり	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第9回	オンデマンド	日本企業の財務・人材・生産管理の特徴(第2回～第8回の内容)について復習します。 小テストあり。	【事前学習】第1回～第8回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第10回	オンデマンド	中間レポート② 第1回～第8回の内容について復習の上、レポート提出を課します。	【事前学習】第1回～第8回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第11回	オンデマンド	第11回：従業員がサボらないようにするためにはどうしたらいいのか？理論から学ぶ経営管理① 企業を経営する際、「ヒト（従業員）をやる気にさせるにはどうすればいいのか？」ということは大きな問題です。経営管理でも大きなテーマです。そのベースとなる理	【事前学習】教科書第3章(pp.49-p.56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、	4時間

		論を学び、今まで学んだことにどのように反映されているかを学びます。 科学的管理法と人間関係論（伝統的管理論） 参考書対応項目：科学的管理法(40)、人間関係論(42) キーワード：科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論 小テストあり。	講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第12回	オンデマンド	第12回：仕事とプライベートは別物か？一緒なのか？理論から学ぶ経営管理② 近代的管理論 仕事とプライベートを両立するべきか否か。日本企業でも働き方に対する考え方が変化してきました。働き方に関する考え方の変化を近代的管理論を通して学びます。 キーワード：自律型人材モデル、協働、共通（組織）目的、協働意思（貢献意欲） 小テストあり。	【事前学習】教科書第4章(pp. 60-p. 69)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第13回	オンデマンド	第13回：周りの状況によってやり方も変えないといけない？理論から学ぶ経営管理③ コンティンジェンシー理論 状況によってうまくいったり、うまくいかなかったり…。変化にすばやく対応することも企業経営をうまくやるコツの一つです。コンティンジェンシー理論の学修を通して、環境適応の功罪を学びます。 参考書対応項目：コンティンジェンシー理論(56) キーワード：コンティンジェンシー理論、組織構造、分権化、集権化 小テストあり。	【事前学習】教科書第9章(pp. 142-146, pp. 150-152)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	オンデマンド	第11～13回のまとめ 第10回から第13回の授業内容についてまとめを行います。 小テストあり。	【事前学習】11回～13回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5時間

科目名	経営管理論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	垣谷 幸介	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する所論の歴史的発展経緯を辿り、他の領域との関連性を学びます。		
授業の目的及び概要	この科目では、まず「経営管理論Ⅰ」で学修した日本の経営の基になる経営の源流に遡り、経営管理の生成と発展の足跡をたどり、関連する諸理論はどのような背景や事情のもとで生まれてきたのかを学修する。また、生き物としての組織をより成長、活性化させるための理論を学び、経営管理とはどのような機能を果たし、その機能はどのように変化してきたのかについて理解を深めます。それらのことを通して、経営管理と戦略、組織との関連性について理解し、企業経営の全体像を掴むことを学修の目的とします。 この科目の内容は、「経営管理論Ⅰ」で学んだ内容の理論的側面の理解を深めることを目的とし、「経営管理論Ⅰ」と併せて学修することで、経営管理全体の理解をより深めることができます。また、経営戦略論や経営組織論と関連する経営学を学修するための基本的な科目です。		
履修条件・留意点	この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後にⅡを履修してください。よって、経営管理論Ⅰの教科書も使用いたします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代の企業経営の基礎となる伝統的管理論や人間関係論、近代的管理論などの経営管理論に関する代表的な理論の特徴とその意義と限界について説明できる。 ②経営管理理論に関する代表的な理論がどのような経緯を辿り、どのような企業の発展を経て成立してきたかを過去の代表的な事例を踏まえながら理解し、説明できる。 ③経営管理論の一部としてのリーダーシップ論、モチベーション論、組織文化論、そして経営理念や企業目標などを理解し、企業経営への経営管理の影響について理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの受講生からの質問や代表的な意見をいくつかとりあげて紹介し、それに対する私の意見を述べます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	経営学入門キーコンセプト，井原久光編，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	9784623064410
参考書	経営管理論，上野 恭裕・馬場 大治編，中央経済社，2016 年	ISBN	9784502190612
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	この経営管理論Ⅱでは、経営管理理論の歴史的発展経緯をメインに説明します。経営組織論や管理モデルについての基礎知識を歴史的経緯と共に習得したいと考えている受講生さん向けの		

あたって	科目です。ただし、この科目では、経営組織論や経営戦略論と管理モデルの相互関連にも注意して講義していきます。履修にあたっては、専門用語や断片的知識をただ集積するのではなく、講義やプリントがどのような話の流れ(論理)で進んでいるのか、話と話のつながりにつねに留意することが大切です。経営管理論Ⅰの内容を踏まえた構成となりますので、履修にあたり、経営管理論Ⅰを前もって復習することをおすすめします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業全体の進め方と経営管理論Ⅰとの関連を説明します。	【事前学習】 シラバスを確認し、日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 シラバスを確認し復習すること。	3時間
第2回	対面	【組織管理と経営管理】 組織がうまく動けば、企業は、必ず成功するのでしょうか。そこには、成果があがることと組織がうまく動くことの二つの問題が存在します。企業の経営において直面するこの二つの問題について説明し、経営管理と組織管理は、それらとどのような関連があるかを学びます。 キーワード：集団と組織、経営管理、組織管理	【事前学修】 組織管理とは何かを調べ、経営管理との違いを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営管理論Ⅰで扱った経営戦略と経営管理との関連との違いを確認すること。	4時間
第3回	対面	【科学的管理法】 経営管理はどのように形成されていったのでしょうか。その始まりとされる科学的管理法の歴史的背景、経営管理論の源流とされる理由、その体系性、当時の社会への影響等について解説し、伝統的管理論の特徴について学びます。「経営管理論」の第3章を理解します。 キーワード：成行管理、組織的怠業、科学的管理法、課業管理、動作研究、計画部、職能別組織、経済人モデル	【事前学習】 F.W. テイラーの科学的管理法について調べ、それが生み出された背景を確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 科学的管理法が必要とされたあるいは必要だと思われるのはなぜか、講義内容・ノートを確認して復習してください。	4時間
第4回	対面	【管理原則と管理過程論】 科学的管理法を契機に多くの経営管理の理論が生み出されました。その中には、現代の企業経営にも強く影響を及ぼしているものもあります。伝統的管理論が契機となって生まれてきた多様な管理職能論について解説し、それらの吟味と帰結について考察します。 出来高給から職務給までの歴史的発展の論理について解説し、伝統的管理論の基本的考え方について考察します。「経営管理論」の第1章第2項をへの理解を深めます。 キーワード：管理原則、マネジメントサイクル	【事前学習】 アンリ・ファヨールの管理原則論を調べ、科学的管理法からどのように発展したかを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 出来高給と職務給の違いについて説明できるか、マネジメントサイクルについて講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第5回	対面	【フォードとGM】 伝統的管理論は当時、最新の理論でした。そして、企業はその理論を積極的に取り入れていました。その結果、どのようなことが起きたのでしょうか。伝統的管理論の特徴を色濃く反映する2つの現代的な管理への応用（ケース）について解説し、考察	【事前学習】 伝統的管理論を企業経営に取り入れ、より実践的に修正するとしたらどのようなことになるか検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ケースでとりあげた二社の違いを講義内容・ノート	4時間

		します。 キーワード：移動組み立て方式、奉仕動機、分権組織、フルライン戦略	を参照して復習してください。	
第6回	対面	【ホーソン実験と人間関係論学派】 伝統的管理論の検証実験に失敗したホーソン実験と新たに提起された人間関係モデルについて解説し、このモデルの意義について考察します。「経営管理論」の第3章第2項をへの理解を深めます。 キーワード：社会人モデル、人間関係、動機づけ、非公式組織	【事前学習】 伝統的管理論の内容を確認し、その問題点を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ホーソン実験はどのような実験なのかを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第7回	対面	【第1回～6回までのまとめ】	【事前学習】 1回～6回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	対面	【中間試験】	【事前学習】 第1回～第6回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】 講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第9回	対面	【近代的組織管理論と経営人モデル】 従業員の動機付けと組織の管理を両立させるにはどうしたら良いか。その論理を提案したのが近代的組織管理論です。ここで示されたモデルは、今現在でも非常に大きな影響力を持っています。それについて説明し、組織と個人の管理について考えます。「経営管理論」第4章への理解を深めます。 キーワード：誘因、貢献意欲、個人目標、組織目標、コミュニケーション、自律型モデル、有効性、効率性	【事前学習】 人間関係論と伝統的組織管理論を統合する方法を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 C. I. バーナードの誘因－貢献モデルや H. A. サイモンの経営人モデルについてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第10回	対面	【動機づけとリーダーシップ】 動機付けの具体的な方法として、組織学習や欲求仮説が考え出されました。それらの内容について説明し、学習効果や動機付けについて考えます。「経営管理論」第5章と第6章への理解を深めます。 キーワード：X理論、Y理論、衛生要因、期待要因、ダブルループ学習、アンラーニング	【事前学習】 どのようなことがあれば意欲が湧くかそして、新しいことの学習を人に促すにはどうしたら良いかそれを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 マクレガーやハーズバーグ、アージリスなどの諸論についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第11回	対面	【経営理念と企業目標】 企業が巨大化、複雑化するにつれ、管理だけではなく戦略が必要だといわれるようになってきました。 経営管理のためになぜ経営戦略が必要なのでしょう？それについて学習します。 「経営管理論」第10章への理解を深めます。 キーワード：経営戦略、全社戦略、経営理念、意思決定、乱気流的環境、経営理念、	【事前学習】 組織が大きく、複雑になった際、どうやって管理していけばよいかを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営戦略についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間

		企業目標		
第12回	対面	【経営管理論から経営戦略論へ】 「経営戦略の父」と呼ばれたアンゾフ以降、経営戦略論が展開されていきました。戦略論として、戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リソース・ベースド・ビュー、ゲーム理論アプローチの歴史的な流れを理解しながら、どのように発展していったのか、理解します。前半部分は、「経営管理論」の第11章への理解を深めます。	【事前学習】 経営学基礎や経営戦略論で学んだ企業戦略（全社戦略）や競争戦略（事業戦略）について、復習して下さい。 【事後学修】 なぜ様々な戦略論展開されてきたのか、その関係についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第13回	対面	【生産管理の基本と経営管理の理論①】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。特に、デトロイト生産方式と比較しながら、トヨタ生産方式を学びます。キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーディズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	対面	【生産管理の基本と経営管理の理論②】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。トヨタ生産方式の歴史的経緯を振り返りながら、その課題を学びます。キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーディズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【総括(オンデマンド)】 授業全体の総括とまとめを行います。各回のポイントと要点をおさらいします。これまでの授業資料を参照しながら、動画を視聴し、自分のノートをまとめてください。	【事前学習】 これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】 授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	5時間

科目名	経営管理論Ⅱ		開講年度	2025
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	経営管理に関する所論の歴史的発展経緯を辿り、他の領域との関連性を学びます。			
授業の目的及び概要	この科目では、まず「経営管理論Ⅰ」で学修した日本的経営の基になる経営の源流に遡り、経営管理の生成と発展の足跡をたどり、関連する諸理論はどのような背景や事情のもとで生まれてきたのかを学修する。また、生き物としての組織をより成長、活性化させるための理論を学び、経営管理とはどのような機能を果たし、その機能はどのように変化してきたのかについて理解を深めます。それらのことを通して、経営管理と戦略、組織との関連性について理解し、企業経営の全体像を掴むことを学修の目的とします。 この科目の内容は、「経営管理論Ⅰ」で学んだ内容の理論的側面の理解を深めることを目的とし、「経営管理論Ⅰ」と併せて学修することで、経営管理全体の理解をより深めることができます。また、経営戦略論や経営組織論と関連する経営学を学修するための基本的な科目です。			
履修条件・留意点	この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後にⅡを履修してください。よって、経営管理論Ⅰの教科書も使用いたします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①現代の企業経営の基礎となる伝統的管理論や人間関係論、近代的管理論などの経営管理論に関する代表的な理論の特徴とその意義と限界について説明できる。 ②経営管理理論に関する代表的な理論がどのような経緯を辿り、どのような企業の発展を経て成立してきたかを過去の代表的な事例を踏まえながら理解し、説明できる。 ③経営管理論の一部としてのリーダーシップ論、モチベーション論、組織文化論、そして経営理念や企業目標などを理解し、企業経営への経営管理の影響について理解できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	LP のアンケート機能を活用しながら、受講生の意見に対し、フィードバックいたします。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	経営管理論，上野 恭裕・馬場 大治編，中央経済社，2016 年		ISBN	9784502190612
参考書	経営学入門キーコンセプト，井原久光編著，ミネルヴァ書房，2013 年		ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		60	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この経営管理論Ⅱでは、経営管理理論の歴史的発展経緯をメインに説明します。経営組織論や管理モデルについての基礎知識を歴史的経緯と共に習得したいと考えている受講生さん向けの科目です。ただし、この科目では、経営組織論や経営戦略論と管理モデルの相互関連にも注意			

	して講義していきます。履修にあたっては、専門用語や断片的知識をただ集積するのではなく、講義やプリントがどのような話の流れ(論理)で進んでいるのか、話と話のつながりにつねに留意することが大切です。経営管理論Ⅰの内容を踏まえた構成となりますので、履修にあたり、経営管理論Ⅰを前もって復習することをおすすめします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【ガイダンス】 授業全体の進め方と経営管理論Ⅰとの関連を説明します。 小テストあり。	【事前学習】 シラバスを確認し、日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 シラバスを確認し復習すること。	3 時間
第2回	オンデマンド	【組織管理と経営管理】 組織がうまく動けば、企業は、必ず成功するのでしょうか。そこには、成果があがることと組織がうまく動くことの二つの問題が存在します。企業の経営において直面するこの二つの問題について説明し、経営管理と組織管理は、それらとどのような関連があるかを学びます。 キーワード：集団と組織、経営管理、組織管理 小テストあり。	【事前学修】 組織管理とは何かを調べ、経営管理との違いを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営管理論Ⅰで扱った経営戦略と経営管理との関連との違いを確認すること。	4 時間
第3回	オンデマンド	【科学的管理法】 経営管理はどのように形成されていったのでしょうか。その始まりとされる科学的管理法の歴史的背景、経営管理論の源流とされる理由、その体系性、当時の社会への影響等について解説し、伝統的管理論の特徴について学びます。「経営管理論」の第3章を理解します。 キーワード：成行管理、組織的怠業、科学的管理法、課業管理、動作研究、計画部、職能別組織、経済人モデル 小テストあり。	【事前学習】 F. W. テイラーの科学的管理法について調べ、それが生み出された背景を確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 科学的管理法が必要とされたあるいは必要だと思われるのはなぜか、講義内容・ノートを確認して復習してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	【管理原則と管理過程論】 科学的管理法を契機に多くの経営管理の理論が生み出されました。その中には、現代の企業経営にも強く影響を及ぼしているものもあります。伝統的管理論が契機となって生まれてきた多様な管理職能論について解説し、それらの吟味と帰結について考察します。 出来高給から職務給までの歴史的発展の論理について解説し、伝統的管理論の基本的考え方について考察します。「経営管理論」の第1章第2項をへの理解を深めます。 キーワード：管理原則、マネジメントサイクル 小テストあり。	【事前学習】 アンリ・ファヨールの管理原則論を調べ、科学的管理法からどのように発展したかを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 出来高給と職務給の違いについて説明できるか、マネジメントサイクルについて講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	【フォードとGM】 伝統的管理論は当時、最新の理論でした。そして、企業はその理論を積極的に取り入れていました。その結果、どのようなことが起きたのでしょうか。伝統的管理論の特	【事前学習】 伝統的管理論を企業経営に取り入れ、より実践的に修正するとしたらどのようなことになるか検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。	4 時間

		徴を色濃く反映する2つの現代的な管理への応用(ケース)について解説し、考察します。 キーワード:移動組み立て方式、奉仕動機、分権組織、フルライン戦略 小テストあり。	【事後学修】 ケースでとりあげた二社の違いを講義内容・ノート を参照して復習してください。	
第6回	オンデマンド	【ホーソン実験と人間関係論学派】 伝統的管理論の検証実験に失敗したホーソン実験と新たに提起された人間関係モデルについて解説し、このモデルの意義について考察します。「経営管理論」の第3章第2項への理解を深めます。 キーワード:社会人モデル、人間関係、動機づけ、非公式組織 小テストあり。	【事前学習】 伝統的管理論の内容を確認し、その問題点を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ホーソン実験はどのような実験なのかを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第7回	オンデマンド	【第1回～6回までのまとめ】 小テストあり。	【事前学習】 1回～6回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第8回	オンデマンド	第1回から第7回までを復習の上、そのことが自動車産業にどのような変化をもたらしたのかを、学びます。 【デトロイト方式とフォード/GMの覇権交代】 ・フォーディズムをベースとしたデトロイト生産方式は、どのような生産方式であるか理解する。 ・フォードは、なぜGMに覇権交代を許すのか、フォードとGMの共通点と相違点を整理し、GMの優位性を理解する。 【トヨタ生産方式】 世界一の販売台数を誇るGMは、なぜ1970-80年代、トヨタを筆頭とする日本メーカーに追い上げられることになるのかを理解する。 キーワード: フォーディズム、デトロイト生産方式、ライン生産(大ロット)、フルライン戦略、機能別組織と事業部制、組織は戦略に従う、 トヨタ生産方式(自動化とJIT)、多品種少量生産(混流生産) 小テストあり	【事前学習】 第1回～第7回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】 講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第9回	オンデマンド	【近代的組織管理論と経営人モデル】 従業員の動機付けと組織の管理を両立させるにはどうしたら良いか。その論理を提案したのが近代的組織管理論です。ここで示されたモデルは、今現在でも非常に大きな影響力を持っています。それについて説明し、組織と個人の管理について考えます。「経営管理論」第4章への理解を深めます。 キーワード: 誘因、貢献意欲、個人目標、	【事前学習】 人間関係論と伝統的組織管理論を統合する方法を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 C. I. バーナードの誘因-貢献モデルや H. A. サイモンの経営人モデルについてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間

		組織目標、コミュニケーション、自律型モデル、有効性、効率性 小テストあり		
第10回	オンデマンド	【動機づけとリーダーシップ】 動機付けの具体的な方法として、組織学習や欲求仮説が考え出されました。それらの内容について説明し、学習効果や動機付けについて考えます。「経営管理論」第5章と第6章への理解を深めます。 キーワード：X理論、Y理論、衛生要因、期待要因、ダブルループ学習、アンラーニング 小テストあり。	【事前学習】 どのようなことがあれば意欲が湧くかそして、新しいことの学習を人に促すにはどうしたら良いかそれを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 マクレガーやハーズバーグ、アージリスなどの諸論についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第11回	オンデマンド	【経営理念と企業目標】 企業が巨大化、複雑化するにつれ、管理だけではなく戦略が必要だといわれるようになってきました。 経営管理のためになぜ経営戦略が必要なのでしょう？それについて学習します。「経営管理論」第10章への理解を深めます。 キーワード：経営戦略、全社戦略、経営理念、意思決定、乱気流的環境、経営理念、企業目標 小テストあり	【事前学習】 組織が大きく、複雑になった際、どうやって管理していけばよいかを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営戦略についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第12回	オンデマンド	【経営管理論から経営戦略論へ】 「経営戦略の父」と呼ばれたアンゾフ以降、経営戦略論が展開されていきました。戦略論として、戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リソース・ベースト・ビュー、ゲーム理論アプローチの歴史的な流れを理解しながら、どのように発展していったのか、理解します。前半部分は、「経営管理論」の第11章への理解を深めます。 小テストあり。	【事前学習】 経営学基礎や経営戦略論で学んだ企業戦略（全社戦略）や競争戦略（事業戦略）について、復習して下さい。 【事後学修】 なぜ様々な戦略論展開されてきたのか、その関係性についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第13回	オンデマンド	【生産管理の基本と経営管理の理論①】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。特に、デトロイト生産方式と比較しながら、トヨタ生産方式を学びます。 キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーディズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT 小テストあり。	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	オンデマンド	【生産管理の基本と経営管理の理論②】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。トヨタ生産方式の歴史的経緯を振り返りながら、その課題を学びます。 キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーディズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間

		小テストあり。		
第15回	オンデマンド	【総括(オンデマンド)】 授業全体の総括とまとめを行います。 各回のポイントと要点をおさらいします。 これまでの授業資料を参照しながら、動画を視聴し、自分のノートをまとめてください。	【事前学習】 これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】 授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	5 時間

科目名	マーケティング基礎（経営）／マーケティング概論（経済）	開講年度	2025
担当者	范 沈俐	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能から基本的なフレームワークを理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能の点から学修する。主に、マーケティング基本概念である STP(Segmentation、Targeting、 Positioning)やマーケティングの 4P(Product、Price、Place、 Promotion)等の専門用語に関する理解と解説ができるように、マネジメントの観点から考察する。また、マーケティング戦略コースの要となるものであり、各論であるマーケティングマネジメント関連の講義（マーケティング戦略論Ⅰ）において理解を深めることができるよう、重要な用語についての理解を深めるように講義を進める。主要なマーケティングの考え方を理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる基礎力をつけることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングの考え方や基本的フレーム（4 P・STP）を理解し、記述できる。 2. マーケティング・マネジメントの基本的な各要素（製品・流通・価格・販促）や顧客との関係性、ブランドなどに関する基本的な概念・基本知識を理解し、記述できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からのマーケティング（第4版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年、碩学舎、2019 年	ISBN	9784502327711
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業を取り巻く環境が著しく変化するなか、企業経営においてマーケティングの重要性は増し、マーケティング志向に基づく判断力を身につけることが求められています。日常よりニュースや新聞などで報じられる企業のマーケティング活動に関心を持ち、ビジネス事例を通じて、自分なりのマーケティングの考え方を持つよう心がけることを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・（マーケティング発想の経営） 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 マーケティングの考え方について学びます。 【キーワード】 マーケティング発想、マーケティング近視眼、ニーズ、価値、顧客満足（教科書1章）	事前学修：教科書の第1章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	マーケティング論の成り立ち マーケティング論の特徴、発展について学びます。 【キーワード】 マーケティング論、生産者、使用者、コミュニケーション（教科書2章）	事前学修：教科書の第2章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	マーケティングの基本概念 STPを中心に統合されたマーケティング活動について学びます。 【キーワード】 STP、4P（各項目含む）、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（教科書3章）	事前学修：教科書の第3章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	マーケティング 4P（製品のマネジメント） 製品マネジメントにおける製品戦略の概要やそのステップについて解説します。 【キーワード】 製品戦略、市場機会、製品コンセプト、製品ライフサイクル（教科書4章）	事前学修：教科書の第4章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	★中間試験Ⅰ（講義中に実施） 第1回から4回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から4回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で学修した用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験1のふりかえりをしておくこと。	4時間
第6回	対面	マーケティング 4P（価格のマネジメント） 製品やサービスの価格設定の基本的な考え方を講義します。価格設定における需要曲線、価格弾力性の概念や価格戦略について解説します。 【キーワード】 需要曲線、価格弾力性（仕組みも含む）、代替品、高付加価値（教科書5章）	事前学修：教科書の第5章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	マーケティング 4P（チャネルのマネジメント） チャネル別ブランド戦略、チャネルマネジメントにおける選択・管理について解説します。 【キーワード】 チャネル選択、チャネル管理、流通経路、販社制度、チェーンストア制度、オムニチャネル（教科書7章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	サプライチェーンのマネジメント 企業における在庫問題や SCM（サプライチェーン・マネジメント）の役割について解説します。 【キーワード】	事前学修：教科書の第8章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間

		在庫、鮮度、不良在庫、SCM (教科書8章)		
第9回	対面	営業のマネジメント ビジネス市場における企業組織が購入対象となる製品・サービスに対してニーズを確立し、複数のブランドや供給業者を特定し、評価し、その名から選択する意思決定プロセスにおいてキープレイヤーとなる営業について学びます。 【キーワード】 境界連結者、資源動員、ネットワーク、属人信頼、システム信頼 (教科書9章)	事前学修：教科書の第9章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	★中間試験2 (講義中に実施) 第1回から9回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から9回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で得た用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験2のふりかえりをしておくこと。	4 時間
第11回	対面	マーケティング4P (広告のマネジメント) 消費者ニーズの明確化、消費者対応、プロモーションミックス等について解説します。 【キーワード】 消費者対応、競争対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス (教科書6章)	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	顧客関係のマネジメント ユーザーとしての消費者との関係作りや顧客関係の構築と関係維持について解説します。 【キーワード】 ライトユーザー、ロイヤルカスタマー、関係性パラダイム、コミットメント、CRM (教科書10章)	事前学修：教科書の第10章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	ビジネスモデルと顧客理解のマネジメント 顧客理解のためのマーケティング・リサーチについて解説します。 【キーワード】 価値志向、ビジネスエコシステム、成長マトリックス、事業コンセプト (教科書11章) と市場調査2次データ、マーケティング・リサーチ、定性的調査、定量的調査、粘着性 (教科書12章)	事前学修：教科書の第11・12章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	ブランドのマネジメント ※テキスト2章分を1章に纏める ブランドの意味や機能及びブランド・エクイティの概念やブランド組織のマネジメントについて解説します。 【キーワード】 保証機能、識別機能、想起機能、ブランド認知、ブランド・パワー、ブランドエクイティ、ブランドマネージャー。(教科書13・14章)	事前学修：教科書の第13・14章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでに学修した内容について復習するとともに、それぞれがマーケティング発想におけるフレームのどの部分に位置づかかを説明します。	事前学修：これまでの学修内容を再度、確認しておくこと。 事後学修：教科書やノートにまとめた内容等を確認し、これまでに学修した部分を復習しておくこと。	6 時間

科目名	マーケティング基礎（経営）／マーケティング概論（経済）	開講年度	2025
担当者	仲川 直毅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能から基本的なフレームワークを理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能の点から学修する。主に、マーケティング基本概念である STP(Segmentation、Targeting、 Positioning)やマーケティングの 4P(Product、Price、Place、 Promotion)等の専門用語に関する理解と解説ができるように、マネジメントの観点から考察する。また、マーケティング戦略コースの要となるものであり、各論であるマーケティングマネジメント関連の講義（マーケティング戦略論Ⅰ）において理解を深めることができるよう、重要な用語についての理解を深めるように講義を進める。主要なマーケティングの考え方を理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる基礎力をつけることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングの考え方や基本的フレーム（4 P・STP）を理解し、記述できる。 2. マーケティング・マネジメントの基本的な各要素（製品・流通・価格・販促）や顧客との関係性、ブランドなどに関する基本的な概念・基本知識を理解し、記述できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からのマーケティング（第4版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年、碩学舎、2019 年	ISBN	9784502327711
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業を取り巻く環境が著しく変化するなか、企業経営においてマーケティングの重要性は増し、マーケティング志向に基づく判断力を身につけることが求められています。日常よりニュースや新聞などで報じられる企業のマーケティング活動に関心を持ち、ビジネス事例を通じて、自分なりのマーケティングの考え方を持つよう心がけることを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・（マーケティング発想の経営） 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 マーケティングの考え方について学びます。 【キーワード】 マーケティング発想、マーケティング近視眼、ニーズ、価値、顧客満足（教科書1章）	事前学修：教科書の第1章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	マーケティング論の成り立ち マーケティング論の特徴、発展について学びます。 【キーワード】 マーケティング論、生産者、使用者、コミュニケーション（教科書2章）	事前学修：教科書の第2章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	マーケティングの基本概念 STPを中心に統合されたマーケティング活動について学びます。 【キーワード】 STP、4P（各項目含む）、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（教科書3章）	事前学修：教科書の第3章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	マーケティング 4P（製品のマネジメント） 製品マネジメントにおける製品戦略の概要やそのステップについて解説します。 【キーワード】 製品戦略、市場機会、製品コンセプト、製品ライフサイクル（教科書4章）	事前学修：教科書の第4章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	★中間試験Ⅰ（講義中に実施） 第1回から4回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から4回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で学修した用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験1のふりかえりをしておくこと。	4時間
第6回	対面	マーケティング 4P（価格のマネジメント） 製品やサービスの価格設定の基本的な考え方を講義します。価格設定における需要曲線、価格弾力性の概念や価格戦略について解説します。 【キーワード】 需要曲線、価格弾力性（仕組みも含む）、代替品、高付加価値（教科書5章）	事前学修：教科書の第5章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	マーケティング 4P（チャネルのマネジメント） チャネル別ブランド戦略、チャネルマネジメントにおける選択・管理について解説します。 【キーワード】 チャネル選択、チャネル管理、流通経路、販社制度、チェーンストア制度、オムニチャネル（教科書7章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	サプライチェーンのマネジメント 企業における在庫問題や SCM（サプライチェーン・マネジメント）の役割について解説します。 【キーワード】	事前学修：教科書の第8章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間

		在庫、鮮度、不良在庫、SCM (教科書8章)		
第9回	対面	営業のマネジメント ビジネス市場における企業組織が購入対象となる製品・サービスに対してニーズを確立し、複数のブランドや供給業者を特定し、評価し、その名から選択する意思決定プロセスにおいてキープレイヤーとなる営業について学びます。 【キーワード】 境界連結者、資源動員、ネットワーク、属人信頼、システム信頼 (教科書9章)	事前学修：教科書の第9章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	★中間試験2 (講義中に実施) 第1回から9回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から9回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で得た用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験2のふりかえりをしておくこと。	4 時間
第11回	対面	マーケティング4P (広告のマネジメント) 消費者ニーズの明確化、消費者対応、プロモーションミックス等について解説します。 【キーワード】 消費者対応、競争対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス (教科書6章)	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	顧客関係のマネジメント ユーザーとしての消費者との関係作りや顧客関係の構築と関係維持について解説します。 【キーワード】 ライトユーザー、ロイヤルカスタマー、関係性パラダイム、コミットメント、CRM (教科書10章)	事前学修：教科書の第10章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	ビジネスモデルと顧客理解のマネジメント 顧客理解のためのマーケティング・リサーチについて解説します。 【キーワード】 価値志向、ビジネスエコシステム、成長マトリックス、事業コンセプト (教科書11章) と市場調査2次データ、マーケティング・リサーチ、定性的調査、定量的調査、粘着性 (教科書12章)	事前学修：教科書の第11・12章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	ブランドのマネジメント ※テキスト2章分を1章に纏める ブランドの意味や機能及びブランド・エクイティの概念やブランド組織のマネジメントについて解説します。 【キーワード】 保証機能、識別機能、想起機能、ブランド認知、ブランド・パワー、ブランドエクイティ、ブランドマネージャー。(教科書13・14章)	事前学修：教科書の第13・14章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでに学修した内容について復習するとともに、それぞれがマーケティング発想におけるフレームのどの部分に位置づかかを説明します。	事前学修：これまでの学修内容を再度、確認しておくこと。 事後学修：教科書やノートにまとめた内容等を確認し、これまでに学修した部分を復習しておくこと。	6 時間

科目名	マーケティング基礎（経営）／マーケティング概論（経済）	開講年度	2025
担当者	五島 光	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能から基本的なフレームワークを理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能の点から学修する。主に、マーケティング基本概念である STP(Segmentation、Targeting、 Positioning)やマーケティングの 4P(Product、Price、Place、 Promotion)等の専門用語に関する理解と解説ができるように、マネジメントの観点から考察する。また、マーケティング戦略コースの要となるものであり、各論であるマーケティングマネジメント関連の講義（マーケティング戦略論Ⅰ）において理解を深めることができるよう、重要な用語についての理解を深めるように講義を進める。主要なマーケティングの考え方を理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる基礎力をつけることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングの考え方や基本的フレーム（4 P・STP）を理解し、記述できる。 2. マーケティング・マネジメントの基本的な各要素（製品・流通・価格・販促）や顧客との関係性、ブランドなどに関する基本的な概念・基本知識を理解し、記述できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	1 からのマーケティング（第4版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年、碩学舎、2019 年	ISBN	9784502327711
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業を取り巻く環境が著しく変化するなか、企業経営においてマーケティングの重要性は増し、マーケティング志向に基づく判断力を身につけることが求められています。日常よりニュースや新聞などで報じられる企業のマーケティング活動に関心をもち、ビジネス事例を通じて、自		

分なりのマーケティングの考え方を持つよう心がけることを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス・（マーケティング発想の経営） 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 マーケティングの考え方について学びます。 【キーワード】 マーケティング発想、マーケティング近視眼、ニーズ、価値、顧客満足（教科書1章）	事前学修：教科書の第1章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	マーケティング論の成り立ち マーケティング論の特徴、発展について学びます。 【キーワード】 マーケティング論、生産者、使用者、コミュニケーション（教科書2章）	事前学修：教科書の第2章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	マーケティングの基本概念 STPを中心に統合されたマーケティング活動について学びます。 【キーワード】 STP、4P（各項目含む）、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（教科書3章）	事前学修：教科書の第3章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	マーケティング 4P（製品のマネジメント） 製品マネジメントにおける製品戦略の概要やそのステップについて解説します。 【キーワード】 製品戦略、市場機会、製品コンセプト、製品ライフサイクル（教科書4章）	事前学修：教科書の第4章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	★中間試験Ⅰ 第1回から4回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から4回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で学修した用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験1のふりかえりをしておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	マーケティング 4P（価格のマネジメント） 製品やサービスの価格設定の基本的な考え方を講義します。価格設定における需要曲線、価格弾力性の概念や価格戦略について解説します。 【キーワード】 需要曲線、価格弾力性（仕組みも含む）、代替品、高付加価値（教科書5章）	事前学修：教科書の第5章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	マーケティング 4P（チャネルのマネジメント） チャネル別ブランド戦略、チャネルマネジメントにおける選択・管理について解説します。 【キーワード】 チャネル選択、チャネル管理、流通経路、販社制度、チェーンストア制度、オムニチャネル（教科書7章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	サプライチェーンのマネジメント 企業における在庫問題や SCM（サプライチェーン・マネジメント）の役割について解説します。	事前学修：教科書の第8章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間

		【キーワード】 在庫、鮮度、不良在庫、SCM (教科書8章)		
第9回	オンデマンド	営業のマネジメント ビジネス市場における企業組織が購入対象となる製品・サービスに対してニーズを確立し、複数のブランドや供給業者を特定し、評価し、その名から選択する意思決定プロセスにおいてキープレイヤーとなる営業について学びます。 【キーワード】 境界連結者、資源動員、ネットワーク、属人信頼、システム信頼 (教科書9章)	事前学修：教科書の第9章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	★中間試験2 第1回から9回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から9回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で得た用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験2のふりかえりをしておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	マーケティング4P (広告のマネジメント) 消費者ニーズの明確化、消費者対応、プロモーションミックス等について解説します。 【キーワード】 消費者対応、競争対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス (教科書6章)	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	顧客関係のマネジメント ユーザーとしての消費者との関係作りや顧客関係の構築と関係維持について解説します。 【キーワード】 ライトユーザー、ロイヤルカスタマー、関係性パラダイム、コミットメント、CRM (教科書10章)	事前学修：教科書の第10章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	ビジネスモデルと顧客理解のマネジメント 顧客理解のためのマーケティング・リサーチについて解説します。 【キーワード】 価値志向、ビジネスエコシステム、成長マトリックス、事業コンセプト (教科書11章)と市場調査2次データ、マーケティング・リサーチ、定性的調査、定量的調査、粘着性 (教科書12章)	事前学修：教科書の第11・12章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	ブランドのマネジメント ※テキスト2章分を1章に纏める ブランドの意味や機能及びブランド・エクイティの概念やブランド組織のマネジメントについて解説します。 【キーワード】 保証機能、識別機能、想起機能、ブランド認知、ブランド・パワー、ブランドエクイティ、ブランドマネージャー。(教科書13・14章)	事前学修：教科書の第13・14章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでに学修した内容について復習するとともに、それぞれがマーケティング発想におけるフレームのどの部分に位置づかかを説明します。	事前学修：これまでの学修内容を再度、確認しておくこと。 事後学修：教科書やノートにまとめた内容等を確認し、これまでに学修した部分を復習しておくこと。	6時間

科目名	初級簿記	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	【履修にあたっての注意】 ・会計職基礎講座（S コース）と連動していますので、S コースを必ず受講してください。（S コースを受講しない場合は、岡野先生の初級簿記を履修してください） ・6 月の日商簿記検定 3 級の合格を目指して講義を進めますので、授業開始時に受験申込を完了しておくようにしてください。 ・簿記の知識・技能は自主学習なしでは身に付けることは困難です。毎日復習を怠らないようにしてください。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 3 級：6 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年	ISBN	① 9784300115824 ② 9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	※	
	その他の内容	①その他※の内容について 以下いずれか一方の出席率が 90%未満(6 月の検定までで判定)となった場合、10 点の減点。	

		・初級簿記 ・Sコース ②中間試験について 6月の日商簿記検定3級の結果を基に評価します。
この科目の受講にあたって	初級簿記は会計専門職はもちろんのこと、企業の経理担当といった会計に関する仕事を目指す方には必須の知識です。また、初級簿記で扱う内容はビジネスに関わる人すべてに関わる重要な知識・技能・考え方になります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・簿記の基礎 ・日常の手続き	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第2回	対面	・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第3回	対面	・現金・預金 ・小口現金 ・クレジット売掛金 ・手形取引 ・電子記録債権・債務	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第4回	対面	・その他の取引ⅠⅡⅢ	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第5回	対面	・その他の取引Ⅲ（残り） ・さまざまな帳簿の関係 ・試算表 ・決算 ・現金過不足 ・売上原価	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第6回	対面	・貸倒れ ・減価償却 ・貯蔵品 ・当座借越 ・税金	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間
第7回	対面	経過勘定項目 株式の発行 剰余金の配当と処分 証憑 後TB 精算表 締切	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2回目：間違った問題に取り組む	6時間

		PL・BS		
第8回	対面	・ 仕訳 100 問テスト	問題集（トレーニング）等を使用し、次回授業までに復習を行うこと。	6 時間
第9回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第10回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第11回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第12回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第13回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第14回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第15回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第16回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第17回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第18回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第19回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第20回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第21回	オンデマンド	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第22回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第23回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第24回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第25回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第26回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第27回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第28回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第29回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第30回	オンデマンド	定期試験に向けての問題演習	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2025
担当者	島本 克彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の基礎的な考え方の学修、課題演習を通して、日商簿記検定3級合格を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業では、簿記の基本的資格と位置づけられている『日本商工会議所 簿記検定試験3級』に合格するための知識と計算能力に加え、同検定2級の基礎を身につけてもらうことを目的としています。授業で取り扱う商業簿記を要約すると「商業を営む企業（株式会社）を対象として、当該企業において日々行われる経済活動を二面的（複式）に把握し、継続的に記録・計算・整理する一連のシステム（複式簿記システム）」のことです。簿記・会計の初学者を対象として株式会社における商業簿記の基礎・基本の内容を扱います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、会計関連科目の初級に位置づけられる科目であり、日商簿記3級のレベルに達することを目標としています。留意点としてテキスト・問題集を必ず購入し、言うまでもなく毎回の授業に電卓を持参して出席し、予習復習を徹底して行うことが、初級簿記を理解するために必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、下記を目標とします。 ・小規模企業の株式会社の取引を理解し、仕訳できる。 ・小規模企業の株式会社の財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定3級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト等は採点の上で返却します。授業で説明した内容の問いかけや疑問点の質問に回答します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.15.0, TAC 株式会社(簿記検定講座) 編, TAC 出版, 2025 年 ②よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0, TAC 株式会社(簿記検定講座) 編, TAC 出版, 2025 年	ISBN	①9784300115824 ②9784300115831
参考書	必要に応じて指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	簿記は、講義の説明を踏まえて自学自習を行うことが基本です。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。また欠席は簿記を理解不能にする原因になります。学修上の疑問など小さな		

あたって	ことでも「まあいいか」と済まらずに相談に来てください。将来に備えてどんどん日商簿記検定試験に挑戦しましょう。本授業でさらに興味が湧けば秋学期に「中級簿記」「工業簿記」を履修して2級、さらに次年度には「上級簿記」「原価計算」を履修して1級にもチャレンジしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと簿記を学ぶことの意義についてお話しします。株式会社について説明します（テーマ1 簿記の基礎（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」））。	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第2回	対面	テーマ2 日常の手続き 仕訳・転記（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第3回	対面	テーマ2 日常の手続き一仕訳・転記・試算表（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第4回	対面	テーマ3 商品売買一売買時の処理（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第5回	対面	テーマ4 商品売買一仕入帳・商品有高帳・売上帳（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第6回	対面	テーマ5 現金・預金、テーマ6 小口現金（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第7回	対面	第1回から第6回の振り返り（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間

第8回	対面	テーマ7 クレジット売掛金、テーマ8 手形取引（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第9回	対面	テーマ10 電子記録債権・債務、テーマ11 その他の取引（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第10回	対面	テーマ12 その他の取引、テーマ13 その他の取引、テーマ14 訂正仕訳（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第11回	対面	テーマ15 試算表その1（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第12回	対面	テーマ15 試算表その2（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。 事	4時間
第13回	対面	テーマ17 決算整理Ⅰ(現金過不足)、テーマ18 決算整理Ⅱ(貯蔵品・当座借越)、テーマ19 決算整理Ⅲ(売上原価)、テーマ20 決算整理Ⅳ(貸倒れ)、テーマ21 決算整理Ⅴ(減価償却)、テーマ22 決算整理Ⅵ(経過勘定項目)（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第14回	対面	テーマ24 精算表（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第15回	対面	テーマ24 精算表（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間

			い（2時間半程度）。	
第16回	対面	テーマ25 帳簿の締め切り（英米式決算）、 テーマ26 損益計算書と貸借対照表（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第17回	対面	テーマ27 株式の発行、テーマ28 剰余金の配当と処分、テーマ29 税金（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第18回	対面	テーマ30 証ひょうと伝票（「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」）	事前学修は、会計職基礎講座を受講するなどして該当箇所を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第19回	対面	日商簿記検定3級の範囲を対象に、中間試験を実施します。	事前学修は、「合格テキスト・トレーニング日商簿記3級」や配布資料等を用いて「中間試験」の該当箇所を理解し復習しておいてください（1時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記3級」等を使用して、中間試験の範囲を復習し問題演習をしておいてください（2時間半程度）	5時間
第20回	対面	「日商簿記3級」の決算問題ーその1	事前学修は、「日商簿記3級」の予告した決算問題（プリント）を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「日商簿記3級プリント問題」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第21回	対面	「日商簿記3級」の決算問題ーその2	事前学修は、「日商簿記3級」の予告した決算問題（プリント）を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「日商簿記3級プリント問題」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第22回	対面	「日商簿記3級」の決算問題ーその3	事前学修は、「日商簿記3級」の決算問題（プリント）を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「日商簿記3級プリント問題」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第23回	対面	総合問題および特殊問題を使用して、日商簿記検定3級の範囲の総復習をします。	事前学修は、「日商簿記3級」の決算問題（プリント）を理解しておくようにしてください（1時間半程度）。 事後学修は、「日商簿記3級プリント問題」等を使用して、次の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2時間半程度）。	4時間
第24回	対面	総合問題および特殊問題を使用して、日商	事前学修は、「日商簿記3級」の決算問題を理解して	4時間

		簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。	おくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、「日商簿記 3 級プリント問題」等を使用して、次回の授業始めに実施する復習問題を解けるように該当箇所の問題演習をしておいてください（2 時間半程度）。	
第 25 回	対面	総合問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記 3 級」の問題を使用して演習をしておいてください（2 時間半程度）。	4 時間
第 26 回	対面	特殊な問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。総合問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、「合格トレーニング日商簿記 3 級」の問題を使用して演習をしておいてください（2 時間半程度）。	4 時間
第 27 回	対面	特殊な問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。総合問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、授業で使用了問題を使用して演習をしておいてください（2 時間半程度）。	4 時間
第 28 回	対面	特殊な問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。総合問題を使用して、日商簿記検定 3 級の範囲の総復習をします。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、授業で使用了問題を使用して演習をしておいてください（2 時間半程度）。	4 時間
第 29 回	オンデマンド	日商簿記 3 級の仕訳の総復習を行います。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲の仕訳を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、授業で使用了問題を使用して演習をしておいてください（2 時間半程度）。	4 時間
第 30 回	オンデマンド	日商簿記 3 級の仕訳の総復習を行います。日商簿記検定 3 級の範囲を対象に、まとめ・総括を行います。	事前学修は、これまで学修した日商簿記 3 級の範囲を復習しておくようにしてください（1 時間半程度）。 事後学修は、この授業で扱った全範囲について、自身の特に不得意分野について身につくよう復習してください（2 時間半程度）。	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2025
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。日商簿記検定 3 級の合格を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・ 日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験は採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版、2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版、2025 年	ISBN	①9784300115824 ②9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。 学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。 将来に備えてどんどん日商簿記検定試験に挑戦してください。本授業でさらに興味がわけば翌学期以降「中級簿記」「工業簿記」を履修して 2 級、さらに次年度には「上級簿記」「原価計算」を履修して 1 級にもチャレンジしてください。欠席・遅刻・早退について特段の事情(就職活動、クラブ活動など)がある場合には必ず事前に相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 簿記の基礎	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	オンデマンド	日常の手続き	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	日常の手続き／商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	現金・預金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	小口現金、クレジット売掛金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	オンデマンド	手形取引、電子記録債券債務	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

			であるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	オンデマンド	さまざまな帳簿の関係	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第10回	オンデマンド	借入金、貸付金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第11回	オンデマンド	有形固定資産、未収入金、未払金、仮払金、仮受金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第12回	オンデマンド	給与、訂正仕訳	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第13回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第14回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第15回	オンデマンド	中間試験のための復習	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第16回	オンデマンド	中間試験	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第17回	オンデマンド	現金過不足	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第18回	オンデ	貯蔵品、当座借越、売上原価	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日	4 時間

	マンド		商簿記3級 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第19回	オンデマンド	貸倒、減価償却	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第20回	オンデマンド	減価償却、経過勘定	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第21回	オンデマンド	経過勘定項目	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第22回	オンデマンド	決算整理後残高試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第23回	オンデマンド	精算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第24回	オンデマンド	帳簿の締め切り	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第25回	オンデマンド	損益計算書と貸借対照表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第26回	オンデマンド	株式の発行、剰余金の配当と処分	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所	4 時間

			予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第27回	オンデマンド	税金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第28回	オンデマンド	証ひょうと伝票	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第29回	オンデマンド	演習	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間
第30回	オンデマンド	演習	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2025
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。日商簿記検定 3 級の合格を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・ 日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験は採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版、2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版、2025 年	ISBN	①9784300115824 ②9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。 学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。 将来に備えてどんどん日商簿記検定試験に挑戦してください。本授業でさらに興味がわけば翌学期以降「中級簿記」「工業簿記」を履修して 2 級、さらに次年度には「上級簿記」「原価計算」を履修して 1 級にもチャレンジしてください。欠席・遅刻・早退について特段の事情(就職活動、クラブ活動など)がある場合には必ず事前に相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 簿記の基礎	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	オンデマンド	日常の手続き	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	日常の手続き／商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	現金・預金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	小口現金、クレジット売掛金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	オンデマンド	手形取引、電子記録債券債務	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

			であるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	オンデマンド	さまざまな帳簿の関係	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第10回	オンデマンド	借入金、貸付金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第11回	オンデマンド	有形固定資産、未収入金、未払金、仮払金、仮受金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第12回	オンデマンド	給与、訂正仕訳	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第13回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第14回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第15回	オンデマンド	中間試験のための復習	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第16回	オンデマンド	中間試験	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第17回	オンデマンド	現金過不足	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第18回	オンデ	貯蔵品、当座借越、売上原価	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日	4 時間

	マンド		商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第１９回	オンデマンド	貸倒、減価償却	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２０回	オンデマンド	減価償却、経過勘定	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２１回	オンデマンド	経過勘定項目	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２２回	オンデマンド	決算整理後残高試算表	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２３回	オンデマンド	精算表	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２４回	オンデマンド	帳簿の締め切り	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２５回	オンデマンド	損益計算書と貸借対照表	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	４時間
第２６回	オンデマンド	株式の発行、剰余金の配当と処分	「合格テキスト日商簿記３級」「合格トレーニング日商簿記３級」 該当箇所	４時間

			予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第27回	オンデマンド	税金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第28回	オンデマンド	証ひょうと伝票	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第29回	オンデマンド	演習	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間
第30回	オンデマンド	演習	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間

科目名	中級簿記	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の中級論点の学習、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、株式会社の複式簿記について、発展的内容を理解することが目的である。小規模企業・中規模企業及び連結企業における取引に関する適切な会計処理ができ、さらにこれら企業の財務諸表作成における基礎知識を修得することを目標とし、この授業を履修することによって、商業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この授業は、会計職基礎講座（夏季 S コース）を受講し、日商簿記検定 2 級に合格した方を対象とした科目になります（日商簿記 2 級の合格を前提に日商簿記 1 級以上の内容を扱います）。以下の事項すべてに当てはまらない方は、中級簿記（川口先生）を受講してください。 【履修条件】 ①：日商簿記検定 2 級に合格済み ②：以下のいずれかの資格の学習を開始している ・公認会計士 ・日商簿記 1 級 ③：S コース（簿記上級講座）を受講する ※公認会計士講座を受講している方も上記 S コースを受講してください（詳しくは説明します）。 【留意点】 ・遅刻欠席厳禁（守れない場合は厳しく対処します）		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・中規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・中規模企業の財務諸表及び連結財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業は、日商簿記2級合格者を対象に2025年6月の日商簿記1級合格を目指すクラスになります。 Sコースと併せての履修でハードな内容になりますが、6月検定までに合格レベルに到達するように進めていきますので、食らいついて来てください。

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト	【事前学修】初級簿記の総復習（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	簿記の一巡の手続き 財務諸表	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	商品売買 現金および預金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	債権債務 有価証券	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	有形固定資産① 有形固定資産②（前半）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	有形固定資産②（後半） リース取引	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	無形固定資産等と研究開発費 引当金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	外貨換算会計 税金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	税効果会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	株式の発行 剰余金の配当と処分	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	決算手続 収益・費用の認識基準	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	本支店会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	合併と事業譲渡 連結会計Ⅰ（資本連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。	4時間

			【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	
第14回	対面	連結会計Ⅰ（資本連結） 連結会計Ⅱ（資本連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	連結会計Ⅱ（資本連結） 連結会計Ⅲ（成果連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第16回	対面	連結会計Ⅳ（連結株主資本等変動計算書） 製造業会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第17回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第21回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第22回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第23回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第24回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第25回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第26回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第27回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点を	4時間

			できるまで復習する（2時間程度）。	
第28回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第29回	オンデマンド	定期試験に向けての総復習	定期試験に向けて復習をすること。	4時間
第30回	オンデマンド	定期試験に向けての総復習	定期試験に向けて復習をすること。	4時間

科目名	中級簿記	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の中級論点の学習、計算実践。		
授業の目的及び概要	この科目は、「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、株式会社の複式簿記について、発展的内容を理解することが目的である。小規模企業・中規模企業及び連結企業における取引に関する適切な会計処理ができ、さらにこれら企業の財務諸表作成における基礎知識を修得することを目標とし、この科目を履修することによって、商業簿記について「日本商工会議所簿記検定試験 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この科目は、「初級簿記」の上位科目であり、「初級簿記」を単位の取得していることを推奨します。 なお、初回授業において実力確認テストを行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 中規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 中規模企業の財務諸表及び連結財務諸表を作成することができる。 ・ 「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の商業簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間試験は授業内で解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記（ver17.0），TAC 簿記講座，TAC 出版 ② 合格トレーニング 日商簿記 2 級 商業簿記（ver17.0），TAC 簿記講座，TAC 出版	ISBN	① 9784300106570 ② 9784300106655
参考書	—	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	—	
この科目の受講にあたって	この科目は、会計専門職はもちろんのこと、企業の経理担当といった会計に関する仕事を指す方に必要な知識です。 また、「日本商工会議所簿記検定 2 級」に対応した科目であり、当該試験の出題範囲である工業簿記について学修する「工業簿記」を併せて履修することを推奨します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンスと実力確認テストを行います。	【事前学修】初級簿記の総復習を行うこと。	4 時間
第2回	対面	簿記の一巡の手続き、財務諸表、商品売買を学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 00「簿記の一巡の手続き」、テーマ 01「財務諸表」、テーマ 02「商品売買」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	債権・債務、現金および預金、有価証券について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 03「現金および預金」、テーマ 04「債権・債務」、テーマ 05「有価証券」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	有形固定資産（Ⅰ）、有形固定資産（Ⅱ）について学びます。	【事前学修】テキストの、テーマ 06「有形固定資産（Ⅰ）」、テーマ 07「有形固定資産（Ⅱ）」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	リース取引、無形資産と研究開発費について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 8「リース取引」、テーマ 9「無形資産と研究開発費」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	引当金、外貨換算会計について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 10「引当金」、テーマ 11「外貨換算会計」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	税金、税効果会計について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 12「税金」、テーマ 13「課税所得の算定の税効果会計」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	株式の発行、剰余金の配当と処理について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 14「株式の発行」、テーマ 15「剰余金の配当と処理」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	決算手続、収益の認識基準、本支店会計について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 16「決算手続」、テーマ 17「収益の認識基準」、テーマ 18「本支店会計」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	合併と事業譲渡、連結会計（資本連結Ⅰ）について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 19「合併と事業譲渡」、テーマ 20「連結会計Ⅰ（資本連結Ⅰ）」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第11回	対面	連結会計（資本連結Ⅱ）、連結会計（成果	【事前学修】テキストのテーマ 21「連結会計Ⅱ（資	4 時間

		連結)について学びます。	本連結Ⅱ)」、テーマ 22「連結会計Ⅲ(成果連結)を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	
第 1 2 回	対面	連結株主資本等変動計算書、製造業会計について学びます。	【事前学修】テーマ 23「連結会計Ⅳ(連結株主資本等変動計算書を作成する場合)」、テーマ 24「製造業会計」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第 1 3 回	対面	第 1 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 1 4 回	対面	第 2 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 1 5 回	対面	第 3 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	6 時間
第 1 6 回	対面	第 4 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 1 7 回	対面	第 5 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 1 8 回	対面	第 6 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 1 9 回	対面	第 7 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 2 0 回	対面	第 8 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 2 1 回	対面	第 9 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 2 2 回	対面	第 10 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間
第 2 3 回	対面	中間試験	【事前学修】中間試験に向けて総復習を行うこと。	4 時間
第 2 4 回	対面	中間試験解説、第 11 回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。(2 時間程度)	4 時間

第25回	対面	第12回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第26回	対面	第13回問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第27回	対面	第14回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第28回	対面	第15回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第29回	オンデマンド	第16回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第30回	オンデマンド	まとめ	定期試験に向けて総復習をすること。	4時間

科目名	中級簿記	開講年度	2025
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	◇商業簿記の中級論点の学習、計算実践。 ◇日商簿記検定 2 級取得を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、株式会社の複式簿記について、発展的内容を理解することが目的である。小規模企業・中規模企業及び連結企業における取引に関する適切な会計処理ができ、さらにこれら企業の財務諸表作成における基礎知識を修得することを目標とし、この授業を履修することによって、商業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 中規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 中規模企業の財務諸表及び連結財務諸表を作成することができる。 ・ 日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級（「商業簿記」分野）：2 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間試験は採点した上で返却します。 （その他提出物は各自採点の上提出）		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記(Ver. 17.0), TAC 簿記講座, TAC 出版 ② 合格トレーニング 日商簿記 2 級 商業簿記 (Ver. 17.0), TAC 簿記講座, TAC 出版	ISBN	①9784300106570 ② 9784300106655
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	◇「初級簿記」の単位を「秀」「優」で取得した学生、あるいは日商簿記検定 3 級を取得済であることが強く推奨されます。該当しない学生は、日商簿記検定 3 級を合格してから本科目を受講してください。 ◇日商簿記検定 2 級は工業簿記からも出題されます。そのため、本科目の履修者は必ず秋学期に開講される「工業簿記」も履修してください。 ◆資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。		

学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスを行います。 簿記一巡の手続きについて学習します。（3級の復習）	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ00 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	対面	損益計算書と貸借対照表について学習します。 商品売買について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ1～2 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	対面	現金および預金について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ3 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	対面	債券・債務について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ4 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	対面	有価証券について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ5 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	対面	有形固定資産について学習します。（1）	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ6 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	対面	有形固定資産について学習します。（2）	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ7 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	対面	リース取引について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ8 予習としてテキストに目を通しておいください。	4時間

			わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	対面	無形固定資産等と研究開発費について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ9 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第10回	対面	引当金について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ10 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第11回	対面	外貨換算会計について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ11 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第12回	対面	税金について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ12 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第13回	対面	課税所得の算定と税効果会計について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ13 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第14回	対面	株式の発行について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ14 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第15回	対面	剰余金の配当と処分について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ15 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第16回	対面	決算手続について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ16 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いて	4 時間

			であるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第17回	対面	収益の認識基準について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ17 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第18回	対面	演習問題	予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間
第19回	対面	演習問題	予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間
第20回	対面	中間試験	出題範囲・・・これまでの全範囲	4時間
第21回	対面	本支店会計について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ18 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第22回	対面	合併と事業譲渡について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ19 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第23回	対面	連結会計（1）について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ20 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第24回	対面	連結会計（2）について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ21 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第25回	対面	連結会計（3）について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ22 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第26回	対面	連結会計（4）について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ23 予習としてテキストに目を通しておいてください。わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

第27回	対面	総合問題に取り組みます。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ全範囲 予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間
第28回	対面	総合問題に取り組みます。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ全範囲 予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間
第29回	オンデマンド	総合問題に取り組みます。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ全範囲 予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間
第30回	オンデマンド	総合問題に取り組みます。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 テーマ全範囲 予習・復習ともに、自分の苦手箇所を探し、各自演習を行ってください。	4時間

科目名	工業簿記	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	工業簿記の論点の学修、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、製造業における製品原価等の計算方法ならびに記帳体系を学修するために開設されるものであり、原価計算・工業簿記の基礎から中級程度を理解することが目的である。「初級簿記」の履修、もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、個別原価計算、部門別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算の基本を学修する。この授業を履修することによって、工業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この授業は、会計職基礎講座（夏季 S コース）を受講し、日商簿記検定 2 級に合格した方を対象とした科目になります（日商簿記 2 級の合格を前提に日商簿記 1 級以上の内容を扱います）。以下の事項すべてに当てはまらない方は、中級簿記（川口先生）を受講してください。 【履修条件】 ①：日商簿記検定 2 級に合格済み ②：以下のいずれかの資格の学習を開始している ・公認会計士 ・日商簿記 1 級 ③：S コース（簿記上級講座）を受講する ※公認会計士講座を受講している方も上記 S コースを受講してください（詳しくは説明します）。 【留意点】 ・遅刻欠席厳禁（守れない場合は厳しく対処します）		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・工業簿記・原価計算に関する企業の経営活動を理解し、計算・記録・管理を行うことができる。 ・日商簿記検定 2 級レベルの工業簿記・原価計算の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業は、日商簿記2級合格者を対象に2025年6月の日商簿記1級合格を目指すクラスになります。 Sコースと併せての履修でハードな内容になりますが、6月検定までに合格レベルに到達するように進めていきますので、食らいついて来てください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト	【事前学修】初級簿記の範囲の総復習（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	工業簿記の基礎 工業簿記の勘定連絡	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	材料費Ⅰ 材料費Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	労務費Ⅰ 労務費Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	経費	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	総合原価計算Ⅰ 総合原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	総合原価計算Ⅲ（仕損と減損）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	総合原価計算Ⅳ（工程別総合原価計算） 総合原価計算Ⅴ（組別総合原価計算）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	総合原価計算Ⅵ（等級別総合原価計算）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	財務諸表	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間

第13回	対面	標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ（前半）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	標準原価計算Ⅱ（後半） 直接原価計算Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	直接原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第16回	対面	本社工場会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第17回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第21回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第22回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第23回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第24回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第25回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第26回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第27回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習してお	4時間

			くこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点を できるまで復習する（2時間程度）。	
第28回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点を できるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第29回	オンデ マンド	定期試験に向けてのまとめ	定期試験に向けて総復習すること	4時間
第30回	オンデ マンド	定期試験に向けてのまとめ	定期試験に向けて総復習すること。	4時間

科目名	工業簿記	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	工業簿記の論点の学修、計算実践。		
授業の目的及び概要	この科目は、製造業における製品原価等の計算方法ならびに記帳体系を学修するために開設されるものであり、原価計算・工業簿記の基礎から中級程度を理解することが目的である。「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、個別原価計算、部門別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算の基本を学修する。この科目を履修することによって、工業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この科目は、「初級簿記」の上位科目であり、「初級簿記」の単位を取得していることを推奨します。 なお、初回授業において実力確認テストを行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・工業簿記・原価計算に関する企業の経営活動を理解し、計算・記録・管理を行うことができる。 ・「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の工業簿記・原価計算の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間試験は授業内で解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記（ver10.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版 ② 合格トレーニング 日商簿記 2 級 工業簿記（ver10.0）、TAC 簿記講座、TAC 出版	ISBN	① 9784300106587 ② 9784300106662
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この科目は、会計専門職はもちろんのこと、企業の経理担当といった会計に関する仕事を指す方に必要な知識です。 また、「日本商工会議所簿記検定 2 級」に対応した科目であり、当該試験の出題範囲である商業簿記について学修する「中級簿記」を併せて履修することを推奨します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス後、実力確認テストを行います。	【事前学修】初級簿記の総復習を行うこと。	4 時間
第2回	対面	工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 01「工業簿記の基礎」、テーマ 02「工業簿記の勘定連絡」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	材料費について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 03「材料費 (Ⅰ)」、テーマ 04「材料費 (Ⅱ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	労務費について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 05「労務費 (Ⅰ)」、テーマ 06「労務費 (Ⅱ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	経費について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 07「経費」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	個別原価計算について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 08「個別原価計算 (Ⅰ)」、テーマ 09「個別原価計算 (Ⅱ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	部門別個別原価計算について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 10「部門別個別原価計算 (Ⅰ)」、テーマ 11「部門別個別原価計算 (Ⅱ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	総合原価計算①について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 12「総合原価計算 (Ⅰ)」、テーマ 13「総合原価計算 (Ⅱ)」、テーマ 14「総合原価計算 (Ⅲ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	総合原価計算②、財務諸表について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 15「総合原価計算 (Ⅳ)」、テーマ 16「総合原価計算 (Ⅴ)」、テーマ 17「財務諸表」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	標準原価計算について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 18「標準原価計算 (Ⅰ)」、テーマ 19「標準原価計算 (Ⅱ)」を読んでおくこと。(2 時間程度) 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。(2 時間程度)	4 時間

第11回	対面	直接原価計算について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 20「直接原価計算（Ⅰ）」、テーマ 21「直接原価計算（Ⅱ）」を読んでおくこと。（2 時間程度） 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	本社工場会計について学びます。	【事前学修】テキストのテーマ 22「本社工場会計」を読んでおくこと。（2 時間程度） 【事後学修】テキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、トレーニングの問題をできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	第1回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	第2回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第15回	対面	第3回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第16回	対面	第4回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第17回	対面	第5回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第18回	対面	第6回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第19回	対面	第7回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第20回	対面	第8回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第21回	対面	第9回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第22回	対面	第10回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間
第23回	対面	中間試験	【事前学修】中間試験に向けて総復習を行うこと。	4 時間
第24回	対面	中間試験解説、第11回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。（2 時間程度） 【事後学修】再度問題演習に取り組み、Learning Portal に提出すること。（2 時間程度）	4 時間

第25回	対面	第12回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第26回	対面	第13回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第27回	対面	第14回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第28回	対面	第15回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第29回	オンデマンド	第16回 問題演習	【事前学修】理解が不十分な論点についてトレーニングをできるまで繰り返し解くこと。(2時間程度) 【事後学修】再度問題演習に取り組み、LearningPortalに提出すること。(2時間程度)	4時間
第30回	オンデマンド	まとめ	定期試験に向けて総復習すること。	4時間

科目名	工業簿記	開講年度	2025
担当者	島本 克彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	工業簿記・原価計算の学修		
授業の目的及び概要	製造業における工業簿記および原価計算に関する知識と技能の基礎を習得することを目的とします。具体的には日商簿記2級（工業簿記）レベルの範囲を習得することを目標にしています。		
履修条件・留意点	この授業科目は、会計関連科目の中級に位置づけられる科目であり、日商簿記2級（工業簿記）のレベルに達することを目標としています。留意点としてテキスト・問題集を必ず購入し、言うまでもなく毎回の授業に電卓を持参して出席し、予習復習を徹底して行うことが、工業簿記を理解するために必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業では、下記を目標とします。 ・工業簿記・原価計算に関する企業の経営活動を理解し、計算・記録・管理を行うことができる。 ・日商簿記検定2級レベルの工業簿記・原価計算の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験2級（「工業簿記」分野）：2月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストおよび授業テストは採点の上で返却します。授業で説明した内容の問いかけや疑問点の質問に回答します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回の授業で下記テキスト・問題集を使うので、必ず購入し、電卓(12桁)も持参してください。 ①よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver. 10.0, TAC 株式会社(簿記検定講座)編, TAC 出版, 2024 年 ②よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記 Ver. 10.0, TAC 株式会社(簿記検定講座)編, TAC 出版, 2024 年 なお、適宜練習プリントを配布します。	ISBN	①9784300106587 ②9784300106662
参考書	プリントで補充しますので、参考書はいりません。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	工業簿記は税理士、公認会計士や企業の経理担当といった会計に関する仕事を考えている方には必要な知識です。また、そうした職業を目指していない学生にとっても、工業簿記の知識をもつことで簡単なコスト計算ができるようになります。3 級から 2 級へのステップアップは自		

主学習が必要なため少し大変かもしれませんが、その分知識の新しい世界をのぞくことを可能にし、達成感があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・テーマ1 工業簿記の基礎	事前学修：工業簿記についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	テーマ2 工業簿記の勘定連絡	事前学修：工業簿記の勘定連絡についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	テーマ3・4 材料費(I)(II)	事前学修：材料費(I)(II)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	テーマ5 労務費(I) テーマ6 労務費(II)	事前学修：労務費(I)(II)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	テーマ7 経費 テーマ8 個別原価計算(I)	事前学修：経費・個別原価計算(I)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	テーマ9 個別原価計算(II) テーマ10 部門別個別原価計算(I)テーマ11 部門別個別原価計算(II)	事前学修：個別原価計算(II)・部門別個別原価計算(I)・部門別個別原価計算(II)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	テーマ12 総合原価計算(I)・13 総合原価計算(II)	事前学修：総合原価計算(I)・13 総合原価計算(II)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第8回	対面	テーマ14 総合原価計算(III)仕損・減損	事前学修：総合原価計算(III)仕損・減損についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	テーマ15 総合原価計算(IV)工程別総合原価計算	事前学修：総合原価計算(IV)工程別総合原価計算についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	テーマ16 総合原価計算(V)組別総合原価	事前学修：テーマ16 総合原価計算(V)組別総合原価	4時間

		計算	計算についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）	
第11回	対面	総合原価計算・等級別総合原価計算（テキスト・資料）	事前学修： 総合原価計算・等級別総合原価計算についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキスト・資料の該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	テーマ17 財務諸表	事前学修： テーマ17 財務諸表についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第13回	対面	振り返り・授業中テスト	事前学修： 指示された授業中テストについてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いて準備しておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	5時間
第14回	対面	標準原価計算(I)	事前学修： 標準原価計算(I) についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4.5時間
第15回	対面	標準原価計算(II)	事前学修： 標準原価計算(II) についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第16回	対面	テーマ19 標準原価計算(II)続きー製造間接費の差異分析	事前学修：テーマ19 標準原価計算(II)続きー製造間接費の差異分析 についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第17回	対面	テーマ20 直接原価計算(I)	事前学修： 直接原価計算(I)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第18回	対面	テーマ21 直接原価計算(II)	事前学修： 直接原価計算(II)についてテキストを事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第19回	対面	テーマ22 本社工場会計	事前学修：本社工場会計についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第20回	対面	振り返りと応用：総合原価計算・仕損・減損	事前学修： 総合原価計算・仕損・減損についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復	4時間

			習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	
第21回	対面	振り返りと応用：工程別総合原価計算	事前学修：工程別総合原価計算についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業テストの準備のためにテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第22回	対面	振り返りと応用：等級別総合原価計算	事前学修：等級別総合原価計算の問題について、テキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業テスト後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えた類似問題をトレーニングでもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第23回	対面	振り返りと応用：標準原価計算の総合問題（その1）	事前学修：標準原価計算についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第24回	対面	振り返りと応用：標準原価計算の総合問題（その2）	事前学修：標準原価計算についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第25回	対面	振り返りと応用：直接原価計算の特殊問題（その1）	事前学修：直接原価計算についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第26回	対面	振り返りと応用：直接原価計算の特殊問題（その2）	事前学修：直接原価計算についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第27回	対面	振り返りと応用：工業簿記の総論問題—原価の意味・仕訳・定期試験に向けてのまとめ	事前学修：工業簿記の勘定連絡についてテキストを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第28回	対面	振り返りと応用：第1回～27回に関する特殊問題演習・定期試験に向けてのまとめ	事前学修：工業簿記についてテキストの前時で指示されたところを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）	4時間
第29回	オンデマンド	振り返りと応用：工程別総合原価計算・組別総合原価計算の問題演習	事前学修：工業簿記についてテキストを前時に指示されたところを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、期末試験に向けて間違えたトレーニングの問題をもう一度解くこと（2時間）。	4時間
第30回	オンデマンド	振り返りと応用：標準原価計算の演習（復習）	事前学修：工業簿記についてテキストの指示されたところを再度事前に読み、設例問題を解いておくこと（2時間）。 事後学修：授業後にテキストの該当箇所を読んで復習しておくこと。また、間違えたトレーニングの問題	4時間

2025/05/01

		をもう一度解くこと（2時間）。	

科目名	上級簿記	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日商簿記検定 1 級レベルの商業簿記を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」・「中級簿記」の履修等を通じて、中級程度の商業簿記について十分な学修を行っている学生を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことを目的とする。近年の会計制度の改革とそれに伴う会計基準の整備等により複雑化した会計処理について、最新の法令・会計基準に基づいた詳細な会計処理を学修する。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 1 級（商業簿記・会計学）」の基礎を修得することができる。		
履修条件・留意点	日商簿記 2 級資格取得または「中級簿記」の単位を取得していること。 ※第 1 回目の講義で実力確認テストを実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 大企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 大企業の財務諸表を作成することができる。 ・ 日商簿記検定 1 級（商業簿記・会計学）等の上級レベルの簿記の問題を解くことができる。 ・ 会計処理を他者に説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種問題については、返却後に解説いたします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本授業は、今までの簿記のレベルと比較できないほど難易度が上がることで、意識の高い受講生が集まることから、遅刻・欠席・途中退室には厳しく対処する。また、取り扱う内容は日商簿記 2 級までの範囲を完璧に理解していなければ太刀打ちできないものであり、その知識を前提として授業を進めるので、受講生は必ず日商簿記 2 級までの知識を持ち合わせておくように。簿記を理解することにより、企業の経理事務に必要な会計知識だけでなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力が修得できる。日商簿記の最高峰である 1 級の取得は就職活動に有利なステータスとなる。本科目受講生は是非 1 級取得にチャレンジしてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	・オリエンテーション ・実力確認問題（中級簿記の範囲）	【事事前学修】日商簿記2級の範囲の総復習をしておくこと。	6時間
第2回	対面	固定資産	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第3回	対面	有価証券	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第4回	対面	デリバティブ取引	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第5回	対面	リース会計	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第6回	対面	減損会計	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第7回	対面	税効果会計	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第8回	対面	外貨建取引	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第9回	対面	退職給付会計	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第10回	対面	資産除去債務	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第11回	対面	純資産	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第12回	対面	その他の重要論点	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第13回	対面	その他の重要論点	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第14回	対面	その他の重要論点	【事事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間

第15回	オンデマンド	まとめ（定期試験に向けて）	【事前学修】テキスト及び配布資料全てを事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト及び配布資料を全て読み直し、各自の持っている日商簿記検定問題集等の該当問題を間違えることがないレベルまで解き、定期試験に備えること。	6時間

科目名	デジタル経営論Ⅰ（経営）／経営情報概論（経済）	開講年度	2025
担当者	中川 隆広	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	デジタル技術を活用して企業経営を革新するデジタル経営について学修する。		
授業の目的及び概要	近年の企業経営における IT の活用は、ビジネスの支援ツールとしての活用の枠を超えており、経営やビジネスモデルを、AI、IoT、ビッグデータなどの最新のデジタル技術で大きく変革することを活用の目的としている。この授業では、企業での IT 活用の中心となる、「経営情報システム」や「e ビジネス」と「デジタルマーケティング」の分野で、企業を変革する IT の活用と重要なデジタル技術の詳細について学修することを目的とします。授業では、履修者自身が調べ、まとめる能動的な学修を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代経営にの变革に利用されている主要なデジタル技術の用語を理解し、記述することができる。 ②EC やソーシャルメディア、クラウドコンピュータなどビジネスのインフラとなっているプラットフォームの内容を理解し、記述することができる。 ③SCM やマーケティングなどビジネスプロセスがデジタル技術でどのように変革しているのかを理解し、記述することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを実施して質問への回答や補足説明を行い、要望を受け付けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に大手電機メーカーに入社し、物流企画部等を経て、2014 年には本社情報企画部部長、2021 年には本社情報戦略部部長に就任するなど、同社の情報システムに関する実務経験を 30 年以上積んでいる。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	大嶋淳俊, デジタル経営学入門 IT 経営、e ビジネス、マーケティング編、2021, 学文社	ISBN	978-4502410918
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	事前事後の学修を行い、目的意識を持って授業に臨むようにしてください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス デジタルを活用したデジタル経営学について学修する。 キーワード：ITの進化の動向	事前にテキストを購入しておくこと 事後学修としてテキストの第I部1. P27の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第2回	対面	ITの進化が社会にどのような影響を与えたか 日本の経済・社会の変化と情報化の関係について学修する。 キーワード：少子化に対するデジタル化	事前学修として教科書第I部2. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第I部2. P38の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第3回	対面	政府のIT政策とIT産業 政府のIT政策の変遷とIT産業の発展について学修する。 キーワード：IT産業	事前学修として教科書第I部3. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第I部3. P49の発展学習のポイント2. を考えて提出して下さい。	4時間
第4回	対面	企業経営とデジタル 企業経営の中でITがどのように使われてきたのかを学修します。 キーワード：経営情報システム	事前学修として教科書第II部4. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第II部4. P65の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第5回	対面	企業経営と情報システムの活用 企業経営の中心となるCRM、SFA、ERP、SCMについて学修します。 キーワード：企業経営と情報システム	事前学修として教科書第II部5. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第II部5. P72の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第6回	対面	eビジネスの基本枠組み インターネットを使ったeビジネスについて学修する。 キーワード：eビジネス	事前学修として教科書第III部6. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部6. P94の発展学習のポイント2. を考えて提出して下さい。	4時間
第7回	対面	モバイル機器の進化 スマートフォンなどのモバイル機器がビジネスにどのような影響を与えたのかを学修する。 キーワード：スマートフォン	事前学修として教科書第III部7. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部7. P105の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第8回	対面	クラウドコンピューティング クラウドコンピューティングの種類と企業でどのように使われているのかを学修する。 ・中間テスト キーワード：クラウドコンピューティング	事前学修として教科書第III部8. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部8. P113の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第9回	対面	ソーシャルメディア ソーシャルメディアの種類と活用事例について学修する。 キーワード：ソーシャルメディア	事前学修として教科書第III部9. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部9. P130の発展学習のポイント3. を考えて提出して下さい。	4時間
第10回	対面	ビッグデータとIoT ビッグデータの構成要素や収集・蓄積・活用とIoTについて学修する。 キーワード：ビッグデータ、IoT	事前学修として教科書第III部10. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部10. P141の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第11回	対面	AIとロボット AIとロボットの詳細を整理し、ビジネスや生活でどのように使われ、今後の可能性は何かを学修する。 キーワード：AI、ロボット	事前学修として教科書第III部11. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部11. P155の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第12回	対面	情報セキュリティ インターネットの活用により増加するサーバー攻撃に対する情報セキュリティについて学修する。 キーワード：情報セキュリティ	事前学修として教科書第III部12. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第III部12. P172の発展学習のポイント4. を考えて提出して下さい。	4時間
第13回	対面	マーケティングの基本 マーケティングの基本の定義や考え方、プ	事前学修として教科書第IV部13. を読み、予習しておいてください。	4時間

		ロセスなどについて学修する。 キーワード：マーケティング	事後学修としてテキストの第Ⅳ部 13. P186 の発展学習のポイント 2. を考えて下さい。	
第 1 4 回	対面	デジタルマーケティング マーケティングにデジタル化が及ぼす影響と概念の変化について学修する。 キーワード：デジタルマーケティング	事前学修として教科書第Ⅳ部 14. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅳ部 14. P206 の発展学習のポイント 4. を考えて提出して下さい。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	復習 第 1 回目から第 1 4 回目までの授業を復習します。	事前学修として教科書と授業で配布したレジュメを予習しておいてください。 事後学修として定期試験にむけて学修しておいてください。	4 時間

科目名	社会思想	開講年度	2025
担当者	北西 正人	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近代国家の根幹となる人権思想が、どのような歴史的背景の中で登場し、現代につながっているかを考える。		
授業の目的及び概要	現代は、旧来の秩序が崩れ、パラダイムが揺らぎを見せる社会である。グローバル化が進行するなかで、近代的あるいは普遍的な価値観や制度、経済合理性に基づく市場システムなどが世界中を包摂し、世界の同質化を進めている。しかしそれと同時に、そうした近代的あるいは普遍的な価値観が、地域や民族などに表象される多元的あるいは特殊的な価値観と衝突し、世界の異質化を進めているともいえる。現代社会の位相を正しく理解するためには、「近代的あるいは普遍的な枠組み」と、「多元的あるいは特殊的な枠組み」の双方を踏まえたアプローチを提示することが求められる。この授業では、「近代的な」社会の枠組みとはいかなるものかという点について、それが構築されてきた思想史の流れに沿いながら考えていきたい。教科書として使用する『古典から読み解く社会思想史』は、年代別に紹介されることが多い思想史の教科書とは異なり、テーマ別に論じるという新しいスタイルを採用している。その中から数名の思想家のテキストを取り上げることで、「近代社会」のありかたを浮き彫りにする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	近代社会が成立する歴史的背景を理解したうえで、自由、人権といった現代社会のさまざまな課題に対する各自の見解を構築し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については授業内で講評する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『古典から読み解く社会思想史』中村健吾（編著）、ミネルヴァ出版、2009 年	ISBN	9784623055852
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	世界史の知識を有している、または世界史に興味をもっていることが望ましい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	社会思想史とは	古代から中世、近代の価値観の変容を理解する。	4 時間
第2回	対面	古代ギリシャ思想	予習内容：ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて調べる。 復習内容：古代ギリシャ思想における社会思想とその限界を整理する。	4 時間
第3回	対面	中世スコラ哲学と宗教改革	予習内容：トマス・アクィナス、ルター、カルヴァンについて調べる。 復習内容：キリスト教思想の中世から近代への変容を整理する。	4 時間
第4回	対面	近代とは何であるのか？——近代人とは何者か？[前編]	予習内容：ホッブズについて調べる。 復習内容：ホッブズを時代背景の中で整理する。	4 時間
第5回	対面	近代とは何であるのか？——近代人とは何者か？[後編]	予習内容：自然権について調べる。 復習内容：国家設立の過程を整理する。	4 時間
第6回	対面	近代とは何であるのか？——人間の権利は存在するのか[前編]	予習内容：バークについて調べる。 復習内容：フランス革命に関するバークの態度を整理する。	4 時間
第7回	対面	近代とは何であるのか？——人間の権利は存在するのか[後編]	予習内容：ペインについて調べる。 復習内容：バークとペインの思想を比較検討して整理する。	4 時間
第8回	対面	近代から現代への変容を診る——個人主義社会における連帯と排除[前編]	予習内容：デュルケームについて調べる。 復習内容：デュルケームを時代背景の中で整理する。	4 時間
第9回	対面	近代から現代への変容を診る——個人主義社会における連帯と排除[後編]	予習内容：個人と社会について考える。 復習内容：個人の連帯について整理する。	4 時間
第10回	対面	近代から現代への変容を診る——近代政治秩序の形成とその変容	予習内容：ウェストファリア体制について調べる。 復習内容：ヴェーバーとシュミットの思想を比較検討して整理する。	4 時間
第11回	対面	近代から現代への変容を診る——公共性、無国籍者、人権[前編]	予習内容：アーレントについて調べる。 復習内容：アーレントを時代背景の中で整理する。	4 時間
第12回	対面	近代から現代への変容を診る——公共性、無国籍者、人権[後編]	予習内容：「無国籍者」について調べる。 復習内容：アーレントの人権思想を整理する。	4 時間
第13回	対面	せめぎあう正義・文化・自然——女性の社会進出と自然的差異[前編]	予習内容：J. S. ミルについて調べる。 復習内容：J. S. ミルを時代背景の中で整理する。	4 時間
第14回	対面	せめぎあう正義・文化・自然——女性の社会進出と自然的差異[後編]	予習内容：ジェンダーについて考える。 復習内容：家庭における協働のあり方を整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括	予習内容：第1回から第14回までの内容を確認する。 復習内容：支配と人権の関係について整理する。	4 時間

科目名	ビジネス統計学 I	開講年度	2025
担当者	五島 光	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにおいて必要となる統計学の基本的な用語・分析および結果の読み解き方を理解する。		
授業の目的及び概要	現代のビジネスでは、データ分析が重要なツールとなっています。人間の勘や経験だけでなく、データが示す事実がより正確な判断材料を与えてくれるからです。 例えば、商品開発や販売戦略を考えると、人材マネジメントやお金の使い方を決めるとき、データ分析は「これがおそらく正しい選択だろう」と教えてくれます。だからこそ、ビジネスに関わる人はデータを読み解く力を身につける必要があります。データを見て「なぜこうなっているのか」「これから何が起きそうか」を考える能力を持った人がどんな業界・分野でも求められているのです。 本授業では、記述統計（現状の把握）と簡単な推測統計（未来の予測）まで扱います。授業内もしくは授業外の演習課題に取り組むことによって、受講者が基本的な統計学の考え方を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点	「データサイエンス基礎」「表計算実践」を履修していることが望ましいです（できれば単位修得済み）。また「数的処理 IA（もしくは IIA）」「数的処理 IB（もしくは IIB）」を履修しているとさらによいと思います。 授業では必ずパソコンを持参してください。分析するときは Excel 上で動くマクロ（無料）を使用します。授業内で使い方を説明します。Python, R などの分析ツールは使いません（意欲ある方は使っていただいても構いません）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 平均、最頻値、中央値、分散、標準偏差、相関係数、回帰分析などの基本的な統計用語を理解し、簡潔に説明できる。 2. データの性質（尺度水準）について理解し、説明できる。 3. 棒グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラム、散布図などの代表的な図の特徴を説明できる。 4. いろいろな確率分布があることを知り、特に正規分布の特徴を理解できる。 5. 仮説検定の基本的な概要を理解できる。 6. データ分析の必要性や手順を理解し、分析結果を説明することができる。 7. Excel を利用して分析を実行できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題・問題についてはフィードバックやコメント・アドバイスをを行います。コメントシートの提出を求める場合、重要なものは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。 アクティブラーニングの取り組みは受講者数や進度によって実施しない場合があります。小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキスト（書籍）はありませんが、総務省統計局 統計力向上サイト「データサイエンス・スクール」のレベル別教材（無料）を中心に用います。ダウンロード方法は授業内で説明します。 また、参考書について第 1 回の授業で紹介しします。各自、必要だと思ったものを購入するといいいでしょう。	ISBN	なし

	その他必要な資料を適宜配布します。		
参考書	①経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ, 竹内広宜, 講談社, 2021 年 ②Excel で今すぐはじめる心理統計 第2版, 小宮あすか・布井雅人, 講談社, 2024 年 ③マンガでわかる統計学, 高橋信, トレンドプロ, 2004 年 ④データ分析の先生! 文系の私に超わかりやすく統計学を教えてください!, 高橋信, かんき出版, 2020 年	ISBN	①9784065251614 ②9784065371800 ③9784274065705 ④9784761275051
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	算数や数学が苦手だからといって、本授業を避けないでほしいと思います。難しい数式が出てくるんじゃないかと恐れる必要はありません。わかりたいという気持ちを持ち、理解する努力がある限り、わからないことは恥ではありません。あきらめず、根気よく学習すれば文系（社会科学）の学生のための統計分析の基本は身につけられます。 Excel や便利な統計分析アプリによって、分析そのものはますます身近になっています。そして、分析すること自体は本当に簡単なのです（ポチポチとクリックすれば結果が出てくるので驚くと思う）。 しかし、統計分析の基本を理解し、結果を読み解ける人はまだまだ少ない。だからこそ、統計分析の基本をきちんと身につけておくこと就職・進学してから必ず役に立ちますし、必要とされる人になれる可能性が高まります。ぜひ多くの人に本授業を受けてほしいと思います。いっしょにがんばりましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【イントロダクション&ガイダンス】 授業の目的と方法、進め方・受け方、授業計画、成績評価等について説明します。授業で使う教材、資料や Excel マクロの概要、ダウンロード方法について解説します。参考書についても紹介します。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。 事後学修としてレベル別教材（以下、単に教材という）・資料や自分のメモ・ノートを読んでビジネス統計学Ⅰの講義の流れを確認しておくこと。	2 時間
第2回	対面	【分析データの種類・構造といろいろなグラフ（1）】 望ましいデータの構造とは何かを説明し、公開されているデータを使って Excel でグラフ・図を作る演習をします。グラフ・図の形からわかるデータの特徴を学びます。	事前学修として初級編教材の「I. 統計の役割」および中級編教材の「第1部 I 様々なグラフ表現」を読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	【分析データの種類・構造といろいろなグラフ（2）】 量的データ・質的データの概念を学びます。度数分布表、ヒストグラムのポイントを解説し、Excel で作図する演習をします。	事前学修として初級編教材の「II データのばらつきの見方」を読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	【単変量の散らばり（ばらつき）と代表値】 平均値、中央値、最頻値などのデータを要約する値（代表値）について学び、Excel で代表値を出す演習をします。またデータ	事前学修として中級編教材「第1部 II データの分佈を見る&III 観測値の標準化と外れ値」を読んでおくこと。事前学修として事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間

		の散らばり具合を示す分散・標準偏差という概念を説明します。ここが前半の山場です。		
第5回	対面	【復習と小テスト①】 第2回～第4回の内容を中心に復習し、小テストを授業内で実施します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	【二変量の散らばり(ばらつき)と関係性】 クロス表、散布図について説明します。これらから2つの変数がどのような関係にあるのかを学びます。	事前学修として中級編教材「第1部 IV 関係の分析」を読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	【共分散と相関係数】 相関関係を数値で表現する方法を学び、Excelで分析する演習を行います。ここが中盤の山場です。	事前学修として中級編教材「第1部 IV 関係の分析」を再度読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	【確率とデータが発生する仕組み(1)】 簡単な確率の計算を行い、確率・事象・期待値という用語に親しみます。私たちの生活の中で偶然な出来事、そうでない出来事について考えます。	事前学修として初級編教材「IV 確率の基礎」および中級編教材「第1部 V 確率」に目を通しておくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	【復習と小テスト②】 第6回～第8回の内容を中心に復習し、小テストを授業内で実施します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	【確率とデータが発生する仕組み(2)】 確率変数・確率分布について直観的な説明を行い、専門用語に親しみます。様々な確率分布について概観し、特に正規分布の特徴を学びます。	事前学修として上級編教材「II 確率変数&III 確率分布」を読んでおくこと(数式は気にしなくてよい)。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	【標本調査と推定の基本】 標本調査の概要を説明し、母集団・サンプルサイズ・標本分布・母数という用語に慣れ親しみます。また点数と区間推定について学びます。	事前学修として中級編教材「第1部 VI 標本調査」および上級編教材「IV 標本分布」を読んでおくこと(数式は気にしなくてよい)。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	【平均値の差の検定と仮説検定】 2つの集団の平均値がたまたま似ているのかそうでないのかを調べる方法について説明します。その後、Excelで実際に分析を行います。	事前学修として上級編教材「VI 仮説検定」を読んでおくこと(数式は気にしなくてよい)。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	【簡単な回帰分析】 おそらくビジネスで最もよく使われる回帰分析について説明します。Excelで回帰分析を実行し、その結果の読み取り方を学びます。	事前学修として上級編教材「VII 回帰分析 1. 単回帰モデル」に目を通しておくこと(数式は気にしなくてよい)。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	【復習と小テスト③】 第10回～第13回の内容を中心に復習し、小テストを授業内で実施します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。今後学んでほしい分析手法についても紹介します。また定期試験についても説明を行います。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として講義資料やメモを読んで授業で得た知識を復習しておくこと。定期試験に備えること。	6時間

科目名	ビジネス統計学 I	開講年度	2025
担当者	范 沈俐	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにおいて必要となる基礎統計の理論と手法を理解する。		
授業の目的及び概要	コンピュータの普及および分析手法の高度化に伴い、社会全体に膨大なデータが蓄積・流通するようになった。ビジネス領域においても、意思決定の精緻化と競争優位性の確立のため、データ駆動型の洞察を得ることが不可欠となっている。そのため、統計学の理論的基盤および実践的手法の修得は、現代のビジネスパーソンにとって必須の要件である。本講義では、マーケティング、ファイナンス、財務分析といった情報化時代のビジネス環境において、広範に応用可能な統計学の基盤を構築することを目的とする。統計的記述の方法、統計的推測の理論と技法を体系的に学修し、さらに具体的な演習課題を通じて実践的スキルを養う。これにより、履修者が統計的な視座を獲得し、定量的分析を駆使した論理的思考能力を養成し、また「統計検定 3 級」の資格を取得することを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データ分析の必要性や手順を理解し、説明することができる。 2. データ分析における仮説とサンプリングについて理解し、説明することができる。 3. 平均、分散、相関分析などの基礎統計の概念を理解し、Excel を利用して分析を実行できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	① 1 からのマーケティング分析、恩蔵直人・富田健司、碩学舎、2011 年 ② 経営・商学のための統計学入門、竹内広宜、講談社、2021 年 ③ 日本統計学会公式認定 統計検定 3 級・4 級公式問題集 [CBT 対応版]	ISBN	① 9784502683602 ② 9784065251614 ③ 9784788920484
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	ビジネス業界において、データに基づく戦略の重要性がより強調されています。本講義はデータ分析における必要な基礎統計の概念や手法について説明します。とくに統計手法について		

あたって	Excel を用いて演習します。秋学期のビジネス統計学 II を履修することをお勧めします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。	事前学修：シラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。 事後学修：授業で配布した資料を読んで「ビジネス統計学 I」の概要等を確認しておくこと。	4 時間
第2回	対面	マーケティング分析の手順 マーケティング分析における問題設定やリサーチ・デザインについて説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	仮説検証 仮説の概念や仮説検証の手順について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	データの種類 データのタイプの違いを理解し、それぞれのデータに適した処理法を解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	標本調査 標本調査の意味と必要性を理解し、標本の抽出方法や推定方法について解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	統計グラフ 1 変数または 2 変数の統計グラフを適切な見方・読み方について学びます。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	データ集計 1 変数または 2 変数のデータを適切に集計表に記述すること、また集計表から適切な情報の読み取りについて解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	学修内容の再確認 学修してきた内容の再確認を進めるため、主に事例として取り上げ、これまで学修した理論を使ってどのように考えられるのかを再確認します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	データの代表値 数値を用いてデータの中心的位置を表現すること、またそれらを用いて適切にデータの特徴を説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	確率分布 確率変数の平均・分散・標準偏差などを用いて、基本的な確立分布の特徴について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	相関分析 相関関係と因果関係について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	回帰分析 最小 2 乗法や回帰係数などについて説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	実験法 実験の意味と必要性を理解し、実験の基本的な考え方について学びます。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	分散分析 分散分析の概念と内容について解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまで取り扱ってきた内容について振り返るとともに、あらためて重要なポイント	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	6 時間

2025/05/01

		トは何かについて確認します。		

科目名	経営組織論Ⅰ	開講年度	2025
担当者	竹田 次郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。		
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験の他に、2 回の中間テストを行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、セメントメーカーで 20 年以上に渡って人事部門や会計部門で業務に従事しており、人事課長の経験も有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年	ISBN	978-4-502-29561-4
参考書	稲葉祐之他，キャリアで語る経営組織 -- 個人の論理と組織の論理 第 2 版，有斐閣，2022 年	ISBN	978-4-641-22201-4
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認し		

	ます。 ・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになることが大事ですので、現実起こり得る事例についても、適宜言及します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	（事前学修） この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	対面	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 （特に重要な事項）欲求段階説、ERGモデル、動機付け－衛生理論、期待理論、職務特性理論	（事前学修） 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	対面	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 （特に重要な事項）組織コミットメントの変化、見えざる出資	（事前学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	対面	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 （特に重要な事項）満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決	（事前学修） 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	対面	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	（事前学修） 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	対面	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 （特に重要な事項）ストレッサ、ストレイ	（事前学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間

		ン、モデレータ、ソーシャル・サポート		
第7回	対面	第1回～第6回の学修内容の再確認および中間テストⅠ 第1回～第6回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間テストを実施します。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 (事後学修) 当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4時間
第8回	対面	中間テストⅠの解答・解説および「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリーダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 (特に重要な事項) 行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	(事前学修) 参考書第5章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第9章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第9回	対面	「組織学習：組織が学習するとは？ 環境変化に対応した学びとは？」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 (特に重要な事項) 組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECIモデル	(事前学修) 参考書第7章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第10章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第10回	対面	「組織文化：会社の文化に馴染む／馴染ませるとは？」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 (特に重要な事項) 基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化	(事前学修) 参考書第2章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第12章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第11回	対面	「組織社会化：入社したての従業員の定着のためには？」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 (特に重要な事項) 予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	(事前学修) 参考書第2章(再)、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第14章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第12回	対面	「ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティは経営成果に結びつくか？」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論	(事前学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第13回	対面	第8回～第12回の学修内容の再確認および中間テストⅡ	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュ	4時間

		第 8 回～第 12 回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間テストを実施します。	メ) ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい (2 時間)。	
第 14 回	対面	中間テストⅡの解答・解説および全体の総括 (これまでの学修内容の再確認) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 当該部分の配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい (2 時間)。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	全体の総括 (これまでの学修内容の再確認: 続) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、復習して下さい (2 時間)。	4 時間

科目名	経営組織論Ⅰ（経営）／経営組織（経済）		開講年度	2025
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。			
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。			
履修条件・留意点	・この科目はオンデマンドで実施されます。出席課題（小テスト）を忘れないようにしてください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	定期試験の他に、中間テストを行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年	ISBN	9784502295614	
参考書	稲葉祐之他，キャリアで語る経営組織 -- 個人の論理と組織の論理 第2 版，有斐閣，2022 年	ISBN	9784641222014	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	40		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認し			

	ます。 ・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになることが大事ですので、現実起こり得る事例についても、適宜言及します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	（事前学修） この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	オンデマンド	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 （特に重要な事項）欲求段階説、ERGモデル、動機付け－衛生理論、期待理論、職務特性理論	（事前学修） 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	オンデマンド	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 （特に重要な事項）組織コミットメントの変化、見えざる出資	（事前学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	オンデマンド	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 （特に重要な事項）満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決	（事前学修） 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	オンデマンド	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	（事前学修） 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	オンデマンド	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 （特に重要な事項）ストレッサ、ストレイ	（事前学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間

		ン、モデレータ、ソーシャル・サポート		
第7回	オンデマンド	中間テスト①	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 (事後学修) 当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テストⅠの解答・解説および「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリーダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 (特に重要な事項) 行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	(事前学修) 参考書第5章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 (事後学修) テキスト第9章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4 時間
第9回	オンデマンド	「組織学習：組織が学習するとは？ 環境変化に対応した学びとは？」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 (特に重要な事項) 組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECI モデル	(事前学修) 参考書第7章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 (事後学修) テキスト第10章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4 時間
第10回	オンデマンド	「組織文化：会社の文化に馴染む／馴染ませるとは？」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 (特に重要な事項) 基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化	(事前学修) 参考書第2章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 (事後学修) テキスト第12章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4 時間
第11回	オンデマンド	「組織社会化：入社したての従業員の定着のためには？」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 (特に重要な事項) 予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	(事前学修) 参考書第2章（再）、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 (事後学修) テキスト第14章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4 時間
第12回	オンデマンド	「ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティは経営成果に結びつくか？」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論	(事前学修) テキスト第15章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 (事後学修) テキスト第15章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4 時間
第13回	オンデマンド	中間テスト②	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）	4 時間

			メ) ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい (2 時間)。	
第 14 回	オンデマンド	中間テストⅡの解答・解説および全体の総括 (これまでの学修内容の再確認) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 当該部分の配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい (2 時間)。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	全体の総括 (これまでの学修内容の再確認: 続) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、復習して下さい (2 時間)。	4 時間

科目名	経営組織論Ⅰ		開講年度	2025
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。			
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	定期試験の他に、２回の中間テストを行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年		ISBN	978-4-502-29561-4
参考書	稲葉祐之他，キャリアで語る経営組織 -- 個人の論理と組織の論理 第 2 版，有斐閣，2022 年		ISBN	978-4-641-22201-4
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		40	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認し			

	ます。 ・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになることが大事ですので、現実起こり得る事例についても、適宜言及します。

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	（事前学修） この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	対面	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 （特に重要な事項）欲求段階説、ERGモデル、動機付け－衛生理論、期待理論、職務特性理論	（事前学修） 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	対面	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 （特に重要な事項）組織コミットメントの変化、見えざる出資	（事前学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	対面	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 （特に重要な事項）満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決	（事前学修） 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	対面	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	（事前学修） 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	対面	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 （特に重要な事項）ストレッサ、ストレイ	（事前学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間

		ン、モデレータ、ソーシャル・サポート		
第7回	対面	第1回～第6回の学修内容の再確認および中間テストⅠ 第1回～第6回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間テストを実施します。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 (事後学修) 当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4時間
第8回	対面	中間テストⅠの解答・解説および「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリーダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 (特に重要な事項) 行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	(事前学修) 参考書第5章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第9章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第9回	対面	「組織学習：組織が学習するとは？ 環境変化に対応した学びとは？」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 (特に重要な事項) 組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECIモデル	(事前学修) 参考書第7章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第10章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第10回	対面	「組織文化：会社の文化に馴染む／馴染ませるとは？」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 (特に重要な事項) 基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化	(事前学修) 参考書第2章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第12章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第11回	対面	「組織社会化：入社したての従業員の定着のためには？」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 (特に重要な事項) 予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	(事前学修) 参考書第2章(再)、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第14章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第12回	対面	「ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティは経営成果に結びつくか？」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論	(事前学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第13回	対面	第8回～第12回の学修内容の再確認および中間テストⅡ	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュ	4時間

		第 8 回～第 12 回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間テストを実施します。	メ) ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい (2 時間)。	
第 14 回	対面	中間テストⅡの解答・解説および全体の総括 (これまでの学修内容の再確認) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 当該部分の配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい (2 時間)。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	全体の総括 (これまでの学修内容の再確認: 続) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、復習して下さい (2 時間)。	4 時間

科目名	人的資源管理論（経営）／労務管理論Ⅰ（経済）	開講年度	2025
担当者	城戸 亮	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本企業等の組織において、人が仕事をする事、人に仕事をさせることに関する管理について、学修します。		
授業の目的及び概要	人生において、働くことは大きな部分を占めています。職場における仕組み、制度、経営者や働く者の意識を学ぶことは、社会に出る前の準備として必要となります。また、就職活動をする上でも参考となります。大学卒業後、社会に出て働く際に、職場において生じている様々な問題、現象について理解し、解決する能力を身につけることを授業の目的とします。皆さんが実際に就職し働く現場では、様々な人にまつわる悩ましい問題に1年目からぶつかることと思います。その際に、役立つ知識・考え方を学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	人的資源管理の理論・概念を理解し、説明することができる。 人的資源管理の仕組み、現状、課題について、理解し、実際の事例に当てはめて考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは、採点した上で返却し、講評します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9784502407017
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 新版, 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2018 年	ISBN	9784641184398
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「働くこと」について、知ることは、これから社会に出る学生にとって重要です。インターンシップ、就職活動にも役立ちます。また、業種によっては、若い頃から様々な人を動かしながら仕事をしていかなければならない場合もあり、経営学の科目の中でも、就職後実践で最も活用するものです。新聞、雑誌、ニュース、ドキュメンタリーなどでも「働くこと」は頻繁に取り上げられる題材です。これらにも広く関心を持つとともに、身近な働いている人に「職場がどのようなものなのか」を色々な機会に聞いておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。 第1章 人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。テキストの第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第2回	対面	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	対面	第3章 日本的経営の成り立ち / 戦略的人的資源管理 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義、戦略的人的資源管理	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	対面	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	対面	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	対面	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	対面	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型、 第1回～第6回までの復習	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。第1回～第6回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理・確認をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、第1回～第7回までのテキストの該当箇所を読んで知識の定着を図ります。	4時間
第8回	対面	中間テスト（第1回～第7回）【翌週等に変更する場合がありますので、直前の授業等で必ず日程を確認下さい。】	【予習】第1回～第7回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理・定着をしておきます。 【復習】中間テストの内容を思い出し、解答の自信のなかった箇所について、テキスト等の該当箇所を読んで知識の確認をしておきます。	4時間
第9回	対面	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業における	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

		る人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における学習		
第10回	対面	第9章報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	対面	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	対面	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	対面	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み 第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第12・13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	対面	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方（テレワーク、副業）、インクルージョン（Inclusion：包摂）、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバルHRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	全体総括 第1回～第14回までの復習	【予習】第1回～第14回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、自信のない箇所を中心にテキスト等をもう一度読み込み、知識の定着を図ります。	4時間

科目名	人的資源管理論（経営）／労務管理論Ⅰ（経済）	開講年度	2025
担当者	城戸 亮	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本企業等の組織において、人が仕事をする事、人に仕事をさせることに関する管理について、学修します。		
授業の目的及び概要	人生において、働くことは大きな部分を占めています。職場における仕組み、制度、経営者や働く者の意識を学ぶことは、社会に出る前の準備として必要となります。また、就職活動をする上でも参考となります。大学卒業後、社会に出て働く際に、職場において生じている様々な問題、現象について理解し、解決する能力を身につけることを授業の目的とします。皆さんが実際に就職し働く現場では、様々な人にまつわる悩ましい問題に1年目からぶつかることと思います。その際に、役立つ知識・考え方を学修します。毎回出席確認を兼ねた小テスト等をラーニングポータルに掲載しますので、受講後必ず回答して下さい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	人的資源管理の理論・概念を理解し、説明することができる。 人的資源管理の仕組み、現状、課題について、理解し、実際の事例に当てはめて考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト、小レポート等への講評（回答へのコメントなど）		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9784502407017
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 新版, 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2018 年	ISBN	9784641184398
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「働くこと」について、知ることは、これから社会に出る学生にとって重要です。インターンシップ、就職活動にも役立ちます。また、業種によっては、若い頃から様々な人を動かしながら仕事をしていかなければならない場合もあり、経営学の科目の中でも、就職後実践で最も活用するものです。新聞、雑誌、ニュース、ドキュメンタリーなどでも「働くこと」は頻繁に取り上げられる題材です。これらにも広く関心を持つとともに、身近な働いている人に「職場がどのようなものなのか」を色々な機会に聞いておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。 第1章 人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。テキストの第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第2回	オンデマンド	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	オンデマンド	第3章 日本的経営の成り立ち / 戦略的人的資源管理 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義、戦略的人的資源管理	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	オンデマンド	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	オンデマンド	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	オンデマンド	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	オンデマンド	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型、	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、第1回～第7回までのテキストの該当箇所を読んで知識の定着を図ります。	4時間
第8回	オンデマンド	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業における人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

		学習		
第9回	オンデマンド	第9章報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第10回	オンデマンド	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	オンデマンド	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	オンデマンド	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み	【予習】第12章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	オンデマンド	第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	オンデマンド	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方（テレワーク、副業）、インクルージョン（Inclusion：包摂）、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバルHRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	全体総括 第1回～第14回までの復習	【予習】第1回～第14回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、自信のない箇所を中心にテキスト等をもう一度読み込み、知識の定着を図ります。	4時間

科目名	企業論	開講年度	2025
担当者	垣谷 幸介	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	(1) 企業はいつ、どのようにできたのかについて (2) 21 世紀の日本の企業の特徴や課題について 学修の上、現代社会における企業を理解する。		
授業の目的及び概要	「なぜ企業があるのか？」という基本的な問いに対して、平易な言葉で誰にでも回答できるようになること。 講義の概要は、①標準的な教科書を用いながら、②講義資料等での用語や理論の理解を深め、③現在事象として起こっている経済・経営現象を理解できるように試み、④小テスト等で理解力や実践力を高めることです。受講者数によりますが、授業中に多くの発言することを求めます。		
履修条件・留意点	経営学基礎を修得の上、経営管理論、経営戦略論、経営組織論を受講していることが望ましい（必須ではない）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 企業と会社の違いを「知識のない人にも」説明できる。 (2) 企業の存在意義について「知識のない人にも」説明できる。 (3) 21 世紀の日本の企業の特徴や抱える課題について自分なりの回答を持つことができる。 の 3 点を目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問等は、講義開始前・講義終了後及び随時メール・Teams チャットにて受け付けます。中間テスト等フィードバックについては、模範解答の公表などを通じて可能な限り行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①企業論（第 4 版），三戸 浩・池内 秀己・勝部 伸夫（編著），有斐閣，2018 年	ISBN	①9784641221192
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業に興味を持ち、日々の経済・経営現象を理解しようと心がけ、新聞や雑誌に目を通すことを心掛けて下さい。それにより、教科書や講義での理解度から、飛躍的に向上できることが期待できます。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	第1回：ガイダンス（受講上の注意、成績評価についてなど）	【予習】事前にシラバスを確認しておくこと。 【復習】シラバスと講義ノートをよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第2回	対面	第2回：現代企業を見る視点①これまでの企業観～19世紀の企業観（教科書序章）	【予習】事前に教科書（序章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（序章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第3回	対面	第3回：現代企業を見る視点②20世紀の企業観（教科書序章）	【予習】事前に教科書（序章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（序章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第4回	対面	第4回：財・サービスの提供機関としての企業①経済発展と生活の変化（教科書第1章）	【予習】事前に教科書（第1章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第5回	対面	第5回：財・サービスの提供機関としての企業②大企業の実態（教科書第1章第2項、第3章第1項）	【予習】事前に教科書（第1章第2項、第3章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第2項、第3章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第6回	対面	第6回：財・サービスの提供機関としての企業③企業の長期戦略（教科書第1章第3項）	【予習】事前に教科書（第1章第3項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第3項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第7回	対面	中間テスト（第1回～第6回までの範囲） 第7回：株式会社としての企業①株式会社の機能と特徴（教科書第2章第1項）	【予習】事前に教科書（第2章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第2章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第8回	対面	第8回：株式会社としての企業②株式会社の現実（教科書第2章第2項）	【予習】事前に教科書（第2章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第2章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第9回	対面	第9回：大企業としての企業①大企業の支配構造（教科書第3章第2項）	【予習】事前に教科書（第3章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第10回	対面	第10回：大企業としての企業②日本の大企業の経営者支配の実態（教科書第3章第4項）	【予習】事前に教科書（第3章第4項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第4項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第11回	対面	第11回：大企業としての企業③コーポレートガバナンス（教科書第3章第5項）	【予習】事前に教科書（第3章第5項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第5項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4 時間
第12回	対面	第12回：組織としての企業①官僚制と企業形態（教科書第4章第1項）	【予習】事前に教科書（第4章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。	4 時間

			【復習】教科書（第4章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	
第13回	対面	第13回：組織としての企業②企業組織の諸形態（教科書第4章第2項）	【予習】事前に教科書（第4章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第4章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第14回	対面	第14回：社会的器官としての企業—企業の社会的責任（教科書第6章）	【予習】事前に教科書（第6章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第6章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第15回	オンデマンド	第15回：まとめ—企業の社会的責任からSDGsへ—企業は誰のためにあるのか？ 第1回から第14回までの復習	【予習】事前に教科書（第6章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第6章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間

科目名	経営戦略論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業を持続的に成長させるための戦略的行動について、事例を交えて学ぶ		
授業の目的及び概要	経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、企業を持続的に成長させるための具体的な戦略的行動について、皆さんの身近な/知っている企業の事例を参照しながら学びます。 <戦略的行動（学修対象）> 1. 顧客へ価値提供しながら自社のフィールドを拡げる 2. 自社の能力・リソースの限界を他社との関係づくりで補う 3. デジタル技術を経営戦略に活かす テキストに基づいて戦略的行動の基礎知識を解説し、企業の実践事例とクロスして学ぶことで、理解を深めます。 経営学基礎・経営戦略論Ⅰから連続して受講することで、よりスムーズな学修ができます。		
履修条件・留意点	経営学基礎および経営戦略論Ⅰを履修済みであることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 「顧客へ価値提供しながら自社のフィールドを拡げる」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる 2. 「自社の能力・リソースの限界を他社との関係づくりで補う」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる 3. 「デジタル技術を経営戦略に活かす」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	授業資料（レジュメ）については授業ごとに提示します。	ISBN	なし
参考書	① 経営戦略入門，網倉久永・新宅純二郎，日本経済新聞出版社，2011 年 ② 1 からのデジタル経営，伊藤宗彦・松尾博文・富田純一，碩学舎，2022 年 ③ 経営学入門キーコンセプト，井原久光編，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	①9784532134037 ②9784502410918 ③9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この科目は、経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、「企業の戦略的行動」やについて学んでいきます。経営戦略論Ⅰでは、一企業内で完結する競争戦略、事業戦略について学修しましたが、その内容を発展させるものとなります。経営学基礎・経営戦略論Ⅰから連続して受講することで、よりスムーズな学修ができます。 ケーススタディ（事例研究）の方法と学修における活かし方についても学びます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション、経営戦略論Ⅰの復習】 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法の説明経営戦略論Ⅰの復習ケーススタディを行う企業の紹介	【予習】シラバスの授業内容をよく読んでおいてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	3.5時間
第2回	対面	【リクルートの戦略的行動（ケーススタディ-1）】 就職情報誌で創業したリクルートは、経営危機に直面しながらこれを克服し、求人・求職、住宅、グルメ、旅行、美容、結婚など、私たちの生活を取り囲むようにWebサービスを提供する企業に成長しています。その戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第3回	対面	【楽天、ソフトバンクの戦略的行動（ケーススタディ-2）】 私たちに身近な企業である楽天、ソフトバンクは、創業経営者が掲げるミッションとビジョンを起点に、これを具体化し課題を克服しながら成長してきました。その戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第4回	対面	【イノベーション・マネジメント【戦略的行動1-1】】 イノベーション・マネジメント基礎知識ケーススタディを行う7社のイノベーション・マネジメント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第5回	対面	【多角化、製品ポートフォリオ・マネジメント【戦略的行動1-2】】 多角化、製品ポートフォリオ・マネジメントの基礎知識ケーススタディを行う7社の多角化、製品ポートフォリオ・マネジメント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第6回	対面	【プラットフォーム-1【戦略的行動3-1】】 プラットフォームとは？（基礎知識）リクルート、楽天、ソフトバンクのプラットフォーム戦略	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第7回	対面	【トヨタ、テスラの戦略的行動（ケーススタディ-3）】 トヨタは自動車の世界販売台数 No1 であり、トヨタ生産方式などにより世界の産業に影響を持ちます。テスラは、脱炭素の動きの中でEV（電気自動車）をバッテリーの高コスト、航続距離、充電設備などの課題を克服して収益化の道筋を開きました。自動車のソフトウェア化をリードする存在でもあります。世界の自動車業界を代表する2社の戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第8回	対面	【プラットフォーム-2【戦略的行動3-1】】	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料	4時間

		プラットフォーム戦略：ネットワーク効果、アマチュアエコノミートヨタ、テスラのプラットフォーム戦略	(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	
第9回	対面	【垂直統合と水平分業【戦略的行動2-1】】 垂直統合と水平分業の基礎知識ケーススタディを行う7社の垂直統合と水平分業	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第10回	対面	【グローバル経営：世界のリソースと市場を成長に活かす【戦略的行動1-3】】 グローバル経営の基礎知識ケーススタディを行う7社のグローバル経営	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第11回	対面	【パナソニック、ソニーの戦略的行動(ケーススタディ-4)】 日本が世界に誇る産業だったエレクトロニクス・家電は、韓国・中国企業の台頭、デジタル化により業界内での大きな変動が起き、代表的企業であるパナソニック、ソニーは経営の再構築を遂行しています。 ・パナソニックは、持続可能なエネルギーソリューションに焦点を当て、電気自動車用のバッテリーや再生可能エネルギー関連の技術開発に力を入れています。また、グループ経営改革を進め事業会社制への移行を図り、より迅速な意思決定と効率的な経営を目指しています。 ・ソニーは、エンターテインメントとテクノロジーの融合を強化し、ゲーム、映画、音楽などのコンテンツ事業に注力しています。PlayStation 5の成功や映画部門のヒット作がその一例です。 この2社の戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第12回	対面	【M&A、戦略的アライアンス【戦略的行動2-2】】 M&A、戦略的アライアンスの基礎知識ケーススタディを行う7社のM&A、戦略的アライアンス	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第13回	対面	【AIによる効率化と価値創出【戦略的行動3-2】】 AIの基礎知識と応用分野ケーススタディを行う7社のAIによる効率化と価値創出	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第14回	対面	【エコシステムにより多様性を取り込む【戦略的行動2-3】】 エコシステムとは？：経済圏としての持続的な成長ケーススタディを行う7社のエコシステムエコシステム構築の重要ポイント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第15回	オンデマンド	【振り返りとまとめ(オンデマンド)】 ケーススタディを行った7社の経営戦略と戦略的行動全体まとめ、ふりかえり	【予習】今までの総復習をします。あらかじめわからないところを洗い出してから、視聴してください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4.5時間

科目名	経営戦略論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業を持続的に成長させるための戦略的行動について、事例を交えて学ぶ		
授業の目的及び概要	経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、企業を持続的に成長させるための具体的な戦略的行動について、皆さんの身近な/知っている企業の事例を参照しながら学びます。 <戦略的行動（学修対象）> 1. 顧客へ価値提供しながら自社のフィールドを拡げる 2. 自社の能力・リソースの限界を他社との関係づくりで補う 3. デジタル技術を経営戦略に活かす テキストに基づいて戦略的行動の基礎知識を解説し、企業の実践事例とクロスして学ぶことで、理解を深めます。 経営学基礎・経営戦略論Ⅰから連続して受講することで、よりスムーズな学修ができます。		
履修条件・留意点	経営学基礎および経営戦略論Ⅰを履修済みであることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 「顧客へ価値提供しながら自社のフィールドを拡げる」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる 2. 「自社の能力・リソースの限界を他社との関係づくりで補う」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる 3. 「デジタル技術を経営戦略に活かす」ための具体的な経営戦略と事例を理解し説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	授業資料（レジュメ）については授業ごとに提示します。	ISBN	なし
参考書	① 経営戦略入門，網倉久永・新宅純二郎，日本経済新聞出版社，2011 年 ② 1 からのデジタル経営，伊藤宗彦・松尾博文・富田純一，碩学舎，2022 年 ③ 経営学入門キーコンセプト，井原久光編，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	①9784532134037 ②9784502410918 ③9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この科目は、経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、「企業の戦略的行動」やについて学んでいきます。経営戦略論Ⅰでは、一企業内で完結する競争戦略、事業戦略について学修しましたが、その内容を発展させるものとなります。経営学基礎・経営戦略論Ⅰから連続して受講することで、よりスムーズな学修ができます。 ケーススタディ（事例研究）の方法と学修における活かし方についても学びます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【オリエンテーション、経営戦略論Ⅰの復習】 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法の説明経営戦略論Ⅰの復習ケーススタディを行う企業の紹介	【予習】シラバスの授業内容をよく読んでおいてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	3.5時間
第2回	オンデマンド	【リクルートの戦略的行動（ケーススタディ-1）】 就職情報誌で創業したリクルートは、経営危機に直面しながらこれを克服し、求人・求職、住宅、グルメ、旅行、美容、結婚など、私たちの生活を取り囲むようにWebサービスを提供する企業に成長しています。その戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第3回	オンデマンド	【楽天、ソフトバンクの戦略的行動（ケーススタディ-2）】 私たちに身近な企業である楽天、ソフトバンクは、創業経営者が掲げるミッションとビジョンを起点に、これを具体化し課題を克服しながら成長してきました。その戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第4回	オンデマンド	【イノベーション・マネジメント【戦略的行動1-1】】 イノベーション・マネジメント基礎知識ケーススタディを行う7社のイノベーション・マネジメント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第5回	オンデマンド	【多角化、製品ポートフォリオ・マネジメント【戦略的行動1-2】】 多角化、製品ポートフォリオ・マネジメントの基礎知識ケーススタディを行う7社の多角化、製品ポートフォリオ・マネジメント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第6回	オンデマンド	【プラットフォーム-1【戦略的行動3-1】】 プラットフォームとは？（基礎知識）リクルート、楽天、ソフトバンクのプラットフォーム戦略	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第7回	オンデマンド	【トヨタ、テスラの戦略的行動（ケーススタディ-3）】 トヨタは自動車の世界販売台数 No1 であり、トヨタ生産方式などにより世界の産業に影響を持ちます。テスラは、脱炭素の動きの中でEV（電気自動車）をバッテリーの高コスト、航続距離、充電設備などの課題を克服して収益化の道筋を開きました。自動車のソフトウェア化をリードする存在でもあります。世界の自動車業界を代表する2社の戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第8回	オンデ	【プラットフォーム-2【戦略的行動3-1】】	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料	4時間

	マンド	プラットフォーム戦略：ネットワーク効果、アマチュアエコノミートヨタ、テスラのプラットフォーム戦略	(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	
第9回	オンデマンド	【垂直統合と水平分業【戦略的行動2-1】】 垂直統合と水平分業の基礎知識ケーススタディを行う7社の垂直統合と水平分業	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第10回	オンデマンド	【グローバル経営：世界のリソースと市場を成長に活かす【戦略的行動1-3】】 グローバル経営の基礎知識ケーススタディを行う7社のグローバル経営	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第11回	オンデマンド	【パナソニック、ソニーの戦略的行動(ケーススタディ-4)】 日本が世界に誇る産業だったエレクトロニクス・家電は、韓国・中国企業の台頭、デジタル化により業界内での大きな変動が起き、代表的企業であるパナソニック、ソニーは経営の再構築を遂行しています。 ・パナソニックは、持続可能なエネルギーソリューションに焦点を当て、電気自動車用のバッテリーや再生可能エネルギー関連の技術開発に力を入れています。また、グループ経営改革を進め事業会社制への移行を図り、より迅速な意思決定と効率的な経営を目指しています。 ・ソニーは、エンターテインメントとテクノロジーの融合を強化し、ゲーム、映画、音楽などのコンテンツ事業に注力しています。PlayStation 5の成功や映画部門のヒット作がその一例です。 この2社の戦略的行動について学びます。	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第12回	オンデマンド	【M&A、戦略的アライアンス【戦略的行動2-2】】 M&A、戦略的アライアンスの基礎知識ケーススタディを行う7社のM&A、戦略的アライアンス	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第13回	オンデマンド	【AIによる効率化と価値創出【戦略的行動3-2】】 AIの基礎知識と応用分野ケーススタディを行う7社のAIによる効率化と価値創出	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第14回	オンデマンド	【エコシステムにより多様性を取り込む【戦略的行動2-3】】 エコシステムとは？：経済圏としての持続的な成長ケーススタディを行う7社のエコシステムエコシステム構築の重要ポイント	【予習】ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第15回	オンデマンド	【振り返りとまとめ(オンデマンド)】 ケーススタディを行った7社の経営戦略と戦略的行動全体まとめ、ふりかえり	【予習】今までの総復習をします。あらかじめわからないところを洗い出してから、視聴してください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4.5時間

科目名	経営戦略論 I	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて		
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No.1 だった企業が、後発企業に追い抜かされるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。 ■この科目の前に「経営学基礎」を履修し、続けて「経営戦略論 II」を受講することで、より体系的に、そして、深く経営戦略論の知識を修得することができます。		
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、初回の講義の際に、科目担当教員に声をかけてください。補助教材を渡します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解し、それらに基づいて、事例について解釈することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解し、それらに基づいて企業がとるべき戦略について理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間試験の採点後、間違いが多かった箇所について詳しく説明をします。 ・中間試験の受験後にアンケートを実施し、意見、要望、コメントについて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	経営戦略入門（第2版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年	ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）	0	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。 ・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： ①講義中にテキストの中でも特に重要な箇所の朗読、書き込みを行います。テキストは毎回必ず持参してください。 ②予習や復習用の宿題を配布します。必ず取り組み、保管して何度も見返すようにしてください。 ③重要なお知らせは、ラーニングポータル（変更がある場合は授業内で告知します）を経由して行います。授業後に毎週確認をしておくようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】（確認テスト） なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。 ■キーコンセプト：経営戦略の役割 ■確認テスト（経営学基礎で学んだ経営戦略に関する知識について）を行います。経営学基礎を履修していない人は、科目担当教員に声をかけてください。どのような内容を自習するとスムーズに履修できるかを指導します。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモをしておくこと。 【事後学修】 ・確認テストで正解ができなかった箇所を重点的に、復習をしておくこと。	4時間
第2回	対面	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第3回	対面	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第4回	対面	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間

第5回	対面	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、(企業の)成長性・収益性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いながら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場占有率、PPM、規模の経済、経験効果	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第6回	対面	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略 ■中間試験①に向けた復習も行います。	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第7回	対面	中間試験① 試験範囲：第1回～第5回（+第6回の中間試験①に向けた復習） 持ち込み：一切不可 第1回～第6回（企業戦略論2まで）が試験範囲です。用語の暗記だけではなく、正しい使い方を問う問題が出ます。ワークシート類をしっかりと見て、復習をしておきましょう。	【事前学修】 ・第1回から第6回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行う。 【事後学修】 ・中間試験②が近いので、分からなかった箇所はすぐに復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方が良い。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・ラーニングポータルで復習用小テストを満点になるまで受験しておくこと。 ・講義資料を見て、第10回の中間試験②に備えておくこと。	4時間
第9回	対面	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間
第10回	対面	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょうか。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間

		習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略		
第11回	対面	中間試験② 試験範囲：第1回～第9回（＋第10回の 中間試験②に向けた復習） 持ち込み：一切不可 前半に質問タイムを設けますが、この日ま でに疑問があれば、科目担当教員に聞いて おいてください。	【事前学修】 ・第1回から第9回の重要箇所を中心に復習をして おくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、 ワークシートや宿題を繰り返す行うこと。 【事後学修】 ・自信がなかった問題について確認をしておくこと。	4時間
第12回	対面	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似さ れてしまうと、価格競争に陥ります。他社 からの模倣から身を守るためにはどうす ればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理 論、VRIO分析、コア・コンピタンス	【事前学修】 ・テキスト3章、補助資料を読んで、宿題の予習ワ ークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどう すれば良いのでしょうか、また、後発者にな ってしまった企業はどのような戦略をた てるべきでしょうか。この回は、競争から 抜け出すための戦略論について学びます。 キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、 タイムベース戦略、プラット・フォーム戦 略	【事前学修】 ・テキスト11章、補助資料を読んで、宿題の予習ワ ークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第14回	対面	■経営戦略の考え方（経営戦略論Ⅰのまと め） 今までの講義を振り返り、経営戦略とはど のような考え方をするのかについて理解 し、自身のメジャーとの関係性やこれから の学びにつなげます。また、定期試験に向 けた問題演習を行います。 ■模擬試験：中間試験1、中間試験2の追 ・再試を含んでいます。しっかり勉強して良 い点を取りましょう。	【事前学修】 ・模擬試験に向けて総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要 であれば、科目担当教員に質問すること。	4時間
第15回	オンデ マンド	■模擬試験の解説（オンデマンド） オンデマンドで第14回の模擬試験の解説 を行います。模擬試験に出た問題以外への 応用方法も解説するので、忘れずに視聴し てください。Formsから課題テストに答え ることで出席とします。	【事前学修】 ・模擬試験の分からなかった箇所を明らかにしてお くこと。 【事後学修】 ・課題テストに解答し、復習をすること。	4時間

科目名	経営戦略論 I	開講年度	2025
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて		
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No.1 だった企業が、後発企業に追い抜かされるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。 ■この科目の前に「経営学基礎」を履修し、続けて「経営戦略論 II」を受講することで、より体系的に、そして、深く経営戦略論の知識を修得することができます。		
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、初回の講義の際に、科目担当教員に声をかけてください。補助教材を渡します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解し、それらに基づいて、事例について解釈することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解し、それらに基づいて企業がとるべき戦略について理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間試験の採点後、間違いが多かった箇所について詳しく説明をします。 ・中間試験の受験後にアンケートを実施し、意見、要望、コメントについて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営戦略入門（第2版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年	ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（%）	0	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。 ・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： ①講義中にテキストの中でも特に重要な箇所の朗読、書き込みを行います。テキストは毎回必ず持参してください。 ②予習や復習用の宿題を配布します。必ず取り組み、保管して何度も見返すようにしてください。 ③重要なお知らせは、ラーニングポータル（変更がある場合は授業内で告知します）を経由して行います。授業後に毎週確認をしておくようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】（確認テスト） なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。 ■キーコンセプト：経営戦略の役割 ■確認テスト（経営学基礎で学んだ経営戦略に関する知識について）を行います。経営学基礎を履修していない人は、科目担当教員に声をかけてください。どのような内容を自習するとスムーズに履修できるかを指導します。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモをしておくこと。 【事後学修】 ・確認テストで正解ができなかった箇所を重点的に、復習をしておくこと。	4時間
第2回	対面	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第3回	対面	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第4回	対面	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間

第5回	対面	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、(企業の)成長性・収益性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いながら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場占有率、PPM、規模の経済、経験効果	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第6回	対面	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略 ■中間試験①に向けた復習も行います。	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第7回	対面	中間試験① 試験範囲：第1回～第5回（+第6回の中間試験①に向けた復習） 持ち込み：一切不可 第1回～第6回（企業戦略論2まで）が試験範囲です。用語の暗記だけではなく、正しい使い方を問う問題が出ます。ワークシート類をしっかりと見て、復習をしておきましょう。	【事前学修】 ・第1回から第6回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行う。 【事後学修】 ・中間試験②が近いので、分からなかった箇所はすぐに復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方が良い。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・ラーニングポータルで復習用小テストを満点になるまで受験しておくこと。 ・講義資料を見て、第10回の中間試験②に備えておくこと。	4時間
第9回	対面	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間
第10回	対面	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょうか。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間

		習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略		
第11回	対面	中間試験② 試験範囲：第1回～第9回（＋第10回の 中間試験②に向けた復習） 持ち込み：一切不可 前半に質問タイムを設けますが、この日ま でに疑問があれば、科目担当教員に聞いて おいてください。	【事前学修】 ・第1回から第9回の重要箇所を中心に復習をして おくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、 ワークシートや宿題を繰り返し行うこと。 【事後学修】 ・自信がなかった問題について確認をしておくこと。	4時間
第12回	対面	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似さ れてしまうと、価格競争に陥ります。他社 からの模倣から身を守るためにはどうす ればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理 論、VRIO分析、コア・コンピタンス	【事前学修】 ・テキスト3章、補助資料を読んで、宿題の予習ワー クをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどう すれば良いのでしょうか、また、後発者にな ってしまった企業はどのような戦略をた てるべきでしょうか。この回は、競争から 抜け出すための戦略論について学びます。 キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、 タイムベース戦略、プラット・フォーム戦 略	【事前学修】 ・テキスト11章、補助資料を読んで、宿題の予習ワー クをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第14回	対面	■経営戦略の考え方（経営戦略論Ⅰのまと め） 今までの講義を振り返り、経営戦略とはど のような考え方をするのかについて理解 し、自身のメジャーとの関係性やこれから の学びにつなげます。また、定期試験に向 けた問題演習を行います。 ■模擬試験：中間試験1、中間試験2の追 ・再試を含んでいます。しっかり勉強して良 い点を取りましょう。	【事前学修】 ・模擬試験に向けて総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要 であれば、科目担当教員に質問すること。	4時間
第15回	オンデ マンド	■模擬試験の解説（オンデマンド） オンデマンドで第14回の模擬試験の解説 を行います。模擬試験に出た問題以外への 応用方法も解説するので、忘れずに視聴し てください。Formsから課題テストに答え ることで出席とします。	【事前学修】 ・模擬試験の分からなかった箇所を明らかにしてお くこと。 【事後学修】 ・課題テストに解答し、復習をすること。	4時間

科目名	経営戦略論 I		開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて			
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No.1 だった企業が、後発企業に追い抜かされるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。			
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、必ず受講するようにしてください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	必要に応じてアンケートを実施し、質問に対してフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	経営戦略入門（第2版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年		ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年		ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		40	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目			

	指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。 ・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論 II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： オンデマンド講義になりますので、時間を決めて集中し視聴してください。理解度に応じて繰り返し視聴し知識を定着してください。 ■出席方法 毎回、講義の最後に出席確認のためのアンケートを実施します。ビデオを視聴後は必ず、アンケートに回答してください。アンケートへの回答を確認した時点で出席とします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】 なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモしておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、（企業の）成長性・収益性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いなが	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間

		ら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場占有率、PPM、規模の経済、経験効果		
第6回	オンデマンド	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	これまでの復習①	【事前学修】 ・講義を受けるにあたり、これまでの内容を予習しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料について、復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方がよい。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょう。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	これまでの復習②	【事前学修】 ・講義を受けるにあたり、これまでの内容を予習しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料について、復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似されてしまうと、価格競争に陥ります。他社からの模倣から身を守るためにはどうすればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理	【事前学修】 ・テキスト3章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間

		論、VRIO 分析、コア・コンピタンス		
第13回	オンデマンド	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどうすれば良いでしょうか、また、後発者になってしまった企業はどのような戦略をたてるべきでしょうか。この回は、競争から抜け出すための戦略論について学びます。キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、タイムベース戦略、プラット・フォーム戦略	【事前学修】 ・テキスト11章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	これまでの復習③ 今までの講義を振り返り、経営戦略とはどのような考え方をするのかについて理解し、自身のメジャーとの関係性やこれからの学びにつなげます。 またアンケートなどでコメントがあった分かりにくい箇所を取り上げて、詳細に説明します。	【事前学修】 ・総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要であれば、科目担当教員に質問すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習について：定期試験対策	【事前学修】 ・これまで配布された資料を確認しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料を復習をすること。	4 時間

科目名	ベンチャービジネス論	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ベンチャービジネスの成長段階に応じた戦略と成長に必要な機能について学ぶ		
授業の目的及び概要	起業家だけでなく組織に所属して働く人も、変化が激しい時代に、ベンチャービジネスのマインドや知識が求められます。 この授業では、ベンチャービジネスの基本概念から始まり、ビジネスアイデアの創出、ビジネスプランの作成、資金調達、プロダクト開発、マーケティング、経営管理、グローバル展開、社会的責任など、ベンチャービジネスに関する幅広いトピックをカバーします。 各回の講義では、理論的な知識とともに、メルカリ、Preferred Networks など日本を代表するベンチャー企業の具体的な事例を紹介し、学生の皆さんが実践的な視点から学べるようにします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ビジネスアイデアの発見とその評価方法の基礎を理解し説明できる。 2. ビジネスプランの作成方法の基礎を理解し説明できる。 3. ベンチャー企業・ビジネスにおけるチーム作り、資金調達など成長に必要な機能についての基礎を理解し説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	・ベンチャーマネジメント：事業創造入門，長谷川博和，日本経済新聞出版社，2010 年 ※ 毎回の授業のテキストの該当章（抜粋）のコピーを、その前週の授業にて配布します。 ・授業資料（レジュメ）を授業ごとに提示します。	ISBN	9784532133917
参考書	① 中小企業・スタートアップを読み解く，加藤厚海ら，有斐閣，2023 年 ② ベンチャー経営論，長谷川博和，東洋経済新報社，2018 年	ISBN	①9784641151048 ②9784492502969
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	企業が「変化に適應」して生き残っていくために、経営戦略を継続的にアップデートしていくことの重要性が高まっています。 大手企業は、既存の組織での変革には限界があることから、社内ベンチャー制度を創設したり、オープンイノベーション（特徴ある戦略・技術を持つベンチャー企業とのパートナーシップ）を推進しています。 起業を志す学生はもちろん、企業への就職を目指す方とっても、ベンチャービジネスの知識は力になります。 ベンチャービジネスについて学び、自らのキャリアに活かしたい方の履修を歓迎します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法の説明ベンチャー企業の意義 【テキスト第1章】	シラバスの授業内容を良く読んでおいてください。テキストの該当箇所を読み、復習する。	2時間
第2回	対面	【ベンチャー企業の事業構想段階-1】 【テキスト第2章】 ベンチャー企業の成長段階創業前の課題とその解決策新しいアイデアを調達する方法シーズ志向とニーズ志向のバランス	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第3回	対面	【ベンチャー企業の事業構想段階-2】 【テキスト第2章】 アイデアの評価方法ビジネスプランの作成方法大組織の事業構想の進め方の事例ベンチャー企業の創業タイミングの事例	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第4回	対面	【スタートアップ段階】 【テキスト第3章】 設立後の課題と解決策スタートアップ段階で軌道に乗せるための戦略ベンチャー企業のブランド戦略キャッシュフローの予測とJカーブの想定	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第5回	対面	【成長段階】 【テキスト第4章】 成長段階の課題と解決策ベンチャー企業の成長段階と3つの死の谷ベンチャー企業の存続率ベンチャー企業と社内ベンチャーでの存続率の違い	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第6回	対面	【最適な起業家や経営チームの組成：成長に必要な機能-1】 【テキスト第5章】 成功する起業家企業家のバックグラウンド会社理念の重要性最適な経営チームの組成社長の交代が企業成長に与える影響	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第7回	対面	【優秀な人材の確保、教育育成：成長に必要な機能-2】 【テキスト第6章】 持続的成長のために必要な人材戦略人事マネジメントと報酬制度の整合性教育育成の仕組み	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第8回	対面	【知的財産の確保：成長に必要な機能-3】 【テキスト第7章】 知的財産の定義と出願大学発ベンチャー企業の現状	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第9回	対面	【資金調達：成長に必要な機能-4】 【テキスト第8章】 ベンチャー企業の資金ニーズ資本政策	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間
第10回	対面	【ベンチャーキャピタルの活用戦略：成長に必要な機能-5】 【テキスト第9章】 ベンチャーキャピタルの概要投資パフォーマンスの向上日本のベンチャーキャピ	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4時間

		タルの支援機能ベンチャーキャピタルとの付き合い方		
第11回	対面	【アントレプレナーシップ・フォーメーション：成長に必要な機能-6】 [テキスト第10章] 出資者との協創関係債権者との協創関係経営陣・従業員との協創関係大企業との協創関係専門家との協創関係メンター・エンジェルの貢献の事例	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4 時間
第12回	対面	【企業価値の算定・評価：成長に必要な機能-7】 [テキスト第11章] 企業価値評価企業評価の事例	テキストの該当箇所を読み、予習・復習する。	4 時間
第13回	対面	【株式公開、M&A をいかに成し遂げるのか？】 株式公開市場と M&A 市場株式公開と M&A のメリット・デメリット	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第14回	対面	【ベンチャー企業の失敗と教訓】 失敗事例の分析失敗から学ぶ教訓事例：過去の失敗事例とその教訓	授業での説明や授業配布資料を基に復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	【振り返り、まとめ（オンデマンド）】 ビジネスアイデアの発見から成長企業・事業へと至る道のりベンチャービジネス論を社会に出て活かすために	総復習をし、定期試験に備えること。	4.5 時間

科目名	中小企業経営論	開講年度	2025
担当者	竹田 次郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	中小企業及び中小企業の経営について理解し、その課題について考える。		
授業の目的及び概要	現在の日本において、働く人の大多数が中小企業で働き、企業数でもほとんどが中小企業です。日本の産業は、このような中小企業によって成り立っているといっても過言ではありません。このような中小企業には、大企業とは異なる性質があります。本科目では、そのような特質を見据えながら、中小企業が日々どのように活動しているのか、どのように直面する問題を解決しているのか、詳しく見ていきます。一口に中小企業といっても、その内容は様々です。本授業では、個々の具体的な事例に基づきながら、激変する現代の産業・経済のなかで、中小企業が直面する課題について様々な角度から見ることによって、中小企業の経営について考えていきます。このことは皆さんが社会に出て企業等で働くとき、企業経営や現実の経済について理解する助けになると考えます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 中小企業とは何かについて、定義や事例を用いて説明できる。 ・ 戦後の中小企業の歩みについて経済、社会、環境の変化とともに説明できる。 ・ 中小製造業・商業の現状と課題について説明できる。 ・ 現代の中小企業が直面する課題とそれに対する方策について知識が身に着いている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ コメント・シートを用いて理解度を確認し、理解不足の場合は補足します。 ・ 授業に関する質問・意見についてはチャットか電子メールでお寄せ下さい。極力はやくリプライします。 ・ 中間試験は返却し、理解不足や誤解の箇所を明らかにします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、セメントメーカーで 20 年以上に渡って人事部門や会計部門で業務に従事しており、人事課長の経験も有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	21 世紀中小企業論, 渡辺幸男他, 有斐閣, 2022 年	ISBN	9784641221956
参考書	中小企業・スタートアップを読み解く： 伝統と革新, 地域と世界, 加藤厚海他, 有斐閣, 2023 年	ISBN	9784641151048
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	（先ず、ガイダンスとして、授業の内容、進め方、成績評価などについての説明をした後、次のテーマを扱います） 中小企業で働くこと ・働く場としての中小企業の特徴は？	予習・復習で、テキスト第1章を熟読すること。	4時間
第2回	対面	中小企業の創業と進化 ・創業の仕方は？ ・事業の仕組みをどうつくるか？ ・成長する企業は？ しない企業は？	予習・復習で、テキスト第2章を熟読すること。	4時間
第3回	対面	中小企業とは何か―多様性と共通性 ・規模が中小とは？ ・中小企業の経営組織は独特か？ ・カネの調達の難しさ ・中小企業もいろいろ	予習・復習で、テキスト第3章を熟読すること。	4時間
第4回	対面	戦後日本の中小企業問題の推移 ・戦後復興～行動成長～減速経済～長期停滞の中、中小企業にはどういう問題があったか？ ・コロナ大不況のなかの中小企業問題は？	予習・復習で、テキスト第4章を熟読すること。	4時間
第5回	対面	戦後日本の中小企業発展の軌跡 ・戦後復興～行動成長～減速経済～長期停滞の中、中小企業はどう生き抜いたか？ ・コロナ大不況を中小企業はどう乗り越えたか？	予習・復習で、テキスト第5章を熟読すること。	4時間
第6回	対面	ものづくりと中小企業―中小工業の存立状況 ・国内ものづくりの環境は変化どう変化したか？ ・国内ものづくりはどう進むのか？ ・国内の中小製造業の今後の可能性は？	予習・復習でテキスト第6章を熟読すること。	4時間
第7回	対面	中小製造業の経営 ・中小製造業の経営はどういう点が特殊か？ ・中小製造業のイノベーションは？ ・新しいネットワークによる経営の創造とは？	予習・復習でテキスト第7章を熟読すること。	4時間
第8回	対面	中間試験	事前の試験勉強として、第1～7回までの総復習をしておくこと。	4時間
第9回	対面	中小商業と流通―その構造的側面 ・流通の中で中小商業はどういう存在か？ ・中小商業の特徴はどういうものか？	予習・復習でテキスト第8章を熟読すること。	4時間
第10回	対面	中小商業経営と商人性―その行動的側面 ・中小商業の経営の特徴は？ ・中小商業を取り巻く関係の変化は？ ・中小商業もいろいろ	予習・復習でテキスト第9章を熟読すること。	4時間
第11回	対面	中小企業の金融 ・中小企業の資金調達は？ 難しい点は？ ・政府系金融機関の役割は？	予習・復習でテキスト第10章を熟読すること。	4時間
第12回	対面	戦後日本の中小企業政策の変遷 ・戦後の中小企業政策はどう移り変わった	予習・復習でテキスト第11章を熟読すること。	4時間

		てきたか？		
第13回	対面	ベンチャーとスタートアップ ・シリコンバレーは移民が支えている ・高度人材は国際移動する（アメリカで発案，マレーシアで開業：グラブの例をもとに） ・ボーン・グローバル企業の登場（日本のボーン・グローバル企業の事例をもとに） ・国を超えたコミュニティの出現	配付する資料で復習すること。	4 時間
第14回	対面	総復習（1）	第1～13回の授業の総復習をすること。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習（2）	第1～13回の授業の総復習をし、定期試験に備えること。	4 時間

科目名	コーポレートファイナンス論（経営）／企業財務論（経済）	開講年度	2025
担当者	条井 淳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業価値の最大化		
授業の目的及び概要	この授業は、企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることができることを目的とする。具体的には、会計情報を利用し、問題を解決できること、会計情報を意思決定に利用できること、基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債券と株式の評価方法、現在価値の概念を用いたキャッシュフローの評価方法等に関する知識を修得し、企業財務意思決定の基礎理論を理解することができることなどである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的なコーポレートファイナンスの考え方を身につけ、グローバル化する企業の経営戦略の理解に役立てることができることを到達目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『コーポレートファイナンス 戦略と実践』, 田中慎一、保田隆明著, ダイヤモンド社, 2019 年	ISBN	9784478105412
参考書	『コーポレートファイナンス論入門』, 橋本正明著, ビジネス教育出版社, 2020 年 その他の参考書については、授業中に配布プリント等でお知らせします。	ISBN	9784828308494
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	テキスト、参考書、書込み式の配布資料を用いて講義形式で授業を行い、また知識の確認のために、毎回、確認テストを実施します。ラーニングポータルに資料を載せ、授業では PowerPoint を使用します。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ファイナンスの全体像	【予習】事前にシラバスに目を通しテキストの第1章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第1章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	対面	会計とファイナンス1 B/SとP/L	【予習】事前にテキストの第2章01及び02の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第2章01及び02の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	会計とファイナンス2 キャッシュフロー	【予習】事前にテキストの第2章03～07の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第2章03～07の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	会計とファイナンス3 財務諸表の活用	【予習】事前にテキストの第3章01～03の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第3章01～03の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	会計とファイナンス4 株式市場での評価	【予習】事前にテキストの第3章04～08の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第3章04～08の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	企業価値1 現在価値	【予習】事前にテキストの第4章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第4章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	企業価値2 資本コスト	【予習】事前にテキストの第5章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第5章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	企業価値3 事業評価	【予習】事前にテキストの第6章01～03の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第6章01～03の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	企業価値4 企業価値	【予習】事前にテキストの第6章04～08の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第6章04～08の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	企業価値5 類似会社比較法	【予習】事前にテキストの第7章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第7章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	企業価値6 M&A	【予習】事前にテキストの第8章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第8章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	株主還元政策	【予習】事前にテキストの第9章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第9章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	IR戦略	【予習】事前にテキストの第10章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第10章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	ベンチャーファイナンス	【予習】事前にテキストの第11章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第11章の部分や配布資料を読み	4時間

			返し、講義で得た知識を確認してください。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】事前に確認テストの計算問題や用語について復習しておきましょう。 【復習】テキストや参考書、配布資料を用いて用語や確認テストの計算問題について復習し、講義で得た知識を確認してください。	4時間

科目名	国際経営概論	開講年度	2025
担当者	四宮 由紀子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、(1) 国際経営の基本的な概念や理論を学ぶこと、(2) 国際経営が抱える課題と解決について考えること、(3) 国際経営の実態を理解すること、の3つをテーマとしています。		
授業の目的及び概要	この講義では、国際経営の理論と歴史、仕組みと企業活動、実態と様々な課題について知識を深め、国際経営の課題と解決について考えます。国際経営とは「企業が国境を越えてビジネス活動を行うこと」です。企業はなぜ国際化するのか、また国際経営における戦略、組織、ビジネス活動の特徴はどのようなものか、日本および海外の企業の国際経営にはどのような特徴がありどのような課題を抱えているのか、これらの視点から国際経営への理解を深めます。 この講義の目的は、国際経営とは何か、また国際経営をする企業にはどのような特徴があるのかを理解できるようになることです。初めて国際経営について学ぶ人でも理解しやすいように、実際の企業の事例を多く用いながら解説します。なお、経営学の基礎的な知識があると、より国際経営についての理解が深まります。 具体的には、貿易と直接投資、多国籍企業の歴史と理論、国際経営の所有政策／経営管理／経営組織／技術と研究開発／マーケティング／人的資源管理／リスク、そして日本や海外の国際経営事例について学びます。		
履修条件・留意点	この授業科目は、経営学基礎の上位科目であり、経営学基礎の合格者の履修を推奨します。また、経営学の基礎的な科目（経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング戦略論、人的資源管理論など）とも深く関連していますので、これらの科目を履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際経営の基礎概念と理論、歴史と現状、および課題について理解し、以下のようなレベルに到達すること。 1. 国際経営の歴史的背景と基礎的な知識を理解し、国際化のメカニズムについて説明することができる。 2. 企業の国際経営について理解を深め、現実の企業活動について分析できるようになる。 3. 日本企業および外資系企業の国際経営の実態や課題を理解し、その解決について考察することができる。 4. 国際的な視野を養い、世界で活躍できる知識を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の小テストやレポートについて、翌週の授業の冒頭で正答や解答例を解説します。また、質問やコメントについては授業内でフィードバックし、共有します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①国際経営論への招待、吉原英樹編著、有斐閣ブックス、2002 年 ②新グローバル経営論、安室憲一編著、白桃書房、2007 年 ③テキストブック国際経営[新版]、山崎清・竹田志郎、有斐閣ブックス、1993 年	ISBN	①9784641086661 ②9784561264668 ③9784641085220

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	できるだけ実際の企業の事例を盛り込みながら、理論と実践に関してわかりやすく講義します。国際経営について実践的で幅広い知識を身につけるとともに、「なぜ国際化するのか」、「国際経営の課題は何か」、「どうすれば解決できるのか」、について分析し考える力を養いましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス：国際経営とは】 この講義の進め方や評価方法、国際経営概論の授業計画の全体像について説明する。 国際経営の概要とデータについてクイズ形式で紹介し、解説する。	国際経営とは何か、考えてみよう。 国際経営に関して身近な企業の例を、ニュースや新聞などから調べてみよう。	2時間
第2回	対面	【貿易と直接投資】 「企業の国際化と国際経営」にとって不可欠である貿易と直接投資について学ぶ。 また国際貿易の歴史と世界経済の現状についても解説する。	貿易と直接投資の違いについて正しく理解しよう。 日本の貿易と直接投資の規模について調べ、諸外国と比べてみよう。	4時間
第3回	対面	【多国籍企業の誕生と発展】 多国籍企業の誕生と発展の歴史について学ぶ。また多国籍企業の定義や形態についても紹介し、時代の変化に伴う変遷についても理解を深める。 さらに日本、欧米、新興国の多国籍企業の特徴について考える。	多国籍企業とは何か、説明できるようにしよう。 日本や海外の多国籍企業について調べよう。	4時間
第4回	対面	【多国籍企業の理論】 企業はなぜ国際化するのか、その理論として①プロダクト・ライフサイクル、②ダニングの折衷理論、③内部化理論について学ぶ。	企業が国際化する理由や意義について考えよう。 多国籍企業の様々な理論について正しく理解し、その違いについて整理しよう。	4時間
第5回	対面	【国際経営と所有政策】 企業が海外に進出する際にどのような形態で国際化するのか、特に企業の所有方式について学ぶ。 完全所有、ジョイントベンチャー、M&A等の方式についてそれぞれの特徴とその方式を選択する背景について解説する。	企業が国際化するときに、どのような所有方式があるのか、考えてみよう。 それぞれの所有方式のメリット・デメリットを正しく理解し、実際の企業の事例を調べてみよう。	4時間
第6回	対面	【国際経営と経営管理】 企業が国際化すると、経営管理においてどのような特徴や課題があるのか解説する。 経営管理の中央集権化、現地化（ローカル化）、グローバル化のそれぞれの特徴と、メリット・デメリットについて学ぶ。	中央集権型／現地化／グローバル化の多国籍企業の事例について調べよう。 経営管理のそれぞれの方式の問題点や課題について分析しよう。	4時間
第7回	対面	【国際経営と組織構造】 企業が国際化するにつれ、企業の組織の	企業が国際化し、拡大する中で、最適な組織構造は何か、考えよう。	4時間

		在り方が変化する。国際化のフェーズと組織構造(事業部制組織／マトリックス組織)について学ぶ。 また、国際経営組織のマルチナショナル型／インターナショナル型／グローバル型／トランスナショナル型、地域統括本社制などについても解説する。	実際の企業組織の事例から、なぜその組織構造を選択したのか分析しよう。	
第8回	対面	【国際経営と研究開発】 企業の成長や発展のために研究開発は不可欠である。国際研究開発について、その目的と要因、発展段階と現状について学ぶ。 また、研究開発の国際化においてどのような課題があるのか解説する。	研究開発が国際化することで、どのような問題が生じるのか考えてみよう。 実際の企業の国際研究開発の事例を調べてみよう。	4 時間
第9回	対面	【国際経営とマーケティング】 企業が国際化すると、世界中の顧客をターゲットにした国際マーケティング活動が必要になる。 国際マーケティングの役割と重要性について学び、標準化 vs 適応化問題やグローバル・サプライチェーンマネジメントについても言及する。	国際マーケティングの標準化と適応化問題について、それぞれのメリット・デメリットを正しく理解しよう。 世界的に有名な企業のマーケティングについて調べ、その特徴について分析しよう。	4 時間
第10回	対面	【国際経営と人的資源管理】 企業が国際化するに従い、人材もグローバル化し、国際的な人的資源管理が必要である。 実際の事例を紹介しながら、国際人的資源管理の在り方や特徴、課題について学び、異文化経営への理解を深める。	多様な国籍や文化的背景を持つ人々が働く企業では、どのような人的資源管理が必要か考えよう。 実際の企業の国際人的資源管理について調べ、その特徴を比較してみよう。	4 時間
第11回	対面	【国際経営とリスク】 企業が国際化する中で、多様な国において異なる経済制度や経営習慣、異文化などに直面し、企業は様々なリスクにさらされている。 国際経営を取り巻く環境とリスクについて学び、その課題と解決について考察する。	企業の国際化においてどのようなリスクが考えられるか、考察しよう。 実際の企業国際化のリスクの事例について調べてみよう。	4 時間
第12回	対面	【欧米企業の国際経営事例】 欧米企業の国際化について、事例を中心に学ぶ。	国際化した欧米企業について挙げてみよう。 欧米企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第13回	対面	【日本企業の国際経営事例】 主に、日本企業の国際化について、事例を中心に学ぶ。	国際化した日本企業について挙げてみよう。 日本企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第14回	対面	【中国企業の国際化】 中国企業の国際化の事例について学ぶ。	国際化した中国企業について挙げてみよう。 中国企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、今後の国際経営の発展と拡大について考察する。 オンデマンド動画を視聴して復習し、定期試験に向けて学修する。	配信したオンデマンド動画を見て、これまでの講義で学修した国際経営の理論や知識について整理しよう。 国際経営の現状と課題について正しく把握し、その解決について考えよう。	6 時間

科目名	国際経営概論	開講年度	2025
担当者	四宮 由紀子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、(1) 国際経営の基本的な概念や理論を学ぶこと、(2) 国際経営が抱える課題と解決について考えること、(3) 国際経営の実態を理解すること、の3つをテーマとしています。		
授業の目的及び概要	この講義では、国際経営の理論と歴史、仕組みと企業活動、実態と様々な課題について知識を深め、国際経営の課題と解決について考えます。国際経営とは「企業が国境を越えてビジネス活動を行うこと」です。企業はなぜ国際化するのか、また国際経営における戦略、組織、ビジネス活動の特徴はどのようなものか、日本および海外の企業の国際経営にはどのような特徴がありどのような課題を抱えているのか、これらの視点から国際経営への理解を深めます。 この講義の目的は、国際経営とは何か、また国際経営をする企業にはどのような特徴があるのかを理解できるようになることです。初めて国際経営について学ぶ人でも理解しやすいように、実際の企業の事例を多く用いながら解説します。なお、経営学の基礎的な知識があると、より国際経営についての理解が深まります。 具体的には、貿易と直接投資、多国籍企業の歴史と理論、国際経営の所有政策／経営管理／経営組織／技術と研究開発／マーケティング／人的資源管理／リスク、そして日本や海外の国際経営事例について学びます。		
履修条件・留意点	この授業科目は、経営学基礎の上位科目であり、経営学基礎の合格者の履修を推奨します。また、経営学の基礎的な科目（経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング戦略論、人的資源管理論など）とも深く関連していますので、これらの科目を履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際経営の基礎概念と理論、歴史と現状、および課題について理解し、以下のようなレベルに到達すること。 1. 国際経営の歴史的背景と基礎的な知識を理解し、国際化のメカニズムについて説明することができる。 2. 企業の国際経営について理解を深め、現実の企業活動について分析できるようになる。 3. 日本企業および外資系企業の国際経営の実態や課題を理解し、その解決について考察することができる。 4. 国際的な視野を養い、世界で活躍できる知識を持つことが出来る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の小テストやレポートについて、翌週の授業の冒頭で正答や解答例を解説します。また、質問やコメントについては授業内でフィードバックし、共有します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①国際経営論への招待、吉原英樹編著、有斐閣ブックス、2002 年 ②新グローバル経営論、安室憲一編著、白桃書房、2007 年 ③テキストブック国際経営[新版]、山崎清・竹田志郎、有斐閣ブックス、1993 年	ISBN	①9784641086661 ②9784561264668 ③9784641085220

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	できるだけ実際の企業の事例を盛り込みながら、理論と実践に関してわかりやすく講義します。国際経営について実践的で幅広い知識を身につけるとともに、「なぜ国際化するのか」、「国際経営の課題は何か」、「どうすれば解決できるのか」、について分析し考える力を養いましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス：国際経営とは】 この講義の進め方や評価方法、国際経営概論の授業計画の全体像について説明する。 国際経営の概要とデータについてクイズ形式で紹介し、解説する。	国際経営とは何か、考えてみよう。 国際経営に関して身近な企業の例を、ニュースや新聞などから調べてみよう。	2時間
第2回	対面	【貿易と直接投資】 「企業の国際化と国際経営」にとって不可欠である貿易と直接投資について学ぶ。 また国際貿易の歴史と世界経済の現状についても解説する。	貿易と直接投資の違いについて正しく理解しよう。 日本の貿易と直接投資の規模について調べ、諸外国と比べてみよう。	4時間
第3回	対面	【多国籍企業の誕生と発展】 多国籍企業の誕生と発展の歴史について学ぶ。また多国籍企業の定義や形態についても紹介し、時代の変化に伴う変遷についても理解を深める。 さらに日本、欧米、新興国の多国籍企業の特徴について考える。	多国籍企業とは何か、説明できるようにしよう。 日本や海外の多国籍企業について調べよう。	4時間
第4回	対面	【多国籍企業の理論】 企業はなぜ国際化するのか、その理論として①プロダクト・ライフサイクル、②ダニングの折衷理論、③内部化理論について学ぶ。	企業が国際化する理由や意義について考えよう。 多国籍企業の様々な理論について正しく理解し、その違いについて整理しよう。	4時間
第5回	対面	【国際経営と所有政策】 企業が海外に進出する際にどのような形態で国際化するのか、特に企業の所有方式について学ぶ。 完全所有、ジョイントベンチャー、M&A等の方式についてそれぞれの特徴とその方式を選択する背景について解説する。	企業が国際化するときに、どのような所有方式があるのか、考えてみよう。 それぞれの所有方式のメリット・デメリットを正しく理解し、実際の企業の事例を調べてみよう。	4時間
第6回	対面	【国際経営と経営管理】 企業が国際化すると、経営管理においてどのような特徴や課題があるのか解説する。 経営管理の中央集権化、現地化（ローカル化）、グローバル化のそれぞれの特徴と、メリット・デメリットについて学ぶ。	中央集権型／現地化／グローバル化の多国籍企業の事例について調べよう。 経営管理のそれぞれの方式の問題点や課題について分析しよう。	4時間
第7回	対面	【国際経営と組織構造】 企業が国際化するにつれ、企業の組織の	企業が国際化し、拡大する中で、最適な組織構造は何か、考えよう。	4時間

		在り方が変化する。国際化のフェーズと組織構造(事業部制組織／マトリックス組織)について学ぶ。 また、国際経営組織のマルチナショナル型／インターナショナル型／グローバル型／トランスナショナル型、地域統括本社制などについても解説する。	実際の企業組織の事例から、なぜその組織構造を選択したのか分析しよう。	
第8回	対面	【国際経営と研究開発】 企業の成長や発展のために研究開発は不可欠である。国際研究開発について、その目的と要因、発展段階と現状について学ぶ。 また、研究開発の国際化においてどのような課題があるのか解説する。	研究開発が国際化することで、どのような問題が生じるのか考えてみよう。 実際の企業の国際研究開発の事例を調べてみよう。	4 時間
第9回	対面	【国際経営とマーケティング】 企業が国際化すると、世界中の顧客をターゲットにした国際マーケティング活動が必要になる。 国際マーケティングの役割と重要性について学び、標準化 vs 適応化問題やグローバル・サプライチェーンマネジメントについても言及する。	国際マーケティングの標準化と適応化問題について、それぞれのメリット・デメリットを正しく理解しよう。 世界的に有名な企業のマーケティングについて調べ、その特徴について分析しよう。	4 時間
第10回	対面	【国際経営と人的資源管理】 企業が国際化するに従い、人材もグローバル化し、国際的な人的資源管理が必要である。 実際の事例を紹介しながら、国際人的資源管理の在り方や特徴、課題について学び、異文化経営への理解を深める。	多様な国籍や文化的背景を持つ人々が働く企業では、どのような人的資源管理が必要か考えよう。 実際の企業の国際人的資源管理について調べ、その特徴を比較してみよう。	4 時間
第11回	対面	【国際経営とリスク】 企業が国際化する中で、多様な国において異なる経済制度や経営習慣、異文化などに直面し、企業は様々なリスクにさらされている。 国際経営を取り巻く環境とリスクについて学び、その課題と解決について考察する。	企業の国際化においてどのようなリスクが考えられるか、考察しよう。 実際の企業国際化のリスクの事例について調べてみよう。	4 時間
第12回	対面	【欧米企業の国際経営事例】 欧米企業の国際化について、事例を中心に学ぶ。	国際化した欧米企業について挙げてみよう。 欧米企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第13回	対面	【日本企業の国際経営事例】 主に、日本企業の国際化について、事例を中心に学ぶ。	国際化した日本企業について挙げてみよう。 日本企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第14回	対面	【中国企業の国際化】 中国企業の国際化の事例について学ぶ。	国際化した中国企業について挙げてみよう。 中国企業の国際化にはどのような特徴があるか考えよう。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、今後の国際経営の発展と拡大について考察する。 オンデマンド動画を視聴して復習し、定期試験に向けて学修する。	配信したオンデマンド動画を見て、これまでの講義で学修した国際経営の理論や知識について整理しよう。 国際経営の現状と課題について正しく把握し、その解決について考えよう。	6 時間

科目名	経営立地論	開講年度	2025
担当者	垣谷 幸介	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業の経営戦略を、経済史・経営史を踏まえ、立地（地理的、空間的）の視角から理解し、戦略立案の能力向上を目指す。		
授業の目的及び概要	・企業は、どこに立地するのでしょうか。世界史を振り返れば、大航海時代以降欧州列強は東インド会社を成立させ、アジアで国際貿易や植民地経営を進めました。日本は、明治維新後富国強兵政策を進め、紡織の輸出やアジア（特に中国）での事業を拡大してきました。第2次世界大戦終戦後は、貿易立国（輸出）から国際経営戦略を進め、現在は生産・販売サービスや研究開発の海外移転も進んでいます。また日本企業が海外企業を買収したりされたりと、M&A も活発に行われています。一方、インバウンドにより企業レベルに留まらず国レベルで、「内なる国際化」が進行しています。冷戦終了後、グローバル化の恩恵を受けてきた日本企業は、現在地政学リスクを負うこととなりました。これら経済事象を、国際経済学、国際貿易論、国際経営論、経済地理学、消費者行動論、経営史など経営学と経済学の知見を用いながら、紐解き理解していくことが、本授業の目的である。 ・Ⅰの前半は国際経営論に基づく海外進出、Ⅰの後半は地域経済論に基づき各市場と地政学リスク、Ⅱの前半は国際経済学と国際経営論に基づく理論、Ⅱの後半はケースメソッド主体で進める。		
履修条件・留意点	・企業（会社）に関心があること。 ・海外（グローバル）に目を向けてみたいこと。 ・自分の意見を述べること。 ・国際経営概論、貿易論を受講していることが、望ましい（必須ではない）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①企業が海外進出する理由とそれによって得られる優位性と困難点を、経営戦略、国際貿易、マーケティング、海外生産、研究開発、国際人的管理の各ポイントから、具体的な事例を用いながら説明することができる。 ②地域経済を理解し、北米、欧州、アジア・中国、新興国市場における海外進出と地政学リスクを含めた課題を、具体的な事例を用いて説明できる。 ③製造業に限定されず、サービス業の海外進出やオフショアビジネスについて、具体的な事例を用いて説明できる。 ④インバウンドの現状と課題を具体的に説明できる。 ⑤日本人口減少の中、外国人労働力の現状と課題を具体的に説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テスト結果は、採点の上、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で35年以上勤務し5回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①新もう一度読む山川世界史、「世界の歴史」編集委員会，山川出版社，2017 年 ②国際経営〔第5版〕，吉原英樹，有斐閣，2021 年 ③新経済地理学概論，松原宏編著，原書房，2022 年 ④わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕，沼上幹，有斐閣，2023 年	ISBN	①9784634640900 ②9784641221727 ③9784562092239 ④9784641123557

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ①講師の紹介、②本授業の進め方、③評価方法と受講者へのお願い事項、④その他	事前学修：シラバスを一読する 事後学修：本授業での自分の目標を考える	4 時間
第2回	対面	国際経営（グローバルビジネス） （1. 多国籍企業、2. 経営資源の国際移転、3. 経営者の国際化の夢・・・なぜ海外を目指すのか）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第3回	対面	国際経営戦略 （1. 国際経営戦略とは、2. 国際経営戦略の歴史的展開、3. 国際経営戦略の政治的性格）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第4回	対面	国際貿易とマーケティング （1. 国際貿易の仕組み、2. 輸出マーケティングの発展、3. 国際調達、4. グローバル・サプライ・チェーン・マネジメント）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第5回	対面	海外生産 （1. 海外生産の発展、2. 日本的生産のグローバル展開、3. モジュール生産の台頭、4. 日本的生産の試練）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第6回	対面	技術移転と海外研究開発 （1. 技術の国際移転、2. 海外研究開発、3. ソフトウェアの海外開発）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第7回	対面	国際経営マネジメント（国際人的資源管理） （1. 国際経営組織、2. 国際経営と言語、3. 海外子会社の日本人、4. 海外の日本的経営の明暗）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第8回	対面	中間テスト	事前学修：中間テストのための復習 事後学修：中間テストの答え合わせと理解不足点の復習	4 時間
第9回	対面	北米・欧州市場と日本企業 （1. 北米、2. 欧州、3. プレグジット）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第10回	対面	アジア市場と日本企業 （1. 中国、2. インド、3. ASEAN 諸国）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間

第11回	対面	新興国市場と日本市場 (1. 新興国とは、2. 外国企業の新興国戦略、3. 日本企業の新興国戦略)	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第12回	対面	サービス企業の海外進出 (1. サービス企業、2. 海外進出の事例、3. 海外進出の特徴と要点)	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第13回	対面	インバウンドと日本 (1. インバウンド、2. 外国人労働力)	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。 ＊ゲストスピーカーの場合は、事前質問の用意とその後の感想へ変更。	4 時間
第14回	対面	地政学リスク (1. 米中対立、2. ロシア・ウクライナ対立と EU、3. 中東問題、4. 私が中国で直面したこと) 第14回までの復習	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	第14回までの復習。これまでの論点と課題の整理	事前学修：講義ノートとオンデマンドでの復習 事後学修：習得できなかったことや疑問点の解消	4 時間

科目名	経営立地論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	垣谷 幸介	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業の経営戦略を、経済史・経営史を踏まえ、立地（地理的、空間的）の視角から理解し、戦略立案の能力向上を目指す。		
授業の目的及び概要	・企業は、どこに立地するのでしょうか。世界史を振り返れば、大航海時代以降欧州列強は東インド会社を成立させ、アジアで国際貿易や植民地経営を進めました。日本は、明治維新後富国強兵政策を進め、紡織の輸出やアジア（特に中国）での事業を拡大してきました。第2次世界大戦終戦後は、貿易立国（輸出）から国際経営戦略を進め、現在は生産・販売サービスや研究開発の海外移転も進んでいます。また日本企業が海外企業を買収したりされたりと、M&A も活発に行われています。一方、インバウンドにより企業レベルに留まらず国レベルで、「内なる国際化」が進行しています。冷戦終了後、グローバル化の恩恵を受けてきた日本企業は、現在地政学リスクを負うこととなりました。これら経済事象を、国際経済学、国際貿易論、国際経営、経済地理学、消費者行動論、経営史など経営学と経済学の知見を用いながら、紐解き理解していくことが、本授業の目的である。 ・Ⅰの前半は国際経営論に基づく海外進出、Ⅰの後半は地域経済論に基づき各市場と地政学リスク、Ⅱの前半は国際経済学と国際経営論に基づく理論、Ⅱの後半はケースメソッド主体で進める。		
履修条件・留意点	・企業（会社）に関心があること。 ・海外（グローバル）に目を向けてみたいこと。 ・自分の意見を述べること。 ・国際経営概論、貿易論を受講していることが、望ましい（必須ではない）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①国際経営と国際経済学の理論を基に、企業が海外進出する理由とそれによって得られる優位性と困難点を、具体的な事例を使いながら説明できる。 ②消費者行動論の理論を基に、企業がどこに進出すべきか、具体的な事例を使いながら説明できる。 ③グローバル戦略遂行の結果、現在直面する経営課題（地政学リスク、SCM など）を理解し、現在の課題（例：ウクライナ、パレスチナ等）に対する自分の意見を述べる事が出来る。 ④上記を踏まえ、企業立地の計画立案（事業計画）能力を持つ（「あなたなら、どこに、何を作って、進出しますか」に答えられる）。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テスト結果は、採点の上、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手自動車会社で 35 年以上勤務し 5 回の海外駐在経験があり、中国での現地法人設立及び営業企画や国際貿易に加え、生産管理や人事労務管理の業務に従事するなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①新もう一度読む山川世界史、「世界の歴史」編集委員会，山川出版社，2017 年 ②国際経営〔第 5 版〕，吉原英樹，有斐閣，2021 年 ③新経済地理学概論，松原宏編著，原書房，2022 年 ④わかりやすいマーケティング戦略〔第 3 版〕，沼上幹，有斐閣，2023 年	ISBN	①9784634640900 ②9784641221727 ③9784562092239 ④9784641222199
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ①講師の紹介、②本授業の進め方、③評価方法と受講者へのお願い事項、④その他	事前学修：シラバスを一読する 事後学修：本授業での自分の目標を考える	4 時間
第2回	対面	リカードの比較優位説とポーターの国の競争優位 （ツールとしての、貿易特化係数、商品交易条件、生産国基準、メーカー基準、供給-需要パターン図）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第3回	対面	海外直接投資論 （ハイマーの海外直接投資論、内部化理論、折衷理論：OLI パラダイム）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第4回	対面	バーノンのプロダクト・サイクル仮説	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第5回	対面	トランスナショナル型組織（バートレットとゴジャールの研究）	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第6回	対面	海外子会社論	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第7回	対面	グローバル・イノベーション論	事前学修：講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第8回	対面	中間テスト	事前学修：中間テストのための復習 事後学修：中間テストの答え合わせと理解不足点の復習	4 時間
第9回	対面	<ケースで考える：ネット空間とリアル> 消費者行動とネットビジネス（AIDMA から AISAS、EC と O2O ビジネス） 文献：アマゾンの強み、アマゾンを超える Taobao（アリババ） *別途配布予定	事前学修：文献を一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得出来たかを確認する。	4 時間
第10回	対面	<ケースで考える：SPA> ユニクロを事例に、SPA（Speciality store retailer of Private label Apparel）	事前学修：文献を一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修：疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間

		l) の立地における強み弱みを学ぶ 文献:「Case8 ユニクロ SPAと中国調達」 『ケースブック国際経営』, 杉田俊明, 有斐閣, 2003 年 *文献は別途配布	確認する。	
第11回	対面	<ケースで考える:自動車産業の九州立地> トヨタ自動車・日産自動車・ダイハツ工業等は創業の地から、九州へ生産工場を拡大した。その背景を考えながら、工業立地論と集積論を再考する。 文献:「第2章 専属的な委託生産企業の生成と継続のメカニズム」『自動車委託生産・開発のマネジメント』, 三嶋恒平, 中央経済社, 2016 年	事前学修: 文献を一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修: 疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第12回	対面	<ケースで考える:商業立地> 百貨店、チェーンストア、公設小売市場、商店街、ヤミ市、総合スーパー、食品スーパー、専門量販店の歴史的経緯を学び、立地の変遷を理解する	事前学修: 講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修: 疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第13回	対面	<ケースで考える:事業転地> PPM (プロダクトポートフォリオ) と多角化の理論を踏まえ、事業転地の重要性と困難さを学ぶ 文献:「三品和弘の日本企業改造論」, 日経ビジネスオンライン, 2010 年 *既にオンラインでは公開されていないので、コピーを配布	事前学修: 講義ノートを一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修: 疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第14回	対面	<ケースで考える:事業転地> 空間的立地以上に困難さを伴う「時間的」立地の事例として、富士フィルムを扱う 文献:「ケースに学ぶ経営学 (第3版)」, 第7章富士フィルム企業変貌、東北大学経営学グループ編著、2019 年	事前学修: 文献を一読し、疑問点や問題点を整理する。 事後学修: 疑問点と問題点に対して、習得できたかを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	第14回までの復習。これまでの論点と課題の整理	事前学修: 講義ノートとオンデマンドでの復習 事後学修: 習得できなかったことや疑問点の解消	4 時間

科目名	流通システム論	開講年度	2025
担当者	仲川 直毅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	流通に関する基本原理と現状の理解		
授業の目的及び概要	生産と消費を架橋する流通は、経済活動において重要な役割を果たしています。経済活動において重要な役割を果たしている流通の機能や役割など流通の基本的枠組みを理解することが本講義の目標です。具体的には、消費者（我々）にとって身近な存在である流通の機能、役割などの基本概念や百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの各業態の歴史や現状などについて学習したうえで、流通担当者の活動について理解を深めていきます。なお、授業は、流通をはじめて学ぶ学生を想定し、流通の基礎から解説していきます。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 流通の機能や役割を理解し、説明することができる 2. 各業態の歴史や現状を理解し、説明することができる 3. 流通業の現状や流通業者が抱える課題やその対応策について、自分の考えや意見をまとめることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内にフィードバックやコメントを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しません。 必要に応じて資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	我々にとって身近な存在である流通に興味、関心をもち、授業に主体的に参加することを期待します。講義の形式を基本として行いますが、積極的に授業に参加すること（質疑応答など）を希望します。授業中に教員から質問をしますので、積極的に自ら考え、答えるようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。流通とは何かについて説明します。	事前学修：シラバスを読み、授業の目的、授業の全体の流れ等を事前に把握しておいてください。 事後学修：授業で配布した資料を読み、流通システム論の概略、流通とは何かについて復習してください。	4 時間
第2回	対面	流通の役割 流通の役割について学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第3回	対面	卸売業 卸売業の機能と役割を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第4回	対面	小売業① 小売業の機能と役割を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第5回	対面	小売業② 小売業の業種と業態を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第6回	対面	中間試験 1 これまでの学修内容について、中間試験を実施します。	事前学修：これまでの配布資料を読み、中間試験の準備をしてください。 事後学修：確認テストの振り返りをしてください。	4 時間
第7回	対面	百貨店の歴史と現状 百貨店の歴史と現状を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第8回	対面	コンビニエンスストアの歴史と現状① コンビニエンスストアの歴史と現状を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第9回	対面	コンビニエンスストアの歴史と現状② コンビニエンスストアの歴史について、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第10回	対面	スーパーマーケットの歴史と現状・POS システム スーパーマーケットの歴史と現状・POS システムを中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験 2 これまでの学修内容について、中間試験を実施します。	事前学修：これまでの配布資料を読み、中間試験の準備をしてください。 事後学修：確認テストの振り返りをしてください。	4 時間
第12回	対面	各業態の動向 これまでの内容（各業態の現状）を踏まえたうえで、各業態の動向について学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第13回	対面	事例研究① SPA のビジネスモデルについて、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第14回	対面	事例研究② プライベートブランドについて、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでのまとめを行います。	事前学修：これまでに配布した授業資料を再度、確認してください。 事後学修：これまでの授業内容を復習してください。	4 時間

科目名	マーケティングリサーチ	開講年度	2025
担当者	深瀬 澄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実証研究事例から学ぶ「消費者心理、購買行動分析、商品開発」のためのデータサイエンス		
授業の目的及び概要	マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野等の卒業論文の作成において、学術的な実証的研究をするために必要な統計分析手法について手ほどきをする。授業で採り上げる分析手法については、経営学分野を中心とする様々な社会科学・人文科学系の学会を梯子して拝聴し、最近の学会報告の中で用いられていた手法の中から比較的易しく、初心者にも扱えそうなものを集めている。「意識・感情」等の目に見えない「構成概念」の統計量の測定や、潜在的な原因による結果への影響力を分析するためには、社会心理学的なアプローチによる分析手法が有益である。さらに、本学経営学科の教育特色とする「顧客や同僚など他者の気持ちを推察する」ための分析にもこだわり、人的資源管理における「能力・モチベーション」、財務分析におけるブランドや社風等の「無形資産」をはじめ、先端的な分析に対応する。心理統計学を基礎とするマーケティングリサーチではいずれも一般的な手法だが、様々な実証研究事例を暗記するのではなく、アイデアを学び各自の研究に生かす「応用力」に期待する。		
履修条件・留意点	商品開発や市場調査は高校生もやっていますが、マーケティング専攻の大学生との決定的な違いは「科学的なデータ解析力」だと思います。履修に際して、特に先修条件はありませんが、PC 実習は「ビジネス統計学Ⅱ」で学ぶ「相関係数」「仮説検定」「回帰分析」を基礎とし、Excel では分析できない統計手法を学びますので留意して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	到達目標は、マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野の研究で、下記の統計分析手法を理解し、使えるようになることである。具体的な項目に分解すると多くなるが、到達度を測定する項目を予め絞り込み公開する。授業期間中に全てに到達することは想定していない。それぞれの所属ゼミでの研究活動に応用し、実践する中で定着していけば良い。 1. 因子分析 ・ 潜在因子を正しく抽出し、測定尺度としての妥当性を判断できる。 ・ 因子得点から標本を類型化できる。 2. 回帰分析 ・ 出力結果からモデルの妥当性を判断し、目的変数への各説明変数の影響力を分析できる。 ・ 単回帰分析と重回帰分析による分析の理論的な違いを説明できる。 ・ 説明変数を過剰に用いた場合に発生する問題を理解し、解決できる。 3. 共分散構造分析 ・ t 検定と分散分析を使い分けることができる。 ・ 複数の要因が重なって発生する交互作用の存在を判定できる。 ・ 2 要因の比較で、要因以外の条件の違いを統計的に調整して分析できる。 4. 調整効果分析 ・ 重回帰分析において、促進要因や抑制要因による説明変数の影響力の変化を分析できる。 5. 媒介効果分析 ・ 原因と結果の因果関係を、直接効果と媒介変数を經由する間接効果とに分解して分析できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 講義内容に関する質問については、授業内で受け付けて回答する。 2. PC 実習の質問については、復習時にオンデマンド動画で対応する。 3. テストに対しては、正解と講評を示しフィードバックする。 4. 授業改善のためのアンケートを実施し、回答結果に対する改善案を示しフィードバックする。		

アクティブ・ラーニング の取り組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①社会心理学のための統計学, 清水裕士・荘島宏二郎, 誠信書房, 2017 年	ISBN	①9784414301892
参考書	①教育を科学する力、教師のための量的・質的研究法, 石川美智子・松本みゆき, 学術研究出版, 2018 年	ISBN	①9784865843194
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	25	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	英国で研究をされた亀田教授によれば、世界標準の経営学研究は、理論をより厳密化し科学的に考察するために、統計分析を重視する潮流がみられるそうである。 現在では、研究手法が従来のケーススタディを中心とする帰納法的アプローチから、仮説を立ててデータを集め、統計処理して分析する演繹的アプローチが主流になっている。 ここで、研究テーマは無数にあるが、分析に用いる統計手法は限られていることに気づいて欲しい。つまり分野横断的に分析の流れは類似しており、特にマーケティング分野では、消費者心理、購買行動、商品開発、広告効果、デザイン選好等の分析に心理学的な統計手法が積極的に導入されてきたのである。 本授業で扱う多変量解析や媒介効果分析等は、大学院生も共通に学んでいる分析手法で、Excelで分析できるレベルを超えているため、PC実習では専門のフリーソフトを用いる。 原則として、「ビジネス統計学Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し、マーケティングや製品開発の専門職、大学院進学志望、学生研究発表大会や懸賞論文等で勝負に出たい人等を対象としている。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 心についての構成概念の測定① 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア1 「態度」とは、体験より獲得する心の状態で、人の周りの対象に対して、行動を起こしたり変えたりする構成概念である。例えばファンの心理を直接に測定することはできないが、支援願望、憧憬、到達目標、生き甲斐、献身・自己犠牲等の感情の度合いより推定される。このようにそれ自体は直接には観測できないが、現象を説明するのに便利な科学的な仮定を構成概念という。構成概念の測定法を「態度」を事例として講義する。 テキスト pp. 1-18 を理解すること。	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 フリーソフトウェアをインストールして、動作を確認して下さい。	4 時間
第2回	対面	第1章 心についての構成概念の測定② 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア2 第1講 「自尊心」の測定方法 第2講 分析に用いる統計手法	【予習】 テキスト pp. 1-18 を熟読してくること 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間

		第3講 フリーソフトウェアによる PC 実習： データ読込、データ変換、基本統計、ヒストグラム、I-T 相関		
第3回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする 因子分析1 潜在因子の抽出 無数にある色彩も、わずか3色の原色で構成されている。このように複雑な観測データ（結果）を、少ない潜在因子（原因とする構成概念）に集約し、因子の意味を割り出す統計手法を因子分析という。 「他人に対する印象形成の構造解明」を分析事例とし、因子分析の手法を説明する。ある人物Aの印象について10項目の質問を行い得られた回答者200人の評価結果より、人の印象がどのような潜在的要因によって形成されているのか、因子分析による構造解明を実習する。 実習では、因子数の決定、計算手法・軸回転手法の選択、出力結果の解釈の順に通して進めるが、オプション選択の組合せの調整を加えて、分析結果の向上に向けた試行錯誤も必要である。 第1講 他者への印象形成と対人認知次元 第2講 因子分析の考え方 第3講 因子分析を体験してみる 第4講 因子分析のための行列計算	テキスト pp. 20-28 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする② 因子分析2 因子得点と尺度得点による類型化とポジショニング 人は幼児期の親子関係から愛情を得るための心の仕組み（愛着）を形成し（内的作業モデル）、成人後の自己や他者に対して持つ期待や信念の個人差のことを「成人の愛着スタイル」という。 「成人の愛着スタイル」について、Bartholmew&Hoerwitz(1991)は、「自己に対する自信」と「他者に対する信頼」の測定尺度による座標系を想定し、それぞれの回答者を座標上の因子得点（構成概念の測定値）に位置付け、4タイプに類型化した。ここでは、日本の測定尺度研究事例の短縮版を用いて、サンプルデータの類型化を実習する。 第1講 因子分析の理論 第2講 因子分析の手順と分析 第3講 パソコン実習（別の動画） 第4講 マーケティングリサーチへの応用	テキスト pp. 29-39 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 オンデマンドの PC 実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2 時間）。	4 時間
第5回	対面	第3章 他者への期待や信念の類型化－尺度の信頼性と妥当性 因子分析3 因子分析のディテールおよび分析結果の評価 前回作成した因子得点を測定する評価尺度の信頼性（安定性と一貫性）をクローンバック α 係数、ω 係数等を用いて評価し、妥当性（関連基準、内容的、構成概念）についても検討をする。	テキスト pp. 40-56 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間

		第1項 マーケティングにおける他者理解の意義 第2講 愛着スタイルと先行研究 第3講 実習の分析内容：「学生の恋人に対する想い」 第4講 因子分析3（上級者編） 第5講 尺度の信頼性と妥当性の検討 第6講 被験者の測定結果		
第6回	対面	因子分析4 因子分析のマーケティングへの応用（STP戦略におけるポジショニング）	テキストにはありません。 【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】実習課題を提出して下さい。	4時間
第7回	対面	第4章 似ている人は好き 回帰分析1 単回帰分析と分析結果の評価 他者のことを好きになることを「対人魅力」という。Byrne&Nelson（1965）による「初対面でも、自分と「態度」が似ている人を好きになる」とする「類似性魅力仮説」の実証事例について、単回帰分析の実習をする。単回帰の既習者も多いだろうが、ここではより専門的に、回帰分析を実行するための前提（残差の独立性・分散均一性・正規性）や予測力の評価にも留意する。 第1講 類似性魅力仮説 第2講 回帰分析の理論 第3講 本日の実習概要 第4講 出力結果の解釈	テキスト pp. 57-72 を理解すること。 【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】実習課題を提出して下さい。	4時間
第8回	対面	第5章 一緒にいたい気持ちを予測する 回帰分析2 重回帰分析に因子分析の結果を利用する 「ある対象と関りをもちたい」という心理的な強度を「コミットメント」という。Rusbult（1980）は、「対人関係へのコミットメントがどのように形成されるのか」について、「コミットメント＝関係に近づく力-遠避ける力+留めようとする力」の葛藤であるとする「投資モデル」を用いて説明した。しかし、分析に用いるデータは構成概念であり直接には計測できない。そこで因子分析によりこれらの因子得点を測定し、重回帰分析に利用するのである。 「コミットメントを予測する投資モデル」において、3つの説明変数の影響力を比較し、多重共線性の問題とその解決について検討する。 第1講 イン트로ダクション 第2講 ラズバルトの投資モデル 第3講 本日の実習概要 第4講 重回帰分析と偏回帰係数 第5講 効果量と標準偏回帰係数 第6講 多重共線性の問題	テキスト pp. 73-90 を理解すること。 【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】実習課題を提出して下さい	4時間
第9回	対面	中間試験の講評と正解 第1講 中間試験の講評 第2講 中間試験の正解 第3講 授業改善アンケート結果報告	試験範囲の復習（3時間） 中間試験を受験（1時間）	4時間

第10回	対面	共第6章 集団への所属意識を予測するものは① 分散分析(ANCOVA)1 効果比較の分析 変数間の因果関係を分析する「共分散構造分析」と、グループ間の平均との差を検定する「共分散分析」は別な分析手法である。共分散分析を学ぶ前の準備として、分散分析を復習しておく。 第1講 一要因分散分析 第2講 2要因分散分析とは 第3講 2要因分散分析の理論 第4講 多重比較の補足説明	テキストにはありません 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい(2時間)	4時間
第11回	対面	第6章 集団への所属意識を予測するものは② 共分散分析(ANCOVA)2 共分散分析と重回帰分析の関係 自分を集団によって定義したり認識することを「社会的アイデンティティ」といい、それは集団内における他集団との区別の意識の有無より実証される。「他社との比較」により、「自社への愛着度」が高まるかを共分散分析により検証する。この分析に必要な不等価群事前事後テスト計画、余剰変数の統制、共変量などの考え方について講義する。「他社との比較」意識による「自社への愛着度」の促進効果について、①実験群と統制群との「共分散分析」、②ダミー変数を用いた重回帰分析によって、分析実習をする。 第0講 インターナルマーケティング 第1講 社会的アイデンティティ理論 第2講 第3講 共分散分析 第4講 共分散分析と重回帰分析実験と準実験	テキスト pp. 91-106 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 オ実習課題を提出して下さい。	4時間
第12回	対面	第7章 リーダーシップ・スタイルの相乗効果 階層的重回帰分析と調整効果分析1 調整効果分析の概要 三隅(1996)のPM理論では、リーダーシップの機能には、P(Performance:課題達成)機能とM(Maintenance:関係維持)機能の2つがあるとし、リーダーシップ・スタイルを両機能の高低の組合せで4つに類型化した。P型リーダー、M型リーダーによるモチベーション管理において、残る他方の機能による調整効果(相乗効果)について、階層的重回帰分析を用いて検証する。単純勾配変化からも検討する。 なお、この考え方を、新製品の開発、顧客満足度改善等、多方面のマーケティング戦略に応用することを期待している。 第1講 リーダーシップ研究の系譜 第2講 交互作用とは 第3講 PM理論と本日の分析概要 第4講 調整効果分析の理論	テキスト pp. 107-125 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4時間
第13回	対面	第8章 心の文化差を説明する媒介効果分析 媒介効果分析	テキスト pp126-141 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください	4時間

		「自分に対して、人は危害を加えない」という意識を一般的信頼という。Yuuki et al. (2007)は、「流動性が高い環境では一般的信頼が必要だが、人間関係が固定的な環境では不要」、すなわち、「関係流動性が一般的信頼に関する文化の差の要因である」とした。「日米間の一般的信頼の文化の差に、関係流動性が影響している」という仮説について、媒介分析による4段階の手続きを踏む実証を実習する。さらに「日米間の一般的信頼の文化の差における関係流動性による間接効果」の有意性について、①ソベル検定、②ブートストラップ法を用いた検定を実習する。	【復習】実習課題を提出して下さい	
第14回	対面	一般化線形回帰 第1講 一般化線形回帰分析 第2講 ロジスティック回帰分析の考え方 第3講 ロジスティック回帰分析の例題 第4講 シグモイド関数とロジスティック関数 第5講 プロビット回帰分析とトービット回帰分析 テキストにはありません	テキストにはありません 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 後半の授業で学習してきたことを総括し、質疑応答の時間を確保して、不明な点、研究の相談に対応する。	これまで勉強してきた実習課題を中心に復習し、不明な点を確認すること。	4 時間

科目名	マーケティングリサーチ	開講年度	2025
担当者	五島 光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	基本的なマーケティングリサーチの適切な選択と分析，結果の解釈ができるようになる。		
授業の目的及び概要	本授業の目的は，マーケティングリサーチとはどのようなものであるかを理解し，定量調査・定性調査の基本的な知識・方法を習得することです。もう 1 つ，受講者自身がマーケティングにおけるどのような問題・課題に興味を持ち，より深く学びたい・分析したいのかを講義と分析演習を通して考えてもらうことも目的です。 本授業では，まずマーケティングリサーチの基本概念の紹介と実践例を示し，記述統計やクロス表集計，相関分析を学びます。次に，回帰分析やその他の多変量解析を紹介し，マーケティングリサーチの幅広さ・奥深さを体感します。また定性調査方法やテキストマイニングについて学びます。実社会におけるマーケティングリサーチの実践・応用例も紹介する予定です。適宜，復習や小テストを行い，受講者の理解度を測りながら授業を進めていきます。		
履修条件・留意点	「マーケティング基礎」や「マーケティング戦略論 I」を合格済みであることが望ましいです。また「ビジネス統計学 I」や「ビジネス統計学 II」を履修済み，もしくは同時期に履修が望ましいです。 受講者数によって最終プレゼンテーションが適さない場合は評価方法を筆記テストやレポート課題に切り替える場合があります。 アクティブ・ラーニングの取り組みは受講者数や進度によって実施しない場合があります。 授業では必ずパソコンを持参してください。分析するときは Excel 上で動くマクロ（無料）やその他のフリーソフトウェアを使用します。使い方は授業内で説明します。Python, R などの分析ツールは使いません（意欲ある方は使っていただいても構いません）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については，以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングリサーチにおける定量調査，定性調査の代表的な方法を理解し，説明できる。 2. データを適切な方法で分析できる。 3. 分析結果を適切に解釈できる。 4. 分析結果をまとめてプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題・問題についてはフィードバックやコメント・アドバイスをを行います。コメントシートの提出を求める場合，重要なものは翌週の授業で紹介し，質問への回答や補足説明を行います。 小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は，民間企業において，マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では，これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	ビジネスのための調査・リサーチ入門，広瀬安彦，日経文庫，2024 年	ISBN	9784296120925
参考書	①経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ，竹内広宜，講談社，2021 年 ②Excel で今すぐはじめる心理統計 第 2 版，小宮あすか・布井雅人，講談社，2024 年 ③1 からのマーケティング分析（第 2 版），恩蔵直人・	ISBN	①9784065251614 ②9784065371800 ③9784502421617 ④9784502436413 ⑤9784820727019

	富田健司, 碩学社, 2022 年 ④1 からのデータ分析, 古川一郎・上原渉, 碩学社, 2022 年 ⑤基本がわかる実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方 [定性調査編], 石井 栄造, 日本能率協会マネジメントセンター, 2019 年 ⑥やってみようテキストマイニング 増訂版, 牛澤健二, 朝倉書店, 2021 年		⑥9784254122619
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この下に書かれている授業計画を見て、「難しそうだな、やめておこうかな」という人もいると思います。しかし、恐れる必要はありません。難しい数式はできるだけ避けます。マーケティングリサーチという言葉を見て興味を持った人はもちろんのこと、「自分には関係ない」という人にもぜひ受講してほしいと思います。 将来、マーケティングリサーチとはまったく関係がない職業に就いても、ある日上司から「お客さんの満足度調査をしたいからリサーチ会社の人と打ち合わせをしろ」と言われるかもしれません。そういうときに専門の人たちが話している内容がある程度わかっているだけで、よりよい調査を実施することができ、業績向上につながって、あなたの評価が高まる可能性があります。確かに授業内容は「マーケティング基礎」や「ビジネス統計学Ⅰ」よりも難しくなりますが、授業中に理解が追いつかなくてもあきらめずに学習を続けることが大切です。本授業はあなたの世界・可能性を広げるためにあるのです。いっしょにがんばりましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【イントロダクション&ガイダンス】 授業の目的と方法、進め方・受け方、授業計画、成績評価等について説明します。授業で使う資料や Excel マクロ・ソフトウェアの概要、ダウンロード方法について解説します。マーケティングリサーチの概念について学び、製品開発や顧客満足調査などが実際にどのように活用されているのかを理解します。テキストと参考書についても紹介します。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。	2 時間
第2回	対面	【基本的な定量調査（1）】 「ビジネス統計学Ⅰ」で学んだ平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差などの記述統計およびビジュアライゼーションを復習します。リサーチ結果の基本かつ重要なところなので統計分析の演習をしながら理解を深めます。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第1章第7節、第3章第1節～第2節を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。また分析を再度自分だけで実行し、分析の流れを再確認すること。	4 時間
第3回	対面	【基本的な定量調査（2）】 クロス表集計とカイ二乗検定、相関分析などの基本的な分析法と活用事例を学びます。また多くの誤用、勘違いをしてしまう帰無仮説検定について復習を行います。顧客満足度調査などのデータを用いて簡単	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第3章第1節～第2節を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。また分析を再度自分だけで実行し、分析の流れを再確認すること。	4 時間

		な演習をします。		
第4回	対面	【多変量解析 (1)】 回帰分析 (単回帰・重回帰) の基本とその応用方法を説明します。回帰分析のメカニズムを知り、調査結果を解釈できることを目指します。次に簡単な分析であれば独力で分析ができるようデータを用いた演習を行います。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第3章第3節～第4節を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。また分析を再度自分だけで実行し、分析の流れを再確認すること。	4 時間
第5回	対面	【多変量解析 (2)】 因子分析、主成分分析、構造方程式モデリングなどを紹介します。顧客満足度調査などの事例を通して多変量解析のイメージをつかむことを目標とします。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第3章第5節～第6節を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。興味がある分析法があれば、参考書やオンラインなどで調べること。	4 時間
第6回	対面	【復習と小テスト①】 第2回～第5回の内容を中心に復習し、補足説明を行います。小テストを授業内で実施します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。テキスト第3章を読み直しておくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	【定性調査方法 (1)】 代表的な定性調査法であるインタビュー調査を中心にその概要と基本技法を説明します。また製品開発のリサーチ、満足度調査などにどのように活用されているのか学びます。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第1章第6節、第2章第1節～第2節を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	【定性調査方法 (2)】 さらにインタビュー調査について理解を深めるため、授業内で簡単なインタビュー法による調査を受講生どうしで演習します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第2章第4節～第5節を読んでおくこと (第3節は飛ばしてよい)。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	【テキスト分析・マイニング】 テキストデータの処理と分析方法の基本を説明します。またオンライン上のクチコミなどのテキストデータを使った分析のデモンストレーション (もしくは演習) を行います。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	【復習と小テスト②】 第7回～第9回の内容を中心に復習し、補足説明を行います。小テストを授業内で実施します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第2章を改めて読み直すこと (第3節は飛ばしてもよい)。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	【調査設計・実施】 定量調査・定性調査を実施するにあたり、調査設計について説明します。最終プレゼンテーションで自分がどのようなマーケティングリサーチをしたいのか考えていきます。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第1章を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。また最終プレゼンテーションに向けて自分が分析したいことについて考えること。	4 時間
第12回	オンデマンド	【調査法の振り返り】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。今後学んでほしい分析手法についても紹介します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またテキスト第4章を読んでおくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	【マーケティングリサーチ全体のまとめ】 調査目的、調査設計、分析、結果の一連のプロセスを振り返り、質疑応答を行います。また最終プレゼンテーションについて説明し、参考例として担当教員がデモンストレーションを行います。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。またこれまでの授業内容やテキストについての質問・疑問点を書き出しておくこと。 事後学修として授業で授業で得た知識を復習しておくこと。また最終プレゼンテーションに向けて分析・準備をすること。	4 時間

第14回	対面	【最終プレゼンテーション (1)】 まとめた資料を発表します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。また最終プレゼンテーションの準備をすること。 事後学修として他の受講生のプレゼンテーションや授業で得た知識を復習しておくこと。	5 時間
第15回	対面	【最終プレゼンテーション (1)】 まとめた資料を発表します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。また最終プレゼンテーションの準備をすること。 事後学修として他の受講生のプレゼンテーションや授業で得た知識を復習しておくこと。	5 時間

科目名	広告論	開講年度	2025
担当者	五島 光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	広告およびそれを利用した企業等のマーケティング活動への理解を深める。		
授業の目的及び概要	本授業は広告の作り方そのものを学ぶものではありません”。必要に応じて授業内で各種広告（紙媒体、テレビ CM など）を提示することもあります。それらを鑑賞することが主目的ではありません”。 本授業の目的は、マーケティングの代表的フレームワークである 4P のうち Promotion について、特に広告を活用した企業等のマーケティング・コミュニケーションについてより専門的な知識を獲得することです。 具体的には、広告の役割・機能、広告ビジネスの仕組み、各種広告メディアの特徴について学びます。		
履修条件・留意点	マーケティング戦略コースでない学生が履修する場合（他コースの学生の受講は大歓迎です）、「マーケティング基礎」や「マーケティング戦略論Ⅰ」の内容（STP, 4P とはどのようなものであったかなど）を復習しておくことが望ましいです。 アクティブ・ラーニングの取り組みは受講者数によって実施しない場合があります。小テスト等を行う場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 広告の定義・役割・機能について基本的な知識を理解し、説明できる。 2. 広告が作られる一般的な流れを把握し、説明できる。 3. 広告をめぐる規制・倫理について理解し、説明できる。 4. 各種メディアでの広告について、それぞれの特徴を理解し、簡潔に説明できる。 5. 自分が関心を寄せる広告について調査し、報告できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題や質問がある場合、フィードバックやコメント・アドバイスをを行います。コメントシートの提出を求める場合、重要なものは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。 小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告(第3版), 石崎徹, 八千代出版, 2024 年	ISBN	9784842918655
参考書	①現代広告論 第4版, 岸志津江・田中洋・嶋村和恵・丸岡吉人, 有斐閣, 2024 年 ②現代広告全書, 田中洋・岸志津江・嶋村和恵, 有斐閣, 2021 年 ③この1冊ですべてわかる 新版 広告の基本, 波田浩之, 日本実業出版社, 2018 年 ④宣伝会議, 月刊『宣伝会議』編集部, 各巻 ⑤販促会議, 月刊『販促会議』編集部, 各巻	ISBN	①9784641222328 ②9784641165885 ③9784534055804 ④なし ⑤なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	大企業の広告はたくさんの人が関わり、膨大な予算をかけて作っています。一方、中小零細企業の広告は担当者がたった1人で孤軍奮闘していることが多いです。どの広告も関わった人たちの「知と汗と涙の結晶」です。 将来自分は広告と関係ないから受講しないというのはもったいないと思います。例えば、公務員になったとして、「●●市の特産物を推していきたいから広告会社といっしょにCM作れ」と上司から言われるかもしれません。そのときに本授業で学んだことを少しでも思い出せば役に立つでしょう。 少なくとも授業期間中は各種広告に興味を持って接してください。広告を出しているのはビジネス活動をしている企業だけではありません。 世の中にどれほどの広告があふれているのかと気付き、企業等は広告を通して私たちに何を伝えたいのか、イメージキャラクターを使っているならなぜそのキャラクターなのか、広告にどんな効果を期待しているのだろうかと考えてみてください。 広告を通じて企業等が行うマーケティング・コミュニケーションについて学び、考えることであなたのマーケティング思考力は高まると思います。いっしょにがんばりましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【授業ガイダンス&マーケティングコミュニケーション】 授業の目的と方法、進め方・受け方、授業計画、成績評価・筆記試験について説明します。テキスト・参考書についても紹介します。また、マーケティングコミュニケーションについて「マーケティング基礎」の復習も兼ねて概観します。	事前学修としてシラバスを読み、授業の目的等を理解しておくこと。また、またテキスト1章と2章を読んでおくこと。事後学習として、1章と2章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートを読んで授業の講義の流れを確認しておくこと。	2時間
第2回	対面	【広告とその機能】 広告とそれに似ている活動（PR, DM, クチコミ, 営業など）の定義と機能について確認していきます。マーケティングコミュニケーションには様々な手段があり、それぞれどのような役割があるのかを把握・理解することを目指します。	事前学修としてテキスト3章を読んでおくこと。また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト第3章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	【広告ビジネスの仕組みと組織&コスト】 前回で広告とは何かを理解した後で、広告に関わる仕事・企業（広告ビジネス）について見ていきます。そして、広告にどれだけのお金が使われているのか（使われるべきか）について説明します。	事前学修としてテキスト4章と6章を読んでおくこと。また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト4章と6章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	【広告計画と表現計画】 前回、様々な人々・部署・会社が広告に関わっていることを理解しましたが、それらの復習をしつつ今回は実際にどんな広告をどのように作っていくのか（広告計画）、そしてどのようなメッセージを打ち出していくべきなのか（表現計画）について基礎知識を把握します。	事前学修としてテキスト5章と7章を読んでおくこと。また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト5章と7章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間

第5回	対面	【広告メディア計画】 広告には、電車・バスの中の広告だけでなく、広告ではないように思ってしまう広告など様々な種類があります。本授業の第8回以降では媒体別に広告を見ていきますが、その予備知識として今回はどのような広告の種類（メディア：媒体）があるのかを概観します。	事前学修としてテキスト8章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト8章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	【効果測定】 広告は作って出したら終わりではなく、売上や購入数などどれだけの効果があったのかを確認しなければなりません。広告効果の考え方や計測の方法について基礎的な知識の理解を目指します（難しい計算は行いませんので安心してください）。	事前学修としてテキスト9章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト9章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	【炎上と広告規制】 企業等（特に上場している会社）にとって、業績・利益を上げることは最重要課題です。表現の自由があるからといって、どんな広告をしてもいいのでしょうか？ 炎上して目立っていいのでしょうか？ ここでは広告を規制する法律・制度を中心に学びます。	事前学修としてテキスト10章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト10章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	【インターネット広告】 近年のインターネット利用率は90%に迫り、国民のほとんどが利用していると言ってもいいでしょう。多くの人が集まる場所には当然広告もたくさん集まります。インターネット広告の種類と特徴、それらの注意点について学びます。	事前学修としてテキスト11章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト11章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	【BtoB 広告とブランディング】 本授業で取り上げる広告例は BtoC ですが、ここでは BtoB 広告を取り上げます。BtoB 広告とは何か、どんな種類があり、どのような役割があるのかを学びます。またブランド構築（ブランディング）についても取り上げます。	事前学修としてテキスト12章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト12章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	【グローバル広告】 日本の自動車メーカーは海外でもビジネスをしていますし、その逆で外国から日本に進出している企業もあります（例：マクドナルド）。複数の国で活動しているこれらの企業はどのような広告・マーケティングコミュニケーションを取っているのかを学びます。	事前学修としてテキスト13章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト13章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	【ソーシャルマーケティングと広告】 ソーシャルと聞くと、SNS と関係がありそうですが、そうではありません（ツールとして SNS を利用することもあります）。ソーシャルマーケティング（社会的マーケティング）の代表例は AC ジャパンのような公共広告です。社会（世の中）にとって良いことを志向するマーケティングについて学びます。	事前学修としてテキスト14章を読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト14章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	【SP と PR】 セールスプロモーション（Sales Promotion；販売促進もしくは販促）とパブリック	事前学修としてテキスト15章と16章のどちらか興味があるほうを読んでおくこと。 また、この1週間で見かけた広告の中でもっとも興	4時間

		リレーションズ(Public Relations;広報)について学びます。前者はポイント●倍キャンペーンとかで見慣れているものであるが、後者は学生の皆さんにとってはピンと来ないかもしれません。両者の違い、マーケティングコミュニケーションとの関わりを概観します。	味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト 15 章と 16 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	
第 1 3 回	対面	【WoM】 クチコミとマーケティングの関係を学びます。クチコミ（もしくは口コミ、Word of Mouth; WoM）は広告そのものではないですが、購買・消費行動に大きな影響を与えます。クチコミには対面のクチコミとネット上のクチコミがあり、後者は「バズる」ことにも関連があります。	事前学修としてテキスト 17 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト 17 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 1 4 回	対面	【DM と IMD】 ダイレクトマーケティング(DM)とインスタマーチャンダイジング(IMD)について学びます。前者の代表は通信販売(通販)で後者の代表はスーパーやコンビニです。どちらも私たちの生活と密接な関わりがあります。買うつもりがなかったのに、お店に行ったらついつい買ってしまうのも仕掛けがあります(消費者の立場としては、それを理解し、無駄遣いは避けたいところです)。	事前学修としてテキスト 18 章と 19 章のどちらか興味があるほうを読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト 18 章と 19 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	【総括】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。また定期試験についても説明を行います。	事前学修としてこれまでのテキスト・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修としてテキスト、資料やメモ・ノートを読んで授業で自分が興味あることは何か考えること。定期試験に備えること。	6 時間

科目名	広告論	開講年度	2025
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	広告作成のワークを通じた論理的思考力とコミュニケーション力の養成		
授業の目的及び概要	「広告はラブレター」と言われます。すぐれた広告とは、伝えたい相手に的確に自分の言いたいことを伝えることです。本授業では、実際の広告制作手法の基礎を学び、実際のキャッチフレーズ制作を通して、社会人基礎力として重要な論理的思考力やコミュニケーション力を身につけていただくことを目的としています。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点	コピーライティング中心の授業のため、日本語が問題なく使える語学力が必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	就活で使える「自分キャッチフレーズ」など5回の「キャッチフレーズ」の企画及び論理的文章の作成及びそれに対する解説を通して、文章作成能力と論理的思考力を身につけることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	実践課題はラーニングポータルに提出していただき、次回授業で全体講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を5年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で15年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で30年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。 課題が全5回と多い授業のため、課題未提出者は単位取得できません。 ※コピーライティング中心の授業のため、日本語が問題なく使える語学力が必要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点説明	事前：シラバスをよく読み、受講によって達成したい目標を考えておくこと（1時間程度）	1時間
第2回	オンデマンド	●伝わる広告とは？ 広告制作手法の基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第3回	オンデマンド	●自分を知る マーケティング分析手法のひとつ「3C分析」を学んだ後、将来の仕事を考える時、どうしても譲れないこと＝自分のキャリアアンカーを知るワーク	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第4回	オンデマンド	●相手を知る ターゲット設定方法として「ペルソナ分析」を学ぶワーク	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第5回	オンデマンド	●課題① 自分キャッチフレーズ制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第6回	オンデマンド	●課題① 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（2時間程度）	3時間
第7回	オンデマンド	●課題② 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第8回	オンデマンド	●課題② 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第9回	オンデマンド	●課題③ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第10回	オンデマンド	●課題③ 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第11回	オンデマンド	●課題④ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第12回	オンデマンド	●課題④ 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第13回	オンデマンド	●課題⑤ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第14回	オンデマンド	●課題⑤ 提出分の中から発表・講評。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：これまでの資料を復習しておくこと（4時間程度）	5時間

2025/05/01

			度)	
第15回	オンデマンド	講義の総括	事前：これまでたてた目標の達成状況を確認しておくこと（1時間程度） 事後：これまで学んだ事を復習しておく（4時間程度）	5時間

科目名	社会心理学	開講年度	2025
担当者	竹井 夏生	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	「私」、「他者」、「社会」とそのダイナミズムについて学びながら、共生社会の道のりを探る。		
授業の目的及び概要	この授業では、社会との関係における個人の心理を考察するとともに、社会のなかにある心理的な側面から、人々の心理や行動に対する理解を深めることを目標とする。また著名な社会心理学の研究を紹介しながら、社会的動物である人間の行動や認知、他者と共に生活することの意味やその影響について考察する。加えて、人間関係、集団過程と組織行動、説得的コミュニケーションについて、心理学的基本概念や臨床的問題、臨床的な援助法の具体事例から理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・社会の「あたりまえ」を批判的・学問的に疑い、「とらわれ」や「思い込み」から自由になるためのものの見方を獲得することができる。 ・社会に出る準備段階にいる受講生が、「私」についての理解を深めながら、社会や集団の中で起こりうることにについて知り、備え、しなやかに生き抜くことができるための洞察的視野を獲得することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義のリアクションペーパーについては、授業内で取り上げる。その他、講義内容の質問等は直接ないしメールで受け付ける。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下は参考書として、関心があれば手に取ってほしい。 ①現実の社会的構成—知識社会学論考，ピーター・バーガー・トーマス・ルックマン（著），山口節郎（訳），新曜社，2003 年 ②フーコー—知と権力，桜井哲夫（著），講談社，2003 年 ③ハンナ・アーレント「戦争の世紀」を生きた政治哲学者，矢野久美子（著），中央公論新社，2014 年	ISBN	① ISBN：9784788508392 ② ISBN：9784062659260 ③ ISBN：9784121022578
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	受講生一人一人が、私—他者—社会という結びつきの中で生きていることに自覚的になりながら、その結びつきをよりよいものにしていくことができるよう、受講生とともに考えていく時間にしたい。価値観、立場、文化、国籍、言語などが異なる人々と関わる上で、私という存在を大切に保ちながら、他者をも重んじ、よりよい社会を築いていくための小さな礎となるような講義にしたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	社会心理学への導入（1） 「私」、他者、社会の縦横無尽の絡み合いについて、現代的なトピックを用いながら、社会心理学への導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第2回	対面	社会心理学への導入（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第3回	対面	社会構成主義とナラティブ（1） 社会構成主義的なものの見方について、またその臨床心理的な展開としてのナラティブについて理解を深める。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第4回	対面	社会構成主義とナラティブ（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第5回	対面	知・権力・言説—フーコーを手掛かりに（1） ミシェル・フーコーを手掛かりにして、「私」を取り巻き規定する、他者、社会、時代、「知」との絡み合いについて、精神疾患、性、犯罪、学校などをテーマに考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第6回	対面	知・権力・言説—フーコーを手掛かりに（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第7回	対面	社会集団における「私」—アーレントを手掛かりに（1） 社会心理学において有名ないわゆるミルグラム実験の背景にもなっているハンナ・アーレントの思想について、暴力、服従、集団、パーソナリティといった観点から考えてみる。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第8回	対面	社会集団における「私」—アーレントを手掛かりに（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に	4 時間

			触れてみること。	
第9回	対面	集団力動と家族療法（1） 集団に働く見えざる力について洞察する視点を学ぶ。またその展開としての家族療法についても扱う。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第10回	対面	集団力動と家族療法（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第11回	対面	集団力動と家族療法（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第12回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（1） 現代的なトピックも含め、さまざまなテーマについて社会心理学的な観点から読み解いていく。学校や会社などの組織集団について、ウェブ空間について、また古典や小説テキストも題材にしたい。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第13回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第14回	対面	講義のまとめと振り返り（1） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめと振り返り（2） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	商品開発論	開講年度	2025
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商品開発のプロセスの学修を通じたマーケティング能力の養成		
授業の目的及び概要	マーケティングの考え方は、就職してから様々な場面で活用が可能です。この授業では、商品開発の流れを通してマーケティングの基礎知識を習得した後、後半はその知識をもとに、具体的な商品開発の企画書を作成し、論理的思考の習得にもつなげます。マーケティングの基礎知識から講義をするので、マーケティング関連の受講がなくても大丈夫です。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	SWOT 分析、ターゲティング、差別化、ベネフィット、4P 分析の各課題を学生自ら考え、作成することで論理的思考力が身につき、あらゆる仕事に役立つマーケティングの考え方を習得できます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、提出した課題は受講者にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いています。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。実務で使えるレベルの内容のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：シラバスをよく読み、本授業で達成したい目標を決めておくこと	1 時間
第2回	対面	●商品開発の流れ～マーケティングの基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第3回	対面	●環境分析方法（PEST、3C、SWOT 分析）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第4回	対面	●ベネフィット／ターゲティング／差別化	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第5回	対面	●4 P 分析～Product（アイデア発想法）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第6回	対面	●4 P 分析～Product（商品コンセプト作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第7回	対面	●4 P 分析～Price	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第8回	対面	●4 P 分析～Place/Promotion これまでの内容についての理解度レポート課題を提示します	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第9回	対面	●購買までの流れ～採用される企画書作成のポイント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第10回	対面	●実践1～ミッション提示：開発コンセプトから4 P 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、次週に向けて情報収集をしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第11回	対面	●実践2～SWOT 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第12回	対面	●実践3～ターゲット設定～Product（商品コンセプト文作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第13回	対面	●実践4～Price/Place/Promotion 企画	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第14回	対面	●まとめ 最終レポートに向け、これまで学んだことをおさらい	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：最終レポートにむけて復習をしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第15回	オンデ	全授業の理解度を見るための最終レポート	事前：最終レポートにむけて復習しておくこと	4 時間

2025/05/01

	マンド	ト課題を出題します。最終レポートはラー ニングポータルに提出していただきます。		

科目名	商品開発論	開講年度	2025
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	製品開発の本質である技術・市場の融合について、マーケティングの視点から理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、製品開発の理論や概念について事例をもとに説明するものである。製品開発の考え方の背景には技術と市場ニーズの融合がある。つまりこれは、技術やイノベーションをどのようにマネジメントするかといった視点と、市場を構成する顧客のニーズを発見し価値をどのように検討するかといった視点が存在するということであり、共に重要なものである。本講義では後者に焦点をあて、マーケティング活動の事例を通して、製品開発の本質である技術と市場の融合について講義を進める。		
履修条件・留意点	マーケティング基礎や経営管理論Ⅰ、マーケティング戦略論Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義内で学修した製品開発に関係する考え方やプロセスについて説明できる。 さらに学修した内容について、他のケースや新しいビジネスモデルにあてはめて説明でき、さらに自身の考察も加えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回ミニツツシートを書くこと。優秀な回答については翌週授業内でフィードバックなどを行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からのマーケティング・デザイン, 石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文, 碩学舎, 2022, ISBN9784502200212 2400 円	ISBN	9784502200212
参考書	参考になる図書、論文、資料については案内いたします。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マーケティング基礎や経営管理論Ⅰ、マーケティング戦略論Ⅰを履修していることが望ましい。 また日常から新製品情報に興味を持ち、それに関する情報を集めておくこと。特に最後の課題となるレポートについては、必ず正しい書式と表現で記述すること。レポートの体裁不備に関しては再提出を求めることがある。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス・製品開発の基本 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 基本的な製品開発の流れなどを説明します。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。(2時間程度) 事後学修として授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第2回	対面	マーケティングミックスによる顧客創造 マーケティングミックスを復習するとともに、この視点に基づき顧客をどのように創造するかを説明します。	事前学修としてテキストの第2章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第2章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第3回	対面	顧客創造のプロセス 製品利用を通じた市場創造の事例を学修します。	事前学修としてテキストの第3章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第3章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第4回	対面	価格設定と製品開発 製品価格の意味や、その設定と価値について学びます。	事前学修としてテキストの第4章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第4章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第5回	対面	チャネルと製品開発 新しいチャネルの構築と製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第5章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第5章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第6回	対面	コミュニケーションと製品開発 新製品の認知度とコミュニケーションとメディア活用について学びます。	事前学修としてテキストの第6章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第6章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	マーケティングリサーチと製品開発 製品開発における市場開発の過程について学びます。	事前学修としてテキストの第7章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第7章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	中間テスト：第1回～第7回の復習 最終レポートを正しい用語で書いていただくために、用語確認を含めた中間テストを行います。	事前学修として、1回目の講義資料とテキストの2から7章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修として、中間テストで配布した解答チェックし、講義資料とテキストを読んで復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	顧客との関係構築による製品開発 オフラインからオンラインへ移行した製品開発を学びます。	事前学修としてテキストの第8章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第8章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第10回	対面	デジタル特性を活用した製品開発 デジタルの長所短所からそれらを生かした製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第9章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第9章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	ブランド構築と製品開発 ロングセラーブランドの構築プロセスと製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第11章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第11章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	営業と製品開発 ニーズを聞き出す営業と製品開発の関係やプロセスを学びます。	事前学修としてテキストの第12章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第12章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	自社資源と製品開発 マーケティング戦略に基づいた社内資源の活用について学びます。	事前学修としてテキストの第13章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第13章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	製品価値について いくつかの視点から製品価値について学	事前学修として、提供する資料を事前に読んでおくこと。(2時間程度)	4時間

		びます。	事後学修として、提供した資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2 時間程度)	
第 1 5 回	オンデマンド	総括 これまでの春学期のまとめ	事前学修としてテキストや授業で配布した資料等を事前に読み、予習しておくこと。(3 時間程度) 事後学修としてテキストや授業で配布した資料等でこれまで学修した部分を復習しておくこと。(3 時間程度)	6 時間

科目名	商品開発論	開講年度	2025
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商品開発のプロセスの学修を通じたマーケティング能力の養成		
授業の目的及び概要	マーケティングの考え方は、就職してから様々な場面で活用が可能です。この授業では、商品開発の流れを通してマーケティングの基礎知識を習得した後、後半はその知識をもとに、具体的な商品開発の企画書を作成し、論理的思考の習得にもつなげます。マーケティングの基礎知識から講義をするので、マーケティング関連の受講がなくても大丈夫です。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	SWOT 分析、ターゲットング、差別化、ベネフィット、4P 分析の各課題を学生自ら考え、作成することで論理的思考力が身につく、あらゆる仕事に役立つマーケティングの考え方を習得できます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、提出した課題は受講者にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。実務で使えるレベルの内容のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：シラバスをよく読み、本授業で達成したい目標を決めておくこと	1時間
第2回	オンデマンド	●商品開発の流れ～マーケティングの基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第3回	オンデマンド	●環境分析方法（PEST、3C、SWOT分析）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3時間程度）	4時間
第4回	オンデマンド	●ベネフィット／ターゲティング／差別化	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第5回	オンデマンド	●4P分析～Product（アイデア発想法）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第6回	オンデマンド	●4P分析～Product（商品コンセプト作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第7回	オンデマンド	●4P分析～Price	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第8回	オンデマンド	●4P分析～Place/Promotion	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3時間程度）	4時間
第9回	オンデマンド	●購買までの流れ～採用される企画書作成のポイント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3時間程度）	4時間
第10回	オンデマンド	●実践1～ミッション提示：開発コンセプトから4P分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、次週に向けて情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第11回	オンデマンド	●実践2～SWOT分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題作成（4時間程度）	5時間
第12回	オンデマンド	●実践3～ターゲット設定～Product（商品コンセプト文作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題作成（4時間程度）	5時間
第13回	オンデマンド	●実践4～Price/Place/Promotion企画	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題作成（4時間程度）	5時間
第14回	オンデマンド	●まとめ 最終のレポート提出に向け、これまで学んだことをおさらい	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：最終レポートにむけて復習をしておくこと（3時間程度）	4時間
第15回	オンデ	全授業の理解度を見るための最終レポー	事前：最終レポート作成に向け、復習しておくこと	4時間

2025/05/01

	マンド	トを作成していただきます。		

科目名	ホスピタリティ論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ホスピタリティの内容を深く理解し、実践する。		
授業の目的及び概要	成熟社会となった我が国では、サービス産業のみならず、製造業をはじめとする様々な分野で「顧客満足」を重視しています。また、一部のサービス業は「ホスピタリティ産業」とも呼ばれるようになりました。 「顧客満足」につながる「ホスピタリティ」とは何であるか、何をすれば達成できるのか、メリット・デメリット、リスクは何かを考察し、社会のニーズを適切に理解して、将来社会人として職場や顧客とのより良い関係性を構築できる人材、求められる人材になることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会や企業から求められる、次のような人になることを到達目標とします。 ①「ホスピタリティ」の重要性を理解し、適切なコミュニケーションができる。 ②他者の考え方や感じ方を推測し、適切な対応や配慮ができる。 ③産業やビジネスにおける「ホスピタリティ」のあり方を理解し、実践できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求めます。 コメントシートで提出された問題や質問、傑出したコメントなどをピックアップし、次回授業で紹介して解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①感動体験を創る！「ホスピタリティ・マネジメント」 〔第3版〕, 山口一美著, 創成社, 2022 年	ISBN	①9784794426017
参考書	指定の参考書はありません。必要な資料はパワーポイントで作成し、ラーニングポータルで公開します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、ホスピタリティの基本的な概念について紹介します。	授業後に、テキスト第1章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	対面	ホスピタリティとサービス： ホスピタリティとサービスの違いについて理解し、ホスピタリティ産業で提供するサービスの特性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章）を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	対面	経営管理（サービス・マーケティング）： サービスの特性と、社会における位置づけ、ビジネスシーンにおける役割を理解し、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章）を復習し、テキスト第3章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	対面	サービス・リカバリー、エンパワーメント： 顧客クレームに対応する考え方、従業員へのエンパワーメント（権限委譲）の重要性やリスク（メリット・デメリット）について、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章）を復習し、テキスト第4章を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	対面	顧客満足（1）： 顧客の選択行動を理解し、対応するサービスの品質、リピーターを生むサービスについて、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）をよく復習して下さい。次回は更に関連の内容について考察を深めます。	4時間
第6回	対面	顧客満足（2）： サービスの品質、リピーターを生むサービスと、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	対面	従業員満足： ホスピタリティ産業、サービス業における従業員のモチベーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章を読んで予習して下さい。	4時間
第8回	対面	従業員とコミュニケーション（1）： 人のパーソナリティとコミュニケーションについて理解し、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章—1,2）を復習し、テキスト第6章—3を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	対面	従業員とコミュニケーション（2）： コミュニケーションとマナーについて、事例を紹介しながら理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章-3）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：旅行ビジネス 旅行ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：航空ビジネス 航空ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（1） 宿泊ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第13回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（2）	授業後に、宿泊ビジネス（テキスト第9章及び事例研究）について復習し、テキスト第10章を読んで予習	4時間

		宿泊ビジネスの具体的な事例を研究し、理解を深めます。	して下さい。	
第14回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：テーマパーク・ビジネス（1） テーマパーク・ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の総括： 講義内容全体を振り返り、ホスピタリティの概念、実践とビジネスシーンでの応用について、総合的に考えます。	授業後に、テキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	ホスピタリティ論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ホスピタリティの内容を深く理解し、実践する。		
授業の目的及び概要	成熟社会となった我が国では、サービス産業のみならず、製造業をはじめとする様々な分野で「顧客満足」を重視しています。また、一部のサービス業は「ホスピタリティ産業」とも呼ばれるようになりました。 「顧客満足」につながる「ホスピタリティ」とは何であるか、何をすれば達成できるのか、メリット・デメリット、リスクは何かを考察し、社会のニーズを適切に理解して、将来社会人として職場や顧客とのより良い関係性を構築できる人材、求められる人材になることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会や企業から求められる、次のような人になることを到達目標とします。 ①「ホスピタリティ」の重要性を理解し、適切なコミュニケーションができる。 ②他者の考え方や感じ方を推測し、適切な対応や配慮ができる。 ③産業やビジネスにおける「ホスピタリティ」のあり方を理解し、実践できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求めます。 コメントシートで提出された問題や質問、傑出したコメントなどをピックアップし、次回授業で紹介して解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①感動体験を創る！「ホスピタリティ・マネジメント」〔第3版〕， 山口一美著，創成社，2022 年	ISBN	①9784794426017
参考書	指定の参考書はありません。必要な資料はパワーポイントで作成し、ラーニングポータルで公開します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、ホスピタリティの基本的な概念について紹介します。	授業後に、テキスト第1章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	ホスピタリティとサービス： ホスピタリティとサービスの違いについて理解し、ホスピタリティ産業で提供するサービスの特性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章）を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	経営管理（サービス・マーケティング）： サービスの特性と、社会における位置づけ、ビジネスシーンにおける役割を理解し、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章）を復習し、テキスト第3章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	サービス・リカバリー、エンパワーメント： 顧客クレームに対応する考え方、従業員へのエンパワーメント（権限委譲）の重要性やリスク（メリット・デメリット）について、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章）を復習し、テキスト第4章を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	顧客満足（1）： 顧客の選択行動を理解し、対応するサービスの品質、リピーターを生むサービスについて、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）をよく復習して下さい。次回は更に関連の内容について考察を深めます。	4時間
第6回	オンデマンド	顧客満足（2）： サービスの品質、リピーターを生むサービスと、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	従業員満足： ホスピタリティ産業、サービス業における従業員のモチベーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章を読んで予習して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	従業員とコミュニケーション（1）： 人のパーソナリティとコミュニケーションについて理解し、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章—1,2）を復習し、テキスト第6章—3を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	従業員とコミュニケーション（2）： コミュニケーションとマナーについて、事例を紹介しながら理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章-3）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：旅行ビジネス 旅行ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：航空ビジネス 航空ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（1） 宿泊ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第13回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（2）	授業後に、宿泊ビジネス（テキスト第9章及び事例研究）について復習し、テキスト第10章を読んで予習	4時間

		宿泊ビジネスの具体的な事例を研究し、理解を深めます。	して下さい。	
第14回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：テーマパーク・ビジネス（1） テーマパーク・ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の総括： 講義内容全体を振り返り、ホスピタリティの概念、実践とビジネスシーンでの応用について、総合的に考えます。	授業後に、テキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	観光論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	観光の歴史や産業的役割を理解すると共に、ウィズコロナ、アフターコロナ、高齢化、スマート化などを踏まえた新たな時代のツーリズムについて考える		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。特に日本では、近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなりました。 しかしながら、新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったこと、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっていることなどを踏まえ、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、観光学の基礎を理解したうえで、世界ではどのような形式のツーリズム産業が存在して、先端技術を応用した運営がなされているのか、事例を研究すると共に、これからの新時代のツーリズムビジネスを考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 また、対面の場合は双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求め、理解を深めます。コメントシートの中で提起された問題や質問、傑出したコメントについては、次回授業で紹介して解説を行います。 オンデマンドの場合は毎回のテストで学修内容の確認を行い、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「観光再生」, 村山慶輔著, プレジデント社, 2020 年	ISBN	①9784833423854
参考書	「新・観光学入門」中村忠司・王静（編著）、晃洋書房 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、購入の必要はありません〕	ISBN	ISBN: 978-4-7710-3137-1
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、「観光」の意義や概念について、紹介します。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、パワーポイントの内容を復習し、次回用パワーポイント（第1回時に提供）を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	観光の歴史、位置づけ： 日本の観光の歴史、世界の観光の歴史、観光事業に関連する分野について理解を深めます。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、今回のパワーポイント資料の内容を復習し、テキスト第1章01～02を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	「サステナブル」という視点：サステナブル・ツーリズム、リジェネラティブ・トラベル： 持続可能な観光のガイドライン、「環境にやさしい」だけでなく「環境をよくする」取り組みについて、学修します。 また、その分野における世界（フィンランド、メキシコ）の観光の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章01～02）を復習し、テキスト第1章03～04を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	地域教育とシビック・プライド、コミュニティ・ツーリズム： 地域住民が地元誇りや愛着を持ち、地域をよりよくするために取り組むツーリズム、地域振興に貢献するアクションについて、学修します。 また、その分野における日本（秋田県、兵庫県）や世界（スペイン、エクアドル）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章03～04）を復習し、テキスト第1章05～06を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	観光貢献度の可視化、量から質への「発想の転換」： 観光公害、オーバーツーリズムについて、学修します。 また、「マスツーリズム」からの脱却、「量から質へ」の転換を図るオーストリア・ウィーンの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章05～06）を復習し、テキスト第1章07を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	BCPの策定： 観光事業におけるリスク管理、リスク対策となるBCP（事業継続計画）について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章07）を復習し、テキスト第2章08～09を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	オンデ	「新技術」でネクストステップへ進む：マ	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章08～09）	4時間

	マンド	イクロモビリティ、観光型 MaaS。 都市型・郊外型など、タイプに合わせた移動手段の導入、SDG's につながる MaaS について、学修します。 また、日本（大分、奈良、）や世界（ニュージーランド、スコットランド）の観光地における具体的な取り組みを検証します。	を復習し、テキスト第 2 章 10～11 を読んで予習して下さい。	
第 8 回	オンデマンド	デジタルトランスフォーメーション、スマートツーリズム： データやデジタルを活用した新たな観光サービス、システムを学修します。 また、シンガポール、スペインでの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 10～11）を復習し、テキスト第 2 章 12～13 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 9 回	オンデマンド	バーチャルツーリズム、ライブコマース： オンライン体験とリアル体験の整合、観光分野における「企画力」を学修します。また、インタラクティブコミュニケーションを導入した「ライブコマース」の発展について考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 12～13）を復習し、テキスト第 2 章 14 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 10 回	オンデマンド	AI・ロボット/非接触型機器： 接客やサービスにおけるシステム、ロボットの導入について学修します。 また、メキシコなど世界における導入の現状を検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 14）を復習し、テキスト第 3 章 15～16 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	観光の新たなトレンドを捉え、対応する： アフターインスタ映え、食の多様化。 「美味しい、きれい、かわいい」以外の価値、多様化（ベジタリアン、ムスリム、ヴィーガン、グルテンフリーなど）への観光ビジネスの対応について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 3 章 15～16）を復習し、テキスト第 3 章 17～19 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 12 回	オンデマンド	アドベンチャーツーリズム、ロングステイヤー／ワーケーション、レスポンスブルツーリズム： ニューノーマルに合致する新たな観光や滞在の形、ビジネスの取り組みについて、学修します。 また、世界（ニュージーランド、エストニア、アメリカなど）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 3 章 17～19）を復習し、テキスト第 4 章 20～22 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 13 回	オンデマンド	「新戦略」で未来のニーズを先取りする： 高付加価値化、富裕層マーケット、ニューマーケットの開拓。 観光ビジネス、旅行業において不可欠な「高付加価値化」と、ターゲットとなる市場について、学修します。 また、富裕層向けの観光資源に恵まれた日本、観光付加価値の向上に取り組むタイについて、検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 4 章 20～22）を復習し、テキスト第 4 章 23～24 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 14 回	オンデマンド	観光 CRM、リスク分散／事業の多様化： 観光ビジネス、観光行政における顧客管理の位置づけ、重要性について、学修します。 また、観光ビジネスの成長を考える上での、リスクや問題を分析し、解決を考えます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 4 章 23～24）を復習し、テキスト第 5 章 27 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	ダイバーシティの理解、講義の総括： 観光ビジネスにおける多様化について、考察します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4 時間

2025/05/01

		また、講義内容を総括します。		

科目名	観光論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	観光の歴史や産業的役割を理解すると共に、ウィズコロナ、アフターコロナ、高齢化、スマート化などを踏まえた新たな時代のツーリズムについて考える		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。特に日本では、近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなりました。 しかしながら、新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったこと、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっていることなどを踏まえ、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、観光学の基礎を理解したうえで、世界ではどのような形式のツーリズム産業が存在して、先端技術を応用した運営がなされているのか、事例を研究すると共に、これからの新時代のツーリズムビジネスを考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 また、対面の場合は双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求め、理解を深めます。コメントシートの中で提起された問題や質問、傑出したコメントについては、次回授業で紹介して解説を行います。 オンデマンドの場合は毎回のテストで学修内容の確認を行い、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「観光再生」, 村山慶輔著, プレジデント社, 2020 年	ISBN	①9784833423854
参考書	「新・観光学入門」中村忠司・王静（編著）、晃洋書房 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、購入の必要はありません〕	ISBN	ISBN: 978-4-7710-3137-1
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に発言して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、「観光」の意義や概念について、紹介します。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、パワーポイントの内容を復習し、次回用パワーポイント（第1回時に提供）を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	対面	観光の歴史、位置づけ： 日本の観光の歴史、世界の観光の歴史、観光事業に関連する分野について理解を深めます。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、今回のパワーポイント資料の内容を復習し、テキスト第1章01～02を読んで予習して下さい。（約1時間）	4時間
第3回	対面	「サステナブル」という視点：サステナブル・ツーリズム、リジェネラティブ・トラベル： 持続可能な観光のガイドライン、「環境にやさしい」だけでなく「環境をよくする」取り組みについて、学修します。 また、その分野における世界（フィンランド、メキシコ）の観光の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章01～02）を復習し、テキスト第1章03～04を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	対面	地域教育とシビック・プライド、コミュニティ・ツーリズム： 地域住民が地元誇りや愛着を持ち、地域をよりよくするために取り組むツーリズム、地域振興に貢献するアクションについて、学修します。 また、その分野における日本（秋田県、兵庫県）や世界（スペイン、エクアドル）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章03～04）を復習し、テキスト第1章05～06を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	対面	観光貢献度の可視化、量から質への「発想の転換」： 観光公害、オーバーツーリズムについて、学修します。 また、「マスツーリズム」からの脱却、「量から質へ」の転換を図るオーストリア・ウィーンの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章05～06）を復習し、テキスト第1章07を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	対面	BCPの策定： 観光事業におけるリスク管理、リスク対策となるBCP（事業継続計画）について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章07）を復習し、テキスト第2章08～09を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	対面	「新技術」でネクストステップへ進む：マ	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章08～09）	4時間

		イクロモビリティ、観光型 MaaS。 都市型・郊外型など、タイプに合わせた移動手段の導入、SDG's につながる MaaS について、学修します。 また、日本（大分、奈良、）や世界（ニュージーランド、スコットランド）の観光地における具体的な取り組みを検証します。	を復習し、テキスト第 2 章 10～11 を読んで予習して下さい。	
第 8 回	対面	デジタルトランスフォーメーション、スマートツーリズム： データやデジタルを活用した新たな観光サービス、システムを学修します。 また、シンガポール、スペインでの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 10～11）を復習し、テキスト第 2 章 12～13 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 9 回	対面	バーチャルツーリズム、ライブコマース： オンライン体験とリアル体験の整合、観光分野における「企画力」を学修します。また、インタラクティブコミュニケーションを導入した「ライブコマース」の発展について考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 12～13）を復習し、テキスト第 2 章 14 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 10 回	対面	AI・ロボット/非接触型機器： 接客やサービスにおけるシステム、ロボットの導入について学修します。 また、メキシコなど世界における導入の現状を検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 2 章 14）を復習し、テキスト第 3 章 15～16 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 11 回	対面	観光の新たなトレンドを捉え、対応する： アフターインスタ映え、食の多様化。 「美味しい、きれい、かわいい」以外の価値、多様化（ベジタリアン、ムスリム、ヴィーガン、グルテンフリーなど）への観光ビジネスの対応について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 3 章 15～16）を復習し、テキスト第 3 章 17～19 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 12 回	対面	アドベンチャーツーリズム、ロングステイヤー／ワーケーション、レスポンスブルツーリズム： ニューノーマルに合致する新たな観光や滞在の形、ビジネスの取り組みについて、学修します。 また、世界（ニュージーランド、エストニア、アメリカなど）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 3 章 17～19）を復習し、テキスト第 4 章 20～22 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 13 回	対面	「新戦略」で未来のニーズを先取りする： 高付加価値化、富裕層マーケット、ニューマーケットの開拓。 観光ビジネス、旅行業において不可欠な「高付加価値化」と、ターゲットとなる市場について、学修します。 また、富裕層向けの観光資源に恵まれた日本、観光付加価値の向上に取り組むタイについて、検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 4 章 20～22）を復習し、テキスト第 4 章 23～24 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 14 回	対面	観光 CRM、リスク分散／事業の多様化： 観光ビジネス、観光行政における顧客管理の位置づけ、重要性について、学修します。 また、観光ビジネスの成長を考える上での、リスクや問題を分析し、解決を考えます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第 4 章 23～24）を復習し、テキスト第 5 章 27 を読んで予習して下さい。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	ダイバーシティの理解、講義の総括： 観光ビジネスにおける多様化について、考察します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4 時間

2025/05/01

		また、講義内容を総括します。		

科目名	国際観光論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	国際観光とホスピタリティ、ビジネス、文化とのかかわりを考察し、観光事業の動向、まちづくりについて理解を深める。		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。また、人々のグローバルな移動が増加し、特に日本では近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなっています。 しかしながら、新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったこと、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっていくことなどを踏まえ、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、国際観光の基礎を理解したうえで、日本が観光立国を目指すために、何ができているのか、何をすべきなのか、官民の役割や目標を考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 また、対面形式では、双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求め、理解を深めます。コメントシートの中で提起された問題や質問、傑出したコメントについては、次回授業で紹介して解説を行います。 オンデマンド形式では、毎回の出席確認兼小テストで学修内容を振り返り、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新版「はじめての国際観光学」、山口一美・椎野信雄大〔編著〕、創成社、2018 年	ISBN	①9784794425270
参考書	①新・観光立国論、デービッド・アトキンソン著、東洋経済、2015 年 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、必ずしも購入の必要はありません〕	ISBN	①9784492502754
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に国際観光を学んで下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、テキスト第1章第3～5節を参照して「国際観光とホスピタリティ・マネジメント」、「ホスピタリティと外国人」について、解説します。	授業後に、テキスト第1章を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	対面	国際観光とホスピタリティ・マネジメント：「ホテル・マネジメント」 ホテルの役割、ホテル産業の歩んできた道について学修し、サービス業分野への理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章第1～3節）を読んで復習し、テキスト第2章第4節を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	対面	観光立国と日本のホテル産業の課題： 宿泊の多様性（ホテル、民泊、IR、など）について学修します。 また、参考書から日本や世界の具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章第4節）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	対面	国際観光と観光ビジネス：トラベルビジネス トラベルビジネスの仕組み、ポスト・マストゥリズム時代の国際観光ビジネスについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章第1～6節を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	対面	交通ビジネス（1）： 国際観光にける交通の位置づけ、訪日外国人に対する交通機関の対応について、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章第1～6節）を復習し、テキスト第6章第7～8節を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	対面	交通ビジネス（2）： 日本の国際観光政策と交通ビジネス、訪日外国人にやさしい交通への取り組みについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章第7～8節）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	対面	フードビジネス（1）： インバウンド時代のフードビジネスについて、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第8回	対面	フードビジネス（2）： 旅行者の多様化、宿泊の多様化に伴って必要となる、食の多様化について、パワーポ	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間

		イントで紹介し、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。		
第9回	対面	スポーツビジネス： スポーツビジネスの概要、スポーツツーリズムのありかたについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	対面	国際観光と交流文化： 国際観光と文化のかかわりについて、学修します。 日本のアピールポイントは何であるか、日本人が思う「よいところ」は外国人に理解されているのか、など、外国人の視点からも考えます。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第11回	対面	国際観光ビジネスのためのマーケティング： 「観光立国に必要なこと」、「オーストラリアの観光マーケティング例」、「まだまだ工夫できる日本の観光マーケティング」について、参考書から引用し、学修します。	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、テキスト第10章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	対面	交流文化とエコツーリズム： サステナブル・ツーリズム、エコ・ツーリズムについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）を復習し、テキスト第11章を読んで予習して下さい。	4時間
第13回	対面	魅力ある文化施設づくり： ミュージアムの口コミランキングと訪日観光客の動向、魅力ある文化施設のありかたについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第11章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第14回	対面	観光立国のためのコンテンツ： 参考書から引用し、国際観光における文化財の位置づけ、正しい見せ方、適切な説明について、学びます。また、観光ビジネスにおいて、「発信力」よりも「文化資源の魅力」が更に大切であることについて、考えます。	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、これまでの全体を振り返ってわからないところがないか、確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	講義内容を総括し、インバウンドビジネスの今後の形について、考察します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	国際観光論	開講年度	2025
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	国際観光とホスピタリティ、ビジネス、文化とのかかわりを考察し、観光事業の動向、まちづくりについて理解を深める。		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。また、人々のグローバルな移動が増加し、特に日本では近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなっています。 しかしながら、新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったこと、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっていくことなどを踏まえ、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、国際観光の基礎を理解したうえで、日本が観光立国を目指すために、何ができているのか、何をすべきなのか、官民の役割や目標を考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をし、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新版「はじめての国際観光学」, 山口一美・椎野信雄大〔編著〕, 創成社, 2018 年	ISBN	①9784794425270
参考書	①新・観光立国論, デービッド・アトキンソン著, 東洋経済, 2015 年 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、必ずしも購入の必要はありません〕	ISBN	①9784492502754
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に学修して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、テキスト第1章第3～5節を参照して「国際観光とホスピタリティ・マネジメント」、「ホスピタリティと外国人」について、解説します。	授業後に、テキスト第1章を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	国際観光とホスピタリティ・マネジメント：「ホテル・マネジメント」 ホテルの役割、ホテル産業の歩んできた道について学修し、サービス業分野への理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章第1～3節）を読んで復習し、テキスト第2章第4節を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	観光立国と日本のホテル産業の課題： 宿泊の多様性（ホテル、民泊、IR、など）について学修します。 また、参考書から日本や世界の具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章第4節）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	国際観光と観光ビジネス：トラベルビジネス トラベルビジネスの仕組み、ポスト・マストゥーリズム時代の国際観光ビジネスについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章第1～6節を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	交通ビジネス（1）： 国際観光にける交通の位置づけ、訪日外国人に対する交通機関の対応について、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章第1～6節）を復習し、テキスト第6章第7～8節を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	交通ビジネス（2）： 日本の国際観光政策と交通ビジネス、訪日外国人にやさしい交通への取り組みについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章第7～8節）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	フードビジネス（1）： インバウンド時代のフードビジネスについて、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	フードビジネス（2）： 旅行者の多様化、宿泊の多様化に伴って必要となる、食の多様化について、パワーポイントで紹介し、学修します。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイント	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間

		で紹介し、理解を深めます。		
第9回	オンデマンド	スポーツビジネス： スポーツビジネスの概要、スポーツツーリズムのありかたについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	国際観光と交流文化： 国際観光と文化のかかわりについて、学修します。 日本のアピールポイントは何であるか、日本人が思う「よいところ」は外国人に理解されているのか、など、外国人の視点からも考えます。 また、参考書から日本や世界での具体的な事例と問題点を引用してパワーポイントで紹介し、理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	国際観光ビジネスのためのマーケティング： 「観光立国に必要なこと」、「オーストラリアの観光マーケティング例」、「まだまだ工夫できる日本の観光マーケティング」について、参考書から引用し、学修します。	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、テキスト第10章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	交流文化とエコツーリズム： サステナブル・ツーリズム、エコ・ツーリズムについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）を復習し、テキスト第11章を読んで予習して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	魅力ある文化施設づくり： ミュージアムの口コミランキングと訪日観光客の動向、魅力ある文化施設のありかたについて、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第11章）を復習し、次回に使用する（今回提供する）パワーポイントを読んで予習して下さい。	4時間
第14回	オンデマンド	観光立国のためのコンテンツ： 参考書から引用し、国際観光における文化財の位置づけ、正しい見せ方、適切な説明について、学びます。また、観光ビジネスにおいて、「発信力」よりも「文化資源の魅力」が更に大切であることについて、考えます。	授業後に、今回の授業内容（パワーポイント）を復習し、これまでの全体を振り返ってわからないところがないか、確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	講義内容を総括し、インバウンドビジネスの今後の形について、考察します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	スポーツマネジメント論	開講年度	2025
担当者	吉田 明	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	スポーツの現状及び課題について、マネジメントの観点から考察する。		
授業の目的及び概要	スポーツマネジメント論の基礎知識を把握するとともに、スポーツ組織や地域スポーツのあり方について、理解を深めることを目的とする。具体的には、現代、スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会が飛躍的に増大しました。「するスポーツ」や「見るスポーツ」においても旺盛な消費活動を展開するようになり、ビジネスとしてスポーツが注目されるようになりました。この授業では、スポーツマネジメント、スポーツ活動・組織のマネジメントについて学びます。組織の事業活動が機能するためには、マネジメントが必要になり、スポーツ活動・組織においても例外ではありません。スポーツ活動・組織における事例をもとにマネジメントの必要性を理解します。そして、チームマネジメントに欠かせない「リーダーシップ」や「リーダーの役割やスタイル」、「チームワーク」や「チーム・組織の魅力」、「指導者のマネジメント」についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では、以下の到達目標を掲げる。 ①スポーツマネジメントに必要な考え方や倫理観について理解することができる。 ②スポーツマネジメントの専門的・実践的知識を修得し、それらを統合・活用することができる。 ③スポーツマネジメントにおけるリーダーシップやチームワークについて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内に、適時、口頭によるフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大学卒業後、大手鉄鋼メーカーで業務を行いつつ、同社ラグビー部にて日本代表選手に選ばれるなどの活躍をしてきた。また、私立大学の学生課にてスポーツ推進を行うとともに、ラグビー部の指導及びマネジメントを行うなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①スポーツ・マネジメント入門「24 のキーワードで理解する」、広瀬一朗著、東洋経済、2014 年 ②スポーツ集団のマネジメント、永田靖章著、きょうせい、1998 年 ③組織マネジメント戦略、高木晴夫監修、慶応義塾大学ビジネススクール編集、有斐閣、2005 年 ④宇宙兄弟「今いる仲間であまういくチーム」の話、長尾彰著、Gokken、2019 年 ⑤チームの心を一つにする技術、村田祐造著、日本実業出版社、2010 年 ⑥スポーツマネジメント、原田宗彦・小笠原悦子著、大修館書店、2015 年	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	スポーツマネジメントという学問領域を理解するためには、問題意識を持つとともに幅広い知識を身につけることが求められる。 スポーツマネジメントに関する予備知識、そして、授業に臨む学修者の積極的な姿勢が重要である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	「スポーツマネジメントとは」（「スポーツマネジメントとは何か」を何故、必要なのかを理解する）	【予習】「スポーツマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】「スポーツマネジメント」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツマネジメントの時代（「スポーツマーケティングの時代」から「スポーツマネジメントの時代」へ移り変わってきた底流を理解する）	【予習】「スポーツマーケティング」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツ企業のマネジメント（スポーツ用具やスポーツメーカーが与える影響を理解する）	【予習】「スポーツ用具」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	組織マネジメントについて（組織が事業活動によって、生産性を上げるためには、組織を効率的に運用するマネジメントが必要なことを理解する）	【予習】「組織のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	スポーツ組織について（スポーツ組織においても、単なる目標ではなく、理念（ミッション、ビジョン）が必要なことを理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツ組織に学ぶマネジメント（組織の仕組み作りについて理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	中間テスト マネジメントの仕組みと成果（スポーツでは、仕組みと成果においては他の業界と異なる要因で動く、その要因について理解する）	【予習】「マネジメントの仕組みと成果」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	スポーツ集団のマネジメントはどうあるべきか？（スポーツ集団の目標管理やマネジメントについて理解する）	【予習】「スポーツ集団のマネジメント」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	組織・チームを阻害する要因（理想の組織の実現が難しい局面は多く、阻害する要因について、どのようにして解決していくか）	【予習】「チームを阻害する要因」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た	4 時間

		を理解する)	知識を確認し、復習しておくこと。	
第11回	対面	組織・チームのリーダースタイル（組織に変革をもたらす変革リーダーシップなどのリーダースタイルを理解する）	【予習】「リーダースタイル」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	組織のコミュニケーション（組織やスポーツチームにおけるコミュニケーションの重要性を理解する）	【予習】「コミュニケーション」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	スポーツ集団の活動意欲、チームリーダーの条件とは（個の能力を上げる意欲の向上に向けた素養について理解する）	【予習】「活動意欲、リーダーの条件」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	期末テスト（前回までの講義を踏まえたうえ、学期末確認テストを行います）	【予習】今までの講義で配布された資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括・まとめ（学期末試験の解説を行います）	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。	4 時間

科目名	スポーツマネジメント論	開講年度	2025
担当者	吉田 明	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	スポーツの現状及び課題について、マネジメントの観点から考察する。		
授業の目的及び概要	スポーツマネジメント論の基礎知識を把握するとともに、スポーツ組織や地域スポーツのあり方について、理解を深めることを目的とする。具体的には、現代、スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会が飛躍的に増大しました。「するスポーツ」や「見るスポーツ」においても旺盛な消費活動を展開するようになり、ビジネスとしてスポーツが注目されるようになりました。この授業では、スポーツマネジメント、スポーツ活動・組織のマネジメントについて学びます。組織の事業活動が機能するためには、マネジメントが必要になり、スポーツ活動・組織においても例外ではありません。スポーツ活動・組織における事例をもとにマネジメントの必要性を理解します。そして、チームマネジメントに欠かせない「リーダーシップ」や「リーダーの役割やスタイル」、「チームワーク」や「チーム・組織の魅力」、「指導者のマネジメント」についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では、以下の到達目標を掲げる。 ①スポーツマネジメントに必要な考え方や倫理観について理解することができる。 ②スポーツマネジメントの専門的・実践的知識を修得し、それらを統合・活用することができる。 ③スポーツマネジメントにおけるリーダーシップやチームワークについて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内に、適時、口頭によるフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大学卒業後、大手鉄鋼メーカーで業務を行いつつ、同社ラグビー部にて日本代表選手に選ばれるなどの活躍をしてきた。また、私立大学の学生課にてスポーツ推進を行うとともに、ラグビー部の指導及びマネジメントを行うなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①スポーツ・マネジメント入門「24 のキーワードで理解する」、広瀬一朗著、東洋経済、2014 年 ②スポーツ集団のマネジメント、永田靖章著、きょうせい、1998 年 ③組織マネジメント戦略、高木晴夫監修、慶応義塾大学ビジネススクール編集、有斐閣、2005 年 ④宇宙兄弟「今いる仲間であまういくチーム」の話、長尾彰著、Gokken、2019 年 ⑤チームの心を一つにする技術、村田祐造著、日本実業出版社、2010 年 ⑥スポーツマネジメント、原田宗彦・小笠原悦子著、大修館書店、2015 年	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	スポーツマネジメントという学問領域を理解するためには、問題意識を持つとともに幅広い知識を身につけることが求められる。 スポーツマネジメントに関する予備知識、そして、授業に臨む学修者の積極的な姿勢が重要である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	「スポーツマネジメントとは」（「スポーツマネジメントとは何か」を何故、必要なのかを理解する）	【予習】「スポーツマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】「スポーツマネジメント」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツマネジメントの時代（「スポーツマーケティングの時代」から「スポーツマネジメントの時代」へ移り変わってきた底流を理解する）	【予習】「スポーツマーケティング」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツ企業のマネジメント（スポーツ用具やスポーツメーカーが与える影響を理解する）	【予習】「スポーツ用具」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	組織マネジメントについて（組織が事業活動によって、生産性を上げるためには、組織を効率的に運用するマネジメントが必要なことを理解する）	【予習】「組織のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	スポーツ組織について（スポーツ組織においても、単なる目標ではなく、理念（ミッション、ビジョン）が必要なことを理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツ組織に学ぶマネジメント（組織の仕組み作りについて理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	中間テスト マネジメントの仕組みと成果（スポーツでは、仕組みと成果においては他の業界と異なる要因で動く、その要因について理解する）	【予習】「マネジメントの仕組みと成果」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	スポーツ集団のマネジメントはどうあるべきか？（スポーツ集団の目標管理やマネジメントについて理解する）	【予習】「スポーツ集団のマネジメント」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	組織・チームを阻害する要因（理想の組織の実現が難しい局面は多く、阻害する要因について、どのようにして解決していくか）	【予習】「チームを阻害する要因」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た	4 時間

		を理解する)	知識を確認し、復習しておくこと。	
第11回	対面	組織・チームのリーダースタイル（組織に変革をもたらす変革リーダーシップなどのリーダースタイルを理解する）	【予習】「リーダースタイル」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	組織のコミュニケーション（組織やスポーツチームにおけるコミュニケーションの重要性を理解する）	【予習】「コミュニケーション」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	スポーツ集団の活動意欲、チームリーダーの条件とは（個の能力を上げる意欲の向上に向けた素養について理解する）	【予習】「活動意欲、リーダーの条件」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	期末テスト（前回までの講義を踏まえたうえ、学期末確認テストを行います）	【予習】今までの講義で配布された資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括・まとめ（学期末試験の解説を行います）	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。	4 時間

科目名	貿易論（経営）／貿易論（貿易基礎）（経済）		開講年度	2025
担当者	高砂 謙二		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	貿易に関する理論と実践知識の修得			
授業の目的及び概要	現代において、海外との貿易取引なくして日本経済は成り立ちません。将来もグローバルな貿易取引がますます拡大していくものと考えられます。このような現状を踏まえ、本科目では貿易取引の基礎的な理論と実践的な知識の習得を目指し、社会において実務に活かせる内容を提供します。したがって、「貿易実務検定C級」の資格取得を目指すことも指導します。 この授業は、貿易の果たす経済効果に対して、貿易に関する諸問題を分析するのに必要な貿易理論や貿易政策についてミクロ的基礎を学びます。そして、最新のトピックスである産業内貿易の動向を取りあげ、アジアと欧米の事例を挙げて経済理論の理解を深めることができるようにします。また、外国為替や国際収支についてマクロ的基礎を学び、さらに、WTO や各 EPA 等の貿易協定についても触れ、現実の国家間の政策の理解や評価に役立てることを配慮した構成とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	以下の内容を到達レベルとします。 ・貿易の意義を理論的に説明できる ・貿易の種類と内容を説明できる ・輸出入管理の制度を説明できる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の理解度テストや、レポートまたは中間試験については、模範解答を示し、理解の定着を図ります。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	なし（テキストは指定しませんが、レジュメを配布します）		ISBN	なし
参考書	①コンパクト 国際経済学、多和田真、新世社、2010 年 ②図解 貿易実務ハンドブック ベーシック版 第 7 版 「貿易実務検定®」C 級オフィシャルテキスト、日本貿易実務検定協会、日本能率協会マネジメントセンター、2020 年		ISBN	①978-4883841530 ②978-4820728016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		40	

	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	1. 本科目を履修するにあたり、「貿易論Ⅱ（経営学部）」/「貿易論（貿易実務）（経済学部）」も履修することを前提とします。 2. 本科目は、理論と実践の両方をカバーすることを目指します。商社もしくは企業の海外担当部署や輸出入管理部署に関心があれば、履修することを勧めます。 3. 関連科目として、「国際経営概論」、「ビジネス取引法」を履修することを勧めます。 4. 将来、留学生も自国と日本とのビジネスに関わる事を想定して履修すること勧めます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方、評価方法、受講者の心得等の説明を行います。 ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第2回	対面	【貿易の意義と特色（基礎）】 本科目の概要として、国内取引との違い、貿易取引の流れ、商流/物流、貿易の便益を理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第3回	対面	【伝統的貿易論（基礎）①】 貿易理論の基本として、アダム・スミスの絶対優位論とリカードの比較優位論を理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第4回	対面	【伝統的貿易論（基礎）②】 貿易理論の基本として、ヘクシャー=オリーンモデルを理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第5回	対面	【現代の国際貿易論（基礎）】 新しい貿易理論として、規模の経済性や産業内貿易について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第6回	対面	【貿易政策（基礎）】 貿易政策として行われる①関税、②輸入割当、③輸出補助金、④輸入禁止、⑤輸出自主規制について経済理論から理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第7回	対面	【産業内貿易（基礎）】 垂直的産業内貿易と水平的産業内貿易の	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨む	4 時間

		違いや、近年盛んな国際分業について理解する アジアと欧米の具体的な貿易事例などを紹介する・ ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。 ※中間試験またはレポート課題を課す	こと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	
第8回	対面	【世界の貿易体制と日本の貿易】 世界の貿易環境と枠組み、および日本の貿易取引状況について観察する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	対面	【国際収支統計と為替レート】 貿易による国際収支や為替の影響について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	対面	【貿易の基礎知識】 貿易の流れ、貿易に関する国際ルール、多国籍企業の市場参入について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	対面	【貿易取引の形態】 貿易の種類（輸出入、三国間貿易、加工貿易）や貿易の形態（売主、買主、代理人の関係）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。 ※中間試験またはレポート課題を課す	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	対面	【取引準備と契約交渉】 貿易取引の準備と契約締結に向けた準備について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第13回	対面	【契約条件（インコタームズ）】 貨物の引渡しと危険負担の範囲および費用負担を定めるインコタームズについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第14回	対面	【日本の輸出入貿易管理制度】 輸出入管理法および該非判定などの管理制度について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデ	【授業の総括】	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュ	4 時間

2025/05/01

	マンド	これまでの内容の総括を行う	メ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	

科目名	貿易論Ⅱ（経営）／貿易論（貿易実務）（経済）	開講年度	2025
担当者	八井田 収	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	貿易に関する理論と実践知識の修得		
授業の目的及び概要	現代において、海外との貿易取引なくして日本経済は成り立ちません。将来もグローバルな貿易取引がますます拡大していくものと考えられます。このような現状を踏まえ、本科目では貿易取引の基礎的な理論と貿易における代金決済やリスク、保険、クレーム、輸出入通関の手続き等の実践的な知識の習得を目指し、社会において実務に活かせる内容を提供します。したがって、「貿易実務検定C級」の資格取得を目指すことも指導します。 この授業は、「貿易論Ⅰ」に引き続き、国際貿易の理論的背景をもとに、貿易実務に欠かせない輸出入管理について取り上げます。授業で、貿易取引の形態についての特徴や役割等、貿易取引に欠かせない取引準備や契約交渉、代金決済方法、インコタームズ等の各種貿易の具体的な仕組み、それに輸出入規制に関する法令遵守等を説明します。さらに、インボイス等の輸出入通関書類の具体的な内容を説明しながら輸出入取引の全体的な流れを理解することを目標とします。		
履修条件・留意点	・本科目は対面授業で行う。授業に関する案内は、Learning Portal に記載します。 ・教材の公開は、学年暦に沿って、毎週日曜日に公開します。 ・毎週の授業に関する課題（小テスト）を実施し、その提出・解答で出席と評価を行います。 ・授業に関する質問は、教室またはメールで質疑応答します。 ・中間試験および期末定期試験は対面で実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の内容を到達レベルとします。 ・貿易の目的と意義を理論的に説明できる。 ・貿易における代金決済やリスクと保険、クレームについて理解できる。 ・輸出入通関の手続きについて理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストや、レポートまたは中間試験については、模範解答を示し、理解の定着を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大手製造企業（電機メーカー）において、製品開発部門、生産管理部門、貿易取引部門などの部署を経験し、それらに対する豊富なマネジメント経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かし、生産管理における理論だけでなく現場の経験や知見を授業の中で提供する。		
テキスト	なし（テキストは指定しないが、適宜レジュメを配布します）	ISBN	なし
参考書	①入門・貿易実務＜第3版＞、椿 弘次、日本経済新聞出版社、2011 年 ②図解 貿易実務ハンドブック ベーシック版 第7 版 「貿易実務検定®」C 級オフィシャルテキスト、日本貿易実務検定協会、日本能率協会マネジメントセンター、2020 年	ISBN	①978-4-532112448 ②978-4820728016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	1. 本科目は、「貿易論Ⅰ（経営学部）」/「貿易論（貿易基礎）（経済学部）」を履修しておくことが望ましい。 2. 本科目は、理論と実践の両方をカバーすることを目指します。商社もしくは企業の海外業務担当部署や輸出入管理部署に関心があれば、履修することを勧めます。 3. 関連科目として、「国際経営概論」、「ビジネス取引法」を履修することを勧めます。 4. 将来、留学生も自国と日本とのビジネスに関わる事を想定して履修すること勧めます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の概要と進め方、評価方法、受講者の心得等の説明を行います ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第2回	対面	【貿易の意義と特色（応用）】 貿易の意義と概要および貿易を行う企業と業務について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第3回	対面	【伝統的貿易論（応用）①】 絶対優位論と比較優位論に加えて顕示的比較優位指数と貿易特化係数について理解する 特定の品目を事例に、貿易統計から貿易特化係数を求める演習を行う。 ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第4回	対面	【伝統的貿易論（応用）②および現代の貿易理論】 ・伝統的貿易論のヘクシャー=オリンモデルに加えて生産可能性フロンティアについて理解する ・新貿易理論（クルーグマンの新貿易理論やメリッツの新々貿易論）と産業内貿易について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第5回	対面	【外国為替による代金決済①】 貿易における代金決済方法（L/C 決済、D/P、D/A 決済）と外国為替について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間

第6回	対面	【外国為替による代金決済②】 貿易における代金決済方法（外国為替送金）と外国為替について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第7回	対面	【運送契約と貨物の受け渡し】 運送契約や船荷証券（B/L）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第8回	対面	【貿易取引のリスクと保険】 貿易における保険（海上保険、貿易保険、P/L 保険）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う ※中間試験またはレポート課題を課す（授業の進行によって前後する場合がある）	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	対面	【契約条件（インコタームズ）】 11 種類の規則による費用負担と危険負担の違いについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	対面	【輸出入通関の手続き①】 輸出通関の手続きおよび申告に必要な書類について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	対面	【輸出入通関手続き②】 輸入通関の手続きおよび申告に必要な書類について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	対面	【輸出入通関手続き③】 輸入消費税の仕組みおよび評価申告について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第13回	対面	【運送クレームと貿易クレーム】 貿易におけるクレーム（運送クレームと貿易クレーム）について対処および手続きについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第14回	対面	【税関と事後調査】	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュ	4 時間

		税関が貿易を行う企業に対して実施する「事後調査」について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	メ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	
第15回	オンデマンド	【授業の総括】 これまでの内容の総括をオンデマンド授業で行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間

科目名	外国為替	開講年度	2025
担当者	高砂 謙二	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	外国為替における全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業では、外国為替の基礎的な知識である外国為替相場の構造と変動要因、為替リスクに対する知識と対処方法について理解することを目指とします。また、外国為替の基礎的な知識に基づき、国際収支、デリバティブ、国際通貨体制等についても解説します。授業では、近年の世界金融危機、ユーロ危機等の国際通貨情勢、暗号資産等に関する事例も取り上げながら理解を深めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 外国為替相場の構造と変動要因が説明できる。 ・ 外国為替リスクに対する知識と対処方法を説明できる。 ・ 外国為替と国際収支の関係を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①外国為替の知識＜第 4 版＞， 国際通貨研究所（編），日本経済新聞出版社, 2018 年	ISBN	①9784532113872
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行う。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、外国為替論を受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4時間
第2回	対面	外国為替の基礎（1）について解説を行います。 ①外国為替の特徴（内国為替と外国為替の違い） ②外国為替相場の読み方（外国為替相場の表示方法・クロスレート） ③直物相場と先物相場（直物為替取引・先物為替取引・直物相場と先物相場の関係）	【予習】事前学修として、教科書（14頁-25頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第3回	対面	外国為替の基礎（2）について解説を行います。 ①銀行間相場と対顧客相場 ②為替ポジション ③実需取引と投機取引	【予習】事前学修として、教科書（25頁-32頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第4回	対面	外国為替相場を決めるものについて解説を行います。 ①国際間の経常取引 ②国際間の資本取引 ③中央銀行の為替介入	【予習】事前学修として、教科書（34頁-42頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第5回	対面	外国為替相場の変動要因について解説を行います。 ①経済的要因・政治的要因・市場心理要因 ②国際収支説・購買力平価説・為替心理説	【予習】事前学修として、教科書（42頁-59頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第6回	対面	外国為替市場について解説を行います。 ①外国為替市場の参加者 ②外国為替市場の24時間取引 ③世界の主要外国為替市場	【予習】事前学修として、教科書（62頁-72頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第7回	対面	日本の外国為替管理について解説を行います。 ①戦後日本の外国為替管理の歴史 ②国際決済システム（SWIFT等）	【予習】事前学修として、教科書（72頁-81頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第8回	対面	外国為替リスク（1）について解説を行います。 ①外国為替リスクとエクスポージャー ②外国為替リスクの種類	【予習】事前学修として、教科書（84頁-93頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第9回	対面	外国為替リスク管理（2）について解説を行います。 ①外国為替リスクの管理体制 ②外国為替リスクの管理手法	【予習】事前学修として、教科書（94頁-114頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第10回	対面	国際収支と外国為替（1）について解説を行います。 ①国際収支統計の見方 ②経常収支と外国為替相場	【予習】事前学修として、教科書（116頁-134頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第11回	対面	国際収支と外国為替（2）について解説を行います。 ①国際収支の発展段階説	【予習】事前学修として、教科書（134頁-147頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイント	4時間

		②日本の経常収支の構造変化	トを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第12回	対面	国際通貨制度の変遷（1）について解説を行います。 ①ブレトンウッズ体制 ②固定相場から変動相場 ③変動相場移行後の外国為替相場（アジア通貨危機、欧州単一通貨ユーロ）	【予習】事前学修として、教科書（150頁-180頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第13回	対面	国際通貨制度の変遷（2）について解説を行います。 ①世界金融危機 ②アジア地域金融協力と円の国際化 ③中国経済の台頭と人民元の国際化	【予習】事前学修として、教科書（180頁-208頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第14回	対面	暗号資産について解説を行います。 ①暗号資産（仮想通貨） ②ビットコイン事例	【予習】事前学修として、教科書（210頁-255頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間

科目名	証券論	開講年度	2025
担当者	条井 淳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	証券投資と企業金融		
授業の目的及び概要	政府は「貯蓄から投資へ」の基盤づくりとして iDeCo(個人型確定拠出年金)や NISA(少額投資非課税制度)などを創設するなどさまざまな改革を進めている。運用の成果は個人の選択によって変化することになるため、金融リテラシーとして、基本的な資産運用の知識は欠かせない。この授業は、企業の存在意義、その中でも特に株式会社を取り上げ、株式会社の資金調達手段において重要な役割を果たしている証券市場の仕組み、証券投資のリスクとリターン、証券の価格形成及び価格決定の要因といった証券投資に係る基礎知識を理解できることを目標とする。また、近年増加している投資信託、デリバティブ取引、オルタナティブ取引、グローバル投資や、個人投資家の資産を預かる機関投資家のスチュワードシップ責任についてもとりあげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	金融経済を中心とする幅広い専門知識や、現代社会における証券投資や証券市場の重要性について理解し説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『新・入門証券論』、榊原茂樹、城下賢吾、岡村秀夫、山口聖、月岡靖智、北島孝博著、有斐閣、2024 年	ISBN	9784641166370
参考書	授業中に提示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	テキスト、参考書、書込み式の配布資料を用いて講義形式で授業を行い、また毎回、確認テストを実施します。ラーニングポータルに資料を載せ、授業では PowerPoint を使用します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	証券と投資 証券の役割、証券の種類、金融市場、投資、	【予習】事前にシラバスを確認し、テキストの第 1 章の部分を読んでおきましょう。	4 時間

		証券分析	【復習】テキストの第 1 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	
第 2 回	対面	評価の基本原則 将来価値、現在価値、評価の基本原則	【予習】事前にテキストの第 2 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 2 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 3 回	対面	企業分析 財務諸表、株価と財務分析	【予習】事前にテキストの第 3 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 3 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 4 回	対面	債券市場	【予習】事前にテキストの第 4 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 4 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 5 回	対面	債券分析	【予習】事前にテキストの第 5 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 5 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 6 回	対面	株式市場	【予習】事前にテキストの第 6 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 6 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 7 回	対面	株式分析 行動ファイナンス	【予習】事前にテキストの第 7 章および第 10 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 7 章および第 10 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 8 回	対面	投資信託	【予習】事前にテキストの第 8 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 8 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 9 回	対面	ポートフォリオ理論と資本市場理論	【予習】事前にテキストの第 9 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 9 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 10 回	対面	デリバティブ市場	【予習】事前にテキストの第 11 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 11 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 11 回	対面	デリバティブ価格と投資戦略	【予習】事前にテキストの第 12 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 12 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 12 回	対面	グローバル投資と各国の証券投資	【予習】事前にテキストの第 13 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 13 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 13 回	対面	オルタナティブ投資	【予習】事前にテキストの第 14 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 14 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 14 回	対面	スチュワードシップ責任	【予習】事前にテキストの第 15 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 15 章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	まとめ	【予習】事前にテキストや配布資料をもとに復習しておきましょう。	4 時間

2025/05/01

			【復習】テキストや配布資料をもとに復習し、講義で得た知識を確認してください。	

科目名	銀行論（経営）／銀行論（銀行制度）（経済）		開講年度	2025
担当者	小巻 善郎		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	銀行の役割とその業務			
授業の目的及び概要	この銀行論を受講することによって、銀行が経済社会で果たしている役割・機能やその業務内容を知識を習得できることはもとより、実務経験に基づいた講義を通じて、社会に出てから必要となる金融全般の知識と、銀行を使った資金の運用・調達の知識を身につけることを目的としています。 授業では、制度的な面を中心にして、銀行の役割とその業務内容を学修します。 具体的には、まず銀行が金融市場で担っている役割を学び、次いで銀行の預金業務、貸出業務、為替業務、証券業務、国際業務などの業務の内容を学びます。加えて、明治期から現在までの銀行制度の歩みや、銀行の収益構造と収益動向、預金保険制度のしくみ、そして中央銀行である日本銀行の役割・機能を学ぶことにより、銀行の役割とその業務に対する理解を補強します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・金融市場の構造と銀行が果たしている役割を理解できるようになる。 ・銀行の主な業務内容を理解できるようになる。 ・銀行の収益構造と収益動向を理解できるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント資料は、事前にラーニングポータルに「授業レジュメ」として掲載します。 授業中に毎回課題を出しますので、授業終了時にその課題を提出することが必要です。課題の結果は、授業において口頭でフィードバックします。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	テキスト指定はありません。		ISBN	なし
参考書	①図説 わが国の銀行，全国銀行協会企画部金融調査室，財経詳報社，2017		ISBN	①9784881774434
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		55	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講に	「銀行の経済社会における地位は、あたかも人体における心臓のようなものである」。19世紀のドイツの学者が述べた言葉です。			

あたって	戦後のわが国の経済社会は大きな変貌を遂げ、銀行も大きな変化を遂げてきました。そうであっても、銀行が「人、企業、国・自治体などにお金という血液を送り込む心臓のような存在」であることは、今も昔も変わっていません。むしろ銀行の重要性は、一層高まっていると思います。 そうした銀行の姿を、証券会社など銀行以外の金融機関との比較も加えながら分かりやすく解説します。しっかりと学修してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメを復習する。	4時間
第2回	対面	金融市場のしくみ 間接金融と直接金融、短期金融市場と長期金融市場などの金融市場のしくみについて学びます。	・参考書の第1章「わが国の金融構造」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	金融機関の種類 金融機関の種類について学ぶとともに、銀行の業態別の特徴について学びます。	・参考書の第2章「銀行の基本的機能」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	銀行の役割と機能 銀行の基本的な3つの機能（資金仲介・信用創造・資金決済）について学びます。	・参考書の第2章「銀行の基本的機能」を予習する。 ・第4回授業レジュメを復習する。	4時間
第5回	対面	預金業務 銀行の固有業務である預金業務で取り扱っている預金の種類のほか、信託、利子課税などについて学びます。	・参考書の第5章「預金業務」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	貸出業務① 銀行の固有業務である貸出業務の基本5原則と、企業向け貸出の種類、銀行取引約定書などについて学びます。	・参考書の第6章「貸出業務」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	貸出業務② 銀行の個人向けローンの種類、貸出のリスク管理、自己査定などについて学びます。	・参考書の第6章「貸出業務」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	為替業務 銀行の固有業務である為替業務の種類とともに、決済システムのしくみについて学びます。	・参考書の第7章「為替業務」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	証券業務・国際業務 銀行本体による証券業務と証券子会社等による証券業務の内容について学びます。 また、海外展開を中心とした銀行の国際業務について学びます。	・参考書の第9章「証券業務」、第11章「銀行の国際業務」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	銀行制度のこれまでの歩み わが国に銀行が創設された明治期以降、現在に至るまでのわが国の銀行制度の歩みについて学びます。	・参考書の第3章「我が国の金融制度と金融機関」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	銀行の収益動向 銀行の収益構造と、業態別（都市銀行、地方銀行、第二地銀、信託銀行、信用金庫、信用組合）の収益動向およびその要因を学びます。	・参考書の第13章「銀行の経営」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	預金保険制度 預金者の保護と破綻金融機関の資金決済の確保を目的とする預金保険制度のしくみについて学びます。	・参考書の第12章「銀行に対する規制・監督」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間
第13回	対面	金融サービスの新潮流	・参考書の第12章「銀行に対する規制・監督」を予	4時間

		近年の銀行規制の緩和と、フィンテックなどの新たに登場してきた金融サービスについて学びます。	習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	
第14回	対面	日本銀行の機能 中央銀行である日本銀行の機能と役割について学びます。	・参考書の第3章「我が国の金融制度と金融機関」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の学修内容の総括を行い、学期末の定期試験についての説明を行います。	・第15回授業レジュメを復習する。 ・学期末の定期試験に向けた春学期全体の復習を行う。	4時間

科目名	現代企業経営論 I		開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	現代における日本の様々なビジネス（業界）の概要と最新動向を理解する			
授業の目的及び概要	日本の代表的な業界の概要、最新動向および業界を構成する主要な企業の経営戦略を踏まえ、現代企業経営の全体像を捉えていくことを目標とします。それぞれの業界について、業界構造、市場動向、経営環境の変化、企業の経営戦略、DX、求められる人材と今後の展望について学びます。 このように主要な業界を取り上げることで日本の産業全体を俯瞰できるため、就職活動における企業選択の一助となる授業内容となります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 日本の代表的な業界の概要と構造、市場動向について理解し説明できる。 2. 日本の産業が現在抱えている課題について理解し説明できる。 3. 日本の代表的な業界を構成する企業の戦略トレンドと求められる人材について理解し説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	授業資料（レジュメ）については授業ごとに提示します。		ISBN	特になし
参考書	① 「会社四季報」業界地図 2025 年版，東洋経済，東洋経済新報社，2024 年 ② 日経業界地図 2025 年版，日本経済新聞，日本経済新聞出版，2024 年		ISBN	① 9784492973349 ② 9784296120871
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	私たちの生活や活動は、様々な企業が提供する商品・サービスに支えられています。企業は無機質な組織体ではなく、企業を構成する「人」が、環境変化に対応し課題を克服しながら商品・サービスを生み出し、事業に取り組んでいます。 皆さんの身近な企業やその業界について興味を持ち、経営学の知識を活かして理解を深めましょう。 そして、この授業を就職活動における業界・企業選択の参考として欲しいです。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション： 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法の説明授業で取り上げる業界の紹介	【予習】シラバスの授業内容をよく読んでおいてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	3.5時間
第2回	対面	【小売・流通業界の動向】 消費者に直接商品を販売する小売・流通は、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、百貨店など私たちの生活に身近な業界です。 小売・流通業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：消費者行動の変化、デジタル化、人手不足などの課題	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第3回	対面	【自動車業界の動向】 自動車関連産業は550万人の就業人口を擁する日本の基幹産業であり、その行方は日本の国際競争力にも大きく影響します。 自動車業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）、環境問題への取り組み、国際事業展開と競争	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第4回	対面	【物流業界の動向】 物流業界は、生産者から消費者に商品を届ける過程を担い、輸送、保管、荷役、包装、流通加工、情報処理などの機能を含みます。デジタル化の進展においても物流機能は欠かすことができず、私たちの生活インフラを担っています。 物流業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：コロナ禍やネット通販の拡大に伴う取扱量の増大、ドライバー不足等の課題、DX	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第5回	対面	【食品業界の動向】 食品業界は、加工食品（菓子、冷凍食品など）、飲料（清涼飲料水、アルコール）、調味料（醤油、味噌）などの製造・販売を行う企業群をから構成される、私たちの生活に不可欠の業界です。 食品業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：材料価格の高騰、健康志向の高まり、海外市場の拡大、持続可能性への取り組み	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第6回	対面	【銀行業界、リース業界の動向】 銀行は預金の受け入れ、融資、為替取引などを行い、都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合などから構成されます。リースは、企業に対して設備や機器を貸し出すことで収益を得る業界です。産業・企業の発展、私たちの生活を「お金」の面から支えています。 銀行業界、リース業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：フィンテック（金融のデジタル化）、低金利、海外展開、	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間

		再生可能エネルギーへの投資		
第7回	対面	【保険業界、証券業界の動向】 保険会社は私たちの生活や企業活動におけるリスクに備える機能を提供し、生命保険（終身保険、医療保険など）、損害保険（自動車保険、火災保険など）から構成されます。証券会社は株式や債券の売買、投資信託の販売などを行い、私たちの「投資」の主要な窓口となります。 保険業界、証券業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：ネット保険、ネット証券の台頭、少子高齢化の影響、NISAなどの制度による個人投資家の増加、グローバル化	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第8回	対面	【IT 業界の動向】 IT は 21 世紀の成長分野ですが、日本の IT 産業は既存システムの老朽化、複雑化により維持・運用に要するコストが増加し、新たな IT 投資に人材がまわらないという課題を抱えています。IT 産業の国際競争力は日本の重要な課題となっています。 IT 業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：ABCD（AI、ブロックチェーン、クラウド、ビッグデータ）技術の基礎知識と応用、SE、データ分析人材の不足と育成	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第9回	対面	【エレクトロニクス・家電業界の動向】 日本が世界に誇る産業だったエレクトロニクス・家電は、韓国・中国企業の台頭、デジタル化により業界内での大きな変動が起き、変革を遂行した企業が競争力を回復しています。 エレクトロニクス・家電業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：デジタル化と韓国・中国企業の台頭、主要企業の経営変革の取り組み	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第10回	対面	【医療・ヘルスケア産業】 医療・ヘルスケア業界は、医薬品、医療機器、医療サービス、介護サービスなどを提供する企業群を指し、私たちの生活を「健康」の面で支えています。 医療・ヘルスケア業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：高齢化社会の進行、デジタルヘルス、予防医療の進化	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第11回	対面	【建設業界、不動産業界の動向】 建設業は、建物やインフラ（道路、橋、ダムなど）の設計、施工、管理を担い、不動産業は、土地や建物の売買、賃貸、管理を行います。私たちの生活を「住」などの面で支えています。 建設業界、不動産業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：3K の代表と言われた建設業界でもロボットの導入により構造変化が進んでいます。不動産業界ではスマートホーム技術や AI を活用した管理が取り組まれています。	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第12回	対面	【アパレル業界、消費財業界】 アパレル業界は衣料品のデザイン、製造、	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。	4 時間

		販売を行う企業群であり、消費財業界は日常的に使用される食品、飲料、家庭用品、パーソナルケア製品などを提供する企業群を指します。いずれも私たちの身近な、生活に不可欠な存在です。 アパレル業界、消費財業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：EC サイトやデジタルマーケティングの活用拡大、環境に配慮したエコ素材の使用やリサイクルによるサステナビリティの推進、パーソナライズされた商品やサービスの提供	【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	
第13回	対面	【ゲーム・エンターテインメント業界、メディア業界の動向】 ゲーム・エンターテインメント業界は、ビデオゲーム、モバイルゲーム、eスポーツなどの開発・販売を行う企業群で、任天堂やソニーなどの日本企業は、ゲーム機やソフトウェアの分野で世界的にも強い影響力を持っています。ただし、競争は激化しており、米国や中国、韓国などの企業も強力なライバルとなっています。 メディア業界は情報を収集・編集・発信する企業群であり、従来型のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌に加えて、インターネットやスマートフォンの普及によりデジタルメディアが急成長しています。 ゲーム・エンターテインメント業界、メディア業界の役割、構造、主要企業と経営戦略最近の動向：AI 技術を活用した個別化されたコンテンツ提供など	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第14回	対面	【日本の産業構造の特徴と展望】 Society5.0、グリーン成長戦略など日本国の主要な構想や政策から今後の産業構造を展望します。	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	【振り返りとまとめ（オンデマンド）】 この講義のまとめを行います。	【予習】今までの総復習をします。あらかじめわからないところを洗い出してから、視聴してください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4.5 時間

科目名	国際ビジネス論	開講年度	2025
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本企業はどのように国際ビジネスを切り開いてきたのか、国際経営論などの理論を参照しながらその実践について学修します。		
授業の目的及び概要	企業が持続的に成長するためには、海外市場での販売、生産拠点としての活用など、国際ビジネスへの取組みが重要になります。日本国内においても、インバウンドや外国企業の日本進出が今後さらに進み、ビジネスの機会となります。 そして、皆さんのキャリアにおいても、国際ビジネスの知識を学修することは、様々な機会をつかむための武器になると考えます。 この授業では、国際経営（企業の海外進出、コミュニケーションなど）やグローバルマーケティングに関する基本的な理論を踏まえて、日本企業がどのように国際ビジネスを切り開いてきたのか、その戦略と実践について学びます。そして、国際ビジネスで活躍できるための人材像やスキルについて考えていきます。 教員のグローバル IT 企業での勤務経験を踏まえて、学生の皆さんにビジネス現場のイメージを持ってもらえるように授業を進めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本企業の国際ビジネスの動機と戦略について理解し説明できる。 2. 日本企業がどのように国際ビジネスを切り開いてきたのか、実践的な手法について理解し説明できる。 3. 国際ビジネスで求められる人材像やスキルについて理解し説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	授業資料（レジュメ）については授業ごとに提示します。	ISBN	なし
参考書	はじめての国際経営, 中川功一・林正・多田和美・大木清弘, 有斐閣, 2017 年	ISBN	9784641150171
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	実務家としてのグローバルビジネスに長くかかわった経験則に基づいて、理論と事例との橋渡しをできるよう説明していきます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーションと国際ビジネスの基礎】 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法の説明国際ビジネスの基本概念：国際ビジネスとは何か、その重要性国際ビジネスについて教員の経験談	【予習】シラバスの授業内容をよく読んでおいてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	3時間
第2回	対面	【日本企業の海外進出の動機と戦略】 海外進出の目的と動機戦略的アプローチ：海外進出における戦略の立て方【事例研究】トヨタ自動車の国際ビジネス戦略とマネジメント	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第3回	対面	【国際経営論の基礎】 国際経営に関する基本的な理論とモデルグローバル化が企業経営に与える影響【事例研究】ソニーの国際ビジネス戦略とマネジメント	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第4回	対面	【日本企業の海外市場参入戦略】 市場調査と参入戦略直接投資と合併事業：海外市場への参入手段【事例研究】ダイキンの海外市場参入戦略	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第5回	対面	【文化と国際ビジネス】 異文化（文化の違い）がビジネスに与える影響異文化コミュニケーション：異文化間での効果的なコミュニケーション方法を探る【事例研究】日立の異文化マネジメント	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第6回	対面	【日本企業のサプライチェーンと生産戦略】 サプライチェーンマネジメント根幹である製造・販売・在庫の仕組みについてグローバルサプライチェーンの構築生産拠点の選定と管理【事例研究】キャノンのグローバル生産戦略、サプライチェーン	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第7回	対面	【総合商社の役割と機能】 総合商社の歴史と役割の変遷総合商社が国際ビジネスで果たす機能【事例研究】伊藤忠商事の商社機能、国際ビジネス	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第8回	対面	【日本企業のグローバル人材マネジメント】 グローバル人材の育成と管理海外駐在員の役割と課題【事例研究】ユニクロのグローバル人材戦略・マネジメント	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第9回	対面	【日本企業のマーケティング戦略】 グローバルマーケティングの基本ブランド戦略と現地化【事例研究】資生堂のグローバルマーケティング	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第10回	対面	【日本の中小企業の国際ビジネス】 中小企業の海外進出の現状と課題進出形態と政府等による支援策【事例研究】中小企業の国際ビジネスの成功事例（例：地域特産品の海外展開）	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第11回	対面	【インバウンドビジネス】 インバウンドビジネスの現状と課題観光	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。	4時間

		業と地域経済への影響【事例研究】ドンキホーテのインバウンド対応	【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	
第12回	対面	【海外企業の日本進出】 海外企業の日本市場への参入状況、方法日本市場の特性と課題日本の産業・企業への影響【事例研究】海外企業の日本進出成功事例	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第13回	対面	【NTT データの国際ビジネス】 講師の実務経験に基づき、NTT データの国際ビジネスの発展経緯、各段階での戦略とマネジメント、直面した課題を紹介しながら、この授業で学んできた国際経営など理論と企業の実践について理解を深めます。	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第14回	対面	【国際ビジネスの新潮流】 デジタル化と国際ビジネスの未来持続可能なビジネスモデルまとめと今後の展望	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	【振り返りとまとめ】（オンデマンド） 1 回～14 回の授業に関する補足説明と定期試験に向けた振り返りを行います。	【予習】今までの総復習をします。あらかじめわからないところを洗い出してから、視聴してください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4.5 時間

科目名	ビジネスプレゼンテーション	開講年度	2025
担当者	酒井 立夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実社会でのプレゼンテーションの実践能力を身につける。		
授業の目的及び概要	ビジネスにおけるプレゼンテーションの手法を理解し、状況に応じたプレゼンの実践力を養うことを目的とする。 実社会でのプレゼンテーションとはどんなものか、構成の立て方・コミュニケーションと表現技術・視覚資料の作り方・動画の撮影や編集方法について講義を行う。 テーマ毎に資料を作成し発表する。 ディスカッションをしてスキルアップを図る。 ※受講人数等によっては授業計画の変更あり。		
履修条件・留意点	募集定員 25 名を越えた場合、レポートによる選抜試験を行ないます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①プレゼンテーションを行うための基本や手法を説明することができる。 ②企画書や視覚資料を作りプレゼンテーションができる。 ③動画を組み合わせたプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間・最終発表後、授業中に口頭で講評をします。 また、発表中の撮影 VTR を見たあとでレポート提出、LearningPortal にて講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、36 年間、民間放送局でテレビ番組の企画・制作の他に、企業と連携した商品開発や、販売促進、大型イベントの運営等にも責任者として携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①必要に応じテキストを配布	ISBN	なし
参考書	①KP 法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション、川嶋直、みくに出版、2018 年 ②瞬時に「話す」「書く」技術、橋本淳司、すばる舎、2011 年 ③一生使える見やすい資料のデザイン入門 2022 年 ④ビジネスプレゼンテーション改訂版 2021 年	ISBN	①948-4-8403-0532-7 ②978-4-88399-986-6 ③978-4-8443-3963-2 ④978-4-407-32261-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ビジネスはもとより学生生活でも、相手に説明したり説得するにはプレゼンは欠かせません。デジタルツールはあくまで補助手段ですが、使い方によっては効果的なプレゼンが行えます。上達にはコミュニケーション及びプレゼンテーション技法を学び、発表とフィードバックを繰り返すことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の目的と方法、授業計画、到達目標、成績評価等について説明します	【事前】 シラバスを読み授業の目標を考えておいてください 【事後】 授業後目標について見直してください	2 時間
第2回	対面	【ビジネスにおけるプレゼンテーション事例】 目的・事例・ツール等 中間課題のテーマを出します	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第3回	対面	【プレゼンテーションの構成①】 構成のたて方を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第4回	対面	【プレゼンテーションの構成②】 見やすい資料作り・企画書を作る	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	4 時間
第5回	対面	【強い言葉を作る表現技術】 プレゼンテーションに使う印象に残るフレーズの作り方	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	6 時間
第6回	対面	【中間発表】 プレゼンテーション発表 フィードバック	【事前】 発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	4 時間
第7回	対面	【コミュニケーションと表現技術】	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第8回	対面	【デジタルツール動画編①】 わかりやすく伝える撮影のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 撮影後のプレビュー・補撮・編集準備	4 時間
第9回	対面	【デジタルツール動画編②】 わかりやすく伝える編集のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 粗編集	4 時間
第10回	対面	【デジタルツール動画編③・試写会】 わかりやすく伝えるテロップ・ナレーション・音効のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 完成した VTR を見て振り返り	4 時間
第11回	対面	【アナログツール・KP 法①】 環境教育で考案されたプレゼン手法を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第12回	対面	【アナログツール・KP 法②】 課題に向けたリハーサルを KP 法で行う	【事前】 課題準備 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第13回	オンデマンド	【まとめ】 最終プレゼンの発表前にこれまでの復習などを行う	【事前】 これまでの配布資料の見直しをする 【事後】 レポート提出	4 時間
第14回	対面	【最終発表①】	【事前】	6 時間

		学んだ手法を交えてプレゼンテーションをする フィードバック	発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	
第15回	対面	【最終発表②及びまとめ】 学んだ手法を交えてプレゼンテーションをする フィードバック これまでのまとめと総括	【事前】 発表準備 【事後】 全体を振り返る	4時間

科目名	ビジネスプレゼンテーション	開講年度	2025
担当者	酒井 立夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実社会でのプレゼンテーションの実践能力を身につける。		
授業の目的及び概要	ビジネスにおけるプレゼンテーションの手法を理解し、状況に応じたプレゼンの実践力を養うことを目的とする。 実社会でのプレゼンテーションとはどんなものか、構成の立て方・コミュニケーションと表現技術・視覚資料の作り方・動画の撮影や編集方法について講義を行う。 テーマ毎に資料を作成し発表する。 ディスカッションをしてスキルアップを図る。 ※受講人数等によっては授業計画の変更あり。		
履修条件・留意点	募集定員 25 名を越えた場合、レポートによる選抜試験を行ないます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①プレゼンテーションを行うための基本や手法を説明することができる。 ②企画書や視覚資料を作りプレゼンテーションができる。 ③動画を組み合わせたプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間・最終発表後、授業中に口頭で講評をします。 また、発表中の撮影 VTR を見たあとでレポート提出、LearningPortal にて講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、36 年間、民間放送局でテレビ番組の企画・制作の他に、企業と連携した商品開発や、販売促進、大型イベントの運営等にも責任者として携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①必要に応じテキストを配布	ISBN	なし
参考書	①KP 法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション、川嶋直、みくに出版、2018 年 ②瞬時に「話す」「書く」技術、橋本淳司、すばる舎、2011 年 ③一生使える見やすい資料のデザイン入門 2022 年 ④ビジネスプレゼンテーション改訂版 2021 年	ISBN	①948-4-8403-0532-7 ②978-4-88399-986-6 ③978-4-8443-3963-2 ④978-4-407-32261-3
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ビジネスはもとより学生生活でも、相手に説明したり説得するにはプレゼンは欠かせません。デジタルツールはあくまで補助手段ですが、使い方によっては効果的なプレゼンが行えます。上達にはコミュニケーション及びプレゼンテーション技法を学び、発表とフィードバックを繰り返すことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の目的と方法、授業計画、到達目標、成績評価等について説明します	【事前】 シラバスを読み授業の目標を考えておいてください 【事後】 授業後目標について見直してください	2 時間
第2回	対面	【ビジネスにおけるプレゼンテーション事例】 目的・事例・ツール等 中間課題のテーマを出します	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第3回	対面	【プレゼンテーションの構成①】 構成のたて方を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第4回	対面	【プレゼンテーションの構成②】 見やすい資料作り・企画書を作る	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	4 時間
第5回	対面	【強い言葉を作る表現技術】 プレゼンテーションに使う印象に残るフレーズの作り方	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	6 時間
第6回	対面	【中間発表】 プレゼンテーション発表 フィードバック	【事前】 発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	4 時間
第7回	対面	【コミュニケーションと表現技術】	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第8回	対面	【デジタルツール動画編①】 わかりやすく伝える撮影のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 撮影後のプレビュー・補撮・編集準備	4 時間
第9回	対面	【デジタルツール動画編②】 わかりやすく伝える編集のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 粗編集	4 時間
第10回	対面	【デジタルツール動画編③・試写会】 わかりやすく伝えるテロップ・ナレーション・音効のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 完成した VTR を見て振り返り	4 時間
第11回	対面	【アナログツール・KP 法①】 環境教育で考案されたプレゼン手法を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第12回	対面	【アナログツール・KP 法②】 課題に向けたリハーサルを KP 法で行う	【事前】 課題準備 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第13回	オンデマンド	【まとめ】 最終プレゼンの発表前にこれまでの復習などを行う	【事前】 これまでの配布資料の見直しをする 【事後】 レポート提出	4 時間
第14回	対面	【最終発表①】	【事前】	6 時間

		学んだ手法を交えてプレゼンテーションをする フィードバック	発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	
第15回	対面	【最終発表②及びまとめ】 学んだ手法を交えてプレゼンテーションをする フィードバック これまでのまとめと総括	【事前】 発表準備 【事後】 全体を振り返る	4 時間

科目名	会計学（経営）／会計学Ⅰ（経済）	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計学の基本的な知識とスキルを修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「会計学基礎」で学んだ、財務会計、管理会計、監査といった会計学の各領域における学修の基礎をさらに身につけることを目標としている。会計とは企業活動を取引という形で把握し、一定のルールにしたがって貨幣単位に変換して測定・記録し、会計情報として情報利用者（代表的には、一般投資家・株主・債権者）に伝達する行為である。会計学という学問領域の全体像を理解し、経済社会、そして企業経営において果たされるべき会計の役割について説明できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を中心に会計学に関する専門用語及び理論を理解し、説明できる。 ・基本的な指標の理解を前提に、財務諸表分析を行い、その結果を評価できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては、採点後に返却したうえで、解説と講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	〔改訂版〕会計・ファイナンスの基礎・基本，島本克彦・桑井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025年	ISBN	9784794416025
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト（会計学基礎の復習）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所	4 時間

			を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	
第2回	対面	財務会計（基礎理論）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	財務会計（基礎理論）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	財務会計（利益計算）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	財務会計（利益計算）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	財務会計（その他）	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	財務会計の総復習	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間試験	中間試験に向けての対策を実施すること	4時間
第9回	対面	中間試験の解説	中間試験の復習を実施すること	4時間
第10回	対面	財務分析（指標の修得）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	財務分析（演習）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	財務分析（演習）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	財務分析（演習）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	財務分析実力確認テスト	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。	4時間

			【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	
第15回	対面	まとめ	【事前学修】テキストの全頁を再度読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱ったまとめの事項を、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

科目名	会計学（経営）／会計学Ⅰ（経済）	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計学の基本的な知識とスキルを修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「会計学基礎」で学んだ、財務会計、管理会計、監査といった会計学の各領域における学修の基礎をさらに身につけることを目標としている。会計とは企業活動を取引という形で把握し、一定のルールにしたがって貨幣単位に変換して測定・記録し、会計情報として情報利用者（代表的には、一般投資家・株主・債権者）に伝達する行為である。会計学という学問領域の全体像を理解し、経済社会、そして企業経営において果たされるべき会計の役割について説明できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を中心に会計学に関する専門用語及び理論を理解し、説明できる。 ・基本的な指標の理解を前提に、財務諸表分析を行い、その結果を評価できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等については、採点后に返却したうえで、解説と講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	〔改訂版〕会計・ファイナンスの基礎・基本，島本克彦・桑井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025年	ISBN	9784794416025
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・授業の【予習】と【復習】を怠らないようにしてください。 ・事前に通知した授業回には電卓（12桁以上）を持参してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 実力確認テスト（会計学基礎レベル）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2 時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読	4 時間

			み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	
第2回	オンデマンド	財務会計Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	財務会計Ⅱ（企業会計を支える仕組み）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	連結会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	キャッシュ・フロー計算書（この回は配布資料で学修）	【事前学修】キャッシュ・フロー計算書のひな形を確認しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	中間試験①	【事前学修】中間試験の範囲を復習し、試験の準備をしておくこと（4時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	管理会計（中間試験の解説含む）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	財務諸表分析Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	財務諸表分析Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	中間試験②	【事前学修】中間試験の範囲を復習し、試験の準備をしておくこと（4時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	ファイナンス・税務会計（中間試験の解説含む）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	監査	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第13回	オンデマンド	監査（分析）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第14回	オンデマンド	国際会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。	4時間

			【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【事前学修】テキストの全頁を再度読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱ったまとめの事項を、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

科目名	財務会計論Ⅰ（経営）／財務会計（経済）		開講年度	2025
担当者	藤原 大花		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	財務会計理論の学修			
授業の目的及び概要	この授業は、簿記・会計の上級者を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことが目的である。「初級簿記」・「中級簿記」・「上級簿記」といった複式簿記による技術的側面の学修を中心としたものに対し、なぜそのような仕訳をするのかという会計処理の理論的側面を学修するものである。この授業を履修することによって、会計学の基礎概念や会計基準の構造を理解することができ、税理士試験（財務諸表論）や公認会計士試験（財務会計）の基礎を修得することができる。			
履修条件・留意点	この科目は「会計学」と「中級簿記」の知識を前提とします。そのため、両科目の単位を修得していることが望ましいです。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を理解し、説明できる。 ・主要な会計基準とその理論的問題や背景を理解し、説明することができる。 ・財務会計に関する理論を理解し、会計処理を説明できる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	中間試験等は採点の上で解説します。授業で説明した内容の問いかけや疑問点の質問に回答します。			
アクティブ・ラーニング の取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	レジュメを使用します。また、必要な資料（会計基準等）を適宜案内いたします。	ISBN	なし	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	40		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目は、「上級簿記」を理論的に支える科目となります。税理士試験（財務諸表論）、公認会計士試験（財務会計）で出題される範囲全般を広く浅く取り上げる予定です。したがって、これらの受験を考えている人は、必ず履修してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス	会計学、中級簿記、上級簿記等のテキストを使用し、	4 時間

		・実力確認テスト	内容を思い出しにくくするようにすること。	
第2回	対面	・財務会計の機能 ・財務会計の基礎概念	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	・損益会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	・損益会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	・資産会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	・概念フレームワーク（財務報告の目的・会計情報の質的特性）	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	・概念フレームワーク（財務諸表の質的特性・財務諸表における認識と測定）	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	・中間試験	・第7回目までの範囲の総復習を行い、中間試験に備えること。	6 時間
第9回	対面	・中間試験の解説と復習	【復習】 ・中間試験の復習を丁寧に行うこと 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第10回	対面	・自己株式	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第11回	対面	・研究開発費	・第10回（自己株式）及び第11回授業（研究開発費）の復習を実施すること	6 時間
第12回	対面	・実力確認問題の実施と復習	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第13回	対面	・棚卸資産と固定資産の期末評価	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第14回	対面	・引当金と資産除去債務	・配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復	6 時間

2025/05/01

			習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	まとめ	・定期試験に向けて総復習を行うこと。	6時間

科目名	管理会計論（経営）／管理会計（経済）	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	管理会計の基本的知識・手法の修得		
授業の目的及び概要	管理会計は、企業内部の経営管理者の意思決定に役立つ情報を提供するために行うものであり、企業経営において重要な役割を担っている。本科目は、管理会計の基本的知識・手法を修得することを目的とし、管理会計が企業の業績管理や意思決定にどのように役立つか理解し、企業の業績管理や意思決定を支援するための基本的な手法を修得することを目指す。		
履修条件・留意点	本科目は、「工業簿記」相当の知識を修得しておくこととスムーズに学修を進めることができるため、履修にあたっては当該科目の単位を取得していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・管理会計が企業の業績管理や意思決定にどのように役立つか理解し、説明することができる。 ・企業の業績管理を支援するための基本的な手法を修得し、その結果を評価することができる。 ・企業の意思決定を支援するための基本的な手法を修得し、その結果を評価することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験は返却し、解説・講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	1 からの管理会計，國部克彦・大西靖・東田明，中央経済社，2020 年	ISBN	9784502331213
参考書	管理会計（第 7 版），櫻井通晴，同文館出版，2019 年	ISBN	9784495161477
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	管理会計は、企業の戦略の遂行を支援するためのものです。経理を目指す方だけでなく、企業経営に携わることを目指す方も管理会計について理解しておくことが求められるので、興味・関心のある学生はぜひ履修してください。また、管理会計はあらゆる経営プロセスに関連します。そのため、管理会計をよく理解するためには、経営戦略論、経営管理論、経営組織論、生産管理論をあわせて履修することでより理解が深まります。 【注意事項】 ・電卓（12 桁以上）を持参してください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス後、管理会計の目的について学びます。	【事前学修】テキストの第1章「会計で経営を管理する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	責任会計制度について学びます。	【事前学修】テキストの第2章「組織を構成する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	中期経営計画、短期利益計画について学びます。	【事前学修】テキストの第4章「戦略を策定する」、第5章「短期の利益を計画する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	予算編成について学びます。	【事前学修】テキストの第6章「予算を編成する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	予算管理と業績評価について学びます。	【事前学修】テキストの第7章「業績を評価する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	BSC（バランスト・スコアカード）について学びます。	【事前学修】テキストの第8章「非財務指標を活用する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキストの該当箇所を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	中間試験	【事前学修】中間試験に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6時間
第8回	対面	中間試験の解説後、業務的業務意思決定について学びます。	【事前学修】テキストの第9章「業務的意思決定を支援する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 中間試験で間違えた箇所について、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	戦略的意思決定①について学びます。	【事前学修】テキストの第10章「長期意思決定を支援する」（pp. 125-130）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 中間試験で間違った箇所について、配布資料を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	戦略的意思決定②について学びます。	【事前学修】テキストの第10章「長期意思決定を支援する」（pp. 131-139）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	生産管理と会計について学びます。	【事前学修】テキストの第11章「生産を管理する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	原価管理について学びます。	【事前学修】テキストの第12章「製品原価を管理する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	原価企画について学びます。	【事前学修】テキストの第13章「製品・商品を開発する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間

			項とともに復習しておくこと。	
第14回	対面	環境会計について学びます。	【事前学修】テキストの第14章「環境を管理する」を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容のまとめをオンデマンドで配信します。	【事後学習】定期試験に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6時間

科目名	原価計算論（経営）／原価計算（経済）		開講年度	2025
担当者	藤原 大花		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	原価計算の基礎理論及び計算手法を学ぶ。			
授業の目的及び概要	この授業は、「工業簿記」の履修等を通じて、中級程度の工業簿記について十分な学修を行っている学生を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことを目的とする。「日本商工会議所簿記検定 1 級」の検定試験で出題される範囲のみではなく、2 級の範囲に含まれる論点の復習や要点の整理を含めながら、原価計算の基礎知識を土台として、理論的に応用分野をも学修する。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 1 級（工業簿記・原価計算）」の基礎を修得することができる。			
履修条件・留意点	工業簿記の上位科目ですので、工業簿記の単位を取得している又は日商簿記 2 級を取得していることが望ましいです。 初回授業時に実力確認テストを実施します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・日商簿記検定 1 級レベルの製品原価計算の技法を修得し、使用できる。 ・原価計算の基礎理論を理解し、説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	各種テスト等は採点の上で解説します。			
アクティブ・ラーニング の取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	初回授業で案内します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		100	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	原価計算は公認会計士や企業の経理担当といった会計に関する仕事に就くことを目標としている方には必要な知識です。また、原価計算の基礎理論や計算手法を身に付けることにより、企業のコスト管理を実施できるようになります。 日商簿記の最高峰である 1 級の取得は就職活動に有利なステータスとなります。本科目受講生は、是非日商簿記 1 級取得にチャレンジしてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト（工業簿記）	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	原価計算総論 材料費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	労務費会計 経費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	製造間接費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	部門別計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	個別原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	単純総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	工程別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	組別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	等級別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	連産品	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	標準原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	直接原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	問題演習	実施した問題の復習を入念に実施すること	4時間
第15回	対面	まとめ（定期試験に向けて）	定期試験に向けて総復習を行うこと。	4時間

科目名	税務会計	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	税務会計の基本論点の学修、計算実践		
授業の目的及び概要	本科目は、「中級簿記」もしくは「日商簿記検定2級」相当の知識を前提に税務会計の初学者を対象に開設されるものであり、税務会計について基本的な考え方を理解し、計算方法を修得することが目的である。具体的には財務会計と税務会計の考え方の違いについて理解したうえで、計算実践を通じて税務上の調整額や税額が計算できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	本科目は、「中級簿記」の上位科目であり、「中級簿記」の単位を取得していることを推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務会計と税務会計の考え方の違いを理解し、説明することができる。 ・法人税における税務上の調整額や税額の計算方法を理解し、計算することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験は返却し、解説・講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	全経法人税法能力検定試験公式テキスト3級／2級 【第3版】，ネットスクール株式会社，ネットスクール出版，2023 年	ISBN	9784781003504
参考書	－	ISBN	－
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	本科目は、会計専門職を目指す学生が知っておきたい法人税に関する基本的な知識を学修します。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス後、法人税法の概要、課税標準、税額計算について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter1「法人税法の概要」、Chapter2「課税標準」、Chapter3「税額計算」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるま	4 時間

			で繰り返し解くこと。	
第2回	対面	資産評価等について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter5「資産評価等」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第3回	対面	減価償却費①について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter6「減価償却費」(p. 48-60) を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第4回	対面	減価償却費②について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter6「減価償却費」(p. 63-73) を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第5回	対面	減価償却費③について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter6「減価償却費」(p. 77-89) を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第6回	対面	租税公課について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter8「租税公課」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第7回	対面	中間試験	中間試験に向けて、復習を行うこと。	4 時間
第8回	対面	中間試験の解説後、受取配当金について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter9「受取配当金等」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。 中間試験の間違った箇所について、周辺論点を含め復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	役員給与等について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter10「役員給与等」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第10回	対面	寄附金について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter11「寄附金」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第11回	対面	交際費等について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter12「交際費等」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第12回	対面	貸倒損失、貸倒引当金について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter13「貸倒損失、貸倒引当金」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4 時間
第13回	対面	圧縮記帳等について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter14「圧縮記帳等」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事	4 時間

			項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	
第14回	対面	欠損金の繰越しについて学びます。	【事前学修】テキストのChapter16「欠損金の繰越し」を読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容のまとめをオンデマンドで配信します。	定期試験に向けてテキストを読み直し、復習を行うこと。また、設例をできるまで繰り返し解くこと。	4時間

科目名	監査論（経営）／会計監査（経済）	開講年度	2025
担当者	藤原 大花	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計監査の基礎理論を学ぶ		
授業の目的及び概要	現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、その適正性に関して独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っているといえる。この授業は、財務諸表監査を中心とした監査の目的や機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学修し、監査制度についての理解を深めることが目的である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・職業的専門家が実施する監査の意義や制度を理解し、説明することができる。 ・監査の計画、実施及び報告に至る一連のプロセスを理解し、説明することができる。 ・財務分析の手法を用いて、財務諸表の異常値を発見できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等は採点し、解説します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・財務諸表監査制度の成立とその目的	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第2回	対面	・経済社会を支える財務情報 ・監査を要請する法律	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間

第3回	対面	・ 監査を担当する専門家	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第4回	対面	・ 監査基準（目的基準と一般基準）	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第5回	対面	・ 監査の実施	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第6回	対面	・ 中間試験	今までの範囲を総復習し、中間試験に備えること	4 時間
第7回	オンデマンド	中間試験の解説	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第8回	対面	・ 監査の手続①	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第9回	対面	・ 監査の手続②	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第10回	対面	・ 監査結果の報告	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第11回	対面	・ ケーススタディ①	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第12回	対面	・ ケーススタディ②	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第13回	対面	・ ケーススタディ③	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第14回	対面	・ ケーススタディ④	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第15回	対面	・ まとめ	総復習し、定期試験に備えること	4 時間

科目名	経営分析Ⅰ	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表に関する知識及び財務諸表分析の手法の基本の修得。		
授業の目的及び概要	財務諸表分析は、財務諸表から企業の財政状態や経営成績などを読み取るための分析手法であり、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。本科目は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の基本構造など財務諸表分析に必要な知識や財務諸表分析の手法（収益性、効率性、安全性、成長性等）を理解し、その手法を用いて収益性、効率性、安全性、成長性等を分析し、分析結果を評価できるようになることを目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の基本構造等を理解し、説明することができる。 ・財務諸表分析の手法を用いて収益性・効率性・安全性・成長性を分析し、分析結果を評価することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは返却し、解説と講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	企業評価論入門, 奈良沙織, 中央経済社, 2019 年	ISBN	9784502299612
参考書	－	ISBN	－
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	財務諸表分析は、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。興味・関心のある学生はぜひ履修してください。 【注意事項】 ・事前に通知した授業回は電卓（12 桁以上）を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス後、財務諸表分析の概要について	【事前学修】テキストの第 1 章「企業評価と財務諸表」	4 時間

		て学びます。	分析の概要」(pp. 9-21)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	
第2回	対面	貸借対照表の基本構造等、貸借対照表の分析の方法について学びます。	【事前学修】テキストの第2章「貸借対照表の分析」(pp. 23-45)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	損益計算書の基本構造等、損益計算書の分析の方法について学びます。	【事前学修】テキストの第3章「損益計算書の分析」(pp. 55-74)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	キャッシュ・フロー計算書の基本構造等、キャッシュ・フロー計算書の分析の方法について学びます。	【事前学修】テキストの第4章「キャッシュフロー計算書の分析」(pp. 79-98)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	中間試験①	【事前学修】中間試験①に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	中間試験①の解説後、財務比率の分析の概要について学びます。	【事前学修】テキストの第5章「財務比率の分析の概要」(pp. 101-114)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 中間試験①で間違えた箇所について、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6 時間
第7回	対面	安全性の分析について学びます。	【事前学修】テキストの第8章「安全性の分析」(pp. 141-150)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	収益性の分析について学びます。	【事前学修】テキストの第6章「収益性の分析」(pp. 115-130)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	効率性の分析について学びます。	【事前学修】テキストの第7章「効率性の分析」(pp. 131-139)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	成長性の分析について学びます。	【事前学修】テキストの第9章「成長性の分析」(pp. 151-163)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	中間試験②	【事前学修】中間試験②に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	中間試験②の解説後、練習問題に向けた説明を行います。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 中間試験②で間違えた箇所について、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6 時間
第13回	対面	事例①について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布資料、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	事例②について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布資料、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間

2025/05/01

第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容のまとめをオンデマンドで配信します。	定期試験に向けて配布資料、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間

科目名	経営分析Ⅰ	開講年度	2025
担当者	向山 敦夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表分析に関する基礎的知識の習得		
授業の目的及び概要	われわれが最も簡単に入手でき、かつ最も有用な情報は有価証券報告書です。企業を分析する主体は一般投資家（株主）・証券アナリスト・債権者（銀行）・ファンドマネジャー・従業員（労働組合）・大学生（潜在的従業員）などさまざまです。企業を分析する視角は、代表的には収益性と安全性ですが、将来性や成長性、CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報などの重要性が増しています。この授業では、有価証券報告書に掲載されている財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を使ってさまざまな経営分析指標を説明し、また実際に算定することにより、企業を分析する知識の習得を目指します。		
履修条件・留意点	とくに履修に際しての条件はないが、会計関係科目の応用編であることに留意されたい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・学生が実際の企業の財務諸表を使って指標を算出し、企業業績・経営内容を分析することができるようになること。 ・自分が将来働きたいと思う企業や、名前は知っているけれども企業の内容は知らないという企業の財務諸表をみて、収益性や安全性を分析することができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義の進捗に合わせて、理解度を確かめるためのミニテストをおこない、翌週に返却して解答します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しません。PowerPoint の資料を使って説明します。	ISBN	なし
参考書	①ビジネススクールで教える経営分析，太田康広，日本経済新聞出版，2018 年 ②ビジュアル 経営分析の基本 〈第 5 版〉，佐藤裕一，日経文庫ビジュアル，2012 年	ISBN	①9784532113865 ②9784532119256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義内容の理解を深めるために、期間中に 4 回のミニテスト（小テスト）をおこないます。ミニテストは提出のみをチェックし、翌週返却して解答します。過去の経験から言えば、単位取得率・成績評価は、出席率と強い相関を示しています（すなわち、講義に毎回出席し、きっちりミニテストをこなしていれば、講義内容は理解できます）。成績評価の方法は第 1 回目に詳しく説明します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の進め方・評価方法等についてガイダンスをおこないます。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や参考書などを確認しておいてください。	2 時間
第2回	対面	トライアングル体制と呼ばれた日本の会計制度の現状と歴史について解説し、財務情報の入手方法について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「トライアングル体制」や財務情報の入手方法について確認しておいてください。	4 時間
第3回	対面	損益計算書と貸借対照表の構造について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益計算書と貸借対照表の構造」について確認しておいてください。	4 時間
第4回	対面	経営分析の目的と機能について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「経営分析の目的と機能」について確認しておいてください。	4 時間
第5回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「収益性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第6回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します（売上と利益の関係）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「売上高利益率」について確認しておいてください。	4 時間
第7回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します（資本と利益の関係）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「資本利益率」について確認しておいてください。	4 時間
第8回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（流動性指標を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに流動性指標）」を確認しておいてください。	4 時間
第9回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（固定性指標を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに固定性指標）」を確認しておいてください。	4 時間
第10回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（資本構成を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに資本構成）」を確認しておいてください。	4 時間
第11回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します（1）。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内容を確認しておいてください。	4 時間
第12回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します（2）。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認	4 時間

			しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内容を確認しておいてください。	
第13回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します(3)。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内容を確認しておいてください。	4 時間
第14回	対面	財務諸表分析の意義と限界について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「財務諸表分析の意義と限界」について確認しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義の全体の流れを振り返ります。	【予習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を事前に確認しておくこと。 【復習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を確認し、講義を通じて得られた経営分析の知識を復習すること。	6 時間

科目名	経営分析Ⅱ	開講年度	2025
担当者	向山 敦夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表分析に関する応用的知識の習得		
授業の目的及び概要	企業を分析する主体は、一般投資家（株主）・証券アナリスト・債権者（銀行）・信用調査会社・ファンドマネジャー・従業員（労働組合）・大学生（潜在的従業員）などさまざまです。企業を分析する視角は、代表的には収益性や安全性ですが、将来性や成長性、CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報などの重要性が増しています。この授業では「経営分析Ⅰ」の知識を前提にして、授業の前半（第 1 回～第 8 回）は講義形式、授業の後半（第 9 回～第 14 回）は受講生自身でさまざまな経営分析指標を用いて有価証券報告書に掲載されている財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を分析するプレゼンテーションをおこないます。		
履修条件・留意点	「経営分析Ⅰ」の上位科目であり、「経営分析Ⅰ」を履修済みであることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 学生が実際の企業の財務諸表を使って指標を算出し、企業業績・経営内容を分析することができるようになること。 ・ 自分が将来働きたいと思う企業や、名前は知っているけれども企業の内容は知らないという企業の財務諸表をみて、収益性や安全性を分析することができるようになること。 ・ 学生が ESG/サステナビリティ情報を分析することにより、多角的に企業を分析・評価することができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義の進捗に合わせて理解度を確かめるためにミニテストをおこない、返却して解答します。受講生によるプレゼンテーションに対しては、他の受講生からコメントシートを提出してもらいます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しません。PowerPoint の資料を使って説明します。	ISBN	なし
参考書	①ビジネススクールで教える経営分析，太田康広，日本経済新聞出版，2018 年 ②ビジュアル 経営分析の基本 〈第 5 版〉，佐藤裕一，日経文庫ビジュアル，2012 年	ISBN	①9784532113865 ②9784532119256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	第 1 回目の授業で詳しく説明しますが、一人 2 回ずつ、PowerPoint の資料を作成してプレゼンテーションをおこないますので、PowerPoint の使い方に慣れておいてください。		

あたって	他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の進め方・評価方法等についてガイダンスをおこないます。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や参考書などを確認しておいてください。	2 時間
第2回	対面	トライアングル体制と呼ばれた日本の会計制度の変革について解説するとともに、財務情報の入手方法について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「トライアングル体制」や財務情報の入手方法について確認しておいてください。	4 時間
第3回	対面	損益計算書と貸借対照表の構造について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益計算書と貸借対照表の構造」について確認しておいてください。	4 時間
第4回	対面	損益計算書を中心にして、企業の収益性分析の指標について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「収益性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第5回	対面	貸借対照表を中心にして、企業の安全性分析の指標について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第6回	対面	損益分岐点分析について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益分岐点分析」について確認しておいてください。	4 時間
第7回	対面	証券投資で用いられる基本的な指標（PER と PBR）について解説します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「PER と PBR」を確認しておいてください。	4 時間
第8回	対面	CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報の分析について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「CSR/ESG 情報」について確認しておいてください。	4 時間
第9回	対面	これまでの講義内容のとりまとめをおこないます。また、第1回目のプレゼンテーションについての説明をおこないます。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第10回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（1）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第11回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（2）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第12回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（3）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間

			トを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	
第13回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションで指摘された課題を修正して、第2回目のプレゼンテーションをおこないます(4)。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第14回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションで指摘された課題を修正して、第2回目のプレゼンテーションをおこないます(5)。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義の全体の流れを振り返ります。	【予習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を事前に確認しておくこと。 【復習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を確認し、講義を通じて得られた経営分析の知識を復習すること。	6 時間

科目名	経営分析Ⅱ	開講年度	2025
担当者	川口 将輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表及び財務諸表分析の応用的な知識・手法の修得。		
授業の目的及び概要	経営分析は、企業が開示するデータから企業の事業内容や経営戦略、財務戦略を踏まえた財政状態や経営成績等を読み取るための分析手法であり、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。本科目は、「経営分析Ⅰ」で学修した知識・手法を前提として、前半（第1回～第9回）は財務数値の裏側にある企業の事業内容や経営戦略、財務戦略の分析手法について学修し、後半（第10回～第14回）は事例分析を通じてそれらを踏まえた財務諸表分析の結果から企業の財政状態及び経営成績等を評価することができるようになることを目指します。		
履修条件・留意点	本科目は、「経営分析Ⅰ」の上位科目であり、「経営分析Ⅰ」の単位を取得していることを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・企業の事業内容や経営戦略、財務戦略の分析手法について理解できる。 ・企業の事業内容や経営戦略、財務戦略の分析を踏まえた財務諸表分析の結果から企業の財政状態及び経営成績等を評価することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは返却し、解説と講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	企業評価論入門, 奈良沙織, 中央経済社, 2019 年	ISBN	9784502299612
参考書	－	ISBN	－
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	本科目は、経営分析Ⅰで学修した財務諸表分析を前提として、企業の事業内容や経営戦略、財務戦略を踏まえた分析手法について学修することで、企業の財政状態及び経営成績等を読み取ることができるようになることを目指します。「経営分析Ⅰ」の単位を取得しており、さらに深く経営分析を学びたい学生はぜひ履修してください。 【注意事項】 ・電卓（12桁以上）を持参してください。 ・ディスカッションを行うため、積極的に参加してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス後、実力確認テストを行います。	【事前学習】テキスト第1章～第9章（pp.45-54、p.75-78を除く）を読み直し、経営分析Ⅰで学修した内容を復習すること。 【事後学修】実力確認テストで間違えた箇所について復習しておくこと。	6時間
第2回	対面	B/S・P/Lの数値を用いた株式・企業価値評価について学びます。	【事前学習】テキスト第2章「貸借対照表の分析」（p.45-54）、第3章「損益計算書の分析」（pp.75-78）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	事業分析・経営戦略分析の意義、セグメント情報の分析①について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.227-238）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	セグメント情報の分析②について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.227-238）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	経営戦略分析①について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.238-248）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	経営戦略分析②について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.238-248）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	財務戦略と資本構成の分析について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.249-255）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	中期経営計画の評価①について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.256-260）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	中期経営計画の評価②について学びます。	【事前学習】テキスト第14章「事業分析・経営戦略分析」（pp.256-260）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等について読み直し、授業での説明とともに復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	中間試験、事例分析に向けた説明を行います。	【事前学修】中間試験に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間

2025/05/01

第14回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	テキスト等を読み直し、期末レポートに向けて復習しておくこと。	6時間

科目名	情報管理論（経営）／情報管理概論（経済）		開講年度	2025
担当者	山本 訓弘		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	現代社会の人々の意思決定や行動は、多種多様な情報に基づいてなされている。本講義では「現代社会に溢れる情報を管理することで、どう利潤最大化をするか」を講義する。			
授業の目的及び概要	本講義では、様々な具体的事例を通して、「“情報”をどう“管理”すれば、利潤最大化になるか」を考察する。それにより、現代社会が今後どう発展する可能性があるのかを探り、情報を管理する大切さを学ぶ。特に、理論（学理、解釈）と実践（実務）を融合させて講義を行う。			
履修条件・留意点	授業時間中に、今回の授業内容に基づいた「書き物」を執筆し、提出をします。第 1 回目、グループ討議の実施回（2 回）と発表（2 回）の 5 回の授業を除く授業（全 10 回）で書き物を課します。1 回 3%の合計 30%この提出で出欠を取ります。この書き物のペーパーは担当教員が 1 人 1 枚手渡しで配布します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 理論と実践の融合から、現代社会における「情報をどう管理すれば利潤最大化になるか」に答えられる学力を身に付けることができる。 2. 現代社会での情報管理の現状に関する基礎的知識を習得し、自分がどう情報管理を行えば利潤最大化になるかを考えて説明できる。 3. 資料や事実を基にした考察を文章表現し、自分自身のオリジナルレポートとして執筆できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	1. グループディスカッション（GD）とプレゼンテーションの内容（P 内容）を講評します。 2. レポートの講評を行い、優秀なレポートは授業中に紹介します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	なし。レジュメ（PDF）を Learning Portal で配布します。		ISBN	なし
参考書	なし		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		30	
	その他（％）		40	
	その他の内容		グループディスカッション 5%（グループへの貢献）+プレゼンテーション内容 15%（調査量と発表態度）＝20% それら 2 回で 40%	

この科目の受講にあたって	情報管理は実際のビジネス活動そのものに直結し、ICT を活用した現代社会で活躍するための必須の知識です。現代社会においては「ヒト・モノ・カネ・情報・ナレッジ」という経営 5 資源が今後の経営に大きな影響を与え、この情報とナレッジを本講義では学びます。履修生の皆さんが卒業後に社会で活躍する基盤になるように、理論と実務を融合した内容で講義します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	第 1 回 「情報」と「管理」を学ぶとは（オリエンテーション、ガイダンス） ○担当教員の自己紹介 ○授業の受け方の説明（特に、グループディスカッション、プレゼンテーション） ○授業内容の説明 ○単位認定の仕方の説明	復習：授業内容の振り返りを行う	1 時間
第 2 回	対面	第 2 回 情報とは何か① ○情報の定義 ○情報をどう収集・分析するか ○情報をどう評価するか	予習：新聞記事検索で、情報の収集・分析・評価について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5 時間
第 3 回	対面	第 3 回 情報とは何か② ○情報からどうメリットを得るか ○情報をどう活かして行動し、利潤最大化になるか ○情報経済論から「中古市場」を考える ○売り手と買い手の情報量から、マーケティングを考える	予習：google 検索で、情報経済論、中古市場、売り手と買い手の情報量について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5 時間
第 4 回	対面	第 4 回 管理とは何か① ○CRM (Customer Relationship Management) とは	予習：google 検索で、CRM について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第 5 回	対面	第 5 回 管理とは何か② ○顧客価値とは ○One to One マーケティングとは	予習：google 検索で、顧客価値、One to One マーケティングについて調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第 6 回	対面	第 6 回 グループディスカッションの仕方・評価方法 ○グループディスカッションの仕方・評価方法を学ぶ	予習：google 検索等で、「問題の構造化」について調べておく 復習：グループディスカッションの仕方・評価方法を復習し、第 7 回目でのお題について考えておく	6 時間
第 7 回	対面	第 7 回 グループディスカッションとプレゼンテーション① ○第 2～6 回の授業内容を基に、各学生チームが「どう顧客情報を管理すれば利潤最大化になるか」を考える ○チームで議論した内容を基にプレゼンテーション資料の原案を作成する	予習：自分自身で「どう顧客情報を管理すれば利潤最大化になるか」を考えておく 復習：自分自身のチームで話し合った内容をまとめ、提出日までに提出すること	6 時間
第 8 回	対面	第 8 回 グループディスカッションとプレゼンテーション② ○第 8 回で作成したプレゼンテーション資料を基に、プレゼンテーションを行う ○プレゼンテーション内容の Q&A、担当教員の講評を行う	予習：第 7 回の内容をまとめ、Q&A に回答できるようにしておく 復習：講評を受けて、より良いプレゼンテーション資料にすべく、加筆・修正する	6 時間
第 9 回	対面	第 9 回 データベース① ○データベースとは ○なぜ、情報を蓄積し、流通させるのか	予習：新聞記事検索で、データベースについて調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第 10 回	対面	第 10 回 データベース② ○情報セキュリティの 3 原則 ○OECD の個人情報 8 原則	予習：google 検索で、情報セキュリティの 3 原則、OECD の個人情報 8 原則について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第 11 回	対面	第 11 回 ナレッジマネジメント① ○ナレッジマネジメントとは	予習：google 検索で、ナレッジマネジメントについて調べる	3 時間

			復習：授業内容の振り返りを行う	
第12回	対面	第12回 ナレッジマネジメント② ○知識創造のためのナレッジマネジメント	予習：新聞記事検索で、ナレッジマネジメントを活用した企業の実例について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3時間
第13回	対面	第13回 グループディスカッションとプレゼンテーション③ ○第9～12回の授業内容を基に、各学生チームが「ナレッジマネジメントで、とある企業の利潤最大化をどう行うか」を考える ○チームで議論した内容を基にプレゼンテーション資料の原案を作成する	予習：自分自身が考える「ナレッジマネジメント」についてまとめる 復習：自分自身のチームで話し合った内容をまとめ、提出日までに提出すること	6時間
第14回	対面	第14回 グループディスカッションとプレゼンテーション④ ○第13回で作成したプレゼンテーション資料を基に、プレゼンテーションを行う ○プレゼンテーション内容のQ&A、担当教員の講評を行う	予習：第13回の内容をまとめ、Q&Aに回答できるようにしておく 復習：講評を受けて、より良いプレゼンテーション資料にすべく、加筆・修正する	6時間
第15回	オンデマンド	第15回 まとめ ○「情報を管理することで得られる利潤最大化とは何か」に自分自身の回答を出す ○優秀レポートの紹介、プレゼンテーション内容の振り返り	予習：「情報を管理することで得られる利潤最大化とは何か」に自分自身の回答を準備する 復習：これまでの授業を振り返る	6時間

科目名	情報処理論	開講年度	2025
担当者	川村 明世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスで使える Excel の修得		
授業の目的及び概要	企業経営において、環境分析、戦略策定、マーケティング面で、データ分析の役割が大きくなっている。また、新たな価値を創造する上で必要な気づきを得るためにも、データから有用な知見を如何に抽出するかが社会的な関心となっている。この授業ではデータの可視化、報告、意思決定などのデータ分析に関連した一連のプロセスを身に付けることを目的とする。授業では実践的な課題に取り組むことで、修得した知識の定着を図る。情報処理の基礎とデータベースの概要について理解するとともに、Excel を用いたデータ管理・活用の手法を学び、ビジネス現場において必要となる顧客名簿や売り上げデータ等の多様なデータを適切に管理・活用する技能を身に付ける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①データの可視化、報告、意思決定などのデータ分析に関連した一連のプロセスを理解している。 ②データベースの概念や特徴について説明できる。 ③Excel をデータベースとして活用し、各種データの管理・検索・集計・分析を行うことができる。 ④上記③を実施するため、テーブル作成、データ入力、データの取り込み、データの加工、データの並び替え、データの抽出、関数やピボットテーブルを用いた集計など Excel の各種機能を使うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において 20 年以上の勤務経験を有しており、サプライチェーンに関する営業開発やロジスティクス品質マネジメントを担う部署のマネジャー職を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	できる Excel データベース 入力・整形・分析の効率アップに役立つ本 2019/2016/2013&Microsoft365 対応、早坂清志&できるシリーズ編集部、インプレス、2020 年	ISBN	9784295010289
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	ビジネス現場で使えるスキルを身に付けられるよう演習を繰り返してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション データベースの特徴と作り方	テキストの 13～22 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第2回	対面	情報処理の基礎理論 ・ テーブルの作成とデザインの変更 ・ 演習課題	予習：テキストの 23-38 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第3回	対面	効率的なデータ入力 ・ データ入力、ドロップダウンリスト、入力規制、郵便番号辞書、入力時のメッセージ等 ・ 演習課題	予習：テキストの 39-70 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第4回	対面	データの取り込み ・ データのコピー、貼り付け、CSV データ、外部データの取り込み等 ・ 演習課題	予習：テキストの 71-106 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第5回	対面	表記の統一 ・ TRIM 関数、ASC 関数、JIS 関数、SUBSTITUTE 関数、検索と置換、条件付き書式、COUNTIF 関数等 ・ 演習課題	予習：テキストの 107～134 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第6回	対面	データの取り出し ・ 構造化参照式、PHONETIC 関数、VLOOKUP 関数、INDEX 関数、COUNTA 関数、MID 関数、LEFT 関数 ・ 演習課題	予習：テキストの 135-162 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第7回	対面	データの並び替え ・ 複数項目の並び替え、ユーザー設定リスト、セルの文字や色で並び替え等 ・ 演習課題	予習：テキストの 163-182 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第8回	対面	フィルター機能によるデータの抽出 ・ テキストフィルター、ワイルドカード、数値フィルター、トップテン等 ・ 演習課題	予習：テキストの 183-214 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第9回	対面	条件付き書式でデータの傾向を可視化 ・ 上位/下位ルール、セルの協調表示ルール、カラースケール、データバー、アイコンセット等 ・ 演習課題	予習：テキストの 215-236 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第10回	対面	目標に沿った方法でデータを分析 ・ 小計、SUMIF 関数、COUNTIF 関数等 ・ 演習課題	予習：テキストの 237-256 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第11回	対面	ピボットテーブルによるデータ集計 ・ ピボットテーブル、クロス集計 ・ 演習課題	予習：テキストの 257-274 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間
第12回	対面	大量データの処理 ・ Power Query の機能、データの取得、CSV 形式等 ・ 演習課題	予習：テキストの 275-305 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4 時間

第13回	対面	復習① 第1章から第5章までの復習をおこないます。	予習：テキスト第1章から第5章を読み返しておいてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4時間
第14回	オンデマンド	復習② 第6章-第12章までの復習	予習：テキスト第6章から第12章を読み返しておいてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させてください。	4時間
第15回	対面	総復習	【予習】テキストをもとに総復習をしておいてください。 【復習】定期試験レポートで取り組んだ内容を見直してください。	4時間

科目名	情報処理論Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岩田 順敬	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	Python によるデータ分析/機械学習		
授業の目的及び概要	この授業は、データ分析ツールやデータ分析システム等を利用することで、実践的な諸問題に対する様々な分析方法を身に付けることを目的とする。近年の情報処理技術の進歩によりアルゴリズムやデータ構造に関する高度な知識が無くとも、分析ツールや分析システム等を利用することで、膨大な情報を処理することが可能となった。授業では、これらのツールやシステムを利用しながらデータから新たな知見を抽出する様々な手法ついて学修する。プログラミング言語は、データ分析に広く使われている Python を用いる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①データ分析の必要性を理解する。 ②Python の基本的な文法を理解し、コーディングすることができる。 ③Python ライブラリーを使ってデータ分析をすることができる。 ④AI における機械学習の基礎を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	スッキリわかる Python による機械学習入門、須藤秋良、インプレス、2021 年	ISBN	978-4-295-00994-8
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ビジネス現場で使えるスキルを身に付けられるよう演習を繰り返してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業ガイダンス Python の基礎文法	テキストの 11～20 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間

第2回	対面	AI と機械学習 ・ AI の定義 ・ 機械学習の基礎知識 ・ Python の基礎文法①	テキストの 31～50 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第3回	対面	機械学習に必要な基礎統計学 ・ データの種類 ・ 基礎統計量 ・ 統計学でよく使われるグラフ ・ Python の基礎文法②	テキストの 53～74 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第4回	対面	機械学習によるデータ分析の流れ ・ 目的の明確化 ・ データの収集と前処理 ・ モデルの選択と学習 ・ モデルの評価 ・ Python の基礎文法③	テキストの 75～89 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第5回	対面	機械学習体験 第4章（前半） ・ pandas 入門 ・ データの前処理 ・ モデルの準備と機械学習の実行 ・ モデルの評価	テキストの 91～126 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第6回	対面	機械学習体験 第4章（後半） ・ pandas 入門 ・ データの前処理 ・ モデルの準備と機械学習の実行 ・ モデルの評価	テキストの 91～126 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第7回	対面	4章練習問題	テキストの 127～130 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第8回	対面	教師あり学習の理解を深める 第5章 事例1：分類（前半） ・ データの前処理 ・ モデルの作成と学習 ・ モデルの評価 ・ 決定木の図の作成	テキストの 136～177 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第9回	対面	教師あり学習の理解を深める 第5章 事例1：分類（後半） ・ データの前処理 ・ モデルの作成と学習 ・ モデルの評価 ・ 決定木の図の作成	テキストの 136～177 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第10回	対面	5章練習問題	テキストの 178～184 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第11回	対面	教師あり学習の理解を深める 第6章 事例2：回帰（前半） ・ データの前処理 ・ モデルの作成と学習 ・ モデルの評価 ・ 回帰式による影響度の分析	テキストの 188～229 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第12回	対面	教師あり学習の理解を深める 第6章 事例2：回帰（後半） ・ データの前処理 ・ モデルの作成と学習 ・ モデルの評価 ・ 回帰式による影響度の分析	テキストの 188～229 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第13回	対面	6章練習問題	テキストの 230～235 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	復習① 第4～第5章	テキストの 92～235 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間

2025/05/01

第 1 5 回	対面	復習② 第 6 章	復習の内容を学修しておいてください。	4 時間

科目名	ビジネス統計学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	深瀬 澄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	学生研究発表大会報告や卒業研究に統計手法を活用しよう（統計検定2級レベルの基礎）		
授業の目的及び概要	受験対策の授業ではありませんが、統計検定2級レベルでも出題される記述統計学、区間推定、仮説検定、影響分析、予測、最適化等の基礎的な推測統計学を PC 実習形式で学びます。現代の経済、経営、社会、心理、教育、医学等の分野に応用されているので手強そうにみられていますが、扱う統計理論は 100 年以上も昔、コンピュータも電卓もなかった時代に英国を中心に研究されたもので、今では Excel の分析ツールで、誰でも簡単に計算ができてしまいます。授業では統計学的な考え方と出力結果の解釈をしっかり学んで下さい。学生研究発表大会や卒業研究にぜひ活用して下さい。学内で上位入賞や、大学院進学を目指すには「マーケティングリサーチ」まで必要ですが、その基礎をこの授業で習得しておく必要があります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 標本データの分布状況について、基本統計量を中心とする要約ができる。 2. 標本データから、母集団の平均値を推定できる。 3. 複数の標本のデータ間の統計量の差について、適切な手法を使い分けて仮説検定を行うことができる。 4. 分散分析の概念を理解し、分析結果を正確に解釈することができる。 5. Excel のソルバーを利用して、最適化や数値解を求められる。 6. 最小 2 乗法を理論的に理解し、回帰分析を用いた分析ができる。 8. データに基づき原因と結果の間の関係を、数学的に関係づけることができる。 9. 単回帰分析の出力結果を正確に解釈できる。 10. 回帰分析で初歩的な統計上の問題が生じた場合に、適切な処置ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『Excel で簡単統計学 分析ツールを使いこなそう!』, 上田太郎監修 近藤宏・淵上美喜・末吉正成・村田真樹, オーム社, 2007 年, 2800 円	ISBN	9784274066917
参考書	授業中に紹介する（学術図書出版より、2025 年 10 月出版目標）。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	14	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	36	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（%）	0	

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	履修上の注意：担当教員によって学修内容が異なりますので、同じ教員の科目を継続して履修した方がわかりやすいです。 「ビジネス統計学Ⅰ」と「ビジネス統計学Ⅱ」の関係は、「初級」と「中級」というよりも、むしろ「手動運転」（データ処理の操作方法）と「自動運転」（出力結果の考察）の関係に近いイメージです。「ビジネス統計学Ⅰ」から学ぶ方がわかりやすいです。 春学期開講「ビジネス統計学Ⅰ」（深瀬）：Excel の基本操作（プログラム化されていない） 秋学期開講「ビジネス統計学Ⅱ」（深瀬）Excel のデータ解析ツール（プログラム化） 春学期開講「マーケティングリサーチ」（深瀬）：Excel 非対応の多変量解析（プログラム化）	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	基本統計量1 (1) 平均 (2) 最小、最大、範囲 (3) 中央値（メジアン）、最頻値（モード） (4) 標準偏差、分散 (5) 尖度、歪度 (6) 合計、標本数	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第2回	対面	基本統計量2 第1講 標準偏差と偏差値 第2講 標本抽出 第3講 標準誤差	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第3回	対面	標準誤差の補足説明 中心極限定理 確率密度関数 区間推定	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第4回	対面	統計分析に用いる数式と確率分布関数 第1講 ガンマ関数 第2講 ベータ関数 第3講 t 分布 第4講 F 分布 第5講 χ^2 乗分布	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第5回	対面	仮説検定1 第1講 平均の差の検定（1）z 検定、 第2講 分散の差の検定 F 検定 第3講 トピックス：Student の t 分布	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第6回	対面	仮説検定2 第1講 平均の差の検定（2）t 検定（等分散／異分散） 第2講 平均の差の検定（3）t 検定（対応あり）	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第7回	対面	中間テスト 第2回～第7回までに学修してきた内容について中間テストを行います。	【予習】今までの授業をよく復習して下さい（3 時間） 【復習】 動画を視聴して、正解と解き方を確認して下さい（1 時間）	4 時間
第8回	対面	分散分析（ANOVA）1 第1講 平均周回変動の分解 第2講 一元配置の分散分析	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第9回	対面	分散分析（ANOVA）2 第1講 二元配置の分散分析（繰り返しなし） 第2講 二元配置の分散分析（繰り返しあり）	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第10回	対面	相関と共分散 第講 1. 共分散と相関 第講 2. 行列の積の計算	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間

		第講 3. 分散共分散行列 第講 4. 相関係数行列 第講 5. 資産運用への応用		
第11回	対面	回帰分析1 第1講：回帰直線と最小2乗法（OLS） 第2講：Excel ソルバーの使い方 第3講：Excel ソルバーによるOLS推定 第4講：Excel ソルバーの応用	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第12回	対面	回帰分析2 単回帰分析から重回帰分析へ 第講（1）最小2乗法の復習と補足説明 第講（2）Excel 分析ツールによる回帰分析 第講（3）単回帰分析から重回帰分析へ 第講（4）多重共線性問題	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第13回	対面	回帰分析3 回帰分析の応用1 第講（1）ダミー変数の利用 第講（2）数量化理論Ⅰ類 第講（3）変数変換と非線形回帰	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第14回	対面	時系列予測 第1講 TCSI 要因分解 第2講 移動平均 第3講 指数平滑法 第4講 周波数領域	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまで取り扱ってきた内容について振り返るとともに、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。	事前学修として授業で配布した資料を事前に読み、予習しておくこと。 事後学修として授業で配布した資料と参考書のこれまで学修した部分を読んで復習しておくこと。	4時間

科目名	ビジネス法入門	開講年度	2025
担当者	田坂 駿佑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにかかわる法律（民法、商法、会社法、経済法等）の横断的学習		
授業の目的及び概要	・ビジネスにかかわる法律（民法、商法、会社法、経済法等）を横断的に通覧してそれぞれのイメージをつかみ、専門科目の学修へとつなげる		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ビジネスにかかわる法律の概要を理解し、基本的で重要な概念や事項について、具体例を挙げながら説明できる。 2. ビジネスにかかわる法律の機能、役割、相互の関係について理解し、法知識を実務において活用できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・理解度確認のための小テストを、クリッカーを用いたり、ラーニングポータルを通じて複数回実施し、回答について解説を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。六法は最新のものを必ず持参すること。	ISBN	なし
参考書	「ビジネス実務法務検定」に関するテキスト（公式のものでなくともよい）を、予習・復習の手がかりとして推奨する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法律の細かな知識より、全体像を理解することを目指します。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要、授業計画の説明	予習：シラバス等を確認し、本講義で取り扱う内容の確認をしておくこと。 復習：本講義で取り扱う分野の体系を確認しておくこと。	4 時間

第2回	対面	事例で学ぶビジネス法	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第3回	対面	契約法総論	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第4回	対面	契約と不履行	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第5回	対面	契約の解消1	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第6回	対面	契約の解消2	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第7回	対面	取引の主体：人	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第8回	対面	取引の客体：物	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第9回	対面	権利の移転：物権変動と債権譲渡	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第10回	対面	損害賠償法	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4時間
第11回	対面	知的財産法（特許法、意匠法、著作権法）	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。	4時間

			復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	
第12回	対面	競争法（独占禁止法、消費者法）	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4 時間
第13回	対面	会社法1	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4 時間
第14回	対面	会社法2	予習（2時間程度）：事前にレジュメをダウンロードして目を通し、わからない箇所をメモしておくこと。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括	予習（2時間程度）：すべてのレジュメおよび参考書等に一通り目を通し、わからない箇所を確認すること。 復習（2時間程度）：問題演習を解き、解説を読んで、理解度を確かめること。	4 時間